

# 国立国語研究所学術情報リポジトリ

## 米国議会図書館蔵『源氏物語』翻字本文

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2020-03-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.15084/00002610">https://doi.org/10.15084/00002610</a>

米国議会図書館蔵『源氏物語』翻字本文

担当者一覧

卷名 勾宮 紅梅 竹河 橋姫 椎本 総角 早蕨 宿木 東屋 浮舟 蜻蛉 手習 夢浮橋

翻字担当者	浅川槙子
野口あゆみ	楠木陽子
畠山大二郎	杉本裕子
阿部友敬	野崎花菜
秋山あゆみ	菅野早月
阿部江美子	小川千寿香
千川彩佳	大石裕子
大石裕子	伊藤朋
畠山大二郎	山田友美
阿部友敬	杉本裕子
大石裕子	小川千寿香
菅野早月	大石裕子

〔校正担当者〕  
小木曾智信  
阿部江美子  
太田幸代 大石裕子 斎藤達哉  
高田智和  
畠山大二郎  
大石裕子 斎藤達哉  
斎藤達哉 豊島秀範  
神田久義  
阿部江美子  
小川千寿香  
太田幸代 大石裕子  
杉本裕子  
阿部江美子 伊藤鉄也

## 凡例

### 行移り・丁移り

- 1 本文の行移りは原本にしたがつた。
- 2 丁移りは、その丁の表および裏の冒頭において丁数・表裏を四角囲みで示した。
- 3 半丁内の行番号をアラビア数字で示した。

### 文字

- 1 仮名は現行の平仮名を用いた。
- 2 漢字は現代通用の字体によるることを原則とした。
- 3 語を漢字表記にする場合の漢字と、仮名表記にする場合の字母とが、一致するときに  
は、漢字として扱つた。  
(例) 見くるし、気しき
- 4 繰り返し符号は次のように統一した。
  - 仮名一文字の繰り返し (例) こゝち
  - 漢字一文字の繰り返し (例) 人々
  - 複数文字の繰り返し (例) ひとつ／＼
- 5 判読できない文字は■で表した。

### 和歌

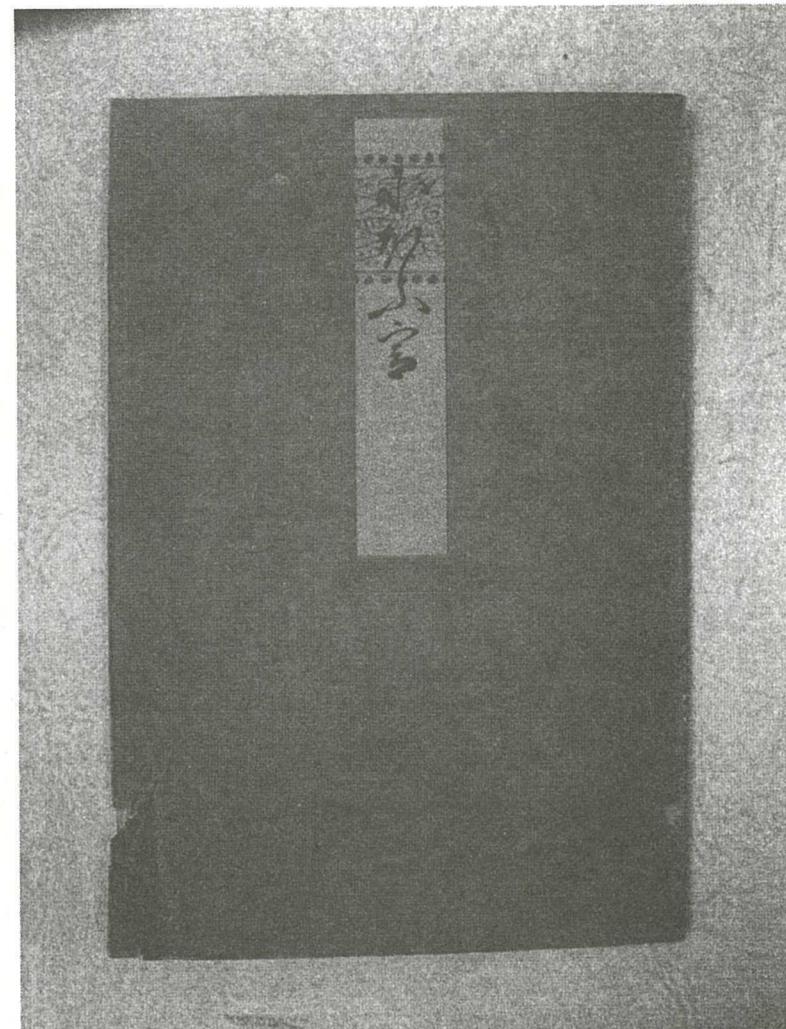
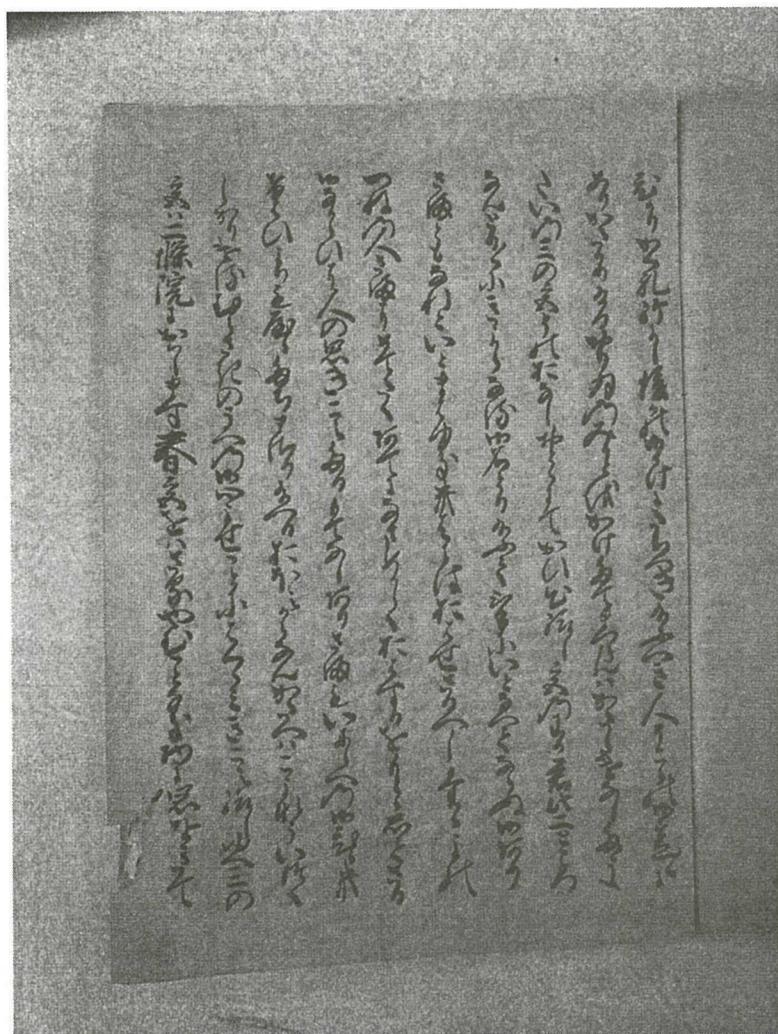
- 1 和歌は四字下げとした。
- 2 散らし書き風の和歌は、配置を再現することはせず、末尾に#を付した。

### 傍記等

- 1 傍記等の書込は、この翻字では省いた。
- 2 擦消箇所は、「米国議会図書館蔵『源氏物語』擦消一覧(匂宮・夢浮橋)」に掲載した。
- 3 書込箇所は、「米国議会図書館蔵『源氏物語』書込一覧」に掲載した。

### 図版

- 1 各巻の表紙および第一丁表の原本写真を掲載した。



## 1才

1 ひかりかくれ給にし後かの御かけにたちつき給ふへき人そちらの御すゑ／＼に  
 2 ありかたかりけるおりゐのみかとをかけたてまつらんはかたしけなしたう  
 3 たいの三の宮そのおなしおどゝにておひ出給し宮のわか君此一ところ  
 4 なんとりくにきよらなる御名とり給ふてけにいとなへてならぬ御あり  
 5 さまともなれどいとまはゆききにはおはせざるへしたゝよの  
 6 つねの人さまにめてたくあてになまめかしくおはするをもどゝしてさる  
 7 御ならひに人の思きこえたるもてなしありさまもいにしへの御ひゝき  
 8 けはひよりもやゝたちまさり給へるおほえからなんかたへはこよなういづ  
 9 しかりけるむらさきのうへの御心よせことにはくゝみきこえ給しゆへ三の  
 10 宮は一條院におはします春宮をはかるやむことなき物に思をきて

## 1ウ

1 たてまつりたまでみかときさきしめしうかなしうしたてまつりかしつき  
 2 きこえさせ給宮なれば内すみをせきせたてまつり給へとなを心やす  
 3 きふる里にすみよくし給なりけり御けんふくし給ては兵部卿の宮と  
 4 聞ゆ女一の宮は六条院みなみのまちのひんかしのたいをそのよの御  
 5 しつらひあらためすおはしましてあさ夕に恋しのひきこえ給二の宮  
 6 もおなしおどゝのしんてんを時々の御やすみところにし給て梅つぼを  
 7 御さうしにし給て右のおほい殿のなかひめ君をえたてまつり給へりつきの  
 8 はうかねにていとおほえことにをもくしう人からもすぐよかになん物し給  
 9 けるおほい殿の御むすめはいとあまた物し給大ひめ君は春宮にま  
 10 いり給てまたきしろう人のなきさまにてさぶらひ給そのつき／＼なを

## 2オ

1 みなついてのまゝにこそはと世の人も思きこえきさいの宮ものた  
 2 まはすれと此兵部卿の宮はさしもおほしたらす我御心よりおこら  
 3 さらむ事はすましくもおほしぬへき御けしきなめりおどゝもなにかは  
 4 やうの物とさのみうるはしういとしつめ給へとまたさる御けしき  
 5 あらんをはもてはなれてもあるましうおもむけていといたうかしつき  
 6 きこえ給六の君なんそのころのすこし我いと思のほり給へるみこ  
 7 たちかんちめの御心つくすべくさはひに物し給けるさま／＼つとひ  
 8 給へりし御かた／＼なく／＼つゐにおはすへきすみかともにみなをの／＼  
 9 うつろひ給しに花ちる里と聞しにひんかしの院をそ御そうふん  
 10 のところにてわたり給にける入道の宮は三条の宮におはしますいま

## 2ウ

1 きさきは内にのみさくらひ給へは院の内さひしく人すくなになりに  
 2 けるを右のおどゝ人のうへにていにしへのためしを見聞にもいける  
 3 かきりの世に心をとゞめてつくりしめたる人の家みなこりなく打  
 4 すてられて世のならひもつねなく見ゆるそいとあはれにはかなさしら  
 5 るゝを我世にあらんかきりたに此院あらさすほとりのおほちなど人  
 6 影かれはつましうおほしのたまはせてうしとらのまちにかの一条の  
 7 宮をわたしたてまつり給てなん三条殿と夜ことに十五日つゝうるはしう  
 8 かよひすみ給ける一條院にてつくりみかき六条院の春のおどゝとて世  
 9 にのゝしり給て名もたゞひとりの御すゑのためなりけりと見えてあかしの

10 御かたはあまたの宮たちの御うしろをしつゝあつかひきこえ給へりおほい

**3才**

1 とのはいつかたの御事をもむかしの御心をきてのまゝにあらためかはる事なくあま  
2 ねきおや心につかうまつり給にもたいのうへのかやうにてとまり給へらましかは  
3 いかばかり心をつくしてつかうまつり見えたてまつらましつぬにいさゝかも  
4 とりわきて我心よせとえしり給ふへきふしもなくてすき給にし事をくち  
5 おしうあかすかなしう思ひ出しこえ給あめのしたの人院を恋きこえぬ  
6 なくとにかくにかけても世はたゞ火をけちたるやうに何事もはやなけ  
7 きせぬおりなかりけりまして殿の内の人々御かたゞ富たちなどはさらにも  
8 きこえすかきりなる御事をはさる物にてかのむらさきの御ありさまを心に  
9 しめつゝよろつの事つけて思ひ出しこえたまはぬ時のまなし春の桜の  
10 さかりはけになかゝらぬしもおほえまさる物たなん一品の宮のわか君は院のき

**3ウ**

1 こえつけ給へりしまゝに冷泉院のみかどとりわきておほしかしつききや  
2 いの富もみこたちなどおはせず心ぼそうおほさるゝまゝにうれしき御うし  
3 ろみにまめやかにたのみきこえ給へり御けんふくなども院にてせさせ  
4 給十四にて二月に侍従になり給秋うこんの中将になりて御たうはりの  
5 かゝゐなどをさへいつこの心もとなきにかいそきくはへておとなひさせ給おは  
6 しますおとゞちかきたいをさうしにしつらひなどみつから御らんしいれてわかき  
7 人もわらはしもつかへまとすぐれたるをえりとゝのへ女の御きしきよりもまは  
8 ゆくとゝのへさせ給へりうへにも宮にもさぶらふ女房の中にもかたちより  
9 あてやかにめやすきはみなうつしわたさせ給つゝ院の内を心につけてすみよへ  
10 ありよくおももへくとのみわさとかましき御あつかひけにおほされ給へりこ

**4才**

1 ちしおほい殿の女御ときこえし御はらに女御たゞ一どころおはしけるをなんかきり  
2 なくかしつき給御ありさまにをとらすときさきの富の御おほえの年月にまさり給  
3 けはひにこそはなとかさしもと見るまでなんはゞ富はいまはたゞ御をこなひを  
4 しつかにし給て月ごとの御ねんふつ年に二たびのみ八かうおりくのたうとき  
5 御いとなみばかりをし給てつれくにおはしませは此君の出入給をかへりておや  
6 のやうにたのもしきかけにおほしたれはいとあはれにて院にも内にもめし  
7 まとはし春富もつきへの宮たちもなつかしき御あそひかたきてともなひ  
8 給へはいとまなくくるしくいかて身をわけてしかなとおほえ給けるをさなこ  
9 こちにほのきゝ給しこのおりへいふかしうおほつかなる思われととふへき人  
10 もなし富にはことけしきにてもしりけれどおほされむかたはらいだきすちな

**4ウ**

1 れは夜ともの心にかけていかなりける事とかはなにの契りにてかうやすから  
2 ぬ思そひたる身にしもなり出けんせんぐいたいしの我身にとひけむ  
3 さとりをもえてしかなとそひとりこたれ給ける  
4 おほつかなたれにとはましいかにしてはしめもはても  
5 しらぬ我身そいらふへき人もなしことになれて我身につゝかあるこゝち  
6 するもたゞならす物なげかしくのみ思めぐらしつゝ富もかくさかりの御かたちを  
7 やつし給てなにはかりの御道心にてかにはかにおもむき給けんかくおもはす  
8 なりける事のみたれにかならすうしとおほしなるふしありけん人もまさに

9 もりいじりしやはなをつゝむへき事のきこえにより我にはけしきを  
10 しらする人のなきなめりと思ふ明暮つとめ給やうなめれとはかもなくおほ

### 5 才

1 とき給へる女の御さとりの程にはちすの露もあきらかに玉とみかきた  
2 まはん事もかたいつしのなにかしもなをうしろめたきをわれ此御こゝちを  
3 おなしうは後の世をたにと思かのすき給にけんやすからぬ思ひに  
4 むすほゝれでやなどをしはかるに世をかべてもたいめんせまほしき心  
5 つきてけんふくは物うかり給けれどすまひはてすをのつから世中にもて  
6 なされてまはゆきまで花やかなる御身のかさりも心につかすのみ思ひ  
7 しつまり給へり内にもはゝ宮の御かたさまの御心よせふかくていとあは  
8 れなる物におぼされきさいの宮はたもとよりひとつおどゝにて宮  
9 たちもうともにおひ出あそひ給し御もてなしおさへへあらためたまはす  
10 すゑにむまれ給て心へるじつおとなしうもえ見をかぬ事と院の

### 5 ウ

1 おほしのたまひしを思ひ出しこえ給つゝをるかならす思きこえ給へり  
2 右のおどゝも我御子ともの君たちよりも此君をはこまやかにやむことなく  
3 もてなしかしつきたてまつり給むかしひかる君ときこえしはざるまた  
4 なき御おほえながらそねみ給人打そひはゝかたの御うしろみなくなどあり  
5 しに御心さまも物ふかく世中をおぼしなたらめし程にならひなき  
6 御ひかりをまはゆからすもてしつめたまひつゐにさるいみしき世のみたれも  
7 出きぬへかりし事をもことなくすくし給て後の世の御つとめもをくらかしたま  
8 はすようつさうけなくてひさしくのとけき御心をきてにこそありしかこの  
9 君はまたしきに世のおほえいとすきて思あかりたる事こよなくなどそ  
10 物し給けにざるへべていと此世の人とはつくり出さりけるかりにやと

### 6 才

1 れるかとも見ゆる事そひ給へりかほかたちもそこはかといつこなんすくれたる  
2 あなきよらどみゆるといろもなきかたゝいとなまめかしうはつかしけに心のおく  
3 おほかりけなるけはひの人にはぬなりけりかのかうはしさそ此世の  
4 にほひならすあやしきまで打ぶるまひ給へるあたりとをくへたゝる  
5 をひ風まことに百ふのほかもかほりぬへきこゝちしけり誰もさはかり  
6 になりぬる御ありさまのいとやつれはみたゝりなるやはあるへき  
7 さまくにわれ人にまさらんとつくるひようぬすべかめるをかたはなる  
8 まで打しのひ立よらむ物のくまもじるきほのめきのかくれあるまし  
9 きにうるさかりでおさへとりもつけたまはねとあまたの御からひつ  
10 にうつもれたるかうとも此君のはいふよしもなきにほひをくはへ

### 6 ウ

1 おまへの花の木もはかなく袖かけ給梅の香は春さめのしつくにも  
2 ぬれ身にしむる人おほく秋の野にぬしなきふちはかまもとのか  
3 ほりはかくれてなつかしきをひ風ことにおりなしからなんまさりけるかぐ  
4 あやしきまで人のとかむる香にしみ給へるを兵部卿の富なんこと  
5 ことよりもいとましくおほしてそれはわざとよろつのすぐれたる  
6 うつしを始めたまひあさタのことわさにあはせいとなみおまへのせんさい  
7 にも春は梅の花そのをながめ給秋はよの人のめつるをみなへしさほ

8 しかの妻にする萩の露にもおさへ御心うつしたまはす老をわす  
 9 るゝ菊におどろへゆくふちはかま物けなきわれもかうなどほいとすさ  
 10 ましき霜かれのころをひまでおぼしすてすなとわざとめきて香に

## 7才

1 めつる思をなんたてゝこのましうおはしけるかゝる程にすこしなよひやはら  
 2 きてすいたるかたにひかれ給へりと世の人は思きこえたりむかしの源氏は  
 3 すべてたてゝその事とやうかはりしみ給へるかたそなかりしかし源中将  
 4 此宮にはつねにまいりつゝ御あそひなにもましろふ物のねを吹たてけに  
 5 いとましくもわかきとち思かはし給つへき人さまになんれいの  
 6 世の人はにほぶ兵部卿かほる中将と聞にくゝいひつゝけてそのころ  
 7 よきむすめおはするやむことなきところへは心ときめきにき  
 8 こえこぢなとし給もあれは宮はさまへにおかしうもありぬへき  
 9 わたりをはのたまひよりて人の御けはひありますもけし  
 10 きとり給わさと御心につけておほすかたはことになかりけり

## 7ウ

1 れせい院の一の宮をそさやうにても見たてまづらはやかひありなんかし  
 2 とおほしけるははゝ女御もいとをもく心にくゝ物し給あたりにてひめ宮  
 3 の御けはひけにとありかたくすぐれてよそのきこえもおはしますに  
 4 ましてすこしちかくもさるらひなれたる女房などのくはしき御ありさま  
 5 のことにふれてきこえつたぶるなどもあるにいとゝしのひかたくおほすへ  
 6 かめり中将は世中をふかくあちきなき物に思すましたる心なれば中々  
 7 心とゝめてゆきはなれかたき思や残らんなどおもふにわづらはしき思あらん  
 8 あたりにかゝつらはんはつゝましくなと思すて給さしあたりて心にしむへき  
 9 事のなき程さかしたつにやありけん人のゆるしなからん事なとはまして思よる  
 10 べくもあらず十九になり給年三位の宰相にてなを中将もはなれす

## 8才

1 みかときさきの御もてなしにたゞ人にてははゝかりなきめてたき人  
 2 のおぼえにて物し給へと心のうちに身を思しるかたありて物あは  
 3 れになどもありければ心にまかせてはやりとなるすきことおさへ  
 4 このますよろつの事もてしつめつゝをのつからおよすけたる心さまを  
 5 人にもしられ給へり三の宮の年にそへて心をくたき給める院の  
 6 ひめ宮を見るにもひとつ院の内に明暮立なれ給へはことにふれても  
 7 人のありさまを聞見たてまつるにけにいとなへならず心にくゝゆへへ  
 8 しき御もてなしかきりなきをおなしくはけにかうやうなる人を見んにこそ  
 9 いけるかきりの心ゆくべき妻なれと思なから大かたこそへたつる事なく  
 10 おぼしたれひめ宮の御かたさまのへたてはこよなくけとをくならはせ

## 8ウ

1 給もことほりにわづらはしけれはあなかちにもまじりひよらずもし  
 2 心よりほかのこゝろもつかは我も人もいとあしかるへきと思しりて  
 3 物なれよることもなかりけりわかかく人にてられむとなり給へるあり  
 4 さまなればはかくなけのこと葉をちらし給あたりもこよなくもて  
 5 はなるゝ心なくなひきやすなる程にをのつからなをさりのかよひ  
 6 ところもあまたになるを人のためにことへしくなともてなさす

7 いとよくまきひはしそこはかとなくなさけながらぬ程の中々心やま  
 8 しきを思よれる人はいさなはれつゝ三条の宮にまいりあつまるは  
 9 あまたありつれなきを見るもくるしけなるわざなめれとたえなん  
 10 よりはと心ほそきに思わひてさもあるましきはの人々の

### 9才

1 はかなき契りにたのみをかけたるおばかりさすかにいとなつかしう  
 2 見ところある人の御ありさまなれば見る人みな心にはかりしやうにて  
 3 みすくさる宮のおはしまさん世のかきりはあさ夕に御めかれす御らむ  
 4 セられ見えたてまつらんをたにと思のたまへは右のおどゝもあまた物し給  
 5 御むすめたちをひとりくゝと心さし給なからえことに出たまはすさす  
 6 かにゆかしけなきながらひなるをとは思なせと此君たちをきてほかには  
 7 なすらひなるへき人をもとめ出へき世かいとおぼしわづらふやむことなき  
 8 よりも内侍のすけはらの六の君とかいとすぐれておかしけに心はへなども  
 9 たらひておひ出給をよそのおぼえのおとしめさまなるへきしもかくあた  
 10 らしきを心くるしうおぼして一条の宮のさるあつかひ草も給へらてさうく

### 9ウ

1 しきにむかへとりだてまつり給へりわさとはなくて此人々に見せそめてはかならす  
 2 心とゝめ給ふてん人のありさまをも見しる人はことにこそあるへけれなとおぼして  
 3 いといつくしくはもてなしたまはすいまめかしくおかしきやうに物このみせさせて人  
 4 の心つけんたよりおぼくつくりなし給のりゆみのかへりあるしのまうけ六条院にて  
 5 いと心ことにし給てみこをもおはしません心つかひし給へりその日みこたち  
 6 おとなにおはするはみなさふらひ給きさいはらのはいつれともなくけたかくきよ  
 7 けにおはします中にも此兵部卿の宮はけにいとすぐれてこよなう見え給四の  
 8 みこひたちの宮と聞ゆるかういはらのは思なしにやはひこよなうをとり給へり  
 9 れいの左あなかちにかちねれいよりはとく事はてゝ大将まかて給兵部卿の宮ひた  
 10 ちの富きさきはらの五の宮とひとつくるまにまねきのせたてまつりてまかて

### 10才

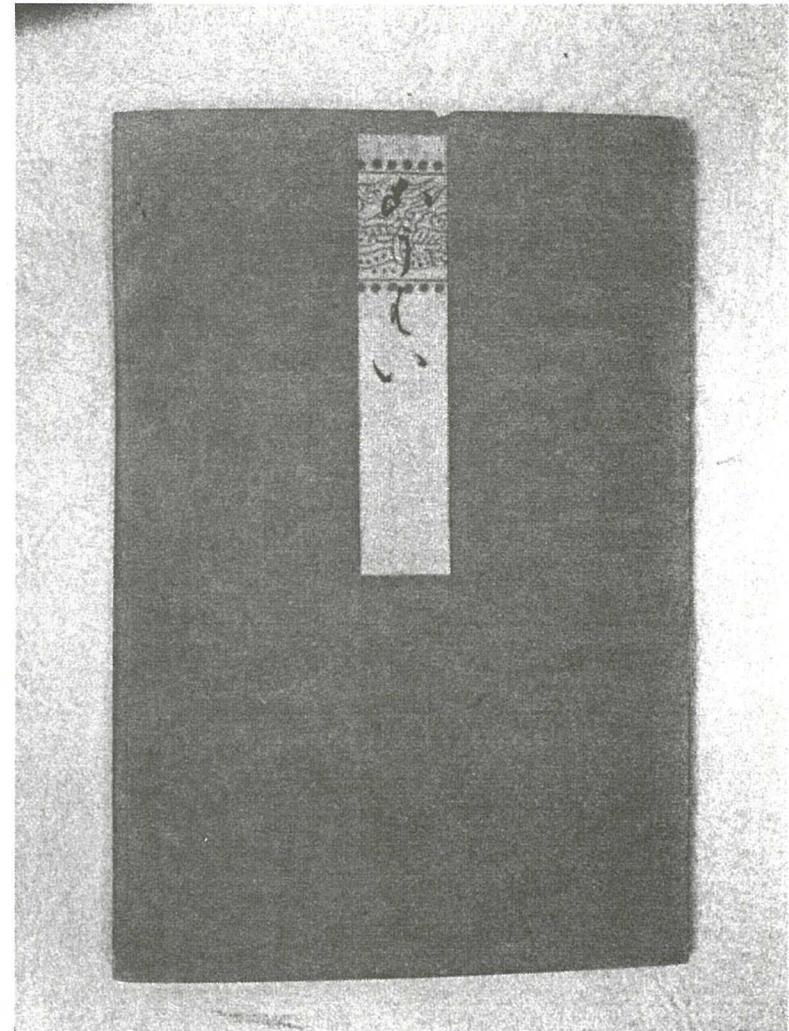
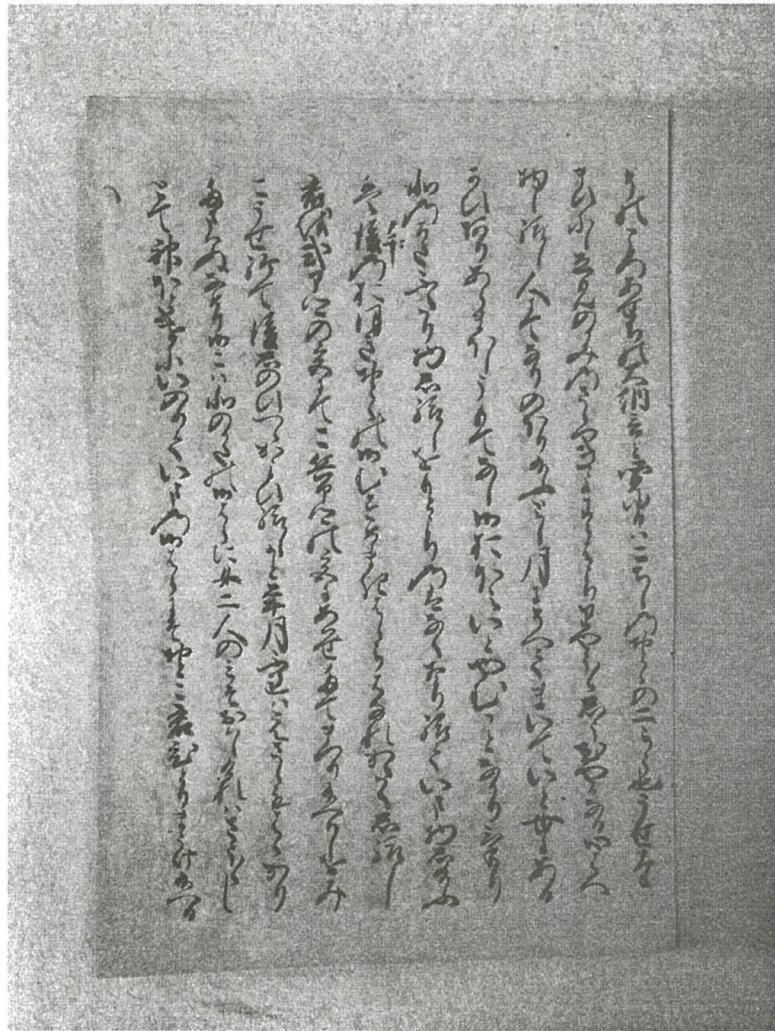
1 紿宰相の中将はまけかたにてをとなくまかて給にけるをみこたちおはします御をく  
 2 りにはまいり給ましやとをしとめさせて御このゑもんのかみ權大納言右大弁  
 3 などさらぬかんたちめあまたこれかれにのりましりしさなひたてゝ六条院へ  
 4 おはすみちのやゝ程ふるに雪いさゝかぢりてえんなるたそれ時也物のねおか  
 5 しき程に吹たてあそひて入給をけにこゝをきていかならんほとけの  
 6 国にかはかやうのおりふしの心やりところをもとむと見えたりしんてんのみ  
 7 なみのひさしにつねのことみなみむきに中少将のつきわたり北むきにむ  
 8 かへてゑかのみこたちかんたちめの御さあり御かはらけなとはしまりて物おも  
 9 しろくなりゆくにもとめこまひかはる袖とともに打かへす羽風におまへちかき  
 10 梅のいといたうほころひこぼれたるにほひのさと打ちりわたれるに

### 10ウ

1 れいの中将の御かほりのいとゝしくもてはやされていひしらすなまめかし  
 2 はつかにのそく女房などもやみはあやなく心もとなき程なれと香に  
 3 こそけににたる物なかりけれどめてあへりおどゝもいとめてたしと見  
 4 給かたちようゐもつねよりまさりてみたれぬさまにおさめたるを  
 5 見てみきのすけもすゑくはへ給へやいたうまらうとたゞしや

6 とのたまへはにべかひぬほとに神の生せなと

紅梅



## 1才

- 1 そのころあせちの大納言と聞ゆるはこちしのおとゝの二らう也]うせた  
 2 まひにしゑもんのかみのさしつきよわらはよりりやうへしう花やかなる心はへ  
 3 物し給し人にてなりのほり給ふとし月にそてまいていと世にある  
 4 かひありあらまほしうもてなし御おぼえいとやむことなかりけり  
 5 北のかたふたり物し給しをもとよりのはなくなり給ていま物し給ふ  
 6 は後のおほきおとゝの御むすめまきはしらはなれかたくし給し  
 7 君を式部卿の宮にてこ兵部卿の宮にあはせたてまつり給へりしをみ  
 8 こうせ給て後しのひつゝかよひ給しかと年月ふれはえさしもはゝかり  
 9 たまはぬなめり御こは北のかたの御はらに女二人のみそおはしければさうへし  
 10 とて神ほとけにいのりていまの御はらにそおとこ君ひとりまうけ給へる
- 1ウ**
- 1 こ宮の御かたに女君一ところおはすへたてわかすいつれをもおなしことゝ  
 2 思きこえ給へるををのく御かたの人などはうるはしうもあらぬ心はへうち  
 3 ましりなまくねくしき事も出くる時々あれと北のかたいとはれへ  
 4 しくいまめきたる人にてつみなくとりなしわか御かたさまにくるしかるべき  
 5 事をもなたらかに聞なし思なをし給へは聞くからてめやすかりけり君  
 6 たちおなし程にすきへおとなひたまひぬれは御もなときせたてまつり給  
 7 七けんのしんてんひろくおほきにつくりてみなみおもてに大納言殿  
 8 おほい君西に中君ひんかしに宮の御かたすさせたてまつり給へり大かた  
 9 に打おもふ程はちゝ宮のおはせぬ心くるしきやうなれはこなたかなたの御  
 10 たから物おほくなとして内々のきしきありさまなど心にくゝ氣たかくなと
- 2オ**
- 1 もてなしてけはひあらまほしくおはすれいのかくかしつき給ふきこえありて  
 2 つきくにしたかひつゝきこえ給人おほくうち春宮より御けしきあれと内には  
 3 中宮おはしますいかばかりの人かはかの御けはひにならひきこえんざりとて  
 4 思をとりひけせむもかひなかるへし春宮には右の大殿の女御ならふ  
 5 人なげにてさぶらひ給ふはきしろひにくけれどさのみいひてやは人に  
 6 まさらんと思ふ女子を宮つかへに思たえてはなにのほいかはあらんとおほし  
 7 たちてまいらせたてまつり給十七八の程にていとうつくしうにほひおほ  
 8 かるかたちし給へり中の君も打すかひてあてになまめかしうすみたる  
 9 さまはまさりておかしうおはすめはたゝ人にてはあたらしく見せまうき  
 10 御さまを兵部卿の宮のさもとおぼしよらはなどおぼしたる此わか君を内
- 2ウ**
- 1 にてなと見つけ給時はめしまとはしたはふれかたきにし給心はへ  
 2 ありておくをしはかるゝまみひたひつき也せうとを見てのみは  
 3 えやましと大納言に申せよなどのたまひかくるをさんときこ  
 4 ゆれは打ゑみていとかひありとおぼしたり人にをとらむ宮つかへ  
 5 よりは此宮にこそはよろしからむ女子は見せたてまつらまほしけれ  
 6 心のゆくにまかせてかしつきて見てたてまつらむにいのちのひぬへき  
 7 富の御さまなりとのたまひなからまつ春宮の御ことをいそき給ふて  
 8 かすかの神の御ことはりも我世にやもし出きてこおとゝの院の女御  
 9 の御ことをむねいたくおぼしてやみにしなくさめのこともあらなんと

10 心のうちにていつりてまいかせたてまつり給ふといと時めき給ふ

**3才**

1 よし人に聞ゆかゝる御ましらひのなれたまはぬ程にはかゝしき御  
 2 うしろ見なくてはいかゝとて北のかたそひてさるひ給ふはまことに  
 3 かきりもなく思かしつきうしろ見きこえ給殿はつれへなるこゝ地し  
 4 て西の御かたはひとつにならひ給ていとさうへしくなかめ給ひんかし  
 5 のひめ君もうとへしくかたみにもてなしたまはてよるへは一といろに  
 6 御とのこもりよろつの御事ならひはかなき御あそひわさをも師の  
 7 さまに思きこえてそ誰もならひあそひ給ける物はちをよのつ  
 8 ねならすし給ふてはゝ北のかたにさやかにはおさへさしむかひた  
 9 てまつりたまはすかたはなるまでもてなし給物から心はへけはひの  
 10 むまれたるさまならすあひきやうつき給へる事はた人より

**3ウ**

1 すぐれ給へりかく内まいりやなにやとわかかたさまをのみおもひ  
 2 いそくやうなるも心くるしなとおぼしてたるへからむさまにおぼし  
 3 さためてのたまへはおなし事とこそはつかうまづらめとはゝ君にもきい  
 4 え給けれとさらにさやうのよつきたるさま思立へきにもあらぬけ  
 5 しきなれば中々ならんことは心くるしかるへし御すべせにまかせて世に  
 6 あらむかきりは見たてまつらん後そあはれにうしるめたけれど世をそ  
 7 むくかたにてもをのつから人わらへにあはつけき事なくてすきましたまは  
 8 なんなど打なきて御心はせの思ふやうなる事をそきこえ給いつれも  
 9 わかすおやかり給へと御かたちを見はやとゆかしうおぼしてかくれ給ふ  
 10 こそ心うけれど恨て人しれす見えたまひぬへしやとのそきありき

**4才**

1 給へとたへてかたそはをたにえ見たてまつりたまはすゞへおはせぬほとは  
 2 たちかはりてまいりくへきをうとへしくおぼしわくる御けしきなれば心うへ  
 3 こそなときこえてみすのまへにゐ給へは御いらへなどほのかにきこえ給御こゑ  
 4 気はひなとあてにおかしうさまかたち思やられてあはれにおぼゆる人  
 5 の御ありさま也わか御ひめ君たちを人にをとらしと思おこれと此君にえしも  
 6 あさひすやあらんかゝれはこそ世中ひろき内はわづらはしけれたくひあらしと  
 7 おもふにまさるかたものをのつからありぬへかめりなどいといふかしう思きい  
 8 え給用ごろなにとなく物さはかしく程にことのねをたにうけたまらて  
 9 ひさじうなり侍にけり西のかたにはつる人はひわを心に入て侍るさもま  
 10 ねひとりづへくやおぼえ侍らんなまかたほにしたるに聞にくき物のねからせ

**4ウ**

1 おなしくは御心とめでをしへさせ給へおきなはどりたてゝならふ物侍ら  
 2 さりしかとそのかみさかりなりし世にあそひ侍しちからにや聞しる  
 3 はかりのわきまへは何事にもじとつきなうは侍らさりしを打とけて  
 4 もあそはさねと時々うけたまはる御ひわのねなんむかしおぼえ侍る  
 5 こ六条院の御つたへにて右のおどゝなん此ころ世に残り給へる源中納言  
 6 兵部卿の宮なに事にもむかしの人をとるましういと契りことに物し給  
 7 人にてあそひのかたはとりわきて心とめ給へるを手つかひすこしなよひたる  
 8 はち音などなんおどゝにはをよひたまはすと思ふ給ふるを此御ひわのねこそ

9 いとよくじとおほえ給へれひわはをし手しつやかなるをよきにする物なるに  
10 ちうさす程はち音さまかはりてなまめかしうきこえたるなん女の御こと

**5才**

1 にて中々おかしかりけるいてあそはさんや御ことまいれとのたまう女房などは  
2 かくれたてまつるもおさへなしいとわかき上らうたつる見えたてまつらしと思ふは  
3 しも心にまかせてゐたればさぶらふ人さへかくもてなすかやすからぬとはらたち  
4 給わか君内へまいらんととのぬすかたにてまいり給へるわさとうるはしき  
5 みつらよりもいとおかしく見えていみしくうつくしとおほしたりれいけいてんに  
6 御ことつけきこえ給ふゆつりきこえてこよひもえまいるましくなやましく  
7 なときこえよとのたまひてふえすこしつかうまつれともすれば御まへの  
8 御あそひにめし出らるゝかたはらいだしやまたいとわかき笛をと打ゑみ  
9 てそうてうふかせ給いとおかしうるい給へはけしうはあらすなりゆくは此  
10 わたりにてをのつから物にあはするけ也なをかきあはさせ給へとせめきこえ給へは

**5ウ**

1 くるしとおほしたるけしきなからつまひきにいとよくあはせてたゞすこし  
2 かきならい給ふかは笛ふつゝかになれたるこゑして此ひんかしのつまに軒ちかき  
3 こうはいのいとおもしろくにほひたるを見給ておまへの花心はへありて  
4 見ゆめり兵部卿の宮うちにおはす也一えたおりてまいれしる人そしる  
5 とてあはれひかる源氏といはゆる御さかりの大将などにおはせしころわくら  
6 はにてかやうにてましらひなれきこえしこそ夜とともに恋しう侍れ此宮  
7 たちをよ人もいとことに思きこえけに人にめてられむとなり給へる御あり  
8 さまなれとはしかはしにやりけん大かたにて思ひ出たてまつるにむねあくよ  
9 なくかなしきを氣ちかき人のをくれたてまつりていきめくらふはおほろけの  
10 いのちなかざなりかしとこそおほえ侍れなときこえ出給て物あはれに

**6才**

1 すこくおもひめくらししほれ給ついてのしのひかたきにや花おらせて  
2 いそきまいらせ給いかゝはせむむかしの恋しき御かた見には此宮ばかり  
3 こそは仏のかくれ給けん御名残にはあなんひかりはなちけんを二たひ出  
4 給へるかとうたかうさかしきひしりのありけるをやみにまとふはる  
5 けにところにきこえをかさんかしとて

こゝろありて風のにほはすそのゝ梅にまつうくひすの  
7 とはすやあるべきとくれなゐのかみにわかやかにかきてこの君の  
8 ふところがみにとりませをしたゞみていたて給をおさなき心に  
9 いとなれきこえまほしとおもへはいそきまいりたまひぬ中宮のうへの  
10 御つほねより御とのぬところに出給程也殿上人あまた御をくりに

**6ウ**

1 まいる中に見つけ給て昨日はなどいとくはまかて侍にしくやした  
2 にまた内におはしますと人の申つれはいそきまいりつるやと  
3 おさなけなる物からなれ聞ゆうちならて心やすきところにも  
4 時々はあそへかしわかき人とものそこはかとなくあつまるところそと  
5 のたまふ此君めしはなちてかたらひ給へは人々はちかうもまい  
6 らすまかでぢりなとしてしめやかになりぬれは春宮にはいとま  
7 すこしゆるされにためるないとしけうおもほしまとはすめり

8 しをときとられて人わろかめるとのたまへはまろはさせた  
 9 まひしこそくるしかりしか御まへにはしもときこえ出されは人  
 10 けなしとおもはれたることはり也されどやすからずそみる

**7 才**

1 めかしきおなしすちだてひんかしと聞ゆなるはあひおもひ給でん  
 2 やとしのひでかたらひきこえよなとのたまうついてにこの花を  
 3 たてまつれと打ゑみて恨て後ならましかはとて打もをかす御  
 4 らんすえたのさま花ふさ色も香もよのつねならすそのにほ  
 5 へるくれなゐの色にとられて香なんしろき梅にはをとれるといふ  
 6 めるをいとかしこべとらならへてもさきけるかなとて御心とゝめ給  
 7 花なればかひありもてはやし給ごよひはとのぬなめりやかて  
 8 こなたにとめしめつれは春宮にもえまいらす花もばつ  
 9 かしくおもひぬへくかうはしくて氣ちかくふせ給へるをわかきこゝ地  
 10 にはたくひなくぐれしきくなつかしうおもひ聞ゆこの花のあるしは

**7 ウ**

1 など春宮にはうつるひたまはさりしらす心しらむ人になど  
 2 こそ聞侍しかなとかたり聞ゆ大なこんの御心はへは我かたさまにおもひへ  
 3 かめれと聞あはせ給へとおもひ心はことにしみぬれは此返ことけさや  
 4 かにものたまひやひすつとめてこの君のまかへるになを  
 5 さりなるやうにて

花のかにさそはれぬへき身なりせは風のたよりを  
 1 あらまほしうおはせる心はへをかひあるさまにて見たてま  
 2 つらはやと思ありぐにその宮の御かたのいと花やかにもてなし  
 3 給につけておなし事とは思なからいとあかすべくちおしけれはこの  
 4 宮をたに氣ちかくて見たてまつらはやとおもひありぐにうれ  
 5 しき花のついて也これはきのふの御かへりなれば見せたてまつる  
 6 ねだけにものたまへるかなあまりすきたるかたにすゝみ給へるを  
 7 ゆるしきこえすと聞給て右のおとゝわれらか見たてまつるには  
 8 いと物まめやかに御心おさめ給こそおかしけれあた人とせんにたらい  
 9 給へる御さまをしゆてためたちたまはんも見ところすべなくや  
 10 ならましなどじつづけてけふもまじらせ給ふにまた

**8 才**

もとつ番のたほへる君か袖ふれは花もえならぬ  
 1 なをやちらさむとすきへしやあなかしことまめやかにきこえ給へり  
 2 まことにひなさんとおもふところあるにやとさすかに御こゝ  
 3 ときめきし給て  
 4 人のとかめむなどなを心とけすいらへ給へるを心やましと思ゆ給へり  
 5 花のかをにほはす宿にとめゆけは色につけは  
 6 人のとかめむなどなを心とけすいらへ給へるを心やましと思ゆ給へり

**8 ウ**

7 北のかたまかて給てうちわたりの事のたまうついてにわか君の  
 8 一夜とのぬしてまかり出たりしにほひのいとおかしかりしを  
 9 人はなをと思しを富のいとおもほしよりて兵部卿の富にちかつ  
 10 ききこえにけりむへ我をはすさめたりとけしきどりえんし

**9才**

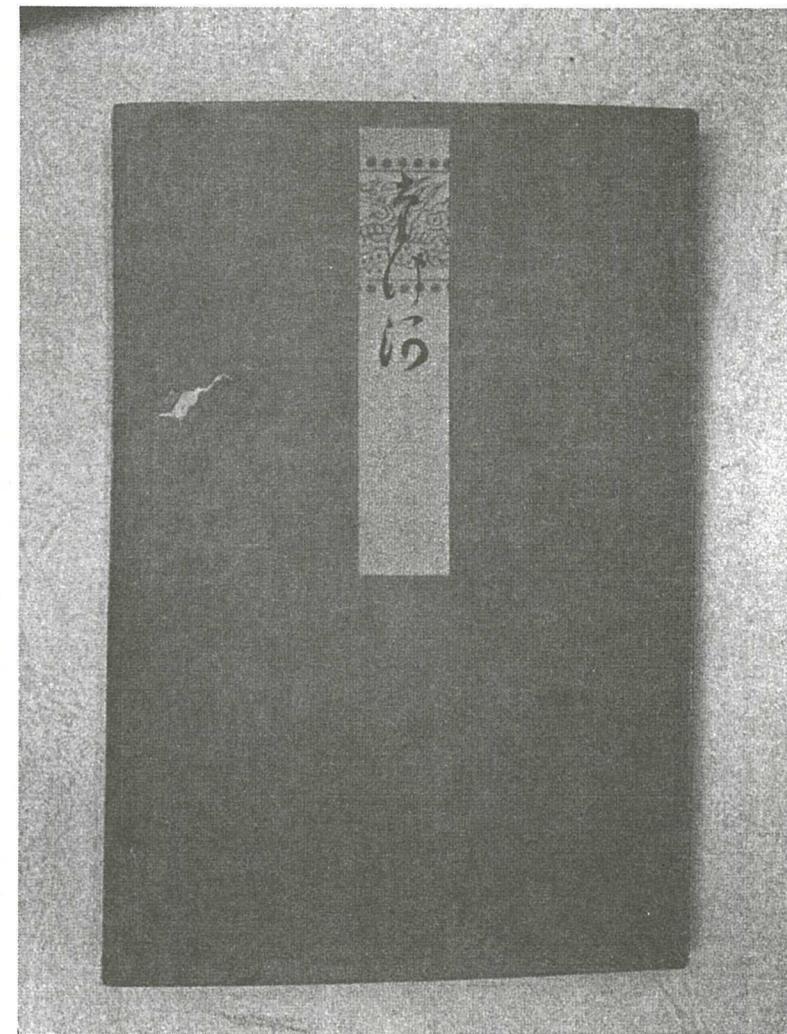
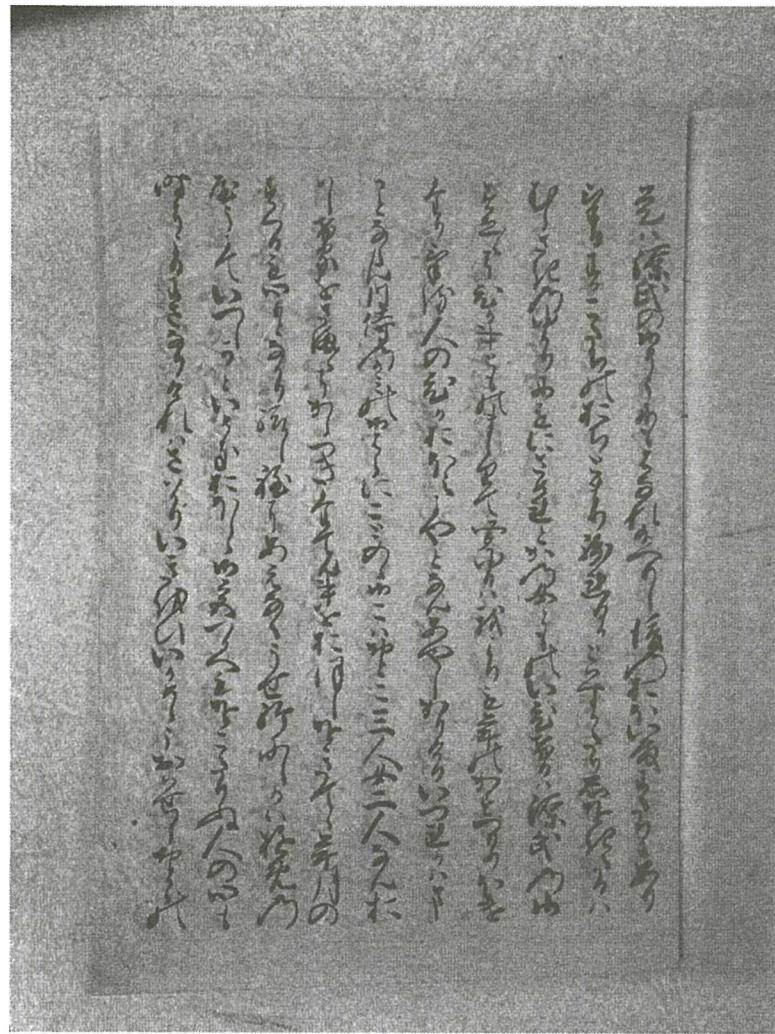
1 紿へりし梅のはなめてたまう君なれはあなたのつま  
 2 こうはひいとさかりに見えしをたゝならておりてたてまつれ  
 3 たりし也うつりかはけにこそ心ことなれわれましらひし給ふらん  
 4 女などはさはえしめぬかな源中納言はかうさまにこのましうは  
 5 たきにほさて人からこそ世になけれあやしうさきの世の  
 6 契りいかなりけるむくひにかとゆかしきことにこそあれおな  
 7 し花の名なれと梅はおひ出けんねこそあはれなれこの宮  
 8 などのめて給ふさる事そかしなと花によそてもまつかけきこえ  
 9 紿ふ宮の御かたは物おぼししる程にねひまさり給へればなに事も  
 10 見しり聞とめたまはぬにはあらねと人に見えよつきたらむ

**9ウ**

1 ありさまはさらとおぼしはなれたり世の人も時による心ありてにや  
 2 さしむかひたる御かたくには心をつくしきこえわひいまめかしき  
 3 ことおほかれとこなたはよろつにつけ物しめやかにひきいり給へるを  
 4 富はさぶらひのかたに聞つたへ給てふかういかてとおもほしよせ給  
 5 つゝしのひやかに御文あれと大納言の君ふかく心かけきこえ給て  
 6 さもおもひたちてのたまう事あらはとけしきとり心まうけしたまふを  
 7 見るにいとおしうひきたかへてかうおもひよるへうもあらぬ  
 8 かたにしもなけのことの葉をつくしたまふかひなけなる事  
 9 ときたのかたもおぼしのたまふはかなき御返などもなけ  
 10 れはまけしの御こゝみそひておもほしやむへくもあらす

**10才**

1 なにかは人の御ありさまなどかはさても見たてまつらま  
 2 ほしうおひさきとくくなとは見えさせたまうをなど  
 3 きたのかたおもほしよるときへあれといといたう色めき  
 4 たまふてかよひたまうしのひところおぼく八の富の  
 5 ひめきみにも御こゝろさしのあさからていとしけうて  
 6 ありきたまうたのもしけなき御こゝろのあたへしさ  
 7 などもいとつゝましければまめやかにはおもほし  
 8 たえたるをかたしけなきはかりにしのひては  
 9 きみそたまさかさかしらからきじえたまる



## 1才

1 是は源氏の御そにもはなれ給へりし後のおほい殿わたりにあり  
 2 けるわるこたちのおちとまり残れるかとはすかたりしをきたるは  
 3 むらさきのゆかりにもにさめれとかの女とのいひけるは源氏の御  
 4 すゑくにひか事どものましりて聞ゆるは我よりも年のかすつもりほけ  
 5 たりける人のひかおぼえにやとなんあやしかりけるいつれかはま  
 6 ことならん内侍のかみの御はらにことのゝ御こはおとこ三人女一人なんお  
 7 はしけるをさまくにかしつきたん事をおぼしをきて、年月の  
 8 するも心もとなり給し程にあえなくうせ給にしかはゆめの  
 9 やうにていつしかといそきおぼし、御宮つかへもをこたりぬ人の心も  
 10 時によのわさなりければさはかりいきをひいかめしうおはせしおとゝの

## 1ウ

1 御なこり内々の御たから物らうし給とるゝなどそのかたのおとろへは  
 2 なけれど大かたのありさまひきかへたるやうに殿のうちもしめやかに  
 3 なりゆくかむの君の御ちかきゆかりそこらこそは世にみちひるこ  
 4 り給へれと中々やむことなき御ならひのもとよりもしたしからさり  
 5 しにこ殿のなさけすこしをくれむらくしさすき給へりける御本上  
 6 にて心をかれ給事もありけるゆかりにや誰にもえなつかしうきこえ  
 7 かよひたまはす六条院にはすべてなをむかしにかはらすかすまへ  
 8 きこえ給てうせ給なん後の事ともかきをき給へる御せうふんのみ  
 9 ともにも中宮のつきにくはへたてまつり給へれば右の大臣殿などは中々  
 10 その心ありてさるへきおりくは音つれきこえ給おとこきんたちも御けん

## 2オ

1 ふくなどし給てをのくおとなひし給にしかは殿おはせてのち心もと  
 2 なくあはれなる事ともあれとをのつからなり出給ぬへかめりひめ君たちを  
 3 いかにもてなしてまつらんとおぼしみたる内にもかならす御宮つかへ  
 4 のほいふかきよしをおとゝのそうしきぎ給ければおとなひ給ぬらむ  
 5 年月をおぼしはからせ給ておぼせことたまはすれと中宮のいよく  
 6 ならひなくのみなりまさらせ給御氣はひにをされてみな人むとくに  
 7 物し給めるすゑにまいりてはるかにめをそはめられたてまつらんもわつ  
 8 らはしく又人にをとり數ならぬさまにて見むはた心つくしなるへきを  
 9 おぼしたゆたふに冷泉院より又いとねんころにおぼしのたまはせて  
 10 かんの君のむかしの御ほいくてすべし給しつらさをさへとりかへし

## 2ウ

1 恨きこえ給ていまはましてすさましうさたすきにたるありさまに  
 2 思くて給ふともうしろやすきおやになすらへてゆつり給へなどとまめや  
 3 かにきこえ給ければいかゝはあるへき事ならんみつからいとくちおしきすべ  
 4 せにて思のほかに心つきなしとおぼされにしかはつかしうかたしけなきを  
 5 此世のすゑにてや御らんしなをされましなとさためかね給かたちいとよく  
 6 おはするきこえたかうありて心かけ申給人おばかり右のおほい殿のくら  
 7 人の少将とかいひしは三条殿の御はらにてあに君たちよりもひきこじて  
 8 いみしうかしつき給人からもいとおかしかりし君いとねんころに申  
 9 給いつかたにつけてももてはなれぬ御ながらひなれは此君たちのむつひ

10 まいり給なとするはけとをくももてなしたまはす女房にもけちかく

**3才**

1 なれよりつゝ思事をかたらふにもたよりありてよるひるあたりさらぬ  
 2 みゝかしかましさをうるさき物の心くるしきにかんの君もおほしたり  
 3 はゝ北のかたの御ふみもしはゝたてまつり給ていとかろひたる程に  
 4 侍めれとおぼしゆるすかたもやとなんおどゝもきこえ給けるひめ君  
 5 をはさらにたゝのさまにもおほしきてたまはす中の君をなん  
 6 いますこし世のきゝみゝかるゝしからぬ程になすらひ給なはさもやと  
 7 おほしけるゆるしたまはすはぬすみもとり給つへくむくつけき  
 8 までおもへりこよなき事とはおほさねと女かたの心ゆるしたまはぬ  
 9 ことのまきれあるはをときゝもあはつけきわざなれはきこえづく人  
 10 をもあなかしこあやまちひきいつなどのたまふにくたされてなんわづら

**3ウ**

1 はしかりけるに六条院の御すゑに朱雀院の三の宮の御はらにむまれ  
 2 給へりし君冷泉院に御このやうにおほしかしつく四位の侍従そのころ十  
 3 四五の程にていときひはにおさなかるへき程よりは心をきておとなくしう  
 4 めやすく人にはまさりたるおゝさきしるくもてなし給をかんの君はむこに  
 5 て見まほしくおぼしたり此殿はかの三条の宮にいとちかき程なればさるへき  
 6 おりへのあそひところには君たちにひかれて見え給おりへり心にくき程  
 7 の女のおはするところなれはわかきおとこの心つかひせぬなく見えしらかひ  
 8 さまよふ中にかたちのよさは此たちさらぬくら人の少将なつかしく心はつかし  
 9 けになまめいたるかたは此四位の侍従の御ありさまににたる人そなかり  
 10 ける六条院の御氣はひちかしと思なすか心ことなるにやあらん世中にをの

**4才**

1 つからもてかしつかれ給へる人也わかき人々心ことためにめてあへるをかんの殿  
 2 もけにこそめやすけれなどのたまひて氣ちからなつかしき程に物なとき  
 3 こえ給六条院の御心はへを思ひ出しこえではなくさむよなういみしう  
 4 のみおぼしたるをその御かたみにも誰をかは見たてまつらん右のおどゝはことへ  
 5 しき御程にてついてなき御たいめんもかたきをなどのたまひてはらからの  
 6 つらに思きこえ給へれはかの君もさるへきところには思ひてまいり給よの  
 7 つねのすきくしさも見えすいといたうしつまりたるをそこゝかしこのわか  
 8 き人々はくちおしくさうくしき物に思ひていひなやましけるむ月の  
 9 ついたちころかんの君の御はらからの大納言たかこうたひしよ藤中納言  
 10 こおほい殿の太郎まきはしらの御ひとつはらなどまいり給へり右のおどゝ  
 1 も御ことも六人ながらひきつれておはしたり御かたちよりはしめてあかぬ事  
 2 なく見ゆる人の御ありさまおほえ也君たちもさまへいときよけにて年の  
 3 程よりはつかさくらぬはすきつゝ何事をおもぶらんと見えたるへし夜と  
 4 ともに藏人の君はかしつかれたるさまことなれと打しめりて思ふ事あり  
 5 かほ也おどゝはみきぢやうへたてゝむかしにかはらす御物語きこえ給  
 6 その事となくてしはへもえうけたまはらす年の数そふまゝに  
 7 内にまいるよりほかのありきなとうぬゝしうなりにて侍れはいにしへ  
 8 の御物語もきこえまほしきおりへりおほくすくし侍をなんわかきをのこ

9 ともはいふべき事にはめしつかはせ給へかなうすその心さし御らんせられ  
10 よといましめ侍りなどきこえ給いまはかく世にふる数にもあらぬ

**5才**

1 やうになりゆくありさまをおほしかすまづるになんすきにし御  
2 こともいとわすれかたく思給へられると申給けるついてにゐん  
3 よりのたまはする事ほのめかしきこえ給はかへしうしろみなき  
4 人のましらひは中々見くるしきをとかたへ思給へなんわづらふと申  
5 給へは内におぼせらるゝ事あるやうにうけたまはりしをいつかたにおも  
6 ほしさたむへきことになんかの院はけに御くらゐをさらせ給へるに  
7 こそさかりすきたるこゝちそれと世にありかたき御ありさまはぶり  
8 かたくのみおはしますめるをよろしうおいで出る女子侍らましかはと  
9 思給へよりなからはつかしけなる御中にましらぶへき物の侍らてなん  
10 くちおしう思給へひるゝそもへ女一の宮の女御はゆるしきいえ給ふや

**5ウ**

1 さきへの人さやうのはゝかりによりとこほる事も侍りしと申給へは女御  
2 なんつれくにのとかになりたるありさまもおなし心にうしる見てなく  
3 さめまほしきをなとかのすゝめ給につけていかゝなどたに思給へよるに  
4 なんときこえ給これかれこゝにあつまり給て三条の宮にまいり給朱  
5 雀院のぶるき心物し給人々六条院のかたさまのもかたくにつけて  
6 なをかの入道の宮をはえよきすまいり給なめり此殿のさゝんの中将  
7 右中弁侍従の君などもやかておとゝの御ともに出たまひぬ  
8 ひきつれ給へるいきをひことなりゆふつけて四位の侍従まいり給へり  
9 そぞらおとなしきもわかきんたちもあまたさまへにいつれかはわろ  
10 ひたりつるみなめやすかりつる中にたちをくれて此君のたち出

**6才**

1 給へるいとこよなくめとまるこゝ地してれいの物めでするわか人  
2 たちはなをことなりけりなどと此殿のひめ君の御かたはらには是  
3 をこそさしむらへて見めと聞くくいふけにいとわからなまめか  
4 しきさまして打ぶるまひ給へるにほひかなとよのつねならすひめ君  
5 と聞ゆれと心おはせむ人はけに入よりはまさるなめりと見しり  
6 給ふらんかしとそおほゆるかんの殿御ねんすたうにおはしてこなた  
7 にとのたまへればひんかしのはしよりのほりてとくちのみすのまへに  
8 み給へりおまへちかきわか木の梅心もとなくつほみてうくひすのはつ  
9 こゑもいとおほとかなるにいとすかせたてまづらまほしきさまのし  
10 給へれば人々はかなき事をいふにことすく間に心にくき程なるをねた

**6ウ**

1 かりて宰相の君と聞ゆる上うりのよみかけたまゆ  
2 おりて見はじとほひもまさるやとすこし色めけ  
3 梅のはづ花くちはやしきゝて  
4 よそにてはもき木なりとやさだむらんしたににほへる  
5 梅のはづ花さらば袖ふれて見給へといひすさぶるにまことは色より  
6 もとくちへひきもうこかしつへくさまよふかんの君おくのかたより  
7 いさり出給てうたてのこたちやはづかしけなるまめ人をさくよくこだ

8 おもなけれどしのひでのたまふ也まめ人とこそつけられたりけりと  
 9 くつしたる名かなと思ふ給へりあるしの侍従殿上などもまたせねは  
 10 ところへもありかておはしあひたりせんかうのおしき一つばかりしてく

### 7才

1 た物さかつきはかりさし出給へりおとゝはねひまさり給まゝにこ院にいと  
 2 ようこそおほえたてまつり給へれ此君は似給へるところも見えたま  
 3 はぬをけはひのいとしめやかになまめいたるもてなしそかの御わか  
 4 さかり思やらるゝかうさまにそおはしけんかしなと思ひ出しきこえ  
 5 給て打しほたれ給なこりさべとまりたるかうはしさを人々はめて  
 6 くつかへる侍従の君まめ人の名をうれたしと思ければ廿日あまり  
 7 よひのころ梅の花さかりなるにほひすくなけにとりなされし  
 8 すき物ならはむかしとおほして藤侍従の御もとにおはしたる中門  
 9 入給ほとにおなしなをしすかたなる人たてりけるかくれなんとおもひ  
 10 けるをひきとゝめければこのつねに立わづらふ少将なりけんしんてんの

### 7ウ

1 西おもてにひわさうのことのこゑするに心をまとはしてたてるなめり  
 2 くるしけや人のゆるきぬ事思はしめんはつみふかゝるへきわさかなと  
 3 おもふことのこゑもやみぬればいさしるへし給へまろはいとたとくとして  
 4 ひきつれて西のわた殿のまへなるこうはいの木のもとに梅かゝを  
 5 うそふきて立よる氣はひ花よりもしるくさと打にぼへれはつま戸  
 6 ををしあけて人々あつまをいとよくかきあはせたり女のことにてりつの  
 7 うたはかうしもあはせぬをいたしと思ひていま一かへりおりかへしうたふを  
 8 ひわもなくいまめかしゆへありてもない給へるあたりそかしと心とまり  
 9 ぬれはこよひはすこし打とけてはかなし事などもいふうちよりわこん  
 10 さし出したりかたみにゆつりててふれぬに侍従の君してかんの殿ちし

### 8才

1 のおとゝの御つまをとになんかよひ給へりと聞わたるをまめやかに  
 2 ゆかしくなんこよひはなをうくひすにもさそはれ給へとのたまひ  
 3 いたしたれはあまえてつめくふべき事にもあらぬをと思ひてはおさく  
 4 心にもいらすかきわたし給へるけしきいとひゝきをもく聞ゆつねに  
 5 見たてまつりむつひさりしおやなれと世におはせずなりにきと思ふに  
 6 いと心ほそきにはかなき事のついてにもおもひはてたてまつるにいとなん  
 7 あはれる大かた此君はあやしうこ大納言のみありさまにいとようお  
 8 ほえことのねなどたゝそれとこそおほえつれどてなき給もふるめい  
 9 給しるしの涙もうさにや少将もこゑいとおもしろうてさき草  
 10 うたふさかしう心つきて打すべしたる人もましらねはをのつからかたみに

### 8ウ

1 もよほされてあそひ給あるしのしげはこおとゝに似たてまつり給へるにや  
 2 かやうのかたはをくれてさかつきをのみすゝむれはことふきをたにせんやと  
 3 はつかしめられて竹川をおなしこゑにいたしてまたわかれとおかしう  
 4 うたふすのうちよりかはらけさしいつゑいのすゝまてほしのふることもつゝま  
 5 れすひかことするわざとこそ聞侍れいかにもてない給そととみに  
 6 うけひかすこうちきかさなりたるほそなかの人香なつかしうしみたるを

7 とりあへたるまゝにかつけ給なにそもそもなどさうときてししうはあるしの  
 8 君に打かつけていぬひきとゝめてかつくれと水むまやにて夜ふけに  
 9 けりとてにけにけり少将はこの源侍従の君のかうほのめきよるめれば  
 10 みる人これにこそ心よせ給ふらめ我身はいとくつしいたく思よはりて

**9才**

1 あちきなうそ、うらむる

2 人はみな花にこゝろをうつすらむひとりそまとふ

3 春の夜のやみ打なげきてたてはうちの人のかへし

4 おりからやあはれもしらん梅の花たゞかはかりに

5 うつりしもせしあしたに四位の侍従のもとよりあるしのじしうのもとに

6 よへはいとみたりかはしかりしを人々いかに見給けんと見給へとおぼしうかな  
 7 かちにかきてはしに

8 たけ川のはし打出し一ふしにふかきこゝろのそこはしおきや#

9 とかきたりしんてんにもてまいりてこれかれ見給手などいとおか

10 しうもあるかないかなる人いまよりかくどゝのひたらむおさなくて

**9ウ**

1 院にもをくれたてまつりはゝ富のしとけなふおをして給へれど

2 なを人にはまさるへきにこそはあめれとてかんの君は此君たちの

3 てなどあしき事をはつかしめ給返ことけにいとわかくよへは水

4 むまやをふかさしといそきしもきこゆめりし

5 竹かはに夜をふかさしといそきしもいかなるふしを

6 思をかましけに此ふしをはしめて此君の御さうしにおはしてけしき

7 はみよる少将のをしさりしもしくみな人心よせたり侍従の

8 君もわかきこゝ地にちかきゆかりにて明暮むつひまほしう思ひけり

9 やよひになりてさく桜あれはぢりかひくもり大かたのさかりなる

10 ころのとやかにおはするところはまきるゝことなくはしちかなる

**10才**

1 つみもあるましかめりそのころ十八九の程にやおはしけん御かたち

2 も心はへもとりへにそおかしきひめ君はいとあさやかに氣たかうい

3 まめかしきさましてけにたゝ人に見たてまつらんはにけなう

4 そ見え給桜のほそなか山ふきなどのおりにあひたる色あひの

5 なつかしき程にかさなりたるすそまであいきやうのこぼれおち

6 たるやうに見ゆる御もてなしなどもらうへしく心はつかしきけさへ

7 そひ給へりいま一ところはうすこうはいに桜色にて柳のいとのやうに

8 たをくと見ゆいとそひやかになまめかしうすみたるさましてをもり

9 かに心ふかきけはひまさり給へれどにほひやかなるけはひはこよなし

10 とそ人おもへるこうち給とてさしむかひ給へるかんさし御くしのかゝり

1 たるさまどもいと見ところあり侍従の君けんそし給とてす

2 かうさふらひ給にあに君たちさしのそき給て侍従のお

3 ほえこよなくなりにけり御このけんそゆるされにけるとておと

4 なおとなしきさましてついゐ給へはおまへなる人々とくうゐなをる

5 中将宮つかへのいそかしうなり侍従に人にをとりにたるはいとほいなき

**10ウ**

6 わさかなとうれへ給へは弁官はまいてわたくしの宮つかへをこたりぬ  
 7 べきさまにさのみやはおぼしすてんなど申給こうぢさしてはち  
 8 らひておはさうするいとおかしけ也内わたりなどまかりありきて  
 9 もことのおはしたてまつり給甘七八の程に物し給へはいとよくと、  
 10 のひて此御ありさまともをいかていにしへおぼしをきて

### 11才

1 しにたかへすもかなと思ふ給へりおまへの花の木ともの中にも  
 2 にほひまさりておかしき桜をおらせてほかのにもにす  
 3 こそなともあそひ給をおさなくおはしまさうし時この花は  
 4 わかそくとあらそひ給しをそこのはひめ君の御花そとさため  
 5 給うへはわか君の御木にさため給しをいときはなきのゝしらねと  
 6 やすからす思給へられしはや此桜の老木になりにけるに  
 7 つけてもすきにけるよはひを思給へいつれはあまたの人には  
 8 をくれ侍にける身のうれへもとめたうこそなきみわらひ  
 9 みきこえ給てれいよりはのとやかにおはす人のむこになりて  
 10 心しつかにもいまは見えたまはぬを心とめて物し給かんのきみ

### 11ウ

1 かくおとなしき人のおやになり給御年の程おもひよるはいとわからう  
 2 きよけになをさかりの御かたちと見え給へり冷泉院のみかと  
 3 はおぼくは此御ありさまのなをゆかしうむかし恋しうおぼし出られ  
 4 ければなにつけてかいとおぼしくらしてひめ君の御ことをあな  
 5 かちにきこえ給にそありける院へまいりたまはん事は此君たち  
 6 そなを物しはへなきこゝちこそすへけれよろつのこと時につけたるを  
 7 こそ世人もゆるすめけれにいと見たてまつらまほしき御ありさまはこの  
 8 世にたくひなくおはしますめれとさかりならぬこゝちそするやこと  
 9 ふえのしらへ花鳥の色をもねをも時にしたかひてこそ人のみゝも  
 10 とまる物なれ春富はいかゝなど申給へはいさやはしめよりやむこと

### 12才

1 なき人のかたはらもなきやうにてのみ物し給めればこそ中々にて  
 2 ましらはんはむねいたく人わらへなる事もやあらんとつゝましければ  
 3 殿おはせましかはゆくすゑの御すくせくはしらすたゝいまはかひあるさまに  
 4 もてなし給てましをなどのたまひ出てみな物あはれ也中将などたち給て  
 5 のち君たちはうちさし給へるこうち給むかしよりあらそひ給桜をかけ物  
 6 にて三はんに數一かちたまはんかたにはなをよせてんとたはふれかはしきこ  
 7 え給くらうなれははしちかうてうちはて給みすまきあけて人々みな  
 8 いとみねんし聞ゆおりしもれいの少将侍従の君の御さうしに来たりけるを  
 9 打つれて出給にければ大かた人すくなかるにらうの戸のあきたるにやを  
 10 らよりてのそきりかううれしきおりを見つけたるは仏などのあらはれ

### 12ウ

1 紿へらむにあひたらんこゝちするもはかなき心になん夕暮の霞の  
 2 まきれはさやかならねとつくへと見ればさくら色のあやめもそれと  
 3 みわきつけにちりなん後のかた見にも見まほしくにほひおぼく見え  
 4 給をいとゝことさまになり給なん事にわひしく思まさるわかき人々の

5 打とけたるすかたとも夕はへおかしう見ゆ右かたせたまひぬごまの  
 6 らさうをそしやなとはやりかにいふもあり右に心よせたてまつりて  
 7 西のおまへによりて侍る木を左にして年ころの御あらそひのかゝれば  
 8 ありつるそかしと右かたはこゝちよけにはけまし聞ゆ何事としらねどおか  
 9 しと聞てさしいらへもせまほしけれと打とけ給へるおりこゝちなく  
 10 やはとおもひて出でいぬ又かゝるまきれもやとかけにそひてそうちかゝひ

### 13才

1 ありきける君たちは花のあらそひをしつゝあかしくらし給に風あららか  
 2 に吹たる夕つかたみたれおつるかいとくちおしうあたらしけれはまけかたのひめきみ  
 3 さくらゆへ風にこゝろのさはくかなおもひくまなき  
 4 花と見る／＼御かたの宰相  
 5 さくと見てかつはぢりぬる花なれはまくるをふかき  
 6 うらみともせずときこえたすくれば右のひめきみ  
 7 風にちることはよのつねえたなからうつぶはなを  
 8 たゞにしも見しこの御かたの大輔のきみ  
 9 こゝろありて池のみきはにおつる花あわとなりても  
 10 わかゝたによれかちかたのわらはへおりて花のしたにありきてぢりたるを

### 13ウ

1 いとおぼくひろひてもまじれり

2 大そらの風にちれともさべら花をのかものとそ

3 かきつめて見る左のなれき

4 桜はなにほひあまたにちらさことおぼふはかりの

5 袖はありやは心をはけにこそ見ゆめれなどいひおとすかくいふに月日はか

6 なくすくすもゆくすゑのうしろめたきをかんの殿はよろつにおぼす

7 院よりは御せうそこ日々にあり女御うとくしうおぼしへたつるにやうへは

8 こゝにきこえうどむるなめうどくにくけにおぼしのたまへはたはふれ

9 にもくるしうなんおなしうは此こひの程におぼしたちねなどいと

10 まめやかにきこえ給さるくきにこそはおはすらめいとからあやにくに

### 14才

1 のたまうもかたしけなしなとおぼしたる御てうとなとはそぢらしをかせ  
 2 給へれは人々のさうそくなにくれのはかなきことをそいそき給是を聞  
 3 に藏人の少将はしぬはかりおもひてはゝ北のかたをせめたてまつれは  
 4 聞わづらひ給ていとかたはらいたきことにつけてほのめかし聞ゆるも世に  
 5 かたくなしきやみのまよひになんおぼししるかたもあらはをはかりて  
 6 なをなくさめさせ給へ人などとおしけにきこえ給をくるしうもあるかな  
 7 と打なげき給ていかなる事と思給へさたむべきやうもなきを院より  
 8 わたりなくのたまはするに思ふ給へみたれてなんまめやかなる御心ならは此程  
 9 をおぼしつめてなくさめきこえんさまをも見給てなん世のきこえも  
 10 なたらかならんなど申給も此御まいりすべして中の君をとおぼすなるへし

### 14ウ

1 さしあはせてはうだしてたりかほならんまたくらゐなどもあさへたる程  
 2 をなどおぼすにおこはさらにしか思つるべくもあらすほのかに見たて  
 3 まつりて後はおもかけに恋しういかならんおりことのみおぼゆるにかうたのみ

4 かゝらずなりぬるを思なけき給事がきりなしかひなきじともごはんとて  
 5 れいのししうのさうしにきたれは源侍従の文をそ見る給べりけるひき  
 6 かくすをさなめりとみてうはひとりつことありかほにやと思ひてい  
 7 こうもかくさすそこはかとなくてたゞ世をうらめしけにかすめたり  
 8 つれなくてすくる月日をかそへつゝものうらめしきくれのはるかな#  
 9 人はかうこそのとやかにさまよくねたけめわかいと人わらはれなる  
 10 心いられをかたへはめなれてあなつりそめられにたるとおもふもむねいた

### 15才

1 ければことに物もいはれてれいかたらぶ中将のおもとのさうしのかた  
 2 にゆくもれいのかひあらしかしとなけきかち也しうの君は此返事せん  
 3 とでうへにまいり給を見るにいとはらたゞしうやすからすわかきこゝ  
 4 地にはひとへに物をおほえけるあさましきまで恨なけゝはこのまへ  
 5 申もあまりたはふれにくゝいとおしと思ていらへもおさゝへせずかの御ご  
 6 のけんそせし夕暮のこともいひ出てさはかりの夢をたに又見てし  
 7 かなどあはれなにをたのみにしていきたらむかうきこゆる事も残りすべ  
 8 なうおほゆれはつらきもあはれといふ事こそまことなりけれといとまめ  
 9 たちていふあはれとてひやるへきかたなき事也かのなくさめたまほん  
 10 御さま露はかりうれしと思ふへきけしきもこそなけれはけにかのゆふ

### 15ウ

1 暮のこのけんそうなりけんにいとかうあやにくなる心はそひたるならんと  
 2 ことはりに思ひてきこしめさせたらはいとゝいかにけしからぬ御心なりけり  
 3 うとみきこえたまほん心くるしと思きこえつる心もうせぬいとうしろ  
 4 めたき御心なりけりとむかひ火をつくれはいてやさはれやいまはかきり  
 5 の身なれば物おそろしくもあらすなりにたりさもまけ給しこそいとく  
 6 おしかりしかおいらかにめしいれてやはめくはせたてまづらましかはこよな  
 7 からまし物をなといひて  
 8 いてやなそ数ならぬ身にかなはぬは人にまけしの  
 9 心なりけり中将うちわらひて  
 10 わりなしやつよきによらはかちまけをこゝろひとつに

### 16才

1 いかゝまかするといひけるさへそつらかりける  
 2 あはれとてをゆるせかしいきしにを君にまかする  
 3 我身とならはなきみわらひみかたらひあかす又の日は卯月に  
 4 なりにければはらから君たちのうちにまいりさあらふにいたう  
 5 くつしりてなかめぬ給へればはゝ北のかたは涙くみておはすおどゝも  
 6 院のきこしめすところもあるへしなにゝかはおほなく聞いれんと  
 7 思てくやしうたいめんついてにも打出きこえすなりにしみつからあな  
 8 かちに申さましかはさりともえたかへたまはざらましなどのたまふまでれいの  
 9 花を見て春はくらしつけふよりやしけきなけきのしたにまとはん#  
 10 ときこえ給へりおまへにてこれかれ上らうたつ人くこの御けそう

### 16ウ

1 人のさまへにいとおしけなるをきこえしらする中に中将のおもと  
 2 いきしにをといひしきまることにのみはあらすじくるしけなりし

3 など聞ゆればかんの君もいとおしと聞給おどゝ北のかたのおほす  
 4 どころによりせめて人の御恨るかくはどどりかへありておほすこの  
 5 御まいりをさまたけむやうにおほすらんはしもめさましき事かきり  
 6 なきにてもたゝ人にはあるましき物にこ殿のおほしをきてたりし  
 7 物を院にまいりたまはんたにゆくすゑのはへゝしからぬをおほしたる  
 8 おりしもこの御ふみとりいれてあはれるかる御返事  
 9 けふそしる空をなかむるけしきにてはなにこゝろをうつしけりとも#  
 10 あないとおしたはふれにのみもどりなすかなといへとうるさかりて

### 17才

1 かきかへす九日こそまいり給右のおほい殿御くるま御せんの人々あまた  
 2 たてまつり給へり北のかたもうらめしと思きこえ給へれととしころさも  
 3 あらさりしに此御くるまゆへしけうきこえかよひ給へるを又かきたえんも  
 4 うたてあればかつけ物ともよき女のさうそくともあまたたてまつり給へり  
 5 あやしううつし心もなきやうなる人のありさまを見給へあつかふ程にうけた  
 6 まはりとゝむる事もなかりけるをおとろかさせたまはぬもうとくしうなんとそ  
 7 ありけるおいらかなるやうにてほのめかし給へるをいとおしと見給おどゝも御  
 8 文ありみづからもまいるへきに思給へつるにつゝしむ事の侍てなんをのことも  
 9 さうやくにてまいらすうとからすめしつかはせ給へとて源少将兵衛の  
 10 すけなどたてまつれ給へりなきはおはすかしとよろこひきこえ給大納言殿

### 17ウ

1 よりも人々御くるまたてまつれ給北のかたはこおどゝの御むすめまき  
 2 はしらのひめ君なればいつかたにつけてもむつましうきこえかよひ給へ  
 3 けれどさしもあらす藤中納言はしもみつからおはして中将弁の  
 4 君たちもろともにことをこなひ給殿のおはせましかはとよろつにつけ  
 5 てあはれ也蔵人の君れいの人にいみしきこと葉をつくしていまは  
 6 かきりと思侍るいのちのさすかにかなしきをあはれと思ふとはかりたに  
 7 ひとことのたまはせはそれにかけとゝめられてしはしもなからへやせん  
 8 などあるをもてまいりてみればひめ君一ところ打かたらひていとい  
 9 たうくつし給へりよるひるもろともにならひ給て中の戸はかりへた  
 10 てたる西ひんかしをたにいといふせき物にし給てかたみにわたり

### 18才

1 かよひおはするをよそくにならんことをおほすなりけり心ことにしたて  
 2 ひきつくるひたてまつり給へる御さまいとおかし殿のおほしのたまひしさま  
 3 などをおほし出て物あはれるなるおりからにやとりて見給おどゝ北のかたの  
 4 さばかりたちならひてたのもしけなる御中になとかうすゝる事を思  
 5 いふらむとあやしきにもかきりとあるをまことにやとおほしてやかてこの御  
 6 ふみのはしに

7 あはれてふつねならぬ世の一こともいかなる人にかへる物そは#  
 8 ゆゝしきかたにてなんほのかに思しりたるそかき給てかういひ  
 9 やれかしとのたまうをやかてたてまつれたるをかきりなうめつら  
 10 しきにもおりをおほしとむるさへいとゝ涙もとまらず立かへりたか名

### 18ウ

1 はたゝしなとかことかましくて

いける世のしにはこゝろにまかせねはきかてややまんきみか一こと#

つかのうへにもかけ給ふべき御心の程と思給へましかはひたみちにも  
いそかれ侍らましをなとあるにうたてもいらへをしてけるかなかき  
かへてやりつらんかとくるしけにおほして物ものたまはすなりぬおとな  
わらはめやすきかきりをとゝのへられたり大かたのきしきなとは内に  
まいりたまはましにかはる事なしまつ女御の御かたにわたり給てかんの  
君は御物語などきこえ給夜ゑけてなんうへにまうのほり給けるきさ  
き女御などみな年ころへてねひ給へるにいとうつくしけにてさかりに見とこ  
るあるさまを見たてまつり給へはなとてかをろかならん花やかに時めき給

### 19才

1 たゝ人たちて心やすくもてなし給へるさましもそこにあらまほしう  
2 めてたかりけるかんの君をしほしとぶらひ給なんと心とめておほしけるに  
3 いとくやをら出給にければくちおしう心うしとおほしたり源侍従の  
4 君をは明暮おまへにめしまつはしつゝけにたゝむかしのひかる源氏の  
5 おひ出給しにをとらぬ人の御おほえ也院の内にはいつれの御かたにも  
6 うとからすなれましらひありき給此御かたにも心よせありかほに  
7 もてなしてしたにはいかに見給ぶらんの心さへそひ給へり夕暮のしめ  
8 やかなるに藤侍従とつれでありくにかの御かたの御まへちかく見やら  
9 るゝ五葉に藤のいとおもしろくさきかゝりたるを水のほとりの石に  
10 昔をむしろにてなかめ給へりまほにはあらねと世の中うらめしけに

### 19ウ

1 かすめつゝかたらう

手にかかる物にしあらは藤の花まつよりまび

2 色を見ましやとて花を見あけたるけしきなとあやしくあはれ

3 に心くるしくおぼゆれは我心にあらぬ世のありさまにほのめかす

4 むらさきの色はかよへと藤の花こゝろにえこそ

5 かゝらさりけれどもなる君にていとおしとおもへりいと心まとふはかりは

6 思いられさりしかとくちおしうはおほえりかの少将の君はしもまめやか

7 にいかにせましとあやまちもしつへくしめかたくなおほえけるきこ

8 え給し人々中の君とうつろふもあり少将の君をははゝ北のかたの御恨に

9 よりさもやとおもほしてほのめかしきこえ給しをたえて音つれすなりに

10 昔をむしろにてなかめ給へりまほにはあらねと世の中うらめしけに

### 20才

1 たり院にはかの君たちもしたしくもとよりさぶらひ給へるとこの  
2 まいり給て後おさゝまいらすまれゝ殿上のかたださしのそき  
3 てもあしきなうにけてなんまかり出る内にはこおどゝの心さし  
4 をきて給へるさまなりしをかくひきたかへたる御宮つかへをいかなる  
5 にかとおほして中将をめしてなんのたまはせける御けしきようしからす  
されはこそ世人の心のうちもかたふきぬへき事なりとかねて申し  
6 ことをもおほしとるかたありてかうおほし立にしかはともかくもきこえ  
7 かたくて侍にかゝるおほせ事の侍ればなにかしらか身のためもあち  
8 きなくなん侍といと物し思ひてかんの君を申給いさやたゝいま  
9 かうにはかにしも思たゝさりしをあなかちにいとおしうのたまはせしかは

### 20ウ

1 うしろみなきましらひのうちわたりははしたなけなめるをいまは  
 2 心やすき御ありさまなめにまかせきこえてと思よりし也誰もく  
 3 ひなからんことはありのまゝにもいさめたまはていまひきかへし  
 4 右のおとゝもひかゝしきやうにおもむけてのたまうなれはくるし  
 5 なん是もさるへきにこそはとなたらかにのたまひて心もさはかいたま  
 6 はすそのむかしの御すべせはめに見えぬ物なればかうおほしのたまは  
 7 するを是契りことなるともいかゝはそうしなをすへき事ならん中富を  
 8 はゝかりきこえ給とて院の女御をはいかゝしたてまつりたまはんとする  
 9 うしろみやなにやとかねておほしかはすともさしもえ侍らしよし見  
 10 聞侍らんようおもへは内は中富おはしますとてこと人はましらひたまはすや

## 21才

1 君につかうまつる事はそれか心やすきこそむかしよりけうある事にはし  
 2 けれ女御はいさゝかなる事のたかひめありてよろしからす思きこえたま  
 3 はんにひかみたるやうになん世のきゝみゝも侍らんなどいこひして  
 4 申給へはかんの君いとくもしとおほしてさるはかきりなき御思のみ  
 5 月日にそへてまさる七月よりははらみ給にけり打なやみ給へる  
 6 さまけに人のさまへにきいてわらはすもことはりそかしいかてかはかゝ  
 7 らむ人をなめに見聞すべしてはやまむとそおほゆる明暮御あそひを  
 8 せさせ給へし侍従もけちかうめしいるは御ことのねなとは聞給かの梅  
 9 かえにあはせたりし中将のおもとのわこんもつねにめし出てひかせ給へは聞  
 10 あはするにもたゝにはおほえさりけりその年かへりておどこたうかせられ

## 21ウ

1 けり殿上のわか人ともの中に物の上手おほかるころをひ也その中にもすべ  
 2 れたるをえらせ給て此四位の侍従右のかとう也かの藏人の少将かくにん  
 3 の数のうちにありけり十四日の月の花やかにくもりなきにおまへより出て冷  
 4 泉院にまいる女御も此みやすんところもうへに御つぼねして見給かんたちめ  
 5 みこたちひきつれてまいり給右のおほい殿ちしのおとゝの御そうをはなれ  
 6 てきらへしうきよけなるはなきよなりと見ゆ内のおまへよりも此院をは  
 7 いとはつかしうことに思きこえてみな人ようぬをくはふる中にもくら人の  
 8 少将は見給ふらんかしと思やりてしつ心なしにほひもなく見ぐるしきわたはな  
 9 もかさす人からに見わかれでさまもこゑもいとおかしくそありける竹川うたひて  
 10 みはしのもとにふみよる程すきにじ世のはかなかりしあそひも思ひ出られけれ

## 22才

1 はひかこともしつへく涙くみけりきさいの富の御かたにまいればうへもそな  
 2 たにわたらせ給て御らんす月は夜ふかうなるまゝにひるよりもはし  
 3 たなうすみのほりていかに見給ふらんとのみおほゆればふむ空もなう  
 4 たゝよひありきてさかつきにもさしてひとりとかめらるゝはめいほく  
 5 なくなん夜一夜とこるへかきありきていとなやましうくるしくて  
 6 ふしたるに源侍従を院よりめしたれはあなくるししはしやすむへき  
 7 にとむつかりなからまいり給へり御まへの事ともなととはせ給かたうは打す  
 8 くしたる人のさきへするわさをえらはれたる程心にくかりけりとてうつ  
 9 くしとおほしたり万春榮を御くちすさひにし給つゝみやすとこ  
 10 の御かたにわたらせ給へは御ともにまいり給物見にまいりたる里人おほくて

## 22ウ

1 れいよりは花やかに氣はひいまめかしわた殿の戸くちにしはしゆてこゑき  
 2 しりたる人に物などのたまふ一夜の月の影ははしたなかりしわさかな  
 3 蔵人の少将の月のひかりにかゝやきたりし氣しきもかつらの影に侍には  
 4 あらすやありけん雲のうへちかくてはさしも見えざりきなどかたり給へは人々  
 5 あはれときくもありやみはあやなきを月はりますこし心ことなりとさため  
 6 きこえしなとすかしてうちより

7 竹川のそのよのことはおもひ出やしのふはかりの  
 8 ふしはなけれどとはかなき事なれど涙ぐまるゝもけにいとあさくは  
 9 おほえぬことなりけりとみつからおもひしひり  
 10 なかれてのたのめむなし竹川に世はうき物と

## 23オ

1 思しりにき物あはれる氣しきを人々おかしかるさるはおりたちて人のやう  
 2 にもわひたまはさりしかと人さまのさすかにくるしう見ゆる也打出すくす事  
 3 もこそ侍れあなかしこてたつ程にこなたにとめし出ればはしたなきこゝ地  
 4 すれとまいり給こ六条院のたうかのあしたに女かたにてあそひせられ  
 5 けるいとおもしろかりきと右のおとゝのかたられし何事もかのわたりのさじしき  
 6 なるへき人かたくなりにける世なりやいと物の上手なる女さへおぼくあつまりて  
 7 いかにはかなき事もおかしかりけむなどおほしやりて御ことゝもしらへさせ給て  
 8 さうはみやすところひわは侍従に給わこんをひかせ給て此殿などあそひ  
 9 みやすところの御ことのねまたかたなりなるところありしをいとようをしへ  
 10 ないたてまつり給てけりいまめかしうつまをとよくてうたこくの物など上手に

## 23ウ

1 いとよくひき給なに事も心もとなくをくれたる事は物したまはぬ人なめりかたち  
 2 はたいとおかしかるへしとなを心とまるかやうなるおりおほかれとをのつから氣  
 3 とをからすみたれ給かたくなれくしうなとは恨かけねとおりくにつけて思が  
 4 心のたかへるなけかしさをかすむるもいかゝおほしけんしらすかしう月に女宮む  
 5 まれたまひぬことにけやかなる物し人もなきやうなれと院の御けしきに  
 6 したかひて右のおほい殿よりはしめて御うふやしなひし給どころくおほかり  
 7 かんの君つといたきもちてうつくしみ給にどうまいり給ふへきよしのみ  
 8 あれはいかの程にまいりたまひぬ女宮一どころおはしますにいとめつらしう  
 9 うつくしくておはすればいといみしうおほしたりいとこなたにのみ  
 10 おはします女御かたの人々いとかゝらてありぬへき世かななどたゝならす

## 24オ

1 いひおもへりさうしみの御心ともはことにかろくしくそむき給にはあらねとき  
 2 らふ人々の中くせくしき事も出きなどしつゝかの中将の君のさいへと人の  
 3 このかみにてのたまひし事かなひてかんの君もむけにかくいひへてはていか  
 4 ならん人わらへにはしたなうもやもてなされむうへの御心はへはあさからねと  
 5 年へてさぶらひ給御かたゝよろしからす思はなちたまはくくるしくもある  
 6 へきかなとおもほすに内にはまことに物しとおほしつゝたひく御けしきありと  
 7 人の聞ゆればわづらはしくておほやけさまにてましらはせたてまつらん事を  
 8 おほして内侍のかみをゆつりきてえ給おほやけいとかたうし給事なり  
 9 ければ年ころかうおほしをきてしかとえしたまはさりしをこおとゝの御心を

**24ウ**

10 おほしてひさしうなりにけるむかしのれいなどひき出でその事かなひたまひぬ  
 1 この君の御すべにて年ころ申給はかたきなりけりと見えたるかくて  
 2 心やすくて内すみもし給へかしとおほすにもいとおじう少将の事をはゝ北  
 3 のかたのわざとのたまひし物をためきこえしやうにほのめかしきこえしも  
 4 いかに思給ふらんとおほしあつかう弁の君して心うつくしきやうにおとゝに  
 5 きこえ給内よりかゝるおほせことのあれはさまへにあななかちなるましらひの  
 6 此身と世のきゝみゝもいかゝと思給へてなんわづらひぬるときこえ給へは内の  
 7 御けしきはおほしこむることはりになんうけたまはるおほやけ事につけ  
 8 ても富つかへしたまはぬはさるましきわさになんはやおほしたつへきに  
 9 なんと申給へり又このたひ中宮の御けしきとりてそまいり給おとゝ  
 10 おはせましかはをしけちたまはさらましなとあはれる事ともをなん

**25オ**

1 あに君はかたちなど名たかうおかしけなりときこしめしをきたるを  
 2 ひきかへ給へるをなま心ゆかぬやうなれとはもいとらうくしく心にくゝもて  
 3 なしてさぶらひ給さきのかんの君かたちをかへてんとおほしたつをかたへに  
 4 あつかひきこえ給程にをこなひも心あはたゝしうこそおぼされめいます  
 5 こしいつかたも心のとかに見たてまつりなし給てもとかしきところなくひた  
 6 みちにつけめ給へと君たちの申給へはおほしどゝこぼりて内には時々しのひ  
 7 てまいり給おりもありけり院にはわづらはしき御心はへのなをたえねは  
 8 さるべきおももさらにまいりたまはすいにしへを思ひ出てさすかにかたしけ  
 9 なうおぼえしかしこまりに人のみなゆるさぬ事におもへりしをしらすかほに  
 10 思ひてまゝらせたてまつりてみつからさへたはふれにてもわかくしき事の

**25ウ**

1 世にきこえたらんこそ」とまはゆく見ぐるしかるへけれどおほせとさる  
 2 いみによりとはたみやすところにもあかしきこえたまはねは我をむかし  
 3 よりこおとゝはとりわきておほしかしつきかんの君はわか君を桜のあらそひ  
 4 はかなきおりにも心よせ給しなこりにおほしおとしけるよどうひめしう  
 5 思きこえ給へり院のうへはたましていみしうづらしとそおぼしのたまは  
 6 せけるゑるめかしきあたりにさしはなちて思おどかるゝもことなりりと  
 7 打かたらひ給てあはれにのみおほしまざる年ころありて又おとこみこ  
 8 うみ給つそこらさぶらひ給御かたへにかゝる事なくて年ころになりに  
 9 けるををろかならさる御すべなど世人おとろくみかとましてかきり  
 10 なうめつらしと出しま宮をは思きこえ給へりおりぬたまはぬ世なひ

**26オ**

1 ましかはいかにかひあらましいまはなに事もはへなき世をいとくぢ  
 2 おしとなんおほしける女一の宮をかきりなき物に思きこえ給しをかく  
 3 さまへにうつくしくて数そひ給へればめつらかなるかたにていとことに  
 4 おぼいたるをなん女御あまりかうまでは物しからんと御心うこき  
 5 けることにふれてやすからすべししき事出きなどしてをのつから  
 6 御中もへたゝるへかめり世のこととして数ならぬ人のながらひにも  
 7 もとよりことはりえたるかたにこそあひなきおほよその人も心をよする  
 8 わざなめれば院の内のかみしもの人々いとやむことなくてひさしく

9 なり給へる御かたにのみことはりてはかない事にも此御かたさまをよからず  
10 とりなしなとするを御せうとの君たちもされはよあしうやはきこえ

## 26ウ

1 をきけるといと申給心やすからすきくるしきまゝにかゝらてのとやか  
2 にめやすくて世をすぐす人もおほかめりかしかきりなきさいはひ  
3 なくて富つかへのすちは思よるましきわさなりけりとおほうへはなけ  
4 き給きこえし人々のめやすくなりのほりつゝさてもおはせまじに  
5 かたはならぬそあまたあるやその中に源侍従といとわかう  
6 ひはつなりと見しは宰相の中将にてにほふやかほるやときゝにく  
7 めてさはかるなるけにいと人からをもりに心にくきをやむことなきみこ  
8 たち大臣の御むすめを心さしありてのたまふなるなども聞いれすなど  
9 あるにつけてそのかみはわかう心もとなきやうなりしかとめやすくねひ  
10 まさりぬへかめりなどいひおはさうす少将なりしも三位の中将とかいひ

## 27オ

1 ておほえあり身のさえもあらまほしかりきやなとなま心わろきつかう  
2 まつり人は打しのひつゝうるさけなる御ありさまよりはなどいふもありて  
3 いとおしこそ見えし此中将はなを思そめし心たえすうくもつらくも思  
4 つゝ左大臣の御むすめをえたれとおさへ心もとめすみちのはてなる  
5 ひたちおひととてならひにもこと草にもするはいかにおもふやうのあるにか  
6 ありけんみやすところやすけなき世のむつかしさに里かちになり給に  
7 けりかんの君思ひしやうにはあらぬ御ありさまをくちおしとおほすうちの  
8 君は中々いまめかしう心やすけにもてなし世にもゆへあり心にくきおほえ  
9 にてさふらひ給左大臣うせたまひて右は左に藤大納言左大将かけ  
10 給へる右大臣になり給つきくの人々なりあかりて此かほる中将は中納言に

## 27ウ

1 三位の君は宰相になりてようこひし給へる人々この御そよりほかに  
2 人なきころをひになんありける中納言の御よろこひにさきの内侍のかんの  
3 君にまいり給へり御まへの庭にてはいしてまつりかんの君たいめんし給て  
4 かくいと草ふかくなりゆくむくらの門をよきたまはぬ御心はへもまつむかし  
5 の御こと思ひ出られてなんなときこえ給御こゑあてにあひきやうつききかま  
6 ほしういまめきたりふりかたくもおはするかなかゝれば院のうへは恨給御心たえぬ  
7 そかしいまつぬにことひき出給てんと思よろこぶなどは心にはいとしも  
8 思給へねともまつ御らんせられにこそまいり侍れよきぬなどのたまはする  
9 はをろかなるつみに打かへさせ給ふにやと申給けふはさたすきたる身の  
10 うれへなど聞ゆへきついてにもあらすとつゝみ侍れとわざと立よりたまはん

## 28オ

1 事はかたきをたいめんなくてはたさすかにくたくしき事になん院にさぶり  
2 はるゝかいといたう世中を思みたれ中空なるやうにたゝよふを女御をた  
3 のみきこえ又きさひの宮の御かたにもさりともおほしゆるされなんと思給へ  
4 すぐすにいつかたにもなめけにゆかぬ物におぼされたなれはいとかたはり  
5 いたくて富たちはさてさふらひ給此いとましらひにくけなるみつからはかくて  
6 心やすくたになかめすくい給へとてまかてさせたるをそれにつけても聞  
7 にくゝなんうへにもよろしからすおほしのたまはすなるついてあらはほの

8 めかしそうし給へとさまからまにたのもしく思給へていたしたて侍し  
 9 程はいつかたをも心やすく打とけたのみきこえしかといまはかゝる事あや  
 10 まりにおさなうおぼけなかりけるみつからの心をもとかしくなんと打なけい給

## 28ウ

1 気しきなりざりにからまでおぼすましきことに  
 2 なんかゝる御ましらひのやすからぬことはむかしより  
 3 さる事となり侍にけるをくらゐをさらてしつかに  
 4 おはしましなにこともけさやかならぬ御ありさまと  
 5 なりにたるにたれもううだけたまへるやうな  
 6 れとをのくうちくにはいかゝいとましくもおぼす  
 7 こともながらむ人はなにのとかと見ぬことも  
 8 わか御身にとりてはうらめしくなんあひなきことに  
 9 こゝへうこかいたまふこと女御きさきひねの御くせ

## 29オ

1 なるへしさばかりのまきれもあらしものとてやは  
 2 おほしたちけむたゝなたらかにもてなして御らん  
 3 しすべすへきことにはへるなりをのこのかたに  
 4 てそうすへきことにも侍らぬことになむと  
 5 いとすゝしう申たまへはたいめんのついてに  
 6 うれへきこえむとまちつけたまつりたる  
 7 かひなくあわの御ことはりやとうちわらひてお  
 8 はする人のおやにてはかくしかりたまへる  
 9 ほとよりはいとわかやかにおぼといたるこゝちす

## 29ウ

1 みやすむところもやうにそおはすべかめるうぢの  
 2 ひめ君のこゝるとまりておぼゆるもかうさま  
 3 なる気はひのおかしきそかしとおもひゐたまへり  
 4 内侍のかみもこのころまでたまへりこなた  
 5 かなたすみたまへる氣はひおかしうおぼかた  
 6 のとやかにまくることなき御ありさまとのすの  
 7 うちこゝろはつかうおぼゆればこゝろつかひせられ  
 8 てじとゝもてしつめやすきをおぼうへはちかう  
 9 も見ましかばとうちおぼしけり大臣殿は

## 30オ

1 たゞこのとのひんかしなりけりたいきやう  
 2 のゑかのきんたちなどあまたつとひたまふ  
 3 兵部卿の富左のおぼいとのりゆみのかへり  
 4 たちすまゐのあるしなとはおはしましゝを  
 5 おもひてけふのひとりとさうしてまつり  
 6 たまひけれどおはしまさすこゝろにぐ  
 7 もてかしつきたまうひめ君をさるはじゝる  
 8 さしことにいかてとおもひきこえたまく  
 9 かめれと苦しいかなるにかあらん御じいふ

**30ウ**

1 もとめだまはさりける源中納言のい  
2 とゝあらまほしうねひとゝのひなに  
3 ことをくれたるかたなくものこ  
4 たまうをおとゝきたのかたもめとゝ  
5 めたまひけりとなりのかくのゝしりて  
6 ゆきちかうくるまのをときをふこゑ  
7 こゑもむかしのことおもひいてられて  
8 このとのにはものあはれになかめ  
9 たまうこみやうせたまひてほとも

**31オ**

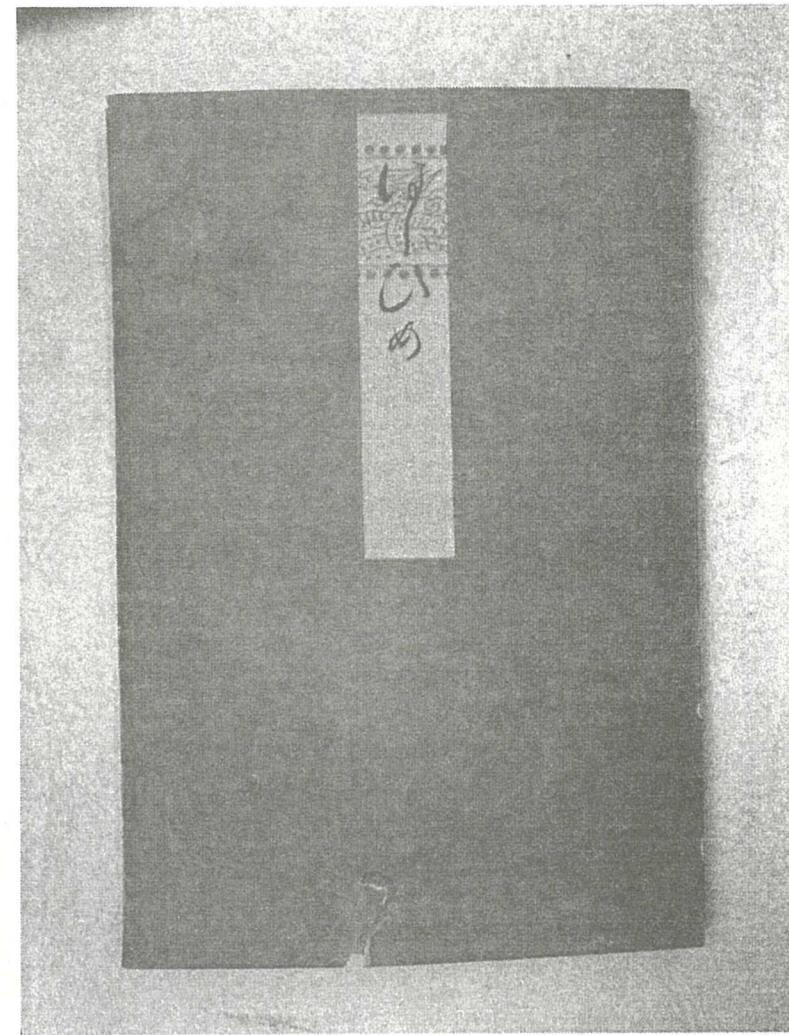
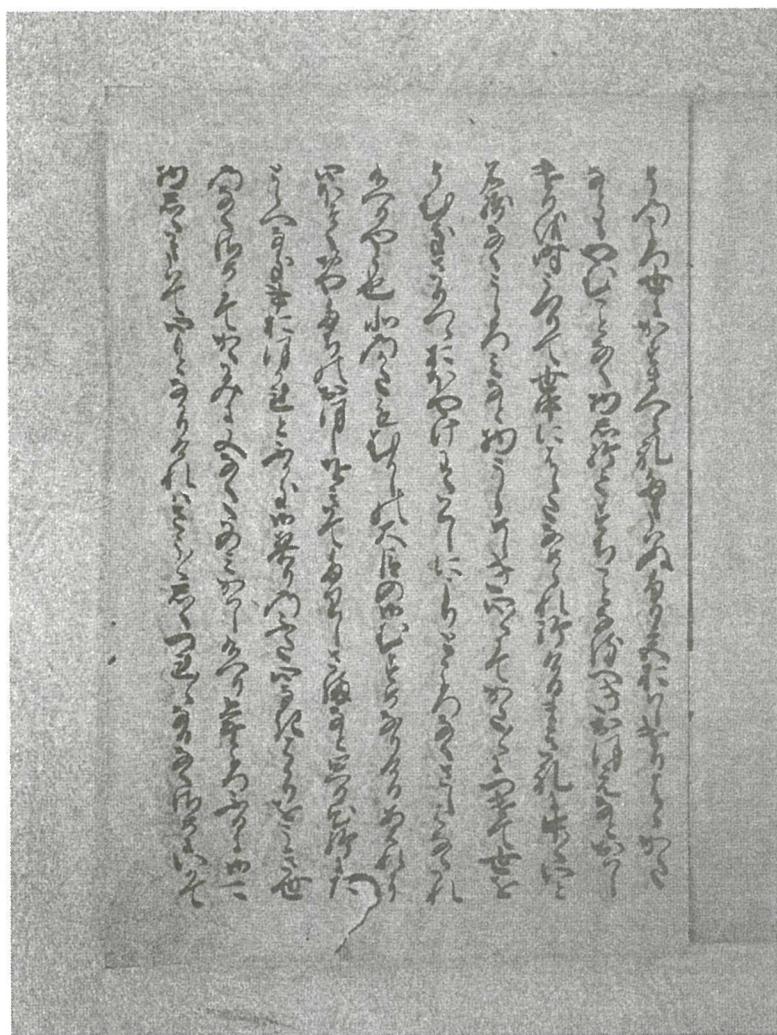
1 なべこのおどゝのかよひたまひし事  
2 をいとあはつけいやうに世人はもとく  
3 なりしかとおもひもきこえすかくて  
4 ものしたまふもさすかにさるかたに  
5 めやすかりけりさためなきの世や  
6 いつれにかよるへきなどのたまうみき  
7 のおほいとのゝさいしやうのさうしやうた  
8 いきやうの又の田ゆぶつけてこゝに  
9 まいりたまへりみやすところ里に

**31ウ**

1 おはすとおもふにいとゝごゝろけさう  
2 そひておほやけのかすまへたまう  
3 よろこひなとはなにともおほえはへらす  
4 わたくしのおもふ事かなはぬなけきのみ  
5 とし月にそておもひたまへは  
6 かけんかたなき事となみたをしのこふも  
7 ことさらめいたり二十七八のほとのじとさかり  
8 ににほひはなやかなるかたちしたまへり  
9 見くるしの君たちの世の中をこゝうの

**32オ**

1 まゝにおこりてつかさくらゐをはなにとも  
2 おもはすすくしいますからうやことのゝお  
3 はせましかはこゝなるひとゝもかゝるすさ  
4 ことにそこゝろはみたらましとうちなきた  
5 まゝ右兵衛のかみ右大弁にてみな非参  
6 議なるをうれはしとおもへりししうときこ  
7 ゆめりしそこのこふとうのちうしやうとき  
8 こゆめるよはひのほとはかたはならねど  
9 人にをくるとなけき給へり宰相はとかくつきへしく



## 1才

1 そのころ世にかすまへられたまはぬふる宮おはしけりはゝかた  
 2 などもやむことなく物し給てすちことなるへきおほえなどおはし  
 3 けるを時うつりて世中にはしたなめられ給けるまきれに中々いと  
 4 名残なくうしろみなど物うらめしき心々にてかたゞにつけて世を  
 5 そむきさりつゝおほやけわたくしによりところなくさしはなたれ  
 6 給へるやう也北のかたもむかしの大臣の御むすめなりけるあはれに  
 7 心ほそくおやたちのおほしをきてたりしさまなど思ひ出給にた  
 8 としへなき事おほかれとふかき御契りのふた心なきばかりをうき世  
 9 のなくさめにてかたみに又なくたのみかはし給へり年ごろふるに御こ  
 10 物したまはて心もとなかりければさうへしくつれへなるなくさめにいかて

## 1ウ

1 おかしからんちこもかなと富そ時めきおほしのたひけるにめつらしく  
 2 女君のいとうつくしけなるむまれ給へり是をかきりなくあはれと  
 3 思かしつききこえ給に又さしつゝきけしきはみ給て此たひは  
 4 おどこにてもなとおほしたるにおなしさまにてたひらかにはし給ながら  
 5 いといたくわづらひてうせたまひぬ富あさましうおほしまとふ  
 6 ありふるにつけてもいとはしたなくたへかたき事おほかる世なれと見  
 7 すてかたくあはれる人の御ありさま心さまにかけとゝめらるゝほたし  
 8 にてこそすくしきつれひとりとまりていとゝすさましくもあるへきかな  
 9 いはけなき人々をもひとりはくゝみたてん程かきりあるみちにてほいも  
 10 とけまほしう思給けれど見ゆつる人なくて残しとゝめむをいみしくおほし

## 2オ

1 たゆたひつゝ年月もふれはをのへへおよすけまさり給うさまかたちの  
 2 うつくしうあらまほしきを明暮の御なくさめにてをのつからそすくし給  
 3 のちにむもれ給し君をはさぶらふ人々もいてやおりふし心うくなと打  
 4 つぶやきて心にいれてもあつかひきこえさりけれとかきりのさまにて何  
 5 事もおほしわかさりし程なから是をいと心くることと思ひてたゞ此君をは  
 6 かたみに見給てあはれとおほせとはかりたゝことなん富にきこえをき給  
 7 ければさきの世の契りもつらきおりふしなれとさるへきにこそはありけめと  
 8 いまはと見えしまでいとあはれと思ひてうしろめたけにのたまひしをと  
 9 おほし出つゝ此君をしもいとかなしうしてまつり給かたちなんまことに  
 10 いとうつくしうしきまで物し給けるひめ君は心はせしつかによし

## 2ウ

1 あるかたにて見るめでなしも氣たかく心にくきさまそした  
 2 たまへるいたはしくやむことなきすちはまさりていつれをも  
 3 さまくに思かしつききこえ給へとかなはぬ事もおほく年月に  
 4 そへて宮の内物さひしくのみなりまさりさぶらひし人もたつ  
 5 きなきこゝちするにえしのひあへすつきへしたかひてまかりぢり  
 6 つゝわか君の御めのともさるさきにはかくしき人をしもえり  
 7 あへたまはさりければ程につけたる心あさゝにておさなき程を見  
 8 すてたまつりにければたゞ富そはくゝみ給さすかにひろくおも  
 9 しろき宮の池山などのけしきはかりむかしにかはらていといだうあ

れまさるをつれへとながめ給けいしなどもむねへしき人もなかりければ  
**3才**

- 1 とりつくろふもなきままで草あをやかにしけり軒のしのふそといろ
- 2 えかほにあをみわたれるおりへにつけたる花紅葉の色をも香をも
- 3 おなし心に見はやし給しにこそなくさむ事もおばかりけれどもしくさひ
- 4 しくよりつかんかたなきさまに持仏の御かさりはかりをわさせさせ給て
- 5 明暮をこなひ給かゝるほたしともにかゝつらふたに思のほかにくちおしう
- 6 我心ながらもかなはさりける契りとおぼゆるをまいてなにか世の人めいてい
- 7 まさらにとのみ年月にそべて世中をおぼしはなれつゝ心はかりをひしりに
- 8 なりはて給て此君のうせ給にしこなたはれい人のさまなる心はへなどたは
- 9 ふれにてもおぼし出たまはさりけりなどかさしもわかるゝ程のかな
- 10 しひは又世にたくひなきやうにのみこそはおぼゆへかめれとありふれば

**3ウ**

- 1 さのみやはなを世人になすら御心つかひをし給ていとかく見つる
- 2 しくたつきなき宮の内もをのつからもてなさるゝにさもやと人は
- 3 もとききこえてなにくれとつきへしくきこえたつこともるひにふれて
- 4 おほかれときこしめし入さりけり御ねんすのひまゝには此きみたちを
- 5 もてあそひやうへおよすけ給へはことならはしこうちへんつきなど
- 6 はかなき御あそひわさにつけても心はへともを見たてまつり給に
- 7 ひめ君はらうへしくふかくをもりかに見え給わか君はおほとかに
- 8 らうたけなるさまして物つゝみしたるけはひにいとうつくしうさまへ
- 9 におはす春のうらゝかなる日影に池の水鳥とものはねうち
- 10 かはしつゝをのかしゝさえつるこゑなどをつねははかなき事と見

**4才**

- 1 給しかともつかひはなれぬをうらやましくなかめ給てきみたちに
- 2 御ことともをしへきこえ給いとおかしけにちいさき御程にとりへかき
- 3 ならし給物のねどもあはれにおかしく聞ゆれば涙をうけたまひて
- 4 うちすてゝつかはざりにし水とりのかりのこの世に
- 5 たちをくれけむ心づくしなりやとめをしのこひ給かたちいときよけにおはし
- 6 ます富也年ころの御をこなひにやせほそり給にたれときてしもあてに
- 7 なまめきて君たちをかしつき給御心はへになをしのなへめるをき給てし
- 8 とけなき御さまいとはつかしけ也ひめ君御すゝりをやらひきよせて手な
- 9 らひのやうにかきませ給を是にかき給へすゝりにはかきつけざなるとて
- 10 かみたてまつり給へははちらひてかきたまふ

**4ウ**

- 1 いかでかくすたちけるそとおもふにもうき水鳥の
- 2 契りをそしるよからぬとそのおりはいとあはれなりけりてはおひ
- 3 さき見えてまたよくもつけたまはぬ程也わか君とくかき給へと
- 4 あれはいますこしおさなけにひさしくかきいて給へり
- 5 なくくもはねうちきする君なくは我そすもりに
- 6 なるへかりける御そととなへはみておまへに又人もなくいとさ
- 7 ひしくつれくけなるにさまへいとらうたけにて物し給をあは
- 8 れに心くるじういかおぼさへらむ経をかた手にもたまひてかつ

9 よみつゝさうかもし給ひめ君にひわわか君にさうの御ことを  
10 またおさなけれどつねにあはせつゝならひ給へは聞にくゝも

**5才**

1 あらでいとおかしく聞ゆちゝみかとにも女御にもとくをくれきこえ  
2 紿てはかゝしき御うしろみのとりたてたるおはせさりければさえ  
3 などふかくもえならひたまはすまいて世中にはみつく御心をきて  
4 はいかてかはしりたまはんふかき人と聞ゆる中にもあさましうあて  
5 におほとかなる女のやうにおはすればふるき世の御たから物おぼちお  
6 とゝの御そうふんなにやかやとつきすましかりけれどゆくゑもなく  
7 はかなくうせはて、御てうとなとはかりなんわさとうはしくてお  
8 ほかりけるまいりとふらひきこえ心よせたてまつる人もなしつれ  
9 つれるまゝにうたつかさの物の師ともなどやうのすたれたるをめし  
10 よせつゝはかなきあそひに心を入れておい出給へれはそのかたはいとおかしく

**5ウ**

1 すぐれ給へり源氏のおとゝの御おとうと八の富とそきこえしを冷泉  
2 院の春宮におはしましゝ時朱雀院のおほきさきのよこさまに  
3 おほしかまへて此宮を世中にたちつき給ふへくわか御時もてかしつき  
4 たてまつり給けるさはきにあひなくあなたさまの御ながらひにはさしはなれ  
5 紿にければいよくかの御つきくになりはてぬる世にてえましらひたまはす  
6 又此年ころはかゝるひしりになりはてゝいまはかきりとよろつをおほし  
7 すてたりかゝる程にすみ給宮やけにけりいとゝしき世にあさましう  
8 あへなくてうつろひすみ給ふへきところのよろしきもなかりければ宇治と  
9 いふところによしある山里もたまへりけるにわたり給ふ思すて給へる世なれ  
10 ともいまはとすみはなれなんをあはれとおほさるあしろのけはひちかく

**6才**

1 みゝかしましき川のわたりにてしつかなる思にかなはぬかたもあれと  
2 いかゝはせん花もみち水のなけれにも心やるたよりによせていとゝしくなかめ  
3 紿よりほかのことなしかくたへこもりぬる野山のすゑにもむかしの  
4 人物したまはましかいと思きこえたまはぬおりなかりけり

見し人も宿もけぶりになりにしをなにとて我身

6 きえ残りけむいけるかひなくそおほしこからるゝや山かきなれる  
7 御すみかにたつねまいる人なしあやしきけすなどゐ中ひたる山かつ  
8 とものみまれになれまいりつかうまつるみねのあさ霧はるゝおり  
9 なくてあかしくらし給に此宇治山にひしりたちたる阿闍梨すみ  
10 けりさえいとかしこくて世のおぼえもかるからねとおさゝくおほやけ事にも

**6ウ**

1 出つかへすこもりぬたるに此宮のかくちかき程にすみ給てさひしき御さま  
2 たうときわさせさせ給つゝ法文をよみならひ給へはたうとかり  
3 きこえてつねにまいる年ころまなひしり給へる事とものふかき心を  
4 とききかせたてまつりいよゝ此世のかりそめにあちきなき身を申しら  
5 すれば心はかりははちすのうへに思のほりにこりなき池にもすみぬへきを  
6 いとかくおさなき人々を見すてんうしろめたさはかりになんえひたみちに  
7 かたちをもかへぬなどへたてなく物語し給此あさりは冷泉院にもした

8 しぐさふらひて御経などをしへ聞ゆる人なりけり京に出たるついてにまいりて  
 9 れいのさるへき文など御らんしてとはせ給事ともあるついてに八の宮のいとかし  
 10 こくないけうの御さえさとりふかく物し給けるかなさるべきにてむまれ

**7才**

1 給へる人にや物し給ふらん心ふかく思すまし給へる程まことのひしり  
 2 のをきてになん見え給と聞ゆいましたかたちはかへたまはすや俗ひしり  
 3 とか此わかき人々のつけたなるあはれるなる事也などのたまはす宰相の  
 4 中将も御まへにさふらひ給て我こそ世中をはいとすさましく思しりなから  
 5 をこなひなど人めどゝめらるもはかりはつとめすくちおしくてすくしく  
 6 めれど人しれす思つゝ俗なからひしりになり給心のをきてやいかにと  
 7 みゝとゝめて聞給出家の心さしはもとより物し給へるをはかなき事に  
 8 思とゝこほりいまとなりては心くるしき女子どもの御うへをえおもひ  
 9 すてぬとなんなけきうれへ給とそうすさすかに物のねめつるあさつ  
 10 にてけにはた此ひめ君たちのことひきあはせてあそひ給へる

**7才**

1 川浪にきほひてきこえ侍れはいとおもしろくごくらく  
 2 おもひやられ侍やとこたひにめつればみかとほゝゑみ給てさる  
 3 ひしりのあたりにおひ出て此世のかたさまはだとくしからんとをし  
 4 はからるゝをおかしのことやうしるめたく思すてかたくもてわづらひ  
 5 給ふらんをもししはしもをくれん程はゆつりやはしたまはぬなどその  
 6 たまはする此院のみかとは十のみこにそおはしましける朱雀院の  
 7 こ六条院にあつけきこえし入道の宮の御ためしをおもほし出でかの  
 8 君たちもかなつれゝなるあそひかたきになどうちおほしけり中将の君  
 9 中々みこの思すまし給へらむ御心はへをたいめんして見たてまつらはやと  
 10 思ふ心そふかくなりぬるさてあさりのかへりいるにもかならずまいりて物なら

**8才**

1 い聞ゆへくまつ内々にもけしきたまはり給へなどかたらひ給みかとは御こと  
 2 つてにてあはれる御すさひを人つてにきく事などきこえ給とて  
 3 世をいとふこゝるは山にかよへともやへたつ雲を  
 4 君やへたつるあさり此御つかひをさきにたてゝかの宮にまいりぬなのめ  
 5 なるきはのさるへき人のつかひたにまれ山かけにいとめつらしく待よろこ  
 6 ひ給てところにつけたるさかななどしてさるかたにもてはやし給御返  
 7 後たえてこゝろすむとはなけれども世を宇治山に  
 8 宿をこそかれひしりのかたをはひけしてきこえなし給へれとなを  
 9 世に恨のこりけるといとおしく御らんすあさり中将の君の道心ふかけに  
 10 物し給なとかたりきこえて法文などの心えまほしき心ぎしなんいはけ  
 1 なかりしよはひよりるかく思なからえさりす世にありるる程おほやけ  
 2 わたくしにいとまなくあけくらしわさとどちこもりてならひよみ大  
 3 かたはかくしくもあらぬ身にしも世中をそむきかほならんもはゝかるへき  
 4 身にあらぬとをのつから打たゆみまきらはしへてなんすくしぐるを  
 5 いとありかたき御ありさまをうけたまはりつたへしよりふかく心  
 6 にかけてなんたのみきこえさするなどねんころに申給しなとかたり

**8才**

7 聞ゆ富世中をかりそめの事と思よりいとはしき心のつきそむる事も  
 8 我身にうれへある時なへての世をうらめしいう思しるはしめありて  
 9 なん道心もおこるわざなめるを年わかく世中おもふにかなひなに  
 10 ことあかぬ事はあらじとおぼゆる身の程にさはた後の世をさへた

## 9才

1 とりしり給ふらんかありかたきこゝにさるへきにやたゝいとひはなれ  
 2 よことことせらに仏などのすゝめおもむけ給やうなるありさまにて  
 3 をのつからこそしつかなる思かなひゆけと残りすくなきこゝ地するに  
 4 はかくしくもあらてすきぬへかめるをきしかたゆくすゑさらにえたと  
 5 るところなく思しらるゝをかへりては心はつかしけなるのりのともにこゝ  
 6 え物し給なれなどのたまひてかたみに御せうそこかよひ身つからも  
 7 まうて給けに聞しよりもあはれにすまひ給へるさまよりはしめて  
 8 いとかりなる草のいほりに思なしことそきたりおなしき山さとと  
 9 いへどさるかたにて心とまりぬへくのとやかなるもあるをいとあらま  
 10 しき水の音なみのひゝきに物わすれ打しよるなど心とけて夢

## 9ウ

1 をたに見るへき程もなげにすこく吹はらひたりひしりたちたる  
 2 御ためにはかゝるしもこそ心とまらぬもよほしならめ女君たちなにこゝ  
 3 地してすくし給ふらんよのつねの女しくなよひたるかたはとをく  
 4 やとをしさからるゝ御ありさま也仏のへたてにさうしさかりをへ  
 5 たてゝそおはすへかめるすき心あらん人はけしきはみよりて  
 6 人の御心はへをも見まほしうさすかにいかゝとゆかしうもある御け  
 7 はひ也されとさるかたを思はなるゝねかひに山ふかくたつねきこ  
 8 えたるほいなくすきくしきなをさり事を打いてあされはまむ  
 9 もことにたかひてやなと思かへして富の御ありさまのいとあは  
 10 れなるをねんころにとひらひきこえたまひたひくまいり給つゝ

## 10才

1 思いやうにうはそくなからをこなう山のふかき心法文など  
 2 わさとさかしけにはあらでいとよくのたまひしらすひしり  
 3 たつ人さえある法師などは世におほかれとあまりこはくしく  
 4 けとをけなるしうごの僧都僧正のきはは世にいとまなく  
 5 きすくにて物々の心をとひあらはさむもとくしくおぼえ給又  
 6 その人ならぬ仏の御てしのいむ事をたもつはかりのたうときは  
 7 あれとけはひいやしぐこと葉たみてこちなきに物なれたる  
 8 いと物しくてひるはおぼやけにいとまなくなとしつゝしめやかかる  
 9 よゐの程ちかき御枕かみなどにめしいれかたらひ給にもいとさすかに  
 10 物むつかしうなどのあるをいとあてに心くるしきさましてのたま  
 1 出ることの葉もおなし仏の御をしへをもみゝちかきたとひにひきませ  
 2 いとこよなくふかき御さとりにはあらねとよきは物の心をえ給かたの  
 3 いとこに物し給ければやうへ見なれてまつり給たひことにつねに  
 4 見たてまつらまほしうていとまなくなとして程ふる時は恋しうおぼえ給  
 5 此君のかくたうとかりきこえ給へれはれせい院よりもつねに御せう

## 10ウ

6 そこなどありて年ごろをとにもおさへきこえたまはすいみしく  
 7 さひしけなりし御すみかにやうへひとめ見る時もありおりふじに  
 8 とふらひきこえ給事いかめしう此君もまつさるべき事につけつゝおか  
 9 しきやうにもまめやかなるさまにも心よせつかうまつり給事みとせ  
 10 ばかりになりぬ秋のすゑつかた四季にあてゝし給御ねんぶつを此川

### 11才

1 つらはあしろの浪も此ころはいとゝみゝかしまじくしつかなならぬをとて  
 2 かのあさりのすむ寺のたうにうつろひ給て七日の程をこなひ給  
 3 ひめ君たちはいと心ほそくつれへゝまさりてなかめ給けるころ中将の  
 4 君ひさしくまいらぬかなと思ひ出しこえ給けるまゝにあり明の月  
 5 のまた夜ふかくさし出る程に出たちていとしのひて御ともに人など  
 6 もなくやつれておはしけり川のこなたなれば舟などもわづらはて  
 7 御馬にてなりけりいりもてゆくまゝに霧ふたかりてみちも見えぬ  
 8 しけ木の中をわけ給にいとあらましき風のきほひにほるゝとおち  
 9 みたるゝ木葉の露のちりかゝるもいとひやゝかに人やりならず  
 10 いたくぬれたまひぬかゝるありきなともおさへならひたまはぬこゝ地に

### 11ウ

1 心ほそくおかしくおぼされけり

2 山おろしにたへぬ木葉の露よりもあやなくもぬき

3 我涙かな山かつのおどろくもうるさしとてすいしんの音もせさせ

4 たまはす柴のまかきをわけつゝそこはかとなき水のながれとも

5 をふみしたく駒のあしをともなをしのひてどううぬし給へるにかく

6 れなき御にほひそ風にたかひてぬししらぬ香とおどろくねさめの

7 家々ありけるちかくなる程にその事とも聞わかれぬ物のねどもいとすこ

8 けに聞ゆつねにかくあそひ給と聞をついてなくてみこの御きんのね

9 の名たかきもえきかぬそかしよきおりなるへしと思つゝいり給へはひわの

10 こゑのひゝきなりけりわうしきてうにしらへてよのつねのかきあはせ

### 12オ

1 なれとところからにやみゝなれぬこゝちしてかきかべすはちのをと物きよ  
 2 けにおもしろしさうことあはれになめゝいたるこゑしてたえへきこゆ  
 3 しはし聞まほしきにしのひ給へと御けはひしるく聞つけてとのゐ人めくをのこ  
 4 なまかたくなしき出きたりしかくなんこもりおはします御せうそこをこ  
 5 きこえさせめと申なにかしかかきりある御をこなひの程をまきらはしき

6 こえさせんにあひなしかくぬれゝまいりていたつらにかへんうれへをひめ君の

7 御かたにきこえてあはれとのたまはせはなんなくさむべきとのたまへはみにく

8 きかほ打ゑみて申させ侍らんとてたつをしはしやとめしよせて年ごろ

9 人つてにのみ聞いてゆかしく思御ことのねどもをうれしきおりかなしはしすこし

10 立かくれて聞へき物のくまありやつきなくさしすきてまゝりよらむ

### 12ウ

1 程みなことやめ給てはいとほいなからんとのたまう御けはひかほかたちのさる  
 2 なほくしきこゝちにもいとめてたくかたしなくおぼゆれば人きかぬ時は明暮  
 3 かくなんあそはせとしも人にも都のかたよりまいりたちましる人侍る  
 4 時は音もせさせたまはす大かたかくて女君たちおはしますことをは

5 かくさせ給なへての人にしらせたてまつらしとおほしのたまはするなりと申  
 6 せは打わらひてあちきなき御物かくしなりしかしのひ給なれとみな人  
 7 ありかたき世のためしに聞いてかめるをとのたまひてなをしるへせよ我は  
 8 すきへしき心などなき人そかくておはしますらん御ありさまのあやしく  
 9 けになへてにおほえたまはぬなりとこまやかにのたまへはあなかしこ心なき  
 10 やうに後のきこえや侍らんとてあなたのおまへは竹のすいかひしこめてみな

**13才**

1 へたてことなるををしよせたてまつり御ともの人は西のひさしによひすべてこの  
 2 とのぬ人あひしらふあなたにかよふへかめるすいかひの戸をすこしをしあけて見た  
 3 まへは月おかしき程に霧わたれるをなかめですたれをみしかくまきあけて人々  
 4 ぬたりすのこにいときむけに身ほそくなへはめるわらはひとりおなしまなる  
 5 おとななどぬたり内なる人ひとりははしらにすこしみかくれてひわをまへに  
 6 をきてはちをてまさくりにしつゝゐたるに雲かくれたりつる月をにはかにいと  
 7 あかくさし出たれは扇ならて是しても月はまねきつへかりけりとてさし  
 8 のそきたるかほいみしくらうたけににほひやかなるへしそひふしたる人は  
 9 ことのうへにかたふきかゝりてはる日をかへすはちこそありけれさまことにも思ひ  
 10 をよひ給御心かなとて打わらひたるけはひいますこしをもりかによしつきたり

**13ウ**

1 をよはすとも是も月にはなるゝ物かはなどはかなき事を打とけのたまひかはし  
 2 たるけはひともさらによそに思やりしにはにすいとあはれになつかしうおかしむかし  
 3 物語などにかたりつたへてわかき女房などのよむをも聞にかならすかやうのことを  
 4 いひたるさしもあらさりけんとにくゝをしはからるゝをけにあはれるなる物のくまあり  
 5 ぬへき世なりけりと心うつりぬへし霧のふかけはさやかに見ゆへくもあらす又  
 6 月さし出なんとおほす程におぐのかたより人おはすとつけ聞ゆる人やあらん  
 7 すたれおろしみないりぬおとろきかほにはあらすなこやかにもてなしてやをら  
 8 かくれぬるけはひともきぬの音もせすいとなよらかに心くるしうていみしう  
 9 あてにみやひかなるをあはれと思ひ給やをら立出で京に御くるまゐて  
 10 まいるへく人はしらせつありけるさぶらひにおりあしくまいる侍にけれど

**14才**

1 中々うれしくおもふ事すこしなくさめてなんかくさむるよしきこえよ  
 2 いたうぬれにたるかこどもきこえさせむとのたまへはまいるて聞ゆ  
 3 かく見えやしぬらんとはおぼしもよらて打とけたりつる事ともを  
 4 きゝやしぬらむといみしくはつかしあやしくかうはしくにほふ  
 5 風の吹つるを思かけぬ程なればおとろかさりける心をそさよど心  
 6 もまとひてはぢおはさうす御せうそこなとつたふる人もいと  
 7 うふくしき人なめるをおりからにこそよろつ的事ともおほいてまた  
 8 霧なれはありつるみすのまへにあゆみ出でついゐ給山里ひたる  
 9 わか人ともはさしいらへんことの葉もおほえて御しとねさし出る  
 10 さまもたとへしけ也此みすのまへにははしたなく侍けりうち

**14ウ**

1 つけたあさき心はかりにてはかくもたつねまいるましき山のかけちに  
 2 おもふ給ぶるをさまことにてこそかく露けきたひをかさねてはさり  
 3 とも御らんししるらんとなんのもしう侍といとまめやかにのたまう

4 わかき人々のなたかに物聞ゆへきもなく見えかへりかゝやかしけ  
 5 なるもかたはらいだけれはをんなはらのおぐふかきをおこし出るほど  
 6 ひさしくなりてわざとめいたるもくるしうて何事も思しらぬありさま  
 7 にてしりかほにもいかゝは聞ゆへくといとよしありあてなることして  
 8 ひきいりなからほのかにのたまふかつしりなからうきをしらすかほなる  
 9 も世のさかとおもふ給へするを一ところもあまりおほめかせ給ふらんこそ  
 10 くちおしかるへけれありかたうよろつを思すましたる御すまゐなどに

### 15才

1 たくひきこえさせ給御心のうちはなし事もすゝしくをしはかられ侍れ  
 2 はなをかくしのひあまり侍ふかさあさゝの程もわかせたまほんこそは  
 3 侍らめよのつねのすきへしきすちにはおぼしめしはなつへくやさやう  
 4 のかたはわさとすゝむる人侍りともなひくへうもあらぬ心つよさに  
 5 なんをのつからきこしめしはするやうも侍なんつれくとのみすべし  
 6 侍世の物語もきこえさせところにたのみきこえさせ又世はな  
 7 れてなかめさせ給ふらん御心のまきらはしにもおどろかさせ給はかりき  
 8 こえなれ侍れはいかに思ふさまに侍らんなどおぼくのたまへは  
 9 つゝましくいらへにくゝておこしつる老人の出ぐるにそゆつり給たどし  
 10 へなくさしずくしてあなたたしけなやかたはらいたきおましのさま

### 15ウ

1 にも侍かなみすのうちにこそわかき人々は物の程しらぬやうに  
 2 侍こそなどしたゞかにいふこゑのさだすきたるもかたはらいたく  
 3 君たちはおほすいともあやしく世中にすまゐ給人の数にもあらぬ  
 4 御ありますまにてさもありぬへき人々たにとふらひかすまへきこえ給も  
 5 見えきこえすのみなりまさり侍めるにありかたき御心さじの  
 6 程は數にも侍らぬ心にもあさましきまで思給へきこえ  
 7させ侍をわかき御こゝ地にもおぼしりなからきこえさせ  
 8 給にくきにや侍らんといとつゝみなく物なれたるもなま  
 9 にくき物からけはひいたう人めきてよしあるこゑなれはいとた  
 10 つきもしらぬこゝちしつるにうれしき御けはひにこそ何事も

### 16才

1 けに思しり給けるたのみこよなかりけりとてよりゐ給へる  
 2 をきちやうのそはよりみれは明ほののやうへ物の色わかるゝ  
 3 にけにやつし給へると見ゆるかりきぬすかたのいとぬれしめり  
 4 たる程うたて此世のほかのにほひにやとあやしきまでかほりみち  
 5 たり此老人は打なきぬさしきたるつみもやと思ふ給へしのれと  
 6 あはれるむかしの御物語のいかならんついてに打出きこえさせかたはし  
 7 をもほのめかししろしめさせむと年ころねんすのついてにも打ませ  
 8 思給へわたるしるしにやうれしきおりに侍をまたきにおぼゝれはへる  
 9 涙に暮てえこそきこえさせす侍けれと打わなくけしき  
 10 まことにいみしく物かなしとおもへり大かたさたすきたる人は涙

### 16ウ

1 もろなる物とは見聞給へといとかうしもおもへるもあやしうなり  
 2 給てこゝにかくまいる事はたひかさなりぬるをかくあはれしり

3 紿へる人もなくてこそ露けきみちの程にひとりのみそぼちつ  
4 れうれしきついてなめるをことなのこい給そかしとのたまへは  
5 かかるついてしも侍らしかし又侍りとも夜のまの程しらぬいのち  
6 をたのむへきにも侍らぬをさらはたゝかるある物世に侍

7 けりとはかりしろしめされ侍らなん三條の宮に侍し小侍従ははかな  
8 くなり侍にけるとほの聞侍しそのかみむつましうおもふ給へしおなし  
9 程の人おほくうせ給にける世のすゑにはるかなるせかいよりつたはり  
10 まうてきて此五とせ六とせの程なん是にかくさくらひ侍しろし

### 17才

1 めさしかし此ごろ藤大納言と申なる御このかみの右衛門のかみにて  
2 かくれ給にしは物のついてなどにやかの御うへとてきこしめしつたはる  
3 事も侍らんすき給していくはくもへたゝらぬこゝ地のみし侍そのおり  
4 のかなしさも袖のかはくおり侍らすおもふ給へらるゝをてをおりてかそへ  
5 侍はかくおととなしくならせ給にける御よはひの程も夢のやうになんか  
6 のこ權大納言の御めのとに侍しは弁かはゝになん侍し朝夕につかうまつり  
7 なれ侍しに人数にも侍らぬ身なれと人にしらせず御心よりはたあまり  
8 ける事をおりく打かすめのたまひしをいまはかきりになり給にし御やま  
9 ひのすゑつかたにめしよせていさゝかのたまひをく事なん侍しをきこし  
10 めすへきゆへなん一こと侍れとかはかりきこえ出侍に残りをとおぼしめす

### 17ウ

1 御心侍らはのとかになんきこしめしはて侍へきわかき人々もかたはら  
2 いたくさしすきたりとつきしろひ侍めるもことほりになんとてさすかに  
3 打出すなりぬあやしく夢かたりかんなきやうの物のとはすかたりすらん  
4 やうにめつらかにおぼさるれとあはれにおぼつかなくおぼしわたる事  
5 のすちを聞ゆればいとおくゆかしけれとけに人めもしけしさしくみに  
6 ふる物語にかゝづらひて夜をあかしはてんもこちへしかるへけれとそこ  
7 はかと思わく事はなき物からいにしへの事と聞侍も物あはれに  
8 なんさらはかなりす此残りきかせ給へ霧はれぬかははしたなかる  
9 へきやつれをおもなく御らんとしかめられぬへきさまなれはおもふ  
10 給ふる心の程よりはぐちおしうなんとて立給ふにかのおはします寺

### 18才

1 の鐘のこゑかすかにきこえて霧いとぶかく立わたり峰のやへ雲  
2 おもひやるへたておぼくあはれるるになを此ひめ君たちの御心のうち  
3 とも心くるしいう何事をおぼし残すらんかくいとおくまり給へるものほり  
4 そかしとおぼゆ  
5 朝ほらけ家路も見えずたつねこしまきのを山は  
6 霧こめてけり心ぼそくも侍かなと立かへりやすらひ給へるさまを都  
7 人のめなれたるたになをいとことに思きこえたるをまいていかゝは  
8 めつらしう見さらむ御返きこえつたへにてけに思たれはれいの  
9 いとつゝましけにて  
10 雲のある峰のかけちを秋きりのいとへたつる

### 18ウ

1 ころにもあるかなすこし打なけい給へるけしきあさからすあはれ也

- 2 なにはかりおかしきふしはえぬあたりなれとけに心くるしき事おほかる  
 3 にもあかうなりゆけはさすかにひたおもてなるこゝ地して中々なる程に  
 4 うけたまはりさしつる事おほかる残りはいますこしおもなれてこそは  
 5 恨きこえさすへかめれるはかく世の人めひてもなし給へりてはおもはすに  
 6 物おぼしわかさりけりとうらめしうなんとてとの人かしつらひたる西おもて  
 7 におはしてなかめ給あしろは人さはかしけ也されとひをもよらぬにやあ  
 8 らむすさましけなるけしきなりと御どもの人々はしりていふあやしき  
 9 舟ともに柴かりつみをの／＼などなき世のいとなみともにゆきかふさま  
 10 とものはかなき水のうへにうかひたる誰もおもへはおなし事なるよのつねわ
- 19才**
- 1 さ也我はうかはす玉のうてなにしつけき身と思ふべき世かはと思つゝけらる  
 2 すゝりめしてあなたにきこえたまう  
 3 はしひめのこゝろをくみてたかせさすさほのしつくに  
 4 袖そぬれぬるなかめ給ふらんかしとてとの人にもたせ給へりさむけに  
 5 いさゝきたるかほしてもてまいる御返かみのかなとおぼるならんははつ  
 6 かしけなるをときをこそはかゝるおりはとて  
 7 7 さしかへる宇治の川をさあさゆふのしつくや袖を  
 8 くたしはつらん身さへうきてといとおかしけにかき給へりまほにめやすく  
 9 物し給けりと心とまりぬれと御ぐるまゐてまいりぬと人々さはかし  
 10 聞ゆればどのゐ人はかりをめしよせてかへりわたらせたまほとに
- 19ウ**
- 1 かならずまいるへしなとのたまふぬれたる御そともはみな此人にぬき  
 2 かけ給てとりにつかはしつる御なをしにたてまつりかへつ老人の物語心に  
 3 かゝりておほし出らる思しよりはこよなくまさりておほとかにおかしかり  
 4 つる御けはひともおもかけにそひてなを思はなれかたき世なりけりと  
 5 心よはく思しらる御文たてまつり給けさうたちてもあらすしろき  
 6 色紙のあつこえたるに筆はひきつくろひえりてすみつき見  
 7 ところありてかき給打つけなるさまにやとあひなくとゝめ侍て残り  
 8 おほかるもくるしきわざになんかたはしきこえをきつるやうにいま  
 9 よりはみすのまへも心やすくおほしゆるすべくなん御山こもりはて  
 10 侍らん日かすもうけたまはりをきていふせかりし霧のまよひも
- 20才**
- 1 はるけ侍らんなこそいとすぐよかにかき給へるうこんのそななる  
 2 人御つかひにてかの老人たつねて文もとらせよとのたまうとのゐ人か  
 3 さむけにてさまよひしなとあはれにおほしやりておほきなるひわ  
 4 りこやうの物あまたせさせ給又の日かの御寺にもたてまつり給  
 5 山こもりのそうとも此ころの嵐にはいと心ほそくくるしからんをさて  
 6 おはします程のふせ給ふへからんとおほしやりてきぬわたなどおほかり  
 7 けり御をこなひはてゝ出給あしたなりければをこなひ人ともにわた  
 8 きぬけさころもなとすてて一くたりの程つゝあるかぎり大とこたち  
 9 に給どのゐ人かのぬきすてのえんにいみしきかりの御そともえ  
 10 ならぬしろきあやの御そのなよ／＼といひしらすにほへるをうつしきて
- 20ウ**

- 1 身をはたえかへぬ物なればにつかはしからぬ袖の香を人ことにとかめ  
 2 られめでらるゝなん中々どころせかりける心にまかせて身をやすくも  
 3 ふるまはれすいとむくつけきまで人のおどろくにほひをうしなひて  
 4 はやとおもへとところせき人の御うつり香にてえもすゝきはてぬそあ  
 5 まりなるや君はひめ君の御返ことをいとめやすくこめかしきをおかしく見給  
 6 宮にもかく御せうそこありなど人々きこえさせ御らんせさすれはなにかは  
 7 けさうたちてもてないたまはんも中々うたてあらんれいのわかき人に  
 8 にぬ心はへなめるをなからん後もなこと打ほのめかしてしかはさやうにて心そと  
 9 めたらんなどのたまひけり御みつからもさまゝの御とふらひの山の岩屋にあ  
 10 まりし事などのたまへるにまうてんとおぼして三の宮のかやうにおくまい
- 21才**
- 1 たらんあたりの見まさりせんこそおかしかるへけれとあらましことにたにの  
 2 たまふ物をきこえはけまして御心さはかしたてまつらんとおぼして  
 3 のとやかなる夕暮にまいり給へりれいのさまゝなる御物語きこえかはし  
 4 給ついてにうちの宮の事がたり出て見し暁のありさまなどくはしくき  
 5 こえ給に富いとせちにおかしとおぼいたりされはよと御けしきを見て  
 6 いとゝ御心うきぬへくいひつゝけ給さてそのありけむ返ことはなど見  
 7 せたまはさりしまろならましかはと恨給さかしいとさまゝ御らんすへかめる  
 8 はしをたにみせたまはぬかのわたりはかくいともむもれたる身にひきこめて  
 9 やむへきけはひにも侍らねばかならず御らんせさせはやと思給へれど  
 10 いかてかたつねよらせ給ふへきかやすき程こそすかまほしくはいとよくすき
- 21ウ**
- 1 ぬへき世に侍けれ打かくろへつゝおほかめるかなざるかたに見ところありぬ  
 2 へき女の物おもはしき打しのひたるすみかも山里めひたるくまなとにをの  
 3 つから侍かめり此きこえさするわたりはいとよつかぬひしりさまにてこちくしゅう  
 4 そあらんと年ころ思あなつり侍てみゝをたにこそとゝめ侍らさりければ  
 5 なりし月影のみをとりせずはまほならんはやけはひありさまはたさはかり  
 6 ならんをそあらまほしき程とおほえ侍へきなときこえ給はてへはまめたちで  
 7 いとねたくおぼろけの人のかくふかくおもへるををらかならしとゆかしうおぼす事  
 8 かきりなくなりたまひぬなを又々よくけしき見給へと人をすゝめ給てかきりある  
 9 御身の程のよたけさをいとはしまで心もとなしとおぼしたれはおかしくていてや  
 10 よしなくそ侍しはし世中に心とゝめしとおもふ給ふるやうある身にてなをさり
- 22才**
- 1 こともしゝましう侍を心なからかなはぬ心つきそめなはおぼきに思ふにたかふ  
 2 べき事になん侍へきときこえ給へはいてあなことくしきひしりとは見はて  
 3 てしかなとてわらひ給心のうちにはかのふる人のほのめかしゝすち  
 4 などのいとゝ打おどろかされて物あはれるにおかしとみる  
 5 こともめやすしきくあたりもなにはかり心にもとまらさり  
 6 けり十月になりて五六日の程に宇治へまうて給あしろをこそ  
 7 此ころは御らんせめと聞ゆる人々あれとなにかはそのひをむしに  
 8 心にてあしろにもよらむとそきすて給てかるらかにあしろ  
 9 くるまにかとりのなをしさしぬきぬはせてことさらひき  
 10 給へり宮まちよろこひ給てところにつけたる御あるしなと

## 22ウ

- 1 おかしうしなし給暮ぬれはおほとなよりちかくてさきへ見  
 2 さし給へる文どものふかきなどあさりもさうしおろして  
 3 義などいはせ給打もまとろます河風のじとあらましきに木葉の  
 4 ちりかふをと水のひゝきなどあはれもすきて物おそろしく心ほそき  
 5 ところのさま也明かたちかくなりぬらむと思ふ程にありししのゝめ思ひ  
 6 出られてことのねのはれなる事ついてつくり出てさきのたひ  
 7 霧にまとはされ侍し明ほのにいとめつらしき物のね一こゑうけ  
 8 たまはりし残りなん中々にいといふかしうあかす思給へるゝ  
 9 なときこえ給色をも香をも思すてゝし後むかし聞し事も  
 10 みなわすれてなどのたまへと人めしてことゝりよせていとつきなく
- 23オ**
- 1 なりにたりやしるへする物のねにつけてなん思ひ出らるへかりける  
 2 とてひわめしてまらうとこそのかし給とりてしらへ給せりに  
 3 ほのかに聞侍しおなし物とも思ふ給へられさりける御ことのひゝき  
 4 からにやとこそ思給へしかとて心とけてもかきたてたまはす  
 5 いてあなさかなやしか御みゝとまるはかりのてなどはいつくよりか  
 6 こゝまではつたはりこんあるましき御事也とてきんかきならし給へる  
 7 いとあはれに心すこしかたへは峰の松風もてはやすなるへしいと  
 8 たとへしけにおほめき給て心はへあるて一はかりにてやめ給つこの  
 9 わたりにおほえなくておりへほのめくさうのことのねこそ心えたる  
 10 にやとぎくおり侍れと心とゝめてなどもあらてひさしうなりにけりや
- 24オ**
- 1 心にまかせてほのへかきならすへがめるは川浪よりや打  
 2 あはすらむろなう物のようにはかりのはうしなどもとまらしと  
 3 なんおぼえ侍るとてかきならし給へとあなたにきこえ給へと  
 4 思よらさりしひとりことを聞給けむたにある物をいとかたはならんと  
 5 ひきいりつゝみな聞たまはすたひへそのかしきこえ給へととかくき  
 6 こえすさひてやみたまひぬめればいとくちおしうおほゆそのついて  
 7 にもかくあやしうよかぬ思やりにてすくすありさまどもの思のほかなる  
 8 ことなはつかしうおほいたり人にたにいかでしらせしとはくゝみすくせ  
 9 とけふあすともしらぬ身の残りすくなさにさすかにゆくすゑとをき  
 10 人はおちあふれてさすらへんことは是けに世をはなれんきはの

10 あるけはひして物なときこゆこ大納言の君のよどともに

## 24ウ

- 1 物をおもひつゝやまひつきはかなくなり給にしありさまを
- 2 きこえ出てなくことかきりなしけによその人のうへ
- 3 ときかむたにあはれるへきぶる事ともをまして
- 4 年ころおほつかなくゆかじういかなりけんことはしめにかと
- 5 ほとけにもこのことをきたかにしらせ給へとねんしつる
- 6 しるしにやかくゆめのやうにあはれるむかしかたりを
- 7 おほえぬついてにきゝつけたらむとおほすになみたとゝめ
- 8 かたかりけりさてもかくその世のこゝろしたりたる人も残り
- 9 給へりけるをめつらかにもはつかしうもおぼゆることの
- 10 すちになんなをかくいひつたぶるたくひや又もあらんとし

## 25オ

- 1 ころかけてもきゝをよはさりけるとのたまへはこしうど
- 2 弁とはなちて又しる人侍らし一ことにても又こと人にうち
- 3 まねひ侍らすかく物はかなくかすならぬ身の程に侍れと
- 4 よるひるかのみかけにつきたてまつりて侍しかはをのつから
- 5 物のけしきをも見たてまつりそめしに御こゝるよりあま
- 6 りておほしけるときゝたゞふたりの中になんたまさかの
- 7 御せうそこのかよひも侍しかたはらいたければくはしくき
- 8 こえさせすいまはのとちめになり給ていさゝかのたまひ
- 9 をく事の侍しをかゝる身にはをきところなくいふせくおもひ給へ
- 10 わたりつゝいかにしてかはきこしめしつたぶへきとはかくしからぬ

## 25ウ

- 1 ねんすのついてにも思給へつるを仏はおはしましけりとなん思ひ
- 2 給へしりぬる御らんせさすへき物も侍りいまはなにかはやきも
- 3 すて侍なんかあさゆふのきえをしらぬ身のうちすて侍
- 4 なはおちゝるやもこそといとうしろめたく思給ふれと此宮
- 5 わたりにもときゝほのめかせ給をまち出たてまつりてしかは
- 6 すこしたのもしくかゝるおりもやとねんし侍るちからいて
- 7 まうてきてなんざらにこれはこのよのことにも侍らしと
- 8 なくゝこまかにむまれ給けるほどの事もよくおほえつゝ
- 9 きこゆむなしうなり給しさはきにはゝに侍し人はやかて
- 10 やまひつきてほともへすかくれ侍にしかはいとゝ思給へ

## 26オ

- 1 しつみ藤ころもたちかさねかなしきことを思給し程にとし
- 2 ころよからぬ人の心をつけたりけるか人をたはかりこちて西の
- 3 海のはてまでとりもてまかりにしかは京のことをさへ跡たえて
- 4 その人もかしこにてうせ侍にし後とゝせあまりにてなんあらぬ
- 5 世のこゝ地してまかりのほりたりしを此宮はちゝかたにつけて
- 6 わらはよりまいりかよふゆへ侍しかはいまはかう世にましらふへき
- 7 さまにも侍らぬをれせい院の女御とのゝ御かたなどこそはむか
- 8 し聞なれたてまつりしわたりにてまいりよるへく侍しかとはし

9 たなくおほえ侍てえさし出侍らてみ山かくれのくち木に  
10 なりにて侍也こしうはいつかうせ侍にけんそのかみのわかさかり

## 26ウ

1 と見侍し人は数すくなくなり侍にけるすゑの世におほぐの人に  
2 をくるゝいのちをかなしく思給へてこそさすかにめくらひ侍れなど  
3 聞ゆる程にれいの明はてぬよしさらは此むかし物がたりはつきす  
4 へうなんあらぬ又人きかぬ心やすくところにてきこえむ侍従と  
5 いひし人はほのかにおぼゆるは五むつばかりなりし程にやにはかに  
6 むねをやみてうせにきとなんきくかゝるたいめんなくはつみをもき  
7 身にてすきぬへかりける事などのたまふさゝやかにをしまき  
8 あはせたるほくどものかひくさきをふくろにぬひいれたるとり  
9 出てたてまつるおまへにどうしなはせ給へ我なをいくべくもあらすなり  
10 にたりとのたまはせてこの御文をとりあつめてたまはせたりし

## 27オ

1 かはこ侍従に又あひ見侍らんついてにさたかにつたへまいらせむと思  
2 給へしをやかてわかれ侍にしもわたくしことにあらすかなしうなん  
3 おもふ給ふ侍と聞ゆづれなくて是はかくい給つ又思みたれ給御かゆ  
4 こはいゐなどまいり給きのふはいとま日なりしをけふは内の御  
5 物いみもあきぬらん院の女一の宮なやみ給御とぶらひにかならす  
6 まいるへければかたへいとまなく侍を又このころすべして山の紅葉  
7 見ぬさきにまいるよしきこえ給かくしはへたちよらせ給ふ  
8 ひかりに山のかけもすこし物あきらむることしてなん  
9 などようこひきこえ給かへり給てまつ此ふくろを見給へは  
10 からふせんれうをぬひてうへといふ文字をうへにかきたり

## 27ウ

1 ほそきくみしてくちのかたをゆひたるにかの御名のふう  
2 つきたりあくるもおそろしうおほえ給色々のかみにて  
3 たまさかにかよひける御文の返こと五むつそあるさてはかの  
4 御手にてやまひはおもくかきりになりにたるに又ほのかにも  
5 きこえん事かたくなりぬるをゆかしうおもふ事はそひにたる  
6 御かたちもかはりておはしますらんかさまくかなしき事をみち  
7 のくにかみ五六まひにつふくとあやしき鳥のあとのやう  
8 にかきて

9 めのまへにこの世をそむくきみよりもよそにわかるゝ

10 たまそかなしき又はしにめつらしくきゝ侍二葉のほとも

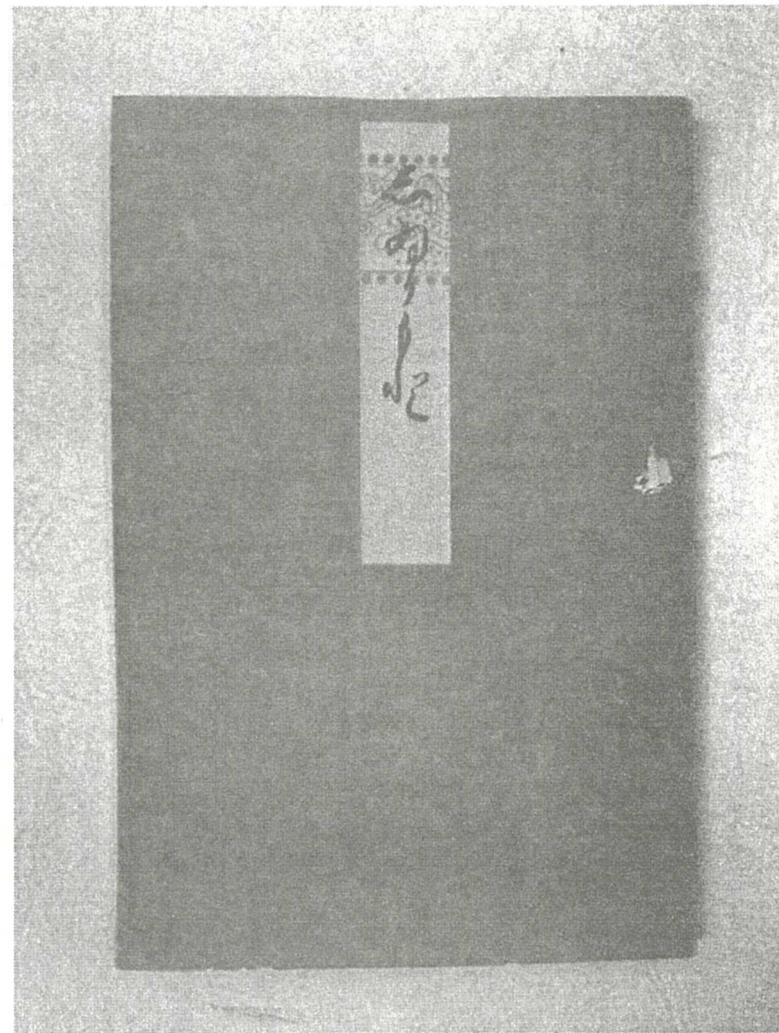
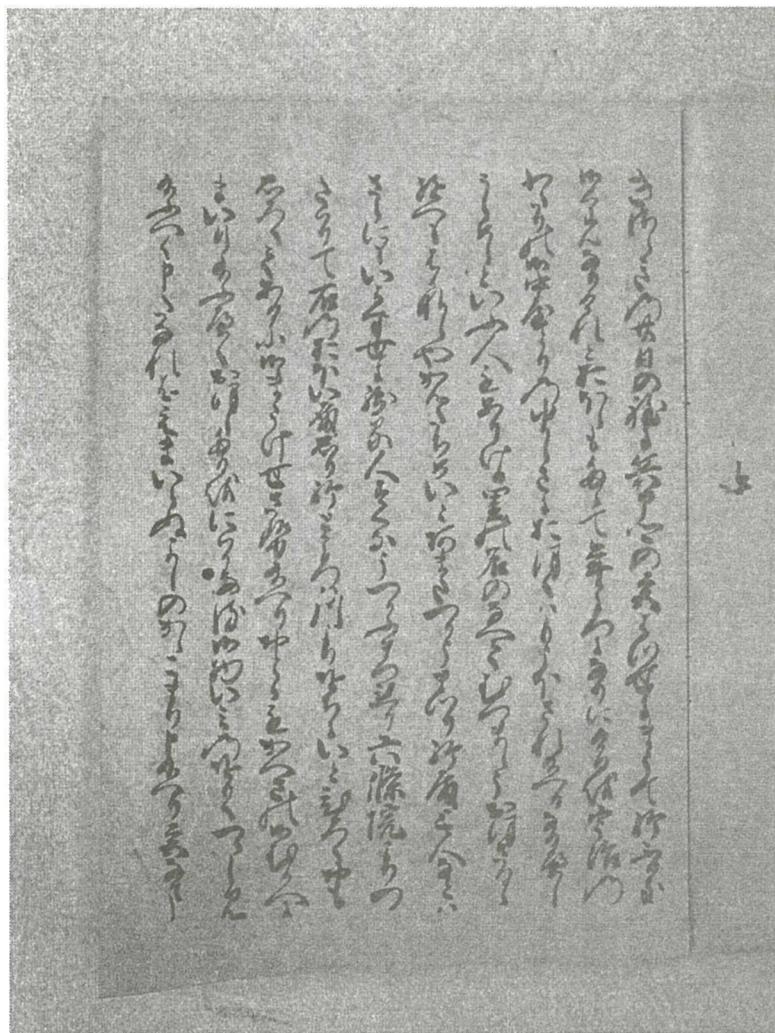
## 28オ

1 うしろめたうおもふ給ふるかたはなけれど  
2 いのちあらはそれとも見まし人しれぬ岩ねにとめし  
3 松のゆくすゑかきしたるやうにいとみたりかはしくてししうの  
4 君にとうへにはかきつけたりしみといふむしのすみかになりて  
5 ふるめきたるかひくさなから跡は見えずたゞまかき  
6 たらむにもたかはぬことの葉とものこまくとさたか  
7 なるを見給にけにおちゝりたらましよとうしひ

8 めだうごとおしき事ともなりかゝる事世に又あらむ  
9 やといへりひつにじとゝ物おもはしさせらひてうちへ  
10 ほじりんとおほじつむをいてたゞれす面のおまへんに

**28ウ**

- 1 まいりたまへれはいとなにこゝろもなくわかやか
- 2 なゐさましたまひて経よみたまふをはぢらひて
- 3 もでかくしたまへりなにかはしりだけりとも
- 4 しられたてまつらむなとこゝひにこめてよろひ
- 5 つにおもひぬたまへり



**1才**

1 きさらきの廿日（二十日）の程に兵部卿の宮はつせにまうて給ふるき  
 2 御くわんなりけれとおほしもたゝて年ころになりにけるを宇治の  
 3 わたりの御中やとりのゆかしさにおほくはもよほされ給へるなるへし  
 4 うらめしといふ人もありける里の名のなへてむつましうおほさるゝ  
 5 ゆへもはかなしやかんたちめいとあまたつかうまつり給殿上人などは  
 6 さらにもいはず世に残る人すくなうつかふまつれり六条院よりつ  
 7 たはりて右のおほい殿しり給ところは川よりをちにいとひろくおも  
 8 しろくてあるに御まうけさせさせ給へりおどゝもかへさの御むかへに  
 9 まいり給ふへくおほしたるをにはかかる御物いみのをもくつゝしみ  
 10 給ふへく申たなればえまぐらぬよしのかしこまりし給へり宮なま

**1ウ**

1 すさまじとおほしたるに宰相の中将けふの御むかへにまいりあひ  
 2 給へるに中々心やすくてかのわたりのけしきもつたへよらむと御心  
 3 ゆきぬおどゝをは打とけて見えにくゝことくゝしき物に思きこえ給へり  
 4 みこの君たち右大弁侍従の宰相權中將頭の少将ぐら人の  
 5 兵衛のすけなどみなさふらひ給みかときさきも心ことに思きこえ  
 6 給へる宮なれば大かたの御おほえもいとかきりなくまいて六条院の御  
 7 かたさまはつきくの人もみなわたくしの君に心よせつかうまつり給どころ  
 8 につけて御しつらひなどおかしうしなしてこすべくよくたきのはんともなど  
 9 とり出て心々にすきひくらし給つゝ宮はならひたまはぬ御ありきになや  
 10 ましくおほされてこゝにやすらはんの御心もふかけられは打やすみ給て

**2才**

1 タつかたに御ことなどめしてあそひ給れいのかう世はなれたるところは  
 2 水の音ももてはやして物のねすみまさるこゝ地してかのひしりの宮に  
 3 もたゝさしわたる程なればをひ風に吹くるひゝきを聞給にむかしの  
 4 ことおほし出られてふえをいとおかしくも吹とをしたるかなたれなん  
 5 むかしの六条院の御笛のねきゝしはいとおかしけにあひきやうつきたる  
 6 ねにこそ吹給しか是はすみのほりてことくゝしき氣のそひたるはちしの  
 7 おどゝの御そうのふえのねにこそにたるなれなどひとりこちおはす  
 8 あはれにひさしくなりにけりやかやうのあそひなどもせてあるにも  
 9 あらてすくしきにける年月のさすかにおほくかそへらるゝこそかひ  
 10 なけれどなどのたまうついてにもひめ君たちの御ありさまあたらしく

**2ウ**

1 かゝる山ふところにひきこめではやますもかなとおほしつゝけらるは  
 2 宰相の君のおなしうはちかきゆかりにて見まほしけなるをさしも  
 3 思よるましかめりまいていまやうの心あさからん人をはいかでかお  
 4 ほしみたれづれくとなかめ給ところは春の夜もいとあかしかたきを心  
 5 やり給へる旅ねのやどりはゑいのまきれにいととう明ぬるこゝ地して  
 6 あかすかへらんことを宮はおほすはるゝと霞わたれは空にちる桜  
 7 あれはいまひらけそむるなど色々見わたさるゝに川そひの柳の  
 8 おきふしなひく水かけなどをろかならすおかしきを見ならひたま  
 9 はぬ人はいとめつらしく見見てかたしとおほさる宰相はかゝるたよ

10 りをすくさすかの富にまうてはやとおほせとあまたの人め

### 3才

1 をよきてひとりこき出たまほんぶたわたりの程もかららかに  
 2 やと思やすらひ給程にかれより御ふみあり  
 3 山かせにかすみるきとくこゑはあれとへたてゝ見ゆる  
 4 をちのしら浪さうにいとおかしうかき給へり富おほすあたりと  
 5 見給へはいとおかしくおぼいて此御返は我せむとて  
 6 をちこちのみきはに浪はへたつともなを吹かよべ  
 7 宇治の川風中将はまうて給あそひに心いたるきんたちさせ  
 8 ひてさしやり給程かんすいらくあそひて水にのそきたるらうに  
 9 つくりおろしたるはしの心はへなとさるかたにいとおかしうゆへある富  
 10 なれば人々心して舟よりおり給こゝは又さまことに山里ひたるあしろ

### 3ウ

1 屏風などのことさらにことときて見どころある御しつらひをせる心して  
 2 かきはらひいといたうしなし給へりいにしへねなどいとになきひき物  
 3 ともをわざとまうけたるやうにはあらてつき／＼ひき出給て一こつてう  
 4 の心に桜人あそひ給あるしの富の御きんをかゝるついてにと人々思給へ  
 5 れとさうのことをそ心にもいれすおり／＼かきあはせ給みゝなれぬけにやあ  
 6 らむいと物ふかくおもしろしとわかき人々思みたりところにつけたるあるし  
 7 いとおかしうし給へりよそに思やりし程よりはなまそんわうめぐいやし  
 8 からぬ人あまたおほきみ四位のふるめきたるなとかくひとめ見るへきおりと  
 9 かねていとおかしかりきこえけるにやさるへきかきりまいりあひてへ  
 10 いしとる人もきたなけならすさるかたにふるめきてよし／＼しう

### 4才

1 もてなし給へりまらうとたちは御むすめたちのすまゐ給ふらん  
 2 御ありさまおもひやりつゝ心つく人もあるへしかの富はまいてかや  
 3 すき程ならぬ御身をさへとこらせくおほさるゝをかゝるおりにたにと  
 4 しのひかね給ておもしろき花のえたをおいせ給て御どもにわやひゆ  
 5 うへわらはのおかしきしてたてまつり給

6 山さくらにほふあたりにたひねきておなしかきしをおうてけるかな#  
 7 野をむつましみとやありけん御返はいかてかはなときこえにくうおほし  
 8 わづらふかゝるおりのことわざとかましくもてなし程のふるも中々にくきいとじ  
 9 なんし侍しなどある人とも聞ゆれば中の君にかゝせたてまつり給ふ  
 10 かさしおる花のたよりに山かつのかきねをすきぬはるのたひ人#

### 4ウ

1 野をわきてしもといとおかしけにらう／＼しくかき給へりけに川かせも心わかぬさま  
 2 に吹かよふも物のねともおもじろくあそひ給御むかへに藤大納言おほせことにて  
 3 まいり給へり人々あまたまいりつとひ物さはかしくてきほひ給へり給わかき人々は  
 4 あかすかへり見のみなんせられる富は又さるべきついてしてとおほす花さ  
 5 かりにてよもの霞もなかめやる程の見どころあるにからのもやまととの  
 6 もきかぬ也物さはかしく思ふまゝにもえいひよらすなりにしをあかす富はお  
 7 ほしてしるへなくとも御文はつねにありけり富もなをきこえ給へわさとけさう  
 8 たちてももてなし中々心ときめきにもなりぬへしいとすき給へるみこ

9 なれはかゝる人なんと聞給かなをもあらぬすさひなめりとそゝのかし給時々  
10 中の君そきこえ給ひめ君はかうやうのことたはふれにももてはなれ

### 5才

1 給へる御心ふかさ也いつとなく心ほそき御ありさまに春のつれくはいとくら  
2 しかたくなかめ給ねひまさり給御さまかたちともいよくあらまほしくおかしきも  
3 中々心くるしうかたほにもおはせましかはあたらしくおしきかたの思はうす  
4 くやあらましなと明暮おほしみたるあね君二十五中の君廿三にそなり給ける  
5 宮はをもくつゝしみ給ふへき年なりけり物心ほそくおほして御をこなひつね  
6 よりもたゆみなくし給世に心とくめたまはねは出たちいそきをのみおほすは  
7 すゝしきみちにもおもむき給ぬへきをたゞ御事ともいとくおしくかきり  
8 なき御心つよされどかならすいまはと見すてたまはん御心はみたれなんと  
9 見たてまつる人もをしはかり聞ゆるをおほすさまにはあらすともなのめに  
10 さても人きくちおしかるましう見ゆるされぬへききはの人のも心に

### 5ウ

1 うしろ見きこえんなと思より聞ゆるあらはしらすかほにてゆるしてん  
2 一どころ世にすみつき給よすかあらはそれを見ゆつるかたになく  
3 さめをくへきをきまでふかき心にたづね聞ゆる人もなしまれくは  
4 はかなきだよりにすきこときこえなどする人はまたわからしき人の  
5 心のすさみに物まうての中やとりゆきの程のなをさりことにけし  
6 きはみかけてさすかにかくなめ給ありさまなどをしはかりあなつら  
7 はしけにもてなすはめさましうてなけのいらへをたにせさせたまはす  
8 三の富そなを見てはやましとおほす御心ふかかりけるさるへきにや  
9 おはしけん宰相の中将その秋中納言になりたまひぬいとくにほひ  
10 まさり給世のいとなみにそへてもおほす事おばかりいかなる事といふ

### 6才

1 せく思わたりし年こるよりも心くるしうてすき給にけんいにしへさま  
2 のおもひやらるにつみからくなり給はかりをこなひもせまほしくなんかの  
3 老人をはあはれるなる物に恩をきていちしるきさまならすとかくまきらはし  
4 つゝ心よせとふらひ給うちまうてひさしうなりにけるを思ひ出てまいり  
5 給へり七月はかりになりにけり都にはまた入たぬ秋のけしきををとはの  
6 山ちかく風の音もいとひやかにまきの山辺もわつかに色つきてなをた  
7 つねきたるおかしうめつらしうおほゆるを宮はまいてれいよりも待よろこひ  
8 きこえて此たひは心ぼそけなる物語いとおほく申給ながらむ後此君  
9 たちをさるへき物のたよりにもとふらひ思すてぬ物にかすまへ給へなど  
10 おもむけつゝきこえ給へは一ことにてもうけたまはりをきてしかはさ

### 6ウ

1 らに思給へをこたるましくなん世中に心をとくめしとはふ  
2 き侍身にてなに事もたのもしけなきおひさきのすぐなさに  
3 なんはへれとさるかたにてもめぐらい侍らんかきりはかはらぬこ  
4 ろさしを御らんししらせむとなん思給ふるなきこえ給へはうれ  
5 しとおほいたり夜ふかき月のあきらかにさし出て山の端  
6 ちかきこゝ地するにねんすいとあはれにし給てむかし物語し給  
7 此ころの世はいかなりにたらむくちうなどてかやうなる秋の月に

8 御まへの御あそひのおりにさふらひあひたるなかに物の上手とおぼしき  
 9 かきりとり／＼に打あはせたるひやうしなこと／＼しきよりもよしありと  
 10 おぼえある女御更衣のみつほね／＼のをのかしゝはいとましく思ふ

**7 才**

1 うはへのなさけをかはすへかめるに夜ふかき程の人のけしめりぬるに  
 2 心やましくかいしらへほのかにほころひ出たる物のねなときゝところ  
 3 あるかおほかりしかな何事にも女はもてあそひのつまにしつへく物はか  
 4 なき物から人の心をうごかすくさはひになんあるべきされはつみのふかき  
 5 にやあらん此みちのやみをおもひやるにもをのこはいとしもおやの心  
 6 をみたさすやあらん女はかきりありていふかひなきかたに思すつへき  
 7 にもなをいと心くるしかるべきなど大かたのことにつけてのたまへるいかゝさ  
 8 おほざゝらむと心くるしく思やらるゝ御心のうち也すべてみつからのこと  
 9 にてはいかにも／＼ふかう思しるかたの侍らぬをけにはかなき事なれとこゑに  
 10 めつる心こそそむきかたきことに侍けれさかしうひしりたつかせそもされ

**7 ウ**

1 はやたちてまひ侍けんなときこえてあかす一こゑきゝし御ことのねを  
 2 セちにゆかしかり給へはうと／＼しからぬはしめにもとやおぼすらむ御みつから  
 3 あなたにわたり給てせちにそゝのかしきこえ給さうのことをそいと  
 4 ほのかにかきならしてやみ給ぬるいとゝ人だけはひもたえてあはれ  
 5 なる空のけしきとこのさまにわさとなき御あそひの心にいりておかしう  
 6 おほゆれと打とけてもいきてかはひきあはせたまはんのつからかはかりなら  
 7 しそめつる残りはよこもなるとちにゆづりきこえてんとて富は仏の御  
 8 まへにいりたまひぬ

9 我なくて草のいほりはあるぬどもこのひとことは

**8 才**

1 しのひかねてかたくなしきひか事おぼくもなりにけるかなとて打なき給まうりうと  
 2 いかならむ世にかかれせんなかきよのちきりむすべる  
 3 草のいほりはすまゐなとおぼやけ事ともまきれ侍ころすきて候はんなど  
 4 きこえ給こなたにてかのとはすかたりのふる人めし出で残りおぼかる物語などせ  
 5 させ給入かたの月はくまなくさしりてすきかけなまめかしきに君たちもおく  
 6 まりておはすよのつねのけさうひではあらす心ふかう物語のとやかにきこえ  
 7 つゝ物し給へはさるへき御いらへなときこえ給三の富いとゆかしうおぼいたる物をじ  
 8 心のうちには思ひ出つゝ我心なからなを人にはことなりかしさはかり御心もてゆるい給ことの  
 9 さしもしいそれぬよもてはなれてはたあるましき事とはさすかにおぼえすかやう  
 10 にて物をもきこえかはしおりふしの花紅葉につけてあはれをもなさけをもかはすに

**8 ウ**

1 にくからす物し給あたりなれはすぐせことにてほかさまにもなりたまはんはさすか  
 2 にくちおしかるへうおぼしたるこゝちしけりまた夜ふかき程にかへりたまひぬ心ほ  
 3 そく残りなけにおぼいたりし御けしきを思ひ出きこえ給つゝさはかしき程すくし  
 4 てまうてんとおぼす兵部卿の富もこの秋の程に紅葉見におはしまさんとさる  
 5 へきついしてをおぼしめくらす御文はたえすたてまつり給女はまめやかにおぼすらん  
 6 とも思たまはねはわづらはしくもあらてはかなきさまにもてなしつゝおり／＼にきい

え給秋ふかくなりゆくまゝに富はいみしう物心ほそくおほえ給ければれいのしつか  
なるところでねんぶつをもまきれなうせむとおほしてつみにわかれをのかれぬ  
わさなめれと思なくさむかたありてこそかなしさをもさます物なめれ又見ゆつる  
人もなく心ほそけなる御ありさまともを打すてゝむかいみしき事されども

## 9才

さばかりのことにさまたけられてなかき世のやみにさへまとはんかやくなさ  
をかつ見たてまつる程たに思すつる世をさりなんうしろのことしるべき事  
にはあらねと我身一にあらす過給にし御おもてふせにからくしき心とも  
つかひ給なおぼろけのよすかならて人のことも打なひき此山さとをあく  
かれ給なたゝかう人にたかひたる契りことなる身とおぼしなしてこゝに  
世をつくしてんと思とり給へひたふるに思ひしなせはことにもあらすすき  
ぬる年月なりけりまして女はさるかたにたへこもりていちしるくいとおし  
けなるよそのもときおはさらむなんよかるへきなどのたまうともかくとも  
身のならんやうまではおぼしもなかされすたゝいかにしてかをくれたてま  
つりては世にかた時もなからふへきとおほすにかく心ほそきさまの御あら

## 9ウ

まし事にいふかたなき御心まとひともになん心のうちにこそ思すて給へらめ  
と明暮御かたはらにならはい給てにはかにわかれたまほんはつらき御  
心ならねとけにうらめしかるへき御ありさまになんありけるあすいりた  
まほんとての日はれいならすこなたかなたたゞみありき給て  
見給いと物はかなくかりそめのやどりにてすくい給けるすまゐのあり  
さまをなからん後いかにしてかはわかき人のたへこもりてはすくいたまほん  
と涙くみつゝねんすし給さまいときよけ也おとなひたる人々めし出でうし  
ろやすくつかうまつれ何事ももとよりかやすく世にきこえあるましき  
きはの人はすゑのおとろへもつねの事にてまきれぬへかめりかゝるきはに  
なりぬれば人はなにとおもはさらめとくちおしうてさすらへん契り

## 10才

かたしけないとおしき事なんおほかるへき物さひしく心ほそき世をふるは  
れいの事也むまれたる家の程をきてのまゝにもてなしたらんきゝ  
みゝにも我こゝ地にもあやまちなくおぼゆへきにきはくしく  
人數めかんとおもふとその心にもかなふましきよとなはゆめく  
からくしくよからぬかたにもてなしきこゆななどのたまふまた晩に  
出給とてもこなたにわたり給てながらむ程心ほそくなおほしわひそ  
心はかりはやりてあそひなとはし給へ何ことも思ふにもかなふましき  
世をおほしいれそなとかへり見かちにて出たまひぬ二ところいと  
心ほそく物おもひつゝけられておきふし打かたらひつゝひとりく  
なからましかはいかてあかしくらさまいまゆくすゑもさためなき

## 10ウ

世にてもしわかるゝやうもあらはなどなくさみわらひみたはふれこと  
もまめこともおなし心にくさめかはらてすぐし給かのをこなひ給  
三昧けふはてぬらんといつしかと待ちこえ給夕暮に人まいりて  
けさよりなやましうてなんえまいらぬかせかとてとかくつくるふと  
物する程になんざるはれいよりもたいめん心もとなきをときこえ給へり

- 6 むねつぶれていかなるにかとおほしなけき御そともわたあつくていそき。  
 7 せさせ給てたてまつれなどし給一三日はおもたまはすいかにくと人  
 8 たてまつり給へどことおどろくしくはあらすそこはかとなぐくるしへ  
 9 なんすこしもよろしくならはいまねんしてなとこと葉にてきこえ  
 10 給あさりつゝせからひてつかうまつりけめはかなき御なやみとみゆれと
- 11オ**
- 1 かきりのたひにもおはしますらん君たちの御事なにかおほしなげくへき  
 2 人はみな御すぐせといふ物ことくなれば御心にもかゝるへきにもおはし  
 3 まさすといよへおほしはなるへき事をきこえしらせつゝいまさらにな  
 4 出給そといさめ申なりけり八月廿日の程なりけり大かたの空のけ  
 5 しきもいとしきころ君たちはあさゆふ霧のはるゝまもなくおほし  
 6 なけきつゝなかめ給あり明の月のいと花やかにさし出て水のおもてもさやか  
 7 にすみたるをそなたのしとみあけさせて見いたし給へるにかねの  
 8 こゑかすかにひきてあけぬなりと聞ゆる程に人々きてこの  
 9 夜なかはかりになんうせ給ぬるとなく申すと心にかけていかにとは  
 10 たえすおもひきこえ給へれと打きゝ給にはあさましく物おほえぬ
- 11ウ**
- 1 こゝちしていどゝかゝる事には涙もいつちかいにけんたうつふしへ  
 2 給へりいみしき事もみるめのまへにておほつかなからぬこそつねの  
 3 ことなれおほつかなさそひておほしなげく事ことはり也しさしにても  
 4 をくれたてまつりて世にあるへき物とおほしならはぬ御こゝちとも  
 5 にていかてかはをくれしとなきしつみ給へとかきりあるみち  
 6 なりければなにのかひなしあさり年ころ契りをき給けるまゝに  
 7 後の御事もよろつにつかうまつるなき人になり給へらむ御さま  
 8 かたちをたにいま一たひ見たてまつらんとおほしのたまとべと  
 9 いまさらになてうさることか侍へき田じるも又あひ見給まし  
 10 きことをきこえしらせつれはいまはましてかたみに御心とゝめ
- 12オ**
- 1 給ましき御心つかひをならひ給ふへきなりとのみ聞ゆおはしましける  
 2 御ありさまを聞給にもあさりのあまりさかしきひしり心をにく  
 3 つらしとなんおほしける入道の御ほいはむかしよりふかくおはせし  
 4 かとかう見ゆつる人なき御事ともの見すてかたきをいけるかきり  
 5 はあけくれえさらす見たてまつるをよに心ほそきよのなくさめ  
 6 にもおほしはなれかたくてすくい給へるをかきりあるみちには  
 7 さきたち給もしたひ給御心もかなはぬわざなり中納言殿には  
 8 きゝ給ていどあへなくくちおしへいま一たひ心のとかにてきこゆ  
 9 へかりける事おぼう残りたるこゝちして大かたの世のありさま  
 10 思ひつゝけられていみしうない給又あひ見る事かたくやなどのた
- 12ウ**
- 1 まいしをなをつねの御心にもあさゆふのへたてしらぬ世のはか  
 2 なさき人よりけにおもひ給へりしかはみゝなれてきのふけふと  
 3 おもはさりけるを返々あかすかなしくおほさるあさりのもと  
 4 にもきんたちの御とふらひもこまやかにきこえ給かゝる御とみゆれ

5 など又をとつれ聞ゆる人たになき御ありさまなるは物おほえぬ  
 6 御こゝちともに年ころの御心はへのあはれなめりしなどをも思ひしり  
 7 給よのつねの程のわかれたにさしあたりては又たくひなきやう  
 8 にのみみな人の思まとふ物なめるをなくさむかたなけなる御身とも  
 9 にていかやうなるこゝちともし給ふらんとおほしやりつゝのちの御わさ  
 10 などあるへき事ともをしばりてあさりにもとふらひ給こゝにも老人

### 13才

1 ともにことよせて御す経などのこともおもひやりきこえたま  
 2 うあけぬ夜のこゝ地ながら九月にもなりぬ野山の気しきまし  
 3 て袖の時雨をもよほしかちにともすればあらそひおつる木の葉の  
 4 をとも水のひゝきもなみたのたきもひとつ物のやうに  
 5 くれまとひてかうてはいきてかかきりあらん御いのちもしはし  
 6 めぐらひたまはんとさぶらる人々は心ほそくいみしくなくさめきこえ  
 7 つゝ思まとふこゝにもねんふつのそうさぶらひておはしましゝかた  
 8 は仏をかたみに見たてまつりつゝとき／＼まいりつかうまつりし  
 9 人々の御いみにとまりたるかきりはあはれにをこなひてすぐす  
 10 兵部卿の富よりもたひ／＼とふらひきこえ給さやうの御かへり

### 13ウ

1 なときこえんこゝ地もしたまはすおほつかなけれは中納言にはかうも  
 2 あらさなるを我をはなを思はなち給へるなめりとうらめしくお  
 3 ほす紅葉のさかりに文なとづくらせたまはんとて出たち  
 4 給しをかく此わたりの御せうえうひなきころなれはおほ  
 5 しとまりてくちおしくなん御いみもはてぬかきりあれは涙も  
 6 ひまもやとおほしやりていとおほくかきつゝけ給へる時雨  
 7 かちなるゆふつかた

8 をしかなく秋の山さといかならむこはきか露のかゝる夕暮#  
 9 たゞいまの空のけしきをおほししらぬかほならんもあり心  
 10 つきなくこそあるへけれかれゆく野へもわきてながめらるゝころに

### 14才

1 なんなどあるけにいとあまり思じらぬやうにてたひ／＼になり  
 2 ぬるをなをきこえ給へなと中の君をもれいのそゝのかして  
 3 かゝせたてまつり給けふまでなからへすゝりなとちかくひき  
 4 よせて見るへき物とやは思ひし心うくもすきにける日かすかな  
 5 とおほすに又かきくもり物見えぬこゝちし給へはをしやりて  
 6 なをえこそかき侍ましけれやう／＼かうおきるられなどし侍る  
 7 けにかかりありけるにこそとおほゆるもうとましう心うくてと  
 8 らうたけなるさまになきしほれておはするもいと心くるし  
 9 夕くれの程よりきける御つかひよゐすこしすきてそ來たる  
 10 いかでかへりまいらんこよひは旅ねしてといはせ給へとたちかへり

### 14ウ

1 こそまいりなめといそけはいとおしうて我さかしう思しつめ給ふ  
 2 にはあらねと見わづらひ給て  
 3 なみたのみ霧ふたかれる山さとはまかきにしかそもそもこゑになぐ#

4 くろきかみによるのすみつきもたとくしけれはひきつくな  
 5 ところもなく筆にまかせてをしつゝみていたし給つ御つかひはこは  
 6 たの山の程も雨もよにいとおそろしけなれときやうの物おちす  
 7 ましきをやえり出給けむむつかしけなるさゝのくまを駒ひきとゝむる  
 8 程もなく打はやめてかた時にまいりつきぬ御まへにめしていたくぬれて  
 9 まいりたれはろく給さきへ御らんせしにはあらぬ手のいますこしおと  
 10 なひまさりてよじつきたるかきさまなどをいつれかいつれならんと打も

**15才**

1 をかす御らんしつゝとみにもおほとのこもらねはまつとておきおはしまし  
 2 又御らんする程のひさしきはいかはかり御心にしむ事ならんと御まへなる人々  
 3 さゝめききこえてにくみ聞ゆねふたけれはなめりまたあさきり  
 4 ふかきあしたにいそきおきてたてまつり給

5 朝きりにともまとはせる鹿のねをおほかたにやは

6 あはれともきくもろこゑはをとるましうこととあれとあまりなさけ  
 7 たゞもうるさし一ところの御影にかくろへたるをたのみどころ  
 8 にてこそ何事も心やすくてすぐしつれ心よりほかになからへておもはす  
 9 なる事のまぎれつゆにてもあらはうしろめたけにのみおほしきへ  
 10 めりしなき御ためにさへきすやつけたてまつらんとなへていとつゝましう

**15才**

1 おそろしうてきこえたまはす此宮などをはかららかにをしなへて  
 2 のさまにも思きこえたまはすなけのはしりかい給へる筆つかひ  
 3 ことの葉もおかしきさまになまめき給へる御けはひをあまたは見  
 4 しりたまはねと是こそはめてたきなめれと見給なからそのゆへへ  
 5 しくなさけあるかたにことをませきこえんもつきなき身のありさま  
 6 なれはなにかたゞかゝる山ふしたちですべしてんとおほす中納言  
 7 殿の御返はかりはかれよりもまめやかなるさまにきこえ給へは是より  
 8 もいとけうとけにはあらすきこえかよひ給御いみはてゝみづから  
 9 まうて給へりひんかしのひさしのくたりたるかたにやつれておは  
 10 するにちかうたちより給てふる人めし出たりやみにまとひた

**16才**

1 まへる御あたりにいとまはゆくにほひみちていりおはしたれば  
 2 かたはらいたうて御いらへなどをたにえしたまはねはかやうには  
 3 もてないたまはてむかしの御心むけにしたかひきこえたまはん  
 4 さまならんこそきこえうけたまはるかひあるへけれなよひ氣しき  
 5 はみたるふるまひをならひ侍らねは人つてにきこえ侍らはことの  
 6 葉もつゝき侍らすとあれはあさましういまゝてなからへはへるやう  
 7 なれとおもひなくさむかたなきゆめにまとはれ侍てなん心より  
 8 ほかに空のひかり見侍らむもつゝましうてはしちかうもえ  
 9 みしろき侍らぬときこえ給ふへければことゝいへはかきりなき  
 10 御こゝろのふかさになん月日の影は御心もてはれくしくもて

**16才**

1 出させたまはゝこそみも侍らめゆくかたもなくいふせうおほ  
 2 え侍り又おほざるらんはしへをもあきらめきこえまほしくなん

3 と申給へはけにこそいとたくひなけなめる御ありさまをなく  
 4 さめきこえ給御心はへのあさからぬ程など人々きこえしら  
 5 す御こゝちにもさこそいへやうへ心しつまりてよろつ思しられ  
 6 給へはむかしさまにてもかうまではるけき野辺をわけ入給へる心  
 7 さしなとも思しり給へすこしゆさりより給へりおほすらむ  
 8 さま又のたまふ契りし事などいとこまやかになつかしういひて  
 9 うたてをおしき氣はひなとは見えたまはぬ人なれば氣うどく  
 10 すゝろはしくなとはあらねどしらぬ人にかくこゑきかせたてまつり

### 17才

1 すゝろにたのみかほなることなどもありける日ころを思つゝくるも  
 2 さすかにくるしうてつゝましけれとほのかに一ことなどいらへきこえ給  
 3 さまのけによろつ思はれ給へるけはひなれはいとあはれと聞たてま  
 4 つり給くろききちやうのすきかけのいとくるしけなるにまして  
 5 おはすらんさまほの見し明暮などもおもひてられて  
 6 色かはる袖を見てもすみそめにやつるゝそてを  
 7 おもひこそやれとひとりことのやうにのたまへは  
 8 色かはる袖をは露のやとりにて我身そざらに  
 9 をきどころなきはつるゝいとはとすゑはいひけちていといみしくしの  
 10 ひかたきけはひにてりたまひぬなりひきとゝめなどすへき程にも

### 17ウ

1 あらねはあかすあはれにおほゆ老人そこよなき御かはりに出きてむか  
 2 しいまをかきあつめかなしき御物語とも聞ゆるありかたくあさましき  
 3 事ともを見たる人なりければかうあやしくおどろへたる人  
 4 ともおほしすてられすいとなつかしうかたらひ給いはけなかりし  
 5 程にこ院にをくれたてまつりていみしうかなしき物ば世なりけりと  
 6 思しりにしかは人となりゆくよはひにそへてつかさくらぬ世中の  
 7 にほひもなにもおほえすなんたゝかうしつやかなる御すまひなどの  
 8 心にかなひ給へりしをかくはかなく見なしたてまつりなしつるにいよ／＼  
 9 いみしくかりそめの世の思しらるゝ心ももよほされにたれど心くる  
 10 しうてとまり給へる御事とものほたしなどきこえむはかけく／＼しき

### 18才

1 やうなれとなからべてもかの御事あやまたすきこえうけたまらはらま  
 2 まほしさになんざるはおほえなき御ふる物語きゝしよりいとゝ世中に跡とめん  
 3 ともおほえすなりにたりやと打なけきつゝのたまへは此人はましていみしく  
 4 なきてえもきこえやらす御けはひなどのたゝそれかとおほえ給に年ころ  
 5 打わすれたりつりにしへの御事をさへとりかさねできこえやらんかたも  
 6 なくおほえれぬたり此人はかの大納言のめのここにてちゝは此ひめ君たち  
 7 のはゝ北のかたのをち左中弁にてうせにけるか子なりけり年ころをき国  
 8 にあくかれはゝ君もうせ給て後かの殿にはうとくなり此宮にはたつねどり  
 9 てあらせ給なりけり人もいとやむことながらす宮つかへなれにたれどこゝ地なか  
 10 らぬ物に宮もおほしてひめ君たちの御うしろみたつ人になし給へる

### 18ウ

1 なりけりむかしの御事は年ころかくあさゆふに見たてまつりなれ心へたゞる

2 くまなく思きこゆる君たちにも一こと打出きこゆるついてなくしの  
 3 かこめたりけれど中納言の君はふる人のとはすかたりみなれいのこと  
 4 なれをしなへてあはくしうなどはいひひろけすともいとはつかし  
 5 けなめる御心ともには聞をき給へらむかしとをしさからるゝかねたく  
 6 もいとおしくもおほゆるにそ又もてはなれではやましと思よらるゝ  
 7 つまにもなりぬへきいまは旅ねもそゝるなるこゝちしてかへり給に  
 8 もこれやかきりのなどのたまひしをなとかさしもやはと打たのみで  
 9 又見てまつらすなりにけん秋やはかはれるあまたの日かすもへた  
 10 てぬ程におはしにけんかたもしらすあへなきわさなりやことにれいの

**19才**

1 人めいたる御しつらひなくいとこそき給めりしかといと物きよけに  
 2 かきはらひあたりおかしくもてない給へりし御すまゐもたいとこたちいで  
 3 いりこなたかなたひきへたてつゝ御ねんすのくともなとそかはらぬさま  
 4 なれとほとけはみなかの寺にうつしたてまつりてんとすと聞ゆるを聞  
 5 紿にもかゝるさまの人かけなとさへたえはてん程とまりて思給ぶらん御こゝ地  
 6 ともをくみきこえ給もいとむねいたうおほしつゝけらるいたくくれ  
 7 侍りぬと申せはなかめさしてたち給に雁なきてわたる

8 秋きりのはれぬ雲ゐにいとゝしくこの世をかりと  
 9 いひしらすらむ兵部卿の宮にたいめんし給時はまつ此君たちの御事  
 10 をあつかひ草にし給いまはさりとも心やすきをとおほして宮はねむ

**19ウ**

1 ころにきこえ給けりはかなき御返もきこえにくゝつゝましきかたに  
 2 女かたはおほいたりよにいといたうすき給へる御名のひろこりてこのま  
 3 しくえんにおほさるへかめるもかういとうつもれたるむくらのしたよりさし  
 4 出たらむてつきもいかにうふくしくあるめきたらむなと思くんし給へり  
 5 さてあさましうてあけくらむるは月日なりけりかくたのみかたかりけ  
 6 る御世をきのふけふとはおもはてたゝ大かたさためなきはかなさはかりを  
 7 明くれの事にきゝ見しかと我も人もをくれさきたつ程しもやはへんなど  
 8 打おもひけるよきしかたを思つゝくるもなにのたのもしけなる世にもあら  
 9 さりければたゝいつとなくのとかになかめすべし物おそろしくつゝましき  
 10 こともなくてべつる物を風の音もあらゝかにれい見ぬ人かけも打つれ

**20才**

1 こはづぐれはまつむねつぶれて物おそろしくわひしうおほゆる事  
 2 さへそひにたるかいみしうたへかたき事と二ところ打かたらひつゝほすよな  
 3 くてすくし給に年も暮にけり雪あられふりしくころはいつくもかく  
 4 こそはある風の音なれといまはしめて思いりたらむ山すみのこゝ地し  
 5 給をんなはらなとあはれとしはかはりなんとす心ほそくかなしきことをあら  
 6 たまるへき春まち出でしかなと心をけたすいふもありかたき事かなと  
 7 きゝ給むかひの山にも時々の御ねんふつにこもり給しゆへこそ人も  
 8 まいりかよひしかあさりもいかゝと大かたにまれにをとつれ聞ゆれといまは  
 9 なににかはほのめきまいらんじとゝ人めのたえはつるもさるへき事と思ひ  
 10 ながらかなしくなんにとも見さりし山かつもおはしまさて後玉さかに

1 さしのそきまじるはめつらしくおもほえ給此ころの事とてたきゝこのみ  
 2 ひろひてまいる山人ともありあさりのむろより炭などやう物たて  
 3 まつるとて年ころにならひ侍にける富つかへのいまはとてたえ侍らんか  
 4 心ほそきになんときこえたりかならず冬こもる山かせふせきつ  
 5 へきわたきぬなとつかはしゝをおほし出てやり給法師はらわらは  
 6 へなどのほりゆくも見えみ見えすみいと雪ふかきをなくくたち出で  
 7 見をくり給御くしなどおろい給ふてけるさるかたにておはしまさまし  
 8 かはかやうにかよひまいる人もをのつからしけからましいかにあはれに  
 9 心ほそくともあひ見たてまつる事たえてやまましやはなどかたら  
 10 ひたまう

## 21才

君なくて岩のかけみちたえしより松の雪をも  
 1 なにとかは見る中の宮  
 2 おく山の松葉につむる雪とたにきえにし人を  
 3 おもはましかはうらやましくそ又もふりそふや中納言のきみ  
 4 あたらしき年はふとしもえとふらひきこえさんとおぼして  
 5 おはしたり雪もいとところせきによろしき人たに見えすなりに  
 6 たるをなのめならぬけはひしてかららかに物し給へる心はへのあさふは  
 7 あらす思しられ給へはれいよりは見いれておましなとひきつくるは  
 8 せ給すみそめならぬ御ひをけものゝおくなるとり出でぢりかき  
 9 はらひなどするにつけても富の侍よろこひ給し御けしきなどを

## 21ウ

1 人々もきこえいつたいめし給事をはつゝましくのみおぼいたれど  
 2 思くまなきやうに人の思給へはいかゝせんとてきこえ給うちとく  
 3 とはなけれとさきくよりはすこしことの葉つゝけて物などのたまへる  
 4 さまいとめやすく心はつかしけ也かやうにてのみはえすべしはつましと  
 5 おもひなり給もいと打つけなる心かななをうつりぬへき世なりけりと  
 6 思ひぬたまへり富のいとあやしくうらみ給ことの侍かなあはれなりし  
 7 御一ことをうけたまはりをきしさまなとことのついてにもやらしき  
 8 こえたりけんまたいとくまなき御心のさかにてをしはかり給にや侍らむ  
 9 こゝになんともかくもきこえさせなすへきとたのむをつれなき御けしき  
 10 なるはもてそこなひ聞ゆるそとたひくえんし給へは心よりほかなる事と

## 22才

1 里のしるへいとこよなうもえあらかひきこえぬをなにかはいとさしも  
 2 もてなしきこえ給ふらんすい給へるさまに人はきこえなすへかれれと心の  
 3 そこあやしくふかうおはする富也なをさり事などのたまふわたりの  
 4 心かるうてなひきやすなるなどをめつらしからぬ物に思おどし  
 5 給にやとなんきくことも侍るなに事にもあるにしたかひて心を  
 6 たつるかたもなくおとけたる人こそたゝ世のもてなしにしたかひて  
 7 とあるもかゝるものために見なしすこしこゝにたかふふしある  
 8 にもいかゝはせむざるへきそなども思なすべがめれば中々心なかき  
 9 ためしになるやうもありくつれそめではたつたの川のにこる名  
 10 をもけかしいふかひなく名残なきやうなることなどもみなうち

## 22ウ

ましるめれこゝろ物ふかくしみ給ふへかめる御こゝろさまにかなひ  
 ことにそむく事おほくなと物したまはざらむをはざらにからく  
 しくはしめをはりたかうやうなる事など見せ給ふましきけし  
 きになん人のみたてまつりしみぬことをじとよう見きこえたるを  
 もしにつかはしくさもやとおほしよりはそのもてなしなどはこゝろの  
 かきりつくしてつかうまつりなんかし御なかみちの程みたりあしこそ  
 いたからめとまめやかにていひつゝけ給へは我みつからの事とはおほしも  
 かけす人のおやめきていらへんかしとおほしめくらし給へとなをいふ  
 べきことの葉もなきこゝ地していかにとかはかけくしけにのたまひ  
 つゝぐるに中々きこえんこともおぼえ侍らてと打わらひ給ぐるもお

## 23オ

いらかなる物から氣はひおかしうきこゆかならす御みつからきこじ  
 めしおふへき事ともおもふ給へすそれは雪をふみわけてまいり  
 きたるこゝろさしさはかりを御らんしわかん御このかみ心にてもすべ  
 させ給てよかしかの御こゝろよせは又ことにそ侍へかめるほのかに  
 のたまふさまも侍めりしをいさやそれも人のわききこえかたき  
 ことなり御返などはいつかたにかはきこえ給ふとひ申給にようそた  
 はふれにもきこえさりけるなにとなけれとかうのたまふにもいかに  
 はつかしうむねつふれましとおもふにえこたへやりたまはす  
 雪ふかき山のかけはし君ならてまたふみかよる

## 23ウ

跡を見ぬかなとがきてさし出給へは御物あらかひこそ中々

## 24オ

こゝろをかれはへりぬへけれとて  
 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

1 暮はてなは雪いとゝ空もとちぬへう侍りと御どもの人々こは  
 つくれはかへり給なんとて心くるしう見めくらさるゝ御すまゐの  
 さまなりやたゝ山さとのやうにじとしつかなるところの人も  
 ゆきましらぬさま侍をさもおほしけはいかにうれしくも侍らむ  
 などのたまふもいとめてたかるへきことかなどたみにきゝてうち  
 煙む女房のあるを中の富はいと見るしういかにさやうには  
 あるへきそと見きゝぬ給へり御くた物よしあるさまにてまひ  
 御どもの人々にもさかなとめやすき程にてかはらけさし  
 出させ給けりかの御うつりかもてさはかれしとのゐ人そ

10 かつらひととかくつらつき心つきなくてあるはかなの御たの  
**24ウ**

- 1 もし人やと見給てめし出たりいかにそおはしまさてのち心
- 2 ほそからんななどひ給打ひそみつゝ心よはけになく世中に
- 3 たのむよるへも侍らぬ身にて一ところの御かけにかくれて三十
- 4 よねんをすくし侍にければいまはまして野山にましり侍らん
- 5 もいかなる木のもとをかたのむへく侍らむと申ていどゝ人
- 6 わろけ也おはしましゝかたあけさせ給へはぢりいたうつもりて
- 7 仮のみそ花さかりおとろへすをこなひ給けりとみゆる御ゆかなと
- 8 とりやりてかきはらひたりほいをもとけはと契りきこえしこと思ひ出で
- 9 立よらむかけとたのみししゐかもとむなしきこと
- 10 なりにける哉とてはしらによりゐ給へるをわかき人々はのそき

**25オ**

- 1 てめてたてまつる日暮ぬれはちかきどころくにみさうなどつかう
- 2 まつる人々にみま草とりにやりける君もしりたまはぬにゐ中ひたる
- 3 人々おどろくしくひきつれまいりたるをあやしうはしたなきわさ
- 4 かなど御らんすれと老人にまきらはし給つ大かたかやうにつかうまつる
- 5 へくおほせをきて出たまひぬ年かはりぬれは空のけしきうらゝ
- 6 かなるみきはのこぼりとけわたるをかうまでなからへけるもありかたく
- 7 もとなかめ給ひしりのはうより雪きえにつみて侍なりとてさわの
- 8 せりわらひなどたてまつりたりいもゐの御たいにまいれるところに
- 9 つけてはかゝる草木のけしきにしたかひてゆきかふ月日のしるしも
- 10 見ゆることおかしけれなど人々のいふをなにのおかしきならんときゝたまふ

**25ウ**

君かおるみねのわらひと見ましかはしられやせまし

2 はるのしるしも

- 1 雪ふかきみきはのこせりたかためにつみかはやさむ
- 2 おやなしにしてなどはかなき事ともを打かたらひつゝあけくらし給中納言
- 3 殿よりも宮よりもおりすくさすとふらひきこえ給うるさくなことになき
- 4 ことおほかるやうなれはれいのかきもらしたるなめり花さかりのころ宮かさし
- 5 をおほし出てそのおり見きゝ給し君たちなどもいとゆへありしみこの御すまゐ
- 6 を又も見すなりにし事など大かたのあはれをくちへ聞ゆるにいとゆかしうおほ
- 7 されけり
- 8 つてに見しやとりの桜をこの春はかすみへたてす

**26オ**

- 1 おりてかさゝむと心をやりてのたまへりけりあるましき事かなと見給なから
- 2 いとつれくなる程に見ところある御文のうはへはかりをもてけたしとて
- 3 いつくとかたつねておらむすみそめに霞こめたる
- 4 宿の桜をなをかくさしはなちつれなき御しきのみ見ゆればまことに
- 5 心さしとおほしわたる御心にあまり給てはたゝ中納言をとさまかうさま
- 6 にせめ恨きこそ給へはおかしと思なからいとうけはりたるうしろみかほに
- 7 打いらへきこえてあためいたる御心さまを見あらはす時々はいかてかかゝらむ
- 8 にはなど申給へは宮も心つかひし給へし心にかなふあたりをまた見つけぬ

9 程そやとのたまふおほい殿の六の君をおほしいれぬ事なまうらめしけに  
 10 おとゝもおほしたりけりされとゆかしけなきながらひなるうちにもおとゝの

## 26ウ

1 ことへしくわづらはしくてなに事のまきれをも見とかめられんかむつかしき  
 2 としたにはのたまひてすまゐ給その年三条の宮やけて入  
 3 道の宮も六条院にうつろひ給なにくれど物さはかしきにまき  
 4 れて宇治のわたりをひさしう音つれきこえたまはすまめやかなる  
 5 人の御心は又いことなりければいどのとかにをのか物とは打たのみながら女の  
 6 心ゆるいたまはさんかきりはあされはみなせなきさまに見えしと  
 7 思つゝむかしの御心わすれぬかたをふかく見しり給へとおぼすその年つね  
 8 よりもあつさを人わふるに川つらすゝしからむはやと思ひ出でにはかに  
 9 まうて給へりあさすみの程に出給ければあやにくにきしくる日影もまは  
 10 ゆくて宮のおはせし西のひさしにとのぬ人めし出でおはすそなたのもや

## 27オ

1 の仏の御まへに君たち物し給けるをけちかからしとてわか御かたにわたり  
 2 給御けはひしのひたれとをのつから打みしろき給程ちかうきこえければなを  
 3 あらしにこなたにかよふさうしのはしのかたにかけかねしたるところにあなたのす  
 4 こしあきたるを見をき給へりければとにたてたる屏風をひきやりて見給  
 5 こゝもとにきちやうをそへてたてたる安くちおしと思ひてひきかへるおり  
 6 しも風のすたれをいたう吹あくへかめればあらはにもこそあれそのみき  
 7 ちやうをし出てこそといふ人なりをこかましき物のうれしうて見給へは  
 8 たかきもみしかきもきちやうをふたまのすみにをしよせて此さうし  
 9 にむかひてあきたるさうしよりあなたにとをからんとなりけり  
 10 まつひとり立出できちやうよりさしのそきて此御どもの人々のとがう

## 27ウ

1 ゆきちかひすゝみあへるを見給なりけりこきにひ色のひとへにくわんさう  
 2 のはかまのもてはやしたる中々さまかはりて花やかなりと見ゆるは  
 3 きなし給へる人からなめりおひはかにけにしなしてすゝひきかくし  
 4 てもたまへりいとそひやかにやうたいおかしけなる人のかみうちきに  
 5 すこしたえぬ程ならむと見えてすゑまでちりのまよひなくつやく  
 6 とたちたうづくしけなりかたはらめなどあならうたけと見え  
 7 てにほひやかにやはらかにおほときたるけはひ女一の宮もかう  
 8 さまにそおもはすべきとほの見たてまつりしも思へらへられて  
 9 打なけかる又いさり出てかのさうしはあらはにもあれと見  
 10 をこせ給へるようゐ打とけたらぬさましてよしあらんとおほゆ

## 28オ

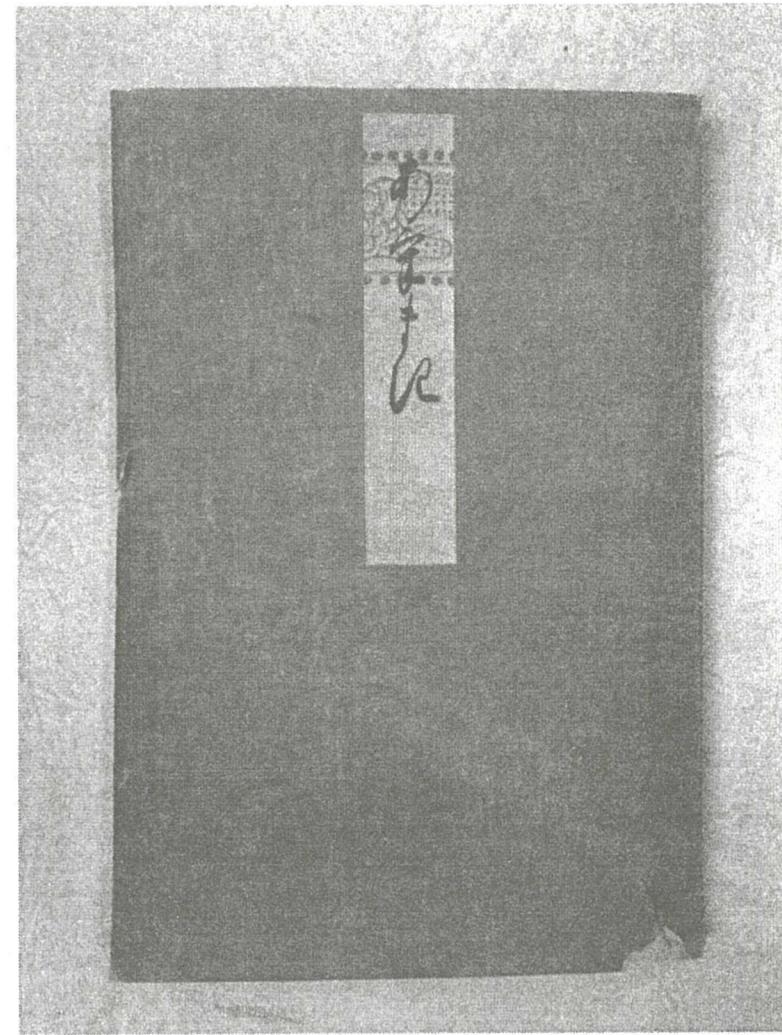
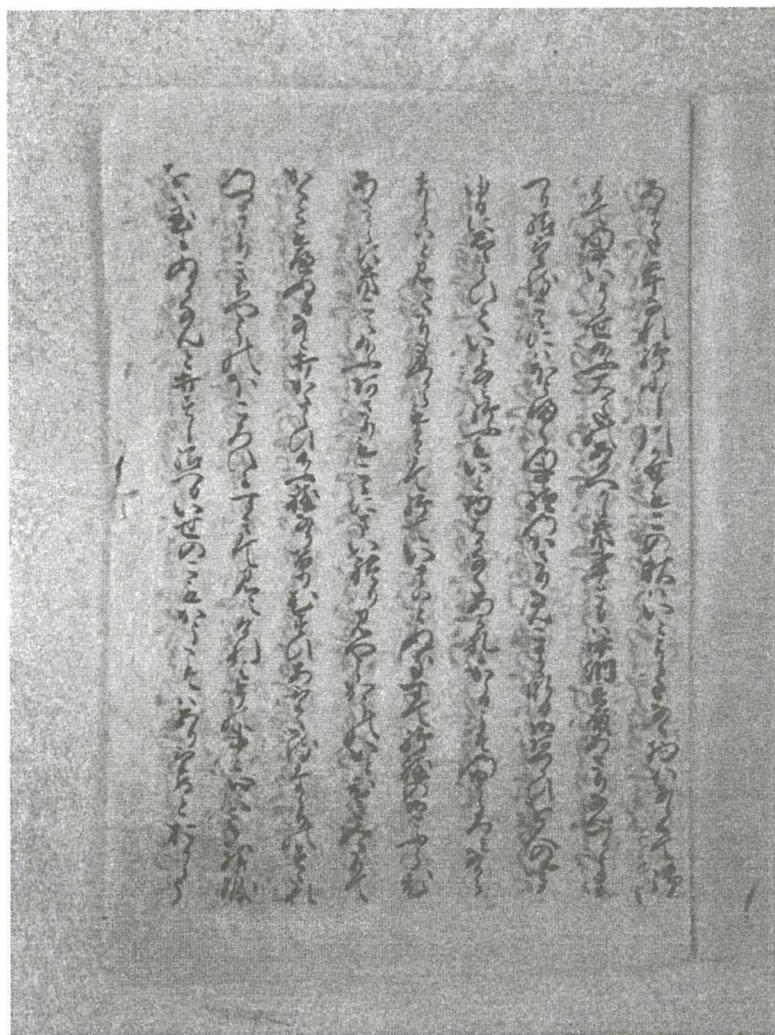
1 かしらつきかんさしの程いますこしあてになまめかしままさり  
 2 たりあなたに屏風もそへてたて侍つゝそきてしものそきた  
 3 まはしとわかき人々など心なくいふありいみしうもあるへきわさ  
 4 かなとてうしろめたけにいさりいり給程氣たかう心にくきけは  
 5 いそひて見ゆくろきあはせ一かさねおなじやうなるいろあひを  
 6 き給へれとこれはなつかしうなまめきてあはれけにこゝろ  
 7 くるしうおほゆかみさはらかなるほどにおちたるなるへし

8 すゑすこしほそりていろなりとかいふめるひすいたちて  
9 いとたかしけにいとをよりかけたるやうなりむらさきのかみ  
10 にかきたる経をかたてにもち給へるてつきかれよりもほそ

**28ウ**

- 1 さまさりてやせくくなるへしだたりつる君もさうし
- 2 くちにみてなに事にかあらむこなたを見をこせて
- 3 わらひだるいとあいきやうつきたり

總角



## 1才

1 あまた年なれ給にし川かせもこの秋はいとはしたなく物かなしくて御  
 2 はての事いそかせ給ふ大かたのあるへかしき事ともは中納言殿あさりなんつかうま  
 3 つり給けるこゝにはほうぶくの事経のかさりなんこまかなる御あつかひを人の聞  
 4 ゆるにしたかひていとなみ給ふもいと物はかなくあはれにかゝるよその御うしろみながら  
 5 ましかはと見えたり身つからもまうて給ていまはとぬきすて給程の御とふらひ  
 6 あさからすきこえ給るあさりもこゝにまいれりみやうかうのいとひきみたりて  
 7 かくてもへねるなど打かたらひ給ふ程なりけりむすひあけたるたゞりのすたれ  
 8 のつまよりきちやうのほころひにすきて見えければその事と心えて我涙  
 9 をは玉にぬかなんと打すし給へるいせのこもかうこそはありけめとおかしう

## 1ウ

1 聞ゆるもうちの人はきゝしりかほにさしいらへたまはんもつゝましうて物とは  
 2 なしにとかつらゆきか此世なからわかれをたに心ほそきすちにひきかけんを  
 3 なとけにふることそ人の心をのふるたよりなりけるを思ひ出給ふ御くわんもん  
 4 つくり経仏くやうせらるへき心はへなと書き出給へるすゝりのついてにまらうと  
 5 あけまきになかき契りをむすひこめおなしどころに  
 6 よりもあへなんとかきて見たてまつり給へはれいのどうるされれば  
 7 ぬきもあへすもろき涙のたまのをになかき契りを  
 8 いかゝむすはんとあればあはすはなにをとうらめしけになかめ給ふみつから  
 9 の御うへはかくそこはかとなくもてけちてはつかしけなるにすかくともえ

## 2オ

1 のたまひよらて宮の御事をそまめやかにきこえ給さしも御心に入ましき事を  
 2 かやうのかたにすこすゝみ給へる御本上にてきこえそめ給けんまけし玉  
 3 しゐにやとさまかうさまにいとようなん御氣しきを見たてまつるまことに  
 4 うしろめたうはあるましけなるをなとかうあなかちにしももではなれ給ふらむ  
 5 世のありさまなどおぼしにくましくは見たてまつらぬをうたてとをくしくのみもて  
 6 なさせ給へはかはかりうらなくたのみ聞ゆる心にたかひてうらめしくなんともかくもおぼし  
 7 わくらんさまをさはやかにうけたまはりにしかなどいとまめたちてきこえたまへは  
 8 たかへきこえしの心にてこそはかうまであやしき世のためしなるありさまにてへたて  
 9 なくもてなし侍それをおぼしわかざることはあさい事もましりたるこゝちすれけに

## 2ウ

1 かゝるすまゐなと心あらん人は思のこす事はあるましきを何事にもをくれそめ  
 2 にけるうちに此のたまうめるすちはいにしへもさらにかけてとあらはかくはなと行  
 3 すゑのあらまし事とどりませてのたまひをく事もなかりしかはなをかゝるさまにて  
 4 ょつきたるかたを思たゆへくおぼしをきてけるとなん思あはせ侍ははとも  
 5 かうもきこえむかたなくてさるはすこし世こもりたる程にてふかき山かくれには  
 6 心くるしう見え給人の御うへをいとかく朽木にはなしはてすもかなと人しれす  
 7 あつかはしくおぼえ侍れといかなるべき世にかあらんと打なげきて物おもひみたれ給  
 8 ける程のけはひいとあはれけ也けさやかにおとなひてもいかてかはさかしかり  
 9 たまはんことはりにてれいのふる人めし出てそかたらひ給ふ年ころはたゞ後の

## 3オ

1 世さまの心はへてすゝみまいりそめしを物心ほそけにおぼしなるめりし御すゑのこ  
 2 をひ此御事ともを心にまかせてなし聞ゆへくんのたまひ契りてしまおぼし

3 をきてたてまつり給し御ありさまともにはたかひて御心はへとものいとくあやにくに  
4 物つよけなるはいかにおほしきつるかたの事なるにやとうたかはしき事さへそひてなん  
5 をのつから聞つたへ給やうもあらんいとあやしき本上にて世中に心をしむるかたな  
6 かりつるをさるへきにやかうまでもきこえなれにけんよ人もやうくいひなすやうあへ  
7 かめるにおなしうはむかしの御こともたかへきこえす我も人もよのつねに心とけてきこえ  
8 かよはくやと思よるはつきなかるべき事にもさやうなるためしなくやはあるなどのたまひ  
9 つゝけて富の御事をもかう聞ゆるにうしろめたうはあらしと打とけ給さまならぬは内々に

### 3ウ

1 さりともおもほしむけたる事のさまあらんをいかにくと打なかめつゝのたまへはれいの  
2 わかひたる女房などはかゝる事はにくきさかしらもいひませて事よかりなども  
3 するをいとさはあらす心のうちにはあらまほしかるべき御事ともをとおもへともとより  
4 かく人にたかひ給へる御すべせともに侍ればにやいかにもくよのつねになにやかや  
5 なと思より給へる御気しきになん侍らぬかくてさふらふこれかれも年ころ  
6 たになにのたのもしけある木のもとのかくろへも侍らさりき身をしてかたく  
7 思ふかきりは程くにつけてまかてぢりむかしのふるきすちなる人もおほく見  
8 たてまつりしてたるあたりにましていまはしはしも立とまりかたけにわひ侍つゝ  
9 おはしましゝ世にこそかきりありてかたほならん御ありさまはいとおしくも

### 4オ

1 などこたいなる御うるはしきもおほしもどゝこほりついまはかうまた  
2 たのみなき御身ともにていかにもく世になひき給へらんをあなちに  
3 そしりきこえむ人はかへりて物の心もしらすいふかひなき事にてこそは  
4 あらめいかなる人かいとかうて世をほすこじはて給ふへき松の葉をすきて  
5 つとむる山ふしたにいける身のすてかたさによりてこそ仮の御をしへをもみちく  
6 にわかれてをこなひなすなれなどやうのよからぬ事をきこえしらせわかき  
7 御心ともみたれ侍りぬへき事おぼく侍るめれとたはむべくも物したまはす中  
8 の富をなんいかて人目かしうもあつかひなじたてまつらんと思きこえ給へるめる  
9 かう山ふかうたつねきこえさせ給ふめる御心さしの年へて見たてまつりなれ

### 4ウ

1 給へるけはひもうとからす思きこえさせ給ふいまはとおまかうさまにこまかなる  
2 すぢにきこえかよひ給ふめるにかの御かたをさやうにおもむけてきこえたまはしと  
3 なんおほすへかめる富の御文など侍めるはさらにまめくしき御事ならしと侍る  
4 めると聞ゆれあはれる御一ことを聞をきてまつりにしかは露のようにかゝづら  
5 はんかきりはきこえかよはんの心あはれはいつかたも見えたてまつらんおなし事なるへき  
6 をさまではたおほしよるなどうれしき事なれど心のひくがたなんかはかりと思すつる世に  
7 なをとまりぬへき物なりければあらためてさはえ思なすましくなんよのつねに  
8 なよひがなるすらにもあらすやたゝかやうに物へたてゝことのこいたるさまならず  
9 さしむかひてとにかくにさためなき世の物語をへたてなくきこえてつゝみ給ふ御心

### 5オ

1 のくまのこらすもてなしたまはんなむうれしかるべきはらからなどのさやうに  
2 むつましき程なるもなくていとさうくしきなん世中の思ふ事あはれにもおかしう  
3 もうれはしくも時につけたるありさまを心にこめてのみすへる身なれはさすかにたつき  
4 なくおほゆるにうとかるましうたのみ聞ゆるきさいの富はたなれくしきさやう  
5 にそこはかとなき思のまゝなるぐたへしさをきこえあるへきにもあらす

6 三条の宮はおやとおもひ聞ゆへきにもあらぬ御わかくしまなれとかきり  
 7 あれはたやすくなれきこえさせかしそのほかの女はすべていと  
 8 うとくつゝましくおそろしくおぼえて心からよるへなく心ほそき也なを  
 9 さりのすさひまでもけさうたちたる事はいとまはゆくありつかす

### 5 ウ

1 はしたなきにちゅくしさにてまいて心にしめたるかたの事は打出る事も  
 2 かたくてうらめしうもいふせくも思きこゆるけしきをたに見えだてまつら  
 3 ぬこそ我ながらかきりなくかたくなしきわざなれ宮の御事をもさり  
 4 ともあしさまにはきこえしとまかてやは見たまはぬなどいひみ給へり老人はた  
 5 かはかり心ほそきにあらまほしけなる御ありさまをいとせちにさもあらせたて  
 6 まつらはやとおもへといつかたもはつかしけなる御ありさまともなれは思のまゝ  
 7 にはえきこえすこよひはとまり給て物かたりなどのとやかにきこえ  
 8 まほしうてやすらひくらし給つあさやかならす物うらみかちなる御けし  
 9 きやうくわりなうなりゆくはわづらはしうて打とけてきこえたまはん

### 6 オ

1 こともしよ／＼くるしけれと大かたにてはありかたうあはれる人の御心なれば  
 2 こよなうももてなしかたうてたいめんし給ふ仏のおはするなかの戸をあけて  
 3 みあかしの火けさやかにかゝけさせてすたれに屏風をそへてそおはする  
 4 とにもおほとのあぶらまいらすれとなやましうてむらぬなるをあらはになど  
 5 いさめてかたはらるし給へり御くた物などわざとなくしるしてまいらせ給へり  
 6 御どもの人々にもゆへ／＼しきさかななどして出させ給へりらうめいたるかたに  
 7 あつまりて此御まへは人氣とをくもてなしてしめ／＼と物語きこえ給打とけ  
 8 へうもあらぬ物からなつかしけにあひきやうつきて物のたまへるさまのなの  
 9 めならす心に入て思入らるゝもはかなしかく程もなき物のへたてはかりを

### 7 オ

1 さはりところでおほつかなう思つゝすぐす心をそさのあまりをこかま  
 2 しうもあるかなと思つゝけられるれどつれなくて大かたの世中の事ともあはれにも  
 3 おかしうもさま／＼きゝところおほくかたらひきこえ給ふうちには人々ちかうなど  
 4 のたまひをきつれとさしももてはなれたまはさらなんとおもふへかめれはいとしも  
 5 まもりきこえすさししそきつゝみなよりふして仏の御ともし火もかゝくる人もなし  
 6 物むつかしうてしのひて人めせとおどろかすこゝちのかきみたりなやましう侍を  
 7 ためらひて暁かたにも又きこえむとて入給なんとする氣しき也山路わけ侍  
 8 つる人はましていとくるしけれとかうきこえうけたまはるになくさめてこそはへれ  
 9 打すてゝいらせ給なはいと心ほそからんとて屏風をやをらをしあけて入たまひぬ

9 たつねくる人もあるましかはさてややみなましいかにくちおしきわざなら

### 7 ウ

1 ましひきしかたの心のやすらひさへあやうくおほえ給へといふかひなくうしとおも  
2 ひてなき給ふ御氣しきのいとおしければかくはあらてをのつから心ゆるひし給ふ  
3 おりもありなんと思わたるわりなきやうなるも心くるしうてさまようこじらへ  
4 きこえ給かゝる御心の程を思よらてあやしきまできこえなれにたるをゆへしき  
5 袖の色など見あらはし給心あさゝにみつからのいふかひなさも思しらるゝにせまへ  
6 なくさむかたなくとうらみてなに心もなくやつれ給へるすみそめのほかけいと  
7 はしたなうわひしと思まとひ給へりいとかうしもおほさるゝやうこそははつ  
8 かしきにきこえむかたなし袖の色をひきかけさせ給ふはしもことはり  
9 なれと心御らんしなれぬる心きしのしるしにはさはかりのいみをくべくいまはし

### 8 オ

1 めたる事めきてやはおほさるへき中々なる御わきまへ心になんとてかの物  
2 のね聞し在明の月影よりはしめておりくの思ふ心のしのひかたくなり行さまを  
3 いとおほくきこえ給にはつかしうもありけるかなどうとましうかゝる心はへなか  
4 らつれなくまめたち給けるかなときゝ給ふ事おばかり御かたはらなるみしかき  
5 きちやうを仏の御かたにさしへたてゝかりそめにそひふし給へりみやうかうのいと  
6 かうはしくにほひしきみのいと花やかにかほれるけはひも人よりはけに仏をも思ひ  
7 きこえ給へる御心にてわつらはしうすみそめのいまさらにおりふし心いらけれどさまに  
8 あはへへしう思そめしにたかうへければかゝるいみなからん程に此御心にもさりとも  
9 すこしたはみたまはんとせめてのとがに思なし給ふ秋の夜のけはひはかゝらぬ

### 8 ウ

1 ところだにをのつからあはれおほかるをましてみねの嵐もまかきの虫も心ほそ  
2 けにのみ聞わたるつねなき世の御物語に時々さしいらへ給へるさまいと見どころ  
3 おほく日やすしいきたなかりつる人々はかうなりけりと気しきとりてみなりりぬ  
4 宮ののたまひしさまなどおほし出るにけになからへは心のほかにかくあるましき事も  
5 見るへきわざにこそはと物のみかなしうて水の音になかれそふこゝちし給ふ  
6 はかなく明かたになりにけり御どもの人々おきてこはつくり馬ともいはゆる音も  
7 旅のやとりのありさまなど人のかかるおほしやられておかしうおほさるひかり見え  
8 つるかたのさうしををし明給て空のあはれるをもうともに見給ふ女もすこしいさり  
9 出給へるに程もなき軒のちかさなれはしのふの露もやうへひかり見えもてゆく

### 9 オ

1 かたみにいとえんなるさまかたちともをなにとはなくてたゞかやうに月をも花をも  
2 おなし心にもてあそひはかなき世のありさまをもきこえあはせてなんすくさまほし  
3 きといとなつかしきさましてかたらひきこえ給へはやうへおそろしさもなくさみて  
4 かういとはしたなからて物へたてゝなどきこえはまことに心のへたてはさらにある  
5 ましくなんといらへ給ふあかうなりゆきむら鳥の立さまよふ羽風ちかうきこゆ  
6 夜ふかき朝の鐘のをとかすかにひゝくいまたにいと見くるしきをといとわりなう  
7 はつかしけにおぼしたりことありかほに朝露もえわけ侍るましまた人はいかゝをし  
8 はかり聞ゆへきれいのやうにならかにもてなさせてたゞよにたかひたる事にて  
9 いまより後もたゞかやうにしなさせ給ふてよ世にうしろめたき心はあらじとおほせ  
1 かはかりあなかちなる心の程もあはれとおほししらぬこそかひなけれ

### 9 ウ

とて出たまほんのけしきもなしあさましうかたはならんとおほしていまより後は  
 されはこそもてなしたまほんまゝにあらん今朝は又聞ゆるにしたかひ給へかしと  
 いとすへなしとおほしたれはあなるしや曉の別はまたしらぬ事にてけにまとひ  
 ぬへきをとなけきかち也庭鳥もいつかたにかあらんほのかに音なふに京思ひ出らる  
 山さとのあはれじひるゝこゑへにとりあつめたる

あさほらけかなをんな

鳥のねもきこえぬ山とおもひしを世のうき事は

たつねきにけりさうしくちまでをくりたてまつり給てよへ入にし戸くち

### 10才

1 より出てふし給へれとまどろまれす名こり恋しくていとかうおもはましかは月  
 2 ころもいまゝて心のとかならましやなどかへらん事物うくおほえ給ふひめ君は  
 3 人の思ふらむ事のつゝましきにとみにも打ふされたまはてたのもしき人なくて  
 4 世をすくす身の心うきをある人ともゝよからぬ事なにやかやとつきくにしたかひ  
 5 つゝいひほめるに心よりほかの事ありぬへきよなんめりとおほしめくらすには此人  
 6 の御けはひありさまのうとましくはあるましうご富もさやうなる心はへあらはとおり  
 7 おりのたまひおぼすめりしかとみつからはなをかくてすくしてん我よりはさまかたち  
 8 もさかりにあたらしけなる中の富を人なみくに見なしたらんこそうれしからめ人のうへに  
 9 なしては心のいたらむかきり思ひうしろみてんみつからのうへのもてなしはまたたれか

### 10才

1 見あつかはん此人の御さまのなめに打まぎれたる程なはかく見なれぬる年ころ  
 2 のしるしに打ゆるふ心もありぬへきをはつかしけに見えにくき気しきも中々いみしう  
 3 つゝましきに我世はかくてすくしはてんと思つゝけてねなきかちにあかし給へるに  
 4 なこりいとなやましければ中の富のふし給へるおくのかたにそひふし給ふれいならす  
 5 人のさゝめきし気しきもあやしと此富はおほしつゝね給へるにかくておはしたれは  
 6 うれしうて御そひきゝせたてまつり給にところせき御うつり香のまきるへうも  
 7 あらすくゆりかほるこゝちすれはとのぬ人もてあつかひけん思あはせられてまこと  
 8 なるへしといとおしうてねぬるやうにて物ものたまはすまううとは弁の思ひ  
 9 よひ出てこまかにかたらひをき御せうそこすべくしうきこゑをきて出

### 11才

1 たまひぬあけまきをたはふれにとりなしゝも心もてひろはかりの  
 2 へたてにてもたいめんしるとや此君もおほすらんといみしうはつかし  
 3 ければこゝ地あしとてなやみくらし給ふつひとゝ口はのこりなり侍りぬ  
 4 はかくしゅはかなき事をたに又つかうまつるもなきにおりあしき御なやみ  
 5 かなと聞ゆ中の富くみなとしはて給てこゝろはなとえこそ思より侍ら  
 6 ねとせめてきこえ給へはくらうなりぬるまきれにおき給てもろともに  
 7 むすひなとし給ふ中納言殿より御文あれと今朝よりいとなやましうなん  
 8 とて入つてにそきこえ給ふさも見くるしうわかくしゅおはすと人々つ  
 9 ふやき聞ゆ御ふくなとはてゝぬきすて給へるにつけてもかたときも

### 11才

1 をくれたてまつらん物とおもはざりしをはかなくすきける月日の程を  
 2 おほすにいみしう思のほかなる身のうさとなきしつみ給へる御さまどもい  
 3 と心くるしけ也月ころくろうならはし給へる御すかたうすにひにていとな  
 4 まめかしうてうつくしけなるにほひまさり給へる御くしなとすましつくろ

5 はせて見たてまつり給によの物おもひわするゝこゝちしてめてたければ  
 6 入しれす思ふさまにかよひて人に見えたまはんにさりともちかをとりして  
 7 はおもほすやあらんとたのもしううれしうていまは又見ゆつる人もなくて  
 8 おや心にかしつきたてゝ見きこえ給ふかの人はつゝみきこえ給し藤  
 9 衣もあらため給つらん長月もしつ心なくてまたおはしたりれいのやうに

## 12才

1 きこえむとまた御せうそこあるに心あやまりしてわづらはしうおぼゆれば  
 2 とかうきこえすさひてたいめんしたまはす思のほかに心うき御心かな人も  
 3 いかに思ふらんと御文にてきこえ給へりいまはとてぬきすて侍し程のこゝろ  
 4 まとひに中々しつみ侍てなんえきこえぬとありうらみわひてれいの人  
 5 めしてよろつにのたまう世にしらぬ心ほそさのなくさめに此君をのみたのみ  
 6 きこえたる人々なれは思ひにかなひ給てよのつねのすみかにうつろひなど  
 7 したまほんをいとめてたかるべき事にいひあはせてたはいれたてまつらんと  
 8 みなかたらひあはせけりひめ君その気しきをはふかう見しりたまはねと  
 9 かうとりわきて人めかしなつけ給ふめるに打とけてうしるめたき心もやあらん

## 12才

1 むかし物かたりにも心もてやはどある事もかゝる事もあめる打とくましき  
 2 人の心にこそあめれと思より給てせめてうらみふかうは此君をしいてん  
 3 をとりさまならんにてたにさても見そめてはあさはかにはもてなすましき  
 4 心なめるをましてほのかにも見そめてはなくさみなんことに出てはいかてかは  
 5 ふとさる事を待とる人のあらんほいになんあらぬとうけひく氣しきのなかん  
 6 なるはかたへは人のおもほん事をあひなうあさきかたにやなどつゝみ給ならむと  
 7 おぼしかまふるを気しきたにしらせたまはすはつみもやえむと身をつみ  
 8 ていとおしけれはよろつに打かたらひてむかしの御おもむけも世中をかう  
 9 心ほそうてすくしはつとも中々人わらへにからくしき心つかうなどのた

## 13才

1 まひをきしをおはせし世の御ほたしにてをこなひの御心をみたりしつみたに  
 2 いみしかりけんをいまはとてさばかりのたまひし一ことをたにたかへしと思侍  
 3 れは心ほそくなどもことにおもほぬを此人々のあやしき心こはき物にくむめる  
 4 こそいとわりなけれけにさのみさやうの物とすくしたまほんもあけぐるゝ  
 5 月日にそへても御事をのみこそあたらしう心くるしうかなしき物に思きこ  
 6 ゆるを君たによのつねにもてなし給てかゝる身のありさまもおもたゞしう  
 7 なくさむばかり見たてまつりなさはやときこえ給へはいかにおぼすにかと心  
 8 うくて一ところをのみやはさて世にはて給へとはきこえ給けんはかくしう  
 9 もあらぬ身のうしろめたきは数そひたるやうにこそおぼされためりしか

## 13才

1 心ほそき御なくさめにはかう朝夕に見たてまつるよりいかなるかたにかとなま  
 2 うらめしく思給へれはけにとくとおしうてなをこれかれうたてひかくしき物  
 3 にいひおもへかめるにつけて思みたれ侍るそやといひさし給つくれゆくに  
 4 まらうとはかへりたまはすひめ君いとむつかしとおぼす弁まいりて御せう  
 5 そこともきこえつたてうらみ給ることはりなるよしをつぶへと聞ゆれば御いら  
 6 へもしたまはす打なげきていかにもてなすへき身にかは一ところおはせましかは  
 7 ともかくもさるへき人にあつかはれたてまつりてすくせといふなるかたにつけて身

8 を心ともせぬ世なればみなれいの事にてこそは人わらへなるとかをもかくすなれ  
9 あるがきりの人は年つもりさかしけにをのかしゝは思つゝ心をやりてにつかはし

### 14才

1 けなる事をきこえしりすれとこははかゝしき事かは人めかしからぬ  
2 心ともにてたゝ一かたにいふにこそはと見給へはひきうこかしつはかりき  
3 こえあへるもいと心うくうとましくてとうせられたまはすおなし心に何事  
4 もかたらひきこえ給ふ中の富はかゝるすちにはいますこし心もえすおほとか  
5 にてなにともきゝたまはねはあやしうもありける身かなとたゝおくさまに  
6 むきておはすれいの富の御そともたてまつりかへよなどそゝのかしきこえ  
7 つゝみな心すへかめる氣しきをあさましくけになにのさはりとこる  
8 かはあらん程もなくてかゝる御すまゐのかひなき山なしの花のそかれん  
9 かたなかりけるまらうとはかくけせうにこれかれにもくちいれせさす

### 14ウ

1 しのひやかにいつありけんことゝもなうもてなしてこそと思そめ給ける  
2 事なれば御心ゆるしたまはすはいつもゝかくてすぐさんとおほしのたまうを  
3 此老人のをのかしゝかたらひてけせうにさゝめきなすなるへしさはいぐと  
4 ふかからぬけに老ひがめるにやいとおしくそ見ゆるひめ富おほしわづらひて  
5 弁かまいれるにのたまう年ころも人に似ぬ御心よせとのみのたまひわた  
6 りしを聞きいまとなりてはよろつにのこりなくたのみきこえて  
7 あやしきまで打とけわたるを思しにたかふさなる御心はへのましりて  
8 こそわりなけれよに人めきてあらまほしき身ならはかゝるなにかはもてはな  
9 れてもおもはましされとむかしより思はなれそめたる心にていとくるしきを

### 15オ

1 此君のさかりすきたまはんもくちおしけにかゝるすまひもたゝこの御  
2 ゆかりにところせうのみおほゆるをまことにむかしを思きこえ給ふ心さし  
3 ならはおなし事に思なし給へかし身をわけたる心の中はみなゆつりて見た  
4 てまつらんこゝちんすへきなをかやうによろしけにきこえなされよとはちら  
5 いたる物からあるべきさまをのたまひつゝくれはあはれと見たてまつるぞのこそは  
6 さきへも御気しきを見給ふれはいとよくきこえされとさはえ思あらたむ  
7 ましき兵部卿の富の御うちみふかさまさるくければまたそなたさまにいとよく  
8 うしろ見きこえむとなんきこえ給ふそれも思ふやうなる御事とも也二ところ  
9 ながらおはしましてことさらじみしき御心づくしてかしつきこえたまはんには

### 15ウ

1 しもかく世にありかたき御事ともさしつとひたまはざらましかしこけれとがくいと  
2 たつきなけなる御ありさまを見たてまつるにいかになりはてさせたまはんと  
3 うしろめたなうかなしくのみ見たてまつるを後の御心はしりかたけれとう  
4 つくしうめてたき御すべともにこそおはしましけれとなんかつゝ思聞ゆるこ  
5 富の御ゆいこんたかへしとおほしめすかたはことはりなれとそれはさるべき人の  
6 おはせずしな程に似ぬ事やおはしまさんとおほしていましめきこえさせ給めりしに  
7 こそ此殿のさやうなる心はへ物したまはましかは一ところをうしろやすく見をき  
8 たてまつりていかにうれしからましとおりへのたまはせし物を程々につけて思ふ  
9 人にをくれ給ぬる人はたかきもくたれるも心のほかにあるましきさまにさすいわ

### 16オ

1 たくひたにこそおぼく侍めれそれみなれはもときいふ人も侍らす  
 2 ましてかくはかりことさらにもつくり出まほしけなる人の御ありさまに心さしむかうあり  
 3 かたけにきこえ給ふをあなちにもてはなれさせ給ておぼしをきつるやうにをこ  
 4 なひのほいをとけ給ともさりとて雲霞をやはなどすべて事おぼく申つゝくれば  
 5 いとゝにくゝ心つきなしとおぼしてひれふし給へり中の宮もあひなういとおしき御けし  
 6 きかなと見たてまつり給てもうともにれいのやうに御殿こもりぬうしろめたうい  
 7 かにもてなさんとおぼえ給へとことさらめきとさしこもりかくるへ給ふへき物の  
 8 くまたになき御すまゐなれはなよゝかにおかしき御そゝへにひきさせたてま  
 9 つり給てまたけはひあつき程なれはすこしまろひのきてふし給へり弁は

### 16ウ

1 のたまひつるさまをまらうとに聞ゆいかなれはいとかくしも世を  
 2 思はなれ給ふらんひしりたち給へりしあたりにてつねなき物に思しり  
 3 給へるにやとおほすにいとゝ我心かよひておぼゆれはさかしたちにくゝも  
 4 おぼえすさらは物こしなどにもいまはあるましき事におぼしなるに  
 5 こそはあなれこよひはかりおほとのこもるらんあたりにしのひてたばかれと  
 6 のたまへは心して人どくしつめなど心しれるとちは思かまふよゐすこし  
 7 する程に風の音あらゝかに打ふくにはかなきさまなるとみなとは  
 8 ひしとゝにまきるゝ音に人にしのひ給へるあるまひはへ聞つけたまはしと思て  
 9 やをらみちひきいるおなじところにおほとのこもれるをうしろめたしと

### 17オ

1 おもへとみちの事なれはほかくゝにもいかゝきこえむ御けはひをも  
 2 たとくしからず見たてまつりしり給へらんと思けるに打もまるみたま  
 3 はねはふと聞つけ給てやをらおき出たまひぬるになに心なくねいり  
 4 給へるをいとゝおしくいかにするわざそとむねつふれて思わたる心もわす  
 5 れておとるかしてもろともにかくれなはやとおもへともさもえたちかへら  
 6 てわななくゝ見給へは火のほのかなるうちきすかたにていとなれかほに  
 7 きちやうのかたひらをひきあけていりぬるをいみしういとおしく  
 8 いかにおぼえたまはんと思なからあやしきかべのつらに屏風をたてたる  
 9 うしろのむつかしけなるにゐたまひぬあらまし事にてたにつらしと

### 18オ

1 思給へるをまいていかにめつらかにおぼしうとまむといと心くるしきにも  
 2 はかくしきうしろ見なくておちとまる身どものかなしきを思つらね  
 3 給ふにいまはとて山にのほり給し夕の御さまなとたゞいのこゝちじて  
 4 いみしう恋しうかなしうおぼえ給ふ中納言はひとりふし給へるを心しける  
 5 にやとうれしうて心ときめきし給ふにやうへあらさりけりと見るにおなし事  
 6 なからいりますこしうつくしうらうだけなる氣しきはまさりてやとおぼゆ  
 7 あさましけにあきれまとひ給へるをけに心もしらさりけると見ゆれば  
 8 いとくおしうもあり又をしかへしてかくれ給へらんつらのまめやかに心うく  
 9 ねたければ是をもよその物とはえ思はつましけれとなをほいのたかはん

1 くちおしうて打つけにあさかりけりともおぼえたてまつらし此一ふしは  
 2 なをすぐしてつるにすくせのかれすはこなたさまにならんもなにかはこと人のやう  
 3 にやはと思ふをましてれいのおかしうなつかしきさまにかたらひてあかし給つ

4 老人ともはしそしつと思て中の富いつこにかおはしますらむあやしき  
 5 わさかなとたどりあへりさりともあるやうあらんなどいふ大かたれいの見たで  
 6 まつるにしはのふるこゝちしてめてたうあはれに見まほしき御かたちありさまを  
 7 なとていともではなれてはきこえ給らんにか是はよの人のいふめるおそろしき  
 8 神そつきたてまつりたらんとは打すぎてあひきやうなけにいひなす女も

9 あり又あなさかくしなうの物つかせたまはんたゝ人にとをくておい出させ給ふ

### 18ウ

1 めれはかゝる事にもつきくしけにもてなしきこえ給ふ人もなくおはしますに  
 2 はしたなくおほさるゝにこそいまをのつから見たてまつりなれ給なは思き  
 3 こえ給てなんとかたらひてとく打とけて思ふやうにておはしまさなん  
 4 といふくね入てひきなとかたはらいたくするもありあふ人からにも  
 5 あらぬ秋の夜なれと程もなく明ぬるこゝちしていつれとわくへう  
 6 もあらすなまめかしき御けはひを人やりならすあかぬこゝ地してあひお  
 7 ほせよいと心うくつらき人の御さま見ならひ給ふなよなどのちせ  
 8 を契りて出給ふ我ながらあやしう夢のやうにおぼゆれとなをつけ  
 9 なき人の御けしきいま一たひ見はてんの心に思のとめつゝれいの

### 19オ

1 出てふし給へり弁まいりていとあやしう中の富はいつくにかおはしますらんと  
 2 いふをはつかしう思かけぬ御こゝ地にいかなりけん事にかと思ふし給へりきのふ  
 3 のたまひし事をおほし出てひめ富をつらしと思きこえ給明にけるひかりに  
 4 つきてそかへのなかのきりくすはいらて給へるおほすらんことのいとくおしければかた  
 5 みに物もいはれたまはすゆかしけなう心うくもあるかないまより後も心ゆるひ  
 6 すへうもあらぬ世にこそと思みたれ給へり弁はあなたにまいりてあさしかりける  
 7 御心つよさを聞あらはしていとあまりふかく人にくかりける事といとおしう思ほれ  
 8 むたりきしかたのつらさはなをのこりあるこゝ地してよろつに思なくさめつるをこよひ  
 9 なんまことにはつかしう身もなげつべきこゝ地するすてかたくをとしをきたてまつり給へり

### 19ウ

1 けん心くるしさを思聞ゆるかたこそまたひたぶるに身をもえ思つましけれ  
 2 かけくしきすちはいつかたにも思きこえしうきもつらきもかたくにわすられ給ふ  
 3 ましくなん富などのはつかしけなくきこえ給めるをおなしくは心たかくと思ふかたそ  
 4 ことに物し給ふらんと心えはてつれはいことほりにはつかしうてまたまいりて人々に  
 5 見えたてまつらむねたくなんよしかくをこかまはしき身のうへまた人にたにもら  
 6 し給などえんしをきてれいよりもいそき出たまひぬたか御ためもいとおしうと  
 7 さゝめきあへりひめ富もいかにしる事そもそもをろかなる心物したまはゝとむねつぶれ  
 8 て心くるしけれはすべて打あはぬ人々のさかしらにくしとおほすさまへ思給ふに  
 9 御ふみありれいよりもうれしとおほえ給ふもかつはあやし秋の氣しきもしらす

### 20オ

1 かほにあをきえたのかたえいとこくもみちたるを  
 2 おなしえをわきてそめる山ひめにいつれかふかき  
 3 色とほゝやきはかり恨つるけしきも事すくなことそきてをしつゝみ給へる  
 4 をそこはかとなくもてなしてやみなんとなめりと見給も心きはきてみなかし  
 5 かましう御かへりといへはきこえ給へとゆづらんもうたておほえてさすかにおもひ  
 6 みたれたまふ

7 山ひめのそむるこゝろはわかねともうつぶかたや  
8 ふかきなるらんことなしにかき給へるかおかしう見えければなをええん  
9 しはつましうおほゆ身をわきてなどゆつり給ふけしきはたひく見えしかど

## 20ウ

1 うけひかぬにわひてかまへ給へるなめりそのかひなくかくつれながらむも  
2 いとおしうなさけなき物に思をかれていよくはしめの思かなひかたくや  
3 あらんとかくいひつたへなとすめるおひ人のおもはんところもかるくしうとに  
4 かくに心をそめけんたにくやしうかはかり世中を思すてんの心にみつからも  
5 かなはさりけりと人わろく思しらるゝをましてをしなへたるすき物のまね  
6 におなしあたり返々こきめくらんいと人わらへなるたなゝしを舟めきたるへし  
7 など夜もすから思あかし給てまた在明の空もおかしき程に兵部卿宮の  
8 御かたにまいり給ふ三条の宮やけにし後は六条院にそうちつろひ給へれば  
9 ちかうてつねにまいり給宮もおほすやうなるこゝちし給けりまきるゝことなく

## 21オ

1 あらまほしき御すまゐに御まへの前裁ほかのには似すおなしき花のすかたも木  
2 草のなひきさまもことに見なれてやり水にすめる月の影さへゑにかきたる  
3 やうなるに思つるもしくおきおはしましけり風につきて吹くるにほひのいと  
4 しるう打かほるにふとそれと打おどろかれて御なをしたてまつりみたれぬ  
5 さまにひきつくるひて出給ふはしをのほりたまはすついぬ給へればなをうへ  
6 になどものたまはてかうらんによりぬ給て世中の御物語きこえかはし給ふ  
7 かのわたりの事をも物のついてにはおほし出てよろつに恨給ふもわりなしやみつ  
8 かららの心にたにかなひかたきをと思ふさもおもはせなんと思ひなるやうのあれはれい  
9 よりはまめやかにあるへきさまなど申給ふ明くれの程あやにくに霧わたりて空の

## 21ウ

1 気はひひやゝかなるに月は霧にへたてられて木のしたもこゝりうなま  
2 めきたり山里のあはれるなりさま思出給ふにや此ころの程にかならすを  
3 くりかし給なとかたらひ給ふをなをわつらはしかれば  
4 をみなへしきける大野をふせきつゝこゝろせばくや  
5 しめをゆふらむとたはふれたまう  
6 霧ふかきあしたのはらのをみなへしこゝるをよせて  
7 見る人そみるなへてやはなとねたましきこゆれはあなかしかましとはてくははら  
8 たちたまひぬ年ころかくのたまへと人のありさまをうしろめたう思しにかたちなともみ  
9 おとし給ふましうをしさかるゝ心はせのちかをとりするやうもやなどそあやうく思わたりし

## 22オ

1 を何事もくちおしうは物し給ましかめりとおもへはかのいとおしううちくに思たばかり  
2 給ふありさまもたかうやうならんもなさけなきやうなるをさりとてさはたえ  
3 思あらたむましうおほゆれはゆつりきこえていつかたの恨をもおはしなとしたに  
4 思かまぶる心をもしりたまはて心せはうどりなし給ふもおかしけれどれいのかららかなる  
5 御心さまに物おもはせんこそ心くるしかるへけれなどおやかたになりてきこえ給よし  
6 見給へかはかり心にとまる事なんまたなかりつるなどいとまめやかにのたまはへはかの心  
7 ともにはさもやと打なひきぬへき氣しきは見えずなん侍るつかうまつりにくき宮  
8 つかへもそ侍やとておはしますへきやうなとこまやかにきこえしらせ給ふ廿六日の  
9 ひかんのはてにてよき日なりければ入しれす心つかひしていみしうしのひてゐて

## 22ウ

1 たてまつるきさひの宮なときこしめしいてゝはかゝる御ありきいみしうせいし  
 2 きこえ給へはいとわづらはしきをせちにおほしたる事なればさりけなうともあつかふも  
 3 わりなくなんぶなわたりなどもかりたまはすそのわたりいとちかきみさうの人の家  
 4 にいとしのひて宮をはおろしたてまつり給ておはしぬ見とかめたてまつるへき人もな  
 5 けれどとのゐ人はわづかに出てありくにも氣しきしらせとなるへしれいの中納  
 6 言殿おはしますとてけいめひしあへりきみたちなまわづらはしく聞給へとうつるふ  
 7 かたことにほはしをきてしかはとひめ宮おほす中の宮は思ふかたことなめりしかは  
 8 さりともと思なから心うかりし後はありしやうにあね宮をも思きこえたまはす  
 9 心をかれて物し給ふなにやかやと御せうそこのみきこえかよひていかなるへき

## 23オ

1 事にかと人々も心くるしかる宮をは御馬にてくらきまきれにおはしまさせて  
 2 弁めし出でこゝもとにたゝすこと葉きこえさすへき事なん侍をおほしはなつ  
 3 さま見たてまつりてしにいとはつかしけれとひたやこもりにてはえやむましきを  
 4 いましはしるかしてをありしさまにはみちひき給てんやなどうらもなくかたらひ  
 5 給へはいつかたにもおなし事にこそはと思てまいりぬさん聞ゆればされはよ思  
 6 うつりにけりとうれしうて心おちぬてかの入給ふへきみちにはあらぬひさしのさうし  
 7 をいとよくさしてたいめんし給へり一こときこえさすへきかまた人聞はかりのゝし  
 8 らむはあやなきをいさゝかあけさせ給へといといふせしどきこえ給へといとよくき  
 9 こえぬへしとてあけたまはすいまばとうつろひなんをたゝならしとていふへきにや

## 23ウ

1 なにかはれいならぬたいめんにもあらす人にくゝいらへて夜もふかさしなと思て  
 2 かはかりも出給へるにさうしのなかより御袖をとらへてひきよせていみしうつらむれ  
 3 はいとうたてもあるわさかななゝ聞入つらんとくやしうむつましけれとこし  
 4 らへていたしてんとおほしてこと人と思わき給ましきさまにかすめつゝかたらひ  
 5 給へる心はへなといとあはれなり宮はをしへきこえつるまゝにひとまの戸くちによりて  
 6 扇をならし給へは弁まいりてみちひききこゆさきへもなれにけるみちの  
 7 しるへおかしとおほしつゝり給ぬるをもひめ宮はしりたまはてこしらへいれてもとおほ  
 8 したりおかしうもいとおしうもおほえて内々に心もしらさりける恨をかれんもつみさり  
 9 ところなきこゝちすへければ宮のしたひ給へればえきこえいなひてこゝにおはし

## 24オ

1 つるをともせてこそまきれ給ぬれ此さかしたつめる人やかたらはれたてまつり  
 2 ねらん中空に人わらへにもなり侍りぬへきかなどのたまうにいますこし思  
 3 よらぬ事のめあやに心つきなうなりてかうよろつにめつらかなりける御心のほとを  
 4 しらていふかひなき心おさなさも見えたてまつりにけるをこたりにおほしあなつる  
 5 にこそはどいはんかたなく思給へりいまはいふかひなしことはりは返々きこえさせ  
 6 てもあまりあらはつみもひねらせ給へやむことなきかたにおほしよりめるをすべせ  
 7 などいふめる物さらに心にかなはぬ物に侍めればかの御心さしはことに侍けるをいとおじう  
 8 思みたれ給にかなはぬ身こそをきところなく心うく侍けれなをいかゝはせんにお  
 9 ほしよはりねこのさうしのかためはかりいとつよきもまことに物きよくをしはかり

## 24ウ

1 聞ゆる人も侍らししるべといさなひ給へる人の御心にもまさにかうむねふたかりて  
 2 あかすらんとはおほしなんやとてさうしをもひきやふりつべき気しきなれば

3 いはんかたなく心つきなけれとこしらへんと思しつめて此のたまうすくせといふらん  
 4 かたはめにも見えぬ事にいかにも／＼思たとられすしらぬ涙のみ霧ふたかるこゝ地  
 5 してなんこはいかにもてなし給ふと夢のやうにあさましきに後の世のためしにいひ  
 6 出る人もあらはむかし物語などにことさらにをこめきてつくり出たる物のたどひ  
 7 にこそはなりぬへかめれかうおほしかまぶる心の程もいかなりけるとかはをしさかりた  
 8 まほんなをいとかくおどろく／＼しう心うくなとりあつめまほはし給そ心よりほかに  
 9 ながらへはすこし思のとまりてきこえむこゝ地もさりにかきへらすやうにて

## 25才

1 いとなやましきをこゝに打やすまんゆるし給へといみしうわひ給へはさすかに  
 2 ことはりをいとようのたまふか心はつかしうらうたくおほえてあかきみ御心に  
 3 したかある事のたくひなけれはこそかうまでかたくなしうなり侍れいひしらず  
 4 にくゝうとましき物におほしなすめはきこえむかたないとゝ世に跡  
 5 とむへくなんおほえぬとてさらはへたてながらもきこえさせんひた  
 6 ふるにな打すてさせ給そとてゆるしたてまつり給へははひ入てさすか  
 7 に入もはてたまはぬをいとあはれと思てかはかりの御けはひをなくさめにて  
 8 あかし侍らんゆめ／＼ときこえて打もまとろますいとゝしき水のをとに  
 9 めもさめて夜はの嵐に山鳥のこゝちしてあかしかね給ふれいのあけ

## 25才

1 ゆくけはひに鐘のこゑなど聞ゆいきたなくて出給ふへき気しきもなき  
 2 よと心やましうこはつくり給もけにあやしきわざなり  
 3 しるへせし我やかへりてまとふへきこゝろもしらぬ  
 4 あけ闇のみちかゝるためし世にありけんやとのたまへは  
 5 かた／＼にくらすこゝろをおもひやれ人やりならぬ  
 6 みちにまとは／＼とほのかにのたまうをいとあかぬこゝちすればいかにこよ  
 7 なうへたゞりて侍めればいとわりなうこそなどよろつに恨つゝほの／＼  
 8 と明行ほとによへのかたより出給ふ也いとやはらかにふるまひなし給へる  
 9 にほひなどえんなる御心けさうにはいひしらすしめ給へりねひ人とも

## 26才

1 はいとあやしく心えかたく思まとはれけれどさりともあしさまなる御心  
 2 あらんやはとなくさめたりくらき程にといそきかへり給ふみちの程もかへる  
 3 さはいとはるけうおほされて心やすくもえ行かよはさるらん事のかねて  
 4 いとくるしきを夜をやへたてんと思なやみ給なめりまた人さはかしから  
 5 細朝の程におはしつきぬらうに御くるまよせており給ふことやうなる  
 6 女くるまのさましてかくろへ入給にみなわらひ給てをろかならぬ富つかへの  
 7 御心さしとなん思給ふると申給しのへのをこかましさをいとねたうて  
 8 うれへもきこえたまはす富はいつしかと御文たてまつり給山里には誰も／＼  
 9 うつゝのこゝちもしたまはす思みたれ給へりさま／＼おほしかまへけるを色にも  
 1 いたしましたはさりけるよとましうつらうあね宮をは思きこえ給てめ  
 2 も見あはせたてまつりたまはすしらさりしまをもさは／＼とはえあきらめたま  
 3 はてことはりに心くるしう思きこえ給人々もいかに侍し事にかなと御氣しき  
 4 見たてまつれとおほしほれたるやうにてたのもし人のおもはすれはあやしき  
 5 わさかなと思あへり御文もひきと見て見せたてまつり給へとさらにおきあ

## 26才

6 かりたまはねはいとひきしうなりぬと御つかひわひけり  
7 よのつねにおもひやすらむ露ふかきみちのさゝはら

8 わけて来つるもかきなれ給へるすみつきなどのことさらにえんなるも大かたに  
9 つけて見給しはおかしうおぼえしをうしろめたう物おもはしうてわれさかし人

## 27才

1 にてきこえんもいとつゝましければまめやかにあるべきやうをいみしうせめて  
2 かゝせたてまつり給ふしをん色のほそなか一かさねにみへかさねのはかま  
3 くして給御つかひくるしげに思たれはつゝませてともなりける人になんをくら  
4 せ給ふことくしき御つかひにもあらすれいたてまつれ給ふうへわらは也ことさりに  
5 人に氣しきもらさしとおほしけれはよへのさかしかりし老人のしわさ  
6 なりけりと物しくなんきこしめしけるその夜もかのしるへさそひ給へとれせい  
7 院にかなすさまえるべき事侍れはとてとなりたまはぬれいの事にふれて  
8 すさましけに世をもてなすとにくゝおほすいかゝはせんほいならさりし事とて  
9 をろかにやはと思よはり給て御しつらひなど打あはぬすみかのさまなれど

## 27ウ

1 さるかたにおかしうしなして待きこえけりはるかなる御中みちをいそ  
2 きおはしましたりけるもうれしきわざなるそかつはあやしきさうしみ  
3 は我にもあらぬさまにてつくるはれたてまつり給まゝにこき御その袖  
4 のいたうぬるれはさかし人も打なき給つゝ世中にひきしくもとおぼえ  
5 侍らねは明暮のなかめにもたゞ御事をのみなん心くるしう思聞ゆるに  
6 此人々もよかるべきさまの事と聞くにくきていひしらすめは年  
7 へたる心ともにはさりとも世のことよりをもしりたらんはかくしうもあらぬ心  
8 一をたてゝかうてのみやは見たてまつらんと思なるやうもありしかとたゞ  
9 いまかう思あへすはつかしき事ともにおもふへうはさらに思かけ侍らさりし

## 28才

1 にこれやけに人のいふめるのかれかたき御契りなりけんいとこそくるしけ  
2 すこしおほしなくさみなんにしらさりしさまをもきこえむにくしとなおぼし  
3 いりそつみもそへ給ふと御くしをなつづくひつゝきこえ給へはいらへもしたま  
4 はねとさすかにかうおほしのたまうかけにうしるめたうあしかれとおぼし  
5 をきてしを入わらへに見くるしき事そひて見あつかはれたてまつらんかいみし  
6 さをよろつに思給へりさる心もとなくあきれ給へりしけはひたになへて  
7 ならすおかしかりしをまいてすこしよのつねになよび給へるはいよくこゝろ  
8 さしもまさるにたはやすくかよひたまはさらん山みちのはるけさもむね  
9 いたきまでおほして心ふかけにかたらひたのめ給へとあはれどもいかにとも思

1 わきたまはすいひしらすかしつくものゝひめ君もすこしよのつねの人け  
2 ちかうおやせうとなといひつゝ人のたゞすまゐをも見なれ給へるは物のはつかし  
3 さもなのにやあらん家にあかめ聞ゆる人こそなけれかく山ふかき御あたり  
4 なれはとをく物ふかくてならひ給へるこゝ地に思かけぬありさまのつゝましう  
5 はつかしう何事もよの人にはすあやしうゆ中ひたらんかしとはかなき御いらへ  
6 にてもひはてんかたなくつゝみ給へりさるは此君しもそらうくしくかとあるかた  
7 のにほひはまさり給へる三日にあたる夜はもちゐなんまいると人々の聞ゆれば  
8 ことさらにさるへきいはひの事にこそはとおほして御まへにてせさせ給ふもたとく

9 しうかつはおとなになりてをきて給ふも人の見るらん事ははかられておもて打

## 29才

- 1 あかめておはするさまいとおかしけ也このかみ心にやのとかにけたかき物から人の
- 2 ためあはれになさけくしうそおはしける中納言殿よりよへまいらんと思ふ給へかしと宮
- 3 つかへのらうもしるしなけなるよにおもたまへうらみてなんこよひはさうやくもやど
- 4 思給ふれどとのゐところのはしたなけに侍しみたり心地いとゝやすからてやすら
- 5 はれ侍るとみちのくにかみにおいつきかき給てまうけの物ともこまやかにぬひ
- 6 などもせざりける色々をしまきなとしつゝみそひつまたかけこいれて老
- 7 人のもとに人々のれうにて給へり宮の御かたにさぶらひけるにしたかひて
- 8 いとおぼくもえとりあつめたまはざりけるにやあらんだゝなるきぬあやなどした
- 9 にはいれかくしつゝ御れうとおぼしき一くたりいときよらにしたるをひとべの

## 29ウ

- 1 御その袖にこたいの事なれと
- 2 さ夜ころもきてなれきとはいはずともかことはかりは
- 3 かけすしもあらしとおとしきこえ給へりこなたかなだゆかしけなき御事をはつ
- 4 かしういとゝ見給て御返もいかゝきこえんとおぼしわづらふ程御つかひかたへはにけ
- 5 かくれにけりあやしきしも人をひかへてそ御かへり給ふ
- 6 へたてなきこゝろはかりはかよふともなれし袖とは
- 7 かけしどそ思ふ心あはたゝしく思みたれ給へる名残にいとゝなをく
- 8 しきをおぼしけるまゝと待見給ふ人はたゝあはれにそ思なされ給ふ宮は
- 9 その夜内にまいり給てえまかて給ふましけなるを人しれす御心も空にて

## 30才

- 1 おぼしなけきたるに中宮なをかくひとりおはしまして世中にすい給へる御なの
- 2 やうへ聞ゆるなをいとあしき事也何事も物このましうたてたる心なつかひ給そ
- 3 うへもうしろめたけにおぼしのたまうと里すみかちにおはしますをいさめき
- 4 こえ給へはいとくることおぼして御とのゐところに出給て御文かきて
- 5 たてまつれ給へる名残もいたく打なかめておはしますに中納言の君まいり
- 6 給へりそなたの心よせとおぼせはれいよりもうれしうていかゝすべきいとかうへ
- 7 らうなりぬるめるを心もみたれてなんとなけかしけにおぼしたりよく御けし
- 8 きを見たてまつらんとおぼして日ころへてかうままいり給へるをこよひさぶらはせ
- 9 たまはていそきまかて給なんいとゝようろしからぬ事にやおぼしきこえさせ

## 30ウ

- 1 たまはんたいはんどころのかたにてうけたまはりつれば人しれすわづらはしき
- 2 宮つかへのしるしにあいなきかんたうや侍らんとかほの色たかひ侍つると申
- 3 給へはいと聞くくそおぼしのたまうやおぼくは人のとりなす事なるへし世にとか
- 4 めあるはかりの心は何事にかつかうらんところせき身の程こそ中々なるわざなり
- 5 けれどてまことにいとはしさへおぼしたりいとおしう見たてまつり給ておなし
- 6 御さはかれにこそおはすなれこよひのつみにはかはりきこえさせて身をもいた
- 7 つらになし侍なんかしこはた山に馬はいかゝ侍へきいとゝ物のきこえやさはり
- 8 ところなからんときこえ給へはたゝくれに暮てふけにける夜なれはおぼ
- 9 しわひて御馬にて出たまひぬ御ともには中々つかうまつらし御うしり

## 31才

- 1 見をとて此君は内にさぶらひ給ふ中宮の御かたにまいり給へれば富は出たまひぬる也

2 あさましうじとおしき御さまかないかに人見たてまつるらんうべきこしめしてはいさめ  
 3 きこえぬるいふかひなきとおぼしのたまうことわりなけれとのたまはすあまた  
 4 富たちのかくをとなひとゝのひ給へと大富はいよくわたくおかしきけはひなんまさり  
 5 給ける女一の富もかくそおはしますへかめるいかならんおりにかはかりにても物うちかう御声  
 6 をたに聞たてまつらんとあはれにおぼゆいたる人の思ふましき心つかうらむも  
 7 かやうなる御なからひのさすかにけとをからす入立て心にひかくしき心のたくひやは  
 8 又世にあるへかめるそれになをうこきそめぬるあたりはえこそ思たえねなど思ふ給  
 9 へりさくらふかきりの女房のかたち心さまいつれとなくわろひたるなくめやすく

### 31ウ

1 とりへにおかしきなかにあてにすぐれて目にとまるあれとさらにくみたれそめしの  
 2 心にていときすくにもてなし給へりことさらに見えしらかふ人もあり大かたはつかし  
 3 けにもてしめ給へるあたりなれはうはへこそ心はかりもてしめたれ心々なる世  
 4 の中也ければ色めかしきにすゝみたるしたの心もりて見ゆるもあるをさまにくおか  
 5 しうもあはれにあるかなと立てもゐてもたゞねなきありさまを思ありき給る  
 6 かしこには中納言殿のことくしけにいひなし給へりつるを夜ふくるまでおはしまきて  
 7 御文のあるをされはよとむねつふれておはするに夜なかちかうなりてあらまし  
 8 き風のきをひにいともなまめかしうきよらにてにほひおはしたるもいかゝをろかに  
 9 おぼえたまはんさうしみもいさゝか打なひきて思しり給事あるへし

### 32ウ

1 いみしうおかしきにさかりと見えてひきつくるひ給へるさまはましてたくひあらし  
 2 はやとおぼゆさはかりよき人をおぼく見給ふ御めにたにけしうはあらすかたち  
 3 よりはしめておぼくちかまさりしたりとおぼさる者は山里の老人ともはましてくち  
 4 つきにくけに打ゑみつゝかくあたらしき御ありさまをなのめるきはの人の見てて  
 5 まつりたまはましいかにくちおしからまし思ふやうなる御すべときこえつゝひめ  
 6 富の御心をあやしうもてなし給をもときくちひそみ聞ゆさかりすきたるさま  
 7 ともにあさやかなる花の色々につかはしからぬをさしぬひつゝありつかすとり  
 8 つくるひたるすかたどものつみゆるされたるもなきを見わたされ給て  
 9 ひめ富我もやうくさかりすきぬる身そかしかゝみを見ればやせくに

1 なりもてゆくをのかしらは此人ともゝわれあしとやはおもへるうしろては  
 2 しらすかほにひたひかみをひきかけつゝ色とりたるかほづくりを  
 3 よくして打ふるまふめり我身にてはまたいとられるほとには  
 4 あらすめもはなをしとおぼゆるは心のなしにやあらんとうしろめたう  
 5 見わたしてふし給へりはつかしきならん人に見えむ事はいよゝかたはら  
 6 いたういま一とせ二年あらはおどうへまさりなんはかなけなる身のありさまをと  
 7 御手つきのほそやかにかよはくあはれるなるをさし出ても世中を思つゝけ  
 8 給ふ富はありかたりつる御いとまの程をおぼしめぐらすになを心やすかる  
 9 ましき事にこそいとむねふたかりておぼえ給けり大富のきこえ

### 33オ

1 しさまなとかたりきこえ給て思なからとたえあらんをいかなるにかと  
 2 おほすな夢にてもをろかならんかうまでもまいりくましきを心の程やいかゝ  
 3 とうたかひて思みたれたまはんか心くるしきに身をすてゝなんづねに  
 4 かうはえまとひありかしさるへきさまにてちかうわたしてまつらんとふ

5 かふきこえ給へとたえあるへうおほさるひんは音にきゝし御心のほど  
 6 しるきにやと心をがれてわかれありさまからさまへ物なげかしくてなん  
 7 ありける明ゆく程の空につま戸をしあけ給てもろともにいさなひ出で見  
 8 給へは霧わたれるさまとこうからのはれおほくそひてれいの柴つむ舟の  
 9 かすかに行かふ跡のしら浪めなれすもあるすまるのさまかなと色なる

### 33ウ

1 御心はおかしうおぼしなさる山のはのひかりやうへ見るに女君の御かたちの  
 2 まほにうつくしけにてかきりなういつきすべたらんひめ君もかはかりこそ  
 3 おはすへかめれ思なしの我たさまのいといつくしきそかしまやかなるにほひ  
 4 など打とけて見まほしうなかへなることちす水の音なひなつかしからす宇治  
 5 はしのいと物ぶりて見わたさるゝなど霧はれゆけはいとあらましきわたりを  
 6 かゝるところにいかて年へ給ふらんなど打なみたくまれ給へるをいとはつかしと聞給ふ  
 7 おとこの御さまかきりなくなまめかしうきよらにて此世のみならず契りたのめ  
 8 きこえ給へは思よりさりじ事とは思ながら中々かの日なれたりし中納言のはつかしき  
 9 よりはどおぼえ給ふかれはおもふかたことにていといたうすみたる気しきの見え

### 34オ

1 にくゝはつかしけなりしによそに思きこえはましてこよなうはるかに一  
 2 くたりかき出給ふ御返事たにつゝましうおぼえしをひさしうとたえた  
 3 まはんは心ほそからんと思ならるゝも我なからうたてと思しり給ふ人々  
 4 いたうこはつくりもよほし聞ゆれば京におはしまさん程はしたなからぬ程にと  
 5 いと心あはたゝしけにて心よりほかならん夜かれを返々のたまう  
 6 中たえむ物ならなくにはしひめのかたしく袖や  
 7 夜はにぬらさむ出かてに立かへりつゝやすらひ給  
 8 たえせしのわかたのみにや宇治はしのはるけき中を  
 9 待わたるべきことには出ねと物かなしき御けはひかきりなうおぼされけり

### 34ウ

1 わかき人の御心にしみぬへくたくひすくなけなる朝けのすかたを見をくりて  
 2 名残とまれる御うつり香なども入しれす物のあはれるはされたる御心かな  
 3 けさう物のあやめも見ゆる程にて人々のそきて見たてまつる中納言殿は  
 4 なつかしうはつかしけなるさまにてそひ給へりける思なしのいま一きはにや此御さまは  
 5 ことになどめて聞ゆみちすから心くるしかりつる御氣しきをおほし出てたちもかへ  
 6 りなまほしうさまあしきまでおほせと世のきこえをしのひてかへらせ給ふ程に  
 7 えたはやすくもまきれさせたまはす御文は明る日ことにあまたかへりつゝたてま  
 8 つらせ給ふをろかにあらぬにやと思ながらおほつかなき日数のつもるをいと心つくしに  
 9 見しと思し物を身にまさりて心くるしうもあるかなとひめ宮はおほしなければ  
 1 といと、此君の思しつみ給ふによりつれなくもてなしてみつからたになをかゝる事  
 2 思くはへしといよ／＼ふかくおぼす中納言の君も待とをにそおほすらんかしと  
 3 おもひやりてわかつあやまちにいとおしうて宮をきこえおとろかしつゝたえす御けしき  
 4 を見給にいといたうおもほいれたるさまなれはさりともとうしろやすかり  
 5 けり九月十日の程なれば野山のけしきも思やらるゝに時雨めきて  
 6 かきくらし空のむら雲おそろしけなる夕暮宮いとしつ心なく  
 7 なかめ給ていかにせんと御心ひとつを立出かね給ふおりをしはかりてまいり給へり

### 35オ

ふるの山里いかならんとおとろかしきこえ給もいとうれしとおぼしてもうとも  
にいさなひ給へはれいのひとつくるまにておはすわけ入給まゝにそまいて

### 35ウ

1 なかめ給ふらん心のうちいとゝをしはかられ給ふみちの程もたゞ此事の心くるし  
2 きをかたらひきこえ給たそかれ時のいみしう心ほそけなるに雨はひやゝかに  
3 打そゝきて秋はつる氣しきのすきに打しめりぬれ給へるにほひともは  
4 よの物に似すそんにて打つれ給へるを山かつともはいかゝ心まとひもせさらむ  
5 女房日ころ打つふやきつる名残なくゑみさかへつゝおましひきつくるひ  
6 などす京にさるへきところくにゆきちりたるむすめともめいたつ人二三人  
7 たつねよせてまじらせたり年ころあなたつりきこえける心あさき人々めつらか  
8 なるまらぶと思おどろきたりひめ富もおりうれしう思きこえ給ふにさかし  
9 ら人のそひ給へるそはつかしうもありぬへうなまわつらはしうおもへと心はへののとかに

### 36オ

1 物ふかう物し給をけにはかうはおはせさりけりと見あはせ給にありかたし  
2 と思しらる宮をところにつけてはいとことにかしつきいれたてまつりて此君  
3 はあるしかたに心やすくもてなし給ふ物からまたまらうとゐのかりそめなる  
4 かたにいたしはなち給へればいとからしと思給へり恨給ふもさかにいとおしくて  
5 物こしにたいめんし給ふたはふれにくゝあるかなかくてのみやといみしう恨き  
6 こえ給ふやうくことはりしり給にたれと人の御うへて物をいみしう思しつみ  
7 給ていとゝかゝるかたをうき物に思はてゝなをひたぶるにいかでかう打とけし  
8 あはれとおもふ人の御心も数ならずつらしと思ぬへきわざにこそあめれ我も  
9 人も見おとさす心たかはてやみにしかなと思へる心つかひふかくし給へり宮の御

### 36ウ

1 ありさまなどもひきこえ給へはかすめつゝされはよとおぼしくのたまへはいとお  
2 しくておほしたる御さま氣しきを見ありくやうなとかたりきこえ給ふれいより  
3 は心うつくしうかたらひてなをかく物おもひくはふる程すこしこゝちもじつまりて  
4 きこえむとのたまう人にくゝけとをくはもてはなれぬ物からさうしの  
5 かためもいとつよししゆてやふらんをはづらういみしからんとおほしたれはおほざるゝ  
6 やうことばあらめかろゝしうことさまになひき給事はた世にあらしと心のとなる  
7 人はさいへといとよく思しつめ給たゞいまおほつかなく物へたてたるなんむねあかぬ  
8 こゝちするをありしやうにてきこえむとせめ給へとつねよりもわかおもかけに  
9 はつるころなれはうとましと見給ふてんもさすかにくるしきはいかなるにかとほ

1 のかに打わらひ給へる気はひなとあやしうなつかしうおぼゆかゝる御心にたゆめられた  
2 てまつりてつゐにいかになるへき身にかなとなけきかちにてれいのとを山鳥  
3 にてあけぬ宮はまた旅ねなるらむともおほさて中納言のあるしかたに  
4 心のととなるけしきこそ浦山しけれとのたまへは女君あやしときゝ給ふ  
5 わりなくておはしましては程なくかへり給ふかあかくるしきにや宮  
6 物をいみしうおぼしたり御心のうちをしりたまはねは女かたにはいかならん人  
7 わらへにやと思なけき給へはけに心つくしにくるしけなるわさかなどみゆ  
8 京にもかくろへてわたり給ふへきところもさすかになし六條院には右のおぼ  
9 いとのかたつかたにすみ給てさはかりいかにとおぼしたる六の君の御事をおぼし

### 37ウ

1 よらぬになまうらめしと照きこえ給ふへかめりすきへしき御さまにゆるしなく  
 2 そしりきこえ給てうちわたりにもうれへきこえ給ふへかめればいよ／＼おほえ  
 3 なくていたしすへたまはんもはゝかるもいとおばかりなへてにおほす人のきは  
 4 は富つかへのすちにて中々心やすけ也さやうのなみ／＼にはおほされすもし  
 5 世中うつりてみかときさひのおほしをきつるまゝにもおはしまさは人よりたか  
 6 きさまにこそなきめなどたゞいまはいと花やかに心にかゝり給へるまゝにもて  
 7 なさんかたなくくるしかりける中納言は三条の富つくりはてへさるへきさま  
 8 にてわたしたてまつらんとおほすけにたゞ人は心やすかりけりかくいと心くるし  
 9 き御氣しきなからやすからすしのひ給ふからにかたみに思なやみ給ふへかめるも

### 38才

1 心くるしくてしのひでかくかよひ給ふよしを中宮などにももうしきこし  
 2 めさせでしはしの御さはかれはいとおしくも女かたの御ためとかもあらしいと  
 3 かく夜をたにあかしたまはぬくるしけさにいみしうもてなしてあらせたてまつら  
 4 はやなと思てあなかちにもかくろへす衣かへなどはかくしう誰かはあつかふらむ  
 5 などおほして御きちやうのかたひらかへしるなど三条の富つくりはてへわたり  
 6 たまはん心まうけにしをかせ給へるをまつさるくきようなんいとしのひてきこえ  
 7 たてまつれ給さま／＼なる女房のさうそく御めのとなどにものたまひつゝわ  
 8 さともせさせ給けり十月ついたちころあしろもおかしき程ならんとそゝのかし  
 9 きこえ給て紅葉御らんすべう申さため給ふしたしき宮人ども殿上人の

### 38才

1 むつましうおほすかきりいとしのひでとおほせといこうせき御いきをいなれば  
 2 をのつからことひろこりて右のおほい殿のさいしやうの中将まいり給さてはこの  
 3 中納言はかりそかんだちめはつかうまつり給たゞ人はおばかりかしこにはるなうな  
 4 やとりしたまはんさるへきさまにおほせさきの春も花見にたつねまいりこし  
 5 これかれかゝるたよりに事よせて時雨のまきれに見たてまつりあらはすやうもぞ  
 6 侍なとこまやかにきこえ給へりみすかけかへこゝかしこかきはらひ岩かくれにつも  
 7 れるもみちのくちはすこしはるけやり水のみ草はらはせなどそし給ふよしある  
 8 くた物さかななどいふくぎ人などもたてまつれ給へりかつはゆかしけなけれといか  
 9 はせん是もさるくぎにこそはと思ゆるして心まうけし給へり舟にてのほりくたり

### 39才

1 おもしろうあそひ給も聞ゆほの／＼ありさま見ゆるをそなたに立ててわかき人々  
 2 見たてまつるさうし見の御ありさまはそれと見えねども紅葉をふきたる舟のかさり  
 3 のにしきと見ゆるにこゑ／＼ふき出る物のねども風につきておとろ／＼しきまでおほゆ  
 4 よ人のなひきかしつきたてまつるさまかうしのひ給へるみちにもじことにしてくしきを  
 5 見給にもけに七夕はかりにてもかゝるひこほしのひかりをこそ待出めとおほえたり  
 6 文づくらせ給る／＼心まうけにはかせなどもさやらひけりたそかれ時に御舟  
 7 さしよせてあそひ／＼文づくり給紅葉をうすぐかさして海仙樂といふ  
 8 物をふきてをの／＼心ゆきたる氣しきなるに富はあるみのうみのこゝちして  
 9 をちかた人の恨いかにとのみ御心空也時につきたるたいいたしてうそふき

### 39才

1 すしあへり人のまよひすこじしつめておはせんと中納言もおほしてさるくぎやう  
 2 にきこえ給程にうちより中宮のおほせ事にてさ／＼しやうの御あにのゑもんのかみ  
 3 ことへしきすい人ひきつれてうるはしきさましてまいり給へりかやうの御ありきはしのひ

4 給ふとすれどをのつから事ひるこりて後のためしにもなるわきなるををもくしき  
 5 人数あまたもなくてにはかにおはしましにけるをきこしめしおどろきて殿上人  
 6 あまたくしてまいりたるにはしたなくなりぬ宮も中納言もくるしとおほして物の  
 7 けうもなくなりぬ御心のうちをはしらすゑひみたれてあそひあかしつけふはかうて  
 8 とおほすに又宮の大夫さらぬ殿上人あまたたてまつれ給へり心あはたゝしく  
 9 くちおしくてかへりたまはん空もなしかしこには御文たてまつれ給ふおかしきやう

**40才**

1 なる事もなくいとまめたちてかきつゝけ給へれと人しけうさはかしからんにて御かへり  
 2 なし数ならぬありさまにてはめてたき御あたりにましらはんもかひなきわさかなど  
 3 いとゝおほししり給ふよそにてへたゝる月日はおほつかなさもことはりにさりとも  
 4 などなくさめ給をちかき程にのゝしりおはしてつれなくすき給なんつらうもくちお  
 5 しゅも思みたれ給ふ宮はましていふせうわりなしとおほす事かきりなしashiro  
 6 ひをも心よせたてまつりて色々の木葉にかきませてあそぶをしも人などはいと  
 7 おかしき事におもへればは人にしたかひつゝ心ゆく御ありきにみつから御こゝちはむねのみ  
 8 つとふたかりて空をのみなかめ給ふ此ある宮のこすゑはいとことにおもしろう  
 9 常盤木にはひかられるつたの色なども物ふかけに見えてとをめざへす

**40才**

1 こけなるを中納言の君も中々たのめきこえけるをうれはしきわさかなどおほゆ  
 2 こそ春御ともなりし君たちは花の色を思出てをくれてこゝになかめ給ふらむ  
 3 心ほそさをいふかうしのひくにかよひ給ふとほのきゝたるものあるへし心しらぬもま  
 4 しりて大かたにとやかうやと人のうへはかゝる山かくれなれとをのつから聞ゆる物なれば  
 5 いとおかしけにこそ物し給なれさうこと上手にてこ宮の明暮あそひならはし給ければなどく  
 ちく

**41才**

1 いふさいしやうの中将  
 2 いつそやも花のさかりに一日見し木のもとさへや  
 3 秋はさひしきあるしかたとおもひていへは中納言  
 4 さくらこそおもひしらすれさきにほふ花ももみぢも  
 5 つねならぬ世をゑもんのかみ  
 6 いつこより秋はゆきけん山さとのもみぢのかけは  
 7 すきうき物を宮の大夫  
 8 見し人もなき山さとのいはきにこゝろなかくも  
 9 はへるくすかななかにおいしらひて打なき給ふみこのわかくおほしけるよの事  
 1 ひともひ出るなめり宮  
 2 峯の松風とていといたう涙くみ給へるをほのかにしる人はけにふかうおほすなり  
 3 けりけふのたよりをすくし給う心くるしさと見たてまつる人あれとことくしう  
 4 ひきつゝきておはしましよらすつくりける文のおもしろきところへ打すし  
 5 やまと歌もことにつけておほかれとかやうのゑいのまきれにましてはかくしき  
 6 事あらんやはかたはしかきとゝめてたに見くるしくなんかしこにはすき給ぬる  
 7 気はひをとをうなるまで聞ゆるにさきのこゑへたゝならすおほえ給ふ心まうけ  
 8 しつる人々もいとくちおしとおもへりひめ宮はましてなをへとにきくつき草の

**41才**

6 色なる御心なりけりほのかに人のいふをきけばおこといふ物はそらことをこそ  
 7 いとよくすなれおもはぬ人をおもふかほにとりなすことの葉おほかる物と此人  
 8 数ならぬ女房のむかし物語にいふをさるなをくしきなかにこそはけしからぬ  
 9 心あるもましるらめ何事もすちことなるきはになりぬれば人のきゝおもふ事つゝ

#### 42才

1 ましうところせかるべき物と思しさしもあるましきわざなりけりあためき  
 2 給へるやうにこ富も聞つたへ給てかやうにけちかき程まではおぼしよらさりし物を  
 3 あやしき心ふかけにのたまひわたり思のほかに見たてまつるにつけてさへ身の  
 4 うさを思そぶるかあちきなくもあるかなかう見をとりする御心をかつはかの中  
 5 納言もいかにおもふ給ふらんこゝにもことにはつかしけなる人は打ましらねとをのへおもふ  
 らん

6 か人わらへにをこかましき事と思みたれ給ふにこゝちもたかひいとなやましうおぼ  
 7 え給ふさうし見は玉さかにたいめんし給ふ時かきりなきふかき事をたのめ契り給へればさり  
 8 ともこようはおほしかはしおほつかなきもわりなきさはりこそは物し給ふらめと心の  
 9 うちに思なくさめ給ふかたあり程へにけるか思入られたまはぬにしもあらぬに中々にて

#### 42ウ

1 打すべき給ぬるをつらうもくちおしくもおもほゆるにいとゝ物あはれ也しのひ  
 2 かたき御氣しきなるを人なみくにもてなしてれいの人めきたるすまゐ  
 3 ならはかやうにもてはなし給ふましきをなどあね富はいとゝしうあはれと  
 4 見たてまつり給我も世になからへはかうやうなる事見つへきにこそはあめれ  
 5 中納言のとさまかうさまにいひありき給も人の心を見むとなりけり心一に  
 6 もてはなれて思ふともこしらへやるかきりこそあれある人のこりすまに  
 7 かゝるすちの事をのみいかてと思ためれば心よりほかにつぬにもてなされぬへか  
 8 めり是こそは返々さる心して世をすくせとのたまひをきはしかゝる事もやあらん  
 9 のいさめなりけりさもこそはうき身ともにてさるへき人にもをくれたてま

#### 43才

1 つらめやうの物と人わらへなる事をそぶるありさまにてなき御影をさへなやまし  
 2 たてまつらんかいみしさを我たにさる物おもひにしつますつみなどいとふかからぬ  
 3 さきにいかてなくなりなんとおぼしつむにこゝちもまことにくるしけれは物も  
 4 露はかりまいらすたゝなからん後のあらまし事を明暮思つゝけ給に物心ほそくて  
 5 此君を見たてまつり給もいと心くるしう我にさへをくれ給ていかにいみしう  
 6 なくさむかたなからんあたらしうおかしきさまを明暮のみ物にていて人々しう  
 7 も見なしたてまつらんと思あつかふをこそ人しれぬゆくさきのたのみにも思つれ  
 8 かきりなき人に物し給にもかばかり人わらへなるめを見てん人の世中に立ましり  
 9 れい人さまにてへたまはんはたくひすくなく心うからんなどおぼしつゝくるにいふかひ

#### 43ウ

1 もなく此世にはいさゝか思なくさむかたなくてすきぬへき身ともなめりと心ほそくお  
 2 ほす富は立かへりれいのやうにしのひてと出だち給けるをうちにかゝる御しのひ事  
 3 により山里の御ありきもゆくりかにおぼし立なりけりかるくしき御ありさまとよ人  
 4 もしたにそり申なりと衛門のもらし申給ければ中富もきこしめしなけき  
 5 うへもいとゝゆるさぬ御氣しきにて大かた心にまかせ給へる御里すみのあしきなり  
 6 ときひしき事とも出きてうちにつとさふらはせたてまつり給右のおほい殿の  
 7 六の君をうけひかすおぼしたる事なれとをしたちてまいらせ給ふへくみなさ

8 ためらる中納言殿きへ給てあいなう物を思ありき給ふわかあまりこと  
9 やうなるそやさるへき契りやありけんみこのうしろめたしとおほしたりし

### 44才

1 さまあはれにわすれかたく此君たちの御ありさまけはひもことなる事なく  
2 よにおとろへたまんことのおじうもおぼゆるあまりに入々しうもてなさはや  
3 とあやしきまでてもあつかはるゝに富もあやにくにとりもちてせめ給しかはわかお  
4 もふかたはことなるにゆつらるゝありさまもあいなくてかくもてなしでしきおもへはぐやしう  
5 もりけるかないつもわか物にて見たてまつらんにとかむへき人もなしかとりかへす  
6 物ならねとをこかましう心一に思みたれ給ふ宮はまして御心にかゝらぬおりなく  
7 恋しううしろめたしとおほす御心につきておほす人あらはこゝにまいらせてれい  
8 さまにのとやかにもてなし給へすちことに思きこえ給へるにかなひたるやうに人の  
9 聞ゆへかめるもなんくちおしきとおほす宮は明暮きこえ給時雨いたうして

### 44ウ

1 のとやかなる日女一の宮の御かたにまいり給へれば御まへに人おほくもさよひはすしめ  
2 やかに御ゑなど御らんする程也御きちやうはかりへたてゝ御物語きこえ給ふ  
3 かきりもなくあてにけたかき物からなよひかにおかしき御氣はひを年ころ一一つ  
4 なき物に思きこえ給てまた此御ありさまになすらふ人世にありなんや冷  
5 泉院のひめ宮はかりこそ御おほえの程うくの御氣はひも心にくゝき  
6 ゆれと打いてんかたもなくおぼしわたるにかの山里人はらうだけにあてなるかた  
7 のをとり聞ゆましきそかしなとまつ思出るにいとゝ恋しくてなくさめに御ゑとも  
8 あまたちりたるを見給へはおかしけなる女ゑともの恋するおどこのすまゐなとかき  
9 ませ山里のおかしき家居など心々に世のありさまきたるをよそへらるゝ事

### 45才

1 おほくて御めのとまり給へはすこしきこえ給てかしこへたてまつらんとおほすさい五か  
2 物かたりかきていもうとにきんをしへたるところの人のもすはんといひたるを  
3 見ていかゝおほすらんすこしまいりより給ていにしへの人もさるへき程は  
4 へたてなうこそならはして侍けれどくしうのみもてなさせ給こそと  
5 しのひてきこえ給へはいかなるゑにかとおほすにをしまきよせて御まへにさしいれ  
6 給へるをうつるして御らんする御くしの打なひきてこぼれ出たるかたそはかりほのかに  
7 見たてまつり給ふかあかすめてたうすこし物へたてたる人ゝ思きこえましかはと  
8 おほすにしのひかたくて  
9 わか草のね見る物とはおもはねとむすほゝれたる

### 45ウ

1 こゝちこそすれ御まへなりつる人々は此宮をはことにはちきこえて物のうしろに  
2 かくれたりことしもこそあれうたてあやしとおほせは物ものたまはすことほりにて  
3 うらなく物をといひたるひめ君もされてにくゝおぼさるむらさきのうへの  
4 とりわきて此二ところをはならはしきこえ給しかはあまたの御中にへたてなく  
5 思かはしきこえ給へり世になくかしつきこえ給てさぶらふ人々もかたほに  
6 すこしあかぬところあるははしたなけやむ事なき人の御むすめなどもいとおほ  
7 かり御心のうつるひやすきはめつらしき人々にはかなくかたらひつきなどし給つゝ  
8 かのわたりをおぼしわするゝおりなき物からをとつれたまはて日ころへぬ待  
9 きこえ給どころはたえまとをきこゝちしてなをかうなめりと心ほそくなかめ

### 46才

- 1 給ふに中納言おはしたりなまやましけにし給ふと聞いて御とぶらひなりけりいと  
 2 こゝちまとふばかりの御なやみにもあらねどことつけてたいめんしたまはす  
 3 おどろきなからはるけき程をまいりきつるをなをかのなやみ給ふらん御  
 4あたりちかくとせちにおほつかなかりきこえ給へは打とけてすまい給へる  
 5かたのみすのまへにいれたてまつるいとかたはらいたきわざとへるし  
 6かり給へとけにくゝはあらて御くしもたけ御いらへなどきこえ給へはおはす  
 7の御心もゆかておはしぐにしありさまなどかたりきこえ給てのとかにおはせ  
 8ほせ心しられしてなうらみきこえ給そなどをしへきこえ給へはこゝには  
 9ともかくもきこえたまはさんめりなき人のいきめはかゝる事にこそと見侍
- 46ウ**
- 1 はかりなんいとおしかりけるとてなき給ふ氣しき也いと心くるしう我さへはつかし  
 2 きこゝ地して世中はとてもかくてもひとつさまにてすべす事かたくなん侍を  
 3 いかなる事をも御らんしらぬ御心ともにはひとへにうらめしなとおほす事もあ  
 4 らむをしゐておほしのとめようしろめたうはよにあらしと思侍など人のうへを  
 5 さへあつかうもかつはあやしうおほゆよるくはましていとくるしけにし給ければうど  
 6 き人の御けはひちかきも中の富のくるしけにおほしたれはなをれいのあなた  
 7 にと人々聞ゆれとましてかくわづらひ給程のおほつかなさを思のまゝにまといり  
 8 きていたしはなち給ふれはいとわりなくなんかゝるおりの御あつかひも誰かははか  
 9 しうつかうまつるなど弁のおもとにかたらひ給てみすほうともはしむへき事の
- 47オ**
- 1 たまういと見くるしくことさらにもいとはしき身をと聞給へと思くまなくのたま  
 2 はんもうたてあればさすかになからべよと思給へる心はへもあはれ也又の朝にすこしも  
 3 よろしくおぼさるや昨日はかりにてたにきこえせんとあれば日ころぶればにや  
 4 けふはいとくるしうなんさらはこなたにといひいたし給へりいとあはれにいかに物し  
 5 給ふへきにかあらんありしよりはなつかしき御氣しきなるもむねつとぶておほゆれば  
 6 ちかうよりてよろつの事をきこえ給くるしうてえきこえすこしためらはん  
 7 程にていとかすかにあはれるるけはひをかきりなう心くるしうてなけきぬ  
 8 給へりさすかにつれへとかくておはしかたければいとうしろめたければかへり給うかゝる  
 9 御すまゐはなをくるしかりけりところさり給に事よせてたるべきところに
- 47ウ**
- 1 うつろはしたてまづらんときこえをきてあさりにも御いのり心に入へ  
 2 くのたまひしらせ出たまひぬ此君の御ともなる人のいつしかとこゝなる  
 3 わかき人をかたらひよりたるありけりをのかしゝの物語にかの宮の御しのひ  
 4 ありきせいせられ給て内にのみこもりおはします年右のおほい殿の  
 5 ひめ君をあはせたてまつり給ふへくなる女かたは年ころの御ほいなればお  
 6 ほしとこほる事なくて年内にありぬへか也宮はしふへにおほしてうちわ  
 7 たりにもたゞすきがましき事に御心をいれてみかときさきの御いましめに  
 8 しつまり給ふへうもあらさめりわかつのこそなをあやしう人にたまはすあまり  
 9 まめにおはしまして人にはもてなやまれ給へこゝにかくわたり給のみなん田も
- 48オ**
- 1 あやにおぼろけならぬ事と人申などたりけるをさこそいひつれなど人々  
 2 の中にてかたるを聞給ふにいとむねふたかりていまはかきりにこそあなれや  
 3 む事なきかたにさたまりたまはぬ程のなをさりの御すまゐにかうまでおほし

4 けんをさすかに中納言などのおもはんどころをおぼしてことの葉のかきりふかきなり  
 5 けりと思なし給にともかくも人の御つらさは思しられすいとゝ身のをきところ  
 6 なきこゝ地してしほれふし給へりよはき御こゝちはいとゝ世に立とまるへうもお  
 7 ほえすはつかしけなる人々にはあらねと思あらんところくるしければきかぬやう  
 8 にてね給へるをひめ富物おもふ時のわさときゝしうたゝねの御さまのいとらうたけ  
 9 にてかなひを枕にてね給へるに御くしのたまりたる程などありかたうづくしけ

## 48ウ

1 なるを見やりつゝおやのいさめことの葉も返々思出られ給てかなしければ  
 2 つみふかうなるそこにはよもしつみたまはしいつくにも／＼おはすらんかたにむかへ  
 3 紿てよかういましう物おもふ身とも打さて給て夢にたに見えたまはぬよと  
 4 思つゝけ給夕暮の空の氣しきいとすこう時雨て木のした吹はらふ風の音  
 5 などにたとへむかたなくきしかた行さき思つゝけられてそひるし給へるさま  
 6 あてにかきりなく見え給しろき御そにかみはけつる事もしたまはて程へぬれと  
 7 まよふすちなく打やられて日ころにすこしあをみ給へるしもなまめかしさまさりて  
 8 なかめいたし給へるま見ひたいつきの程も見しらん人に見せまほしひるねの君  
 9 風のいとあらきにおとろかされておきあかり給へり山ふきうす色など花やか

## 49オ

1 なる色あはひに御かほはことざらにそめにほはしたらむやうにいとおかしう花々として  
 2 いさゝか物思ふへきさまもしたまへらすこ富の夢に見え給へるいと物おほしたるけしき  
 3 にて此わたりにこそほのめき給へれとかたり給へはいとゝしうかなしさそひてうせ給て  
 4 後いかて夢にも見たてまつらんと思ふをさらにこそ見たてまつらねとて二ところながら  
 5 いみしうなき給ふ此ころ明暮思出たてまつれはほのめきもやおはすらんいかてお  
 6 はすらんところにたつねまいらんつみふかけなる身ともにてと後の世をさへ思やり給  
 7 人の國にありけんかうのけふりそいとえまほしうおほさるゝいとくらうなる程に富より  
 8 御つかひありおりはすこし物おもひなくさみぬへし御かたはとみにも見たまはすなを  
 9 心うづくしうおいらかなるさまにきこえ給へかうてはかなうもなり侍なはこれより

## 49ウ

1 名残なきかたにたにもてなし聞ゆる人もや出こんどうしろめたきをまれにも此人  
 2 の思ひ出しこえたまはんにさやうなるあるましき心つかう人はえあらしとおもへはづらき  
 3 ながらなんたのまればへるときこそ給へはをくらさむとおほしけることいみしう侍れとて  
 4 いよく／＼かほひき入給かきりあればかた時もとまらしと思しかとながらふるわさなりけり  
 5 と思侍そやあすしらぬ世のさすかになげかしきもたかためおしきいのちにかはとておほ  
 6 となふらまいらせて見給ふれいのこまやかにかきたまひて  
 7 なかむるはおなし雲ぬをいかなれはおほつかなさを

8 そ見る時雨そかく袖ひつるなどいふ事もやありけんみゝなれにたるなをあらし事と  
 9 見るにつけてもうらめしさまさり給さはかり世にありかたき御ありさまかたちを

## 50オ

1 いとゝいかて人に入めてられんとこのましくえんにもてなし給へればわかき人の  
 2 心よせたてまつりたまんことはり也程ふるにつけても恋しうさはかりところ  
 3 せきまで契りをき給しをきりともいとかくてはやましと思なをす心そつねに  
 4 そひける御返ごよひまいりなんと聞ゆればこれかれそゝのかし聞ゆれば一ことなん  
 5 あられふるみ山のさとの朝ゆふになかむる空も  
 6 かきくらじつゝかくいふは神な月つこもりなりけり月もへたゝりぬる

7 よと富しつ心なくおほされてこよひへとおほしつゝさはりおほみなる程に  
 8 五せちなどとく出きたる年にてうちわたりいまめかしくまきれかちにてわさ  
 9 ともなけれとすくい給程にあさましう待とをなりはかなう人を見給につけ

## 50ウ

1 てもさるは御心にはなるゝおりなし右のおほひ殿のわたりの事大宮もなをさる  
 2 のとやかなる御うしろみをまうけ給てそのほかにたつねまほしうおほさるゝ人あらは  
 3 まいらせでをもへしくもてなし給へときこえ給へとしはしさ思給ふるやうなん  
 4 なときこえすまゐ給てまことにつらきめはいかてか見せんなどおほす御心を  
 5 しりたまはねは月日にそへて物をのみおほす中納言も見し程よりはかるひたる  
 6 御心かなさりともと思きこえけるもいとおしく心からおほえつゝおさへまいりたまはす  
 7 山里にはいかにへとあらひきこえ給此月となりてはすこしよろしうおほすとき、  
 8 給けるにおぼやけわたくし物さはかしきころにて五六日も人もたてまつれたま  
 9 はぬにいかならんと打おどろかれ給てわりなき事のしけさを打すてゝまかて

## 51オ

1 給ふすほうはをこたりはて給までとのたまひをきけるをよろしくなりにけりとてあ  
 2 さりをもかへし給ければいと人すくなにてれいの老人出きて御ありさま聞ゆそこ  
 3 はかとなくいたきところもなくおとろへしからぬ御なやみに物をなんざらにきこし  
 4 めさぬもとより人ににたまはすあえかにおはしますうちに此富の御事出きにし後いと、  
 5 物おほしたるさまにてはかなき御くた物たに御らんし入たまはさりしつもりにや  
 6 あさましくよはくなり給てさらにたのむへくも見えたまはず世に心うく侍り  
 7 ける身のいのちなかさにてかゝる事を見たてまつればまついかてさきたちきこえなんと  
 8 思り侍といひもやらすなくさまことほり也、心うくなとくともつけたまはさりける  
 9 院にも内にもあさましう事しけきころにて日ころもえきこえさりつるおほつかなさ

## 51ウ

1 とてありしかたにいり給ふ御まくらかみちかうて物きこえ給へと御こゑもなきやう  
 2 にてえいらへたまはすかくをもくなり給まで誰もへつけたまはさりつるかつらう思ふに  
 3 かひなき事と恨てれいのあさり大かた世にしるじありと聞ゆる人のかきりあま  
 4 たさうし給みすほうと経あくる日よりはしめさせたまはんとてとの人あまた  
 5 まいりつとひかみしもの人立さはきたれは心ほそさのこりなくたのもしけ也暮ぬれ  
 6 はれいのあなたにときこえて御ゆつけなどまいらんとすれどちかくてたに見たて  
 7 まつらんとてみなみのひさしはそうのさなれはひんかしもてのいいますこしちかき  
 8 かたに屏風などたてさせていりぬ給中の富くるしとおほしたれと此御中をなをもて  
 9 はなれたまはぬなりけりとみな思てうとくもえもてなしへたてたてまつらすそやより  
 1 はしめてほけ経をふたんによませ給こゑたうときかきり十二人していとたう  
 2 とし火はこなたのみなみのまにともしてうちはくらきにきちやうをひきあけてす  
 3 こしすへり入て見たてまつり給へは老人とも二三人そざるらふ中の富はふとかくれ  
 4 たまひぬれいはいと人すくなに心ほそくてふし給へるをなと御こゑをたにきかせた  
 5 まはぬとて御手をとらべておとろかしきこえ給へはこゝちにはおもほえなから物いふか  
 6 いとくるしうてなん日こゑ音つれたまはさりつれはおほつかなくてすき侍りぬへき  
 7 にやとくちおじくこそ侍つれといきのしたにのたまふかくまたれたてまつる程まで  
 8 まいりこさりける事とてさくらもよゝとなき給御くしなどすこしあつくそおはし  
 9 けるなにのつみなる御こゝちにか人のなけきおふこそかくはあんなれと御みゝにさし

## 52オ

## 52ウ

1 あてゝ物をおほきこえ給へはうるさうもはつかしうもおほえてかほふたき給へり  
 2 いとゝなよへとあえかにてふし給へるをむなしう見なしていかなるこゝちせんとむねも  
 3 ひしけておほゆ日ころ見たてまつり給へらん御こゝ地もやすからすおほされづらん  
 4 こよひたに心やすく打やすませ給へとのぬ人さぶらぶべしきこえ給へはうしろめ  
 5 たけれとさるやうこそはとおほしてすこしき給へりひたおもてにはあらねとはひより  
 6 つゝ見たてまつり給へはいとくるしうはつかしけれとかゝるへき契りこそはありけめとおほ  
 7 してこよなうのとかにうしろやすき御心をかのかたつかたの人に見くらへたてまつり給へはあ  
 8 れとも思しられにたりむなしうなりなん後の思ひ出にも心こはく思くまなからしとつゝみ  
 9 紿てはしたなくもえをしはなちたまはす夜もすから人をそゝのかして御ゆなどまい

## 53オ

1 らせたてまつり給へと露はかりまいる氣しきもなしいみしのわさやいかにしてはかけとゝむ  
 2 へきといはんかたなく思ふ給へるふたん經の曉かたのぬかはりたるこゑのいとたうときに  
 3 あさりもよゐにさぶらひてねふりたる打おどろきてたらによむおいかれにたれといとくう  
 4 つきてたのもしう聞ゆいかゝこよひはおほしましつらんなど聞ゆるついてにこ宮の御事などき  
 5 え出ではなしはく打かみていかなるところにおほしますらんさりともすゝしきかたにそ思や  
 6 り  
 7 たてまつるをさいつころ夢になん見えおはしましゝそくの御かたちにて世中をあかういとひ  
 8 はなれしかは心とまる事なかりしをいさゝか打思しことにみたれてなんたゞはしねかひの  
 9 ところをへたゝれるをなんとくやしきすゝむるわさせよとさたかにおほせられしを

## 53ウ

9 たちまちにつかうまつるへき事のおほえ侍らねはたへたるにしたかひてをこなひし侍法師

1 はら五六人してなにかしの念仏なんつかうまつらせ待までは思給へたる事侍で常不  
 2 軽をなんつかせ侍るなど申に君もいみしうなき給かの世にさへまたけ聞らんつみの程を  
 3 くるしきこゝちにもいとゝきえいりぬはかりおほえ給いかてかのまたさだまりたまはさらん  
 4 さきにまうてゝおなしこころにもときゝふし給へりあさりは事すくなにてたちぬこの  
 5 さうふきやうそのわたりのさとへ京までありきけるを曉の嵐にわひてあさりの  
 6 さぶらふあたりをたつねてちうもんのもとにていとたうとくつくえかうのすゑつ  
 7 かたの心はへいとあはれ也まらうともこなたにすゝみたる御心にてあはれしのれたま  
 8 はす中の富せちにおほつかなくておくのかたなるきぢやうのうしろにより給けるけはひ  
 9 を聞給てあさやかになをり給て不軽のこゑはいかゝきがせ給つらんをもくしくみち

## 54オ

1 にはをこなはぬ事なれとたうとくこそ侍けれど  
 2 霜さゆるみきはの千鳥うちわひてなくねかなしき  
 3 朝ほうけかなこと葉のやうにきこえ給つれなき人の御けはひにもかよひて  
 4 おもひよそへらるれといらへにくゝて弁してそきこえ給  
 5 あか月の霜うちはらひなく千鳥物おもふ人の  
 6 心をやしるにつかはしからぬ御かはりなれとゆへながらすきこえなすかやう  
 7 のはかなし事もつゝましけなる物からなつかしうかひあるさまにとりなし  
 8 のたまう物をいまはとてわかれなはいかなるこゝちせんと思まとひ給  
 9 宮の夢に見え給けんさまおほしあはするにかう心くるしき御ありさまともを

## 54ウ

- 1 あまかけりてもいかに見給ふらんとをしはかられておはしましゝ御寺にもみす
- 2 経をせさせ給ところへに御いのりのつかひいたしてさせ給おほやけにもわたくし
- 3 にも御いとまのよし申給てまつりはらへようつにいたらぬところなくし給へと物の
- 4 つみめきたる御やまひにもあらさりければなにのしも見えすみつからもたい
- 5 らかにあらんとも仏をもねんしたまはゝこそあらめなをかゝるついてにいかでうせなん
- 6 此君のかくそひてのこりなくなりぬるをいまはもてはなれんかたなしりとて
- 7 かうをろかならず見ゆめる心はへの見をとりして我も人も見らんか心やすからずうかるべき事
- 8 もしいのちしゆてとまらはやまひに事つけてかたちをもかへてんさてのみこそなかき心をも
- 9 かたみに見はつへきわざなれと思しみてとあるにてもかゝるにてもいかで此思ことしてんと

## 55オ

- 1 おほすをさまでさかしき事はえ打出たまはて中の富にこゝちのいよくたのもしけなくおほ
- 2 ゆるをいむ事なんいしるしありていのちのふる事と聞しをさやうにあさりにのたまくときじえ
- 3 給へはみななきさはきて、あるましき御事也かくばかりおほしまとふめる中納言殿も
- 4 いかゝあへなきやうに思きこえたまほんとにけなき事に思てたのもし人にも申つかねば
- 5 くちおしうおほすかくこもりぬ給へれば聞つきつゝ御とぶらひにふりはへ物し給人もあり
- 6 をろかにおぼされぬ事と見たてまつればとの人したしきけいしなとはをのゝよろつの御
- 7 いのりをせさせなけき聞ゆどよのあかりはけふそかしと京思やり給風いたうふきて
- 8 雪のふるさまあはたゝしうあれまとふ都にはいとかうしもあらしかしと人やりならず
- 9 心ほそうとうとくてやみぬへきにやと思ふ契りはつらけれとうらむへうもあらすなつかしう

## 55ウ

- 1 らうたけなる御もてなしをたゝしはしにてもれいになして思つる事ともかたらはゝやと思つ
- 2 けて
- 3 なかめたまうひかりもなくぐれはでぬ
- 4 かきくもり日かけも見えぬおへ山にこゝろをくらす
- 5 こゑにもあるかなたゝかくおほするをたのみにみな人思きこえたりれいのちか
- 6 きかたにぬ給へるにみきちやうなどを風のあらはに吹なせは中の富おくに
- 7 入給見くるしけなる人々もかゝやきかくれぬる程にいとちかうよりて
- 8 いかゝおほさるゝこゝちに思のこす事なくねんし聞ゆるかひなく御こゑをたに
- 9 きかすなりにたれはゝとこそわひしけれをくらかしたまはゝじみしうつらからむと
- なくくきこえ給物おほえすなりにたるさまなれとかほはいとよくかくし給へり

## 56オ

- 1 よろしきひまあらはきいえまほしき事も侍れとたゝきえ行やうに
- 2 のみなりゆけばへぢおじきわさにこそとゝとあはれと思給へる氣しきなるに
- 3 いよくせきとめかたくてゆゝしうかく心ほそけに思ふとは見えしとつゝみ給へと
- 4 こゑもおしますいかなる契りにてかきりなく思きこえながらつらき事おほくて
- 5 別たてまつるへきにかすこときさまをたに見せたまはゝなん思さます
- 6 ふしにもせんとまもれといよくあはれにあたらしくおかしき御ありさまのみ見ゆ
- 7 かいななどもいとほそなりて影のやうによはける物から色あるもかはらすしろ
- 8 ううつくしけになよへとしてしるき御そとものなよひかなるにあはれををしやりて
- 9 中にみもなきひゝなをふせたらむこゝちして御くしはいとこちたうもあらぬ程に打

## 56ウ

1 やられたる枕よりおちたるきはのつやへとめてたうおかしけなるもいかになり給  
 2 なんとするそあるべき物にもあらさめりと見るかおしき事たくひなしこらひさし  
 3 うなやみてひきもつくはぬ氣はひの心とけすはつかしけにかきりなうもてなしをまよふ  
 4 人にもおほうまさりてこまかに見るまゝに玉しゐもししまらんかたなしに打すて給ては  
 5 世にしはしもとあるべきにもあらすいのちもしかきりありてとまるへうともふかき山に  
 6 さすりへなんとすたゞいま心くるしうとまりたまはん御事をなん思きゆるとじらへさせたて  
 7 まつらむとてかの御事をかけ給へはかほかくし給御袖をすこしひきなをしてかくはかなかりけ  
 る

8 物を思くまなきやうにおぼされたりつるもかひなければ此とまりたまはん人をおなし事と  
 9 思きこえ給へとほのめかしきこえしにたかへたまはさらましかはうしろやすからましとはのみ

### 57才

1 なんうらめしきふしにてとまりぬへくおぼえ侍とのたまへはかくいみしう物おもふへき身  
 2 にやありけんいかにもくことさまに此世を思かゝつらふかたの侍らさりつれは御おもむけに  
 3 したかひきこえすなりにいまなん心くるしうもおぼゆるされともうしろめたくな思き  
 4 こえ給そなとこしらへてゞとくるしけにし給へはすほうのあさりともめしいれさせさまへの  
 5 けんあるかきりしてかちまいらせ給我も仏をねんせさせ給事かきりなし世中を  
 6 ことさらにしてひはなれねとすゝめ給仏などのいとかくいみしき物はおもはせ給たやあらむ  
 7 見るまゝに物のかれゆくやうにてきえはて給ぬるはいみしきわさかなひきとゝむへき  
 8 かたなくあしすりもしつへく人のかたくなしと見む事もおぼえすかきりと見たてまつり  
 9 紿て中の宮のをくれしと思まとひ給へるさまもことはり也有るにもあらす見え給を

### 57ウ

1 れいのさかしき女房いまはいとゆゝしき事とひきさけたてまつる中納言の君は  
 2 さりともいとかゝる事あらし夢かとおぼえて御となふらちかうかゝけて見たてまつり  
 3 給にかくし給ふかほもたゞね給へるやうにてかはり給へるところもなくうつくしけにて  
 4 打ふし給へるをかくなからむしのからのやうにてもみるわざならましかはと思まとはるいまは  
 5 の事ともするに御くしをかきやるにさと打にほひたるたゞありしなからのにほひになつかしう  
 6 かうはしきもありかたう何事にて此人をすこしもなのめなりしと思さまきむまことに世中  
 7 を思すてはつるしるへなはおそうしけにうき事のかなしさもさめぬへきふしをたに見つけ  
 8 させ給へと仏をねんし給へといとゝ思のとめんかたなくのみあればいふにかひなくてひたる  
 に

9 けふりにたになしはてゞむとおぼゝしてとかくれいのさほうともするをあさましかりける

### 58才

1 空をあゆむやうにたゞよひつゝかきりのありさまさへはかなにてけふつも  
 2 おほぐむすほゝれたまはすなりぬるもあへなしとあきれてかへりたまひぬ御いみに  
 3 こもれる人数おほくて心ほそさはすこしまきぬるへけれど中の宮は人の見思ふ  
 4 らむ事もはつかしき身の心うさを思しつみ給て又なき人に見え給宮よりも  
 5 御とふらひいとしけくたてまつれ給おもはすにつらしと思きこえ給へりし氣しきもお  
 6 ほしなをしてやみぬるをおほすにいと憂人の御ゆかり也中納言かくよの心うくおほ  
 7 ゆるついてにほいとけむとおぼざるれと三条の宮のおぼさん事にはゝかり此  
 8 君の御事の心くるしさとに思みたれてかのゝたまひしやうにてかたみにも見るへかり  
 9 ける物をしたの心は身をわけ給へりともうつりふくへはおぼえさりしをかう物おもはせたてま  
 つるよりは

### 58ウ

1 たゞ打かたらひてつきせぬなくさめに見たてまつりかよはまし物をなどおほすかり  
 2 それに京にも出たまはすかきたえなくさむかたなくてこもりおはするをよ人も  
 3 をろかならす思給へる事と見聞て内よりはしめたてまつりて御とぶらひおほかり  
 4 はかなくて日ころはすきゆく七日への事もいとたうとくせさせ給つゝをろかならす  
 5 けうし給へとかきりあれは御その色のかはらぬをかの御かたの心よせわきたりし人の  
 6 いとくろうきかべたるをほの見たまうも

くれなゐにおつるなみたもかひなきはかたみの色は

8 そめぬなりけりゆるし色のこほりとけぬかと見ゆるをいとゝぬらしそへつゝなかめ給

9 さまのいとなまめかしうきよけ也人々のそきつゝ見たてまつりていふかひなき御事をは

### 59才

1 さる物にて此殿のかくならひたてまつりていまはとよそに思きこえむこそあたら  
 2 しうくちおしけれ思のほかなる御すべせにもおはしけるかなかくふかき御心の程をかたくに  
 3 そむかせ給へるよとなきあへり此御かたにはむかしの御かたみにいまは何事もきこえうけたま  
 は  
 4 らむとなん思給ふるうどくへしくおほしへたつなときこえ給へはよろつの事うき身なりけり  
 5 と物のみつゝましくてまたいめんして物なときこえたまはす此君はけさやかなるかたに  
 6 いますこしこめきけたかくおはする物からなつかしうにほひある心さまそをとり給へり  
 7 けることにふれておほゆ雪のかきくらしる日ひねもすになかめくらしてよの人  
 8 のすさましき事にいふなるしはすの月夜のくもりなくさし出たるをすたれまきあけて  
 9 見給へはむかひの寺のかねのこゑ枕をそはたてゝけるも暮ぬとかすかなるひゝきをきゝて

### 59ウ

をくれしと空ゆく月をしたふかなつねにすむくべき

1 2 此世ならねは風のいとけしければしとみおろさせ給によもの山のかゝみとみゆる汀の  
 3 こぼり月影にいとおもしるし京の家のかきりなくとみかくもえかうはあらぬはやとお  
 4 ほゆわつかにいき出て物したまはましかはもうともにきこえましと思つゝくるそむねより  
 5 あまるこゝ地する

6 恋わひてしゆるくすりのゆかしきに雪の山にや

7 跡をけなましなかはなるけをしへむおにもかな事つけて身もなげんとおほすそ心  
 8 きたなきひしり心なりける人々ちかうよひ出給て物語などせさせ給けはひなとのいとあらま  
 9 ほしうのとやかに心ふかきを見たてまつる人々わかきは心にしめてめてたしと思たてまつる老  
 たるはたゞくち

### 60才

1 おしうじみしき事をいとゝおもふ御こゝちのをもくならせ給し事もたゞ此間の御事をおもはす  
 に

2 見たてまつり給て人わらへにいみしとおほすめりしをさすかにかの御かたにはかくと思ふとし  
 られたて

3 まつらしとたゞ御心一に世をうつりみ給ふめりし程にはかなき御くた物をもぎこじめしられすた

4 よはりになんよはらせ給めりしほへにはなにはかりことへしう物ふかけにももてなさせた  
 まはて

5 したの御心のかきりなく何事もおほすめりしにこ富の御いましめにさへたかひぬる事とあいな  
 う人の

6 御うへをおほしなやみそめしなりときじれておりへにのたまひし事なとかたり出つゝ誰も

／＼なきまどり

7 事つきせず我心からあちきなき事をおもはせたてまつりけん事ととりかへさまほしくなへての  
8 世もつらきにねんすをいとゝあはれにし給てまとろむ程なくあかし給にまた夜ふかき程  
9 の雪のけはひいとさむけるに入々こゑあまたして馬の音きこゆなに人かはかゝる

### 60ウ

1 さ夜中に雪をわくへきとたいとこたちもおといきおもへるに富のかりの御そに  
2 いたうやつれてぬれゝいり給へるなりけり打たゝき給さまさなゝりと聞給て中納  
3 言はかくろへたるかたにいり給ふてしのひておはす御いみは日数のこりおばかりけれど  
4 心もとなくおほしわひて夜一夜雪にまとはされておはしましける日ころのつらさも  
5 まきれぬへき程なれとたいめんし給ふへきこゝ地もせずおほしなけきたるさまのはつかしか  
6 りしをやかて見なをされたまはすなりにしもいまより後の御心あらたまらんはかひなかるへく  
7 思しめて物し給へは誰もくいみしうことはりをきこえしらせつゝ物こしにてそ日ころのをこ  
8 たりつきせずのたまうをつくと聞ゐ給へり是もいとあるかなきかにてをくれ給ふましき  
9 にやと聞ゆる御けはひの心くるしさをうしろめたういみしと富もおほしたりけふは御身をすて

### 61オ

1 とまりたまひぬ物こしならてといたうわひ給へとしますこし物おほゆる程まで侍らはとのみ  
2 きこえ給てつれなきを中納言はけしき聞給てさるべき人めし出で御ありさまにたかひて  
3 心あさきやうなる御もてなしのむかしもいまも心うかりける月ころのつみはさも思きこえ  
4 給ぬへき事なれとにかくからぬさまにこそかうかへたてまつりたまはめかやうなる事また見  
5 しらぬ御心にてぐるしうおほすらんなどしのひてさかしかり給へはいよ／＼此君の御心もはつ  
かし

6 うてえきこえたまはすあさましう心うくおほしけりきこえをきしさまをもむけにわすれ  
7 紿ける事とをろかならぬけき暮し給へるよのけしきいとゝけはしき風の音に人やり  
8 ならすなけきふし給へるもさすかにてれいの物へたてゝきこえ給千ゝのやしろをひ  
9 きかけて行さきなかき事を契りきこえ給もいかてかくくなれ給けんと心う

### 61ウ

1 けれどよそにてつれなき程のうとましさよりはあはれに人の心もたをやきぬへき御  
2 さまを一かたにもえうとみはつましかりけりとたゝづく／＼とき／＼たまひて  
3 きしかたをおもひいつるもはかなきをゆくすゑかけて  
4 なにたのむらんほのかにのたまう中々いふせう心もとなし  
5 ゆくすゑをみしかき物とおもひなは日のまへにたに  
6 そむかさらなん何事もいとかう見る程なき世をつみるかくなおほしないそとよろつ  
7 にこしらへ給へとこゝちもなやましくなんとて入給にけり人の見るらんもいとひとわろくて  
8 なけきあかし給うらみんもことはりなる程なれとあまり人にくゝづらき涙のおつれ  
9 はましていかに思つらんとさま／＼あはれにおほししらる中納言のあるしかたにすみ

### 62オ

1 なれて人々やすらかにかよひつかひ人もあまたして物まいらせなどし給ふを  
2 あはれにもおかしも御らんすいといったやせあをみほれゝしきまで物を思たれば  
3 心くるしと見給てまめやかにとふらひ給ふありしさまなどかひなき事なれと此富  
4 にこそほきこえめとおもへと打いてんにつけてもいと心よはくかたくなしく見えたてま  
5 つらんにはゝかりて事すくな也ねをのみなきて日数へにければかほかはりしたるも見  
6 くぬしくはあらていよ／＼物きよけになまめいたるを女ならはかならず心うつりなんとをの

7かけしからぬ御心ならひにおぼしよるもなまうしろめたかりければいかで人のそしり恨をも  
8はゆきて京にうつるはしてんとおぼすかくつなき物から打わたりにもきこしめして  
9いとあしかるべきにおぼしわひてけふはかへらせたまひぬをろかならすことの葉をつくし給へ  
と

### 62ウ

1 つれなきはぐるしき物をと一ふしをおぼしこらせまほしくて心とけすなりぬ年の暮かたには  
2 かゝらぬといふたに空の氣しきれいにはにぬをあれぬ日もなくぶりつむ雪に打なかめつゝ  
3 明し暮し給こゝちつきせず夢のやう也御わさもいかめしうせさせ給富よりもみす経  
4 などこちたきまでとふらひきこえ給かくてのみやはあたらしき年さへなけきすくさん  
5 こゝかしこにもおぼつかなくてとなり給へる事をきこえ給へはいまはとてかへりたまはんこゝち  
も

6 たとへんかたなしかくおはしならひて人しけかりつる名残なくならんを思わふる人々

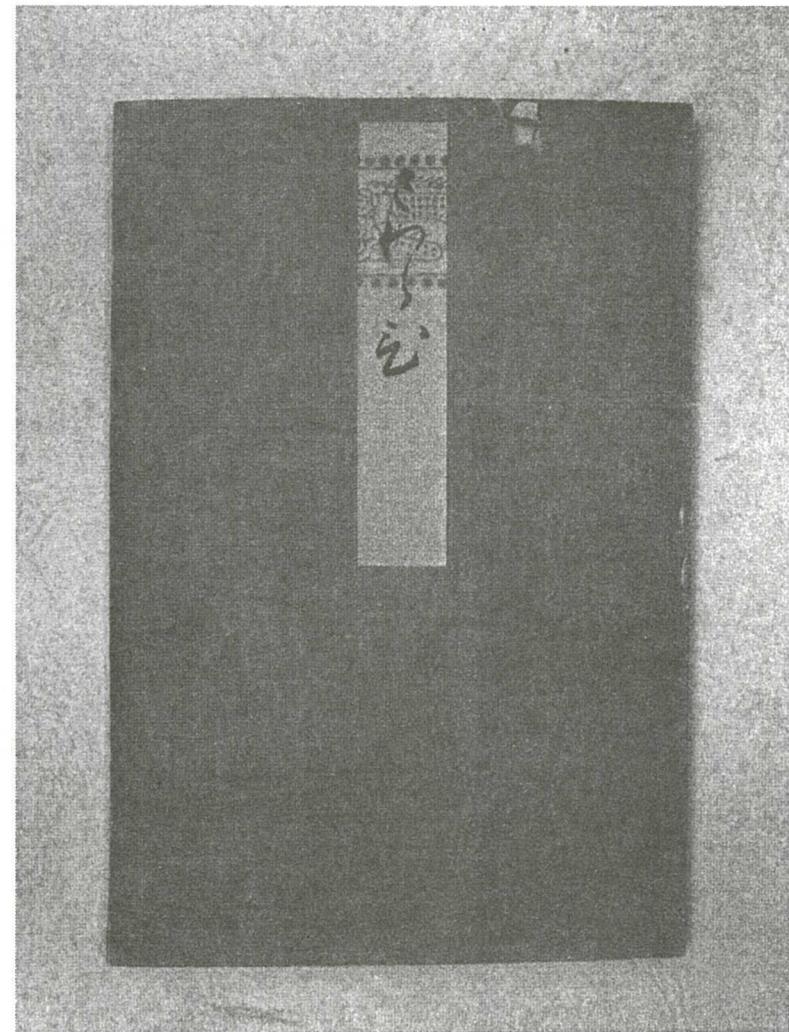
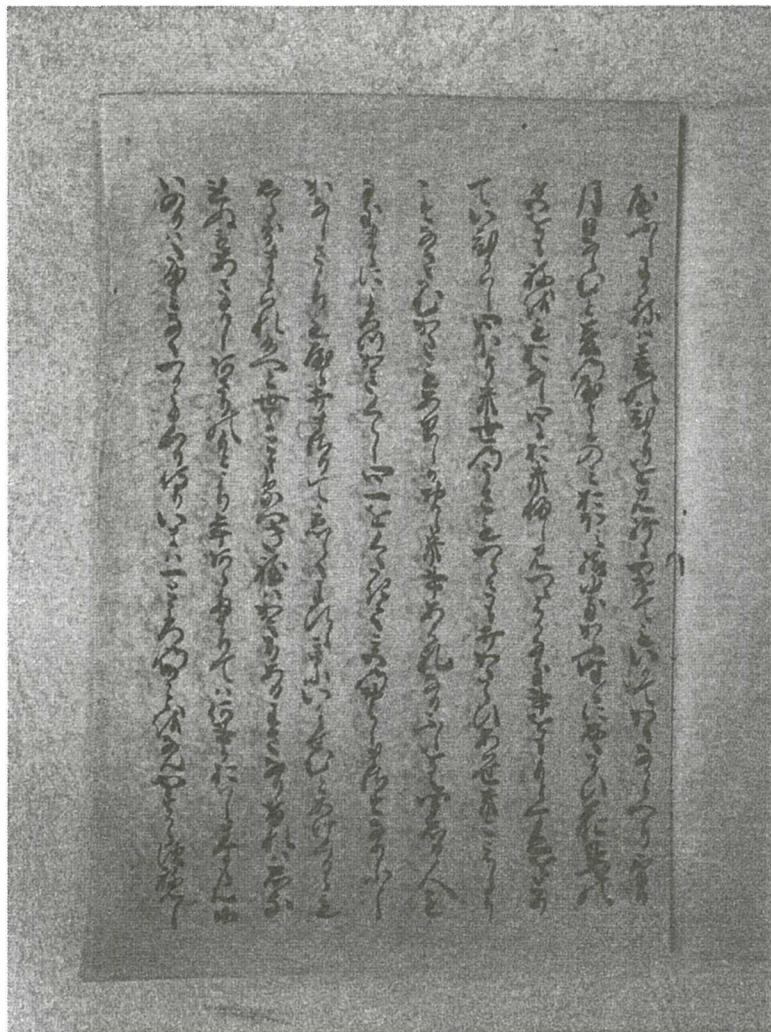
7 いみしかりしおりのさしあたりてかなしかりしさはきよりも打しつまりていみしうおぼゆ  
8 時々おりふしおかしやかなる程にきこえかはし給し年こゝよりもかくのとやかにてすべし  
9 給へる日じるの御ありさまけはひのなつかしうなけきふかうはかなき事にもまめなるかたにも

### 63オ

1 おもひやりおぼかる御心はへをいまはかきりに見たてまひうさしつる事とおぼゝれ  
2 あへりかの宮よりはなをかうまいりくる事もいとかたきを思わひてちかうわた  
3 いたてまつるべき事をなんばかり出たるときこえ給へりきさゝの富きこし  
4 めしつけて中納言もかくをろかならず思はれてゐたなるはけにをしなへて  
5 おもひかたうこそは誰もおぼさるらめ心くるしかり給て二条院のにしのたいに  
6 わたい給てときへもかよひたまうへくしのひてきこえたまひければ女一の  
7 宮の御かたにことよせておぼしなるにやとおぼしなからおぼつかな  
8 かるましきはうれしくてのたまうなりけりさなゝりと中納言も  
9 きゝ給て三条の宮もつくりはてゝわいたてまつらん事を思し

### 63ウ

1 物をかの御かはりになすらへても見るへかりけるをなどひきかへし  
2 こゝるほそし富のおぼしよるめりしすちはいとにけない事に思ひ  
3 はなれて大かたの御うしろみはわれならて又たれかはと  
4 おぼすとや



## 1才

1 やふしわかねは春のひかりを見給につけてもいかてかくながらへにける  
 2 月日ならむと夢のやうにのみおほえ給ゆきかふ時々にしたかひ花鳥の  
 3 色をもねをもおなしこにおきふし見つゝはかなき事をももとすゑをとり  
 4 ていひかはし心ぼそき世のうさもつらさも打かたらひあはせきこえしに  
 5 こそなくさむかたもありしかおかしき事あはれなるふしをも聞しる人も  
 6 なきまゝによるつかきくらし心一をくだきて富のおはしますなりにし  
 7 かなしさよりもやゝ打まさりて恋しくわひしきにいかにせむとあけくるゝも  
 8 しらすまとはれ給へと世にとまるべき程はかきりあるわざなりければしな  
 9 れぬもあさましあさりのもとより年あらたまりては何事かおはしますらん御  
 10 いのりははたゆみなくつからまつり侍りいまは一とゝろの御ことをなんやすからすねんし

## 1ウ

1 きこえさするなときこえてわらひつくくしおかしきこにいれて  
 2 これはわらはへのくやうして侍るはつおなりとてたてまつり手は  
 3 いとあしうてうたはわさとかもしくひきはなちてかきたる  
 4 君にとてあまたの春をつみしかはつねをわすれぬ  
 5 はつわらひなり御まへによみ申さしめ給へとありたいしとおもひま  
 6 はしてよみいたしつらんとおほせはうたの心はへもいとあはれにてなをさり  
 7 にさしもおほさぬなめりと見ゆることの葉をめてたくこのましけに  
 8 かきつくし給へる人の御文よりはこよなくめどまりてなみたもの  
 9 ほるれはかへり事かゝせ給  
 10 この春はたれにか見せむなき人のかたみにつめる

## 2才

1 みねのさわらひつかひにろくとらせさせ給いときかりににほひお  
 2 ほくおはする人のさまくの御物おもひにすこし打おもやせたてまつりいと  
 3 あてになまめかしきけしきまさりてむかし人にもにおほえたてまつり  
 4 ならひたてまつりしおりはとりくにてさらににたてまつりとも見えさりし  
 5 を打わすれではふとそれかとおほゆるまでかよひ給へるを中納言殿のからを  
 6 たにとゝめて見たてまつる物ならましかはとあさ夕に恋きこえ給めるに  
 7 おなしくは見えたてまつり給御すべせならさりけんよと見たてまつる人々は  
 8 くちおしかるかの御あたりのかよひくるたよりに御ありさまはたえす聞かはし  
 9 給けりつきせず思ほれ給てあたらしき年ともいはすいやめになり給へる  
 10 と聞給てもけに打つけの心あさゝには物したまはさりけりといとゝいまと

## 2ウ

1 あはれもふかく思しらるゝ宮はおはします事のいとところせくありかたけれ  
 2 は京にわたしきこえんとおほしたちにたりないえんなど物さはかしきころ  
 3 すくして中納言のきみ心にあまる事をも又是にかはかたらはんとおほしわひて  
 4 兵部卿の宮の御かたにまいり給へりしめやかなる夕暮なれば宮打なかめ給て  
 5 はしちかくそおはしましけるさうの御ことかきならしつゝれいの御心よせなる梅の  
 6 かをめておはするしつえををしおりてまいり給へるにほひのいとえんにめてたきを  
 7 おりおかしうおほして  
 8 おる人のこゝろにかよぶ花なれやいろにはいてす  
 9 したににほへるとのたまへは

見る人にかことよせける花のえをこゝるしてこそ

**3才**

- 1 おるへかりけれわづらはしくとたはふれかはし給へるいとよき御あはひ也
- 2 こまやかなる御物語どもになりてはかの山きとの御事をそまつはいかにと
- 3 宮はきこえ給申納言もすきにしかたのあかすかなしき事そのかみよりけふ
- 4 まで思のたえぬよしおりくにつけてあはれにもおかしくもなきみわらひ
- 5 み見とかいふらんやうにきこえいて給にましてさはかりいろめかしく涙もろ
- 6 なる御くせは人の御うへにてさへ袖もしほるはかりになりてかひくしくそあいしらい
- 7 きこえ給める空の気しきもまたけにそあはれしりかほに霞わたれるよるに
- 8 なりてはけしう吹出る風のけしきはた冬めきていとさむけにおほとのなふら
- 9 もきえつゝやみはあやなきたとへしさなれとかたみにきゝさし給ふへくもあら
- 10 すつきせぬ御物語をえはるけやりたまはて夜もいたうふけぬよにためし

**3ウ**

- 1 ありかたかりける中のむつひをいてさりともいとさのみはあらさりけんとのこり
- 2 ありけにとひなし給そわりなき御心ならひなめるかしさりながら物に心え給て
- 3 なけかしき心のうちもあきらむはかりかつはなくさめ又あはれをもさましままくに
- 4 からひ給御さまのおかしきにすかされたてまつりてけに心にあまるまで
- 5 思むすほゝるゝ事もすこしつゝかたりきこえ給そこよなくむねのひきあく
- 6 こゝちし給宮もかの人ちかくわたしきこえてんとする程のこともかたらひきじ
- 7 え給をいどうれしき事にも侍かなあひなくみつからのあやまちとなん思ふ給へら
- 8 るるあかぬむかしのなこりを又たつぬへきかたを侍らねは大かたにはなに事につけて
- 9 も心よせ聞ゆへき人となん思給ふるをもしひなくやおほしめざるへきとてかの
- 10 こと人とな思わきそとゆつり給し心をきてもすこしはかたりきこえ給へといは

**4才**

- 1 せのもりのよふご鳥めいたりし世のことは残したりけり心のうちにはかくなく
- 2 さめかたきかたみにもけにさてこそかやうにもあつかひ聞ゆへかりけれとく
- 3 やしきことやうくまさりゆけといまはかひなき物ゆへつねにかうのみおもはゝ
- 4 あるましき心もこそいてくれたかためにもあちきなくをこかましからんと
- 5 おもひはなるさておはしまさんにつけてもまことに思ひうらみきこ
- 6 えんかたは又たれかはとおぼせは御わたりの事ともゝ心まうけさせ給
- 7 かしこにもよきわか人わらはなともとめて人々は心ゆきかほにいそきお
- 8 もひたれといまはとて此ふしみをあらしはてんもいみしく心ほそければ
- 9 なけれかれ給事つきせぬをさりとても又せめて心こはぐたへこもりて
- 10 もたけかるましくあさからぬ中の契りもたえはてぬへき御すまゐを

**4ウ**

- 1 いかにおはしえたるそのみ恨きこえ給もすこしはことはりなれば
- 2 いかゝすべからむと思みたれ給へりきさらきのついたちころとあれは程
- 3 ちかくなるまゝに花の木とものけしきはむも残りゆかしくみねの霞の
- 4 たつを見すてんことをのかとこ世にてたにあらぬ旅ねにていかに
- 5 はしたなく人わらはれることもこそなとよろつにつゝましく心一に思ひ
- 6 あかしくらし給御ふくもかきりある事なれはぬきすて給にみそきもあさ
- 7 きこゝちそするおや一ところは見たてまつらさりしかは恋しき事はおもほ
- 8 えすその御かはりにも此たひの衣をふかくそめむと心にはおほしのたまへと

9 さすかにさるへきゆへもなきわざなればあかすかなしきことかきりなし  
10 中納言殿より御くるま御まへの人々はかせなどたてまつれ給へり

### 5才

はかなしやかすみのこゑもたちしまに花のひもとく  
おりも来にけりけに色々いときよらにてたてまつれ給へり御わたりの  
程のかつけ物ともなことくしからぬ物からしなくにこまやかにおぼしやり  
つゝいとおばかりおりにつけてはわすれぬさまなる御心よせのありかたへはら  
からなどもえいとかうまではおはせぬわざそなど人々はきこえしらする  
あさやかならぬふる人との心にはかゝるかたを心にしめて聞ゆわかき人は  
ときくも見たてまつりなひていまはとことさらになりたまほんを  
さうくしくいかに恋しくおぼえさせたまほんときこえあへりみつからは  
わたりたまほんことあすとてのまたつとめておはしたりれいのまらう  
とゐのかたにおはするにつけてもいまはやうく物なれて我こそ人

### 5ウ

1 よりさきにかやうにも思そめしかなどありしさまのたまひし心はへを  
2 思ひ出づゝさすかにかけはなれことのほかになとははしたなめたまほさり  
3 しを我心もてあやしうもへたゞりにしかなどむねいたく思つゝけ  
4 られ給かいま見せしさうしのあなも思ひ出らるればよりて見給へと此  
5 中をはおろしこめたれはいとかひなし内にも人々思ひ出てきこえつゝ  
6 打ひそみあへり中の宮はましてもよぼさるゝ御涙の川にあすの  
7 わたりもおぼえたまはすぼれくしけにてなかめふし給へるに月ころ  
8 のつもりしそこはかとなけれといふせく思ひ給へらるゝをかたはしも  
9 あきらめきこえさせてなくさめ侍らはやれいのはしたなくなさし  
10 はなたさせ給そいとあらぬ世のこゝ地し侍りときこえ給へればはし

### 6才

1 たなしとおもはれたてまつらんとしもおもはねといさやこゝ地もれいの  
2 やうにもおぼえすかきみたりつゝいとゝはかくしからぬひか事もやとつゝ  
3 ましうてなどくるしけにおぼいたれといとおかしなとこれかれきこえて  
4 中のさうしのくちにてたいめんし給へりいと心はつかしけになまめきて又この  
5 たひはねひまさり給にけりとめもおどろくまでにほひおぼく人にもにぬ  
6 ようゐなどあなめてたの人やとのみ見え給へるをひめ宮はおも影さらぬ  
7 人の御事をさへ思ひ出きこえ給にいとあはれと見たてまつり給つき  
8 せぬ御物語などもけふはこじみすへくやといひさしつゝわたらせ給ふ  
9 へきところちかく此ころすくしてうつるひ侍へければよなか曉と  
10 月々しき人のいひ侍めるなにことのおりにもうとからすおぼし

### 6ウ

1 のたまほせは世に侍らんかきりはきこえさせうけたまほりてすくさ  
2 まほしくなん侍をいかゝはおぼすらむ人の心きまくに侍る世なればあひ  
3 なくやなど一かたにもえこそ思侍らねときこえ給へは宿をはかれ  
4 しとおもふ心ふかく侍をちかくなとのたまほするにつけてもよろつにみたれ  
5 侍できこえさせやるべきかたもなくなどところへいひけちていみしく  
6 物あはれと思給へるけはひなどいとようおぼえ給へるを心からよその物に見  
7 なしつるといとくやしく思ぬ給へれとかひなければその夜のことかけても

8 いはすわすれにけるにやと見ゆるまでけさやかにもてなし給へり御まへ  
 9 ちかきこうはいの色も香もなつかしきにうくひすたに見すべしかたけに  
 10 打なきてわたるめはまして春やむかしのと心をまとはし給どちの御物語

### 7才

1 におりあはれなりかし風のさと吹いるゝに花の香もまかうとの御にほ  
 2 ひもたちはなならぬとむかし思ひ出らるゝつまひ也づれゝのまきらはしにも  
 3 世のうきなくさめにも心とゝめであそひ給し物をなど、心にあまり給へは  
 4 見る人も嵐にまよふやまさとにむかしおほゆる  
 5 花のかそするいふともなくほのかにてたえゝきこえたるになつかしけに  
 6 うちすんして

7 袖ふれし梅はかはらぬにほひにてねこめうつづふ

8 宿やことなるたへぬ涙をさまよぐのこひかくことおぼくもあらすまた  
 9 もなをかやうにてなん何事もきこえさせよかるへきなときこえをきて  
 10 たちたまひぬ御わたりにあるへき事とも人々にのたまひをく此宿もりに

### 7才

1 かのひけかちのとのゐ人などさぶらふへければ此わたりのちかき御さう  
 2 ともなにその事ともゝのたまひあつけなとまめやかなる事ともをさへ  
 3 さためをき給弁そかやうの御ともにも思かけすなかきいのちいとつらく  
 4 おほえ侍を人もゆゝしく見おもふへければいまは世にある物とも人にしら  
 5 れ侍らしとてかたちもかへてけるをしゆてめし出でいとあはれと見給ふ  
 6 れいのむかし物語などせさせ給てこゝにはなを時々はまいりくへきをいと  
 7 たつきなく心ほそかるへきにかくて物したまほんはいとあはれにうれしかるへき  
 8 ことになんなとえもいひやすなき給ふいとふにはへのひ侍いのちの  
 9 つらく又いかにせよと打すてさせ給けんとうらめしくなへの世をも思ひ  
 10 給へしつむにつみもいかにふかく侍らんと思ける事ともをうれへかけ聞ゆるも

### 8才

1 かたくなしけなれど、とよくひなくさめ給いたくねひにたれとむかし  
 2 きよけなりける名残をそきすてたれとひたひととさまかはれるに  
 3 すこしわかくなりてさるかたにみやひかなり思ひてはなとかゝる  
 4 さまにもてなじたてまつらさりけむそれとのふるやうもやあら  
 5 ましなと一かたならすおほえ給にこの人さへうらやましければ  
 6 かくろへたるきちやうをすこしひきやりてこまかにそ  
 7 かたらひ給けにむけにおもひほけたるさまながら物うち  
 8 いひたるけしきよういくちおしからすゆへありける人のなこり  
 9 と見えたり

10 さきにたつなみたの川に身をなけば人にをくれぬ

### 8才

1 いのちならましと打ひそみ聞ゆそれもいとつみふかゝなる  
 2 ことにこそかのきしにいたる事などかさしもあるましきことにて  
 3 さべふかきそこにしつみすくさんもあいなしそうへてなべて  
 4 むなしく思どるへき世になんなとのたまる  
 5 身をなげむ涙の川にしつみても恋しきせゝに  
 6 わすれしもせしいかならん世にすこしもおもひなくさむる事

7 ありなんとはでもなきこゝちしたまふかぐらむかたもなく  
 8 なかめられて日もくれにけれどすゝろに旅ねせんも人  
 9 のとかむることやいなければかへりたまひぬおもほし  
 10 のたまへるさまをかたりて弁はいとなくさめかたく

**9才**

1 暮まとひたりみな人はこゝろゆきたる氣しきにて  
 2 ものぬひいとなみつゝおひゆかめるかたちをもしらず  
 3 つくろひさまよぶにいよへやつして  
 4 人はみないそきたつめる袖の浦にひとりもしほを  
 5 たるゝあまかなとうれへきこゆれは  
 6 しほたるゝあまの衣にことなれやうきたる涙に  
 7 むるゝわか袖世にすみつかんこともありかたかるへきわざと  
 8 おほゆればさまにしたかひてこゝをはあればてしとなんおもふを  
 9 さらはたいめんもありぬへけれどしはしの程も心ほそくてたち  
 10 どまり給を見くにいど心もゆかすなんかゝるかたちなる人も

**9ウ**

1 かならすひたるにしもだへじもりぬわさなめるをなをよの  
 2 つねに思なして時々も見え給へなどいとなつかしくかたらひ給むかし  
 3 の人のもてつかひ給しさるへき御てうとともなとはみな此人にとゝめ  
 4 をき給てかく人よりふかくおもひしつみ給へるを見ればさきの  
 5 世もとりわきたる契りもや物し給けむとおもふさへむつましくあは  
 6 れになんとのたまふにいよくわらはへのこひてなくやうに心おさ  
 7 めんかたなくおぼれぬたりみなきはらひよるつとりしたゝめて  
 8 御くるまともよせて御せんの人々四位五位いとおばかり御みつからも  
 9 いみしうおはしまさまほしけれとことへしくなりて中々あしかるへければ  
 10 たゞしのひたるさまにもでなして心もとなくおぼさる中納言殿よりも

**10才**

1 御せんの人かすおぼくたてまつれ給へり大がたのことをこそ富より  
 2 はおほしをきつめれこまやかなるうちくの御あつかひはたゞこのとの  
 3 より思よらぬことなくとあらひきこえ給ふ日くれぬへしと内にも  
 4 どにもよほしきこゑるにこゝろあはたゞしくこつちならんと思ふにも  
 5 いとはかなくかなじとのみおぼえ給ふに御くるまにのるたいふの  
 6 きみといふ人のいふ

7 ありふればうれしきせにもあひけるを身を宇治川に  
 8 なけてましかば打ゑみたるを弁のあまの心はへにはこよなうもある  
 9 かなとこゝろつきなうも見たまういまひとり  
 10 すきにしか恋しきこともわすれねとけふはたまつも

**10ウ**

1 ゆく心がないつれも年へたる人々にてみなかの御かたをはこゝろよせ  
 2 ましきこゑためりしをいまはかくおもひあらためてこといみするも  
 3 心うの世やとおぼえ給へは物もいはれたまはずみちのほとの  
 4 はるけくはけしき山みちのありさまを見給ふにそつらき  
 5 にのみ思なされし人の御中のかよひをことはりのたえまなりけりと

6 すこしおほしられる七日の月のさやかにさし出たるかけ  
 7 おかしく霞たるを見給つゝととをきにならはすくるしけれはうぢ  
 8 なかめられて

9 なかむれは山よりいて、ゆく月も世にすみわひて

10 山にこそいれさまかはりてつるにいかならんとのみあやうくゆくすゑ

11才 1 うしろめたきにとしころなに事をおもひけんとどうかへま  
 2 ほしきやよゐうちすきてそおはしつきたる見もしらぬ  
 3 さまにめもかゝやくまでなる殿つくりの三葉四葉なる

4 中にひきいれて富いつしかとまちおはしましければ御くるま  
 5 のもとにみつかひよらせたまひておろしてまつり給御しつらひ  
 6 などあるへきかきりして女房のつぼねくまで御こゝろとめさ  
 7 せたまひける程しるく見えて、とあらまほしけなりいかはかりの  
 8 ことにかと見えたまへる御ありさまのにはかにかくさたまりたまへは  
 9 おぼろけならずおほさるゝ事なめりと世人も心にくゝおもひおどろ  
 10 きけり中納言は三条のみやにこの二十よ日の程にわたりたまはん

### 11才

1 とてこのころは日々におはしつゝ見給ふにこの院ちかき  
 2 ほとなれは氣はひもきかんとて夜ふくるまでおはし  
 3 けるにたてまつれ給へる御せんの人々かへりまいりて  
 4 ありさまなとかたりきこゆいみしう御心に、いりてもてなし給ふ  
 5 なるをきゝ給ふにもかつはうれしき物からさすかにわか心ながら  
 6 をこかましくむね打つふれて物にもかなやとかへすべく  
 7ひとりこたれて

8 しなてるやにほのうみづらこく舟のまほならねとも  
 9 あひ見し物をといひくたさまほしきみきりのおほい殿は

### 12才

1 六の君を宮にたてまつりたまはん事この月にとおほし  
 2 さためたりけるにかく思のほかの人をこのほどよりさきにと  
 3 おほしかほにかしつきすへ給てはなれおはすればいと物しけに  
 4 おほしたりと聞給ふもいとおしければ御文はときへたてまつれ給  
 5 御もきの事世にひきていそき給へるをのへたまはんも  
 6 人わらへなるへければ甘日あまりにさせたてまつりたまふ  
 7 おなしゆかりにめつらしけなくともこの中納言をよそ人に  
 8 ゆつらんかくちおしきにさもやなしてまし年ころ人しれぬ物に  
 9 おもひけん人をもなくならて物心ほそくながめぬ給なるをなど

### 12才

1 おほしよりてさるへき人してけしきとらせ給けれと世の  
 2 はかなきをめにちかく見しにいと心うく身もゆゝしうおほゆれば  
 3 いかにもへさやうのありさまは物うくなとすさましけなるよし  
 4 聞給ていかでかこの君さへおほなくこといつことを物うくは  
 5 もてなすべきそとうらみ給ければしたしき御なからひながら  
 6 も人さまのいと心はつかしけに物し給へはしゐてしまきこえ

7 うこかしたまはざりけり花さかりの程一寺院の桜を見やり  
 8 給にぬしなき宿のまつおもひやられ給へは心やすくやなどひ  
 9 とりこちあまりて宿の御ともにまじり給へりこゝがちにおほしまし

**13才**

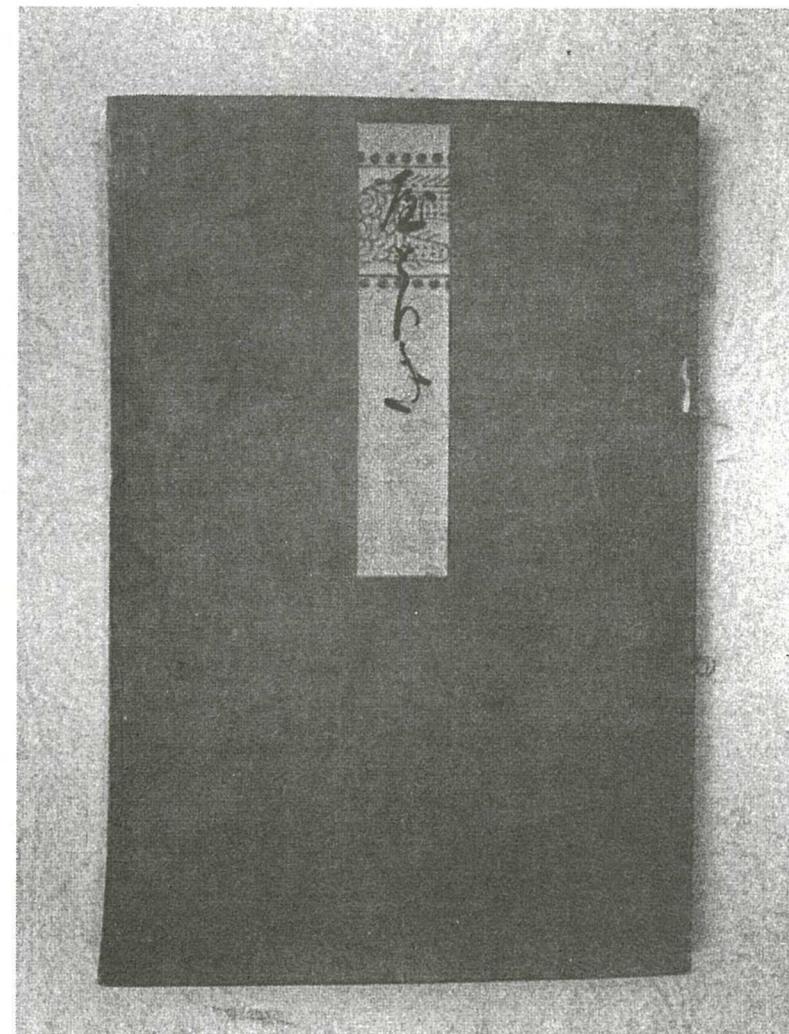
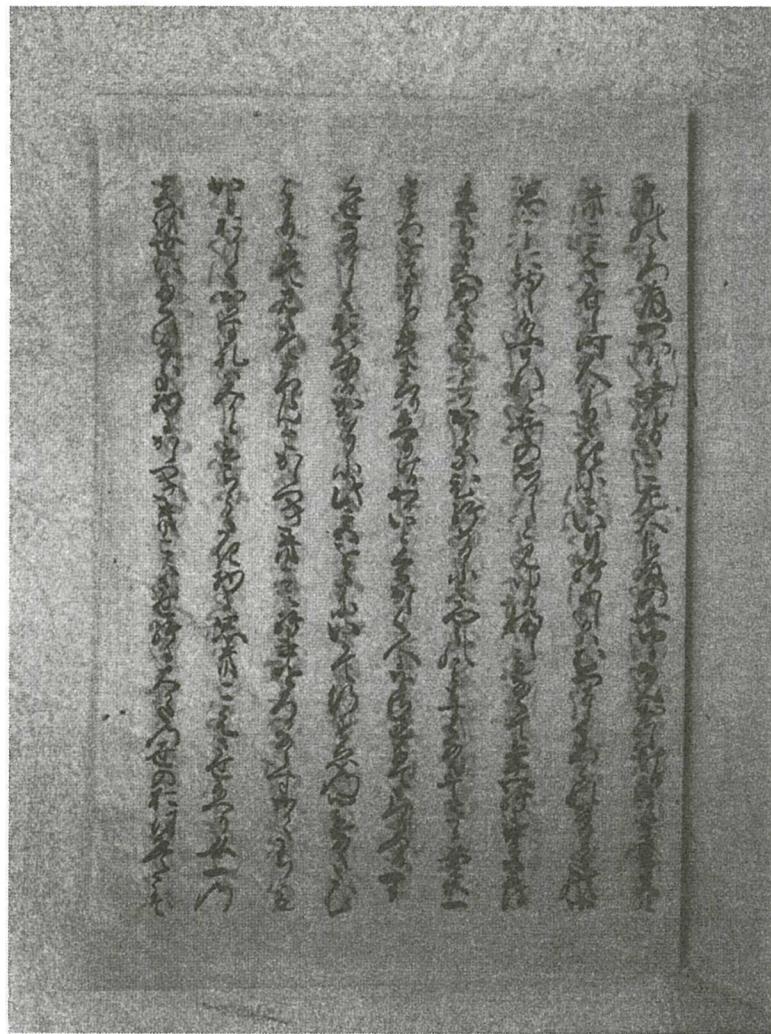
1 つきていとようすみなれにたれはめやすのわさやと見てま  
 2 つる物かられいのいかにそやおほゆる心のそひたるそあやし  
 3 きやされとしちの御心はへはいとあはれにうしろやすくそ  
 4 思きこえ給けるなにくれと御物語きこえかはし給てゆふつ  
 5 かた宮は内へまいりたまはんとて御くるまのさうそくして人々  
 6 おほくまいりあつまりなどすればたち出給てたいの御かたへ  
 7 まいり給へり山さとのけはひひきかへてみすのうち心にくゝ  
 8 すみなしでおかしけなるわらはのすきかけほの見ゆるして  
 9 御せうそこきこえ給へれば御しとねさし出てむかしの心しれる

**13ウ**

1 人なるへし出きて御かへり聞ゆあさタのへたても  
 2 あるましうおもふ給へらるゝ程なからその事となくできこえ  
 3させんも中々なれくしきとかめやどつゝみ侍程に世の中  
 4 かはりにたるこゝちのみそかし侍や御まへのこすゑも霞  
 5 へたてゝ見え侍にあはれるこそおほくも侍かなとき  
 6 こえて打なかめて物し給氣しき心へるしけなるをけに  
 7 おはせましかはおほつかなからすゆきかへりかたみに花の色  
 8 鳥のこゑをもありにつけつゝすこし心ゆきてすくしへかり  
 9 ける世をなどおほし出るにつけてはひたぶるにたへこもり

**14才**

1 給へりしすまるの心ほそさよりもあかすかなしうくちおしき事そ  
 2 いとゝまさりける人々もよのつねにうとくしくなもてなしきこえ給そ  
 3 かきりなき御心の程をはいましもこそ見たてまつらせ給へけれなときこ  
 4 ゆれと入つてならするとぞし出きこえむことのつゝましきをやすらひ  
 5 給程に宮出たまはんとて御まかり申しにわたり給へりいときよらにひき  
 6 つくろひけさうし給て見るかひある御さま也中納言はこなたになりけりと  
 7 見給てなどかむけにさしはなちてはいたしすへ給へる御あたりにはあまり  
 8 あやしと思ふまでうしろやすかりし心よせを我ためはをこかましき  
 9 こともやとおぼゆれこさすかにむけにべたておばかりんはつみもこそうれ  
 8 はぐるしうおほされけり



## 1才

1 そのころ藤つほど聞ゆるはこ左大臣殿の女御になんおはしけるまた春宮と  
 2 きこえさせし時人よりさきにまいり給にしかはむつましくあはれるかたの御  
 3 思はことに物し給ふめれとそのしるしと見ゆるふしもなくて年へ給に中宮には  
 4 宮たちさへあまたこゝらおとなひ給めるにさやうのこともすくなくてたゞ女宮一  
 5 ところをそもそもてまつり給へりけるわかいとくちおしく人にをされたてまつりぬるす  
 6 くせなげかしくおぼゆるかはりに此宮をたにいかて行すゑの心もなくさむ  
 7 はかりにて見たてまつらんとかしつきこえ給事をろかならず御かたちも  
 8 いとおかしくおはすれはみかともうたき物に思きこえさせ給へり女一の  
 9 富を世にたくひなき物にかしつききこえさせ給に大かたの世のおぼえこそ

## 1ウ

1 をよふへうもあらねうちくの御ありさまはおさくをとらすちゝおどゝの  
 2 御いきほひいかめしかりし名残いたくおどろへねはことに心もとなき事などなく  
 3 てさふらふ人々のなりすかたよりはしめたゆみなく時々につけつゝとゝのへこのみ  
 4 ていまめかしくゆへくしきさまにもてなし給へり十四になり給とし御もきせさせ  
 5 たてまつりたまはんとて春より打はしめてこと事なくおぼしいそきて何事  
 6 もなへてならぬさまにおぼしままくいにしへよりつたはりたりけるたから物とも  
 7 此おりにこそはとさかし出つゝいみしくいとなみ給に女御夏ころ物のけにわつ  
 8 らひ給ていとはかなくうせたまひぬいふかひなくくちおしき事を内にもおぼし  
 9 なげく心はへなさけへしくなつかしきところおはしつる御かたなれば殿上人とも

## 2オ

1 こよなくさうへかかるへきわさかなとおしみ聞ゆ大かたさるましききは  
 2 の女官などまてしのひきこえぬはなし宮はましてわかき御こゝちに  
 3 心ほそくなしよくおほしいりたるをきこしめして心くるしくあはれにおぼし  
 4 めされは御四十九日すくるまゝにしのひてまいらせたてまつり給へり日々に  
 5 わたらせ給つゝ見たてまつらせ給くろき御そにやつれておはするさまいとゝ  
 6 らうたけにてあてなる氣しきまさり給へり心さまもいとよくおどなひ給  
 7 てはゝ女御よりもいますこしつやかにおもりかなるところはまさり給へるをう  
 8 しろやすくは見たてまつらせ給へとまことには御はゝかたにてもうしろ見と  
 9 たのませ給ふへきをちなとやうのはかゝしき人もなしわつかに大蔵卿すりのかみ

## 2ウ

1 などいふは女御にもことはらなりけることに世のおぼえをもりかにもあらすやむ事なからぬ  
 2 人々をたのもし人にておはせんに女は心くるしき事おぼかりぬへきにこそいとおしけれなど  
 3 御心一なるやうにおぼしあつかうもやすからさりけり御まへの菊うつろひはてゝさかり  
 4 なるころ空のけしきのあれに打しくるゝにもまつ此御かたにわたらせ給て  
 5 むかしの事なときこえさせ給に御いらへなともおほとかなる物からいはけなからず打き  
 6 こえさせ給をうつくしく思きこえさせ給かやうなる御さまを見しりぬへからん  
 7 人のもてはやしきこえむもなとかはあらざらん朱雀院のひめ宮を六条院に  
 8 ゆつりきこえ給しおりのためともなどおぼし出るにしはしいてやあかすもあるかな  
 9 さうでもおはしなましと聞ゆる事ともありしかと源中納言の人よりことなるあり

## 3オ

1 さまでかくよろづをうしろみたてまつるにこそそのかみの御おぼえおどろへすや  
 2 む事なきさまにてはなからへたまはめれさらすは御心よりほかなる事ともゝ出きてをのつから

3 人にからめられ給事もやあらましなどおほしつゝけでともかくも御らんする世にや思きた  
 4 めましとおほしよるにはやかてそのついてのまゝに此中納言よりほかによるしかるべき人また  
 5 なかりけり富たちの御かたはらにさしならへたらんに何事もめさましくあらしをもとより思ふ  
 6 人もたりとて聞にくき事打ますましくはたあめるをつるにさやうの事なくしてしもえあら  
 7 しさらぬさきにさもやほのめかしてましなとおりくおほしめしけり御こなどうたせ給暮行  
 8 まゝに時雨おかしき程にて花の色もゆふはへしたるを御らんして人めしてたゞいま殿上  
 9 にはたれくかどとはせ給に中つかさのみこかんづけのみこ中納言源のあそんさやひふと

## 3ウ

1 そうす中納言のあそんこなたへとおほせ事ありてまいり給へりけにかくとりわきてめし  
 2 出るもかひありてとをくよりかほれるにほひよりはしめ人にことなるさまし給へりけふの時雨  
 3 つねよりことにのとかなるをあそひなともすさましきかたにていとつれくなるを  
 4 いたつらに日ををくりたばふれにても是なんよかるへきとてこはんめし  
 5 出て御暮のかたきにめしよせいつもかやうに氣ちかくならしまつはし給にならひに  
 6 たれはさにこそいと思ふによきのり物はありぬへけれとかるくしきはえわたすま  
 7 しきをなにをかはなどのたまはする御氣しきいかゝ見ゆらんいと心つかひしてさふらう給ふ  
 8さてうたせ給に三はんに数まけさせたまひぬねたきわさかなとてまつけふは  
 9此花一えたゆるすとのたまはすれは御いらへきこえさせておりておもしるき

## 4オ

1 えたをおりてまいりたまへり

2 よのつねのかきねににほふ花ならはこゝろのまゝに

3 おりて見ましをとそうし給へるようゐあさからすみゆ

4 霜にあへすかれにしそのゝ菊なれとのこりの色は

5

あせすもあるかなどのたまはすかやうにおりくほのめかさせ給御氣しきを人つて  
 6 ならすうけたまはりなかられいの心のくせなればいそかしくしもおほえすいてやほい  
 7 にもあらすさまへいとおしき人々の御事ともをよく聞くしつゝ年へぬるをいま

8 さらにひしりよの物の世にかへりいてんこゝちすへき事と思ふもかつはあやしや

9 ことさらに心をつくす人たにこそあなれとは思なからきさきはらにおはせはしもど

## 4ウ

1 おほゆる心のうちそあまりおほけなかりけるかゝる事を右のおほひ殿ほの聞給て

2 六の君はさりとも此君にこそはしふゝなりともまめやかに恨よらはつねにはえいなひはて

3 しとおほしつるを思のほかの事出きぬへかなりとねたくおほされければ兵部卿宮はた

4 わさとにはあらねとおりくにつけつゝおかしきさまにきこえ給ふ事たえさりければさはれ

5 なをさりのすきにはありともさるべきにて御心とまるやうもなどかならんみつもる

6 ましく思さためんとてまなをくしきはにくたらんはたいと人わろくあかぬ

7 こゝちすへしなとおほしなりにたり女御うしるめたけなる世のすゑにてみかとたに

8 むこもとめ給世にましてたゞ人のさかりすきんもあいなしなとそしらはしけに

9 のたまひて中宮をもまめやかに恨申給事たひかさなれはきこしめしわづらい

## 5オ

1 ていとおしくもかくおほなくおもひ心さして年へぬるをあやにくにのかれきこえむも  
 2 なさけなきやうならんみこたちは御うしろみからこそともかくもあれうへの御世もすゑに  
 3 なりゆくとのみおほしのたまうめるをたゞ人こそ一ことにさたまりぬればまた心をわ  
 4 けん事もかたけなめれそれたにかのとゝのまめたちなからこなたかなたうらやみ  
 5 なくもてなして物したまはすやはあるまして是は思をきて聞ゆる事もかなはゝ

6 あまたおさるはんになとかあらんなどれいならす事つゝけてあるへかしきいとせさせ  
 7 給を我御心にももとよりもではなれではたおほさぬ事なればあなたにはなとて  
 8 かはあるましきさまにもきこせたまはんたゞと事うるはしけなるあたりに  
 9 とりこめられて心やすくならひ給へるありさまのところせからん事をなまくるしく

### 5ウ

1 おほすに物うきなれとけに此おどりにあまりえんせられはてんもありな  
 2 からんなどやうへおほしよはりにたるへしたなる御心なれはかのあせちの大納言の  
 3 こうはいの御かたをもなをおぼしたえす花もみちにつけてものたまいわたりつゝいつれをも  
 4 ゆかしくはおほしけりされとその年はかはりぬ女二の富も御ふくはてぬれはいとゝ何事にかは  
 5 はゝかりたまはんさもきこえ出はとおほしめしたる御氣しきなどつけ聞ゆる人々もあるを  
 6 あまりしらずかほならんもむかへしくなめけなりとおほしをこしてほのめかしまいらせ給お  
 りくも

7 あるにはしたなきやうはなとてかはあらんその程におほしさためたなりとつてにもきく  
 8 みつから御氣しきをもみれど心のうちにはなをあかすすき給にし人のかなしさのみわするへき  
 9 世なくおぼゆれはうたてかく契りふかく物し給ける人のなとてかはさすかにうとくでは

### 6オ

1 すきにけんと心えかたく思出らるくちおしきしななりともかの御あさまにすこしもおぼえ  
 2 たらむ人は心もとまりなんかしむかしありけんかうのけふりにつけてたにしま一たひ見たて  
 3 まつる物にもかなどのみおぼえてやむ事なきかたさまにいつしかなどいそく心もなし右のおぼ  
 い殿  
 4 にはいそきたて八月はかりにときこえ給けり二条院のたいの御かたには聞給ふにされ  
 5 はよからず人わらへに憂事出こん物そとは思ふへすくしつる世そかしあたなる御心と聞  
 6 わたりしをたのもしけなく思なから目にちかくてはことにつらけなる事も見えすあはれに  
 7 ふかき契りをのみし給へるをにはかにかはりたまはん程いかゝはやすきこゝ地はすへ  
 8 からんたゞ人のなからいなどのやうにいとしも名残くなとはあらすどもいかにやすけ  
 9 なき事おぼからんなをいと憂身なめれは山すみにかへるへきなめりとおほすに

### 6ウ

1 やかで跡たえなましよりは山かつの侍おもはんも人わらへなりかしと返々も富ののたまい  
 2 をきし事にしたかひて草のもとをかれにける心かるさを我なからはつかしくもつらぐも  
 3 思しり給こひめ君のいとけなけに物はかなきさまにのみ何事もおぼしのたまい  
 4 しかど心のそのつしやかなるところはこよなくおはしける中納言の君のいまに  
 5 わするへき世なくなけきわたり給めれどもし世におはせましかはまたかやうにおほす事は  
 6 ありもやせましそれをいとふかくいかてさはあらしと思ひり給てとさまかうさまにもて  
 7 はなれん事をおほしてかたちをもかへてんとし給しそかしかならすさるさまにてそ  
 8 おはせましいま思ふにいかにをもりかなる御心をきてならましなき御影ともゝ我  
 9 をはいかにこよなきあはつけさと見給ふらんとはつかしくかなしくおぼせとなにかは

### 7オ

1 かひなき物からかゝる氣しきをも見えたてまつらんとしのひかへしてきゝも  
 2 いれぬさまにてすべし給宮はつねよりもあれになつかしくおきふしかたらひ  
 3 契りつゝ此世のみならぬなかき事をのみきこえ給ふさるは此五月はかり  
 4 よりれいならぬさまになやましくし給ふ事もありけりこちたゞぐるしかりなどは  
 5 したまはねどつねよりも物まいる事もいとゝなくふしてのみおはすなるをまたさ  
 6 やうなる人のありさまよくも見しりたまはねはたゞあづきころなれはかくおはす

7 なめりとそおほしたるさすかにあやしとおほしかむる事もありでもいいかなるそざる  
8 人こそかやうにはなやむなれなどのたまふおりもあれといとはつかしくし給てさりけなく  
9 のみもてなし給へるをさしききこえ出る人もなけれはたしかにもえしりたまはす八月に

### 7ウ

- 1 なりねれはその日などほかよりそつたへきゝ給富はへたてんとにはあらねどいひいてん程心ぐるしく
- 2 いとおしくおほされてもものたまはぬを女君はそれさへ心うくおほえ給しのひたる事にもあります
- 3 世中なへてしりたる事をその程などたにのたまはぬ事とじかゝうりめしからさらんかくわたり給し
- 4 後はことなる事なけれは内にまいり給てもよゐじまゐる事はことにしたまはすこゝかしこの御夜かれ
- 5 などもなかりつるをにはかに思たまはんと心へるしきまきいはしに此ころは時々御とのゐとてまいり
- 6 紿などし給つゝかねてよりならはしきこえ給をもたゝつらきかたにのみそ思をかれ給ふへき中
- 7 納言殿もいとへおしきわさかなときこえ給花心におはする富なれはあはれとおほすともいませ
- 8 かしきかたにかならず御心うつろひなんかし女かたもいとしたゝかなるわたりにてゆるひなくきこえ
- 9 まつはしたまはゞ思ひもさもならひたまはてまつ夜おほくすくしたまはんこそあはれるるへけ

### 8オ

- 1 れなど思よるにつけてもあひなしや我心よなしにゆつりきこえけんむかしの人に心をしめてし後
- 2 大かたの世を思はなれてすみはてたりしかたの心もにこりそめにしかはたゝ彼御事をのみとさま
- 3 かうさまには思ながらさすかに人の心ゆるされてあらん事ははじめより思しほいなかるへしとはゝか
- 4 りつゝたゝいかにしてすこしもあはれとおもはれて打とけ給へらんけしきをも見むと行さきのあらまし事
- 5 のみ思つゝけしに人は心にもあらすもてなしてさすかに一かたにもさせしはなつましく思給へるなくさめに
- 6 おなし身かといひなしてほいならぬかたにおもむけ給しかねたくらめしかりしかはまつその心をたかへんと
- 7 ていそきせしわきそかしなどあなかちにめゝしく物ぐるをしく出あつきたばかりきこえし程思出
- 8 るもいとけしからさりける心かなと返々そくやしき頃めさりともその程のあつさま思ひ出給我き
- 9 かんところをもすこしはばゝかり給しやと思ふにじてやいまはそのおりの事などかけてものたまひ出

### 8ウ

- 1 さめりかしなをあたなるかたにすゝみうつりやすくなる人は女のためのみにもあらすたのもしけなくかるへ

2 しき事もありぬへきなめりかしなとにくゝ思きこえ給わかまことにあまり一かたにしみたる心

ならい

3 にはいとこよなくもとかしく見ゆるなるへしかの人をむなしく見なし給てし後思ひには

4 みかとの御むすめをたまはんとおもほしをきつるもふれしくもあらす此君を見ましかはとお

5 ほゆる心の月日にそぐてまさるもたゝかの御ゆかりと思ふに思はなれかたきそかしはらからと

6 いふ中にもかきりなく思かはし給へりし物をいまはとなり給にしはてにもとまるらん人をおな  
し

7 事とおもへとてみゆつはおもはすなる事もなしたゝかの思をきてしさまをたかへ給へるのみな  
んぐちお

8 しううらめしきふじにて此世には残るべきとのたまひし物をあまがけりてもかやうなるにつけ

9 てはいと、ひらじとや見給ふらんなどづくへと人やりならすひとりねし給夜なへははかな  
き風の

### 9才

1 音にも田のみさめつゝきしかた行き人のうへあちきなき世を思めへりし給なけのすまゐに物

2 いひふれけちかくつかひならし給人々の中にはをのつからにくからすおほせらるゝもありぬへけ  
れとまこ

3 とには心とまるもなきこそさはやかなれさるはかのきんたちの程にをとるましきはの人々

4 も時世にしたひつゝおどろへて心ほそけなるすまゐなどをたつねとりつゝあらせ給などいとお  
ほかれど

5 いまはと世をのかれそむきはなれなん時此人こそととりたてゝ心とまるほたしになるばかりな  
る

6 事はなくてすぐしてんと思ふ心つかひふかかりしをいてさもわろく我心ながらぬちけても

7 あるかななどつねよりもやかてまとりますあかし給へるあした霧のまかきより花の色々おも

8 しろく見えわたる中にあさかほのはかなげにてましりたるをなをことにめとまるこゝちし給あ  
く

9 るまさきてとかつねなき世にもなすりふるも心べるしきなめりかしかうしもあけながら

### 9ウ

1 いとかりそめに打ふじつゝのみあかし給へは此花のひらくる程をもたゝひとりのみ見給ける

2 人めして北の院にまいるんにことくへしからぬくるまさじ出させよとのたまへは富は昨日より

3 うちになんおはしますなるよへ御くるまるてかへり侍りにきと申すさはれかのたいの御かたの

4 なやみ給なるとらひきこえんけふは内にまいへき日なれは日だけぬさきにとのたまひて

5 御さうそくし給出給ふまゝおりて花の中にましり給へるさまことさらにえんたち色めても

6 もてなしたまはねとあやしくたゞ打みるになまめかしくはつかしけていてみしくけしきたつ

7 色このみともになすりふくもあらすをのつからおかしくそ見え給けるあさかほをひき

8 よせ給ふに露いたくこぼる

9 けさのまの色にやめてんをく露のきえぬにかゝる

### 10才

1 花と見るへひとりこちておりてもたまへりをみなへしをは見すきてそ出給ぬるあけ

2 はなるゝまゝに霧立みちたる空おかしきに女とちはしどけなくあさいし給へらんかしかうし

3 つま戸など打たゝきこはつくらんこそうぬへかかるへけれ朝またきまたき来にけりと思

4 ながら人めしてちうもんのあきたるより見給へはみかうしともまいりて侍へし女房の御けはひ  
もし侍つと申せはおりて霧のまきれにさまよくあゆみいり給へるを富しのひたる

6 ところよりかへり給へるにやと見るに露に打しめり給へるかほりれいのいとさまことにほ  
 7 ひくれはなをめさましくおはすかし心をあまりおさめ給へるそにくきなどといなくわかき  
 8 人々はきこえあへりおとろきかほにはあらすよき程に打そよめきてしとねさし  
 9 いてなどするさまもじとめやすし是にさくらへくゆるさせ給程は人々しきこゝ地すれど

## 10ウ

1 なをかゝるみすのまへにさしはなたせ給へるうれはしさにしはくもえきるりはぬとのたまへ  
 はざらは

2 いかゝは侍へからんなど聞ゆ北おもてなどやうのかくれそかしかゝるふる人などのせいかはん  
 に

3 ことはりなるやすみところはそれも又たゞ御心なれはうれへ聞ゆへきにもあらすとてなけしに  
 4 よりかゝりておはすれはれいの人々なをあしこもとになどそゝのかし聞ゆもとよりけはひはや  
 り

5 かにをくしくなとは物したまはぬ人からなるをいよくしめやかにもてなしおさめ給へればい  
 まはみつ

6 からきこえ給事もやうへうたつゝましかりしかたすこしつゝうすらきておもなれ給にたり  
 7 なやましくおほさるらんさまもいかなれはなどとひきこえ給へとはかくしくもいらへきこえ  
 たまはす

8 つねよりしめり給へる氣しきの心くるしきもあはれにおもほえ給てこまやかに世中のあるへき  
 9 やうなどをはらからやうの物のあらましやうにをしへなくさめきこえ給こゑなどもわさと

## 11オ

1 に給へりともおほえさりしかとあやしきまでたゞそれとのみおほゆるに見くるしかるましくは  
 2 すたれもひきあけてさしむかひきこえまほしく打なやみ給へらんかたちゆかしくおほえ給ふも  
 3 なを世中に物おもはぬ人はえあるましきわさにやあらんとそ思しられ給人々しくきらへしき  
 4 かたには侍らすとも心に思ふ事ありなげかしく身をもちなやむさまにななくてすべし  
 5 つへき此世とみつから思ふ給へしを心からかなしき事をもこかましくやしき物おもひをもか  
 たく

6 にやすからず思侍こそいとあひなけれつかさくらゐなどいひてたいしにすめることはり  
 7 のうれへにつけてなけきおもふ人よりもこれやいますこしつみのふかさはまさるらむ

8 などいひつゝおり給へる花を扇に打てきて見ぬ給へるにやうくあかみもてゆくも

9 中々色のあはひおかしく見ゆればやをらさしいれて

## 11ウ

よそへてそ見るへかりけるしら露のちきりかをきし

1 あさかほの花ことさらひてしももてなさぬに露をおとさてもたまへりけるよとおかしく  
 2 見ゆるにをきなからかるゝ氣しきなれば

　　きえぬまにかれぬる花のはかなさにをくるゝ露は

3 なをそまされるなにかゝれるといとしのひて事もつゝかすつゝましけにいひけち

4 給へる程なをよくに給へる物かなと思ふにもまつそかなしき秋の空はいますこしなかめ  
 5 のみまさり侍つれへのまきらはしにもと思てさいつころ内に物して侍き庭もま

6 かきもまことにいとゝあればてゝ侍しにたへかたき事おほくなんこ院のうせ  
 7 紿て後二三年はかりのすゑに世をそむき給しさかの院にも六条院にもさし

## 12オ

1 のそく人の心おさめむかたなく侍る木草の色につけても涙に暮てのみなんかへり侍  
 2 けるかの御あたりの人はかみしも心あさき人なくこそ侍けれかたくつとひ物せられける人々

も

3 みなとこゑへにあかれぢりつゝをのへ思はなるゝすまゐをし給ふめりしにはかなき程の女房

4 などはまして心おさめんかたなくおほえ侍けるまゝに物おほえぬ心にまかせつゝ山はやしに入ましり

5 すゝろなるゆ中人になりなとあはれにまとひぢるこそおぼく侍けれさて中々みなあらしげて  
6 わすれ草おぼして後なん此右のおどゝもわだりすみ富たちなどもかたへ物し給へはむかしに  
かへり

7 たるやうに侍めるさる世にたくひなきかなしさと見給へし事も年月ふれは思さますおりの

8 出くるにこそはと見侍にけにかきりあるわさなりけりとなん見侍かくはきこえさせなからも

9 かのいにしへのかなしさはまたいはけなくも待ける程にていとさしもしまぬにや侍けんなを此

### 12ウ

1 ちかき夢こそますへきかたなく思給へしらるゝはおなことよのづねなきかなしひなれ  
2 とつみふかきかたはまさりて侍にやとそれさへなん心うく侍とてなき給へる程いと心ふかけ也  
3 むかしの人をいとしも思きこえさん人たに此人の思給へる氣しきを見んにはすゝるに  
4 たゞにもあるましきをまして我も物心ほそく思みたれ給につけてはいとづねよりも  
5 おもかけに恋しくかなしくおほえ給心なればじますこしもよほされて物もえきこえたまはす  
6 ためらひかね給へるけはひをかたみにいとあはれと思かはし給世のうきよりはなど人はいひし  
7 をもさやうに思へりふる心もことになくて年ころはすくし侍しをいまなんなをいかてしつかな  
る

8 さまにてもすくさまほしく思給ふるをさすかに心にもかなはさめるを弁のあまこそ

9 浦山しく侍れ此廿日あまりの程はかのちかき寺の鐘のこゑも聞わたさまほしく

### 13オ

1 おほえ侍をしのひてわたさせ給てんやときこえさせはやとなん思侍つるとのた

2 まへはあらさことおぼすともいかてかは心やすきをのこたにゆきゝの程あらまほしき

3 山みちに侍れは思つゝなん月日もへたり侍ご富の御忌日はかのあさりにさるへき

4 事ともみないひをき侍にきかしこはなをたうときかたにおぼしゆつりてよ時々見給に

5 つけでは心まとひたえせぬもあひなきにつみうしなふさまになしてはやとなん思

6 給ふるをまたいかゝおほしきつらんともかくもさためさせたまはんにしたかひて

7 こそはとてなんあるへからんやうにのたまはせよかし何事もうとからすうけたま

8 はらんのみこそほいのかなふにては侍らめなとまめたちたる事ともをきこえ給ふ経伝など

9 此うへにくやうし給ふべきなめりかやうなるついてに事つけてやをらこもりぬなはや

### 13ウ

1 などおもむけ給へる氣しきなれいとあるましき事也なを何事も心のとかにおぼしなせと

2 をしへきこえ給ふ日さしあかりて人々まゝりあつまりなどすればあまりなかぬも事あり

3 かほならんによりて出給なんとていつこにてもみすの戸にはならひ侍らねははしたなきこゝ地

4 し侍となんいままたかやうにもさくらはんとてたちたまひぬ富のなどかなきおりにはきつらん  
と

5 思たまひぬへき御心なるもわづらはしくてさくらひへたうなる右京のかみめしてよへまかで

6させたまひぬとうけたまはりてまいりつるをまたしかりければくちおしきを内にやまいるへき  
と

7 のたまへはけふはまかでさせ給なんと申せはさうはゆふかたもとて出たまひぬなを此御気はひ  
8 ありさまを聞給たひとことになとてむかしの人の御心をきてをもてたかへて思くまなかりけんと

9 くゆる心のみまさりて心にかゝりたるもむつかしくなそや人やりならぬ心ならんと思かへし給  
その

### 14才

1 まゝにまたさうしていとゝたゞをこなひをのみし給つゝ明し暮し給はゝ富のなを  
2 いともわからくおほときてしとけなき御心にもかゝる御氣しきをいとあやふくゆゝしと  
3 おほしていくよしもあらしを見たてまづらん程はなをかひあるさまにて見え給へ世中を  
4 思すてたまはんをもかゝるかたちにてはさまだけ聞ゆべきにもあらぬを此世のいふ  
5 かひなきこゝちすへき心まとひにいとゝみやえんとおほゆるとのたまふかかたし  
6 けなくいとおしくてようつを思けちつゝ御まへにては物おもひなきさまをつ  
7 くり給右のおほひ殿には六条院のひんかしのおどゝみかきしつらひてかきり  
8 なくよろつをとゝのべて待ちこえ給に十六日の月やうゝさしあかるまで心もと  
9 なけれどいとしも御心にいらぬ事にていかならんとやすからずおもほしてあないし給へは

### 14才

1 此夕つかた内より出給て二条院になんおはしますなると人申すおほす人もたまへ  
2 れは心やましけれとこよひすきんも人わらへなるへければ御この頭中将してきこえ給へり  
3 おほ空の月たにすめるわか宿に待よぬすきて  
4 見えぬ君かな富は中々いまなんとも見えし心くるしとおほして内におはしけるを御  
5 文きこえ給へりける御返やいかゝりけんなをいとあはれにおほされければしのひて  
6 わたり給へりける也らうたけなるありさまを見すてゝ出へきこゝ地もせすいとおし  
7 ければよろつに契りなくさめてもるともに月をながめておはする程なりけり女君は  
8 曰ころもよろつに思ふ事おほかれといかて気しきもいたさしとねんしかへしつゝ  
9 つれなくさまし給事なれはことにきゝもとゝめぬさまにおほとかにもてなしておはするけしき

### 15才

1 いとあはれ也中将のまいり給へるを聞給てさすかにかれもいとおしければ出たまはんといま  
いと  
2 とくまゝいりこんひとり月な見給そよ心空なれはいとくるしときこえをき給てなをかた  
3 はらじたければかくれのかたよりしんてんへわたり給御うしろてを見をくるにともかくもおも  
はね  
4 とたゞ枕のうきぬくきこゝ地すれば心うき物は人の心なりけりと我なかり思じりるおさなき  
5 程より心ほそくあはれなるみともにて世中を思とゝめたるさまにもおはせざらし入一といひを  
6 たのみきこえさせてさる山里に年へしかといつとなぐつれへにすこゝありながらいとかく心  
に  
7 しみて世をうき物と思しらさうしに打つゝきあさましき御事ともを思し程は世にまた  
8 とまりてかた時ふくもおほえす恋しくかなしき事のたくひあらしと思しをいのちなくて  
9 いまゝでもなからふれは人の思たりしよりは人数にもなるやうなるありさまをなかかるへき  
6 月すみのほりて夜ふくるまゝによろつ思みたれ給松風の吹くる音もあらましかりし  
1 事とおもはねと見るかぎりはにくけなき御心はへもてなしなるにやうへおもか事うすひきで  
ありつる  
2 を此ふしの身のうさはたいはんかたなくかきりとおぼゆるわさなりけりひだすら世になく  
3 なり給にし人々よりはさりとも是は時々もなどかはともおもふへきをこよひかく見すてゝ  
4 出給ふつらさきしかた行きみなかきみたり心ほそくいみしきか我心ながら思やるかたなく  
5 心うくもあるかなをのつかなからへはなどなくさめんことを思ふにさらにはすて山の  
6 月すみのほりて夜ふくるまゝによろつ思みたれ給松風の吹くる音もあらましかりし

### 15才

7 山おろしに思へりふれはいとのとがになつかしくめやすき御すまゐなれといよひはれむおほえす  
8 しゐの葉のをとにはをとりておもほゆ

9 山さとの松のかけにもかくばかり身にしむあきの

### 16才

1 風はなかりききしかたをわすれにけるにやあらんなかめいりておはするを見わつら  
2 ひて老人ともなどいまはいらせたまはね用見るはいみ侍物をあさましくはかなき  
3 御くた物をたに御らんしいれねはいかにならせたまはんあな見るしやゆゝしう思ひ出ら  
4 るゝ事も侍をいとこそわりなくと打なげきていて此御事よさりともかうてをろかに  
5 はよもなりはてさせたまはしさいへともの心さしむかく思そめつる中は名残なからぬ  
6 物そなどいひあへるもさま／＼にき／＼にく／＼いまはいかだも／＼かけていはさりなんたゞにこ  
そ

7 見めとおほさるゝは人にはいはせしわれひとり恨きこえむとにあらむいてや中

8 納言殿のさはかりあはれる御心ぶかさをなどそのかみの人々はいひあはせて人の

9 御すべのあやしかりける事よどいひあへり富はごと心くるしくおほしなからくまめかしき

### 16才

1 御心はいかてめてたきさまに待思はなれんと心けさうしてえならすたきしめ給へる  
2 御けはひいはんかたなし待つけきこえ給へるところのありさまもいとおかしかりけり人の程さ

3 やかになとはあらてよき程になりあひたるこゝ地し給へるをいかならん物々しくあきやきて  
4 心はへもたをやかなるかたはなく物ほこりかになとやあらんさらばこそうたてあるへけれ  
5 なとはおぼせとさやうなる御氣はひにはあらぬにや御心さしをるかなるへくもおぼされさり  
6 けり秋の夜なれとふけにしかはにや程なく明ぬかへり給てもたいへはふともえわたりたまはす  
7 しはしおほとのこもりておきてそ御文かき給ふ御氣しきけしうはあらぬめりとおまへなる人々  
8 つきしるふたいの御かたこそ心くるしけれ天下にあまねき御心なりともをのつからけをさるゝ  
9 事もありなんかしなとたゞにしもあるすみななれつかうまつりたる人々なれはやすからず

### 17才

1 打いふ文もありてすべてねだけなるわさにそありける御かへりもこなたにてこそはと  
2 おぼせと世の程のおぼつかなさもつねのへたてよりはいかゝと心くるしければいそきわたり  
3 給ふねぐたれの御かたちいとめてたく見ところありて入給へるにふし給へるもうたてあれば  
4 すこしおきあかりておはするに打あかみ給へるかほのにほひなとけさしもつねなりことにおか  
し

5 けきまさりて見え給にあひなく涙くまれてしはし打まもりきこえ給をはつかしくおぼして  
6 打うつふし給へるかみのかゝりかんさしなとなをいとありかたけ也富もなまはしたなきにこま  
や

7 かなる事なとはふともえいひ出たまはぬおもかくしにやなとかぐのみなやましけなる御けし  
8 きならんあつき程の事とかのたまひしかはいつしとすゝしき程待出てもなをはれ／＼しから  
9 ぬは見ぐるしきわさかなさま／＼にせさする事もあやしくしるしなきこゝちこそそれさは

### 17才

1 ありともす法は又のべてこそはよからめしるしあらん僧をかななにかし僧都をそよぬに  
2 さゑらはすへかりけるなどやうなるまめことをのたまへはかかるかたにことよきは心つきなく  
3 おほえさへとむけにいらへきこえさらんもれいならねはむかしも人ににぬありさまにてかやう  
4 なるおりはありしかとをのつからいとよくをこたる物をとのたまへはいとよくこそさはやかな

れ

5 と打わらひてなつかしくあひきやうつきたるかたは是にならふ人はあらしかしどはおもひ  
 6 なからなを又ゆかしきかたの心いられもたちそひ給へる御心さしをろかにもあらぬなめり  
 7 かしされと見給程はかはるけちめもなきにや後の世にてちかひたのめ給ふ事とも  
 8 のつきせぬをきくにつけてもけに此世はみしかゝめるいのち待間もつらき御心は見え  
 9 ぬへかめれば後の契りやたかはぬ事もやあらんとおもふにこそなをこりすまにまたも

**18才**

1 たのまれぬへけれとていみしくねんすべかめれとえしのひあへぬにやけふはなきた  
 2 まひぬ日ころもいかでかう思けりと見えたてまつらしとよろつに思まきはしつる  
 3 をさまへに思あつむることしおほかれはさのみもえもてかくされぬにやこぼれそめ  
 4 てはどみにもえためらはぬをいとはつかしくわひしと思ていたくそむき給へはしうて  
 5 ひきむけ給つゝ聞ゆるまゝにあはれる御ありさまと見つるをなをへたてたる御  
 6 心こそありけれなざらすはよの程におほしかはりたるかとてわか御袖して涙をのこひ  
 7 給へは夜のまの心かはりこそたまふにつけてをしはかられ侍ぬれとてすこしほゝゑみぬけに  
 8 あか君やおさなの御物いひやなさりともまことには心にくまのなけれは心やすしいみしくいと  
 9 はりして聞ゆともいとしるかるへきわさそむけに世のことほりしりたまはぬこそらうたき

**18ウ**

1 物からわりなけれよし我身になしても思めくらし給へ身を心ともせぬありさまなりかしもし  
 2 思ふやうなる世もあらは人にまさりける心さしの程じらせたてまつるへき一ふしなん  
 3 あるたはやすくこと出へき事にもあらねはいのちのみこそなどのたまう程にかしこに  
 4 たてまつれ給へる御つかひいたくゑいすきにければすこしはゝかるへき事ともわすれて  
 5 けさやかに此みなみおもてにまいれりあまのかるめつらしき玉藻にかつきむもれたるを  
 6 さなめりと人々見るいつの程にいそきかき給へらむと見るもやすからずはありけんかし宮  
 7 あなたちにかくすへきにはあらねどさしくみはなをいとおしきをすこしのようぬはあれかしと  
 8 かたはらいたれといまばかひなけれど女房して御文とり入させ給おなしくはへたてなき  
 9 さまにもてなしはてゝむとおもほしてひきあけ給へるにまゝはゝの宮の御手なめりと見ゆ

**19才**

1 れはいますこし心やすくて打をき給へりせんしかきにてもうしろめたのわさやさかしら  
 2 いたさにそゝのかし侍はなやましけにてなん  
 3 をみなへししほれそまさるあさ露のいかにをきける  
 4 名残なるらんあてやかにおかしくかき給へりかことかましけなるもわづらはしの世やま  
 5 ことは心やすくてしはしはあらんと思ふ世を思のほかにもあるかななとはのたまへとまた  
 6 ふたつとなくてさるへき物に思ならひたるたゝ人の中こそかやうなる事のうらめしさなど  
 7 も見るくるしくはあれおもへは是はいとかたしつみにかゝるへき御事也宮たちはと聞ゆる  
 8 中にもすちことによ人思きこえたれはいくたりもへえたまはん事ももときある  
 9 ましければ人も此御かたいとおしなとも思たえぬなるへしかばかり物々しくかしつき

**19ウ**

1 すへ給て心くるしきかたをろかならすおほしたるをそさいはひおはしけると聞ゆめる  
 2 みつからの心にもあまりにならはし給てにはかにはしたなかるへきかなけかしきなめり  
 3 かゝるみちをいかなれはあさからす人の思ふらんとむかし物語などを見るにも人のうへにても  
 4 あやしくきゝ思しはけにをろかなるましき御わさなりけりと我身になりてそ  
 5 何事も思しられ給ける宮はつねよりもあはれに打とけたるさまにもてなし  
 6 紿てむけに物まいらさなるこそいとあしけれとてよしある御くた物めしよせ又さるへき

- 7 人めしてこゝからにてうせさせなどしつゝそゝのかしきこえ給へといとはるかにのみおぼし  
 8 たれは見くるしきわざかなとなげききこえ給に暮ぬれは夕かたしんてんへわたり  
 9 たまひぬ風すゝしく大かたの空おかしきころなるにいまめかしきにすゝみ給へる御心なれば
- 20才**
- 1 いとゝしくえんなるに物おもはしき人の御心のうちちはよろつにしのひかたき事のみそおばかり  
 2 ける田ぐらしのなくこゑにも山のかけのみ恋しくて  
 3 大かにきかましものを田ぐらしのこゑうひめしき  
 4 秋の暮かなこよひはまたふけぬに出給也御さきのこゑのとをくなるまゝにあまも釣する  
 5 はかりになるも我ながらにくき心かなとおもふへきゝふし給へりはしめより物おもはせ給し  
 あり
- 6 さまなどを思ひ出るもうとましきまでおほゆ此なやましき事もいかならんとすらんついてに  
 7 もやはかなくなりなんとすらんと思ふにはおしかねとかなしくもありまたじつみふかくも  
 ある
- 8 物をなとまゝりまれぬまゝに思あかし給その日はきさひの宮なやましけにおはしますとて  
 9 誰もへまいり給へれと御かせにおはしますとておどゝはひるまかて給にける中納言の君さそ  
 ひ
- 20才**
- 1 きこえ給て一つ御くるまでそいて給にけるこよひのきしきいかならんきよらをつくさん  
 2 とおもほへかめれとかきりあらんかし此君も心はつかしけれとしたしきかたのおほえは我かた  
 さまに
- 3 又さるへき人もおはせず物のはへにせんと心ことにはたおはするなれはなめりかしれいならず  
 い
- 4 そかしくまで給て人のうへに見なしたるをくちおしとも思たへすなにやかやともろ心にあつか  
 ひ
- 5 給へるをおどゝは人しれすなまねたしとおぼしけりよゐすこしする程におはしたりしん  
 6 てんのみなみのひさしひんかしによりておましまいれり御たいやつれいの御さらなとつるばし  
 け
- 7 にきよらにてまたらさきたゞ一につにけそくのさりともいまめかしきせさせ給てもぢゐ  
 8 まゝらせ給へりめつらしからぬことがきをくこそにくけれおどゝわたり給て夜いたうふけぬと  
 女房
- 9 してそゝのかし申給へといとあされてとみにも出たまはす北のかたの御はらからうの左衛門督
- 21才**
- 1 藤さいしやうなどはかり物し給からうして出給へる御さまといと見るかひあるこゝちすあるしの  
 2 頭中将さかつときさゝけて御たいまいるつきへの御かはらけ二度三度まいり給中納言の  
 3 いたくすゝめ給へるに富すこしほをゑみ給へりわづらはしきわたりをとふさはしからす  
 4 思ていひしをおぼし出るなめりされと見しらぬやうにていとまめ也ひんかしのたい  
 5 に出給て御ともの人々もてはやし給おぼえある殿上人ともいとおばかり四位六  
 6 人は女のさうそくにほそなかそへて五位十人はみへかさねのからきぬものこしも  
 7 みなけちめあるへし六位四位はあやのほそなかはかまなとかつはかきりある事をあかす  
 8 おほしければ物の色しさまなどをそきよらをつくし給へりけるめしつきとねりなどの  
 9 なくはみたりかはしきまでいかめしくなんありけるにかくにきはゝしく花やかなる事はみる
- 1 かひあれは物語などにもまつひたてたるにやあらんされとくはしへそそかそへたて
- 21才**

2 さりけることや中納言殿の御せんのなかになまおほえあさやかなひめやくひきあまれに  
 3 立ましりたりけんかへりて打なけて我とのゝなとかおいらかに此殿の御むこにうち  
 4 ならせ給ふましきあちきなき御ひとりすみなりやとちうものもとにてつぶやきける  
 5 を聞つけ給ておかしとなんおほしける夜のふけてねふたきにかのもてかしつかれつる人々は  
 6 こゝちよけにゑいみたれてよりふしぬらんかしと浦山しくなめりかし君は入てふし給て  
 7 はしたなけなるわさかなことくしけなるさましたるおやのいてゐてはなれぬながらひなれ  
 8 とこれかれ火あかくかゝけてすゝめ聞ゆるさかつきなどを思ひ出たてまつり給ふけに我  
 9 にてもよじと思ふ女御もたらましかは此宮ををきたてまつりて内にたにえまこりせさい

## 22才

1 ましとおもふに誰もへ宮にたてまつりんと心さし給へるむすめは源中納言にこそどりへ  
 に

2 いひならふなるこそ我おほえのくちおしへはあらぬなめりせはいとあまり世つかするめき  
 たる

3 物をなと心をこだりせらる内の御氣しきある事まことにおほしたらんにかくのみ物うく  
 4 おほえはありともいかゝはあらんいかにそ此君にいとよくに給へらむ時にうれしからんかしと  
 思よら

5 るゝはさすかもてはなるましき心なめりかしれいのねさめなるつれくなれはあせちの君と  
 て

6 人よりはすこし思ひまし給へるかつほねにおはしてその夜はあかし給つ明すきたらんを人のと  
 かむべ

7 きにもあらぬにくるしけにいそきおき給をたゞならすおもふへかめり  
 8 うちわたし世にゆるしなきせき川を見なれそめけむ

9 名こそおしけれいとおしければ

## 22ウ

ふかからすうへは見ゆれとせき河のしたのかよひは

1 たゆる物かはふかしとのたまはんにてたにたのもしけなきを此うへのあさゝはいとゝ心やまし  
 2 くおほゆらんかしつま戸をし明てまことは此空見給へいかてか是をしらすかほにてはあかさん  
 3 とよえんなる人まねにてはあらでいとゝ明しかたくなりゆくよるゝのねさめには  
 4 此世かの世までなん思やられてあはれるなといひまきらはしてそ出給ことにおかしき  
 5 ことの数をつくさねとさまのなまめかしき見なしにやあらんなさけなくなとは人におも  
 6 はれたまはすかりそめのたはふれことをもいひそめ給へる人のけちかくて見たてまつら  
 7 はやとのみ思聞ゆるにやあなかちに世をそむき給へる宮の御かたにえんをたつね  
 8 つゝまいりあつまりてやめいもあはれる事ほとくにつけつゝおほかるへし宮は女君の

## 23オ

1 御ありさまひる見きこえ給るにいとゝ御心さしまさりけりおほきさよき程なる人の  
 2 やうたじいときよけにてかみのさかりはかしらつきなど物よりことにあなめてた  
 3 と見え給ける色あひあまりなるまでにほひて物々しく氣たかきかほのまみ  
 4 いとはつかしけにらうへしくすべて何事もたらひてかたちよき人といはんにあがぬ  
 5 ところなし甘に一二そあまり給けるいはけなき程ならねはかたなりにあかぬところ  
 6 なくあさやかにさかりの花と見え給へりかきりなくもてかしつき給へるにかたほならず  
 7 けにおやにては心まとはし給つへかりけりたゞやはらかにあいきやうつきらう  
 8 たき事そかのたいの御かたはまつおもほし出られる物のたまういらへなどもはちら  
 9 いたれとまたあまりおほつかなくはあらすすべていと見ところおほくかとくしけなり

## 23ウ

1 よきわか人とも三十人はかりわらは六人がたほなるなくさうそくなともれいの  
 2 うるはしき事はめなれておほさるへかめればひきたかへ心えぬまでこのみそし給へる  
 3 三条殿はらの大君を春宮にまこらせ給へるよりも此御事をはことに思をきて  
 4 きこえ給へるも宮の御おほえありさまからなりかくて後二条院に心やすく  
 5 わたりたまはすかるらかなる御身ならねはおほすまゝにひるの程などもえ出た  
 6 まはねはやかておなしみのみのまちに年ころありしやうにおはしましてくるれば  
 7 又えひきよきてもわたりたまはすなどして待とをなるおりへあるをかゝらん  
 8 とする事とは思しかとさしあたりてはいとかくやは名残なかるへきけに心あらん人  
 9 は数ならぬ身をしらでましらふべき世にもあらさりけりと返々も山路分

## 24オ

1 出けむほとうづゝともおほえすべやしくかなしければなをいかてしのひてわたりなんむ  
 2 けにそむかんさまにはあらすともしはし心をもなくさめはやにくけにもてなしなとせは  
 3 こうたでもあらめこそ心一に思あまりてはつかしけれと中納言殿に文たてまつれ  
 4 給一日の御事はあさりのつたへたりしにくはしく聞侍にきかゝる御心のなこりなからましかは  
 5 いかにいとおしくと思給へらるゝにもをろかならすのみなんざりぬへくは身つからもときこ  
 6 え給へりみちのくにかみにひきつくろはすまめたちかき給へるしもいとおかしけ也宮の  
 7 御忌日にれいの事ともいとたうとくせさせ給へりけるをよろこひ給へるさまのおとろへ  
 8 しくはあらねとけに思しり給へるなめりかしれいは是よりたてまつる御かへりをたにつゝ  
 9 ましけにおもほしてはかへしくもつゝけたまはぬをみつからとさせへのたまへるかめつらじへ  
 うれしきに

## 24ウ

1 心時めきもしぬへし宮のいまめかしくこのみたち給へる程にておぼしをこたりけるもけに心  
 2 くるしくをしはからるれはいとあはれにておかしやかなる事もなき御文を打もをかすひき返  
 く

く見ゆ給へり御かへりはうけ給はりぬ一日はひしりたちたるさまにてことさらにしのひはへし  
 3 もさ思給ふるやう侍ごろほひにてなん名残とのたまはせたることすこしあさくなりにたる  
 4 やうにどうらめしく思給へらるれよろつはせふらひてなんあなかしことすべよかにしろき色か  
 み

6 のこはくしきにてありさて又の日の夕つかたそわたり給へる人しれす思ふ心しそひたれば  
 7 あいなく心つかひいたくせられてなよらかなる御そともをいとほほしそへ給へるはあまり  
 8 おどろくしきまであるに丁子染の扇のもてならし給へるうつり香などさへたとへんかたなく  
 9 めてたし女君もあやしかりし夜の事なと思ひ出給おりへなきにしもあらねはまめやかにあは  
 れ

## 25オ

1 なる御心はへの人ににす物し給を見るにつけてもさてあらまし程はかりは思やし給ふらん  
 2 いはけなき程にしおはせねはうらめしき人の御ありさまを思くらふるには何事もいと  
 3 こよなく思しられ給にやつねにはへたておほかるもいとおしく物おもひしらぬさまに  
 4 思給ふらんなど思給てけふはみすのうちにいれたてまつり給てもやのすたれにき  
 5 ちやうそへて我はすこしひきいりてたいめんし給へりわざとめしと侍らさりしかとれいな  
 6 らすゆるさせ給へりしよろこひにすなはちもまいまほしく侍しを喜わたらせ  
 7 給ふとうけたまはりしかはおりあしくてやはとてけるになし侍にけるさるはとし  
 8 ころのしるしもやうへあらはれ侍にやへたてすこしうすらき侍にけるみすの

9 うちにめづらしく侍わざかなどのたまうになをいとはつかしいひいてんこと葉も

## 25ウ

- 1 なきこゝちすれと一曰うれしく聞侍し心のうちをれいのたゝむすほゝれなかし
- 2 すぐし侍なは思しるかたはしをたにいかてかはとくちおしさにといとつゝ
- 3 ましけにのたまるかいたくしそきてたえへほのかに聞ゆれば心もとなくていと
- 4 とをくも侍かなまめやかにきこえさせうけたまはらまほしき世の物語も侍物をと
- 5 のたまへはけにとおぼしてすこしみしろきより給けはひを聞給にもふとむね
- 6 打つふるれとさりけなくいとゝしつめたるさまして富の御心はへおもはすにあさう
- 7 おはしけるとおぼしぐかつはいひもうとめまたなくさめもかた／＼にしつ／＼ときこえ給つゝ
- 8 おはす女君は人の御うらめしさなとは打出かたらひきこえ給ふへき事にもあらねはたゝ
- 9 よやはうきなどおもはせて事すくなにまきらはしつゝ山里にあからさまにわたし給へと

## 26オ

- 1 おほしくいとねんころに思てのたまふそれはしも心一にまかせてはえつかうまつるましき
- 2 事に侍也なを富にたゞ心うつくしくきこえさせ給てかの御氣しきにしたかひてなん
- 3 よく侍へきさらすはすこしもたかひめありて心かるくもなとおぼし物せんにいとあしく
- 4 侍なんさたにあるましくはみちの程も御をくりむかへもおりたちてつかうまづらんに
- 5 なにはゝかりかは侍らんうしろやすく人にぬ心の程は富もみなしらせ給へりなどはいひ
- 6 ながらおり／＼はすきにしかたのくやしさをわするゝおりなく物にもかなやどとりかへさまほ
- 7 しきとほのめかしつゝやう／＼くらくなりゆくまでおはするにいどうるさくおぼえてさらば
- 8 こゝ地もなやましくのみ侍を又よろしく思給へられん程に何事もとていり給ぬるけし
- 9 きなるかいとくちおしけれはさてもいつばかりおぼし立へきにかいとしけくはへしみちの草も

## 27オ

- 1 すこし打はらはせ侍らんかしどきこえ給へはしはしりさして此月すきぬめはつゝ
  - 2 たちの程にもこそは思侍れたゝいとしのひてこそよからめなにかよのゆるしなどことへ
  - 3 しくとのたまうこゑのいみしくうだけなるかなとつねよりもむかし思ひ出らるゝにえつゝみ
  - 4 あへてよりぬ給へるはしらのものすたれのしたよりやをらをよひて御袖をとらへつ
  - 5 女さりやあな心うと思ふに何事かはいはれん物もいはでいとゝひきいり給へはそれにつきで
  - 6 いとなれかほになからはうちにいりてそひふし給へりあらすやしのひはよかるへくおぼす事
  - 7 もありけるかうれしきはひかみゝかときこえせんとそうとへしくおぼへきにもあらぬを
  - 8 心うの御氣しきやと恨給へはいらへすべきこゝちもせすおもはすににくゝ思なりぬるをせめて
  - 9 思しつめて思のほかなりける御心の程かな人のおもみりんことよあさましとあはめてなきぬ
- 1 べき気しきなるすこしはことよりなればいとおしけれど是はとあるばかりの事かはかはかりの
  - 2 たいめんはいにしへをもおぼし出よかしすきにし人の御ゆるしもありし物をいとこよなくおぼし
  - 3 けるこそ中々うたであれすき／＼しきめさましき心はあらじと心やすべおもほせとていとのとやかに
  - 4 もてなし給へれと用ごろくやしと思わたる心のうちのくるしきまでなりゆくさまをつく／＼と
  - 5 いひつけ給てゐるすくき氣しきにもあらぬにせんかたなくいみしとものつね也中々
  - 6 むけに心しらざらん人よりもはつかしく心つきなくてなき給ぬるをこはなそあなわか／＼
  - 7 しとはいひなからいひしらすらうたけに心くるしき物からようゐふかくはつかしけなる
  - 8 けはひなどの見し程よりもこよなくねひまさり給にけるなどを見るに心からよそ人に

9 しなしてかくやすからす物を思ふ事とへやしきにも又けにねはなかれけりちかく  
1 さふらふ女房兩人はかりあれとすゝるなるおとこのうちりきたるなはこそには  
2 いかなる事そともまいりからめうとかひすきこえかはし給御ながらひなめはさるやうにや  
3 はあらめと思ふにかたはらいたければしらすかほにてやをらしそきぬるそいとおしきや  
4 おとい君はいにしへをくゆる心のしのひかたさなどもしつめかたりぬへかめれとむかしたに  
あり

5 かたかりし御心のようゐなれはなをいと思のまゝにももてなしきこえたまはさりけり  
6 かやうのすちはこまかにもえなんまねひつけさりけるかひなき物から人目のあいなき  
7 をおもへはよろづに思かへして出たまひぬまた宵と思つれと曉ちかうなりにけるを  
8 見とかむる人もやあらんとわづらはしきも女の御ためのいとおしきそかしなやましけにきゝ  
9 わたる御こゝちはことはなりけりいとはづかしとおぼしたりつるこしのしるしにおぼくは心  
くるしく

### 28才

1 おほえてやみぬるかなれいのをこかましの心やとおもへとなさけなからん事はなをほい  
2 なかるへしましたたちまちの我心のみたれにまかせてあながちなる心をつかひて後心  
3 やすくしもあらきらむ物からわりなくしのひあり、かん程も心つくしに女のかたゝおぼし  
4 みたれんことよなとさかしくおもへにせかれすいまのまも恋しきそわりなかりける見てはえ  
5 あるましくおぼえ給も返々あやべなる御心なりやむかしよりはすこしほそやきて  
6 あてにらうたけなりつるけはひなとは立はなれたりともおぼえず身にそひたるこゝ地  
7 してさうにことへもおぼえすなりにたり宇治にいとわたらまほしけにおぼいためるをさもや  
8 わたしきにえてましなとおもへはまさに富はゆるし給てんやさりとてしのひてははた  
9 いとひんなからんいかさまにしてかは人め見くるしかりでおもふ心の行へきと心もあくかれて  
ぐるしく

### 28才

1 なかめふし給へりまたとふかき朝に御文ありれいのうはへはけさやかかるたてふみにて  
2 いたづらにわけつるみちの露しけみむかしおぼゆる  
3 秋の空かな御氣しきの心うきはことはうしらぬつらさのみなんきこえさせんかたなべ  
4 とあり御かへしなからんも人のれいならす見とかむへきをいとくるしければうけたま  
5 はりぬいとなやましくてえきこえさせすとはかりかきつけ給へるをあまり事すくな  
6 なるかなとさうへしくておかしかりつる御けはひのみ恋しく思ひ出らるすこじ世中をもしり  
給へる  
7 けにやさはかりあさましぐわりなしとは思給へりつる物からひたるにいふせぐなとはありて  
いと  
8 らうへしくはつかしけなる氣しきもそひてさすかになつかしげひこらへなとしていたし給  
ぐる

9 程の心はへなとを思ひ出るもねたへかなしくさまへに心にかゝりてわひしくおぼゆなに事も

### 29才

1 いにしへにはいとおぼくまさつて思ひ出るにかは此富かれはて給なは我をたのもし人に  
2 し給ふべきにこそはあめれさでもあらはれて心やすきまにはあらじとしのひつゝ又思ひ  
3 ます人なき心のとまりにてこそはあらめなとたゞ此事のみつとおぼゆるそけしからぬ  
4 心なるやさはかり心ふかけにさかしかり給へとおどこといふ物の心うかりける事よなき人の  
5 御かなしさはいふかひなき事にていかくくるしきまではなかりけり是はよろづにそ思ひ  
6 めくらされ給けるけふは富わらせたまひぬなど人のいふを聞にもうしろみの心は

うせてむね打つふれでいと浦山じへおほゆ富はひうにけるは我心さひへ  
めじへおほされてにはかにわたり給へるなりけりなにかは心へたてたるさまにも見えたて  
9 神かじ山里に思たつもたのもじ人たおもが人もうとせき心そひ給へりけりと

## 29ウ

1 見給に世由いととひふせく想なひれなを憂身なりけりとたゞきそせぬ程は  
2 あるたまかせておじらかならんと頗なでゝとらうだけにうづへじきまつたもへ  
3 なしてお給へれはいどあはれにうれしくおほされて日ころのをこたりなどか  
4 きりなげのたまう御はらもぶへらかになりたるにかのはち給しるしのおひの  
5 ひきゆはれたる程などいとあはれにまたかゝる人をちかくても見たまはさりければ  
6 めひじへおほしたり打とけぬところにならひ給てよみつの事心やすくなつか  
7 しへおほひまゝにをろかならぬ事ともをつきせず契りのたまうをきくに  
8 つけてもかへのみことよきわきたやあらんとあなかぢなりつる人の御気しきも  
9 思ひ出られて年こうあはれる心はへとほ思わたりかゝるかたさまにてはあれ

## 30オ

1 をもあむましき事と思ふにそ此御ゆべきのためはいとと思なからもすこし  
2 みゝと咲りけるさてもあさましくたゆめへていりきたりし程よむかしの人いうと  
3 ぐですきだし事なとかり給し心はへはけにありかたりけれとなを打とけへく  
4 はたあらけりかしなといよへ心つかひせらるゝにもひさしくとたえん事はいと物おそろ  
5 しかるへおほえ給へはことに出でいはねとすきぬるかたよりはすこしまつはしきせんたで  
6 なし給へるを言はいとかきりなくあはれにおもほしたるにかの御うつり香のいとぶかくしみ  
7 給へるか世のつねのかうのかにいれたきしめたるにもすしるきだほひなるをその人  
8 にしおはすればあやしととかめ出給ていかなりし事をとせしきとり給にことのほかにもてはな  
9 れぬ事にしあればいはんかたなくわりなべていとくるじとおほしたるをされよみかならずさせ

## 30ウ

1 ことながりなんもたゞておもはほしてと強わたる事そかしと御心さきけりみほひとほの御  
そ

2 なともぬきかへ給てけれどあやしげ心よりほかにそ身にしみにけるかはかりにては  
3 残りありてしもあらじとよろつに聞にくゝのたまひつゝへるに心うべて身そをき  
4 ところなき思きこむるさまことなる物を我こそさきになと打そむくきはることに  
5 こそあまた御心をき給はかりの程や侍ぬる思のほかにうかりける御心かなとすへて  
6 まねくへもあらすいとおしけにきこえ給へとともにかへらへたまはぬさへねたくて  
7 また人になれる袖のうつり香を我身にしめて  
8 恨つるかな女はあさましくのたまひつゝへるにいふへきがたもなききいかゝはと  
9 見なれるる中のむかひとだのみしをかはかりにてや

## 31オ

1かけはなれなんと打なき給へ氣しきのかきりなくあはれるを見るにかゝればそかしと  
2いと心やましくて我もほひへとこぼし給ふそ色めかしき御心なるやまことにいみしき  
3あやまちありともひたぶるにはさそうとみはしまくらうたけに心へるしきさまの  
4し給へればえも恨はてたまはすのたまひさしつゝかつはこしらへきこえ給又の日も心  
5のとかにおほどのこもりおきて御てうつ御かゆなともこなたにまじりす御しつらひなどせ  
6さばかりかゝくはかりこまもろこしのにしきあやをたちかさねたる日うつしにほよ  
7つねに打なれたるこゝ地して人々のすかたもなへはみたる打ましりなどしてじとし  
8つかに見まはさる君はなよらかなうす色ともになてし子のほそなかかさねて

9 打みたれ給へる御さまの何事もづるはしくことへしきまでさかりなる人の御よはひなに

### 31ウ

1 くれに思くらふれとけをとりてもおほえすなつかしくおかしきも心さしのをろか  
2 ならぬにはかりなきなめりかしまろにうつくしくこへたりし人のすこしほそやきたるに  
3 色はいよくしろくなりてあてにおかしけ也がゝる御うつり香などのいちしるからぬおり  
4 たにあきやうつきらうたきところなどのなを人にはおほくまさりておほさるゝには  
5 是をはらからなとはあらぬ人の氣ちかくひかよひて事にふれつゝをのつからこゑ  
6 けはひをもきゝ見なれんはいかてかたゝにもおもはんかならすしかおもひぬへき事なるをと  
7 わかいとくまなき御心ならひにおほししらるればつねに心をかけてしるきさまなる文など  
8 やあるとちかきみつし一からひつやうの物をさりげなくてさかし給へとさる物もなしたゝいと  
9 すくよかに事すべなにてなをへしきなとそわさともなけれと物にとりませなどしても

### 32オ

1 あるをあやしなをいとかうのみはあらしかしどうたかはるゝにいとゝけふはしたやす  
2 からすおほさるゝことはりなりかしかのけしきも心あらん女のあはれと思ぬへきを  
3 なとてかは事のほかにはさしはなたんいとよきあはひなれはかたみにそ思ひかはすらん  
4 かしと思ひやるそわひしくはらたゝしくねたかりけるなをいとやすからさりければその  
5 日も出たまはす六條院には御文をそ二たひ三度たてまつれ給をいつのほどに  
6 つもる御ことの葉ならんとつぶやく老人ともあり中納言の君はかく富のこもりおはするを  
7 聞にも心やましくおほゆれどわりなしや我心のをこかましくあしきそかしうしろやすくと  
8 思そめてしあたりの事をかく思ふへしやとしゐてそ思かへしてさほいへとえおほし  
9 すてさめりかしとうれしくもあり人々のけはひなどのなつかしき程になへはみためりしをと

### 32ウ

1 おもひやり給てはゝ富の御かたにまいり給てよろしきまうけの物ともやさぶらふつかうへき  
2 事など申給へはれいのたゝむ月のほうしのれうにしろき物ともやあらん染だるなどはいまは  
3 わさともしをかぬをいそきてこそせさせめとのたまへはなにかことへしきようゐにも侍ら  
4 すさぶらんにしたかひてとてみくしけ殿などにとはせ給て女のさうそくともあまたくたり  
5 にほそなかともゝたゝあるにしたかひてたゝなるきぬあやなどとりくし給みつからの御れう  
6 とおほしきには我御れうにくれなゐのうちめなへてならぬにしろきあやともなどあまたかさね  
7 給へるにはかまのくはなかりけるにいかにしたるにかこしの一あるをひきむすひくはへて  
8 むすひける契りとなるしたひもをたゝ一すぢに  
9 恨やはするたいふの君とておとなへしき人のむつましけなるにつかはすとあへぬさま

### 33オ

1 の見ぐるしきをつきへしくもてかくしてなどのたまひて御れうのはしのひやかなれと  
2 はこにてつゝみもことなり御らんせさせねとさきへもかやうなる御心まとひはつねの事  
3 にてめなれにたれはけしきはみかくしひこしろふへきにもあらねほいかゝとも思わづら  
4 はて人々にとりちらしなとしたればをのへさしぬひなどすわかき人々の御まへちかくつかう  
5 まつるなどをそとりわきてつくるひたつへきしもつかへなどのいたくなえはみたり  
6 つるすかたともなとしうきあはせなどにてけちえんならぬそ中々めやすからける  
7 たれかは何事をもうしろみかしつき聞ゆる人のあらん富はをろかならぬ御心さしの  
8 程にてよろつをいかてとおほしをきてたれとこまかなる内々の事まではいかゝはおほし  
9 よらんかきりなく人にのみかしつかれてならばせせ給へれは世中打あはすさひしき事は

### 33ウ

1 いかなる物ともしりたまはぬことはりえんにそゝろさむく花の露をもてあそひて世はすべ

すへき物とおぼしたる程よりはおぼす人のためなれはをのつかうおうふしにつけつゝまめやかなる

事まであつかひしらせ給こそありかたくめつらかなる事なめればいてやなとそしらはしけに聞ゆる

4 御めのとなどもありけるわらはへなどのなりあさやかならぬおりへ打ましりなどしたるをも女君

5 はいとはつかしく中々なるすまゐにあるかななど人しれすおぼす事なきにしもあらぬにまして此ころは世にひきたる御ありさまの花やかさにかつは富のうちの人の見おもふらむ

7 事も人けなき事とおぼしみたるゝ事もそひてなけかしきを中納言の君はいとよくをし

8 ばかりきこえ給へはうとからんあたりには見くるしくたゞしかるへき心しらひのさまもあなつる

9 とはなけれどなにかはことくしたるかほならんも中々おぼえなく見とかむる人やあらんとおぼす

### 34才

1 なりけりいまそ又れいのめやすきまなる物ともせさせ給て御こうちきをらせあやのれう  
2 たまはせなどし給ける此君しもそ宮にもをとりきこえたまはすさまことにかしつきたてられ  
3 てかたはなるまで心おこりもし世をおもはすましてあてなる心はへはごよなけれとこみ  
4 この御山すみを見そめ給しよりさひしきところのあはれさはさまことなり  
5 けりと心くるしくおぼされてなへての世をも思めくらしふかきなさけをもならひ  
6 紿にけるいとおしの人なはしやとそかくてなをいかでうしるやすくおととなしくてやみなん  
7 と思ふにもしたかはす心にかゝりてくるしけれは御文などをありしよりはこまやかにてとも  
8 すればしのひあまりたる氣しき見せつゝきこえ給を女君いとわひしき事そひに  
9 たる事とおぼしなけかるひとへにしらぬ人ならはあな物くるをしとはしたなめさし

### 34ウ

1 はなたんにもやすかるへきをむかしよりさまことなるたのもし人にならひきていまはさら  
2 に中あしくならんも中々人めあやしかるへしとさすかにあさはかにもあらぬ御心はへあり  
3 さまのあはれをしらぬにはあらすざりとて心かはしかほにあひしらはんもいとひましくいか  
4 はすべからんとよろづに思みたれ給さるる人々もすこし物のいふかひありぬへくわか  
5 やかなるはみなあたらし見なれたるどてはかの山里のふる女房也思ふ心をもなつかしくいひ  
6 あはすべき人のなきまゝにはこひめ君を思ひ出しこえたまはぬおりなしおはせましかは此人も  
7 かゝる心をそへたまはましやどいとかなしく富のつらくなりたまはんなけきよりも此事いとく  
る

8 しくおぼゆおどこ君もしのひて思わひてれいのしめやがなる夕つかたおはしたりやかてはしに  
9 御しとねさじいたさせ給ていとなやましき程にてなんえきこえさせぬと人してきこえいたし

せ  
1 給へるをきくにいみしくつらへて涙のおちぬへきを人めにつゝめはしゆてまきらはしてなやま  
ふ  
2 給おりはしらぬそなともあかくまいりよるをくすしなとのつらにてもみすのうちにはさいがり  
3 ましくやはかく人つてなる御せうそこなんかひなきこゝちするとのたまひといと物しけなる  
4 御気しきなるを一夜も物のけしき見し人々けにいと見くるしく待めりとてもやのみす  
5 打おろしてよゐのそのさにいれたてまつるを女君まことにこゝちもいとくるしけれど

### 35才

6 人のかくいふにけちえんならんも又いかゝとつゝましければ物うなからすこしるさり出でたい  
7 めんし給へりいとほのかに時々物のたまう御けはひのむかしの人のなやみそめ給へりしこゑま  
つ思

8 出いらるゝもゆゝしくかなしくてかきくらすこゝちし給へはどみに物もえいはれすためら  
9 てそきこえ給こよなくをくまり給へるもじとつらくてすのしたよりきちやうをすこし  
つ思

1 をしいれてれいのなれへしけにちかつけより給ふかゝとぐるしければわりなじとおぼして  
2 少将といひし人をちかくよひよせてむねなんいたきしはしをさへてとのたまうを  
3 きゝてむねはをさへたるはくるしくも侍物をと打なげきてゐなをり給程にけにそ  
4 したやすからぬいかなればかくしもつねになやましくはおぼさるらん人にとひ侍しかは  
5 しはしこそこゝちはあしかなれさてまたよろしきおりありなとこそをしへはへしかあま  
6 りわかくしくもてなさせ給なめりかしとのたまうにいとはつかしくてむねはいつとも  
7 なくかくこそ侍れむかしの人もさこそは物し給しかなかかるましき人のするわさとか  
8 人もいひはへめるとそのたまうけに誰も千とせの松ならぬ世をと思ふにはいと心  
9 くるしくあはれなれは此めしよせたる人のきかんもつゝまれすかたはらいだきすちの

### 35ウ

1 事をこそえりどゝむれむかしより思きこえしさまなどをかの御みゝひとつには  
2 心えさせながら人はまたかたはにも聞ましきさまにさまよくめやすくそいひなし  
3 紿をけにありかたき御心はへにもと聞ゐたり何事につけても小君の御事をそ  
4 つきせず思給へるいはけなりし程より世中を思はなれてやみぬへき御心つかひをのみ  
5 ならひ侍しにさるべきにや侍けんうとき物からをろかならす思そめきこえ侍し一ふしに  
6 かのほいのひしり心はさすかにたかひやしにけむなくさめはかりにこゝにもかしこにも  
7 ゆきかゝつらひて人のありさまを見むにつけてまきるゝ事もやあらんなと思よ  
8 おりへ侍れとさらにはかさまにはなひきへくも侍らさりけりよろつに思給へわひ  
9 ては心のひくかたのつよからぬわさなりければすきかましきやうにおぼさるらんと

### 36オ

1 はつかしけれとあるましき心のかけてもあるへくはこそめさましからめたゝかはかりの程  
2 にて時々おもふ事をもきこえさせうけたまはりなどしてへたてなくのたまひかよはんを誰  
3 かはとかめ出へき世の人ににぬ心の程はみん人にもどかるましく侍をなをうしるやすくお  
4 ほしたれなど恨みなきみきこえ給うしろめたく思きこえはかくあやしと人も見思ひぬ  
5 へきまではきこえ侍へくや年ころこなたかなたにつけつゝ見しる事ともの侍しかはこそ  
6 さまことなるたのしも人にていまは是よりなどおどろかし聞ゆれとのたまへはさやうなるおり  
も

7 おぼえ侍らぬ物をいとかしこき事におぼしをきてのたまはするにや此御山里出だちいそき  
8 にからうしてめしつかはせ給ふべきそれも世に御らんししるかたありてこそはとろかにやは  
9 思侍などのたまひてなをいと物うらめしけなれと聞人あれはおもふまゝにもいかてかはつゝけ  
く

### 37オ

1 たまはんとのかたをなかめいたしたれはやうへへりなりにたるに虫のこゑはかりまきれな  
く  
2 て山のかたをくらくなにのあやめも見えぬにいとしめやかなるさましてよりゐ給へるもわづら  
3 はしとのみ内にはおぼざるかきりたにあるなとしのひやかに打すして思給へわひにて侍る音な  
しの

4 里もとめまほしきをかの山里のわたりにわさと寺などはなくともむかしおぼゆる人形をも

つくりゑにもかきとりてをこなひ侍らんとなん思給へなりにたるとのたまへはあはれなる御  
ねかひにまたうたてみたらしかはちかきこゝちする人かたこそ思やりいとおしく侍れこかねも  
とむる

7 炊しもこそなとうじろめたくそ侍やとのたまへはそよそのたくみも炊しもいかてかは心にはか  
なふへき

8 わざならんちかき世に花ふらせたるたくみも侍けるをさやうならんへけの人もかななどとさま  
かう

9 さまにわすれんかたなきよしをなけき給氣しきの心ふかけなるもいとおしくて いますこしちか  
くすべり

### 37ウ

1 よりて人かたのついてにいとあやしく思よるましき事をこそ思ひ出侍れとのた  
2 まうけはひのすこしなつかしきもいとうれしくあはれにて何事にかといふまゝにきちやう  
3 のしたより手をとらふれはいどうるさく思ならるれといかさまにしてかゝる心をやめ  
4 てなたらかにあらんどおもへは此ちかき人のおもほん事のあいなくてさりけなくもてなし  
5 給へり年ころは世にやあらんともしらさりつる人の此夏ころとをきところより物して  
6 たつね出たりしをうどくはおもふましけれとまた打つけにさしもなにかはむつひおもほんと  
7 思侍しをさいつころきたりしこそあやしきまでむかしの人の御けはひにかよひたりしかば  
8 あはれにおぼえなりにしかかたみなどかうおぼしのたまうめるは中々何事もあさましく  
9 もてはなれたりとなん見る人々もいひ侍しをいとさしもあるましき人のいかてかは

### 38オ

1 さはありけんとのたまうを夢かたりかとまてきくさるへきゆへあはれこそはさやうにもむつひ  
2 きこえらるらめなとかいまゝてかくもかすめさせたまはさらんとのたまへはいさやそのゆへ  
3 もいかなりけん事とも思わかれ侍らす物はかなきありさまともにて世におちとまります  
4 らへんとすらん事とのみうしろめたけにおぼしたりし事ともをたゞひとりかきあつめて思  
5 しられ侍に又いなき事をさへ打そへて人も聞つたへんこそいとくおしかるへけれとのた  
6 まふけしき見るに富のしのひて物などのたまふゆかりにみゝとまりてかはかりにてはおなしくは  
7 なるへしと見しりぬにたりとのたまふゆかりにみゝとまりてかはかりにてはおなしくは  
8 いひはてさせ給てよどいふかしかり給へとさすかにかたはらいたくてえこまかにもきこえ  
9 たまはすたつねんとおぼす心あらはそのわたりとはきこえつへけれとくはしくしもえしら

### 39オ

1 ことにこそはあらめさまでいかてかはなときこえ給ふきりげなくてかくうるさきらを  
2 いかでいひはなつわさもかなと思給へると見るはつらけれとさすかにあはれ也有るましき  
3 事とはふかく思給へる物からけせうにはしたなきさまにはえもてなしたまはぬも見しり

4 給へるにこそはとおもふ心時めきに夜もいたくふけゆくを内には人めいとかたはらい  
 5 たくおほえ給て打たゆめて入給ぬれおとこ君ことはりとは返々おもへとをいと  
 6 うらめしくくちおしきに思しつめんかたもなきこゝちして涙のこぼるゝも人わろければ  
 7 ようつに思みたるれどひたぶるにあさはかなりんもてなしはたなをいとうたて我ため  
 8 もあいなかるへければねんしかべしてつねよりもなけきかちにて出たまひぬかくのみ思  
 9 てはいかゝすべからんくるしもあるへきかないかにしてかは大かたの世にはもときあるまし  
 きさま

### 39ウ

1 にてさすかにおもふ心のかなふわさをすべからんなどおりたちてねんしたる心ならねばにや我  
 ため  
 2 人のためも心やすかるましき事をわりなくおもほしかすにたりとのたまへる人も  
 3 いかてかはまことかと見るべきさはかりのきはなれは思よらむにかたくはあらすとも人の  
 4 ほいにもあらすはうるさくこそあるへけれなとなをそなたさまには心もたゞす宇治の  
 5 宮をひさしく見たまひぬ時はいとゝむかしとをくなるこゝ地してすゝるに心ほそければ九月  
 6 古余日はかりにおはしたりいとゝしく風のみ吹はらひて心すこくあらましけなる水の音のみ  
 7 宿もりにて人かけもことに見えするにはまつかきくらしかなしき事そかきりなき弁  
 8 のあまめし出たれはさうしくちにあをにひのきちやうきし出てまいれりいとかしこけれどまし  
 て  
 9 いとおそろしけに侍ればつゝましへてなんとてまほには出こすいかになかめ給ふらんと思やる  
 におなし

### 40オ

1 心なる人もなき物語もきいえんとてなんはかなくもつむる年月かなとて涙をひとめうけておは  
 す  
 2 るにおい人はいとゝさうにせきあへす人のうへにてあいなく物をおほすめりし心のそらそかし  
 と思給へ出る  
 3 にいつと侍らぬ中にも秋の風は身にしみてつらくおほえ侍てけになけかせ給ふめりしもじるき  
 世  
 4 の中の御ありさまをほのかにうけたまはるもさまへになんと聞ゆればとある事もかゝる事も  
 なからふれはなほ  
 5 るやうもあるをあちきなくおほしみけんこそわかあやまちのやうになをかなしけれ此ごろの  
 御ありさま  
 6 はなにかそれこそよのづねなれされどうしろめたけには見えきいえさめりいひてもへむなし  
 き  
 7 空にのほりぬるけふりのみこそ誰ものかれぬ事ながらをくれさき立程はなをいといふかひな  
 りけれさても  
 8 またなきたまひぬあさりめしてれいのかの御忌日の経仏の事などのたまふきてこゝに時々物す  
 るに  
 9 つけてもかひなき事のやすからずおほゆるかいとやくなきを此しんてんこぼちてかの山寺のか  
 たはらに

### 40ウ

1 たうたでんとなんおもふをおなしくはとくはしめてんとのたまひてたういくつひうとも僧  
 2 房などあるへき事ともかきてのたまうなとせさせ給をいとたうとき事ときこえ  
 3 しらすむかしの人のゆへある御すまゐにしみつくり給けんとこゑをひきこぼたんなさけ

4 なきやうなれとその御心せしもへとくのかたにはすゝみぬへくおほしけんをとまりたまはん  
 5 人々をおほしやうてえさはをきてたまはさりけるにやいまは兵部卿宮の北のかたこそは  
 6 しり給へければかの宮の御りやうともいひつへくなりにたりされはこゝながら寺になさん  
 7 事はひんなかるへし心にまかせてさもえせしとこひもさまもあり川つらちかくけせう  
 8 にもあれはなをしんてんをうしなひことさまにもつくりかぐん心にてなんとのたまへはとせ  
 ま

9 かうさまにいとかしこくたうとき御心也むかし別をかなしひてかはねをつゝみてあまたの  
**41才**

1 年くひにかけて侍ける人も仏の御はうへんにてなんかのかはねのふくらをすてゝつるに  
 2 ひしりのみちに入侍にける此しんてんを御らんするにつけて御心うこきおはしますらむ  
 3 一にはたいくしき事也また後の世のすゝめともなるべき事に侍けりいそきつかうまつるへし  
 4 こよみのはかせのはからひ申て侍らん日をうけたまはりて物のゆへしりたらんたくみ一三三人  
 5 をたまはりてこまかなる事ともは仏の御をしへのまゝにつかうまつらせ侍らんと申とかくのた  
 6 まひさためみさうの人ともめして此程の事ともあさりのいはんまゝにすへきよしなとおほ  
 7 せ給ふはかなく暮ぬれはその夜はとゝまりたまひぬ此たひはかりこそ見めとおほしてたち  
 8 めくりつゝ見給へは仏もみなかの寺にうつしてければあま君のをこなひのくのみありいとはか  
 な

9 けにすまゐたるをあはれにいかにしてすべすらんと見給此しんてんはかへてつくるへきやう  
**41ウ**

1 ありつくりじてん程はかのらうに物し給へ京の宮にとりわたさるへき物などあらはみさうの人  
 2 めしてあるへからんやうに物し給へなどまめやかなる事ともをかたらひ給ほかにてはかはかり  
 にさたすき

3 なん人をなにかと見いれ給ふへきにもあらねどよるもちかくゑせてむかし物語などせさせ  
 4 給こ大なこんの君の御ありさまも聞人なきに心やすくていとこまやかに聞ゆいまはと  
 5 なり給し程にめづらしくおはしますらん御ありさまをいふかしき物に思きこえさせ給ふ  
 6 めりし御氣しきなどの思給へ出らるゝにかく思かけ侍らぬ世のすゑにかくて見たてまつり侍  
 7 なんかの御よにむつましくつかうまつりをきししるしのをのつから侍けるとうれしくもかな  
 8 しくも思給へられ侍心うきいのちの程にてさまくのことを見給へすべし思給へしり侍なん  
 9 いとはつかしく侍富よりも時々はまうりて見たてまつれおほつかなくたゞもりはてぬるはこ  
 よ

#### **42才**

1 なく思へたてけるなめりなどのたまはするおりへ侍れとゆゝしき身にてなんあみた仏よりほ  
 か

2 に見たてまつらまほしき人もなくなりて侍など聞ゆひめ君の御事ともはたつきせずとし  
 3 ころの御ありさまなどたりてなにのおりなにとのたまひし花もみちの色を見てもはかなく  
 4 よみ給ける歌がたりなとをつきかならず打わなゝきたれとかたるにこめかしく事すべ  
 5 なゝる物からおかしかりける人の御心はへかなとのいとゝ聞そへ給宮の御かたはいますこし  
 6 いめかしき物から心ゆるささらん人のためにははしたなくもてなし給つへくこそ物し  
 7 給ふめるを我にはいと心ふかくなきへしとは見えていかてすぐしてんとこそ思ふ給へれ  
 8 など心のうちに思ぐらへ給さて物についてにかのかたしろの事をいひ出給へり京に  
 9 此ころ侍らんとはえしり侍らす人つてにうけたまはりし事のすち也こ宮またかゝる

#### **42ウ**

1 山さとすみもしたまはすこきたのかたうせ給へりける程ちかかりけるごる中将のきみ

2 とてさぶらひける上臘の心はせなともけしうはあらざりけるをいとしのひではか  
 3 なき程に物のたまはせけるをしる人も侍らざりけるに女こをなんうみて侍けるを  
 4 さもやあらんとおほす事のありけるからにあいなくわづらはしく物しきやうにおほしなりて  
 5 又とも御らんしいるゝ事もなかりけりあいなくその事におぼしこりてやかて大かたひしりに  
 6 ならせ給けるをはしたなく思てえさぶらはすなりにけるかみちのくにのかみのめになりたり  
 7 けるを一年のほりてその君たいらかに物し給ふよし此わたりにもほのめかし申たりけるを  
 8 きこしめしつけてざらにかゝるせうそこあるへきにもあらすとのたまはせはなぢければ  
 9 かひなくてなんなけ侍けるさて又ひたちになりてくたり侍にけるか此年ころ音にも

**43才**

1 きこえたまはざりつるか此春のほりてかの宮にはたつねまいりたりけるとなんほのかにきゝは  
 2 かの君の年ははたちはかりにはなりたまひならんかしいとうつゝじくおい出給ふかかなしさな  
 3 にて  
 4 中ころは文にさべかきつゝけてはへめりしかと聞ゆくはしくはきゝあきひめ給てさらはまゝと  
 5 人はしらぬ国までもたつねしらまほしき心あるをかすまへたまはざりけれど  
 6 けちかき人にこそはあなれわざとなくとも此わたりにをとなふおりあらんつ  
 7 いてにかくなんいひしとつたへ給へなどはかりのたまいをくはゝ君はこきたの  
 8 かたの御めいなり弁もはなれぬながらひに侍へきをそのかみはほかへに侍てく  
 9 はしくも見給へなれざりきさひつころ京よりたいるかもとより申たりしかはかの

**43ウ**

1 君なんいかてかの御はかにたにまいらむとのたまゐなるさる心せよなど侍しかとまたこゝ  
 2 にさしはへてはをとなはす侍めりいまさらにさやうのついてにかゝるおほせなどつたへ侍  
 3 らむと聞ゆ明ぬればかへりたまはんとてよくをくれてもまいれるきぬわたなど  
 4 やうの物あさりにをくらせ給あま君にも給ふほうはらあま君のけすとものれうに  
 5 とてぬのなといふ物をさへめしてたゞ心ほそきすまゐなれとかゝる御とぶらひたぬまさり  
 6 ければ身の程にはいとめやすくしめやかにてなんをこなひける木枯のたへかたきまで  
 7 吹とをしたるに残ることゑもなくちりしきたる紅葉をふみ分ける跡も見えぬを見わたして  
 8 とみにもえだたまはすいと氣しきあるみ山木にやとりたるつたの色そまた残りたる  
 9 こたになどすこしひきどりせ給て富へとおほしくてもたせ給

**44才**

1 やとり木とおもひいてすはこのもとのたひねもいかに  
 2 さひしからましとひとりこちたまうをきゝてあまきみ  
 3 あれはつるくち木のもとをやとり木とおもひをきける  
 4 程のかなしさあくまでふるめきたれとゆべなくはあらぬをそいさゝかのなくさめにはおほ  
 5 しける宮よりとてなに心なくもてまいりたるを女君れいのむつましき事もこそとくる  
 6 しくおほせととりかくさんやは宮おかしきつたかなとたゞならすのたまひてめしよせて見給ふ  
 7 御文には曰ころ何事かおはしますらん山里に物し侍ていとゝ峯の朝霧にまとひ侍つる御物  
 8 語もみつからんかしこのしんてんたうになすへき事あさりにいひつけ侍にき御ゆるし  
 9 侍てこそはほかにうつす事も物し侍らん弁のあまにさるへきおほせ事はつかはせなとある

**44ウ**

2 つらん女君はことなきをうれしと思給ふにかくのたまうをわりなしとおぼして打えんして  
 3 む給へる御さまようつのつみゆるしつへくおかし返事かき給へ見しやとてほか  
 4 さまにむき給へりあまえてかゝさらんもやしけれは山里の御ありきのうら山  
 5 しくも侍かなかしこはけにさやうにてこそよぐと思給へしをことさらに又いはほの  
 6 なかもとめんよりはあらしはつましく思侍をいかにもさるへきさまになさせたまは  
 7 をろかならすなんときこえ給かにくき気しきもなき御むつひなめりと見給  
 8 ながら我御心ならひにたゞならしとおぼすかやすからぬなるへしかれへなるせんさい  
 9 の中に尾花の物よりことに手をさし出てまねくかおかしくみゆるにまたほに出さしたる

**45才**

1 も露をつらぬきとむる玉のをはかなけに打なひきたるなどれいの事なれどゆふかせ  
 2 なをあはれなりかし  
 3 ほにいてぬものおもふらしのすゝきまねくたもとの  
 4 露しけくしてなつかしき程の御そともになをしはかりき給てひわをひきぬ給へり  
 5 わうしきてうのかきあはせをいとあはれにひきなし給へは女君も心にいり給へる事にて物えん  
 し  
 6 もえしはてたまはすちいききみきぢやうのつまよりけうそくによりかゝりてほのかにさし出給  
 へる  
 7 いと見まほしくらうだけなり

8 秋はつる野辺の氣しきもしのすゝきほのめくかせに

9 つけてこそしが我身一のとて涙くまるゝかさすかにはつかしけれは扇をまきひはしておはする  
 1 心のうすもひうたくをはかられるとかゝるにこそ人もえ思はなたさらめとうたかはしきかた  
 たゝ  
 2 ならでうらめしきなめり菊のまたよくもうつろひはてゝわざとつぶひたてさせ給へるは中  
 くをそ  
 3 きにいかなる一本にかあらんいと見ところありてうつろひたるをとりわきておらせ給て花の  
 4 なかにひとへにとすし給てなにかしのみこの此花めてたる夕そかしいにしへ天人のかけりて  
 5 ひわの手をしへけるは何事もあさくなりにたるよは物うしやとてさしをき給をくちおしと  
 6 おほして心こそあさくもあらめむかしをつたへたらん事さへはなとてかさしもとておほつかな  
 き  
 7 手などをゆかしけにおぼしたれはさうはひとりことはさうへしきにさしぐらへし給へかしと  
 8 人めしてさうの御ことりよせさせてひかせたてまつり給へとむかしこそまねふ人も物し給し  
 かはかへ  
 9 しくひきもとめすなりにし物をとつゝましけにて手もふれたまはねはかはかりのこともへたて  
 給へること心うけれ

**46才**

1 此ころ見るわたりはまたいと心とくへき程にもあらねとたなりけるうふことをもかくさすこ  
 そあれ  
 2 すべて女はやらかに心うつくしきなんよき事とこそその中納言もさたむめりしかかの君には  
 たかく  
 3 もつゝみたまはしこよなき御中なめれはなどまめやかにうらみられて打なげきてすこじしらへ  
 4 給ゆるひたりければはんしきてうにあはせ給かきあはせなどつま音おかしけに聞ゆいせの海う

たい

5 給ふ御こゑのあてにおかしきを女房物のうしろにちかつまじりてゑみひろこりてゐたりあた  
6 心おはしませむつらけれとそれも」とほりなればなをわかおまへをはさいはひ人といそ申さめ  
かゝる

7 御ありさまにましらひ給ふへもあらきりし年ころの御すまゐをまたかへりなまほしけに  
8 おほしてのたまはすることそ」と心うけれなどたゞいひにいへはわかき人々はあなかまやなど  
9 せいす御ことゝもをしへたいまつりなどして三四日こもりおはして御物いみなどことつけ給を

**46ウ**

1 かの殿にはうらめしくおほしておとゝ内より出給けるまゝにまゝり給へれば即いとへ  
しけなる

2 さましてなににしたいましつるそとよゝとむつかり給へとあなたにわたり給てたいめんし給  
3 ことなる事なき程は此院を見てひさしくなり侍もあはれにこそなどむかしの御物語とも  
4 すこしきこえ給てやかてひきつれきこえ給て出給いぬ御こともののはらさらぬ  
5 かんたちめ殿上人などもいとおほくひきつゝき給へるいきをひこちたきを見るになひ  
6 へくもあらぬそくむしいたかりける人々のそきて見たてまつりてさもきよらにおはしける  
7 おどゝかなさはかりいつれとなくわがくさかりにてきよけにおはさうする御子とともに給ふ  
8 へきもなかりけりあなめてたやといふもあり又さはかりやむことなけなる御さまにて  
9 わさとむかへにまいり給へることにくけれやすけなの世中やなと打なげくもあるへし

**47オ**

御

1 御身つからもきしかたを思ひ出るよりはしめかの花やかなる御ながらひに立ましるへくも

2 あらすかすかなる身のおぼえをといよへ心ほそければなを心あさへこもりゐなんのみこそめ  
3 やすからめなどいとおほえ給ふはかなくて年もくれ正月つこもりかたよりれいならぬさま  
4 になやみ給を留また御らんししらぬ事にていかならんとおほしなけきてみすほうなどといふ

く

5 にてもあまたせさせ給に又々はしめそへさせ給ふいといたぐわつらひ給へはきさいの宮よりも  
6 とあらひありかくて三年になりぬれと一といふの御心をしこそをろかならね大かたの世には物  
7 々  
8 ともきこえ給ける中納言の君は宮のおぼしさばくにをとらすじかにおはせんとなけきて

9 心くるしへうじらめたゞおぼさるれとかぎりある御といらひはかりこそあれあまりもえまかて  
り

**47ウ**

1 たまはてしのひてそ御いのりなともせさせ給けるさるは女二の宮の御もきたゞ此ころに  
2 なりて世中ひゝきいとなみのゝしるよろづの事みかとの御心一なるやうにおほしいそけは  
3 御うしるみなきしもそ中々めてたけに見える女御のしをき給へる事をはさる事にてつても  
4 とこひさるへきすひつともなどとりへにつかうまつる事ともいとかぎりなしやかてその程に  
5 まゝりそめ給ふへきやうにありければおとこかたも心つかひし給ころなれとれいの事なれば  
6 そなたさまには心もいらて此御事のみいとおしくなけれかるきさうきのついたちころになをしも  
7 のとかいふ事に權中納言になり給て右大将かけ給つ右のおほい殿左にておはしましけるか  
8 しゝ給へるといふなりけりよみにひとじらへーありき給て此間にまゝり給へりとくべく  
9 し給へはこなたにおはします程なりければやかてまいり給へりそくなとせいかひひひんなき

**48オ**

かたにとおとろき給てあさやかなる御なをし御したかさねなどたてまつりひきつくろい  
 紿てたうのはいし給ふ御さまどもとりくにいとめてたくやかてこよひつかさの人にろく  
 紿ふあるしのところにさうしてまつり給をなやみ給人によりてそおほしたゆたひ給  
 める右大臣殿のし給けるまゝにて六条院にてなんありけるゑんかのみこ  
 たちかんたちめたいきやうにをとらすあまりさはかしまでなんつとひ給ける  
 此宮もわたり給てしつ心なけれはまた事はてぬにいそきかへり給ぬるを大殿の  
 御かたにはいとあかすめさましとのたまふをどるへくも御程なるをたゞいまのおほえの  
 花やかさにおほしおこりてをしたちてもてなし給へるなめりかしからうしてその曉  
 にをのこにてむまれ給へるを宮もいとかひありてうれしくおほしたり大将殿も

**48ウ**

1 よろこひにそへてうれしくおほすよくおはしましたりしかしこまりにやかて此御よう  
 2 こひも打そへてだちながらまいり給へりかくこもりおはしませはまいりたまはぬ人なし  
 3 御うふやしなひ三日はれいのたゞ宮の御わたくし事にて五日の夜は大将殿より  
 4 とんしき五十具五てのせにわうはんなとはよのつねのやうにてこもちの御まへの  
 5 ついかさね三十ちこの御そいつへかさねにて御むつきなどことくしからすしのひや  
 6 かにしなし給へれとこまかに見ればわざとめなれぬ心はへなと見えける宮のおまへに  
 7 セんかうのおかしきたかつきともにてふすべまいらせ給へり女房のおまへにはついかさ  
 8 ねをはさる物にてひわりこ三十さまくしつくしたこともあり人目にことくしきは  
 9 ことさらになしたまはす七日の夜はきさいの宮の御うふやしなひなれはまいり給ふ

**49オ**

1 人々おばかり宮のたいふをはしめて殿上人かんたちめ数しらすまいり内にもきこしめして  
 2 宮のはしめておとなひ給なるにはいかてかとのたまはせて御はかしたてまつらせ給へり  
 3 九日もおほい殿よりつかうまつらせ給へりよろしからずおほすあたりなれど宮のおほさん  
 4 ところあれは御このきんたちなとまいり給てすへいとおもふ事なけにめてたければ御みつ  
 5 からも年ころ物おもはしくこゝ地のなやましきにつけても心ほそくおほしわたりつるにかくお  
 も

6 たゞしきいまめかしき事とものおほかれはすこしなくさみやし給ふらん大将はかくさへおとな  
 7 ひはて給ふめればいと、我かたさまはけどをくやならん又宮の御心さしもいとをうかならし  
 8 とおもふ心はくちおしけれと又はしめよりの心をきておもふにはいとうれしくもありかくてそ  
 の

9 月の廿日あまりにそ藤つぼの宮の御もきの事ありて又の日なん大将まいり給ける

**49ウ**

1 その夜の事はしのひたるさま也天のしたひゝきていつくじう見えつる御かしつきにたゞ  
 2 人のくしたてまつり給ふそなをあかす心くるしく見ゆるざる御ゆるしはありながらもたゞいま  
 3 かくいそかせ給ましき事そかしとそしらはしけに思のたまう人もありけれどおほし立ぬる  
 4 事すかくしくおはします御心にてきしかたのためしなきまでおなしくはもてなさんとおほし  
 5 をきつるなめりみかとの御むこになる人はむかしもいまおほかれとかくさかりの御代にたゞ  
 人の  
 6 やうにむことりいそかせ給へるたくひはすくなくやありけん右のおどゝもめつらしかりける人  
 の  
 7 御おほえすぐせなりけりこ院たに朱雀院の御すゑにならせ給ていまはとやつし給し  
 8 きはにこそかのはゝ宮をえたてまつり給しか我はまして人もゆるさぬ物をひろひ  
 9 たりしやとのたまひ出れは宮はけにとおほすにはつかしくて御いらへもえしたまはす二日のよ

## 50才

1 大蔵卿よりはしめてかの御かたの心よせになさせ給へる人々いしにおぼせ事給てしの  
2 ひやかなれとかのこせんすいしんぐるまぞいとおほりまでろくたまはすその程の事ともは  
3 わたくし事のやうにてありけるかくて後はしのひへにまじり給心のうちにはなをわすれかた  
き

4 いにしへさまのみおぼえてひるは里におきふしなかめ暮してくるれば心よりほかにいそき  
5 まいり給をもならぬこちにいと物うくべるしくてまかてさせたてまつらんとそおぼし  
6 をきてけるはゝ富はいとうれしき事におぼしたりおはしますしんてんゆつりきこえ給ふへく  
7 のたまへとかたしけなからんとて御ねんすたうのあはひにひうをつゝけてひくりせ給  
8 西おもてにうつろひ給ふべきなめりひんかしのたいともなどもやけて後うるましくあたら  
9 しくあらまほしきをいよ／＼みかきそへつゝこまかにしつらはせ給かゝる御心つかひを内にも  
きかせ

## 50ウ

1 紿て程なく打とけうつるひたまはんをいかゝとおぼしたりみかゝと聞ゆれと心のやみはおなし  
2 事なんおはしまじけるはゝ富の御もとに御つかひありける御文にもたゞ此事をなんきこえさせ  
3 給るこ朱雀院のとりわきて此あま富の御事をはきこえをかけ給しか世をそむき給へれ  
4 とゆつらす何事ももとのまゝにそさせさせ給事なとはからすきこしめしいれ御ようゐ  
5 ふかかりけりかくやむ事なき御心ともにかたみにかきりなくもてかしつきさばかれ給おもた  
し  
6 さもいかなるにかあらん心のうちにはことにつれしくもおぼえすなをともすれば打なかめつゝ  
うちの  
7 寺つくる事をいそかせ給宮のわか君いかになり給ふ田かそへとりてそのもちゐいそきを心に  
8 入てこものひわりこなとまで見いれ給つゝよのひねのなへてにはあらすとおぼし心きじて  
9 ちんしたんしろかねこかねなどみちへのかいぐともおぼくめしきかねがせ給へはわれをどう  
しと

## 51オ

1 さまへの事ともをしふりめりみつからもれいの富のおはしまさぬひまにおはしたり心のなし  
にや  
2 あらんじますこしをもくしくやむ事なけなる氣しきさへそひにけりとみゆいまは  
3 さりともむつかしかりしすゝる事なとは思まぎれ給にたらんとおもふに心やすくてたいめんし  
4 給へりされとありしなからぬけしきにまつ涙くみて心にもあらぬましらひいとゝ思のほかなる  
5 物にこそと世を思給へみたるゝ事なんまさりにたるとあいたちなくそうれへ給いとあさ  
6 ましき御事かな人もこそをのつからほのかにもり聞侍れなどのたまへとかはかりめてた  
7 けなる事とももなくさますわすれかたく思給ふらん心ふかよとあはれに思きこえ  
8 給にをろかにもあらす思しられ給おはせましかはとくちおしく思ひ出しこえ給へとそれ  
9 も我ありさまのやうにそうちやみなく身をうらむへかりけるかし何事も数ならでは

## 51ウ

1 世の人めかしき事もあるましかりけりとおぼゆるにそいとゝかの打とけ  
2 はてゝやみなんと思給へりし心をきてはをもくしく思ひ出られ給わか君をせぢ  
3 にゆかしかり給へははつかしけれとなにかはへたてにもあらんわりなきこと一につ  
4 けて恨しらるゝよりほかにはいかで此人の御心にたかはしとおもへは身つからともかくもじり

&lt;

5 きこえたまはてめのとしてさし出させ給へるさらなる事なればにくけならんやはゆゝしき  
 6 まてしまくうつくしくてたかやかに物語し打わらひなどし給かほを見るに我  
 7 物にて見まほしく浦山しきも世の思はなれかたくなりぬるやあらんされといふかひなくなり  
 8 給にし人のよのつねのありさまにてかやうならん人をもとゝめをき給へらましかはと  
 9 のみおほえて此ごろおもたゝしけなるあたりにいつしかなどは思よらぬこそあまりすへなき君

**52才**

1 の御心なめれかくめゝしくねちけてまねひなすこそいとおしけれしかわろひかたほならん人を  
 2 みかとのとりわきせちにちかつけてむつひ給ふべきにもあらじ物をまことしきさまの御心をき  
 3 て  
 4 などこそはめやすく物し給けめとそをしはからるへきけにいとかくおさなき程を見せ給へも  
 5 あはれなれはれいよりは物語などこまやかにきこえ給程に暮ぬれは心やすく夜をたにふか  
 6 すましきをぐるしうおぼゆれはなげくへ出たまひぬおかしの人の御にほひやおりつれはとか  
 7 やいふやうに  
 8 蔦もたづねきぬへきかめりなどわづらはしかるわかき人もあり夏にならは三条の宮ふたかるか  
 9 たに  
 7 なりぬへしとさためて四月のついたち比せちふんとかいふ事またしきさきにわたしたてまつり  
 給  
 8 あすとての日藤つぼにうへわたらせ給て藤の花のえんせさせ給みなみのひさしのみすあけて  
 9 石たてたりおほやけわさにてあるしの宮のつかうまつり給にはあらずかんたちめ殿上人のきや  
 うなど

**52ウ**

1 くらづかさよりつかうまつり右のおとゝあせちの大納言とう中納言左兵衛督みこたちは三宮  
 2 ひだちの宮なとさふらひ給みなみの庭の藤の花のもとに殿上人の座はしたりこうりやうてんの  
 3 ひんかしにかくその人々めして暮行程にそつとうふきてうへの御あそひに宮の御かたより御こ  
 4 とゝも  
 5 ふえなどいたさせ給へはおとゝをはじめたてまつりておまへにとりつゝまいり給て六条の院の  
 御てつからかき  
 6 給て入道の宮にたてまつらせ給しきんのぶ一巻五えうのえたにつけたるをおとゝとり給てそつ  
 7 し給つきくにさうの御ことひわわこんなと朱雀院の物ともなりけりふえは此夢につたへしい  
 にしへのかた  
 8 見のを又なき物の音なりとめてさせ給ければ此おりのきよらより又はいつかははへくしきつ  
 いてのあ  
 9 らむとおほしてどうて給へるなめりおとゝわこん三面ひわなどりへに給ふ大将の御ふえは  
 けふそ  
 1 おもしろくあそぶ宮の御かたよりふすべまいりせ給へりちんのおしきよつしたんのたかつきよ  
 ちの  
 2 むらこのうちしきにおりえたぬひたりしろかねのやうきるりのさかつしひしはこんるり也  
 3 兵衛督御まかなひつかうまつり給御さかつまゝり給におとゝしきりてはひんなかるへし  
 4 宮たちの御中にはたさるへきもおはせねは大将にゆつりきこえ給をはゝかり申給へと御けしき  
 も

**53才**

5 いかゞありけむ御さかつきさゞけてをしとのたまぐるこはつかひもてなしさへれいのおほや  
事なれど

6 人にす見ゆるもけふはいとゝ見なしきへそゑにやあらんさしかへしたまはりておりてふたう  
7 し給へる程いとたくひなし上臍のみこたち大臣などのたまはり給ふたにめてたき事なるを  
8 是はまして御むこにてもてはやされたてまつり給へる御おほえをろかならすめつらしきにかき  
りあれは

9 くたりたるさにかへりつき給へる程へるしきまゝぞ見えけるあせちの大なこんは我こそ

### 53ウ

1 かゝるめをも見むと思しかねたのわさやと思む給へり此宮の御はゝ女御をそむかし心かけきこ  
え給へり  
2 けるをまいり給て後もなを思はなれぬさまにきこえかよひ給てはては宮をえたてまつらん  
3 の心つきたりければ御うしろみのそむ氣しきももらし申けれときこしめしたにつたへすなりに  
4 ければいと心やましと思て人からはけに契りことなめれとなそ時のみかとのことへしきまで  
5 むこかしつき給ふへきまたあらしかしこゝのへの内におはしますてんちかき程にてたゞ人の  
6 打とけさらひではえんやなにやともてさはかるゝ事はなどいみしくそしりつるやき  
7 申給けれどさすかゆかしかりければまいりて心のうちにそはらたちゐ給へりけるしそくさして  
うた

8 ともたてまつる文台のもとによりつゝをく程の氣しきはをのゝしたりかほなりけれとれいの  
いかに

9 あやしけにあるめきたりけんと思やればあながちにみなもたつねかゝすかみの上臍とて御くち

### 54オ

1 つきともはことなる事見えさめれとしるはかりとてひとつふたつそとひきこえたりし是は  
2 大将の君のおもて御かさしおりてまいり給へりけるとか  
3 すべらきのかさしにおると藤の花をよはぬえたに  
4 袖かけてけりうけはりたるそにくきにや  
5 よろつ代をかけてにほはむ花なればけふをもあかぬ  
6 色とこそ見れ  
7 きみかためおれるかさしはむらさきの雲にをよはぬ  
8 花の気しきか  
9 よのづねの色とも見えす雲ゐまでたちのぼりける

### 54ウ

1 藤なみの花是や此はらたつ大納言のなりけんと見ゆれたへはひか事にもや  
2 ありけんがやうにことなるおかしきふしもなくてのみそあたりし夜ふくるまゝに御あそひ  
3 いとおもしろし大将の君のあなたうどうたひ給へることそかきりなくめたかりける  
4 あせちもむかしすくれ給へりし御こゑのなこりなれはいまもいと物々しくて打あはせ給へり  
5 右のおほい殿の七ぢうわらはにてさうのふえふくいとうつくしかりければ御そたま  
6 はすおとゝおりてふたうし給曉ちかうなりてそかへらせ給けるろくともかんたちめ  
7 みこたちにはうへよりたまはす殿上人かくところの人々には宮の御かたよりしなへ  
8 たまはりその夜さりなん宮まかてさせたてまつり給けるきしきいと心こと也うへの女房  
9 さなから御をぐりつかうまつらせ給けるひさしの御ぐるまにてひさしなきいとけみつ

### 55オ

1 こかねつくりむつたゞのひらうけ二十あしる二わらはしもつかへ八人つゝさふらふに  
2 又御むかへのいたしくるまとも十一本所の人々のせてなんありける御をぐりのかんたちめ

3 殿上人六位などいふかきりなききよらをつくさせ給へりかくて心やすく打とけて見たてまつり  
4 給ふにいとおかしけにおはすさゝやかにあてにしめやかにてこゝはと見るところなくおはす  
れはすぐせ

5 の程くちおしからさりけりと心おこりせらるゝ物からすきにしかたのわすらはこそはあらめ  
なを

6 まきるゝおりなく物のみ恋しくおほゆれば此世にてはなくさめかねつべきわざなめり仏に  
7 なりてこそはあやしくつらかりける契のほとをなにのむくひとあきらめて思はなれめど  
8 おもひつゝ寺のいそきにのみ心をはいれ給へりかものまつりなどさはかしき程すべし  
9 廿日あまりの程にれいの宇治へおはしたりつくらせ給ふ御たう見給てすへき事とも

### 55ウ

1 をきてのたまふさてれいのくち木のもとを見給へすきんかなをあはれなれはそなたさまに  
2 おはするに女くるまのことへしききまにはあらぬひとつあらましきあつまおとこのこしに物  
おへる

3 あまたくしてしも人かすおほくたのもしけなる氣しきにて橋よりいまわたりくるみゆゐ中ひ  
4 たる物かなと見給つゝ殿はまつ入給てこせんともはまた立さはきたる程に此ぐるまも此富を  
5 さしてくるなりけりとみゆみすいしんともがやへといふをせいし給てなに人そととはせ給へ  
はこゑ打  
6 ゆかみたる物ひたちのせんしとのゝひめ君のはつせのみ寺にまうでゝもとり給へる也はしめも  
こゝに  
7 なんやとり給へりしと申においやきゝし人ななりとおほし出で人々をはことかたにかくし給て  
8 はや御くるまいれよこゝに又人やとり給へと北おもてになんといはせ給ふ御ともの人もみなか  
り  
9 きぬにてことへしからぬすかたともなれとなをけはひやしるからんわづらはしけに思て馬と  
もひきさけ

### 56オ

1 などしつゝかしこまうりつゝそをるくるまばづれてらうの西のつまにそよする此しんてんはまた  
あら

2 はにてすたれもかけすおろしこめたるなかの二まにたてへたてたるさうしのあなよりのそき  
3 紿御そのなれはぬきをきてなをしさしぬきのかきりをきてそおはするとみにもおりてあま  
4 君にせうそこしてかくやむ事なけなる人のおはするを誰そなとあないするなるへし  
5 きみはくるまをそれと聞給へるより夢その人にまろありとのたまふなどまづくちかためさせ  
6 給てければみなさへ心えではやくおりさせ給へまづうとは物し給へとことかたになんといひた  
し  
7 たりわかき人のあるまつおりすたれ打あくめりこせんとものとまよはこのおもとなれでめ  
や  
8 すし又おとなひたる人いまひとりおりてはやうといふにあやしくあらはなるこゝちこそそれと  
9 いふこゑほのかなれとあてに聞ゆれいの御事こなたはさきへもおひしこめてのみこそは侍れ  
さては

### 56ウ

1 又いつこのあらはなるへきそと心をやりていふつゝましけにおるゝを見ればまつつかしらつき  
2 やうたいほそやかにあてなる程はいとよく物おもひ出られぬく扇をつとせしかくしたれば  
3 かほは見えぬ程心もとなくてむね打つぶれつゝ見給ふくるまはたかくおるゝといひおほくたりた  
るを

4 此人々はやすらかにおりなしつれといとくいしけにやゝみてひさしくおりていさりいるひうち  
5 きになしてしことおほしきほそなかわかなへ色のこゝもきたり四尺の屏風を此さうしにそべて  
6 たてたるかかみよりみゆるあなゝれは残るといふなしこなたをはうしるめだけに思てあなたさ  
まに

7 むきてそそひるしゆるさもくるしけにおぼしたりつるかないみ川のふなわたりもまことだけ  
ふは

8 いとおそらしくいとありつけ此きさうきには水のすくなかりしかばよかりしなりけりしてやあ  
りく

9 はあつまぢをおもへばこつこがおそらしからんなどふたりしてくることも題たらすいひぬたる  
に

### 57才

1 しうは音もせてひれふしたりかひなをさしいてたるかまろうかにをかしけるほともひたち殿な  
と

2 いふへくは見えすまことにあて也やうへこしたきまで立すくみ給へと人のけはひせしとて  
3 なをうこかて見給るにわかき人あなかうはしやいみしきかうのかこそすれあま君のたき  
4 給にやあらん老人まことにあなめたの物のかや京人はなをいとこそみやひやかにいまめ  
5 かしけれ天のしたにいみしき事とおほしたりしかとあつまにてかゝるたき物の香はえあはせ  
6 いてたまはさりきかしこのあま君はすまゐかすかにおはすれとさうそくのあらまほしくにひ  
7 いろあをにひといへどいときよらにそあるやなどほめぬたりあなたのはすのこよりわらはきて  
8 御ゆなどまいらせ給へとておしきともゝとりつゝきてさしいてくた物とりよせなどしてものけ  
9 たまはる是などおじせとおきねはふたりしてくりなどやうの物にやほろへとへやもきへ

### 57ウ

1 しうぬこゝ地にはかたはらいたくてしそき給へと又ゆかしくなりつゝなを立よりへ見給是よ  
り

2 またるきはの人々をきさひの富をはしめてこゝかしこにかたちよきも心あてなるもこゝらあく  
3 まで見あつめ給へとおぼろけならてはめも心もとまらすあまり人にもとかるゝまで物し給  
4 こゝちにたゞいまはなにはかりすくれて見ゆる事なき人なれとかく立さりかたくあなかちにゆ  
かしき

5 もあやしき心也あま君は此殿の御かたにも御せうそこきにいたしたりけれど御こゝちなや  
6 ましとていまの程打やすませ給へるなりと御ともの人々心しらひていひたりければ此君をた  
7 つねまほしけにのたまひしかは此ついてに物いひふれんとおもほすによりて田へらし給にやど  
思て

8 かくのそき給ふらんとはしらすれいのみさうのあつかりどものまいれるわりこやなにやどな  
た

9 にもいれたるをあつま人ともにもくはせなど事ともをこなひをきて打けさうしてまぢうと

### 58才

1 のかたにきたりほめつるそくそくにいとかはらかにてみめもなをよしへしくきよけにそあ  
る

2 昨日おはしつきなんと待きこえさせしをなとかけふも日たけてはといふめれば此人いと  
3 あやしくくるしけにのみせさせ給へは昨日は此いつみ川のわたりにとゝまりてけさも  
4 むこに御こゝちたためらひてなんといらへておこせはいまはおきみたるあま君をはちら  
5 ひてそはみたるかたはらめ是よりはいとよくみゆまことにいとよしあるまみの  
6 程かんさしのわたりかれをもくはしくつくへとしも見たまはさりし御かほなれと

7 是を見るにつけてたゞそれと思ひ出らるゝにれいの涙おちぬあま君のいらへ  
 8 打するこゑけはひ宮の御かたにもいとよくにたりと聞ゆあはれなりける人かな  
 9 かゝりける物をいまゝてたつねもしらですべしける事よ是よりくちおし

### 58ウ

1 からんきはのしなならんゆかりにてたにかはかりかよひきこえ  
 2 たらむ人をえてはをろかにおもふましきこゝちするにましてこれは  
 3 しられたてまつらさりけれとまことにこ宮の御ごにこそはありけれと  
 4 見なし給てはかきりなくあはれにうれしくおぼえ給ふたゞいまも  
 5 はひよりて世の中におはしける物をといひなくさめまほしほうらひ  
 6 までたつねてかんさしのかきりをつたへて見給けんみかとは  
 7 なをいふせかりけむこれはこと人なれとなくさめところありぬへきさま  
 8 なりとおぼゆるはこの人にちきりのおはしけるあらんあま君は物がたり  
 9 すこししてとくいりぬ人のとかめつるかほりをちかくてのそき給なめり

### 59オ

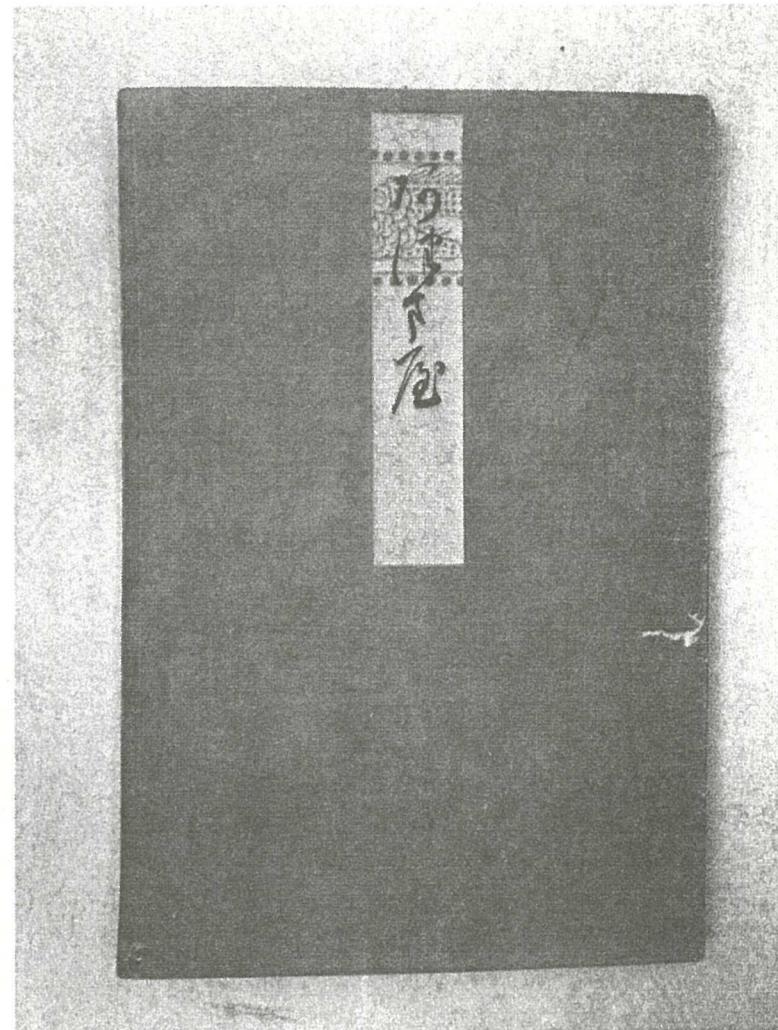
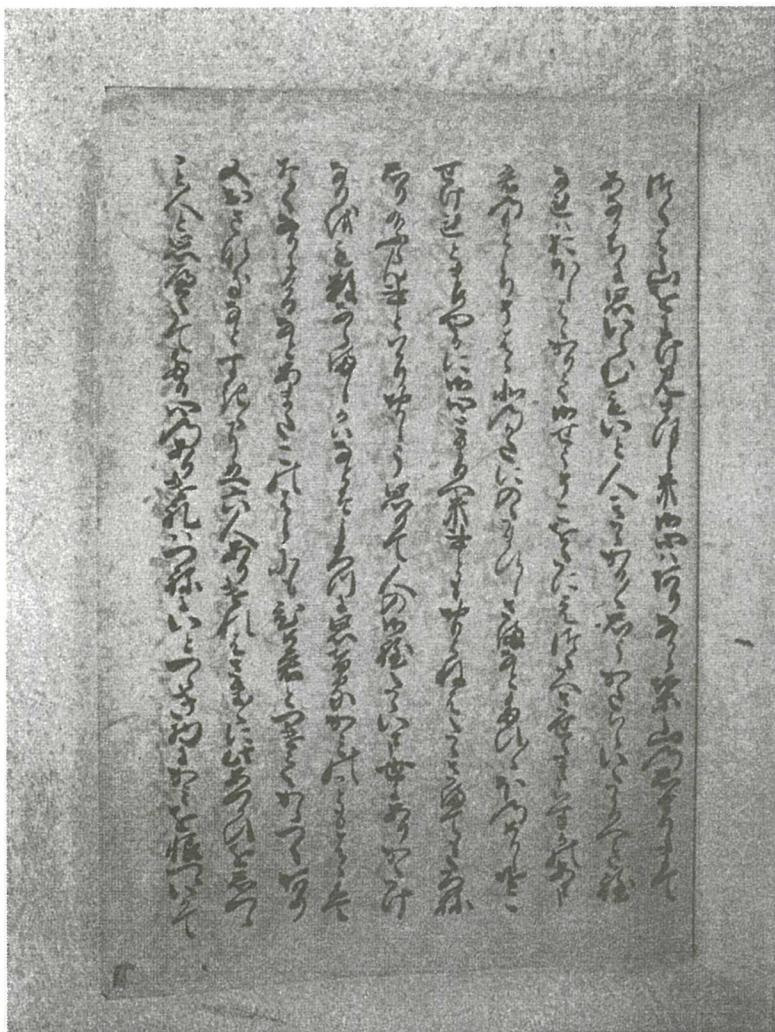
1 と心えてければ打とけこともかたらはずなりぬへし日暮もていけば  
 2 君もやをら出て御そなとき給てそれいめし出るさうしくちにあま君  
 3 よひてありさまなどひ給ふおりしもうれしくま行きあひたるをい  
 4 かにそかのきこえしことはとのたまへはしかおぼせ事侍し後はさるへき  
 5 ついて侍らはとまち侍しにこそはすきてこの二月になんはつせまうて  
 6 のたよりにはしめてたいめんして侍しかかのはゝの君におぼしめしたるさま  
 7 はほのめかし侍しかはいとかたはらいたくかたしけなき御よそへにこそは侍なれ  
 8 なとなん侍しかとそのころをひはのとやかにおはしますとうけたまはりしおり  
 9 ひんなくおもふ給へつゝみてかくなんともきこえさせ侍らさりしを又此月にも

### 59ウ

1 まうてゝけふかへり給なめりゆきかへりの中やとりにはかくむづひらるゝもたゞ  
 2 すきにし御氣はひをたつねきこゆるゆへになんはへめるかのはゝ君はさはる事  
 3 ありて此たひはひとり物し給めればかくおはしますともなにかは物し侍らんとてど  
 4 聞ゆゐ中ひたる人ともにしのひやつれたるありきも見えしとてくちかため  
 5 つれといかゝあらんけすともはかくれあらしかしさていかゝすへきひとり物すらんこそ  
 6 中々心やすかなれかく契りふかくてなんまいりきあひたるとつたへ給へかしとのたまへ  
 7 は打つけにいつの程なる御契りにかは打わらひてさらはしかつたへはへらむ  
 8 とて いるに  
 9 かほとなりのこゑもきゝじにかよふやとしけみをわけて

### 60オ

1 けふそだつぬるたゞくちすさひのやうにのたまうをいりてかたり  
 2 けり



## 1才

1 つくは山をわけ見まほしき御心はありながら葉山のしけりまで  
 2 あなかちに思いらむもいと人きゝかるくしうかたはらいたかるへき程  
 3 なれはおほしはかりて御せうそこをたにえつたへさせたまはすかのあま  
 4 君のもとよりそは北のかたにのたまひしまなどたひくほのめかしをこ  
 5 せけれどとめやかに御心とまるへき事ともおもはねはたゞさまでもたつね  
 6 しり給ふらん事とはかりおかしう思ひて人の御程たゞいま世にありかたけ  
 7 なるを數ならましかはなどそよろつに思けるかみのこともはゝは  
 8 なくなりにけるなどあまたこのはらにもひめ君とつけてかしつくあり  
 9 又おさなきなどすきくに五六人ありければさまくに此あつかひをしつゝ  
 10 こと人と思へたてたる心のありければつねにいとつらき物にかみを恨つゝいかで

## 1ウ

1 ひきすぐれておもたゞしき程にしなしても見えましかなと明暮此  
 2 はゝ君思あつかひけるさまかたちのなのめにとりませてもありぬへくは  
 3 いとかうしもなにかはくるしきまでももてなやまましおなし事おもはせて  
 4 もありぬへき世を物にもましらすあはれにかたしけなくおひ出給へは  
 5 あたらしく心くるしき物におもへりむすめおばかりときくてなまきん  
 6 たちめく人々もおとなひいふとあまたありけりはしめのはらの  
 7 二三人はみなさまくにくはうておとなひさせたりいまはわかひめ君  
 8 をおもふやうにて見たてまつらはやと明暮まもりでなでかしつく  
 9 事かきりなしかみもいやしき人にはあらさりけりかんたちめの  
 10 すちにてながらひも物きたなき人ならすとくいかめしうなどあれば

## 2オ

1 程々につけては思あかりては家のうちもきらくしく物きよけにすみ  
 2 なしことこのみしたるよりはあやしうあらゝかにぬなかひたる心そつき  
 3 たりけるわからようりさまあつまのかたのはるかなるせかいにむもれて年  
 4 へければにやこゑなど程々打ゆかみぬへし物打いふすこしたみたるやう  
 5 にてかうけのあたるおそろしくわづらはしき物にはゝかりおりすへいと  
 6 またくすきまなき心もありおかしきさまにことふえのみちはとをうゆ  
 7 みをなんいとよくひきけるなをくしきあたりともいはずいきをひにひか  
 8 されてよきわか人ともつとひさうそくありさまはえならすとゝのへつゝ  
 9 こしおれたるうたあはせ物語かうしんをしまはゆく見るしくあそび  
 10 かちにこのめるを此けさうのきんたちらうくしきこそあるへけれかたち

## 2ウ

1 なんいみしかなるおかしきかたにいひなして心をつくしあへる中に左近の  
 2 少将とてとし廿二三はかりの程にて心はせしめやかにさえありといふ  
 3 かたは人にゆるされたれどきらくしういまいてなどはえあらぬにや  
 4 かよひしころなどもたえていとねんころにいひわたりけり此はゝ君  
 5 あまたかゝる事いふ人々のなかに此君は人からもめやすかなりやこれより  
 6 まさりてことくしききはの人はたかゝるあたりをさげへとたつねよらしと  
 7 思ひて比御かたにとりつきてさるへきおりくはおかしきさまに返ことなどせき  
 8 せたてまつる心一に思まうけてかみこそろかに思なすとも我はいのち  
 9 をゆつりてかしつきてさまかたちのめてたきを見つきなはさりともをろかに

10 などはよも思ふ人あらしと思たち八月はかりと契りててうとをまうけはかな

**3才**

1 きあそひ物をせさせてもさまことにやうおかしうまきあらてん  
 2 のこまやかなる心はへまさりて見ゆる物をは此御かたにとどりかくして  
 3 をとりのを是これなんよきとてみすればかみはよくしも見しらすそこ  
 4 はかない物ともの人のてうとゝいふかきりはたゝとりあつめてならへ  
 5 すへつゝめをはつかにさし出るばかりにてことひわのしとてないけう  
 6 はうのわたりよりむかへとりつゝならはす手一ひきとれはしちをたち  
 7 みにおりみてよろつにろくをとらする事うつむはかりにてもてさはく  
 8 はやりかなるこくの物などをしへてしとおかしき夕暮などにひきあ  
 9 はせてあそぶ時は涙もつゝますをこかましきまでさすかに物めでしたり  
 10 かゝる事ともをはゝ君はすこし物のゆへしりていと見くるしとおもへはことにあへしり

**3ウ**

1 はぬをあこをは思をとし給へりとつねに恨けりかくて此少将契りし程を待  
 2 つけておなしくはとくとせめければ我心一にかう思いそくともいとつゝましう  
 3 人の心のしりかたさを思てはしめよりつたへそめる人のきたるにちかふ  
 4 よひよせてかたらふよろつおほく思はゝかる事のおほかるを用ごろかうのた  
 5 まひて程へぬるをなみくの人にも物したまはねはかたしけなう心くるしうてかう  
 6 思立にたるをおやなど物したまはぬ人なれば心一なるやうにてかたはらいたう打あ  
 7 はぬさまに見えたてまつる事もやとかねてなん思ふわかき人々あまた侍れと思人  
 8 くしたるはをのつからと思ゆつられて此君の御ことをのみなんはかなき世中を見る  
 9 にもうしろめたくいみしきを物おもひしりぬへき御心さまと聞てかうよろつの  
 10 つゝましさをわすれぬへかめるもおしもえし思はすなる御心はへも見えは人わらへに

**4才**

1 かなしうなんといひけるを少将の君にまうてゝしかくなんと申けるにけしきあしく  
 2 なりぬはしめよりさらのかみのみのむすめにあらすといふ事をなんきかさりつるおなし事  
 3 なれど人きゝも氣をとりたるこゝ地して出入せんにもよがらすなんあるべきようも  
 4 あないせてうかひたことつたへけるとのたまふにいとおしくなりてくはしくもしり給へす  
 5 女とのしるたよりておほせことをつたへはしめ侍しになかにかしつくむすめとのみ聞侍れ  
 6 はかみのとこそはそ思給へされこと人のこもたまへらむともとひ聞侍らざりつる也  
 7 かたち心もすくれて物し給事はゝうへのかなしうし給ておもたゝしう氣たかき事を  
 8 せんとあかめかしつかると聞侍しかはいかてかのへんのことつたへつへからん人もかなと  
 9 のたまはせしかはさるたよりし給へりとどう申になりきらにうかひたるつみ  
 10 待ましき事なりとはらあしくこと葉おほかる物にて申に君いとあてやか

**4ウ**

1 ならぬさまにてかやうのあたりにいきかよはんは人のおさゝゆるさぬ事なれ  
 2 といまやうの事にてとかあるましうもてあかめてうしる見たつにかくして  
 3 なんあるたくひもあかめるをおなし事と内々には思ふともよそのおほえ  
 4 なんへづらひて人いひなすへき源少納言さぬきのかみなどのうけはりたる  
 5 けしきだて出いらんにかみにもおさゝうけられぬさまにてましらはんなんいと人  
 6 けなかるべきとのたまふ此人ついそうあるうたてある人の心にて是をいと  
 7 くちおしうこなたかなにいとおしと思ければまことにかみのむすめとおほさはま  
 8 たわかうなどおはすともしかつたへ侍らんかしなかにあたるなんひめ君とてかみは

9 いとかなしうし給なりと聞ゆるいさやはしめよりしかひよれる事ををきて  
10 又いはんこそうたであれされとわかほいはかのかみのぬしの人からも

## 5才

1 物々しくおとなしき人なればうしろ見にもせまほしう見るところ  
2 ありて思はしめしこともはらかほかたちのすくれたらん女のねかひもなし  
3 しなあてにえんならむ女をねかはゝやすくえつへしきれどさひしうことうち  
4 あはぬとやひこのめる人のはてゝは物きよくもなく人にもおほえたらぬを見  
5 れはすこし人にそしらるゝともなたらかにて世中をすくさんことをねかふ也  
6 かみなんとかたらひてさもとゆるすけしきあらはなにかはさまとのたまふ  
7 此人はいもうとのこの西の御かたにあるたよりにかゝる御文などもとりつたへ  
8 はしめけれとかみはくはしくも見えしらぬ物なりけりたゝいきにかみの  
9 ぬたりけるまへにいきてとり申へき事ありなんといはずかみ此わたりに  
10 時々出いりはすときけとまへにはよひいてぬ人の何事いふにかはあらんとなま

## 5ウ

1 あらくしきけしきなれと左近の少将殿の御せうそこにてなんさぶらふと  
2 いはせたれはあひたりかたらひかたけなるかほしてちかうみよりて月ころうちの  
3 御かたにせうそこきこえさせ給を御ゆるしりて此月の程にと契りきこえ  
4 させ給事侍を日をはからひていつしかとおもほす程にある人の申けるやう  
5 まことに北のかたの御はらに物し給へとかむの殿の御むすめにはおはせずきん  
6 たちのおはしかよはんに世のきこえなんへつらひたるやうならむすらうの  
7 御むこになり給かやうの君たちはたゝわたくしの君のことく思かしつき  
8 たてまつり手にさゝけたる事かおもひあつかひうしるみたてまつるに  
9 かゝりてなんさるふるまひし給人々物し給めるをさすかにその御ね  
10 かひはあなかちなるやうにておさゝうけられたまはてけをとりて

## 6才

1 おはしかよはん事ひんなかりぬへきよしをなんせちにそしり申人々あま  
2 た侍なれはたゝいまおぼしわづらひてなんはしめよりきらゝしう人のうし  
3 ろみとたのみきこえむにたへ給へる御おぼえをえらひ申てきこえはしめ  
4 申し也さら人に人物し給ふらんといふことしらさりければもとの心さしのまゝに  
5 またおさなきもあまたおはするるをゆるいたまはゝいとうれしくなん御け  
6 しき見てまうてことおぼせらるれはといふにかみさらなかゝる御せうそこ  
7 侍しくはしくうけたまはらすまことにおなしことに思ふ給ふへき人なれとよ  
8 からぬわらはへあまた侍てはかゝしからぬ身にさまゝ思給へあつかふ程には  
9 なる物も是をこと人と思わけたる事とくねりいふ事侍てともかくもくち  
10 いれさせぬ人のことに侍ればほのかにしかなんおぼせらるゝ事侍とはきゝ

## 6ウ

1 侍しかとなにかしをとりところにおぼしける御心はしり侍らさりけるさるはいと  
2 うれしく思給へらるゝ御ことにこそ侍なれいとらうたしと思ふめのわらははあまたの  
3 中是をなんいのちにもかへんと思侍のたまる人々あれといまの世の人のみ心さため  
4 なくきこえ侍に中々むねいたきめをやみんのはゝかりに思さたむる事もなくて  
5 なんいかてうしろやすくも見給へをかんと明暮かなしく思給ふるを少将殿にをき  
6 たてまつりてはこ大将殿にもわからよりまいりつかうまつりき家のこにて見たてまつり  
7 しにいとへきやうさくつかうまつらまほしと心つきて思きこえしかとはるかなる

8 ところに打つゝきてすくし侍年ころの程にうぬくしくおほえ侍てなんまいりも  
 9 つかまつらぬをかゝる御心さしの侍けるを返々おほせのことたまつらんはやすき事  
 10 なれと月ころのたかへるやうに此人思給へんことをなん思ふ給へはゝかり侍といと  
 11 こまやかにいふよろしけなめりとうれしくおもぶなかとおほしはゝかるへき事

## 7 オ

1 にも侍らすかの御心さしはたゞ一ところの御ゆるし侍らんをねかひおほしていはけ  
 2 なく年たらぬ程におはすともしんしちのおやのやむことなく思をきて給へらむをこそ  
 3 ほいかなふにはせめもはらさやうのほとりは見たらんふるまひすへきにもあひ  
 4 すとなんのたまひつる人からばいとやむことなくおほえ心にくゝおはする君なり  
 5 けりわかき君たちとてすきくしくあてひてもおはしまさす世のあたりさま  
 6 もいとよくしり給へりやうし給どころくもいとおほく侍り又年ころの御とく  
 7 なきやうなれとをのつからやむことなき人の御氣はひのありけなるやうなを人  
 8 のかきりなきとみといふめりいきをひにはまさり給へり来年四位になり給  
 9 なんこたみのかみはうたかひなくみかとの御くちつからこて給へる也よろつの事  
 10 たらひてめやすきあそんのめをなんさためさるとやさるへき人えりて  
 11 うしろみをまうけよかんたちめにはわれしあればけふあすといふはかりになし

## 7 ウ

1 あけてむとこそおぼせらるなれ何事もたゞ此君とみかとにもしたしく  
 2 つかうまつり給なる御心はたいみしうかうさぐにをもくしくなんおはしますめる  
 3 あたら人の御むこをかう聞給程におもほしたちなんこそよからめかの殿をば  
 4 我もくむこにとりたてまつらんとところくに侍なればこゝにしふくくなる御けはひ  
 5 あらはほかさまにもおほしなりなん是たゞうしるやすき事をとり申なりといと  
 6 おほくよけにいひつゝくるにいとあさましくひなひたるかみにて打ゑみつゝきゝぬ  
 7 たり此ころの御とくなとの心もとなからん事はなたまひそなにかしいのち侍らん  
 8 程はいたゞきにちさゝけたてまつりてん心もとなくなにをあかぬとかおほすへき  
 9 たとひあへすしてつかうまつりさしつとも残りのたから物りやうし侍る  
 10 ところくひとつにても又とりあらそふへき人なし子どもおほく侍れと

## 8 オ

1 是はさまことに思そめたる物に侍りたゞ心におほしかへり見させたま  
 2 はゝ大臣のくらゐをもとめんとおほしねかひて世になきたから物をもつく  
 3 さむとしたまはんになき物侍るましのみかとしかめくみ申給なれば  
 4 御うしろみは心もとなかるまし是かの御ためにもなにかしかめのわらはのためにも  
 5 さいはひとあるへき事にやともしらすとよろしけにいふ時もいとうれしくなりて  
 6 いもうとにもかゝることありともかたらすあなたにもよりつかてかみのいひつる事  
 7 をいともくよけにめてたしと思ひて聞ゆれば君すこしひなひてそあるとは聞  
 8 給へとにくからす打ゑみて聞ゆ給へり大臣にならんそくらうをとらせんなどそあま  
 9 りおどろくしき事とみゝとゝまりけるさてかの北のかたにはかくと物しつやこゝろ  
 10 さしことに思はしめ給ふらんにひきたかへたらむひかくしくねちけたるやうに

## 8 ウ

1 とりなす人もあらんいさやとおほしたゆむたるをなにか北のかたもかの  
 2 ひめ君をはいとやむことなき物に思かしつきたてまつり給なりけりたゞ  
 3 なかのこのかみにて年もおとなひ給を心くるしき事に思ひてそなたにも  
 4 おもむけて申されけるなりけりと聞ゆ月ころはまたよくのつね

5 ならすかしつくといひつる物の打つけにかくいふもいかならんとおもへともなをひと  
6 わたりはつらしとおもはれ人にはすこしそしらるゝともなからへてたの  
7 もしきことをこそといとまたくかしこき君にて思とりてければ日を

8 たにとりかへす契し暮にそおはしはしめる北のかたは人しれすいそき

9 たちで人々のさうそくせさせしふらひなどよしくしうし給御かたをも

10 かしらあらはせとりづくろひて見るに少将などいふ程の人見せんもおかしく

### 9才

1 あたらしきさまをあはれやおやにしられたてまつりておひたちたまはまし  
2 かはおはせずなりにたれども大将殿ののたまぶらんさまにおほけなくともなとは思ひ  
3 たらましされと内々にこそかくおもへほかのをときゝはかみのことも思わかすまた  
4 しちをたつねしらむ人も中々おとしめ思ぬへきこそかなしけれなと思つゝくいか  
5 はせんさかりすぎたまほんもあいなしいやしからすめやすき程の人のかくねん  
6 ころにのたまぶめるをなど心一に思きたむるも中たちのかくことよくいみしきに  
7 女はましてすかされたるにやあらんあすあきてとおもへは心あはたゞしくいそかしきに  
8 こなたにも心のとかにゐられたらすそゝめきありくにかみとよりいりきてなかくと  
9 とゝこほるところもなくいひつゝけて我を思へたてゝあこの御けさう人を  
10 うははんとし給けるおほけなく心おさなき事めてたからむ御むすめをはせさせ給

### 9ウ

1 君たちあらしいやしくことやうならんにかしらか女こをそいやしうもたつね  
2 のたまぶめかしこく思くはたてられけれどもはらほいなしとてほかさまへ思なり  
3 給へるなればおなしくはと思ひてなんさらは心とゆるし申つるなどあやしくあふなく  
4 人のおもほんところもじらぬ人ていひちらしゐたり北のかたあぎれて物もいは  
5 れてとばかり思ふに心うさをかきつらね涙もおちぬはかり思つゝけられてやをら  
6 たちぬこなたにわたりて見るにいとらうだけにおかしけにてお給へるにさりとも  
7 人にはをとりたまはしとは思なくさむめのとゝふたり心うき物は人の心なりけり  
8 をのれはおなし事思あつかふとも此君のゆかりとおもほん人のためにはいのちをも  
9 ゆつりつべくこそおもへとおやなしときゝあなつりて又おさなくなりあはぬ人をさしこえて  
10 かくはいひなるへしやうく心うくちかきあたりに見しきかしと思ぬれとかみのかく

### 10才

1 おもたゞしき事に思ひてうけとりさばくめれはあひくにたか世のありさまをすべてかゝる  
2 ことにくちいれしとおもふいかでこゝならぬところにしはしありしかなと打なけきつゝいふめ  
のと  
3 もいとはらたゞしくわか君をかくおとしむる事なにか是も御さひはいてたかふ事とも  
4 しらすかく心くるおしくいましける君なればあたら御さまをも見しらさらましわか君  
5 をは心はせあり物おもひしりたらむ人にこそ見せたてまつらまほしけれ大将殿の御  
6 さまかたちのほのかに見たてまつりしにさもいのちのふるこゝちのし侍しかなあはれにはた  
7 きこえ給也御すべにまかせておほしよりねかしといへはあなたそろしや人のいふを  
8 きけば年ころおほろけならん人を見しとのたまひて右のおほい殿あせちの大納言  
9 式部卿の宮などのいとねんころにほのめかし給けれと聞すくしてみかとの御かしつき  
10 むすめをえ給へる君はいかばかりの人かまめやかにはおほさむかのはゝ宮などの御かたに

### 10ウ

1 あらせて時々も見むとはおぼしもしなんそれはたけにめてたき御あたりなれ  
2 いとむねいたかるべき事也宮のうへのかくさいはひ人と申なれと物おもはしけにお

3 ほしたるを見ればいかにもへふた心ながらむ人のみこそめやすくてのもしき

4 ことにはあらはわかみにてもしりにきに富の御ありさまはいとなさけへしくめてた  
5 くおかしくおはせしかと人数にもおほさゝりしかばいかはかりかは心づくつらかりし

6 このいといふかひなくなさけなくさまあしき人なれとひたおもむきに一心なきを見  
7 れは心やすくて年ころをもすぐしる也おりふしの心はへのかやうにあひきやうなく

8 ようゐなき事こそにくけれなけかしくうらめしきこともなくかたみに打いさかひても心え

9 あはぬ事をはあきらめつかんたちめみこたちにてみやひかに心はつかしき人の御あたりといふ  
10 とも我数ならではかひあらしよひつのこと我身からなりけりとおもへはよろつにかなしくひそ

### 11才

1 見たてまつれといかにして人わらへならすしたてまつらんとたらふかみはいそきたちて  
2 女房なとこなたにめやすきあまたあるを此程はあらせ給へやかてぢやうなどもあ  
3 たらしくしてられためるかたをことにはかになりにためはとりわたしとかくあらたむ  
4 ましとて西のかたにきてたちゐとかくしつらひさはくめやすきさまにさはらかにあたりへ  
5 あるへきかきりしたるところをさかしらに屏風とももてきていふせきまでたて  
6 あつめてつしにかひなとあやしきまでしくはべて心をやりていそけは北のかた見  
7 くるしく見れとくちいれしといひてしかはたゝに見きく御かたは北おもてにゐたり人の  
8 御心は見しりはてぬたゝおなし子なれはさうともいとかくは思はなちたまはしこそ思つれ  
9 され世にはなき子はなくやはあるとてむすめをひるよりめのとゝふたりなてつくるひ  
10 たてたれはにくけにもあらす十五六の程にていとちいさやかにふくらかなる人のかみうつ

### 11ウ

1 くしけにてこうちきの程也すそいとふさやか也是をいとめてたしと思てつくるひな  
2 にか人のさまことに思かまへられける人をしもとおもへと人からあたらしくかうさくに物し  
給

3 君なれは我もへとむこにとりまほしくする人のおほかなるにとられなんもくちおし  
4 くてなんとかの中人にはからでていふもいとをこなりおどこ君も此程のいかめ  
5 しく思ふやうなる事とよろつのつみあるましう思ひてその夜もかへすきそめぬ  
6 はゝ君御かたのめのとじとあさましく思ひひかへしきやうなれはとかく見あつ  
7 かるも心つきなけれは宮の北のかたの御もとに御文たてまつるその事と侍らては  
8 なれへしくやとかこまりてえ思給ふるまゝにもきこえさせぬをつゝしむべき  
9 こと侍てしはしころかへさせんと思ふ給へるにいとしのひてさふらひぬべきかくれの  
10 かたさあらはゝいともへうれしくなん數ならぬ身一のかけにはかくれもあへすあはれるなる

### 12才

1 ことのみおほく侍世なれはたのもしきかたにはまつなんと打なきつゝかきたる文を  
2 あはれとは見給けれど宮のさはかりゆるしたまはてやみにし人をわれひ  
3 とり残りてしりかたはんもいとつゝましく又見くるしきさまにて世にあふれむ  
4 もしらすかほにてきかんこそ心くるしかるへけれことなることなくてかたみにちりほほん  
5 もなき人の御ために見くるしかるへきわきをおほしわづらふたいふかとしもいと心  
6 くるしけにいひやりたりければさるやうこそ侍らめ人にくゝはしたなくもな  
7 のたまはせそかゝるをとりの物の人の御中にましり給もよのつねの事なりなとき  
8 こえてさらはかの西のかたにかくろへたるとろし出でいとむつかしきなめれとさても  
9 すくい給つへくはしさしの程といひつかはしつゝとうれしとおもほして人しれす出たつ  
10 御かたもかの御あたりをはむつひきこえまほしと思ふ心なれは中々かゝる事ともの出きたるを

### 12ウ

1 うれしと思ふかみ少将のつかひをいかはかりめてたきことをせむと思ふにそのきらへ  
 2 しかるべき事もしらぬ心にはたゝあらゝかなるあつまきぬどもををしまろかして  
 3 なけいてつくるい物もところせきまでなんはこひ出てのゝしりけるけすとどなど  
 4 はそれをいとかしこきなさけに思ければ君もいとあらまほしく心かしこくとりより  
 5 にけりと思けり北のかた此程を見すてゝしらさらむもひかみたらむと思ひ  
 6 ねんしてたゞするまゝにまかせて見ぬたりまらうとの御ていさぶらひとし  
 7 つらひさはけは家はひろけれど源少納言ひんかしのたいにはすむをのこゝなどの  
 8 おほかるにところもなし此御かたにまらうとすみつきぬればらうなどほとりは  
 9 みたらむにすませたてまつらんもあかすいとおかしくおぼえてとかく思めくらす程  
 10 宮にとは思ふなりけり此御かたさまにかすまへ給人のなきをあなたるなめりとおもへは

**13才****13ウ**

1 ことによるいたまはさりあたりをあなちにまいらすめのとわかき人々二三人ばかり

2 して西のひさしの北によりて人気とをきかたにつほねしたり年ころかくはるか

3 なりつれとうとくおほすましき人なれはまいる時ははちたまはすいとあらまほしく

4 けはひことてわか君の御あつかひをしておはする御ありさまうら山しくおぼゆるもあ

5 はれ也我もこきたのかたにははなれたてまつるべき人かはつかうまつるといひしはかりに

6 かすまへられたてまつらすくちおしくてかく人にはあなつらるゝと思ふにはかく

7 しゆてむつひ聞ゆるもあちきなしこゝには御物いみといひてければ人もかよ

8 はす一三日はかりはゝ君もゐたりこたみは心のとかに見る宮わたり給ゆかし

9 くて物のはさまより見れはきよろに桜をおりたるさましてわかたのもし人に

10 思ひてつらうづらめしけれと心にはたかはしと思ふひたちのかみよりさまかたち

1 も人の程もこよなく見ゆる五位四位ともあひひさまつきさぶらひてこの  
 2 ことかの事とあたりくゝの事ともけいしともなと申又わかやかなる五位ともかほも  
 3 しらぬともゝおばかりわかまゝこのしきふのそうにてくら人なる内の御つかひにてまい  
 4 れり御あたりにもえちかくまいらすことよなき人の御けはひをあはれこはなに人そ  
 5 かゝる御あたりにおはするめてたさよゝよそに思ふ時はめてたき人々と聞ゆとも  
 6 つらぎめ見せたまゝと物うくをしはかりきこえさせつらんあさましさよ此御ありさま  
 7 かたちを見ればたなはたはかりにてもかやうに見たてまつりかよはんはいといみし  
 8 かるべきわざかな思ふもわか君いたきてうつくしみおはす女君みしかききちやう  
 9 をへたてゝおはするををしやりて物なときこえ給御かたちともいときよらにあひ  
 10 たりこ宮のさひしくおはせし御ありさまを思くらるるに宮たちと聞ゆれといとこよな

**14才**

1 きわざとこそありけれとおぼゆぢやうのうちに入たまひぬれはわか君はわかき人  
 2 めのとなにてあそひ聞く人々まいりあつまれとなやましとておほとのこもり  
 3 くらしつ御たいこなたにまいるよろつの事氣たかく心ことに見ゆれはわかいみしき  
 4 ことをつくすと見おもへはなをくゝしき人のあたりはくちおしかじいきをひをたのみ  
 5 わかむすめもかやうにてきしならへたらむにはかたはならしかじいきをひをたのみ  
 6 てちゝぬしのきさきにもなしてんと思たる人々おなしわかこなからけはひこよ  
 7 なきを思ふもなをいまより後も心はたかくつかうへかりけりと夜一夜あら  
 8 ましかたり思つゝけらる宮日たけておき給てきさいの宮れいのなやましくし  
 9 給へはまいるへしとて御さうそくなどし給ておはすゆかしうおぼえてのそけはうるはしく  
 10 ひきつくるひ給へるはたにる物なく氣たかくあいきやうつききよらにてわか君を

## 14ウ

え見すてたまはてあそひおはす御かゆこはいふなどまいりてそこなたより出給  
 けさよりまいりてさぶらひのかたにやすらひける人々いまそまいりて物など聞  
 ゆる中にきよけたちてなてうことなき人のすさましきかほしたるなをしきたち  
 はきたるありおまへにてなにとも見えぬをかれそこのひたちのかみむこの少将なはしめは  
 御かたにとさためけるをかみのむすめをえてこそいたはらめなどひてかしけたるめの  
 わらはをえたるなりいさこのあたりの人はかけてもいはずかの君のかたよりよくきく  
 たよりのあるそをのかとちいふきくらむともしらて人のかくいふにつけてもむねつぶれ  
 少将をめやすき程と思ける心もくちおしくにことなることなかるへかりりと  
 思ひていと、しくあなつらはしく思なりぬわか君のはひ出てみすのつまよりのそき給へ  
 るを打見給て立かへりよりおはしたり御こゝ地よろしく見えたまは、やかてまかてなん

## 15オ

なをくるしくしたまは、こよひはとのぬにそいまは一夜をへたつるもおほつかなき  
 こそくるしけれとてしはしなくさめあそはして出ぬるさまの返々見るともへあく  
 ましくにほひやかにおかしければ出給ぬる名残さうへしくそなかもめらるゝ女君の  
 おまへに出ていみしくめてたてまつれはゐ中ひたるとおほしてわらひ給ごうへ  
 のうせ給し程はいふかひなくおさなき御程にていかにならせたまはんと見たてまつる  
 人もこ宮もおぼしなけきしをこよなき御すべの程なりければさる山ふと  
 ころのなかにもおひ出させ給しにこそありけれくちおしくこひめ君のおはしまさ  
 すなりにたるこそあかぬ事なれなど打なきつゝ聞ゆ君も打なき給て世の中の  
 うらめしく心ほそきおりへも又かくならふれはすこしも思なくさめへきおりもあるを  
 いにしへたのみきこえけるかけともにをくれたてまつりけるは中々によつねにおもひ

## 15ウ

なされて見たてまつりしらすなりにければあるをなを此御ことはつきせすいみしく  
 こそ大将のよろつの事に心のうづらぬよしをうれへつゝあきがらぬ御心のさまを見るに  
 つけてもいとこそくちおしけれとのたまへは大将殿はさはかり世にためしなきまで御  
 かとのかしつきおぼしくなるに心おこりし給ふらんかしおはしまさましかはなを此こと  
 せかれしもしたまはさらましやなと聞ゆいさややうの物と人わらはれなるこゝち  
 せましも中々にやあらまし見はてぬにつけて心にくゝもある世にこそはとおもへと  
 かの君はいかなるにかあらんあやしきまで物わすれせず此宮の御のちの世をさへ  
 思やりふかくうしろ見ありき給めるなど心うつくしうかたり給かのすきにし御かはりに  
 たつねて見むと此数ならぬ人をさへなんかの弁のあま君にはのたまひける  
 さもやと思ふ給へるへき事には侍らねど一もとゆへにこそはとかたしけ

## 16オ

なけれどあはれになん思ふ給へらるゝ御心ふかさなるなどいふついてに此君を  
 もてわづらふことなくへかたるこまかにはあらねど人も聞けりと思ふに少将の  
 思あなつりけるさまなどほのめかしていのち侍らんかきりはなにかあさ夕のなくさめに  
 見すべしつへし打すて侍なん後はおもはすなるさまにちりほひ侍らんかかな  
 しさにあまになしてふかき山にやしすべてかるかたに世中思たえて侍らまし  
 などなんおもふ給わひては思より侍などいふけに心くるしき御ありさまにこそは  
 あなれどなにか人にあなつらるゝ御ありさまはかやうになりぬる人のさかにこそさり  
 とてもたえぬわさなりければむけにそのかたに思きて給へりし身たにかく  
 心よりほかになからふれはまいていとあるましき御事なりやついたまはんもいとおし

**16ウ**

けなる御さまにこそなどいとおとなひてのたまへははゝ君いとうれしと思たりねひに  
 1 たるさまなれどよしなからぬさまゝてきよけなるいたくこえすきにたるなん  
 2 ひたち殿とは見えけること富のつらふなさけなくおぼしはなちたりしにいとゝ人  
 3 けなく人にもあなづられ給と見給ふれとかうきこえさせ御らんせらるゝに  
 4 つけてなんいにしへのうさもなくさみ侍など年ころの物かたりうき嶋の  
 5 あはれなりし事もきこえいつ我身一のとのみいひあはする人もなきつくは  
 6 山のありさまもがくあきらめきこえさせていつもくいとかくてさるらはまほしく  
 7 思給へなり侍ぬれとかしこにはよからぬあやしの物ともいかに立さはきもとめ  
 8 侍らんさすかに心あはたゝしく思給へらるゝかゝる程のありさまに身をやつすは  
 9 くちおしき物になん侍けると身にも思しらるゝを此君はたゝまかせきこえ  
 10 させてしり侍らしなどか打きこえかくれはけに見るしからてもあらんど

**17オ**

1 見給かたちも心むもれにくむましうりうたけ也物はちもおとろく  
 2 しからすさまよるこめいたる物からかとなからすちかくさふらふ人々にもいと  
 3 よくかくれてゐ給へり物などいひたるもむかしの人の御ありさまにあやし  
 4 きまでおぼえたてまつりてそあるやかの人かたもとめ給人に見せたて  
 5 まつらはやと打おもひ出給おりしも大将殿まいり給と人聞ゆればれいの  
 6 みきぢやうひきつくるひて心つかひて此まらうどのはゝ君いて見た  
 7 てまつらんほのかに見たてまつりける人のいみしき物に聞ゆめれと富の御あり  
 8 さまにはえならひたまはしとゝへは御まへにさふらふ人々いさやえこそきこえ  
 9 さためねときこえ給へりむかひておはせしかは富はいとなさけなげに人に  
 10 くゝこそ見え給しかどりはなちてはいつれもともかくもわかれすかたちよき

**17ウ**

1 人は人をけつこそにくけれとのたまへは人々わらひてされと御まへには  
 2 をされたてまつりたまはさんめりいかはかりならん人か富をはけちたてまつらん  
 3 などいふ程にいまそくるまよりおり給なると聞程かしかまじきまでをひのゝしり  
 4 てとみにも見えたまはすまたれたる程にあゆみいり給さまを見ればけに  
 5 あなめてたおかしけにも見えすなからそなまめかしうあてにきよけなるや  
 6 すゝろに見えくるしゅはつかしくてひたひかみなともひきつゝはれて心はつ  
 7 かしけにようぬおぼくきはもなきさまそし給へる内よりまいり給へるなるへし御せん  
 8 とものけはひあまたしてよへきさいの富のなやみ給よしうけたまはりてまゝり  
 9 たりしかは富たちのせふらひたまはさりしかはいとおしく見たてまつりて富の御  
 10 かはりにいまゝてさふらひ侍つるけさもいとけたいしてまいらせ給へるをあひなう

**18オ**

1 御あやまちにをしはかりきこえさせてなんときこえ給へはけにをろかならずおもひ  
 2 やりふかき御ようふとなんとはかりいらへきこえ給富は内にとまり給ぬるを見をき  
 3 てたゝならすおはしたるなめりいの物語いとなづかしけにきこえ給ことにふれて  
 4 たゝいにしへのわすれかたく世中の物うくなりまさるよしをあらはにはいひなさてかすめ  
 5 うれへ給さしもいかてか世をへて心にはなれすのみはあらむなをあさからすいひそめ  
 6 てしことのすちなは名残なよらしとにかく見なし給へと人のけしきはしるき物  
 7 なれは見もてゆくまゝにあはれる御心さまを岩木ならねはおもほしる恨きこえ  
 8 給事もおほかれはいとわりなく打なげきてかゝる御心をやむるみそきをせさせたて

まつひまほしくおもほすにやあらむかの人かたのたまひ出ていとしのひて此わたりに  
なんとほのめかしきこえ給をかれもなへてのこゝ地はせずゆかしくなりにたれと打つけに

## 18ウ

ふとうつらむこゝちはたせすいてやそのほんそんねかひみて給ふへくはこそたうと  
からめ時々心やましくは中々山水もにこりぬへくとのたまへははてへはうたての御ひしり  
心やとほのかにわらひ給もおかしう聞ゆいてさらはつたへはてさせ給へかし此御のかれ  
こと葉こそ思ひ出れはゆゝしくとのたまひてもまたなみたくみぬ  
見し人のかたしろならは身にそへて恋しきせゝの  
なて物にせむどれいのたはふれにじひなしてまきらはしたまふ

みそき川せゝにいたさんなて物を身にそふかけと  
たれかたのまむひく手あまたにとかやいとおしくそ侍やとのたまへははつゐに  
よるせはさらなりやいとうれだきやうなる水のあわにもあらそひ侍はかなきなか  
さるゝなて物いてまことそかしいかてなくさむべき事そなどいひつゝくらうなるも  
(19オ)

うるされはかりそめに物したる人もあやしと思ふらんもつゝましきをこよひはなを  
とく返たまはねとこしらへやりたまはさらはそのまらうとにかく心のねかひ年  
へぬるを打つけになどあさぶ思なすましきのたまはせしらせ給てはしたなけなる  
ましきはこそいとうゐゝしうならひにて侍身はなに事ををこかましきまでなんとかた  
らひきこえをきて出給ぬるに此はゝ君いとめてたく思ふやうなる御さまかなとめてゝ  
めのとゆくりかに思よりてたひゝいひしことをあるましきことにいひしかと此御ありさまを  
見るにはあまの川をへたてゝもかゝるひこほしのひかりをこそ待つけさせめ我むすめは  
なのめならむ人に見せんおしけなるさまをゑひすめきたる人をのみ見ならひて少将  
をかしこき物に思けるをくやしきまで思なりにけりよりぬ給へりつるまきましら  
もしとねも名残にほへるうつり香いへはいとことさりめきたるまでありかたし時々見たて  
(19ウ)

まつる人たにたひことに聞ゆ経などをよみてくとくのすくれたる事あめるにもかの  
かうはしきをやむことなき事に仏のたまひをきけるもことばりなりややくわうほんなど  
にもとりわきてのたまへることせんたんとかやおとるゝしき物の名なれとまつかの殿の  
ちかくふるまひ給へは仏はまことし給けりとこそおぼゆれおさなくおはしけるよりをこなひ  
もいみしくし給ければよなどごもあり又さきの世こそゆかしき御ありさまなれなどくちへ  
めつる事ともをすゝるにゑみて聞たり君はしのひてのたまへることをほのめかし  
のたまう思そめつる事しうねきまでからくゝしからす物し給めるをけにたゞいまの  
ありさまなどをおもへはわづらはしきこゝ地すへけれとかのよをそむきてもなど思より給ふ  
らむもおなし事に思なして心み給へかしとのたまへはつらきめ見せす人にあなつられしの  
心にてこそ鳥のねきこえさらむすまゐまで思給へをきつれけに人の御ありさま

## 20オ

けはひを見たてまつり思給ふるはゑもつかへの程などにてもかゝる人の御あたりになれ  
きこえんはかひありぬへしまいでわかき人は心つけたてまつりぬへく侍めれと數ならぬ  
身に物おもひのたねをやいとゝまかせて見侍らんたかきもみしかきも女といふ物は  
かゝるすちにてこそ此世のちのよまでくるしき身になり侍なれと思給へ侍れはなん  
いとおしく思給へ侍それもたゞ御心になんともかくもおほしすてす物せさせ給へときこ  
ゆれはいとわづらはしなりていさやきしかたの心ふかさに打とけてゆくさきのありさま  
はしおかたきと打なげきてことに物ものたまはすなりぬ明ぬれはくるまなどゐてき

8 てかみのせうそこなといとはらたしけにをひやかしたればかたしけなくよろつにたのみ  
9 きこえさせてなんなをしはしかくさせ給ていはほのなかともいかにとも思給へめくらし侍程  
10 かすかに侍らすともおもほしはなたす何事をもをしへさせ給へなど打なけきつゝきこえをきて

## 20ウ

1 女この御かたもいと心ほそくなはぬこゝ地に立はなれんおもへといまめかしくおかしくみゆ  
る  
2 あたりにしはしも見なれだてらむとおもへはさすかにうれしくおもほえりくるまひき出る  
3 程のすこしあかうなりぬるに富うちよりまかて給わか君おほつかなくおほえ給ければ  
4 しのひたるさまにてくるまなどもれいならておはしますにさしあひてをしとゝめてたて  
5 たれはらうに御くるまよせており給なそのくるまそくらき程にいそき出るはと  
6 めどゝめさせ給かやうにてそしのひたるところには出るかしと御心ならひにおほしよるも  
7 むくつけしひたち殿のまかてさせ給と申わかやかな御せんともとのこそあさやかなれど  
8 わらひあへるをきくもけにこよなの身の程やとかなしく思たゝ此御かたのことを思ふゆへに  
9 そをのれからも人々しくならまほしくおほえけるましてさうしみをなをくしくやつして  
10 見ん事はいみしくあたらしく思なりぬ富いり給てひたち殿といふ人やこゝにかよはし

## 21オ

1 紿心あるあさほらけにいそき出づるぐるまそひなとぞことさらめきて見えづれなど  
2 なをおほしうたかひてのたまう聞くかたはらいたしとおほしてたいふなとか  
3 わかくてのころともたちにてありける人はことにいまめかしうも見えさめるをゆへく  
4 しけにものたまひなすがな人の聞とかめつべき事をのみつねにとりない給こそなき  
5 名はたてゝと打そむき給もらうだけにおかし明るもしらすおほどのこもりたるに  
6 人々あまたまいり給へはしんてんにわたりたまひぬきさひの富はことへしき御なやみ  
7 にもあらてをこたり給にければこゝ地よけにて右のおほい殿の君たちなとこうちん  
8 ふたきなどしつゝあそひ給夕つかた富こなたにわたらせ給へは女君は御ゆするの  
9 程なりけり人々をのく打やすみなとして御まへには人もなしちいさきわらはのある  
10 しておりあしき御ゆするの程こそ見るしかめれさうくしくてやなかもんときこえ給へは

## 21ウ

1 けにおはしまさぬひまくにこそれいのはすさせあやしう田ころも物うから  
2 せ給てけふすきはこの月は日もなし九十月はいかてつかまつらせつるをとたいふ  
3 いとおしかるわか君もね給へりければそなたにこれからある程に富はたゝすみ  
4 ありき給て西のかたにれいならぬわらはの見えつるをいままいりたるかなどお  
5 ほしてさしのそき給なかの程なるさうしほそめにあきたるより見給へはさうし  
6 あなたに一尺ばかりひきさて屏風たてたりそのつまにきちやうすにそへて  
7 たてたりかたひらひとへを打かけてしをん色の花やかなるにをみなへしのをり  
8 物と見ゆるかさなりて袖くちさしいてたり屏風の一ひらたゝまれたるより  
9 心にもあらて見ゆるなめりいままいりのくちおしからぬなめりとおほして此ひさしに  
10 かよふさうしをいとみそかにをしあげ給てやをらあゆみより給も人しれす

## 22オ

1 こなたのらうのなかのつぼせんさいのいとおかしう色々にさきみたれ  
2 たるにやり水のわたりの石たかき程いとおかしければはしちかくそひふして  
3 なかむるなりけりあきたるさうしをいますこしをしあけて屏風のつまより  
4 のそき給に富とは思もかけずれいこなたにきなれたるやうたいいと  
5 おかしう見ゆるにれいの御心は見すべしまたまほてきぬのすそをとらへ給てこ

6 なたのさうしはひきたて給て屏風のはさまにおたまひぬあやしと思ひ  
 7 て扇をさしかくして見かへりたるさまいとおかしあふきをもたせながらとらへ給て  
 8 誰そ名のりこそゆかしけれとのたまふにむくつけくなりぬさる物のつらにかほを  
 9 ほかさまにたてかくしていといたうしのひ給へれば此たゞならすほのめかし給ふらん  
 10 大将にやかうはしき氣はひなとも思わたさるゝにいとはつかしくせんかたなし

**22ウ**

1 めのと人けのれいならぬをあやしと思ひてあなたなる屏風ををしあけて  
 2 きたり是はいかなることにか侍らんあやしきわさにも侍かなときこゆれと  
 3 はゝかり給ふべき事にもあらずかく打つけなる御しわざなれことの葉  
 4 おほかる御本上なれはなにやかやとのたまふに暮はてぬれと誰ときか  
 5 さらむ程はゆるさしとてなれくしくふし給に宮なりけりと思侍にめのとい  
 6 はんかたなくあきれてゐたりおほとなるらはとうろにてまいれりいまわ  
 7 たらせ給なんと人々いふ也おまへならぬかたのみかうしともそおるするご  
 8 なたははなれたてたるかたにしなしてたかきたなつし一よろひたて  
 9 屏風のふくろにいれこめたるところくによせかけなにかのあらゝなる  
 10 さまにはなちたりかく人の物し給へはとてかよふみちさうし一まはかりそ

**23オ**

1 あけたるを右近とてたいふかむすめのさぶらふきてかうしおろしてこゝに  
 2 よりてくなりあなくらやまたおほとなるらもまじらせざりけりみかうしを  
 3 くるしきにいそきまゝりてやみにまよふとてひきあくる宮もなまくるしと  
 4 聞給めのとはたいとくるしと思ひて物つゝみせずはやりかにをそき人にて物  
 5 きこえ侍らんこゝにいとあやしきことの侍に見給へこうしてなんえうこき  
 6 侍らてなん何事そとてさくりよるにうちきすかたなるおとこのいとかうはしく  
 7 そひふし給へるをれいのけしからぬ御さまと思よりにけり女の心あはせ給まし  
 8 き事とをしさかられるはけにいと見くるしきことにも侍かな右近はいか  
 9 にかきこえさせむいままいりて御せんにこそほしのひてきこえさせめとてた  
 10 つをあさましかたはに誰も／＼おもへと畠はおちたまはすあさましきまで

**23ウ**

1 あてにおかしき人かななをなに人ならむ右近かけしきもいとおしなへて  
 2 のいまゝいりにはあらさめりと心えかたくおぼされてといひかくいひ恨給  
 3 心つきなけに気しきはみてももてなきねどたゞいみしうしぬはかり  
 4 おもへるかいとおしけれはなさけありてこしらへ給右近うへにしかくこそお  
 5 はしませいとおしくいかにもおもほらん聞ゆればれいの心うき御さまかなかのはゝも  
 6 いかにあはくしくけしからぬさまに思たまほんとすらむうしろやすくと返々いひ  
 7 をきつる物をといとおかしくおぼせどいかゝきこえんさぶらふ人々もすこし  
 8 わかやかによろしきは見すて給ことなくあやしき人の御くせなればいかてかは  
 9 思より給けんとあさましきに物もいはれたまはすかんたちめあまたまいり  
 10 給ふ日にてあそひだはふれてはれいもかゝる時はをそくもわたり給へはみな打

**24オ**

1 とけてやすみ給そかしさてもいかにすべきことそかのめのとこそおそましかりけれ  
 2 つとそひてゐてまもりたてまつりひきもかなくりたてまつるべくこそ思たり  
 3 つれと少将とふたりしていとおしかる程に内より人まいりて大宮この夕暮  
 4 より御むねなやませ給をたゞいまいみしくをもくなやませ給よし申さす右近心な

5 きおりの御なやみかなきこえさせむとてたつ少将いてやいまはかひなくも

6 あへいことををこかましくあまりなおひやかしきこえ給そといへはいなまたしかる

7 へしとしのひてさゝめきかはすをうへはいとゝ聞にくき人の御本上にこそ

8 あめれすこし心あらん人は我あたりをさへうとみぬへかめりとおほすまいりて

9 御つかひの申よりもいますこしあはたゝしけに申なせはうこき給ふべきさまに

10 もあらぬ御けしきにたれかまいりたるれいのおとろくしくおひやかすとのたまはす

## 24ウ

1 れは富のさふらひにたいらのしけつねとなんなり侍つると聞ゆ出たまほん  
2 ことのいとわりなくくちおしきに入れもおほされぬにうこん立出で此御つかひにし  
3 おもてにてとへは申つきつる人もよりきて中つかさの富まいらせたまひぬたいふは  
4 たゝいまなんまいりつるみちに御くるまひき出る見侍つと申せはけににはかに  
5 時々なやみ給おりくもあるをとおほすに人のおほすらんこともはしたなくなりて  
6 いみしう恨契りをきて出たまひぬおそろしき夢のさめたるこゝ地してあせにをし  
7 ひたしてふし給へりめのと打あふきなとしてかゝる御すまゐはよろつにつけてつゝましう  
8 ひんなかりけりかくおはしましめてはさらによきこと侍らしあなおそろしやかきりなき  
9 人と聞ゆともやすからぬ御ありさまはいとあちきなかるへしよそのさしはなれ  
10 たらむ人にこそよしともあじともおほえられたまはめ人きゝもかたはらいたき事と

## 25オ

1 思給てかまのさうをいたしてつと見たてまつりつればいとむくつけくけすくし  
2 き女とおぼして事をいといたくつませ給へることなを人のけさうたちていとお  
3 かしくもおほし侍つれかの殿にはけふもいみしくいさかひ給けりたゝ一ところの  
4 御うへを見あつかひ給とてわかことをはおほしすてたりまらうとのおはする程の  
5 御たひゐ見くるしとあらゝしきまでそきこえ給けるしも人きへきゝいと  
6 おしかりけりすへて此少将の君そいとあいきやうなくおほえ給此みこと侍ら  
7 さらましかはうちくやすからすむつかしき事はおりく侍れどもなたらかに年このの  
8 まゝにておはしますへき物をなど打なげきつゝいふ君はたゝいまどもかくもおもひ  
9 めくらされたたゝいみしくはしたなく見しらぬを見つるにそてもいかにおほす  
10 らむと思ふにわひしけれはうつふしてなき給いとくるしと見あつかひて

## 25ウ

1 なにゝかくおほすはゝおはせぬ人こそたつきなうかなしかるへきなれよそのおほ  
2 えはぢゝなき人はいとくちおしけれとさかなきまゝはゝにくまれんよりは  
3 是はいとやすしともかくもしたてまつり給てんなおほしくんせそさりともはつせ  
4 のくはんをんおはしませはあはれと思きこえ給ふらんならはぬ御身にたひくしきり  
5 てまで給事は人のかくあなつりさまにのみ思きこえたるをかくもありけりと  
6 思ふばかりの御さいはひおはしませとねんし侍れあま君は人わらはれては  
7 やみ給なんやと世をやすけにいひゐたり宮はいそきて出給也内ちかきかた  
8 にやあらむこなたのみかとより出給へは物のたまふ御こゑも聞ゆいとあてにかきり  
9 もなくきこえて心はへあるふる事など打すし給てすき給程すゝるにわつら  
10 はしくおほゆうつしむまとひきいたしてとのゐにさふらふ人十人はかりして

## 26オ

1 まいり給うへいとおしきうたて思ふらんとてしらすかほにて大富なやみ給とてま  
2 いり給ぬればこよひは出たまはしゆするのなこりにやこゝ地もなやましくておき  
3 ぬ侍をわたり給へつれくにもおほざるらむときこそえ給へりみたりこゝ地のいとくる

4 しう侍をためらひてとめのとじてきいかね給いかなる御  
5 きこえ給へはなにこひておほが侍らすたゞとくるしく侍ときこえ給へは

6 少将右近めましろきをしてかたほりそいたくおほすひもとふもたゝる

7 よりはいとおじとくちおじへんむしきわさかな大将の心とめたるさまにたまふ

8 めりしをいかにあはへしと強おとさんかくみたりかはしくおはする人はきゝにく

9 しちならぬ事をもくねりぐみ又まことにすこしもはすなりむ事をもさすかに見ゆ

10 るしつへうこそおはすれ此君はいはでうじとおもはん事いとはつかしけに心がき

## 26ウ

1 あいなべ思ふことそひぬる人のうへなめり年ごろ見すしあひつる人のうへなれど  
2 心はへかたちを見ればえ思はなつましうひうたぐ心へみしきに世中はありかたく  
3 むつかしけなる物かな我身のありさまはあかぬ事おほかるこゝちすれとかく物はかな  
4 きめも見つへかりける身のきはゝわれすなりにけるにこそけにめやすきなり  
5 かれいまはたゝ此にくき心そひ給へる人のなたらかにて思はなれなはさらに何  
6 事も思ひれすなりなんとおもはすいとおほかる御くしなればとみにもえほしやう  
7 すおきみ給へるもへむじうき御そ一かさねはかりにておはするほそやかにて  
8 おかしけ也此君ははめことだにこひきめあしくなりにたれとめのといとかたはらいたし  
9 ことしもありかほにおぼすらむをたゝおほとかにて見えたてまつり給へうこんの君  
10 などにはことのありますまはしめよりかたり侍らんとせめてそゝのかしたてゝこなたの

## 27オ

1 さうしのものにてうこんの君に物きいえせんどいへはたちて出たれはいとあや  
2 しく侍つるいとのなこりに身もあつうなり給てまめやかにくひしけに見えさせ  
3 紿を御まへにてなくさめきこえせせ給へとてなんあやまちもおはせぬ身を  
4 いとつゝましけにおもほしわひためるもいさゝかにても世をしり給へる人こそ  
5 あれいかてかはとことほりにいとおしく見たてまつみてひきおこして  
6 まいらせたてまつる我にもあらす人の御ぶらむ事もはつかしけれといと  
7 やはらかにおほときすき給へる君にてをしられられてゐ給へりひたひ  
8 かみなどいいたうねれたるをもてかくしてひのかたにそむき給へるさま  
9 うへをたくひなく見たてまつるたをとむと見えすあてにおかし是におほし  
10 つきなほめさましけなる事はりなんかしからぬをたにめつらしき人おかしう

## 27ウ

1 し給御心をとふたりはかりそおまにてえはちあへたまはねは見るたりける  
2 物語いとなつかしくし給てれいならすつゝましきところとな思なし給そ  
3 こひめ君のおはせずなりにし後わするゝ世なくみしく身もうらめしく  
4 たくひなきこゝ地してすべすにいとよべ思よそへられ給御なしきを見  
5 れはなくさむこゝちしていみしうあはれになん思ふ人なき身にむかし  
6 の御心さしのやうにおもほさはいとうれしくなんなかたらへ給へといと物づゝま  
7 しくてまたひなひたる心にいらきこえん事もなくて年ごろいとはるかに  
8 のみ思きこえさせしにかう見たてまつり侍れは何事もなくさむこゝ  
9 し侍てなんとはかりいとわかひたるこゑにいふゑなどとり出させてみ  
10 しかぐ火ともしてと右近にことはよませて見給にむかひて物はぢむべ

## 28オ

1 しあへたまはす心にいれて見給へるほかけさひたこゝかと見ゆるといひ  
2 なくこまかにおかしけ也ひたひつきまみのかほりたるこゝ地してとおほ

3 とかなるあてさはたゝそれとのみ思ひ出るるれゑはことにめもとゝめ  
 4 たまはていとあはれる人のかたちかないかてかうしもありけるにかあ  
 5 らむこ宮にいとよくにたてまつりたるなめりかしこひめ君は宮の御  
 6 かたさまに我ははゝうへにたてまつりたるとこそはふる人ともいふなりしか  
 7 けににたる人はいみしき物なりけりとおぼしくらゐるに涙くみて見給かれ  
 8 はかきりなくあてに氣たかき物からなつかしうなよらかにかたはなる  
 9 までなよ／＼とたはみたるさまし給へりしにこそ是はまたもてなしの  
 10 うゐ／＼しきによろつの事をつゝましうのみ思たるけにや見ところおほかる

## 28ウ

1 なまめかしさそをとりたるゆへ／＼しきけはひたにもてつけたらは大将の  
 2 見たまはんにもさらにかたはなるましなとこのかみ心に思あつかはれ給物語など  
 3 し給てあか月かたになりてそね給かたはらにふせてこ宮の御事とも年ころ  
 4 おはせし御ありさまなとまほならねとかたり給いとゆかしう見たてまつらす  
 5 なりにけるをいとくちおしうかなしと思たりよへの心しりの人々はいかなり  
 6 つらむなどいとらうたけなる御さまをいみしうおほすともかひあるへ  
 7 き事かはいとおしといへは右近そさもあらしかの御めのとのひきすべてす  
 8 ろにかたりうれへし気しきもてはなれてそいひし宮もあひてもあはぬやう  
 9 なる心はへにこそうちこそるきくちすさひ給しかはいさやことさらにもやあらん  
 10 そはしらすかしよへのほかけのいとおほとかなりしもことありかほには見えたまは

## 29オ

1 さりしを打さゝめきていとおかしかるめのとくるまこひてひたち殿へいぬ北のかたに  
 2 かう／＼と／＼へはむねつふれさはきて人もけしからぬさまにいひ思ふらんさうしみも  
 3 いかゝおほすへきかゝるすちの物にくみはあて人もなき物なりとをのか心ならひにあは  
 4 たゝしく思なりて夕つかたまいりぬ宮おはしまさねは心やすくてあやしく心をさな  
 5 けなる人をまいらせをきてうしろやすくはたのみきこえさせながらいたちの  
 6 侍らんやうなるこゝ地のし侍ればよからぬ物ともにくみうらみられ侍ときこゆ  
 7 いさいふはかりのおさなけさにはあらさめるをうしろめたけにけしきはみたる御まかけ  
 8 こそわづらはしけれとてわらひ給へるか心はつかしけなる御まみを見るも心のおにゝはつ  
 9 かしくそおほゆるいかにおほすらむとおもへはえも打出きこえすかくてさふらひ  
 10 たまはゝ年ころのねかひのみつこゝ地して人のもり聞侍らんもめやすくおもたゝ

## 29ウ

1 しき事になん思給ふるをさすかにつゝましき事になん侍けるたかき山のほいはみ  
 2 さほになん侍へきをとて打なくもいと／＼おしくてこゝはなに事かうしろめたく  
 3 おほえ給ふべきとてもかくてもうと／＼しく思はなちきこえはこそあらはけし  
 4 からすたちてよらぬ人の時々物し給めれとその心をみな人見しりためは心つ  
 5 かひしてひんなうはもてなしきこえしと思ふをいかにをしはかり給にかとのたまふ  
 6 さらに御心をはへたてありても思きこえさせ侍らんそのかたならておもほしはなつ  
 7 かりしすちはなにゝかけてもきこえさせ侍らんそのかたならておもほしはなつ  
 8 ましきつなも侍をなんとらへところにたのみきこえするなどをろかならす  
 9 きこえてあすあさてかたき物いみに侍をおほそらぬどころにてすくし  
 10 て又もまゝらせ侍らんときこえていさなういとおじくほいなきわさかなとお

1 ほせとえとゝめたまはすあさましうかたはなることにおどろきさはきたれも  
 30オ

おさへ物もきこえていてぬかやうのかたたかへところと思ひてちいさき家  
 まうけたりけり三条わたりにされはみたるかまたつくりさしたるところ  
 なればはかくしきしつらひもせてなんありけるあはれ此御身一をよろつにもて  
 なやみ聞ゆるかな心にかなはぬ世にはありふましき物にこそありけれみつから  
 はかりはたゝひたぶるになしらす人けなうたゝさるかたにはひこもりて  
 すぐしつへし此御ゆかりは心うしと思きこえしあたりをむつひ聞ゆるにひんなき  
 こともいきてきなはいと人わらへなるへしあちきなしことやうなりともこゝを人にも  
 しらせすしのひておはせよをのつからともかくもつかうまつりてんといひをきて  
 身つからはかへりなんとす君は打なきて世にあらむこところせけなる身と思

## 30ウ

くし給ぐるやまごとあはれなるおやはだましてあたらしくおしければつゝか  
 なくて思ふこと見なさむとおもふさるかたはらいたき事につけて人にも  
 あはくしくおもはれいはれんかやすからぬなりけりこゝちなくなどはあらぬ  
 人のなまはらたちやすく思のまゝにそすこしありけるかの家にも  
 かくるべてはすへたりぬへけれとしかかくろへたらむをいとおしと思ひてかくあつ  
 かふに年ころかたはらさらす明暮見ならひてかたみに心ほそくわりなしと  
 もへりこゝは又かくあはれてあやうけなるところなめりさる心し給へとのぬ人の  
 事などいひをきて侍もいとうしろめたけれとかしこにはらたちうらみらるゝか  
 いとくるしけれはとなきてかへる少将のあつかひをかみは又なき物に思いそき  
 てもる心にさまあしくいとなさすとえんするなりけりいとふうく此人々よりかゝる

## 31オ

まきれともあるそかしと又なく思ふかたのことのかゝれはつらく心うくておさへ  
 見いれすかの宮の御まへにていと人けなく見えしにおぼく思おどしてければわた  
 くし物に思かしつかましをなと思しことはやみにたりこゝにてはいかゝ見ゆらんまたうち  
 とけたるさま見ぬにと思ひてのとかにぬ給へるひるつかたこなたにわたりてものより  
 のそくしきあやのなつかしけなるにいまやう色のうちめなどもきよらなるをきて  
 はしのかたにせんさい見るとてゐたるはいつこかは人にをどりいときよけなめるはと  
 みゆむすめまたかたなりになに心もなきさまにてそひふしたり宮のうへのなら  
 ひておはせし御さまどもの思ひ出ればくちおしのさまともやと見ゆまへなるこ  
 たちに物などいひたはふれて打とけたるはいと見しやうにほひなく人わろけ  
 にも見えぬをかの宮なりしはこと少将なりけりとおもふおりしもくいとよ兵部卿の

## 31ウ

富のはぎのなをことにおもしろくもあるかないかてさるたねありけんおなしえたさし  
 などのいとえんなるこそ一日まいりて出給程なりしかはえおらすなりにきことたにおしき  
 と富の打すし給へりしをわかき人たちに見せたらましかはとて我もうたよみゐ  
 たりいてや心はせの程をおもへは人ともおぼえすいてえはいとこよなかりけるに  
 なに事いひふたるそとづやかるれどいとい地なけなるさまはざすかにしたらねは  
 いかゝとてこゝろみに  
 しめゆひしこはきかうへもまよはぬにいかなるつゆに  
 うつるした葉そとあるにいとおしくおぼえて  
 みやき野のこはきかもとゝしらませは露もこゝろを  
 わかすそあらましいかてみつかりきこえさせあきらめむといひたりこ宮の御事

## 32オ

- 1 聞たるなめりと思ふにいとゝいかて人とひとしくとのみ思あつかはるあいなく大将殿の御  
 2 さまかたちそ恋しうおもかけに見ゆるおなしうめてたしと見たてまつりしかと宮は思ひ  
 3 はなれ給て心もとまらすあなつりてをしり給へりけるを思ふもねたし此君はさすかに  
 4 たつねおほす心はへのありなから打つけにもひかけたまはすつれなしかほなるしもこそ  
 5 いたけれよろつにつけて思いてらるればわかき人はましてかくや思ひ出しこえ給ふらん  
 6 我物にせんとかくにくき人を思ひけんこそ見るしき事なへかりけれどたゞ心に  
 7 かゝりてなかめのみせられてとてやかくてやとよろつにうからんあらましことを思ひ  
 8 つゝくるにいとかたしやむことなき御身の程御もてなし見たてまつり給へらん人は  
 9 いますこしなのめならすいかばかりにてかは心をとゝめたまはん世の人のありさまを  
 10 見聞にをとりまさりいやしうあてなるしなにしたかひてかたちも心もあるべき物
- 32ウ**
- 1 なりけりわかこどもを見るに此君にもにんへきやはある少将を此家のうちに又なき  
 2 物におもへとも宮に見くらへたてまつりしかはいともくちおしかりしにおしはかゝるたう  
 3 たいの御かしつきむすめをえたてまつり給へらん人の御めうつしにはいともくはつかしく  
 4 つゝましかるべき物かなとおもふにすゝろにこゝちもあくかれにけり旅のやどりはつれく  
 5 にて庭の草もいふせきこゝちするにいやしきこゑしたる物ともはかりのみ出入  
 6 なくさめに見るへきせんさいの花もなし打あはれてはれへしからてあかしくらすに  
 7 宮のうへの御ありさま思ひ出るにわかいこゝ地に恋しかりけりあやにくたち給へりし人の  
 8 御けはひもさすかに思ひ出られて何事にかありけんとおぼくあはれけにのたまひ  
 9 しかな名残おかしかりし御うつり香もまた残りたるこゝ地しておそろしかりしも  
 10 思ひ出らるはゝ君たつやといとあはれなる文をかきてをこせ給をろかならす心ぐる
- 33オ**
- 1 しう思あつかひ給めるにかひなうもてあつかはれたてまつることしも打ながれていかに  
 2 つれくに見なはぬこゝちし給ふらむしはししのひすべし給へとある返事につれくはなに  
 3 かこゝろやすくてなん  
 4 ひたぶるにうれしからまし世のなかにあらぬところと  
 5 おもはましかはとおさなげにいひたるを見るまゝにほろゝと打なきてかうまとはし  
 6 はふるやうにもてなす事といみしけれは  
 7 うき世にはあらぬどころをもとめてもきみがあたりを
- 1 見たまはさりつるに山のもみちもめつらしうおぼゆこぼちしんてんこたみは  
 2 いとはれくしうつくりなしたりむかしくとこゝぞきてひしりたち給へりしすまゐ  
 3 をおもひ出るにこ宮も恋しうおぼえ給てさまかへてけるもくちおしきまで  
 4 つねよりもなかめ給もとありし御しつらひはいとたうとけにていまかたつ  
 5 かたををんなしくこまやかになと一かたならさりしをあしろ屏風なにかの  
 6 あらくしきなどはかのみたうのそうはうのくにことさらになさせ給へり山さと  
 7 めきたるくともをことさらにせさせ給ていだうもことそかすいときよけに  
 8 ゆへくしくしつらはれたりやり水のほとりなる岩にみ給てとみにもたゝれす  
 9 たえはてぬみつになとかなき人のおもかけをたに  
 10 とゝめさりけん涙をしのこひつゝ弁のあま君のかたに立より給へれはいとかな
- 33ウ**
- 1 見たまはさりつるに山のもみちもめつらしうおぼゆこぼちしんてんこたみは  
 2 いとはれくしうつくりなしたりむかしくとこゝぞきてひしりたち給へりしすまゐ  
 3 をおもひ出るにこ宮も恋しうおぼえ給てさまかへてけるもくちおしきまで  
 4 つねよりもなかめ給もとありし御しつらひはいとたうとけにていまかたつ  
 5 かたををんなしくこまやかになと一かたならさりしをあしろ屏風なにかの  
 6 あらくしきなどはかのみたうのそうはうのくにことさらになさせ給へり山さと  
 7 めきたるくともをことさらにせさせ給ていだうもことそかすいときよけに  
 8 ゆへくしくしつらはれたりやり水のほとりなる岩にみ給てとみにもたゝれす  
 9 たえはてぬみつになとかなき人のおもかけをたに  
 10 とゝめさりけん涙をしのこひつゝ弁のあま君のかたに立より給へれはいとかな

**34才**

1 しと見てたまつるにたゞひそみにひそむなけしにかりそめにあ給てすたれの  
 2 つまひきあけて物語し給きちやうにかくろへてゐたりことのついてにかの人はさい  
 3 つころ富にと聞しをさすかにうふへしくおほえてこそ音つれよらねなを是より  
 4 つたへはて給へとのたまへは一日かのはゝ君のふみ侍きいみたかうとてこゝかしこに  
 5 なんあくかれ給める此ころもあやしきこ家にかくろへ物し給めるも心くるしへ  
 6 すこしちかき程ならましかはそこにわたして心やすかるべきをあらましき  
 7 山みちにたはやすくもえ思たゝてなんと侍しと聞ゆ人々のかくおそろしく  
 8 すめるみちにまろこそぶりかたくわけくれなにはかりの契りにかどおもへはあはれに  
 9 なんとてれいの涙くみ給へりさうはその心やすからんところにせうそこし給へ  
 10 身つからやはかしこに出たまはぬとのたまへはおほせことをつたへ侍らんことはやすし

**34ウ**

1 いまさらに京を見侍らん事は物うくて富にたにえまいらぬをときこゆ  
 2 なとてかともかくも人の聞つたへはこそあらめあたこのひしりたに時に  
 3 したかひてはいてすやはありけるふかき契りをやふりて人のねかひ  
 4 を見てたまはんこそたうとからめとのたまへは一たひわたすことも  
 5 侍らぬに聞くべき事もこそ出まうてくれとくるしけに思たれとなを  
 6 よきおりなるをとれいならすしのひてあさてはかりくるまたてまつ  
 7 れんそのたひのところたつねをき給へゆめをこかましくひかわさすましう  
 8 をとほゝゑみてのたまへはわづらほしくいかにおほすことならんとおもへとあふなく  
 9 あはくしからぬ御心さまなればをのつからわか御ためにも人きゝなとはつゝみ給ふ  
 10 らむと思ひてさらはうけたまはりぬちかき程にこそ御文などを見せさ

**35オ**

1 せ給へかしふりはへさかしらめきて心しらひのやうにおもはれ侍らむも  
 2 いまさらにいかたうめのかたてにやとつゝましくてなんと聞ゆ文はやすかる  
 3 べきを人の物いひいとうたてある物なれば右大将はひたちのかみのむすめを  
 4 なんよはぶなるなどもとりなしてむをやそのかんのぬしいとあらへしけなめ  
 5 りとのたまへは打わらひていとおしと思ひくらふなれば出給下草のおかしき花  
 6 とも紅葉などおらせ給て宮に御らんせさせ給かひなからすおはしぬへけれど  
 7 かしこまりをきたるさまにていたもうなれきこえたまはすそあめるうちより  
 8 たゞのおやめきて入道の宮にもきこえ給へはいとやむことなきかたはかきり  
 9 なく思きこえ給へりこなたかなたとかしつきこえ給富つかへにそへてむつかし  
 10 きわたくし心のそひたるもくるしかりけりのたまひしまだつとめてむつましく

**35ウ**

1 おほすけひうさぶらひひとりかほしらぬうしかひつくり出でつかはすさうの物ども  
 2 のあなかひたるめし出づゝつけよとのたまふかならずいつへくのたまへりければ  
 3 いとつゝましくくるしけれと打けさうしつくろひてのりぬ野山のけしきを見る  
 4 につけてもいにしへよりのふることとも思ひ出られてなかもくらしてなんきつき  
 5 けるいつつれへん入めも見えぬところなれば心やすくひきいれてかくなんまいり  
 6 きつるどしるへのおとこしていはせたれははつせのともにありしわか人出きておろす  
 7 あやしきところをなかもくらしあかすにむかしかたりもしつへき人のきたれはうれしく  
 8 てよひ入給ておやときこえける人の御あたりの人と思ふにむつましきなるへし  
 9 あはれに入しれす見たてまつりし後よりは思ひ出しこえぬおりなけれと世中かはり

10 思給へすてたる身にてかの宮にたにまいり侍らぬを此大将殿のあやしきまで  
**36才**

1 のたまはせしかは思給へをこしてなんと聞ゆ君もめのともめてだしと見をきき  
 2 こえてし人の御さまなれはわすれぬさまにのたまふらんもあはれなれとにはかに  
 3 かくおほしたはかるらむと思もよらすよゐ打する程に内より人まいれりとて  
 4 かとしのひやかに打たゝくさにやあらむとおもへと弁あけさせたれはくるま  
 5 をそひきいるにあやしと思ふにあま君にたいめんたまはらむとて此ちかき  
 6 みさうのあつかりのなりをせさせ給へは戸くちにゐさり出たり雨すこしうち  
 7 そゝくに風はいとひやゝかに吹いりていひしらすかほりくればかうなりけりと  
 8 誰も／＼心ときめきしぬへき御けはひおかしけはようもなくあやしきに  
 9 又思あへぬ程なれは心さはきていかなることにかあらむといひあへり心やすきところ  
 10 にて月ごろの思あまるこどもきこえさせんとてなんといはせ給へりいかに聞ゆへき

**36ウ**

1 ことにかと君はくるしけに思ひてゐ給へれはめのと見くるしかりてしかおはし  
 2 ましたらんをたちながらやかへしてまつりたまはんがの殿にこそかくなんと  
 3 しのひてきこえめちかき程なれはといふうゐ／＼しくなとてかさはあらんわかき  
 4 御とち物きこえたまはんはふとしもしみつくへくもあらぬをあやしきまで心  
 5 のとかに物ふかうおはする君なれはよも人のゆるしなくては打とけたまはしなと  
 6 いふ程雨やゝふりくれば空はいとくらしとのゐ人のあやしきこゑしたる  
 7 夜行うちしてやかのたつみのくついとあやうし此人のみくるまいるつくは  
 8 ひきいれてみかとさしてよからぬ人のとも人こそ心はうたてあれなど  
 9 いひあへるもむく／＼しく聞なはぬこゝちし給さのゝわたりに家も  
 10 あらなくになとくちすさひて里ひたるすこのはしつかたにゐ給へり

**37オ**

1 さしとむるむくらやしけきあつまやのあまりほどぶる  
 2 雨そゝき哉わかたちぬれんと打わらひ給へるをひかせいとかたはなる  
 3 まであつまの里人もおとろきぬへしとさまかうさまにきこえのかれむ  
 4 かたなけれはみなみのひさしにおまひきつくるひていたてまつる心やすく  
 5 もたいめしたまはぬをこれかれをしいてたりやり戸といふ物さしていさゝかあけ  
 6 たれはひたのたくみもうらめしきへたてかなかゝる物のとはまたゐならはすとう  
 7 れへ給でいかゝし給けんいりたまひぬかの人かたのねかひはのたまはておほえなき  
 8 物のはさまより見しよりすゝろに恋しきことざるへきにやあらむあやしき  
 9 までそ思聞ゆるとそかたらひ給ふべき人のさまいとらうだけにおほどき  
 10 たれは見をとりもせすいとあはれどおほえけり程もなう明ぬるこゝちするに

**37ウ**

1 鳥なとはなかておほぢかきどころにおほとれたることしていかにとか聞  
 2 もしらぬなりをして打むれてゆくなとぞ聞ゆるかやうのあさほらくに  
 3 見れは物いたゝきたる物のおにのやうなるさまそかしと聞給もかゝる  
 4 よもきのまろねにならひたまはぬこゝ地もおかしくもありけりとのゐ人もかと  
 5 あけて出るをとすをの／＼りてふしなとするを聞給て人めしてくるまつま戸  
 6 によせさせ給かきいたきてのせ給つ誰も／＼あやしうあへなき事を思さ  
 7 はきて九月にもありけるを心うのわさやいかにしつることそとなけゝはあま  
 8 君もいと／＼おしく思のほかなる事ともなれとをのつからおほすやうあらむ

うしろめたうな思給そ長月はあすこそせちふと聞しかといひなくさむけふ  
は十三日なりけりあま君こたみはえまいらし宮のうへきこしめさんことも

### 38才

あるにしのひてゆきかへり侍らむもいとうたてなんと聞ゆれとまたき此ことを  
きかせたてまつらむも心はつかしくおほえ給てければ後にもつみさり申給  
てんかしこにしるへなくてはたつきなきところをもせめてのたまふ人ひとりや侍  
へきとのたまへは此君にそひたる侍従どのりぬめのとあま君のともなりしわらは  
などもをくれていとあやしきこゝちしてゐたりちかき程にやとおもへはうちへおは  
するなりけりうしなとひきかふへき心まうけし給へりかはらすきほうさうしのわたり  
おはしますに夜は明はてぬわかき人はいとほのかに見たてまつりてめてきこえて  
すゝろに恋たてまつるに世中のつゝましさもおほえす君そいとあさましきに  
物もおほえすうつぶしへたるをいたかきわたりはくるしき物をといてだき給へり  
うす物のほそなかをくるまのなかにひきへたてたれは花やかにさし出たる朝日影に

### 38才

1 あま君はいとはしたなくおほゆるにつけてこひめ君の御ともにこそかやう  
2 にても見たてまつりつへかりしかりふれは思かけぬことをも見るかなとかな  
3 しうおほえてつゝむとすれと打ひそみつゝなくを侍従はいとにくゝ物の  
4 はじめにかたちことてのりそひたるをたにおもふになそかくいやめなる  
5 とにかくをこにも思おいたる物はすゝろに涙もろにある物そとおろそかに  
6 うちおもふなりけり君も見る人はにくからねと空の氣しきにつけても  
7 きしかたの恋しさまさりて山ふかく入まゝにも霧たちわたるこゝ地し  
8 給打なかめてよりお給へる袖のかさなりながらなかやかに出たりけるか川霧  
9 にぬれて御そのくれなゐなるに御なをしの花のおどろくしうつり  
10 たるをおとしかけのたかきところに見つけてひきいれたまふ

### 39才

かた見そと見るにつけてはあさ露のところせきまで

1 はやとなをゆくかたなきかなしさはむなしときそらにもみちぬ  
2 へかめりおはしつきてあはれなき玉ややとりて見給ふらむ  
3 誰によりてかくすゝろにまよひありく物にもあらなくにと思ひ  
4 つゝけ給ておりてはすこし心しらひてたちさり給へり女ははゝ  
5 君のおもひたまはん事などいとなけかしけれとえんなるさまに心  
6 ふかくあはれにかたらひ給に思なくさめておりぬあま君はことさらに  
7 おりてらうによするをわさとおもふへきすまぬにもあらぬをよう

### 39才

かた見そと見るにつけてはあさ露のところせきまで

1 ぬるゝ袖かなと心にもあらすひとりこち給を聞いていとゝしほるはかりあま君  
2 の袖もなきぬらすをわかき人あやしう見るしき世かな心ゆくみちにいと  
3 むつかしきことそひたるこゝちすしのひかたけなるはなすゝりをきゝ給て我  
4 もしのひやかに打かみていかゝおもふらむといとおしはあまたの年ころこの  
5 みちをゆきかふたひかさなるをおもふにそこはかとなく物あはれるかな  
6 すこしおきあかりて此山の色も見給へいとむもれたりやとしゆてかき  
7 おこし給へはおかしき程にさしかくしてつゝましけに見いたしたるまみ  
8 なとはいとうく思ひ出らるれとおいらかにあまりおほときすきたる  
9 そ心もとなかめるいといたうこめいたる物からようゐのあさからす物し給し

8 むこそあまりなれと見給みさうよりれいの人々さはかしきまで  
9 まいりあつまる女の御たいはあま君のかたよりまいるみちはしけかり

## 40才

1 つれと此ありさまいとはれへし川の気しきも山の色ももてはやし  
2 たるつくりさまを見いたして日ころのいふせきなくさみぬるこゝ  
3 ちすれといかにもてないたまんとするにかとうきてあやしう  
4 おほゆ殿は京に御ふみかき給也あはぬ仮の御かさりなど見給へをき  
5 てけによろしき日なりければいそき物し侍てみたりこゝ地のなや  
6 ましきに物いみなりけるを思給へ出てなんけふあすこゝにてつゝしみ  
7 侍へきなとはゝ富にもきこえ給打とけたる御ありますこし  
8 おかしくていりおはしたるもはつかしけれともてかくすへきにも  
9 あらてお給へり女の御さうそくなと色々にきよくと思ひてしかざね

## 40ウ

1 たれとすこしゐなかひたる事も打ましりてそむかしのいとなみ  
2 はみたりし御すかたのあてになまめかしかりしのみ思ひ出られ  
3 てかみのすそのおかしけさなとはこまゝとあて也宮の御くしの  
4 いみしくめてたきにもをとるましかりけりと見給かつは此人をいかに  
5 もてなしてあらせんとすらむたゝいま物々しけにてかの宮にむかへすへんも  
6 をときひんなかるへしさりとてこれかれあるつらにておほそふに  
7 ましらはせむはほいなからむしはしこゝにかくしてあらむと思も見すは  
8 さうへしかるへくあはれにおほえ給へはをろかならすかたらひくらし給  
9 こ宮の御事ものたまひ出てむかしの物語おかしうこまやかにいひたはふ

## 41才

1 れ給へとたゞいとつゝましけにてひたちにはちたるをさうへしうおほす  
2 あやまりてもかうも心もとなきはゞとよくをしつゝも見てんゐ中ひ  
3 たるされ心もてつけてしまへしらずはやりかならましはしもかたしろふよう  
4 ならましと思なし給こゝにありけるきんさうのことめし出でかゝることはた  
5 ましてえせしかしとくちおしけはひとりしらへて富うせ給て後こゝ  
6 にてかゝる物にいとひさしうてふれさりつかしとめつらしく我ながらおほえて  
7 いとなつかしくまさくりつゝながめ給に用さし出ぬ宮の御きんのねの  
8 おどろくしくはあらでいとおかしくあはれにひき給しはやとおほし出で  
9 むかし誰もくおはせし世にこゝにおひ出給へらましかはいますこしあはれは

## 41ウ

1 まさりなましみこの御ありさまはよその人たにあはれに恋しく  
2 こそおもひいてられ給へなとてさるところには年ころへたまへしそと  
3 のたまへはいとはつかしくてしろきあふきをまさくりつゝそひふしたる  
4 かたはらめいとくまなうしろうてなまめいたるひたひかみのひまなと  
5 いとよくおもひ出られてあはれもまいてかやうのこともつきなからす  
6 をしへなさはやとおほしてこれはすこしほのめいたまひた  
7 るやはれわかつまといふことはさりとも手ならし給けんなどとひ  
8 たまふそのやまとこと葉たにつきなくならひければましてこれ  
9 はといふいとかたはにこゝろをくれたりとは見えすこゝにをきては

## 42才

1 えおむりまゝにむじいと事をおほすかいまよりくるしきはなのめには  
 2 おほさぬなるへしことはをしやりて楚わうのたいのうへのよるのきんの  
 3 こゑとすんし給へるものゆみをのみひくあたりにならひていとめてたく  
 4 おもみやうなりと侍従も聞ゐたりけりさるはあふきの色もこゝら

5 をきつきねやのいにしへをはしらねはひとへにめてきこゆるそ

6 をくれたるかしここそあれあやしくもいひつるかなとおほす

7 あま君のかたよりくたものまいれりはこのふたにもみちつた

8 などおりしきてゆへなからすどりませでしきたるかみに

9 ふつゝかにかきたる物くまなき月にふと見ゆればめどゝめ

## 42ウ

1 たまふほとにくたものいそきにそ見えける

2 やとり木は色かはりぬる秋なれとむかしおほえて

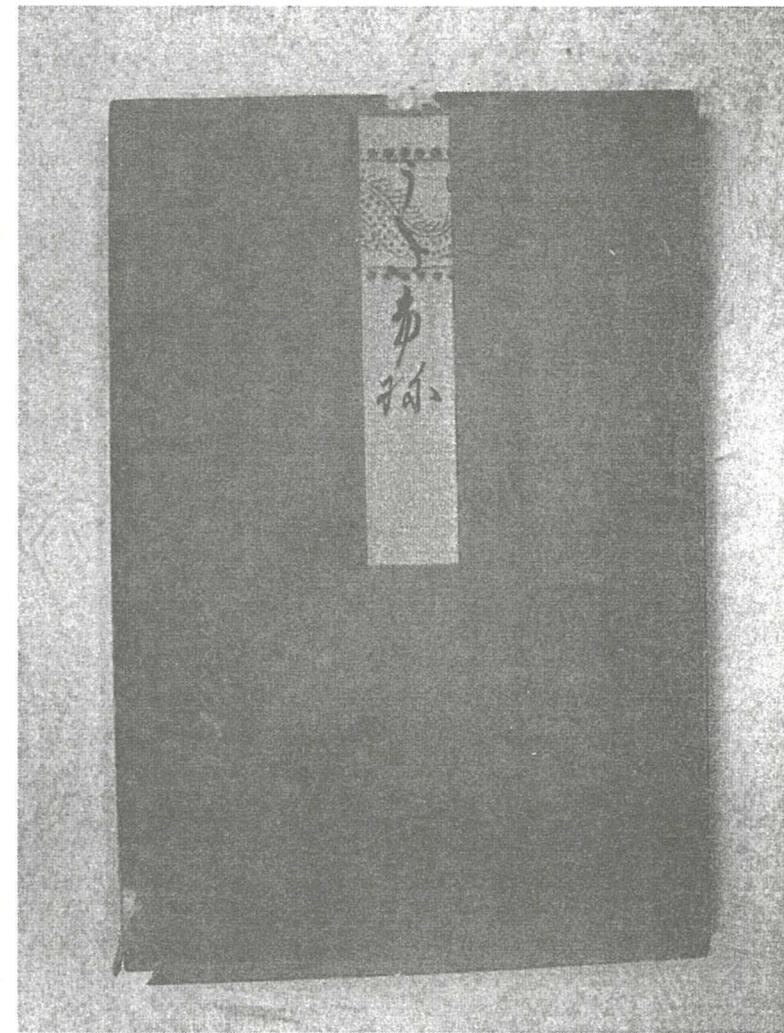
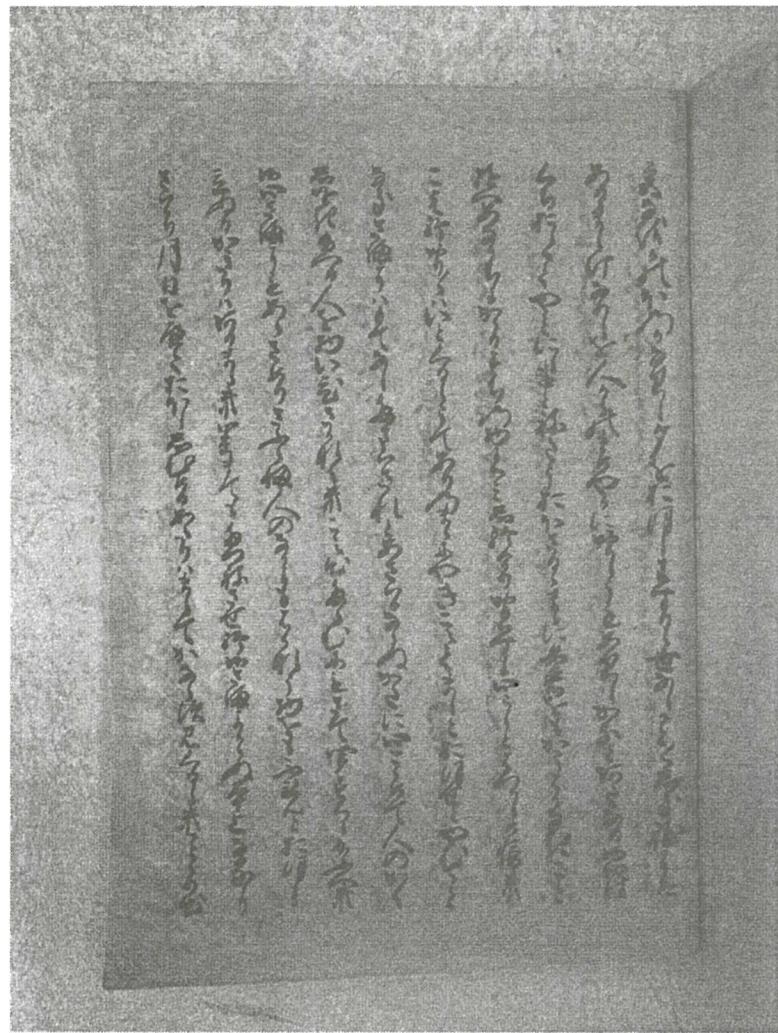
3 すめる月かなとふるめかしくかきたるをはつかしくも

4 あはれにもおほされて

5 里の名もむかしながらも見し人のおもかはりせる

6 ねやの月かけわざとかへり事とはなくてのたまうを

7 しうつたへけるとそ



## 1才

1 富なをかのほのかなりし夕をおぼしわする、世なしことくしき程には  
 2 あるましけなりしを人からまめやかにおかしうもありしかなどあたなる御心は  
 3 くちおしくてやみにし事とねたうおぼさるゝまゝに女君をもかうはかなきいと  
 4 ゆへあなたちにかゝるすうちの物にくみし給けりおもはすに心うしとはつかしめ恨き  
 5 こえ給おりくへはいとくへるしうてありのまゝにやきこえてましとおぼせとやむこと  
 6 なきさまにはもてなしたまはされとあさはかならぬかたに心どゝめて人のかぐ  
 7 しをき給へる人を物いひさかなくきこえ出たらむにもさて聞くし給ふべき  
 8 御心さまにもあらさめりさぶらふ人のなかにもはかなう物をもふれんとおぼし  
 9 立ぬるかきりはあるましき里までもたつねさせ給御さまよからぬ本上なるに  
 10 さばかり月日をへておぼししむめるあたりはましてがならす見くるしきことゝり出

## 1ウ

1 紿てんほかよりつたへ聞たまほんはありともあせくべき人の御心あるさまならねは  
 2 よその人よりは聞くことはかりそおぼゆへきとてもかくてもわかをこたりにては  
 3 もてそこなはしと思かへし給つゝいとおしなからえきこえ出たまはすことさまに  
 4 つきくへしくはいひなしたまはねはをしこめて物えんししたるよのつねの人  
 5 なりてそおはしけるかの人はたとしへなくのとかにおぼしをきて待とをなりとおもい  
 6 らむと心くるしうのみ思やり給なからところせき身の程をさるべきついて  
 7 なくてやすくかよひ給ふべきみぢならねは神のいさむるよりもわりなしされといま  
 8 よくもてなさむとす山里のなくさめと思をきてし心あるをすこし日数もへぬ  
 9 へき事ともつくり出でのとやかにゆきても見むさてしは人のしるましき  
 10 すみところしてやうへるさるかたにかの心をものとめをきわかためにも人のもとき

## 2オ

1 あるましきなめにてこそよからめにはかになに人そいつよりなと聞とかめられむ  
 2 も物さはかしくはしめの心にたかふへしました富の御かたの聞おぼさむ事ももとの  
 3 ところををきはかへしうてはなれむかしをわすれかほならむいとほいなしなと  
 4 おぼししつむるもれいのとけさすきたる心からなるへしわたすべきところおぼし  
 5 まうけてしのひてそつくらせ給けるすこしいとまなきやうにもなり給にたれど  
 6 富の御かたにはなをたゆみなく心よせつかうまつり給事おなしやう也見たてまつる人  
 7 もあやしきまでおもへと世中をやうへおぼししり人のありさまを見聞給まゝに是  
 8 こそはまことにむかしをわすれぬ心なきなこりさへあさからぬためしなれと  
 9 あはれもすくなからすねひまさり給まゝに人からも世のおぼえもさまことに物した  
 10 まへは富の御心のあまりたのもしけなき時々はおもはすなりけるすべせかなこひめ  
 1 君のおぼしをきてしまゝにもあらてかく物おもはしかるべきかたにしもかゝり  
 2 そめけんよとおぼすおりくへおぼくなんされとたいめし給事はかたしとし  
 3 月もあまりむかしをへたてゆく内々の御心をふかうしらぬ人はなをくしき  
 4 たゞ人こそさはかりのゆかりたつねたるむづひをもわすれぬにつきくしけれ  
 5 中々かうかきりある程にれいにたかひたるありさまもつゝましけれは富のた  
 6 えすおぼしうたかひたるもいよくへるしうおぼしほかり給つゝをのつからうとき  
 7 さまになりゆくをさりとてたえすおなし心のかはりたまはぬなりけり富も  
 8 あたなる御本上こそ見まうきふしもましれわか君のいとうつくしうおよすけ  
 9 給まゝにほかにはかゝる人も出くましきにやとやむことなき物におぼして打とけ

## 2ウ

10 なつかしきかたには人にまさりてもなし給へはありしよりはすこし物おもひしつ  
**3才**

1 まりですくし給むつきのついたちすきたるころわたり給てわか君のとしまさり  
 2 給へるをもてあそひうつくしみ給ひるつかだらしさきわらはみとりのうすやうなる  
 3 つゝみふみのおほきやかなるにちいさきひけこをこ松につけたるまたすくく  
 4 しきたてふみとりそてあふなくわりこはまよりて女君にたてまつれば富それ  
 5 はいつくよりそとのたまふ宇治よりたいふのとゝにとてもてわづらひ侍つるを  
 6 れいのおまへにてそ御らんせむとてとり侍ぬるといふもいとあはたゝしき氣しき  
 7 にて此こはかねをつくりて色とりたるこなりけり松もいとようにてつくりたる  
 8 えたそとよにゑみていひつゝくれは富もわらひ給ていて我ももてはやし  
 9 てんとめすを女君いとかたはらいたくおほして文はたいふかりやれとのた  
 10 まふ御かほのあかみたれは富大将のさりげなくしなしたる文にやうちののりも

**3ウ**

1 つきくしとおほしよりて此文をとり給つさすかにそれならんときなど  
 2 おほすにいとまはゆければあけて見むよえんしやしたまほんとする  
 3 とのたまへは見くるしうなにかはその女どちのなかにかきかよはしたらむ  
 4 打とけふみをは御らんせむとのたまふかさはかぬけしきなればさはみんよ  
 5 女の文かきはいかゝあるとてあけ給へればいとわかやかなる手にておほつ  
 6 かなくて年も暮侍にける山さとのいふせきこそみねのかすみも  
 7 たえまなくてとてはしに是わか宮の御まへにあやしう侍めれとゝか  
 8 きたりことにらうくしきふしと見えねとおほえなきを御めたてゝこの  
 9 たて文を見給へはけに女のてにて年あらたまりて何事かさぶらふ御  
 10 わたくしにもいかにたのもしき御よろこひおほく侍らんこゝにはいとめてたき

**4才**

1 御すまゐの心あかさをふさはしからず見てたまつるかくてのみつくくとなかめ  
 2させ給よりは時々はわたりまいらせ給て御心もなくさめさせ給へと思侍に  
 3 つゝましくおそろしき物におほしとりてなん物うきことになけかせ給める  
 4 わか宮の御まへにとてうつちまいらせ給おほきの御らんせさらむ程に  
 5 御らむせさせ給へとなんこまゝとこといみもえ思あへす物なけかしけなる  
 6 さまのかたくなしけなるも打かへしくあやしと御らんしていまはのたまへかし  
 7 たかそとのたまへはむかしかの山里にありける人のむすめのさるやうありてこの  
 8 ころかしこにあるとなん聞侍しきこえ給へはをしなへてつかうまつるとは見えぬ  
 9 文かきと心え給にかのわつらはしき事あるにおほしあはせつうつちおかしうつれく  
 10 なりける人のしわさと見えたりまたぶり山たち花つくりてつらぬきそへたるえたに  
 またぶりぬ物にはあれと君かためふかきこゝろに

1 まつとしらなんとことなることなきをかの思わたる人のにやとおほしよりぬるに  
 2 御めとまじて返事し給へなさけなしかくい給ふへき文にもあらさめるをなと御け  
 3 しきのあしきまかりなんよとてたちたまひぬ女君少将などしていとおし  
 4 くもありつるかなおさなき人のとりつらんを人はいかて見さりつるそなとしのひて  
 5 のたまふ見給へましかはいかてまいらせましすへて此こはこゝ地なからさしすくして  
 6 7 侍りおいさき見えて人はおほとかなるこそおかしけれなどにくめはあなかもおさ  
 なき人なはらたてそとのたまふこそその冬人のまいらせたるわらはへのかほ

**4ウ**

9 はいとうつくしかりければ富も」とうたくし給なりけりわか御かたにおはし  
10 ましてあやしうあるかな内に大将のかよひ給事は年ころたえすときく中

**5才**

1 にもしのひてよるとより給時もありと人のいひしをいとあまりなる人のかたみとてさるま  
2 しきところに旅ねし給事と思つるはかやうの人かくし給へるなるへしとおほししるかたも  
3 ありて御文のことにつけてつかひ給大内記なる人のかの殿にしたしきたよりあるをおほし  
4 出て御まへにめずまいれりゐんふたきすへきにしるともえり出てこなたなるつしにつむべき事  
5 などのたまはせて右大将の宇治へいますることなをはてたえすや寺をこそいとかしこく  
6 つくりたなれいかてか見るへきとのたまへは寺いとかしこくいかめしくつくられてふたんの三  
7 まいたうなどたうとくをきてられたりとなん聞給ふるかよひ給事はこその秋ころより  
8 はありしよりもしはく物し給也しもの人々のしのひて申しゝは女をなんかくしすへさせ  
9 給へるけしうはあらすおほす人なるへしあのわたりにらうし給ところへの人みなおほせにて  
10 まいりつかうまつるとのぬにさしめてなとしつゝ京よりもいとしのひてさるへき事などとはせ

**5ウ**

1 給いかなるさいはひ人のさすかに心ほそくてお給へるならんとなんたゞ此しはすのころをひと  
申と

2 聞給ふへしと聞ゆいとうちも聞つるかなとおもぼしてたしかにその人とはいはずや  
3 かしこにもとよりあまさとふらひ給ときゝあまはらうになんすみ侍なる此人はいまたてら  
4 れたるになんきたなけな女房なともあまたしてくちおしからぬけはひにてゐて侍と  
5 聞ゆおかしきことかななにの心ありていかなる人をかきてすべ給へらむなをいとけしきあり  
6 てなべての人にぬ心也右のおどゝなど此人のあまりに道心にすゝみて山寺によるさへ  
7 ともすればとまり給なるからへしさともとき給ときゝしをけになとかさしも仏の  
8 みちにはしのひありくらむなをかのふる里に心どゝめたると聞しかゝることこそはありけ  
9 れいつら人よりはまめるるとさかしかる人しもこととに人の思いたるましきくまあるがま  
10 へよとのたまひでいとおかしとおほいたり此人はかの殿にいとむつましくつかまつる

**6才**

1 けいしのむこになんありければかくし給事もきくなるへし御心のうちににはいかにして此人を  
2 見し人かとも見さためんかの君のさはかりにてすへたるはなべてのよろし人にはあらし此わたり

3 にはいかてかうとからぬにはあらん心をかはしてかくし給へりけるもいとねたうおほゆたゞ  
4 そのことを此ころはおぼししみたりのりゆみのないえんなどくして心のとかなるにつかさ  
5 めしなといひて人の心つくすめるかたはなにともおぼされぬは宇治へしのひておはしまさむ  
6 ことをのみおほしめくらす此内記はのそむことありてよるひるいかて御心にいらむとおもふ  
7 ころれいよりはなつかしうめしつかひていとかたき事なりともわかいはん事はたはかりてんや  
8 などのたまふかしこまりてさふらふいとひんなきことなれとかの内にすむらん人ははやうほの  
9 かに見し人のゆくゑもしらすなりにしか大将にたづねどられけると聞あはすることこそ  
10 あれたしかにはしるくぎやうもなきをたゞ物よりのそきなどしてそれがあらぬか見さた

**6ウ**

1 めんとなん思いさゝか人にしらるましきかまへはいかゝすへきとのたまへはあな  
2 わつらはしとおもへとおはしまさんことはいとあらき山みちになん侍れとことに程とを  
3 くはさぶらはすなん夕つかた出させおはしましてぬねの時にはおはしましつきなん  
4 さて晩にこそはかへりうせたまはめ人のしり侍らん事はたゞ御ともにさぶらい  
5 侍らんこそはそれもるかき心はいかてかしり侍らむと申さかしむかしも一たひ

6 二たひかよひしみち也からくしきもときおいぬへきか物のきこえのつゝましき  
 7 なりとて返々あるましきことに我御心にもおほせとかうまで打出給へれはえ思  
 8 どゝめたまはす御ともにむかしもかしこのあないしれし物二三人此ないきさては  
 9 御めのと此藏人よりかうぶりえたるわかき人むつましきかきりをえり給て大將  
 10 けふあす世におはせしなどないきによくあない聞給て出たち給につけてもい

## 7才

1 にしへをおほしいつあやしきまで心をあはせつゝぬてありきし人のためにうしろめたき  
 2 わさにもあるかなとおほし出ることもさまゝなるに京のうちたにむけに人しらぬ御ありきは  
 3 さはいへとえしたまはす御身にしもあやしきさまのやつれすかたして御馬にておはする  
 4 こゝちも物おそろしくやましけれと物のゆかしきかたはすゝみたる御心なれば山ふかう  
 5 なるまゝにいつしかいかならむ見あはする事もなくてかへらむこそさうくしくあるへけれと  
 6 おほすに心もさき給ほうさう寺の程までは御くるまにてそそれよりそ御馬にはたて  
 7 まつりけるいそきてよゐする程におはしましぬ内記あないよくしれるかの殿の人には  
 8 とひ聞たりければとのゐ人あるかたにはよらてあしかきしこめたる西おもてをやをら  
 9 すこしこほちでいりぬ我もさすかにまた見ぬ御すまゐなればたとくしけれと  
 10 人しけうなどしあらねはしんてんのみなみおもてに火ほのかにくらう見えて衣のをと

## 7ウ

1 そよくとするまいりてまた人はおきて侍へしたゝ是よりおはしまさんどしるへして  
 2 いたてまつるやをらのほりてかうしのひあるを見つけてより給にいよすは  
 3 さらくとなるもつゝましあたらしきよけにつくりたれとさすかにあらくしくて  
 4 ひまありますけるを誰かはきて見むと打とけてあなもふたかすきちやうのかた  
 5 ひら打かけてをしやりたり火あかうともして物ぬふ人三四人ぬたりわらはの  
 6 おかしけなるいとをそよる是かかほまつかのほかけに見給しそれ也打つけめかと  
 7 なをうたかはしきに右近となりしわかき人もあり君はかいなを枕にて火をながめ  
 8 たるまみかみのこほれかゝりたるひたひつきいとあてやかになまめきてたいの  
 9 御かたにいとようおほえたり此うこん物をるとてかくてわたらせ給なはとみにし  
 10 もえかへりわらせたまはしを殿は此つかさめしの程すきてついたちころには

## 8才

1 かならずおはしましなんと昨日の御つかひも申けり御文にはいかゝきこえさせ給へりけん  
 2 といへといらへもせすいと物おもひたるけしき也おりしもはひかくれ給へるやうならむ  
 3 か見くるしさといへはむかひたる人それはかくなんわたりぬると御せうそこきこえ  
 4 給つらんこそよからめかろくしういかてかはをとなくてははひかくれさせたまはん御物  
 5 まうての後はやかてわたりおはしましねかしかくて心ほそきやうなれと心にま  
 6 かせてやすらかなる御すまゐにならひて中々旅こゝちすへしやなどいふ又あるは  
 7 なをしはしかくて待ちこえさせたまはんそのとやかにさまよかるへき京人など  
 8 むかへたてまつらせ給へらむ後おたしくておやにも見えたてまつらせ給へかし  
 9 此おどゝのいときうに物し給てにはかにかうきこえなし給なめりかしむかしもいまも  
 10 物ねんしてのととなる人こそさいはひは見はて給なれなどいふ也右近などてこの  
 1 まゝをとゝめたてまつらすなりにけん老ぬる人はむつかしき心のあるにこそとにくむ  
 2 はめのとやうの人をそしるなめりけにくき物ありきかしとおほしとけたる  
 3 事ともをいひて宮のうへこそいとめてたき御さひはいなれ右のおほい殿のさ  
 4 はかりめてたき御いきをひにていかめしうのゝしり給なれとわか君むまれ給て

## 8ウ

5 後はこよなくおはしますなるかゝるさかしら人とものおはせて御心のとかにかしこう  
 6 もてなしておはしますにこそあめれといふ殿たにまめやかに思きこえ給事かはら  
 7 すはをとりきこえ給ふへき事かはどいふを君すこしおきあかりていと聞にくき  
 8 事よその人にこそをとらしともいかにともおもはめかの御事なかけてもいひそもり  
 9 聞ゆるやうもあらはかたはらいたからんなどいふなにはかりのしそくにかはあらんじとよく  
 10 もにかよひたるけはひかなと思くらふるに心はつかしけにてあてなるところは

## 9才

1 かれはいとこよなし是はたゞらうだけにこまがなるどころそいとおかしき  
 2 よろしうなりぬあはぬところを見つけたらむにてたにさはかりゆかしとおぼし  
 3 しめたる人をそれと見てさてやみ給ふへき御心ならねはましてくまもなく  
 4 見給にいかてか是を我物にはなすへきと心も空になり給てなをまもり  
 5 給へは右近いとねふたしよへもすゝるにおきあかしてきつとめての程にも  
 6 是はぬひてんいそかせ給とも御くるまは曰たけてそあらんといひてし  
 7 さしたる物ともとりくしてきちやうに打かけなどしつゝうたゞねのさま  
 8 によりふしぬ君もすこしおくに入てふす右近きたおもてにいきて  
 9 しはしありてそきたる君の跡ちかくふしぬねふたしと思ければいとどう  
 10 ねいりぬる氣しきを見給てまたせんやうもなけれはしのひやかにこの

## 9才

1 かうしをたゞき給右近きゝつけてたそどいふこほつくり給へはてなるしは  
 2 ふきと聞しりて殿のおはしたるにやと思ひておきて出たりまつ是あけ  
 3 よとのたまへはあやしうおほえなき程にも侍かな夜はいたうふけ侍ぬらん  
 4 物をといふ物へわたり給ふへかんなりとなかのふかいひつれはおとろかれつるまゝに  
 5 出たちていとこそわりなかりつれまつあけよとのたまふこゑいとようま  
 6 ねひさせ給てしのひたれは思もよらすかいはなつみちにていとわりなく  
 7 おそろしきことのありつれはあやしきすかたになりてなん火くらぶなせと  
 8 のたまへはあるみしとあはてまとひて火はとりやりつわれ人に見すなよ  
 9 きたりとて人おとろかすなどらうへしき御心にてもとよりもほのかに  
 10 にたる御ごゑをたゞかの御けはひにまねひでいり給ゆゝしきことのざまと

## 10才

1 のたまひつるいかなる御すかたならんといとおしくて我也かくらへて見たてまつる  
 2 いとほそやかになよくとさうそきてかのかうはしきこともをとらすちかう  
 3 よりて御そともぬきなれかほに打ふし給へればれいのおましにこそなと  
 4 いへと物ものたまはす御ふすままいりてねぶる人々おこしてすこしそき  
 5 てみなねぬ御ともの人などれいのこゝにはしらぬならひにてあはれる夜のおは  
 6 しましきまかなかゝる御ありさまを御らんししらぬよなどさかしらかる人もあれど  
 7 あなかま給へ夜ごゑはさゝめくしもそかしかましき事といひつゝねぬ女君はあらぬ  
 8 人なりけりと思ふにあさましうみしけれとこゑをたにせさせたまはすいとつゝ  
 9 ましかりしところにてたにわりなかりし御心なれはひたぶるにあさましはしめ  
 10 よりあらぬ人としりたらはいかゝいふかひもあるへきを夢のこゝ地するに

## 10才

1 やうくそのおりのつらかりし年ころ思わたるさまのたまふに此宮としらぬ  
 2 いよくはつかしくかのうへの御事など思ふにまたたけき事なけれはかきりなう  
 3 なく宮も中々にてたはやすくあひ見さらむ事おほすになき給夜はたゞ

4 あけにあく御ともの人きてこはつくる右近聞てまいれり出たまほんこゝ地  
5 もなくあかすあはれなるにまたおはしまさん事もかたければ京にはもとめさはか  
6 るともけふはかりはかくてあらん何事もいけるかきりのためこそあれたゞいま  
7 出おはしまさはまことにしぬへくおほさるれは此うこんをめしよせていとこゝ地なし  
8 とおもはれぬへけれとけふはえ出ましうなんあるをのこともは此わたりちかからん  
9 ところによくかくろへてさひらへ時かたは京へ物して山寺にしのひてなんとつき  
10 つきしからんさまにいらへなどせよとのたまるにいとあさましくあきれで心もな

### 11才

1 かりけるよのあやまちを思ふにこゝちもまとひぬへきを思しつめていまはようつに  
2 おほゝれさはくともかひあらし物からなめけ也あやしかりしおりにいとふかうおほしいれ  
3 たりしもかうのかれさりける御すくせにこそありけれ人のしたるわざかはと  
4 思なくさめてけふ御むかへにと侍しをいかにせさせたまほんとする御事にかかうの  
5 かれきこえさせ給ふましかりける御すくせはいときこえさせ侍らむかたなしおりこそ  
6 いとわりなく侍けれふは出おはしまして御心さし侍らはのどかにもと聞ゆおよすけても  
7 いふかなとおぼして我は月ころ思つるにほれはてにければ人のもとかんもしら  
8 れすひたぶるに思なりにけりすこしも身のことをおもはゝかゝらむ人のかゝるありき  
9 は思たちなんや御かへりにはけふは物いみなといへかし人にしらるましきことを  
10 たかためにもおもへかしことへはかひなしとのたまひて此人の世にしらすあはれに

### 11ウ

1 おほさるゝにはよろつのそしりもわすれぬへし右近出で此をとなふ人にかく  
2 なんのたまはするをなをいとかたはならむと申させ給へあさましうめつらかなる御あり  
3 さまはさおほしめすともかゝる御とも人との御心にこそあらめいかてかう心  
4 おさなうはゐてたてまつり給こそなめけなることをきこえさする山かつなども  
5 侍らましかはいかならましといふ内記はけにいとわづらはしくもあるかなとおもひ  
6 たてり時かたとおぼせらるゝは誰にかはさんとつたふわらひてかうかへ給事ともの  
7 おそろしければざらすともにけてまかてぬへしまめやかにはをろかならぬ御けしき  
8 を見たてまつれは誰もへ身をしてゝなんよしくとのゐ人もみなおきぬ  
9 なりとていそき出ぬうこん人にしらすましうはいかゝはたはかるべきとわりなう  
10 おほゆ人々おきぬるに殿はさるやうありていみしうのはせ給けしき見てたて

### 12才

1 まつれはみちにていみしき事のありけるなめり御そともなど夜さりしのひて  
2 もてまいるへくなんおほせられつるなどいふこだちあなむくつけやこはた山は  
3 いとおそしかなる山そかしれいの御さきもをはせたまはすやつれておはしまし  
4 けんよあないみしやといへはあなかまくけすなどのぢりはかりも聞たへむにいと  
5 いみしからむといひゐたるこゝ地おそろしあやにくに殿の御つかひのあらむ時にかに  
6 いはんとはつせのくはんをんけふことなくてくらし給へと大くはんをたてける石山に  
7 けふまうてさせんとてはゝ君のむかふるなりけり此人々もみなさうしきよ  
8 まいりてあるにさらはけふはえわたらせ給ましきなめりないとくちおしき事と  
9 いふ口たかくなれはかうしなとあけてうこんそちかくつかうまつりけるもやのすたれは  
10 みなおろしわたして物いみなどかゝせてつけたりはゝ君もやみつからおはするとて

### 12ウ

1 ゆめ見さはかしかりつといひなすなりけり御てうつなとまいりたるさまはれいの  
2 やうなれとまかなひめさましうおほされてそこにあらはせたまはゝと

3 のたまふ女いとさまよへ心にくき人を見ならひたるに時のまも見さらむにしぬ  
 4 へしとおほしこかるゝ人を心さしむかしとはかゝるをいふにやあらむと思しらるゝ  
 5 にもあやしかりける身を誰も物のきこえあらはいかにおほさんとまつかのうへの  
 6 御心を思ひ出聞ゆれどしらぬを返々いと心うしなをあらむまゝにのたまへ  
 7 いみしきけすといふともいよへなんあはれなるべきとわりなうとひた  
 8 まへとそのくらへはたえてせずことへはいとおかしく氣ちかきさまにきいへ  
 9 なとしてなひきたるをいとかぎりなうらうたしとのみ見給日たかくなる  
 10 程にむかへの人きたりくるま一馬なる人々のれいのあらゝかなる七八人をのこ

## 13才

1 ともおぼくしなへしからぬ氣はひにさえつりつゝいりきたれば人々かたはらいた  
 2 かりつゝあなたにかくれよといはせなどすうこんいかにせんとのなんおはするといひたらむ  
 3 に京にさはかりの人のおはしおはせすをのつからきゝかよひてかくれなき事もこそあれと  
 4 思ひて此人々にもことにいひあはせす返事かくよへよりけれさせ給ていとくちおし  
 5 き事をおほしなくめりしにこよひ夢見さはかしく見えさせ給へはけふはかり  
 6 つゝしませ給へとてなん物いみにて侍返々くちおしく物のさまだけのやうに見た  
 7 てまつり侍とかきて人々に物などくはせてやりつあま君もけふは物いみにてわたり  
 8 たまはぬといはせたりれいはくらしかたくのみかすめる山きはをなかめわひ給  
 9 に暮ゆくはわひしくのみおほしはゝからる人にひかれたてまつりていとはかなう  
 10 くれぬまきるゝ事なくのとけき春の日に見れともへあかすその事

## 13ウ

1 そとおぼゆるくまなくあひきやうつきなつかしくおかしけ也さるはかのたいの  
 2 御かたにはをとり也おほい殿の君のさかりににほひ給へるあたりにてはこよ  
 3 なかるへき程の人をたくひなくおぼさるゝ程なれとまたしらすおかしとのみ  
 4 見給女はまた大将殿をいときよけにまたかゝる人あらむやと見しかと  
 5 こまやかににほひきよらなる事はこよなくおはしけりとみるすゝりひきよせ  
 6 て手ならひなどし給いとおかしけにかきすさひゑなどを見ところおぼく  
 7 かき給へれはわかきこゝ地には思もうつりぬへし心よりほかにえ見さらむ  
 8 程は是を見給へよとていとおかしけなるおとこ女もろともにそひふしたる  
 9 かたをかき給てつねにかくてあらはやなどのたまふもなみたおちぬ  
 10 なかき夜をたのめてもなをかなしきはたゝあすしらぬ

## 14才

1 いのちなりけりいとかう思ふこそゆかしけれ心に身をもさむにえまかせずよろつに  
 2 たはからむ程まことにしぬへくなおぼゆるつらかりし御ありさまを中々なにへ  
 3 たとへ出けんなどのたまふ女ぬらし給へるふてをとり  
 4 こゝろをはなけかざらましのちのみさためなき世と  
 5 おもはましかはとあるをかはらんをはうらめしうおもふへかめりけりと見給にもいといひ  
 6 たしかなる人の心はかりを見ならひてなどほゝゑみて大将のこゝにわたしはしめ  
 7 給けん程を返々ゆかしかり給てとひ給をくるしかりてえいはぬ事をかうのたまふ  
 8 こそと打えしたるさまもわかひたりをのつからそれは聞出てんとおほす物からいは  
 9 せまほしきそわりなきやよさり京へつかはしるたいふまいりて右近にあひたり  
 10 きさいの宮よりも御つかひまいりて右のおほい殿もむつかりきこえさせ給て

## 14ウ

1 人にしらさせたまはぬ御ありきはいとかろへしくなめけなる事もあるをすべてつづ

2 などにきこしめさん事も身のためなんいとからきいみしく申させ給けりひん  
 3 かし山にひしりの御らむしにとなん人には物し侍つるなどかたりて女こそつみ  
 4 ふかうおはする物はあれすゝるなるけそうの人をさへまとはし給てそらことを  
 5 さへせさせ給よといへはひしりの名をさへつけきこえさせ給てければいとよし  
 6 わたくしのつみもそれてほろほし給ふらんまことにいとあやしき御心のけにいかで  
 7 なはせ給けんかねてかうおはしますへしとうけたまはらましにもいとかたしけな  
 8 ければたはかりきこえさせてまし物をあぶなき御ありきにこそはとあつかひ聞ゆ  
 9 まいりてさなんとまねひ聞ゆれはけにいかならんとおほしやるところせき身  
 10 こそわひしけれかろらかなる程の殿上人などにてしはしらはやいかすへきかう

## 15才

1 つゝむへき人めもえはゝかりあふましくなん大将もいかにおもはんとすらむさるへき程とは  
 2 いひながらあやしきまでむかしよりむつましきなかにかゝる心のへたてのしられたらむ  
 3 時はつかしうまたいかにそや世のたとひにいふ事もあれば待とをなるわかをこたりをも  
 4 しらすうらみられたまはんをさへなん思ふ夢にも人にしられ給ましきさまにてこゝ  
 5 ならぬところにゐてはなれたてまつらんとそのたまるけるさへかくてこもりぬ給ふ  
 6 へきならねは出給なんとするにも袖の中にそとゝめ給へらむかし明はてぬさきにと  
 7 人々しほふきおどろかし聞ゆつま戸にもろともに出おはしてえ出やりたまはす  
 8 世にしらすまとふへきかなさきにたつなみたもみちを  
 9 かきくらしつゝ女もかきりなくあはれとおもひけり  
 10 なみたをもほとなき袖にせきかねていかにわかれを

## 15ウ

1 とゝむへき身そ風の音もいとあらましう霜ふかき晩にをのかきぬゝもひ  
 2 やゝかになりたるこゝ地して御馬にのり給程ひきかへすやうにあさましけれと  
 3 御ともの人々いとたはふれにくしと思ひてたゝいそかしにいそかし出れは我々もあら  
 4 て出たまひぬ此五位二人なん御馬のくちにはさふらひけりさかしき山こえ出て  
 5 そをのく馬にはのるみきはのこぼりをふみならす馬のあし音さへ心ほそく  
 6 物かなしむかしも此みちにのみこそはかゝる山ふみもし給しかはあやしかりける  
 7 里の契りかなとおほす二條院におはしましつきて女君のいと心うかりし  
 8 御物かくしもつらければ心やすきかたにおほとのこもりぬるにねられたま  
 9 はすいとさひしきに物おもひまされは心よはくたいにわたりたまひぬ  
 10 なに心もなくいときよけにておはすめつらしくおかしと見給し人よりも又是は

## 16才

1 なをありかたきまはし給へりかしと見給物からいとよくにたるを思ひ出給もむね  
 2 ふたかれはいたく思おぼしたるさまにてみちやうにいりておほとのこもる女君も  
 3 出入きこえ給てこゝちこそいとあしけれいかならむとするにかと心ほそくなん  
 4 あるまろはいみしくあはれと見をいたてまつるとも御ありさまはいととくかはり  
 5 なんかし人のほいはかならすかなふなれはとのたまふけしからぬ事をもまめ  
 6 やかにさへのたまうかなと思ひてかう聞くにくことのもりてきこえたらはいか  
 7 やうにきこえしたるにかと人も思よりたまはんこそあさましけれ  
 8 心うき身にはすゝるなる事もいとくるしくとぞむき給へり富もまめ  
 9 たち給てまことにつらしと思聞ゆることもあらんはいかゝおほさるへき  
 10 まろは御ためにをろかなる人かは人もありかたしなどとかむるまでこそ

## 16ウ

1 あれ人にはこよなう思おどし給ふへかめりそれもさるへきにこそはことはら  
 2 るゝをへたて給御心のふかきなんいと心うきとのたまふにもすくせのを  
 3 ろかならてたつねよりたるそかしとおほし出るに涙くまれぬまめやかなるを  
 4 いとおしういかやうなる事を聞給へるならむとおどろかるゝにいらへきこえたまはん  
 5 こともなし物はかなきさまにて見そめ給しに何事をもかららかにをしさかり給に  
 6 こそはあらめすゝるなる人をしるへてその心よせを思しりはしめなどしたるあ  
 7 やまちはかりにおほえをとる身にこそとおほしつゝくるもよろつかなしくていとゝひづ  
 8 たけなる御けはひ也かの人見つけたりとははししらせたてまつらしとおほせはことわま  
 9 におもはせて恨給をたゞ此大将の御事をまめくしくのたまふとおほすに人やそら  
 10 ことをたしかなるやうにきこえたらむなどおほすありやなしやをきかぬまは見え

**17才**

1 たてまつらんもはつかし内より大宮の御文あるにおどうき給てなを心とけぬ御けしきにて  
 2 あなたにわたりたまひぬ昨日のおほつかなさをなやましくおほされたるよろしくはまいり  
 3 給へひさしうもなりにけるをなどやうにきこえ給へればさはかれたてまつらんもくるしければ  
 4 まことに御こゝ地もたかひたるやうにてその日はまいりたまはすかんたちめあまたまいり  
 5 給へとみすのうちにてくらし給夕つかた右大将まいり給へりこなたにをとて打とけながら  
 6 たいめんし給へりなやましけにおはしますと侍つれは宮もいとおほつかなくおほしめしてなん  
 7 いかやうなる御なやみにかときこえ給見るからに御心さはきのいとゝまされば事すくな  
 8 にてひしりたつといひながらこよなかりける山ふしの心かなさはかりあはれるな人を  
 9 さてきて心のとかに月日を待わひますらむよとおほすれいはさしもあらぬ事の  
 10 ついてにたに我はまめ人ともてなしなのり給をねたかり給てよろつにのたまひ

**17ウ**

1 やふるをかゝる事見あらはひたるをいかにのたまはましされとさやうのたはふれ  
 2 こともかけたまはすいとくるしけに見え給へはふひんなるわさかなおどろくしからぬ  
 3 御こゝちのさすかに日数ふるはいとあしきわさに侍御かせよくつくるはせ給へなどま  
 4 めやかにきこえをきて出たまひぬはつかしけなる人なりかし我ありさまをいかに思  
 5 くらへけんなとさまくなる事につけつゝもたゞ此人を時のまわすれすおほしいつ  
 6 かしこには石山もとまりていとつれく也御文にはいといみしき事をかきあつめ給てつか  
 7 はすそれに心やすからず時かたとめしゝたいふのすきの心もしらぬしてなんやり  
 8 ける右近かふるくしれりける人の殿の御ともにてたつね出たるさらかへりてねんころ  
 9 かるとともにたちにはいひきかせたりよろつ右近そそらことのみならひける月も  
 10 たちぬかうおほしいらるれとおはします事はいとわりなしかうのみ物をおもはゞさりに

**18才**

1 えながらふかましき身なめりと心ほそさをそへてなげき給大将殿すこしのとか  
 2 になりぬるころれいのしのひておはしたり寺に仏などおかみ給御す経せさせ給ふ  
 3 そうに物給なとして夕つかたこゝにしのひたれとははわりなくもやつしたまはすえ  
 4 ほうしなをしのすかたいとあらまほしくきよけにてあゆみいり給よりはつかしけに  
 5 ようぬことなり女いかて見えたてまつらむとそらさへはつかしくおそろしき  
 6 にあなかちなりし人の御ありさま打思ひ出らるゝに又此人に見えたてまつらんを  
 7 思やるなんいみしう心うき我は年ころ見る人をもみな思かはりぬへきこゝ地なん  
 8 するとのたまひしをけにそのゝち御こゝ地くるしとていつくにもくれいの御ありさま  
 9 ならて御すほうなどさはくなるをきくに又いかにきておほさんと思ふもいとくる  
 10 し此人はたいとけはひことに心ふかくなまめかしきさましてひきしかりつる程の

## 18ウ

1 をこたりなどのたまふも事おほからて恋しかなしとおりたゞねとつねにあひ見え  
 2 ぬ恋のくるしさをさまよき程に打のたまへるいみしくいふにはまさりていとあれと人  
 3 の思ひぬべきさまをしめ給へる人から也えんなるかたはさる物にてゆくすゑななく人  
 4 のたのみぬべき心はへなとこよなくまさり給へりおもはするさまの心はへなともり  
 5 きかせたらむ時ものめならすいみしくこそあへけれあやしうつし心もなうお  
 6 ほしいらるゝ人をあはれと思ふもそれはいとあるましくかるき事そかしこの人  
 7 うしとおもはれわすれ給なん心ほそはいとふかうしみにければ思みたれたるけしきを  
 8 月ころにこよなう物の心しりねひまさりにけりつれ／＼なるすみかの程に思残す事  
 9 はあらしかしと見給も心くるしければつねよりも心と／＼めてかたらひ給つくらるゝといふ  
 10 やう／＼よろじうしなしてけり一日なん見しかはこゝよりは氣ちかき水に花も見給つ

## 19オ

1 へし三条の宮もちかき程也明暮おほつかなきへたてもをのつからあるましきを此春の  
 2 程にさりぬべくはわたしてんと思ひてのたまうにかの人ののととなるべきとこゑ思まう  
 3 けたりと昨日ものたまへりしをかゝることもしらてさおほすらむよとあはれながらもそ  
 4 なたになひくへきにはあらすかしと思ふからにありし御ありさまのおも影におぼゆれば  
 5 我ながらもうたで心うの身やと思つゝけてなきぬ御心はへのかゝらでおいらかなり  
 6 しこそのとかにうれしかりしか人のいかにきこえしらせたることかあるすこしもをろ  
 7 かならむ心さしにてはかうまでまいりくへき身の程みちのありさまにもあらぬ  
 8 をなどついたちころの夕月夜にすこしはしちかくふしてなかめいたし給へりおどり  
 9 はすきにしかたのあはれをもおほいて女はいまよりそいたる身のうさをな  
 10 けきくはへてかたみに物おもはし山のかたは霞へたてゝさむきすさきにたてるかさ

## 19ウ

1 さきのすかたもところからはいとおかしう見ゆるに宇治はしのはる／＼と見わたさるゝに  
 2 柴つみ舟のところへ／＼にゆきちかひたるところからなれば見給たひことになをその  
 3 かみのことのたゞいまのこゝ地していとかゝらぬ人を見かはしたらんたにめつらしき中のあは  
 れ  
 4 おほかるへき程やまゝて恋しき人々よそへられたるもこよなからすやう／＼物の心して  
 5 みやこなれゆくさまのおかしきもこよなく見まさりしたるこゝちし給に女はかきあつめたる  
 6 心のうちにもよほざるゝ涙ともすれば出たつをなくさめかねたまひつゝ  
 7 宇治はしのなき契りはくちせしをあやふむかたに  
 8 心さはくないま見たまひてんとのたまふ  
 9 たえまのみ世にはあやうき宇治はしをくちせぬ物と  
 10 なをたのめとやさき／＼よりもこと見すてかたくしはしも立とまひまほしくおほせられと

## 20オ

1 人物いひのやすからぬにいまさら也心やすきさまにてこそなとおほしなして曉に  
 2 かへりたまひぬいとようもおとなひつるかなと心くるしくおほし出る事ありしに  
 3 まさりけりきさらきの十日の程に文づくらせ給とて此宮も大将もまいりあひ給へり  
 4 おりにあひたる物のしらべともに宮の御こゑはいとめてたくて梅かえなとうたひ給  
 5 なる事も人よりはこよなうまさり給へる御さまにてすゝるなる事おほしらるゝのみ  
 6 なんづみふかかりける雪にはかにぶりみたれ風などはけしければ御あそひもやみ  
 7 ぬ此宮の御どのぬところに人々まいり給物まいりなとして打やすみ給へり大将人  
 8 に物のたまはんとてすこしはしちかく出給へるに雪やう／＼つもるかほしのひかりにおほ／＼

- 9 しきをやみはあやなしとおほゆふにほひありさまにて衣かたしきじよひもやと打  
 10 すし給へるもはかなき事をくわすたひにのたまぐるもあやしくあはれなるけしき
- 20ウ**
- 1 そへる人さまにてこと物ふかけ也ことしむいそあれ宮はねたるやうにて御心ざばく  
 2 をろかにはおもはぬなめりかしかたしく袖を我のみ思やるこゝちしつるをおなし心  
 3 なるもあはれ也わひしくもあるかなかはかりなるもとつ人をきて我かたにまさる  
 4 思いかてかつくへきそとねたうおほさるつとめて雪のいとたかうつもりたるに  
 5 文たてまつりたまはんとて御まへにまゝり給へる御かたち此ころいみしくさかりに  
 6 きよけ也かの君もおなし程にていまーーーまさるけちめにやすこしねひまさ  
 7 りけしきよういなどそことさひだもつくりたらんあてなるおとこのほんにし  
 8 つへく物し給みかとの御むこにてあかぬ事なしとそよ人もことはりけるさえ  
 9 などもおほやけくしきかたもをくれすそおはすへき文かうしはてゝみな人  
 10 まかて給宮の御文をすくれたりとすしのゝしれとなにとも聞いれたま
- 21オ**
- 1 はすいかなるこゝちにてかゝる事をもしうつらんとそらにのみおもほしほれたりかの  
 2 人の御けしきにもじとおどろかれ給ければあさましうたはかりておはしまし  
 3 たり京にはとも待はかりきえ残たる雪山ふかく入まゝにやゝふりつみたり  
 4 つねよりもわりなきまれのほそみちをわけ給程御ともの人もなきぬはかり  
 5 おそろしうわづらはしきことをさへ思しるへの内記は式部少輔なんかけたりける  
 6 いつかたもへことへしかるへきつかさなからいとつきへしくひきあけなどしたる  
 7 すかたもおかしかりけりかしこにはおはせんとありつれとかゝる雪にはと打とけた  
 8 るに夜ふけて右近にせうそこしたりあさましうあはれと君もおもへり右近は  
 9 いかになりはて給ふべき御ありさまにかとつかはくるしけれとこよひはつゝまし  
 10 さもわすれぬへしいひかへさむかたもなけれはおなしやうにむづましくおほ
- 21ウ**
- 1 いたるわかき人の心さまあふながらぬをかたらひていみしくわりなき事おなし  
 2 心にもてかくし給へといひてけりもろともにいれたてまつるみちの程にぬれ  
 3 給へるかのところせうにほふももてわづらひぬへけれとがの人の御けはひに  
 4 にせてもてまきらはしける夜の程にて立かへりたまはんも中々なるへけれは  
 5 こゝの人めもいとつゝましさに時かたにたはからせ給て川よりをちなる人の家に  
 6 るておはせむとがまへたりければさきたてゝつかはしたりけるに夜ふくるほどに  
 7 まいれりいとよくようぬしてさぶらふと申さすこはいかにし給事にかと右近も  
 8 いと心あはたゝしければねをひれておきたるこゝちもわなゝかれてあや  
 9 しわらはへの雪あそひしたるけはひのやうにそふるいあかりけるいかてか  
 10 などもいひあへさせたまはすかきいたきて出たまひぬ右近は此うしろ
- 22オ**
- 1 見にとゝまりて侍従をそたてまつるいとはかなけなる明ぐれ見いたすちいさき  
 2 舟にのり給てさしわたり給程はるかなならむきしにしもこきはなれたらん  
 3 やうに心ほそくおほえてつとつきていたかれたらもいとらうたしとお  
 4 ほすあり明の月すみのほりて水のおもてもくもりなきに是なんたち花の  
 5 小島と申て御舟しはしさしとめたるを見給へはおほきやかなる岩のさまして  
 6 されたるときは木のかけしけれりかれ見給へいとはかなけれど千どせも  
 7 ふくみとりのふかさをとのたまひて

年ふともかはらむ物かたちはなにこしまかさきにちあがるいへは#  
をんなもめつらしからむみちのやうにおほえて  
たちはなの小島はいふもかはらしをこのうき舟そゆく氣しられぬ#

## 22ウ

1 おりから人のさまにおかしくのみなに事もおほしなすかのきしにさしつきており  
2 給に人にいたかせたまはんはいと心くるしければいたき給てたすけられつゝ  
3 いり給をいと見るしくなに人をかくもてさはき給ふらむと見てまつる時かた  
4 かをちのいなはのかみなるからうするさうにはかなるつくりたる家なりけり  
5 またいとあらへしきにあしろ屏風など御らんしもしらぬしつらひにて風もことに  
6 さはらすかきのもとに雪むらきえつゝいまもかきくもりてふる日さし出で  
7 軒のたるひのひかりあひたるに人の御かたちもまさるこゝ地す宮もところせき  
8 みちの程にかららかなるへき程の御そとも也女もぬきすべさせ給てしかば  
9 ほそやかなるすかたつきいとおかしけ也ひきつくることもなく打とけたる  
10 さまをいとはつかしくまはゆきまできよらなる人にさしむかひたるよと

## 23オ

1 おもほえとまきれんかたもなしなつかしき程なるしろきかきりを五ばかり袖  
2 くちすその程までなまめかしく色々にあまたかさねたらんよりもおかしう  
3 きなしたりつねに見給人とてもかくまで打とけたるすかたもいとめやすき  
4 わか人なりけり是さへかるを残りなうみるよと女君はいみしと思ふ富も是  
5 はまたたそ我名もらすなよとくちかため給をいとめてたしと思きこえ  
6 たりこゝの宿もりにてすみける物時かたをしうと思ひてかしつきありけは  
7 此おはしますやり戸をへたてゝところえかほにゐたりごゑひきしゝめかしこ  
8 まりて物語しけるをいらへもえせずおかしと思けりいとおそろしくうらない  
9 たる物いみにより京の内をさへさりてつゝしむ也ほかの人よすなどいひたり  
10 人めにたて心やすくかたらひくらし給かの人物し給へりけんにかくて見えつ

## 23ウ

1 らんかしとおほしやりて恨給一の富をいとやむことなくてもちたてまつり  
2 給へるありさまなどもがたり給かのみゝとゝめ給し一ことはのたまひ出ぬそにく  
3 きや時かた御てうつ御くた物などとりつきてまいるを御らんしていみしく  
4 かしつかるめるまらうとのぬしきてな見えそやといましめ給侍従いろめかしき  
5 わかうとのこゝ地におかしと思てこたいふとそ物語してくらしける雪のふり  
6 つもれるに我すむかたを見やり給へれば霞のたえくにこすゑはかり見ゆ  
7 山はかゝみをかけたるやうにきらへと夕日にかゝやきたるによへわけこし  
8 みちのわりなさなどあはれおほうそへてかたりたまふ  
9 みねの雪みきはのこほりふみわけて君にそまとふ  
10 みちはまとはすこはたの里に馬はあれとなとあやしきすゝりめし出でならひ給ふ

## 24オ

1 ふりみたれみきはにこほる雪よりもなか空にてそ  
2 我はけぬへきとかきけちたりこの中空をなかめ給けにくゝもかき  
3 てけるかなとはつかしくてひきやりつさらてたに見るかひある御ありさまを  
4 いよくあはれにいみしと人の心にしめられむとつくし給ことのはけしきいはんかた  
5 なし御物いみ二日とたはかり給へれば心のとかなるまゝにかたみにあはれとのみ  
6 ふかくおほしまさる右近はようつにれいのいひまきらはして御そなとたて

7 まつりたりけふはみたれたるかみすこしけつらせてこきぬにこうはいの  
 8 をり物などあはひおかしくきかへてゐたり侍従もあやしきしむらき  
 9 たりしをあさやきたれはそのもをとり給て君にさせ給て御  
 10 てうつまいらせ給ひめ宮に是をたてまつりたちはいみしき物に

## 24ウ

1 し給てんかしいとやむことなききはの人おほかれとかはかりのさま  
 2 したるはかたくやと見給かたはなるまであそひたはふれつゝくらし  
 3 給しのひてゐてかくしてんことを返々のたまふその程かの人に見え  
 4 たらはといみしき事ともをちかはせ給へはいとわりなき事と思ていら  
 5 へもやらず涙さへおつる氣しきさらためのまへにたに思うつらぬなめ  
 6 りとむねいたうおほさる恨てもなきてもよろつたまひあかして夜  
 7 ふかくみてかへり給れいのいたき給いみしくおほする人はかうはよもあらし  
 8 に見しら給たりやとのたまへはけにと思ひてうつきてゐたるいとらうた  
 9 け也右近つま戸はなちていれたてまつるやかて是わかれで出給もあかす  
 10 いみしとおほさるかやうのかへやはなを二条院にそおはしますいとなやま

## 25オ

1 し給て物などもたえてきこしめさす日をへてあをみやせ給御けしきも  
 2 かはるを内にもいつくにもおもほしなげくにいと物さはかしくて御ふをたにこまかには  
 3 かきたまはすかしこにもかのさかしきめのとむすめのこうむどころに出たりける  
 4 かへりきにければ心やすくもえみすかくあやしきすまゐをたゝかの殿のもて  
 5 なしたまほんさまをゆかしく待事にてはゝ君も思なくさめたるにしのひたるさま  
 6 ながらもちかくわたしてんことをおほしなりにければいとめやすくうれしかるべき  
 7 ことに思てやうへ人もとめわらはのめやすきなどむかへてをこせ給我心にも  
 8 それこそはあるへき事にはしめより待わたれとは思なからあなかちなる人の御  
 9 ことを思ひ出るに恨給しさまのたまひし事ともおも影につとそひていさゝかま  
 10 とろめは夢に見え給つゝいとうたであるまでおほゆ雨ふりやまで田ころおぼく

## 25ウ

1 なるころいとゝ山路おほしたえてわりなくおほされければおやのかうこは  
 2 ところせき物にこそとおほすかたしけなしつきぬ事ともかき給て

3 なかめやるそなたの雲も見えぬまでそらさへくるゝこののわひしさ#  
 4 筆にまかせてかきみたり給へるしも見どころありおかしけ也ことにいとをもく  
 5 などはあらぬわかきこゝちにいとかゝる心を思ふもまさるへけれどはしめより  
 6 契り給しさまもさすかにかれはなをいと物ふかう人からめてたきなども  
 7 世中をしりにしはしめなればにやかゝるうき事聞つゝけて思うとみ給  
 8 なん世にはいかでかあらむいつしかと思まとふおやにもおもほすに心つき  
 9 なしこそはもてわづらはめかく心いられし給人はたあたなる御心の本上と  
 10 のみ聞しかはかゝる程こそあらめまたかうながらも京にもかくしすへながらへ  
 1 てもおほしかすまへむにつけてはかのうへのおほさん事よろつかくれなき  
 2 世なりければあやしかりし夕暮のしるへはかりにたにかうたつね出給めり  
 3 ましてわかれりさまのともかくもあらむを聞たまはぬやうはありなんやと思たど  
 4 るにわか心もきすありてかの人にくとまれたてまつらんなをいみしかるへ  
 5 しと思みたるゝおりしもかの殿より御つかひありこれかれと見るもいとたて

## 26オ

6 あればなを事おばかりつるを見つゝふし給へれは侍従右近めを見あはせて  
 7 なをうつりにけりなどいはぬやうにていふことはりそかし殿の御かたちをたくひ  
 8 おはしまさしと見しかと此御ありさまはいみしかりけり打みたれ給へるあひきやうよ  
 9 まろならはかはかりの御思を見るくえかくてあらしきさひの宮にもまいりてつねに  
 10 見たてまつりでんといふうこんうしろめたの御心の程や殿の御ありさまにまさり給

## 26ウ

1 人はたれかあらむかたちなどはしらす御心はへければひなどよなを此御かたはいと見  
 2 くるしきわさかないかゝならせたまほんとすらむとふたりしてかたらる心一に思ひ  
 3 しよりはそらこどもたより出きにけり後の御文には思ながら日ころになる事時々は  
 4 それよりもおどろかいたまほんこそ思ふさまならめをろかなるにやはなどはしかぎに  
 5 水まさるをちのさと人いかならむはれぬながめにかきくらすころ#  
 6 つねよりも思やり聞ゆる事まさりてなんとしろき色紙にてたてふみ也御ても  
 7 こまかにおかしけならねとかきさまゆへへしく見ゆ宮はいとおほかるをちいさく  
 8 むすひなし給へるさまへへおかしまつかれを人見ぬ程にと聞ゆけふは聞ゆましとはぢり  
 9 ひててならひに

10 里の名をわか身にしれはやましろの宇治のわたりそいとすみうき#

## 27オ

1 宮のかき給へりしゑを時々見てなかれけりなからへてあるましきことそとさま  
 2 かうさま思なせとほかにたへこもりてやみなんはいとあはれにおほゆへし  
 3 かきくらしされせぬみねのあま雲にうきてよをふる身ともなさばや#  
 4 ましりなはときこえたるを宮は夜ことなかれ給さりとも恋しと思ふらんかしとおほし  
 5 やるもの物おもひてゐたらむさまのみおも影に見え給まめ人はのとかに見給つゝあはれいかに  
 6 なかむらむとおもひやりていと恋し  
 7 つれくと身をしる雨のをやまねは袖さへいとみかさまさりて#  
 8 とあるを打もをかす見給女宮に物語などきこえ給てのついてになめしともやおほ  
 9 さむとつゝまししながらさすかに年へぬる人の侍をあやしきところにすてをきていみし  
 10 く物おもふなるか心くるしさにちかうよひよせてと思侍むかしよりことやうなる心はへ侍し

## 27ウ

1 身にて世中をすべてれいの人ならてすぐしてんと思侍しをかく見たてまつるにつけてひた  
 2 ふるにもかたければありと人にもしらせざりし人のうへさへ心くるしうつみえ  
 3 ぬへきこゝちしてなときこえ給へはいかなる事に心をぐ物ともしらぬをといらへ  
 4 給内になとあしさまにきこしめさする人や侍らむよの人物いひそいとあちき  
 5 なくけしからす侍やされとそれはさはかりの数にたに侍るましなどきこえ給みちたる  
 6 ところにわたしてんとおほしたつにかゝるれうなりけりなど花やかにいひなす人やあらん  
 7 などくるしけれはいとしのひてさうしはらすへき事など人しもこそあれこの  
 8 内記かしる人のおや大藏大輔なる物にむつましく心やすきさまにのたまひ  
 9 つけたりければ聞つきて宮にはかくれなくきこえけりゑしともなとも御  
 10 すいしんとものなかにあるむつましき殿上人などをえりてさすかにわざとなん

## 28オ

1 せさせ給と申にいと、おほしさはきてわか御めのとのとをきすゝうのめにてくた  
 2 る家しもつかたにあるをいどしのひたる人しはしかくいたらむとかたらひ給け  
 3 れはいかなる人にかはとおもへとたいしとおほしたるにかたしけなければさらほど  
 4 きこえけり是をまうけ給てすこし御心のとめ給此月のつこもりかたに

5 くたるへければやかでその日わたらさんとおほしかまるかぐん思ふゆめくといひ  
 6 やり給つゝおはしまさん事はいとわりなくある内にもこゝにもめのといどさかし  
 7 ければかたかるべきよしを聞ゆ大将殿は卯月の十日となんさため給へりける  
 8 さそふ水あらはとおもはすいとあやしくいかにしなすべき身にかあらんとうき  
 9 たるこゝちのみすればはゝの御もとにしはしわたりて思めぐらす程あらむと  
 10 おほせと少将のめこゝむべき程ちかくなりぬとてすぼうと経などひまなく

## 28ウ

1 さはけは石山にもえ出たつましはゝそこちわたり給へるめのと出きて殿より  
 2 人々のさうそくなともじまかにおほしやりてなんいかてきよけになに事もと  
 3 思給ふれとまゝか心一にはあやしくのみそし出侍らむかしなといひさはくかこゝ地  
 4 よけなるを見給にも君はけしからぬ事ともの出きて人わらへならは誰もへ  
 5 いかにおもはんあやにくにのたまふ人はたやへたつ山にこもるともかならす我も人も  
 6 いたつらになりぬへしなを心やすくかくれん事をおもへとけふものたまへるいかにせん  
 7 とこゝちあしくてふし給へりなどかかくれいならすいたくあをみやせ給へるとおどろき  
 8 給田ころあやしくのみなんはかなき物もきこしめさすなやましけにせさせ給といへは  
 9 あやしきことかな物のけなどにやあらむといかかる御こゝ地そとおもへと石山もとま  
 10 り給にきかしといふもかたはらいたければふしめ也暮て月いとあかしあり明の空を

## 29オ

1 思ひ出るも涙のいとこゝめかたきはいとけしからぬ心がなと思ふはゝ君むかし物語などして  
 2 あなたのあま君よひ出でこひめ君の御ありさま心ふかくおはしてさるべき事も  
 3 おほしいれたりし程にめにみすゝゝ見え入給にし事なとかたるおはしまさましかは  
 4 宮のうへなどのやうにきこえかよひ給て心ほそかりし御ありさまとものいとこよな  
 5 き御さいはひにそ侍らまししといふにもわかるすめはこと人かは思ふやうなるすべ  
 6 のおはしはてはをとらしをなと思つゝけて夜とともに此君につけて物をのみ思みた  
 7 れしけしきのすこし打ゆるひてかくてわたりたまひぬへかめれとこゝにまゝりくる  
 8 ことかなうすしもことさらにはえ思たち侍らしかゝるたいめんのおりへにむかしのひとも心  
 9 のとかにきこえうけたまはらまほしけれなとかたらふゆゝしき身とのみ思ふ給へ  
 10 しみにしかはこまやかに見えたてまつりきこえさせんもなにかはつゝましくてすぐし

## 29ウ

1 侍つるを打すてゝわたらせ給なはいと心ほそくな侍へけれとかゝる御すまゐは心もと  
 2 なくのみ見たてまつるをうれしくも侍へかなるかな世にしらすをもへしくおはしますへかめ  
 る

3 殿の御ありさまにてかくたつねきこえさせ給しもおほしきならしどきこえをき侍  
 4 にしうきたる事にや侍けるなどいふ後はしらねどたゝいまはかくおほしきなれぬきまに  
 5 のたまふにつけてもたゝしるへをなん思ひ出聞ゆる宮のうへのかたしけなくあはれに  
 6 おほしたりしどゝましこことなどをのつから侍しかは中空にところせき御身なりと思ひ  
 7 なげき侍てといふあま君打わらひて此宮のいとさはかしきまで色におはします  
 8 なれば心はせあらんわかき人さやらひにくけになん大かたはいとめてたき御  
 9 ありさまなれとさるすちの事にてうへのなめしとおほめんなんわりなきことだいふ  
 10 かむすめのかたり侍しといふにもさもやましてと君はきゝふし給へりあな

## 30オ

1 むくつけやみかとの御むすめをもちたてまつり給へる人なれとよそへにてあしく  
 2 もよくもあらむはいかゝはせんとおほけなく思なし侍よからぬことをひき出

3 給へらましかはすべて身にはかなしくいみしと思ひ聞ゆとも又見たてまつりせり  
 4 ましなといひかはす事ともにいとへ心きもへつふれぬなを身をうしなひて  
 5 はやつぬに聞くにくき事は出きなんと思つゝくるに此水の音のおそろしけにひへ  
 6 起てゆくをかゝらぬなけれありかし世にすあらましきところに年月をすべくし  
 7 給をあはれとおぼしぬへきわさになんなどはゝ君したりかほにいひぬたりむかし  
 8 より此川のはやくおそろしき事をいひてさいつころわたしもりかむまこのわらは  
 9 さほさしはつしておち入侍にけるすべていたづらになる人おかかる水に侍りと人々もいひ  
 10 あへり君はさても我身ゆくゑもしらすなりなは誰もへあへなくいみしとしはしこそ

### 30ウ

1 思ふたまはめながらへて入わらへにうきこととあらむはいつかその物おもひのたえむとする  
 2 と思かくるにはさはりところもあるましさはやかによろつ思なざるれと打かへし  
 3 いとかなしおやのよろつに思いふありさまをねたるやうにてつくへと思みたるなや  
 4 ましけにてやせ給へるをめのとにもいひてさるへき御いのりなどさせ給へまつり  
 5 はらへなどもすへきやうなどいふみたらし川にみそきせまほしけなるをかくもしら  
 6 てよろつにじひさはく人すくなめりよくさへからんあたりをたつねでいままいりは  
 7 とへめ給へやむことなき御なからひはさうしみこそ何事もおいらかにおぼさめよからぬ  
 8 中となりぬるあたりはわつらはしきこともありぬへしかくしむそめてさる心し給へなと思  
 9 いたらぬことなくいひをきてかしこにわつらひ侍人もおぼつかなしとてかへるをいと物  
 10 おもはしくよろつ心ほそければ又あひ見てもこそともかくもなれとおもへはこゝ地のあしく侍

### 31オ

1 にも見たてまつらぬかいとおぼつかなくおぼえ侍をしはしもまいりこまほしくこそと  
 2 したふさんん思侍れとかしこもいと物さはかしく侍り此人々もはかなき事などえし  
 3 やるましくせはくなと侍れはなんだけふのこうにうつろひ給へともしのひてはま  
 4 いりなんをなをくしき身の程はかゝる御ためこそいとおしく侍れなと打なきつゝ  
 5 のたまふ殿の御文はけふもありなやましときこえたりしをいかゝとどふらひ給へり  
 6 みつからと思侍をわりなきさはりおぼくてなん此程のくらしかたさこそ中々くる  
 7 しくなとあり富は昨日の御かへりもなかりしをいかにおぼしたゝよふそ風のなひかん  
 8 かたもうしろめたくなんいとゝほれまさりてなかめ侍などはおぼくかき給へりあめ  
 9 ぶりし日きあひたりし御つかひともそけふもきたりける殿のみすいしんかのせう  
 10 か家にて時々見るをのこなればまうとはなにしにこゝにはたひへまいるそととふ

### 31ウ

1 わたくしにとよらふべき人のもとにまうつるなりといふわたくしの人にやえんなる  
 2 文はさしとらする氣しきあるましうとかな物かくしはなぞといふまことは此かう  
 3 の君の御文女房にたてまつり給といへは事たかひつゝあやしとおもへとこゝにて  
 4 さためいはんもことやうなるへければをのくまいりぬかとくしき物にてともに  
 5 あるわらはを此をのこにさりけなくてめつけよさいものたいふの家にや  
 6 いると見せければ富にまいりてしきふのせふにん御文はとらせ  
 7 侍つるといふさまでたつねん物とものをとりのけすともはおもはすことの心を  
 8 もふからしらさりけれどねりの人を見あらはされにけんそくぢおし  
 9 きや殿にまいりてたゞいま出たまはんとする程に御文たてまつらす  
 10 なをにして六条院にきさひの富の出させ給へるころなればまいり給なり

### 32オ

1 けりことへしく御せんなどもあまたもなし御文まいらする人にあやしき事の侍つる

2 見給へきためんとて「まゝてせひりむつる」といふをほの聞給であゆみ出給まゝになに  
 3 ことそとひ給此人のきかんつゝましと思ひてかしこまりておる殿もしか見しり給  
 4 て出たまひぬ富れいならすなやましけにおはすとて富たちもみなまいり給へり  
 5 かんたちめなどおぼくまゝりつとひてさはかしけれことなることもおはしまさす  
 6 かの内記はうはつかさなれはをくれてそまいれる此御文もたてまつるを富たい  
 7 はんところにおはしまして戸くちにめしよせてとり給を大将御までのかたよりたち出  
 8 給そはめに見とをし給てせちにもおほすへかめる文のけしきかなとおかしさにたち  
 9 とまり給へりひきあけて見給くれなゐのうすやうにこまやかにかきたるへしと  
 10 見ゆ文に心をいれてとみにもむきたまはぬにおどゝもたちてとさまにおはすれば

**32ウ**

1 此君はさうより出給とておとゝ出給と打しはふきておどろかいたてまつり給ひき  
 2 かくし給へるにそおどゝさしのそき給へるおどろきて御ひもさし給殿もついゐ  
 3 給てまかて侍りぬへし御しあけのひさしくおこらせたまはさりつるをおそろしき  
 4 わさなりや山のさすたゝいまさうしつかはさむといそかしけにて立たまひぬ  
 5 夜ふけてみな出たまひぬおとゝは富をさきにたてたてまつり給てあまたの  
 6 御ことものかんたちめ君たちをひきつゝけてあなたにわたりたまひぬ此殿は  
 7 をくれて出給すいしんけしきはみつるあやしとおほしけれはこせんなどをりて  
 8 火ともす程にすいしんめしよす申つる事はなに事そとひ給けさかのうちに  
 9 出雲のこんのかみ時かたのあそのもとに侍おとこのむらさきのうすやうにて桜  
 10 につけたる文を西のつま戸によりて女房にとらせ侍つる見給つけてしかくとひ

**33オ**

1 侍つれはことたかへつゝそらことのやうに申侍つるをいかに申そとてわらはへして見  
 2 せ給へれば兵部卿の富にまいり侍しきふのせふみちさたのあそんになんその  
 3 返事はとらせ侍けると申す君はあやしとおほしてその返事はいかやうにしてい  
 4 たしつるそれは見給へすことかたよりいたし侍にける下人の申侍つるはあかき色  
 5 紙のいときよらなるとなん申侍つると聞ゆおほしあはするにたかう事なしさて見  
 6 せつらんをかとくしとおほせと人々ちかけはくはしくものたまはすみちすからなを  
 7 いとおそるしくまもなくおはする富なりやいかなりけんついてにさる人ありと  
 8 聞給けんいかていひより給けんぬ中ひたるあたりにてかやうのすちのまきれば  
 9 えしもあらしと思けるこそさるすきことをものたまはめむかしよりへたて  
 10 なくてあやしきまでしるへしゆてありきたてまつりし身にしもうしろめたく

**33ウ**

1 おほしよるへしやと思ふにじと心つきなしたいの御かたの御事をいみしく思つゝ年こゝ  
 2 すくすは我心のをもさはこよなかりけりさるはそれはいまはしめてさまあしかるへき  
 3 程にもあらすもとよりのたよりにもよれるをたゝ心のうちのくまあらんは我ためも  
 4 くるしかるべきにようてこそ思はゝかるもをこなるわさなりけり此ころかくなやま  
 5 しくし給てれいよりも人しけきまぎれにいかてはるへとかきやり給ふらんおはし  
 6 そめにけんいとはるかなるけさうのみちなりやあやしくておはしころたづねら  
 7 れ給もありときにえきかしさやうことにおほしみたれてそこはかとなくなやみ  
 8 給なるべしむかしをおほし出るにもえおはせざりし程のなけきはいとくおしけ也  
 9 きかしどづくへと思ふに女のいたく物おもひたるわさなりしもかたはしこえそめ給ては  
 10 よろつおほしあはするにいとうしありかたき物は人の心にもあるかならうたけにおほとか

1 なりとは見えながら色めきたるかたはそひたる人そかし此宮の御具にてはいと  
 2 よきあはひなりと思もゆつりつへくのくこゝちし給へとやむことなく思そめはしめ  
 3 し人ならはこそあらめなをさる物にてをきたらむいまはとて見さらんはた恋し  
 4 かるへしと人わろく色々心のうちにおほすわれすさましく思なりてすてをき  
 5 たらはかならすかの宮よひとり給てん人のため後のいとおしさをもことに  
 6 たり給ふましさやうにおほす人こそ一品の宮の御かたに人一三人まいらせ  
 7 紿たなれさて出だちたらんを見きかんいとおしくなとなをすてがたくけしき  
 8 見まほしくて御文つかはすれいのみすいしんめして御てつから人まにめしよせたり  
 9 みちきたのあそんはなをなかのふか家にやかよふさん侍と申宇治へつね  
 10 にやこのありけんをのこはやるらんかすかにてゐたる人なれはみちきた

**34ウ**

1 思かへらんかしと打うめき給て人に見えてをまかれをこなりとのたまふ  
 2 かしこまりてせうかつねに此殿の御ことあないしかしこの事とも思あはす  
 3 れと物なれてえ申出す君もけすにくはしくはしらせしとおほせはとはせ  
 4 たまはすかしこには御つかひのれいよりしけきにつけても物おもふことさまへ也  
 5 たゞかくそのたまへる

波こゆることもしらすゑの松まつらんとのみおもひけるかな#  
 6 7 人にわらはせ給などあるをいとあやしと思ふにむねもふたかりぬ御  
 8 返事を心えかほにきこえむもいとつゝましひか事にてあらんもあやしければ  
 9 御文はもとのやうにしてところたかへのやうに見え侍ればなんあやしくなや  
 10 ましくて何事もどかきそへてたてまつれ給見給てさすかにいたくも

**35オ**

1 したるかなかけて見をよはぬ心はへよとほゝゑまれ給もにくしとはえおほし  
 2 はてぬなめりまほならぬとほのめかし給へるけしきをかしこにはいとゝ思そふつぬ  
 3 に我身はけしからすあやしくなりぬへきなめりといとゝ思ふところに右近きて  
 4 殿の御文はなとてかへしてまつり給へるそゆゝしくいみ侍なる物をといへは  
 5 ひか事のあるやうに見えつれはところたかへかとてとのたまふあやしと見ければみち  
 6 にてあけて見けるなりけりよからすの右近かさまやな見つとはいはてあな  
 7 いとおしくるしき御事ともにこそ侍れ殿は物のけしき御らんしたるへしといふに  
 8 おもてさとあかみて物ものたまはす文見つらむとはおもはねはことさまにてかの御氣  
 9 しき見る人のかたりたるにこそはと思ふにたれかさいふそなどもとひたまはす  
 10 此人々のみ思ふらんこともいみしくはつかしわか心もありそめし事ならぬとも心つき

**35ウ**

1 すくせかなと思ひりてねたるに侍従とふたりして右近かあねのひたちもる  
 2 たり見侍しを程々につけてたゞかくそかしこれもかれもをとらぬ心さしにて思  
 3 まとひて侍し程に女はいまのかたにいますこし心よせまさりてそ侍ける  
 4 それにねたみてつねにいまのをはころしてしそかしさて我もすみ侍らす  
 5 なりにきくにゝもいみしきあたらつは物ひとりうしなひつ又このあやまちたる  
 6 もよきらうとうなれとかゝるあやまちしたる物をいかてかつかはんとて國のうち  
 7 もをいははれすべて女のたいへしきそとてたちのうちにもおい給へらさりし  
 8 かはあつまの人になりてまゝもいまに恋なき侍ればつみふかくこそ見給ふれゆゝし  
 9 きついてのやうに侍れとかみもしもゝかゝるすちの事はおほしみたるゝ事はいと  
 10 あしきわざ也御いのちまでにはあらすとも人の御程々につけて侍事也しぬる

## 36才

1 まさるはちなる事もよき人の御身には中々侍也一かたにおぼしさためてよ富  
 2 も御心さしまさりてさやうにたにきこえさせたまはゝそなたさまにもなひ  
 3 かせ給て物ないたくなけかせ給そやおとろへさせ給もいとやくなしさはかり  
 4 うへの思いたつきこえさせ給物をまゝかこの御いそきに心をいれてまと  
 5 むて侍につきてもそれよりこなたにときこえさせ給御事こそいとくるしく  
 6 いとおしけれといふにいまひとりうたておそろしきまでなきこえさせ給そ  
 7 何事も御すべにこそあらめたゝ御心のうちにすこしおぼしなひかんかたを  
 8 さるへきにおぼしならせ給へいてやいとかたしけなくいみしき御けしきなりしかは  
 9 人のかくおほしいそくめりしかたにも心もよらすしははかくろへても思ひの  
 10 まさらせたまはんによらせたまひねとそおもひえ侍ると富をいみしくめて

## 36ウ

1 聞ゆる心なればひたみちにいふいさや右近はとてもかくてもことなくすぐさせ  
 2 給へとはつせ石山などにくはんをなんたて侍此大将殿の御さうの人々と  
 3 いふ物はいみしきふたうの物ともにてひとるいこの里にみちて侍也大かた  
 4 此山しろやまどに殿のりやうし給へるところへの人なんみな此うとねりと  
 5 いふ物のゆかりかけつゝ侍なるそれかむこのうこんのたいふといふ物をもとゝして  
 6 よろつの事ををきておぼせられたなるなゝりよき人の御中とちはなさけ  
 7 なき事しいてよとおぼさすとも物の心えぬゐ中人とののゐ人にてかはりく  
 8 さぶらへはをのかはんにあたりていさゝかなることもあらせしなとあやまちもし  
 9 侍なんありし世の御ありきはいとこそむくつけく思ふ給へられしか富はわりなく  
 10 つゝませ給とて御ともの人もゐておはしますやつれてのみおはしますをさる物

## 37オ

1 の見たてまつりたらむはいといみしくなんといひつゝくるを君はなを我を富に  
 2 心よせたてまつりたると思ひて此人々のいふいとはつかしく心にはいつれとも  
 3 おもほすたゝ夢のやうにあきれていみしくいられ給をはなどかくしもとはかり  
 4 おもへとたのみきこえて年ころになりぬる人をいまはともてはなれんとおもは  
 5 ぬによりこそかくいみしと物を思ひみたるれよからぬ事も出きたらむ  
 6 ときとづくくと思ふたりまろはいかてしなはやよつかず心うかりける  
 7 身かなかくうきことあるためしはけすなどのなかにたにおぼくやはある  
 8 とてうつふしへ給へはかくなおぼしめしそやすらかにおぼしなせとてこそ  
 9 きこえさせ侍れおぼしなへき事をもさらぬかほにのみのとかに見えさせ給へる  
 10 を此御ことの後いみしく心じられをせさせ給へはいとあやしくなん見たてまつるヒ

## 37ウ

1 心しりたるかきりはみな思みたれはくにめのとをのか心をやりてものそめ  
 2 いとなみぬたりいまゝいりわらはなどのめやすきをよひとりつゝかゝる人御らむ  
 3 せよあやしくてのみふさせ給へるは物のけなどのさまたけきこえさせんとするに  
 4 こそとなくく殿よりはありしかへり事をたにのたまはて曰ころへぬこのをと  
 5 しうとねりといふ物そきたるけにいとあらゝしくふつゝとなるさましたる  
 6 おきなこゑかれさすかにけしきある女房に物とり申さんといはせたれは右近  
 7 しもあひたり殿にめし侍しかはけさまいり侍てたゝいまなんまかりかへり侍つる  
 8 さうしともおぼせられつるついてにかくておまします程に夜なか暁のことも  
 9 なにかしらかくてさぶらるとおぼしてとのゐ人わさとさしたてまつらせ給事

10 もなきを此ころきこしめせは女房の御ともにしらぬところの人々かよふ

### 38才

1 やうになんきこしめす事あるたいへんしき也とのゐにさふらふ物ともはそのあない  
2 きゝたらむしらてはいかゞさひへきととはせ給へるにうけたまはらぬ事なれば  
3 なにかしは身のやまひをもく侍てとのゐつかまつる事月ころをこたりて侍れば  
4 あんないもえしり侍らすさるくきをのこともけたいなくもよほしさふらはせ  
5 侍をさのこときひしきやうのことのさふらはんをはいかでかうけたまはらぬやうは  
6 はへらんとなん申させ侍つるようぬしてさふらへひんなき事もあらはをもく  
7 かむたうせしめ給ふへきよしなんおほせ事侍つれといかななるおほせ事にかど  
8 おそれ申侍といふを聞にふくろふのなかんよりもいと物おそろしいらへもやらでさり  
9 やきこえさせしにたかはぬ事ともをきこしめせ物のけしき御らんしたるなめり御  
10 せうそこも侍らぬよとなげくめのとはほの打聞いていとうれしくもおほせられたり

### 38ウ

1 ぬす人おほかんなるわたりにとのゐ人もはしめのやうにもあらすみな身の  
2 かはりにといひつゝあやしきけすをのみまいすは夜行をたにせぬにとよ  
3 ろこぶ君はけにたゞいまいとあしくなりぬへき身なめりとおほすに宮  
4 よりはいかにく／＼とこけのみたるゝわりなさをのたまふいとわづらはしくなん  
5 とてもかくてもひとかた／＼につけていとうたてある事は出きなん我身一  
6 のなくなりなんのみこそめやすからめむかしはけさうする人のありさまの  
7 いつれとなきに思わづらひてたにこそ身をなくるためしもありけれながらへは  
8 かならずうき事見えぬへき身のなくならむはなにかおしかるへきおやもしはし  
9 こそなげきたまはあまたの子ともあつかひにをのつからわすれ草つみてん  
10 ありながらもてそこなひ入わらへなるさまにてさすらへんはまさる物思なるへし

### 39才

1 など思なるこめきおほとかにたをへへと見ゆれと氣たかう世のありさまをも  
2 しるかたすくなくておぼしたてたる人にしあれはすこしをすかるべき  
3 事を思よるなりけんかしむつかしきほうくなとやりておどろへしく一たひに  
4 もしたゞめすどうたいの火にやき水になけいれさせなどやうへうしなふ  
5 心しらぬこたちは物へわたり給へければつれ／＼なる月日へてはかなくしあつめ  
6 給へるてならひなどをやり給なんめりと思ふ侍従などを見つくる時はなどかくは  
7 せさせ給あはれる御中に御心とめてかきかはし給へる文は人にこそ見せさせたま  
8 はさらめ物のそこにをかせ給て御らんするなん程々につけてはいとあはれに侍さ  
9 はかりめてたき御かみあつかひかたしけなき御ことの葉をつくさせ給へるをかく  
10 のみやはれ給なさけなき事といふなにかむつかしくかかるましき身に

### 39ウ

1 こそあめれおちとゝまりて人の御ためもいとおしからむさかしらに是をとり  
2 をきけるよなどもり聞たまはんこそはつかしけれなどのたまふ心ほそきことを  
3 思もてゆくには又え思つましきわざなりけりおやををきてなくなる人  
4 はいとつみふかくなる物をなとさすかにほの聞たる事をも思ふ甘日あまり  
5 にもなりぬかの家あるし廿八日にくたるへし宮はその夜かならずむかへむ  
6 しも人などによくけしき見ゆましき心つかひし給へこなたさまよりは  
7 ゆめにもきこえあるましくうたかひ給ななどのたまふさてあるましきさま  
8 にておはしたらんにいま一たひ物をもきこえすおほつかなくてかへしてま

9 つらんとするかひなく恨てかへりたまはんさまなどを思やるにれいのおもかけ  
10 はなれすたえすかなしくて此御文をかほにをしめて「しほしほつゝめとも」と

## 40才

1 いみしくなき給右近あか君かゝる御けしきつゐに人見たてまつりつへし  
2 やうへあやしなと思ふ人侍へかめりかうかゝつらひおもほさてさるべきさまにき  
3 こえさせ給てよ右近侍らはおぼけなき事もたはかりいたし侍らはかはかりちい  
4 さき御身一は空より出たてまつらせ給なんといふとはかりためらひてかくのみいあこそい  
5 と心うけれさもありぬへき事と思かけはこそあらめあるましき事とみな思どるに  
6 わりなくかみのみたのみたるやうにのたまへはいかなる事をし出たまはんとするにか  
7 なと思ふにつけて身のいと心うきなりとて返事もきこえたまはすなりぬ宮かぐのみ  
8 なをうけひくけしきもなくて返事さへたえにたるはかの人のあるべきさまに  
9 いひしたゝめてすこし心やすかるべきかたに思さたまりぬるなめりことは  
10 とおほす物からいとくちおしくねたくさりとも我をはあはれと思たりし物をあひ

## 40ウ

1 見ぬとたえに人々のいひしらするかたによるならんかしなどなかめ給にゆくかた  
2 しらすむなしき空にみちぬるこゝ地し給へればれいのいみしくおぼしたちておぼし  
3 ましぬあしかきのかたをみるにれいならすあればたそといふごゑへにいさとけなりたち  
4 のきて心しりのをのこをいれたれはそれをさへとあさきへのけはひにもにす  
5 わつらはしくて京よりとみの御ふみあるなりといふ右近かすさの名をよひて  
6 あひたりいとわつらはしくいとへおぼゆさらにこよひはふよう也いみしくかたしけ  
7 なき事といはせたり宮などかくもてはなるらんをおぼすにわりなくてまつとき  
8 かたि�りて侍従にあひてさるへきさまにたはかれとてつかはすかとくしき人にて  
9 とかくいひかまべてたつねてあひたりいかなるにかかの殿のたまはする事あるとて  
10 とのゐにある物とものさかしかりたちたるころにていとわりなき也御まへにも

## 41才

1 物をのみいみしくおぼしためるはかゝる御事のかたしけなきをおぼしたるゝに  
2 こそと心くるしくなん見たてまつるさらにこよひは人しけき見侍なは中々にいと  
3 あしかりなんやかでさも御心つかひせさせ給ふへからん夜こゝにも入しれすおもひ  
4 かまへてなんきこえさすへかめるめのとのいきとき事などもかたるたいふおぼします  
5 みちのおぼろけならすあなかちなる御けしきにあへなくきこえさせ給へと  
6 いさなふいとわりなからんといひしろふ程によもいたくふけゆく宮は御馬にて  
7 すこしとく立給へるに里ひたるこゑしたる犬ともの出きてのゝしるもいと  
8 おそろしく人すくなにいとあやしき御ありきなればすゝるならん物のはしり出  
9 きたらむもいかさまにとぞふらふかきり心をそまとはしけるなをとくくまいり  
10 なんといひさはかして侍従をいてまいるかみわきよりかいこしてやうたいいか

## 41ウ

1 おかしき人也馬にのせむとすれとさらにきかねはきぬのすそをとりてたち  
2 そひてゆくわかくつをはかせてみつからはともなる人のあやしき物をはき  
3 たりまいりてかくなんと聞ゆればかたらひ給ふへきやうたになければ山かつのかき  
4 ねのをとろむくらのかけにあふりといふ物をしきておろしたてまつるわか御こゝ地にも  
5 あやしきありさまかなかるみちにそこなはれてはかくしくはえあるましき  
6 身なめりとおぼしつゝくるになき給事かきり心よはき人はましていと  
7 いみしきあたを鬼につくりたりともをろかに見すつましき人の御ありさま也

8 ためらひ給てたゞ一こともえきこえさかましきかいかなれはいまさらに

9 かゝるそなを人々のいひなしたるやうあるへしとのたまふありさまくはしくきこえ

10 てやかてさおほしめさむ日をかねてはちるましきさまにたはからせ給へかくかた

## 42才

1 しけなき事ともを見たてまつり侍は身をすてゝも思ふ給へたばかり侍らんときこゆ  
2 我も人めをいみしくおほさは一かたに恨たまほんやうもなし夜はいたくふけゆくに  
3 此物とめする大のことあえす人々をいさけなどするにゆみひきならしあやしき  
4 をのことものこゑともして火あやうしなといふもいと心あはたゞしければ  
5 かへり給ふほどいへはさらなり

いつぐにか身をはすてんとしら雲のかゝらぬ山に

7 なくくそゆくさらははやとて此人をかへし給御けしきなまめかしくあはれに  
8 夜ふかき露にしめりたる御かのかうはしさなどたとへんかたなしなくへそ  
9 かへりきたる右近はいひきりつるよしいひゐたるに君はいよ／＼思みたるゝ事お  
10 ほくてるし給へるにいりきてありつるさまかたるにいらへもせねと枕のやう／＼うきぬるを

## 42ウ

1 かつはいかに見るらんとつゝましつとめてもあやしからむまみをおもへはむこにふしたり  
2 物はかなげにおひなとして経よむおやにさきたちなんつみうしなひ給へとのみおもふ  
3 ありしゑをとり出て見てかき給し手つきかほのにほひなとのむかひきこえたらん  
4 やうにおぼゆれば夜へ一ことをたにきこえすなりにしはなをいまひとへまさりて  
5 いみしと思ふかの心のとなるさまにて見むとゆくすゑとをかるべき事をのたま  
6 ひわたる人もいかゝおほさんといとおしきさまにいひなす人もあらんこそ思やり  
7 はつかしけれと心あさくけしからず入わらへならんをきかれたてまつらむよりはと  
8 おもひつゝけて  
9 なけきわひ身をはすつともなきかけにうき名なかさん

10 ことをこそおもへおやもいと恋しくれいはことに思ひ出ぬはらからぬ見にくやかなるも

## 43才

1 恋し宮のうへをも思ひ出聞ゆるにすへていま一たひゆかしき人おばかり人はみな  
2 をのくものそめいそきなにやかやといへどみゝにもじらすよるとなれば人に見つけ  
3 られす出てゆくへきかたを思まうけつゝねられぬまゝにこゝ地もあしくみなた  
4 かひたり明たては川のかたを見やりつゝひつしのあゆみよりも程なきこゝ地す  
5 宮はいみしき事ともをのたまへりいまさら人にや見むとおもへは此御返事をたに思ふ  
6 まゝにもかゝす

7 からをたにうき世の中にとゞめすはいつこをはかと

8 君もうちみむとのみかきていたしつかの殿にもいまはのけしき見せたてまつら  
9 まほしけれと心々にかきをきてはなれぬ御中なれはつるに聞あはせたまほん事  
10 いどうかるへしすべていかになりにけんと思かへす京よりはゝの御文もできたり

## 43ウ

1 ねぬる夜の夢にいとさはかしく見給へはす行どころ／＼せさせなどし侍やかてその  
2 夢の後ねられざりつるけにやたゞいまのひるねして侍夢に人のいむといふ  
3 事なん見え給つれはおとろきながらたてまつるよくつゝしませ給へ人はなれたる御  
4 すまゐにて時々立よらせ給人の御ゆかりもいとおそろしくなやましけに  
5 物せさせ給おりしも夢のかゝるをよろつになん思給るるまいりこまほしきを  
6 少将のかたのなをいと心もとなげに物の氣たちてなやみ侍れはかた時もたち

7 さるいどゝいみしくいはれ侍でなんそのちかき寺にも御す経せさせ給へとてその  
 8 れうの物ふみなとかきそへてもてきたりかきりと思ふいのちの程をしらて  
 9 かくいひつゝけ給へるもいとかなしと思ふ寺へ人やりたる程返事かくいはまほし  
 10 きことおほかれとつゝまじくてたゝ

**44才**

1

鐘のをこのたゆるひゝきにねをそへてわか世つきぬと

2 きみにつたへよもてきたるにかきつけてこよひはえかへるましと

3 いへは物のえたにゆひつけてをきつめのとあやしく心はしりのする

4 かな夢もさはかしくとのたまはせたりつとのゐ人よくさいがりへと

5 いはするをくるしきゝふし給へり物きこしめさぬいとあやし

6 御ゆつけなどよろづにいふをさかしかるめれといと見にくゝおい

7 なりて我はなくはいつくにかあらむとおもひやり給もいとあはれ

8 なり世中にえありはつましきさまをほのめかしていはんなど

9 おほすにまつおどろかれてさきたつなみたをつゝみ給て

10 物もいはれすうこんほとちがくふすとてかくのみものを

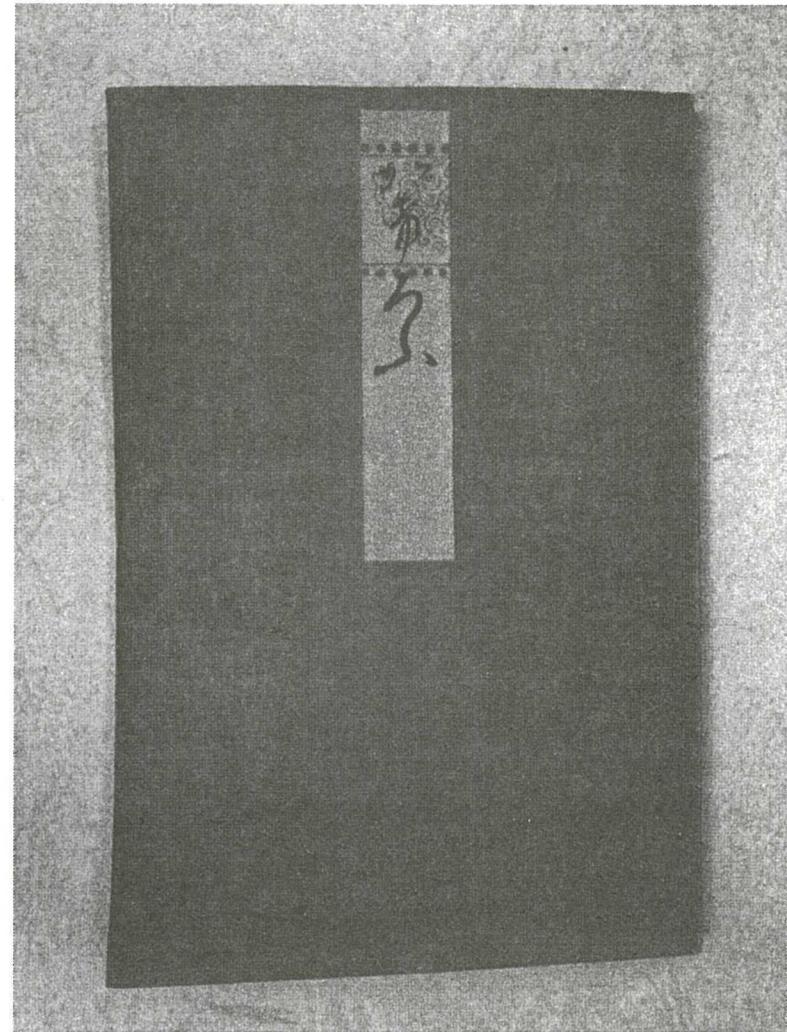
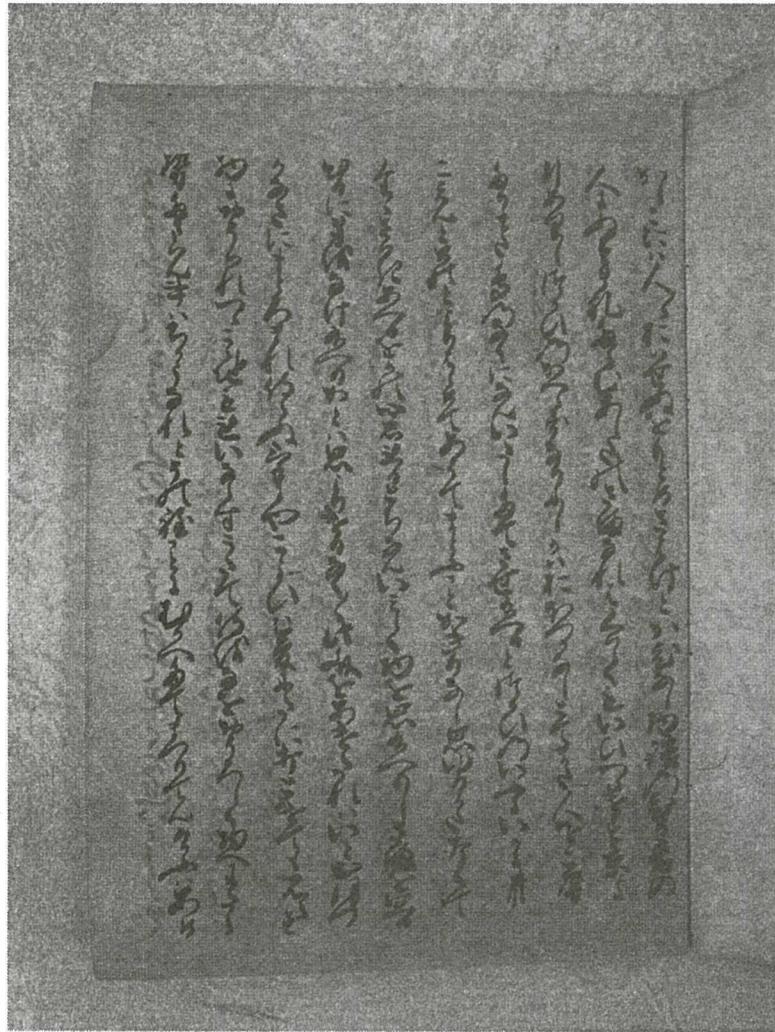
**44ウ**

1 おもぼせは物おもふ人のたましるはあくかるなる物なれば

2 ゆめもさはかしきならんかしいつかだとおほしさたまりて

3 いかにもへゝおはしまさなんとうちなげくなへたるきぬを

4 かぼにをしあてゝふしたまへりとなん



## 1才

1 かしこには人々おはせぬをもとめさはけとかひなし物語のひめ君の  
 2 人にぬすまれたらむあしたのさまなれはくはしくもいひつけす京よ  
 3 りありしつかひのかへらすなりにしかはおほつかなしとてまた人をこせ  
 4 たりまた鳥のなくになんいたしてさせ給へるとつかひのいふにいかにき  
 5 こえんとめのとよりはしめてあはてまとふことかきりなし思ゆるかたなくて  
 6 たゞさはきあへるをかの心しれるどちなんいみしく物を思給へりしさまを思ひ  
 7 出るに身をなげ給へるかとは思よりけるなくく此文をあけてたれはいとおほつ  
 8 かなさにまとろまれ侍らぬけにやこよひは夢にたに打とけても見えす  
 9 物におそはれつゝこゝ地もれいならすうたて侍をなをおそろしく物へわたら  
 10 せたまほん事はちかうなれとその程こゝにむかへたてまつりてんけふはあめ

## 1ウ

1 ふり侍りぬへければなどありよへの御かへりをもあけて見て右近いみしうなく  
 2 されはよ心ほそき事はきこえ給けり我になどかいさゝかのたまふことの  
 3 なかりけむおさなかりし程より露心をかれたてまつる事なくちりはかりへたて  
 4 なくてならひたるにいまはかきりのみちにしも我ををくらかしけしきをたに  
 5 見せたまはさりけるかつらき事と思ふにあしすりといふ事をしてなくさまわかき  
 6 ことものやう也いみしくおぼしたる御氣しきは見たてまつりわたれとかけても  
 7 かくなへてならすおとろゝしき事おぼしよらむ物とは見えざりつる人の御心さまは  
 8 なをいかにしつる事にかとおほつかないみしめのとは中々物もおぼえてたゞいかさま  
 9 にせん／＼とそいはれける宮にもいとれいならぬけしきありし  
 10 御返いかに思ならん我をさすかにあひ思たるさまなからあたなる

## 2才

1 心なりとのみふかくうたかひたればほかへいきかくれんとにやあらむとおぼし  
 2 さはきて御つかひあるかきりなきまとふ程にきて御文もえたて  
 3 まつらすいかなるそとけす女にとへはうへのこよひにはかにうせ給にけれ  
 4 は物もおぼえたまはすたのもしき人もおはしまさぬおりなればさぶらひ  
 5 給人々はたゞ物にあたりてなんまとひ給といふ心もふかくしらぬをのこ  
 6 にてくはしうもとはてまいりぬかくなんと申させたるに夢とおぼえて  
 7 いとあやしいたくわづらふともきかす日ころはなやましとのみありし  
 8 かと昨日の御返ことはさりけもなくつねよりもおかしけなりし物をとお  
 9 ほしやるかたなけれは時かたいきてけしき見たしかなる事とひきげと  
 10 のたまへはかの大将殿いかなる事が聞給こと侍けんどのゐする物をろか

## 2ウ

1 なりなどいましめおぼせらるゝとて下人のまかり出るをも見とかめ侍  
 2 なれはことつくる事なくて時かたまかりたらむを物のきこえ侍らはおぼし  
 3 あはする事などや侍らんさてにはかに人のうせ給つらんところはろんう  
 4 さはかしう人しけく侍らんをと聞ゆさりとてはいとおぼつかなくてやは  
 5 あらんなをとかくさるべきさまにかまへてれいの心しれる侍従などにあひ  
 6 いかなる事をかくいふそとあないせよけすはひか事もいふなりとのたまへは  
 7 いとおかしき御気しきもかたしけなくてタつがたゆくかやすき人は  
 8 とくいきつきぬ兩すこしふりやみたれどわりなきみちにやつれて  
 9 けすのさまにてきたれば人おぼく立さはきてこよひやかておさめ

10 たてまつるなりなどいふをきくこゝちもあさましくおぼゆ右近に

**3才**

1 せうそこしたれともえあはすたゞいま物おぼえすおきあからんこゝち  
 2 もせてなんさるはこよひはかりこそかくも立たまはめえきこえぬ事といは  
 3 せたりさりとてかくおほつかなくてはいかゝがへりまいり侍らんいま一ところ  
 4 たにとせちにいひたれば侍従そあひたりけるいとあさましくおぼしもあへ  
 5 ぬさまにてうせ給にたれはいみしといふにもあかす夢のやうにて誰も／＼ま  
 6 とひ侍よしを申させ給へすこしもこゝ地のとめ侍てなん日ころも物おぼしたり  
 7 つるさまひとよいと心くるしと思きこえさせ給へりしありさまなどもきこえさせ  
 8 侍へき此けからひなど人のいみはつる程すくしていま一たひ立より給へといひてなく  
 9 こといみ内にもなくこゑ／＼のみしてめのとなるへしあか君やいつかにかおはしまし  
 10 ぬるかへり給へむなしときからを見たてまつらぬかかひなくかなしくもあるかな明暮見た

**3ウ**

1 てまつりてあかすおぼえ給いつしかかひある御さまを見たてまつらんとあした夕にた  
 2 のみきこえつるにこそのちものひ侍つれ打すて給てかくゆくゑもしらせたま  
 3 はぬ事おにかみもあか君をはえりやうしたてまつらし人のいみしくおしむ人をは  
 4 たいしやくもかへし給也あか君をとりたてまつらん人にもまれ鬼にもまれかへ  
 5 したてまつれなき御からをも見てまつらんといひつゝくるか心えぬ事ともましる  
 6 をあやしと思てなをのたまへもし人のかくしきこえ給へるかたしかにきこしめさんと  
 7 御身のかはりにいたしてさせ給へる御つかひ也いまはとてもかくてもかひなき事なれ  
 8 と後にもきこしめしあはする事の侍らんにたかう事ましらはまいりたらん御つかひ  
 9 のつみなるへし又さりともとたのませ給て君たちにたいめんせよとおぼれつる  
 10 御心はへもかたしけなしとはおぼされすや女のみちにまとひ給事は人のみかとにふかきた

**4オ**

1 めしともありけれどまたかゝる事此世にはあらしとなん見たてまつるといふにけにいとあ  
 2 はれる御心つかひにこそあれかくすともかくてれいならぬ事のさまをのつからきこえなん思  
 3 てなどかいさゝかにても人やかくいたてまつりたまぶらんと思よるべき事あらんには  
 4 かくしもあるかきりまとひ侍らん曰ころいといみしく物をおぼしいるめりしかはかの殿の  
 5 わつらはしけにほのめかしきこえ給事などもありき御はゞに物し給人もかくのゝしる  
 6 めのとなもほしめよりしりそめたりしかたにわたりたまはんとなんいそきたち  
 7 て此御事をは入れぬさまにのみかたしけなくあはれと思きこえさせ給へりしに  
 8 御心みたれけるなるへしあさましう心と身をなくなし給つるやうなれはかく心の  
 9 まとひにひかくしくいひつゝけるゝなめりとさすかにまほならず心えかたぐ  
 10 おぼえてさらばのとかにまいらむたちながら侍もいとことそきたるやう也

**4ウ**

1 いま御みつからもおはしましなんといへはあなかたしけないまさら人のしりきこ  
 2 えさせんもなき御ためは中々めてたき御すべ見ゆへきなれどしのひ  
 3 給し事なればまたもらさせたまはてやませたまはんなん御心さしに侍  
 4 へきこゝにはかくよつかすうせ給へるよしを人にきかせしとよろつにまきら  
 5 はすをしねんにこととの氣しきもこそ見ゆれとおもへはかくそゝのかし  
 6 やりつ雨のいみしかりつるまきれにはゝ君もわたり給へりさらにはんかた  
 7 もなくめのまへになくなしたらむかなしさはいみしくともよのつねにてたく  
 8 ひある事也是はいかにしつる事そとまとふかゝる事どものまきれありて

9 いみしう物おもひ給ふらんともしりねは身をなけ給へらむとも思もよらず  
 10 鬼やくひつらんきつねめく物やどりもていぬらんじとむかし物かたりの

### 5才

1 あやしき物の事のたとひにかさやうなる事もいふなりしと思ひいつさては  
 2 かのおそろしと思聞ゆるあまりに心などあしき御めのとやうの物やかうむかへ  
 3 給へしと聞てめさましかりてたはかりたる人もやあらんとけすなどをうたか  
 4 ひいまゝいりの心しらぬやあるととへはいとよはなれたりとてありならはぬ  
 5 人はこゝにてはかなき事もえせすいまとてまいらむといひてなんみなそ  
 6 のいそくへき物ともなととりくしつゝかへりいて侍にしととよりある人  
 7 たにかたへはなくていと人すくなゝおりになんありける侍従などこそ日ころ  
 8 の御気しき思ひいて身をうしなひてはやなどなき入給しおりくのありさま  
 9 かきをき給へる文を見るなきかけにとかきすさひ給へる物のすゝりの  
 10 したにありけるを見つけて川のかたを見やりつゝひゝきのゝしる水のとどを

### 5才

1 聞にもうとましくかなしと思つゝさてうせ給けん人をとかくいひさはきて  
 2 いつくにもへいかなるかたになり給にけむとおぼしうたかはんもいとおしき  
 3 事といひあはせてしのひたる事とても御心よりおこりてありし事ならず  
 4 おやにてなき後に聞給へりともいとやさしき程ならぬをありのまゝにきこ  
 5 えてかくいみしくおぼつかなき事ともをさへかたゞ思まとひ給さまはすこ  
 6 しあきらめさせたてまつらんなくなり給へる人とてもからををきてもて  
 7 あつかみこそよのつねなれよつかぬ氣しきにて日ころもへはざらにかくれあ  
 8 らしなをきこゑでいまは世のきこえをたにつくろはんとかたらひてしの  
 9 ひてありしさまを聞ゆるにいふもきえいりえいひやらす聞こゝ地  
 10 もまとひつゝさはこのいとあらましと思ふかはになかれうせ給にけりとお

### 6才

1 もふにいとゝ我もおちいりぬへきこゝ地しておはしましにけんかたをたつねて  
 2 からをたにはかくしくおさめむとのたまへはさらになにのかひ侍らしゆくゑ  
 3 もしらぬ大海のはらにこそおはしましにけめさる物から人のいひつらん事はいと  
 4 聞にくしと聞ゆればとさまかくさまに思ふにむねのせきのほるこゝちしてい  
 5 かにもくすへきかたもおほえたまはぬを此人々ふたりしてくるまよせさせて  
 6 おましとも氣ちかうもてつかひ給し御てうともみななからぬきをき給へる御  
 7 ふすまなどやうの物をとりいれてめのとこのたいとくそれかをちのあさり  
 8 そのてしのむつましきなともとよりしりたる老ぼうしなと御いみにこもるへき  
 9 かきりして人のなくなりたるけはひにまねひていたしたつるをめのとはゝ  
 10 君はいといみしくゆゝしとふしまるふだいふうとねりなどおとしきこえし物ともゝ

### 6才

1 まいりて御さうそうの事は殿にことのよしも申させ給て日さたられいかめしう  
 2 こそつかうまつらめといひけれこととがひじよひすくすましいとしのひてと思ふ  
 3 やうあれはなん此ぐるまをむかひの山のまへなるはらにやりて人もちかうよせすこの  
 4 あないしりたるほうしのかきりしてやかすいとはかなくてけぶりははてぬる中人  
 5 ともは中々かゝる事をことへしくしなしこといみなどふかくする物なりければいとあやしう  
 6 れいのさほうなどあることしもしらすけすべくしくあへなくてせられぬる事かなぞ  
 7 そりければかたへおはする人はことさらにかくなん京の人はし給などそまゝになん

8 やすからすいひけるかゝる人とのいふ思ふ事たにつゝましきをまして物のきいえ  
 9 かくれなき世中に大将殿わたりにからもなくうせ給にけりときさせたまはゝ  
 10 かならすおほえしうたかふ事もあらんを富はたおなし御ながらひにてさる人の

**7才**

1 おはしおはせすしはしこそしのふともおほさめつゐにかくれあらしました  
 2 さためて富をしもうたかひきこえたまはしいかなる人かゐてかくし  
 3 けんなどそおほしよせんかしいき給て後の御すくせはいと氣たかくお  
 4 はせし人のけになき影にいみしきことをやうたかはれたまはんとおもへは  
 5 こゝのうちなるしも人とともにもけさのあはたゝしかりつるまとひにけしき  
 6 も見聞つるにはくちかためあないしらぬにはきかせしなどそたはかりけるながら  
 7 へては誰にもしつやかにありしさまをもきこえてんだゝいまはかなしさ  
 8 さめぬへき事ふと人つてにきこしめさんはなをいとくおしかるへき事  
 9 なるへしと此人ふたりそふかく心の鬼そひたれはもてかくしける大将殿は  
 10 入道の宮のなやみ給ければ石山にこもり給てさはき給ころなりけりさて

**7ウ**

1 いとゝかしこをはおほつかなうおほしけれとはかゝりしうさなむといふ人はなかりければ  
 2 かゝるいみしき事にもまつ御つかひのなきを入めも心うしと思ふにみさうの  
 3 人なんまいりてしかゝと申させければあさましきこゝちし給て御つかひ又の  
 4 その日またつとめてまいりたりいみしき事は聞まゝにみつから物すへきに  
 5 かくなやみ給御事によりつゝみしてかゝるところに日をかきりてこもりたれば  
 6 なんよへのことはなとかこゝにせうそこして日をのへてもさる事はする物を  
 7 いとかららかなるさまにていそきせられにけるとてもかくてもおなし  
 8 いひかひなさなれどとちめの事をしも山かつのそしりさへおふなん  
 9 こゝのためもからきなどかのむつましき大藏大輔してのたまへり御つかひの  
 10 きたるにつけてもいとゝいみしきにきこえむかたなき事ともなれはたゝ涙に

**8才**

1 おほゝれたるはかりをかことにてはかゝりしも出やらすなりぬなをいとあへなく  
 2 いみしと聞給にも心うかりけるところかな鬼などやすむらんなどていま  
 3 までさるところにすへたりつらんおもはすなるすちのまきれあるやうなり  
 4 しもかくはなちをきたるに心やすくて人もいひをかし給なりけんかしと  
 5 思ふにもわかつゆくよつかぬ心のみくやしく御むねいたくおほえ給なや  
 6 ませ給あたりにかゝる事おほしみたるゝもうたてあれは京におはしぬ宮の御  
 7 かたにもわたりたまはすことへしき程にも侍らねとゆゝしき事をちかう  
 8 聞侍れは心のみたれ侍程もいまゝしうてなときこえ給てつきせずはかな  
 9 くいみしき世をなげき給ありしさまかたちいとあいきやうつきおかし  
 10 かりしけはひなどのいみしく恋しくかなしければうつゝの世にはなどかくしも

**8ウ**

1 思ひいれすのとがにてすぐしけんたゝいまはざらに思しつめんかたなきまゝに  
 2 くやしき事の数しらすかゝる事のすちにつけていみしう物すへきすくせ  
 3 なりけりさまことに心さしたりし身の思のほかにかくれい人にてなからあるを仏など  
 4 のにくしと見給にや人の心をおこさせむとて仏のし給はうへんはしひをもかくして  
 5 いまやうにこそはあなれと思つゝけ給つゝをこなひをのみし給かの宮はたまして二  
 6 三日は物もおほえたまはすうつし心もなきさまにていかなる御物のけならんなどさはく

7 にやうく涙つゝし給ておほしつまるにしもそありしさまはかなしうみしく  
 8 思ひ出られ給ける人にはたゞ御やまむのをもきさまをのみ見せてかくすそろなる  
 9 いやめのけしきしらせしとかしくもてかくすとおほしけれとをのつからいとしるかり  
 10 ければいかなる事にかくおほしまとひ御いのちもあやうきまでしつみ給ふらんといふ

**9才**

1 人もありければかの殿にもいとよく此御けしきを聞給にされよなをよそのふみかよはし  
 2 のみにはあらぬなりけりと見給てはかならすさおほしぬへかりし人そかしなからへ  
 3 ましかはたゞなるよりそ我ためにをこなる事も出きなましとおほすになんこかるゝ  
 4 むねもすこしさむるこゝ地し給ける富の御とぶらひに日々にまいりたまはぬ人なく世の  
 5 さはきとなれることへしきはならぬ思にこもりゆてまいひさらむもひかみたる  
 6 へしとおほしまり給そのころ式部のきやうの富と聞ゆるもうせ給にければおほん  
 7 をちのふくにてうすにひなるも心のうちにはれに思よそへられてつきへしく見ゆす  
 8 こしもやせていとゞなまめかしき事まさり給へり人々まかり出でしめやかなる夕暮也  
 9 富ふしつみてはかなき御こゝちなればうとき人にこそあひたまはねみすのうち  
 10 にもれいり給人にはたいめんしたまはすもあらす見えたまはんもあひなくつゝ

**9ウ**

1 まし見給につけてもじとゝ涙のまつせきかたきをおぼせと思しつめておどろく  
 2 しきこゝちにも侍らぬを見る人つゝしむへきやまひのさまなりとのみ物す  
 3 れは内にも富にもおほしさはくかいとくるしぐけに世中のつねなきをも  
 4 心ほそく思侍とのたまひてをしのこひまきらはし給ふとおほすなみたの  
 5 やかてとゞこほらすふり■つれはいとはしたなけれとかならずしもいかてか  
 6 心えむたゞしく心よはきとや見ゆらんとおほすもさもやたゞ此事をのみ  
 7 おほすなりけりいつよりなりけん我をいかておかしと物わらひし給こゝ地に用  
 8 ころおほしわたりつらんと思ふに此君はかなしさはわすれ給へるをこよなく  
 9 もをろかなるかな物のせちにおぼゆる時はいとかゝらぬ事につけてたに空とふ  
 10 鳥のなきわたるにもよほされてこそかなしけれわかかくすそろに心よはきに  
 11 つけてもし心えたらむにさいふばかり物のあはれもしらぬ人にもあらす世中のつ

**10才**

1 ねなき事おしみておもへる人しもつねなきとうら山じても心にくゝもおほさるゝ物から  
 2 まきはしらはあはれ也是にむかひたらむさまもおほしやるにかた見そかしども  
 3 打まもり給やうく世の物語きこえ給にいとこめてしもはあらしとおほして  
 4 むかしより心にこめてしもきこえさせぬ事のこし侍かきりはいとゞふせく  
 5 のみ思給へられしをいまは中々上らうになりて侍るまして御いとまなき御  
 6 ありさまにて心のとかにおはしますおりも侍らねはとのぬなどにその事となくて  
 7 すくし給をなんむかし御らんせし山里にはかなくてうせ侍にし人のおなしゆかり  
 8 なる人おほえぬところに侍りと聞つけ侍て時々さても見つべくや思給えしに  
 9 あひなく人のそりも侍りぬへかりしおりなりしかは此あやしきをきてはへりしを  
 10 おさへまかりて見る事もなく又かれもなにかしひとりをあひたのむ心もことに  
 11 なくてやありけんとは見給へれとやむことなく物々しきす中に思給へはこそあらめ

**10ウ**

1 見るにはたことなるとかも侍らすなどして心やすくらうたしと思給へる人の  
 2 いとはかなくてなくなり侍にけるなへて世のありさまを思給つゝけ侍にかなしくなん  
 3 きこしめすやうも侍らんかとしていまそなき給是もいとかうは見たてまつらし

4 をこなりと思つれともこほれそてはいととめかたし氣しきいさゝかみたり  
5 かほなるをあやしくいとおしとおほせとつれなくていとあはれなることにこそ昨日

6 ほのかに聞侍りきいかにとも聞ゆへく思侍ながらわさと人にきかせたまはぬ事と

7 聞侍しかはなんとつれなくのたまへといとたへかたければことすくなにておはしますさるがた

8 にても御らんせさせはやと思給へりし人になんをのつからさもや侍けん宮にもまいり

9 かよふへきゆへ侍しかはなどすこしつゝ気しきはみてこゝ地れいならぬ程はすそろなる

10 このこゝもきこしめしいれ御みゝおとろくもあいなきことになんよくつゝしませおはし

11 ませなどきこえをきて出たまひぬいみしくもおほしたりつるかないとばかり

### 11才

1 けれどさすかにたかき人のすくせなりけりたうしのみかときさきのさはかりかしつき  
2 たてまつり給みこかほかたちよりはしめてたゞいまの世にはたくひおはせさめり見  
3 紿人とてもなのめならすさまゝにつけてすぼうと縊まつりはらへとみちくにさはくは此  
4 人をおほすゆかりの御こゝ地のあやまりにこそはありけれ我もかはかりの身にて時の  
5 みかとの御むすめをもちたてまつりなから此人のらうたくおほゆるかたはをとりやは  
6 しつるましていまはとおほゆるには心をのとめんかたなくもあるかなざるはをこ也  
7 かゝらしと思しのふれとさまゝに思みたれて人木石にあらされはみななさけ  
8 ありと打すうしてふし給へり後のしたゝめなどもいとはかなくしてけるを宮にも  
9 いかゝ聞給ふらんといとおしくあへなくはゝのなをくしくてはらからあるはなとさやうの  
10 人はいふ事あんなるを思ひてことそくなりけんかしなど心つきなくおほすおほつかなさ  
11 もかぎりなきをありけんさまも身つからきかまほしとおほせとなかこもりしたまはんも

### 11才

1 ひんなしいきといきて立かへらんも心くるしなとおほしわづらふ月たちてけふそわたら  
2 ましとおほし出給日の夕暮いと物あはれ也御まへちかきたち花の香のなつかしきに  
3 時鳥二ごゑはかりなきてわたる宿にかよはゝとひとりこち給もあかねは北の宮  
4 にこゝにわたり給日なりければたち花をおらせできえたまる  
5 しのひねやきもなくらんかひもなきしてのたをさにこゝろかよはゝ#  
6 宮は女君の御さまのいとよくにたるをあはれとおほしてこゝところなかめ給おりなりけり  
7 気しきある文かなと見給て  
8 たちはなのかほるあたりはほとゝきすこゝろしてこそなくへかりけれ#  
9 わつらはしどかき給女君のことのけしきはみな見しり給てけりあはれにあさま  
10 しきはかなざのさまゝにつけて心ふかきなかにわれひとり物おもひしらねはいまゝて

### 12才

1 ながらふるにやそれもいつまでと心ほそくおほす宮もかくれなき物からべたて給もいと心  
2 くるしければありしさまなとすこしはどりなをしつゝかたりきこえ給かくし給しか  
3 つらかりしなとなきみわらひみきこえ給にもこと人よりはむつましくあはれ也ことく  
4 しくうるはしくてれいならぬ御事のさまもおどるきまとひ給どころにては御とふらひの人  
5 しけくちゝおとゝせうとの君たちひまなきもいどうるさきにこゝはいと心やすく  
6 てなつかしくそおほされけるいと夢のやうにのみなをいかいでいとにはかなりけること  
7 にはかとのみいふせければれいの人々めして右近をむかへにつかはすはゝ君もさうに  
8 此水の音けはひを聞に我もまろひいりぬへくかなしく心うきことのとまるへくも  
9 あらねはいとわひしうてかへり給にけりねんふつのそうちもをたのもしき物にて  
10 いとかすかなるにいりきたれはことくしくにはかに立めぐりしとのゐ人ともゝ見

### 12才

1 とかめすあやにくにかきりのたひしもいれたてまつらすなりにしよと思ひ出るも  
 2 いとおしさるましき事をおもほしにかるゝ事と見くるし見たてまつれどこゝに  
 3 きてはおはしましゝ夜なくのありさまいたかれたてまつり給て舟にのり給しけはひ  
 4 のあてにうつくしかりし事などを思ひ出るに心つよき人なくあはれ也右近あいて  
 5 いみしうなくもことはり也かくの給たまはせて御つかひになんまいりつるといへはくまさりに  
 6 人もあやしといひおもはんもつゝましくまゝりてもはかくしくきこしめしあきらむはか  
 7 り物きこえさすべきこゝ地もしはへらすこの御いみはてゝあからさまに物になんと人  
 8 にいひなさんもすこしにつけはしかりぬへき程になしてこそ心よりほかのいのち  
 9 侍らはいさゝか思しつまらむおりになんおほせ事なくともまゝりてけにいと夢の  
 10 やうなりし事ともゝかたりきこえまほしきといひてけふはうごくへくもあらすたいふ

**13才**

1 もなきてさるに此御中の事こまかにしりきこえさせ侍らすながらたくひなき御心さ  
 2 しを見たてまつり侍しかは君たちをもなにかはいそきてしもきこえうけたまはらんつ  
 3 ぬには心よせつかうまつるへきあたりにこそと思給しをいふかひなくかなしき御事の  
 4 程はわたくしの御心さしも中々ふかさまさりてなんとかたらふわさと御くるまなどお  
 5 ほしめくらしてたてまつれ給へるをむなしくてはいとくおしうなんいま一どころにても  
 6 まいり給へといへはまして何事をかはきこえせんさてもなを此御いみの程にはいか  
 7 てかいませたまはぬかといへはなやませ給御ひゝきにさまゝの御つゝしみとも侍めれ  
 8 といみあへさせ給ましき御けしきになんまたかくふかき御契りにてはこもらせ給  
 9 てもこそおはしまさめ残りの日いくはくならすなを一ところまいり給へとせむれば  
 10 侍従そありし御さまもいと恋しう思聞ゆるにいかならん世にかは見たてまつらんかゝる

**13ウ**

1 おりにと思なしてまいりけるくろききぬともきてひきつくるひたるかたちもいと  
 2 きよけなりもはたゝいま我よりかみなる人なきに打たゆみて色もかへさり  
 3 ければうす色なるをもたせてまいるおはせましかは此みちにそしのひて出たまは  
 4 まし入しれす心よせきこえし物をなと思ふにもあはれ也みちすからなくくなんき  
 5 ける富は此人まいれりときこしめすもあはれ也女君にはあまりうたてあれば  
 6 きこえたまはすしんてんにおはしましてわた殿におろし給へりありけんさまなどくは  
 7 しうとはせ給に日ころおほしなけきしさまそのよなき給しさまあやしきまで事  
 8 すくなにおほゝとのみ物し給ていみじとおほす事をも人に打出給事はかたく物つゝみを  
 9 のみし給しけにやのたまひをく事も侍らす夢にもかく心つゝきさまにおほし  
 10 かくらむとは思給へすなん侍りしなとくはしう聞ゆればましていどみしうざるくきにて

**14才**

1 ともかくもあらましよりもいかはかり物を思たちてさるつみにおほゝれけんとおほし  
 2 やるに是を見つけてせきとめたらましかはとわきかくへこゝちし給へとかひなし  
 3 御文をやきうしなひ給しなどになとてめをたて侍らさりけんなど夜一夜かたらい  
 4 給にきこえあかすかの巻数にかきつけ給へりしはゝ君の返事などを聞ゆなにはか  
 5 りの物とも御らんせざりし人もむつましくあはれにおほざるれはわかもとにあれかし  
 6 あなたももてはなるへくやはとのたまへはさぶらはんにつけても物のみかなしからんを  
 7 思給ふれはいま此御はてなどすべしと聞ゆ又もまireなど此人をさへあかす曉か  
 8 へるにかの御れうにとてまうけさせ給けるくしのはこゝよろひ衣はこゝよろ  
 9 いをくり物にせさせ給さまゝにせさせ給事はおばかりけれどおどろくしかりぬへけ  
 10 れはたゝ此人におほせたる程なりけりなに心もなくまゝりてかゝる事とものあるを

## 14ウ

1 人はいかゝ見むすゝるにむつかしきわさかなと思わふれといかゝきこえかへさん右近  
 2 とふたりしのひて見つゝつれ／＼なるまゝにこまかにいまめかしうしあつめたる事とも  
 3 見てもいみしうなくさうそくもいとうはしうしあつめたる物ともなればかゝる御  
 4 ふくに是をはいかでかくさむなどもてわづらひける大将殿もなをいとおほつかな  
 5 きにおほしあまりておはしたりみちの程よりむかしかゝる思かけぬはてまで思ひ  
 6 あつかひ此ゆかりにつけては物をのみ思ふよいとたうとくおはせしあたりに仏を  
 7 しるへて後世をのみ契りしに心きたなきすゑのたかひめに思しらする  
 8 なめりとそおほゆる右近めし出でありけんさまはかくしうきかすなをつきせず  
 9 あさましうはかなけれはいみの残りもすくななりぬすくしてと思つれとしつめ  
 10 あへす物しつる也いかなるこゝちにてかはかくなり給にしととひ給にあま君などもけ

## 15オ

1 しき見てければつゐに聞あはせたまはんを中々かくしても事たかひてきこえんに  
 2 そこなはれぬへしあやしきことのす中にこそそのことも思めくらしつゝならひしかかく  
 3 まめやかなる御けしきにさしむかひきこえてはかねてといはんかくいはんとまうけ  
 4 しことはをもわづらはしうおほえければりしさまの事ともをきこえつあさましう  
 5 おほしかけぬすちなるに物もとはかりものたまはすさらにあらしとおほゆるかなな  
 6 へての人の思ひいふ事をもこよなく事すくなにおほとどかなりし人はいかでかさるおどろ  
 7 おどろしき事は思立へきそいかなるさまに此ひとくもてなしていふにかあらん御心も  
 8 みたれまさり給へと宮もおほしなげきたるけしきいどしるしこゝのありさまもしか  
 9 つれなしつくりたるけはひはをのつから見えぬへきをかくおはしましたるにつけて  
 10 もかなしくいみしき事をかみしもの人のつとひてなきさはくをと聞給へは御ともに

## 15ウ

1 くしてうせたる人やあるなをありけんさまをたしかにいへ我ををろかに  
 2 思ひてそむき給事はよもあらしとなん思ふいかやうなるたちまちに  
 3 いひしらぬ事ありてかさるわさはしたまはん我なんえしんすましきと  
 4 のたまへはいとくおじくされはよとわづらはしくてをのつからきこしめしけん  
 5 もとよりおほすさまならておい出給へりし人のよはなれたる御すまゐの  
 6 後はいつとなく物をのみおほすを侍きこえさせ給にもとよりの御身  
 7 のなけきをさへなくさめ給つゝ心のとかなるさまにて時々も見たてまつら  
 8 せ給ふへきやうにいつしかとのみことに出ではのたまはねとおほし  
 9 わたるめりしをその御ほいかなふべきさまにうけたまはる事とも侍  
 10 しにかくでわづらふ人ともうれしき事に思給へいそきかのつく

## 16オ

1 は山もからうして心ゆきたる氣しきにてわたらせたまはんことをいとなみ  
 2 思給へしよ心えぬさま御せうそこ侍けるに此とのぬつかうまつる物とも女房  
 3 たちらうかはしかなりなどいましめおほせらるゝ事など申て物のこゝろえす  
 4 あらへしきはる中人ともあやしきさまにとりなし聞ゆる事とも侍しをそのゝち  
 5 ひさしう御せうそこなとも侍さりしに心うき身なりとのみいはけなかりし程より  
 6 思しるを人数にいかて見なさんとのみよろつにあつかひ給はゝ君の中々なる  
 7 ことの入わらはれになりてはいかに思なけかれむなど思ひけてなんつねになけき給  
 8 しそのすぢよりほかに何事をかとおもひ給へよるにたに侍らすなん鬼などのかくし  
 9 聞ゆともいさゝか残るところも侍物をとてなくさまもいみしければいかなる

10 ことにかとまきれつる御心もうせてせきあえたまはす我は心に身をまかせず  
**16 ウ**

1 けんせうなるさまに持てなされたるありさまなればおほつかなしと思ふおりも  
 2 いまちかくて人の心をくましくめやすきさにもてなし給へらむこそ中々わくるかたあ  
 3 をと思のとめつゝすべしつるをろかに見なし給へらむこそ中々わくるかたあ  
 4 りけるとおぼやはいまはかくたにいはしとおもへと又人のきかはこそあらめ宮の御  
 5 ことよいつよりありそめんさやうなるにつけてやいとかたは人に心をまとはし  
 6 給富なればつねにあひ見てまつらぬなけきに身をもうしなひ給つるとなん  
 7 思ふなをいへ我にはさらになかくしそとのたまへはたしかにこそは聞給てけれと  
 8 いとくおしくていと心うき事をきこしめしけるにこそは侍なれ右近もさくらはぬおり  
 9 も侍らぬ物をとなかめやすらひてをのつからきこしめしけん此宮のうへの御かた  
 10 にしのひてわたらせ給へりしをあさましく思かけぬ程にいりおはしましたり

**17 オ**

1 しかといみしき事をきこえさせ侍て出させ給にきそれにおち給てかのあや  
 2 しく侍しどころにはわたらせ給へりし也そのゝち音にもきこえしとおぼしてやみ  
 3 にしをいかてかきかせ給けんたゝ此きさりきはかりより音つれきこえ給へし  
 4 御文はいとたひへ侍しかと御らんしるゝ事も侍らさりき」とかたしけなく  
 5 うたてあるやうになとそ右近なときこえさせしかは一たひ二たひ  
 6 やきこえさせ給けんそれよりほかの事は見給へすときこえさするにそい  
 7 はんかししゆてとほんもいとおしくてつくへと打ながめつゝ宮をめつらしくあはれ  
 8 と思きこえてもわかかたをさすかにをろかにおもはさりける程にいとあきら  
 9 むるところなくはかなけなりし心にて此水のちかきをたよりにて思よるなり  
 10 けんかしわかこゝにさしはなぢすへさらましかはいみしくうき世にふともいかてか

**17 ウ**

1 かならずふかき谷をももとめ出ましといみしうき水の契りかなと此川の  
 2 うとましうおぼざるゝ事いとふかし年ころあはれと思そめたりしかたにてあらき山  
 3 路をゆきかへりしもいまは又心うくて此里の名をたにえきくましきこゝ地し給け  
 4 る宮のうへのたまひはしめし人かたとつけそめたりしさへゆゝしうたゝわかあや  
 5 まちにうしなひつる人なりと思もてゆくにははゝのなをかろひたる程にて後の  
 6 うしろみもいとあやしくことそきてしなしけるなめりと心ゆかす思つるをくはしう  
 7 聞給になんいかに思ふらむさはかりの人のこにてはいどめたたかりし人をしのひたる事は  
 8 かならすしもえしらてわかゆかりにいかなる事のありけるならむとと思ふなるらんかし  
 9 などよろつにいとおしくおほすけからひといふ事はあるましけれと御ともの人めもあれば  
 10 のほりたまはて御くるまのしちをめしてつま戸のまへにてゐ給けるも見るしければ  
 1 いとしけき木のしたに苔をおまじにてとばかりゐ給へりいまはこゝをきて見むことも  
 2 こゝろうかるへしとのみ見めくらしたまひて  
 3 われも又うきふるさとをかれはてはたれやとり木の  
 4 かけをしのはんあさりいまはりしになりけりめして此ほうしことをきてさせ給ねんふつ  
 5 そのかすそへなとせさせ給つみいとふかゝなるにさとおぼせはかるむへき事をそすへき七日  
 6 七日に経伝くやうすくきよしなとこまかにのたまひていとくらうなりぬるにかへり給もあら  
 7 ましかはこよひかへらましやはとのみなんあま君に御せうそせさせ給つれといともへ  
 8 ゆゝしき身をのみ思給へしつみていと物も思給へられすほれ侍てなんうづふじ

**18 オ**

ふして侍ときこえて出ごねはしるても立よりたまはすみちすからとくむかへとりた  
まはすなりにけることくやしう水の音の聞ゆるかきりは心のみさはき給てから

## 18ウ

1 をたにたつねすあさましくてもやみぬるかないかなるさまにていつれのそこ  
2 のうつせにましりにけんなどやるかたなくおほすかのはゝ君は京にこうむへき  
3 むすめのことによりつゝしみさはけはれいの家にもえいかすゝろ  
4 なる旅ゐのみして思なくさむおりもなきにまた是もいかならんとおもへと  
5 たいらかにうみてけりゆゝしければえよらす残りの人々のうへもおほえす  
6 ほれまとひてすくすに大将殿より御つかひしのひてあり物おほえぬこゝち  
7 にもいとうれしくあはれ也文あさましき事はまつきこえんと思給へしを心も  
8 のとまらすめもくらきこゝ地してましていかなるやみにかまとはれ給ふらんと  
9 その程をすくしつるにはかなくて日ころもへにけることをなんよのつねなきも  
10 いとゝ思のとめんかたなくのみ侍を思のほかにもなからへはすきにし名残とは  
11 かならすさるべき事にもたつね給へなどこまかにかき給て御つかひにはかの大藏

## 19オ

1 大輔をそ給へりける心のとかによろつを思つゝ年ころにさへなりにける程かなら  
2 すしも心さしあるやうには見たまはさりけんされといまより後なに事に  
3 つけてもかならすわすれきこえしまさやうにを人しれす思をき給へおさな  
4 き人ともゝあまたあるをおぼやけにつかうまつらむにもかならすうしるみおもふ  
5 へくなんなど葉にものたまへりいたくしもいむましきけからひなれはふかうも  
6 ふれ侍らすなどいひなしてせめてよひすへたり御返なくくかくいみしきことにしなれ  
7 侍らぬいのちを心うく思ふ給へなけき侍にかかるおぼせ事見侍りりけるにやとなん  
8 年ころは心ほそきありさまを見給へながらそれは数ならぬ身のをこたりに思たまへ  
9 なしつゝかたしけなき御一ことをゆくすゑなかくたのみきこえ侍しにいふかひなく見  
10 給へはてゝは里の契りもいと心うくかなしくなんざまゝにうれしきおぼせ事にいのち  
11 のひ侍ていましはしなからへ侍らはなをたのみきこえ侍へきにこそと思給ふるにつけて

## 19ウ

1 もめのまへの涙に暮てえきこえさせやらすなんとかきたり御つかひになへての  
2 ろくなとは見るるしき程也あかぬこゝちもすへければかの君にたてまつらんと  
3 心さしてもたりけるよきはむさいのおひたちのおかしきなどふくろにいれて  
4 くるまにのる程是はむかしの人の御心さしなりとてをくらせてけり殿に御らん  
5 せさすれはいとそそなるわさかなとのたまふこと葉には身つからあひ侍給て  
6 いみしくなくゝよろつの事のたまひておさなき物とともにことまでおぼせられたるか  
7 いとはつかしう人になにゆへなとはしらせ侍らてあやしきさまともをもみなまいら  
8 せ侍てさぶらはせんとなん物し侍つると聞ゆけにことなる事なきゆかりむつひ  
9 にそあるへけれとみかともさはかりの人のむすめたてまつらすやはあるそれに  
10 さるへきにて時めかしおほさんをは人のそしるへき事かはたゝ人はたあやしき

## 20オ

1 女よにぶりにたるなどをもちゐるたくひおばかりかのかみのむすめなりけりと人の  
2 いひなさんにもわかもてなしのそれにけかるへくありそめたらはこそあらめひとり  
3 のこをいたづらになして思ふらんおやの心よなを此ゆかりこそおもたゝしかりけれど  
4 思しるばかりようゐはなからす見すべき事とおほすかしこにはひたちのかみた  
5 ちなからきておりしもかくてゐ給へる事なんとはらたつ年ころいつくになんおは

するなどありのまゝにしらせたりければはかなきもまたそおはすらむと思ける  
 7 を京になるとむかへ給て後めいほくありてなどしらせむと思ける程にかゝればいまは  
 8 かくさむもあひなくてありしさまなくへかたる大将殿の御文もとり出て見すれば  
 9 よき人かしこくして打かへしくいとめてたき御さいはひをしてうせ給にける  
 10 人かなをのれもとの人にてまいりつかうまつれともちかくめしつかう事もなくいとけ

## 20ウ

1 たかくおもはする殿也わかき物ともの事おほせられたるはたのもしき事になん  
 2 なとよろこふを見るにもましておはせましかはと思ふにあしまろひてなかる  
 3 かみもいまなん打なきけるさるはおはせし世にはかゝるたくひの人しもたつね給ふ  
 4 へきにしもあらすかしわからやまちにてうしなひつるものとおしなくさめむとお  
 5 ほすよりなん人のそしりねんころにたつねしとおほしける四十九日のわざなど  
 6 せさせ給にもいかなりけん事にかはとおほせはとてもかくてもつみうましき事なれ  
 7 はいとしのひてかのりしの寺にてせさせ給ける六十そうのふせなどお  
 8 ほきにをきてられたりはゝ君もきみて事ともそへたり宮よりは右近かもと  
 9 にしろかねのつほにこかね入て給へり人見とかむるばかりおほきなるわきはえし  
 10 たまはす右近か心さしにてしたりければ心しらぬ人はいかてかくなんなどいひける  
 11 殿の人どもむつましきかぎりあまた給へりあやしくをともせさりつる人の

## 21オ

1 そてをかくあつかはせ給ふ誰ならんといまおとろく人のみおほかるにひたちのかみ  
 2 きてあるしかりをるなんあやしと人々見ける少将のこうませていかめしき事  
 3 せせんとまとひ家のうちになき物はすくなくもろこししらきのかさりをも  
 4 しつへきにかきりあれはいとあやしかりけり此御ほうしのしのひたるやうにおほし  
 5 たれとけはひこよなきを見るにいきたましかは我身をならふへくもあらぬ人  
 6 の御すべせなりけりと思ふ宮のうへもす経したまひ七そうのまへの事せさせ給  
 7 けりいまなんかゝる人ももたまへりけりとみかとまでもきこしめしてをろかにも  
 8 あらさりける人を宮にかしこまりこえてかくしをき給たりけるいとおしとおほし  
 9 けるふたりのひとの御心のうちふりすかなしくあやにくなりし御思のさかりにかきた  
 10 えてはいといみしけれとあたなる御心はなくさむやなど心み給事もなをいふかひな  
 11 き事をわすれかたくおほすきさいの宮の御きやうふくの程はなをかくておはしますに  
 12 おほしたるさまも見しりければしのひあまりて

## 21ウ

1 二の宮なん式部卿になり給にけるをもくしうてつねにしもまいりたまはす此宮は  
 2 さうへしく物あはれるまゝに一品の宮の御かたをなくさめどころにし給よき人の  
 3 かたちをもえまほに見たまはぬ残りおばかり大将殿のからうしていとしのひ  
 4 てかたちはせ給こ宰相の君といふ人のいふ人のかたちなどもきよけ也心はせ  
 5 あるかたの人とおほされたりおなしことをかきならすつま音はち音も人にはま  
 6 さり文をかき物いひたるもよしあるふしをなんそへたりける此宮にも年ごろいと  
 7 いたき物にし給てれいのいひやふり給へとなとかさしもめつらしけなくはあらんと心つよく  
 8 ねたきさまなるをまめ人はすこし人よりことなりとおほすになんありけるかく物  
 9 おほしたるさまも見しりければしのひあまりて

10 あはれしるこゝろは人にをくれねとかすならぬ身に

## 22オ

1 きえつゝそふるかへたはとゆへあるかほにかきたり物あはれる夕暮しめ  
 2 やかなる程をいとよくをしはかりていひたるにくからず

3

つねなしとこゝら世を見ぬつき身たに人のしるまで

- 4 なけきやはする此よろこひあはれなりしおりからもいとなんなどいひにたち  
 5 より給へりいとはつかしけに物々しけにてなへてかやうになどならしたまは  
 6 ぬ人からもやむことなきにいと物はかなきすまゐなりかしつほねなどいひて  
 7 せはく程なきやり戸くちによりぬ給へるをかたはらいたくおぼゆれど  
 8 さすかにあまりひけしてもありていとよき程に物なども聞ゆ見し  
 9 人よりも是は心にくきけそひもあるかななどてかく出たちけん  
 10 さる物にて我もおいたらまし物をとおぼす人しれぬすちはかけ

## 22ウ

- 1 ても見せたまはすはちすの花のさかりに御はかうせらる六条  
 2 院の御ためむらさきのうへなどみなおぼしわけつゝ御経仏などくやう  
 3 せさせ給ていかめしくたうとくなんありける五くわんの日などいみじ  
 4 きみものなりければこなたかなた女房につきてまいりて物見る人おぼ  
 5 かりけりいつかといふあさゝにてみたうのかさりとりさけ御しつらひあらたむ  
 6 るに北のひさしもさうしともはなちたりしかはみないりたちてつくるゑほと  
 7 西のわた殿にひめ宮おはしましけりものきゝこうして女房もをのく  
 8 つほねにありつゝ御まへはいと入すくなる夕くれに大将殿なをしきかへて  
 9 けふまかつるそうの中にはならすけふのたまふべき事あるによりつり殿のかた  
 10 におはしたるにみなまかでぬれは池のかたにすゝみ給て人すくなるに此わた  
 11 殿はかくいふさいしやうの君などかりそめにきちやうなどはかりたてゝ打やす

## 23オ

- 1 むうへつほねにしたりこゝにやあらむ人のきぬの音すとおぼしてめんたうのかた  
 2 のさうしのほそくあきたるよりやをら見給へはれいさやうの人のゐたるけはひ  
 3 にはにすはなくしくしつらひたれば中々きぢやうどものたてちかへたるあはひより  
 4 見とをされてあらは也ひをものふたにをきてわるとてさはくひとく  
 5 おとな三人はかりわらはといだりからきぬともかさみもきすみな打とけたれ  
 6 は御まへとは見たまはぬにしろきうす物の御そき給へる人のてにひをもち  
 7 なからかくあらそふをすこしゑみ給へる御かほいはんかたなくうつくしけ也いとあつさ  
 8 のたへかたき日なれはこちたき御くしのくるしうおぼさるゝにやあらんすこし  
 9 こなたになひかしてひかれたる程たとへむ物なしこゝらよき人を見あつむれ  
 10 とにするべくもあらさうけれどおぼゆ御まへなる人はまことにづちなどのこゝちとするを  
 11 思しつめて見れはきなるすゝしのひとくうす色なるもきたる人の扇うち

## 23ウ

- 1 あつかひたるなどようゐあらむはやとふと見えてなかゝ物のあつかひにいとくゐ  
 2 しけ也たゝさなから見給へかしとてわらひたるまみあひきやうつきたりこゑ  
 3 きくにそこの心さしの人とはしりぬる心つよくわりてことにもたりかしらに  
 4 打をきむねにさしあてなどさまあしうする人もあるへしこと人はかみにつゝみて  
 5 御まへにもかくてまいらせたれといとうづくしき御てをさしやり給てのこはせ  
 6 給いなもたらしきつゝむつかしとのたまふ御こゑいとほのかにきくもかきりもなく  
 7 うれしまたいとちこさくおはしましゝ程に我も物の心もしらて見たてまつりし  
 8 ときめてたのちこの御さまやと見たてまつりしそのちたえて此御けはひをたに  
 9 きかさりつる物をいかなる神仏のかゝるおり見せ給つるならんれいのやすからす物おも  
 10 はせんするにやあらむとかつはしつ心なくてまもりたてたる程にこなたのたいの北

## 24才

おもてにすみけるけしう女房のこの御さうしはとみのことにてあけなからをりにける  
 を思ひ出て人もこそ見つけてさはかるれと思ければまとひる此なをし  
 すかたを見つくるにたれなんと心さはきてをのかさま見えん事もしらすのこ  
 よりたゝきにくればふとたちさりて誰とも見えしすきへしきやうなりと  
 思ひてかくれたまひぬこのおもとはいみしきわさかなみきちやうをさへあらはに  
 ひきなしてけるよ右のおほい殿の君たちならんうとき人はたこゝまでくへき  
 にもあらす物のきこえあらはたれかさうしあけたりしとかならす出きなん  
 ひとへもはかまもすゝしなめりと見えつる人の御すかたなれはえ人も聞つけ  
 たまはぬならむかしと思こうしてをりかのひとはやうへひしりになりし心を  
 ふしたかへそめてさまへ也物おもふ人ともなるかなそのかみ世をそむきなましかは

## 24才

いまはふかき山にすみはてゝかく心みたれましやはなどおほしつゝくるもやす  
 からすなとて年じろ見たてまつらはやとおもへらむなかゝくるしうかひなかるへき  
 わさにこそと思ふつとめておき給へる女宮の御かたちいとおかしけなめるは是より  
 かならすまさるへき事かはと見えながらさらににたまはすこそありけれあさましき  
 まであてにかほりえもいはさりし御さまがなかたへは思なしかおりからかとおほしていと  
 あつしやはよりうすき御そたてまつれ女はれいならぬ物きたるこそ時々につけ  
 ておかしけれとてあなたにまいりて大式にうす物のひとへの御そぬひてまいれと  
 いへとのたまへる人は此御かたちのいみしきさかりにおはしますをもてはやし  
 きこえ給とおかしうおもへりれいのねんすし給わか御かたにおはしましなとしてひる  
 つかたわたり給へれはのたまへる御そみきぢやうに打かけたりなそこはたてまつらぬ  
 人おほく見る時なんすきたる物きるははうそくにおほゆるたゝいまはあえ侍なんとて

## 25才

てつからさせたてまつり給御はかまも昨日のおなしぐれなる也御くしのおほさ  
 すそなとはをとりたまはねとなをさまへなるにやにるへくもあらすひめして人々  
 にわらせ給とりて一たてまつりなとし給心のうちもおかしゑにかきて恋しき人  
 見る人はなくやはありけるまして是はなくさめんににけなからぬおほん程そかしとおもへ  
 と昨日かやうにてわれましりゐ心にまかせて見たてまつらましかはとおほゆるに心  
 にもあらす打なけれかれぬ一品の宮に御文たてまつり給やときこえ給へは内にありし時  
 うへのさのたまひしかはきこえしかとひさしうさもあらすとのたまふたゝ人にならせ給  
 にたりとてかれよりもきこえさせたまはぬにこそは心うるなれいま大富のおまへ  
 にて恨きこえさせ給どけいせんとのたまふいかゝ恨きこえんうたてとのたまへはけす  
 になりにたりとておほしおとすなめりと見ればおどろかしきこえぬとこそはきこえめと  
 のたまふその日はくらじて又のあしたに大富にまいり給れいの宮もおはしけりちやう  
 しにふかくそめたるうす物のひとへをこまやかなるなをしにき給へるいとこのましけ也  
 女の御身なりのめてたかりしにもをとらすしろくきよらにてなをありしよりはおも  
 やせ給へるいと見るかひありおほえ給へりと見るにもまつ恋しきをいとあるましき事としつ  
 むるそたゝなりしよりはくるしきゑをいとおほくもたせてまいり給へりける女房  
 してあなたにまいらせ給てもわたらせたまひぬ大将殿もちかくまいりより給て  
 御はかうのたうとく侍し事いにしへの御ことすこしきこえつゝ残りたるゑみ  
 給ついてに此里に物し給みこの雲のうへはなれて思くし給へるこそいとおしう見

## 25才

8 給ふれひめ君の御かたより御せうそこも侍らぬをかくしなさたまり給へるにおぼし  
 9 すてさせ給へるやうに思ひて心ゆかぬけしきのみ侍をかやうの物時々物せさせ  
 10 たまはなんにかしかおろしてもまからむはた見るかひも侍らしかとのたまへは  
 11 あやしくなとてかすてきこえたまはん内にてはちかかりしにつきて時々もきこえかよひ

## 26才

1 紿めりしをとこうへになり給しおりにとたえ給へるにこそあらめいまそゝのかしきこえん  
 2 それよりもなどかはどきこえ給かれよりはいかでかはもとよりかすまへたまはさらむをも  
 3 かくしたしくてさふらふへきゆかりによせておぼしめしかすまへさせたまはんをこそうれ  
 4 しくは侍へけれどもしてさもきこえなれ給にけんをいますてさせたまはんはからき事に  
 5 侍りとけいせさせ給をすきはみたるけしきあるかとはおぼしかけさりけりたち出で  
 6 一夜の心さしの人にはんありしわた殿もなくさめにみんかしとおぼして御まへをあゆ  
 7 みわたりて西さまにおもはするをみすのうちの人は心ことようゐすけにいとさま  
 8 よくかきりなきもてなしにてわた殿のかたは右のおぼい殿の君たちなどいて物いふ  
 9 けはひすれはつま戸のまへにゐ給て大かたにはまいりながら此御かたのけさんに入事の侍  
 10 れはいとおぼえなくおきなひはてにたるこゝち侍をいまよりはと思をこし侍てなん  
 11 ありつかすとわかき人ともそ思ふらんかしとおひの君たちのかたを見やり給いまより

## 26ウ

1 ならはせ給こそにわかくならせ給ならめなどはかなき事をいふ人々のけはひ  
 2 もあやしうみやひやかにおかしき御かたのありさまにそあるその事となけれ  
 3 と世中の物語などしつゝしめやかにれいよりはゐ給へりひめ宮はあなたにわたらせ  
 4 給にけり大宮大将のそなたにまいりつるはととひ給御ともにまいりたる大納言の君こ  
 5 さいしやうの君に物したまはんとにこそは侍つめれと聞ゆればまめ人のさすかに  
 6 人に心とゝめて物語するこそこゝちをくれたらむ人はくるしけれ心の程もみゆ  
 7 らむかしこ宰相などはいとうしろやすしとのたまひて御はらからなれと  
 8 此君をはなをはつかしく人もようゐなくて見えさらんかしとおぼいたり  
 9 人よりは心よせ給てつほねなどに立より給へし物語こまやかにし給て  
 10 夜ふけて出給おりくも侍どれいのめなれたるすには侍らぬにや宮を

## 27オ

1 こそなきげなくおはしますと思ひて御いらへをたにきこえす侍めれかたしけ  
 2 なき事といひてわらへは富もわらはせ給ていと見くるしき御さまを思しこそ  
 3 はおかしけれいかてかゝる御くせやめたてまつらんはつかしや此人々もとのたまふいとあ  
 4 やしき事をこそ聞侍しか此大将のなくなし給てし人は宮の御二条の北のかたの御  
 5 おとうとなりけりことはらなるへしひたちのさきのかみなにかしかめはをはともはゝ  
 6 ともいひ侍なるはいかなるにかそりの女君に富こそいとしのひておはしましけれ  
 7 大将殿や聞つけ給たりけんにはかにむかへたまはんとてまもりめそへなどことへ  
 8 しくし給ける程に富もいとしのひておはしましなからえいらせたまはすあやし  
 9 きさまに御馬なからたゝせ給つゝそかへらせ給ける女も宮を思きこえさせける  
 10 にやにはかにきえうせにけるを身なけたるなめりとてこそめのとなどやうの

## 27ウ

1 人ともはかなきまとひ侍けれと聞ゆ宮もいとあさまじとおぼしてたれか  
 2 さる事はいふとよいとおしく心うき事かなきばかりめつらかならむ事はをのつから  
 3 きこえありぬへきを大将もさやうにはいはて世中のはかなくいみしき事  
 4 かくうちの富のそのいのちみしかりける事をこそいみしうかなしと

5 思ひてのたまひしかとのたまふじさやけすはたしかならぬ事をもいひ侍る  
 6 物をと思侍れとかしこに侍けるしもわらはのたゞ此ころ幸相か里に出まうて  
 7 きてたしかなるやうにこそひ侍けれかくあやしうてうせ給へる事人にきか  
 8 せしおどろくしくをそきやうなりとていみしくかくしける事どもとやさてくは  
 9 しくはきかせたてまつらぬにやありけんと聞ゆればさらにかゝる事又まねふなど  
 10 いはせよかゝるす中に御身をももてそこなひ御身をもがろく心つきなき物に

## 28才

1 おもはれぬへきなめりといみしうおほいたりそのゝちひめ宮の御かたより一の  
 2 宮に御せうそこありけり御てなどのいみしうつくしけなるを見るにもいとうれ  
 3 しくかくてこそとく見るへかりけれどおほすあまたおかしき氣ともおぼく大宮も  
 4 たてまつらせ給へり大将殿打まさくりておかしきともあつめてまいらせ給せり川の  
 5 大将のとを君の女一の宮思かけたる秋の夕暮に思わひて出でいきたるかたおか  
 6 しうかきたるをいとよくおもひよせらるしかはかりおほくなひぐ人のあらましかはと  
 7 おもぶ身そくちおしき

8 萎の葉に露るきむすふ秋かせもゆふへそわきて

9 身にはしみけるとかぎてもそへまほしくおほせとさやうなる露はかりの気しき  
 10 までももりたらはいとわづらはしけなる世なればはかなきこともえほのめかし

## 28才

1 いつましかくよろつになにやかやと物を思のはてはむかしの人物したまはましかは  
 2 いかにもへほかさまに心わけましやときのみかとの御むすめを給ふともえたて  
 3 まつらざらまし又さおもふ人とありときこしめしなからかゝる事もなからましをなを  
 4 心うく我心みたり給けるはしめかなと思あまりては又宮のうへにとりかゝりて恋しう  
 5 もづらへもわりなき事そをこかましきさてくやしき是に思わひてさしつきには  
 6 あさましくてうせにし人のいと心おさなくとゝこぼるところなかりけるかるくしさは  
 7 思なからさすかにいみしと物を思ひいりけん程わかけしきれいならすと心のおにゝなけ  
 8 きしつみてゐたりけんありさまを聞給しも思ひ出られつゝをもりかなるかたなくて  
 9 たゞ心やすくらうたきかたらひ人にてあらせむと思しにはいとらうたかりし人を  
 10 思もていけば宮をも思ひきこえし女をもうひとおもはしたゞわかありさまのよつか

## 29才

1 ぬをこたりそなとなかめいり給時々おばかり、心のとかださまよくおはする人たにかゝるすち  
 2 には身もくるしき事をのつからましるを宮はましてなくさめかね給つゝかのかたみに  
 3 あかぬかなしさをものたまひ出くき人さへなきをたいの御かたはかりこそはあはれなど  
 4 のたまへとふかくも見なれたまはさりける打つけのむつひなれはいとふかくしもいかてかは  
 5 あらむまたおほすまゝに恋しやいみしやなどのたまはんにはかたはらいたければかしこに  
 6 ありし侍従をそれいのむかへさせ給けるみな人ともはいきぢりてめのとゝ此人ふたり  
 7 なんどりわきておほしたりしもわすれかたくて侍従はよそ人なれとなをかたらひて  
 8 ありふるによつかぬ川の音もうれしき瀬もやあるやとたのみし程こそなくさめけれ  
 9 うくいみしく物おそろしくのみおほえて京になんあやしきところに此ころきてゐたり  
 10 けるたつね出給てかくてさくらべとのたまへと御心はさる物にて人々のいはん事もさる

## 29才

1 すちのことましりあるあたりは聞にくき事もあらむとおもへはうけひきこえすき  
 2 さいの宮にまいらむとなんおもむけたれはいとよか也さて人しれすおほしつかはむと  
 3 のたまはせけり心ほそくよるへなきもなくさむやとてしるたよりもとめでまいりぬき

4 たなげなくてよろしきけらうなりとゆるして人もそしらす大将殿もつねに  
 5 まいり給を見るたひことに物のみあはれ也いとやむことなき物のひめ君のみまいり  
 6 つとひたる宮と人もいふをやうへめとめと見て見れと見たてまつりし人にたるは  
 7 なかりけりと思ありく此春うせ給ぬる式部卿の宮の御むすめをまゝはゝの北の  
 8 かたことにあひおもはてせうと右馬のかみにて人からもことなるへき心かけたるを  
 9 いとおしうなども思立てさるへきさまになん契るときこしめすたよりありていと  
 10 おしうちゝ宮のいみしきかしつき給ける女君をいたつらなるやうにもてなさん事など

### 30才

1 のたまはせければいと心ほそくのみ思なけき給ありさまにてなつかしうかくたつね  
 2 のたまはするをなと御せうとの侍従もいひて此ころむかへとらせ給てけりひ  
 3 め宮御くにていとこよなからぬ御程の人なればやむ事なく心ごとにてさふらひ給  
 4 かきりあれば宮の君なと打いひてもはかりひきかけ給ふそいとあはれなりける  
 5 兵部卿の宮この君はかりや恋しき人に思よそへつべきさまたらむちゝみ  
 6 こははらからそかしなどれいの御心は人を恋給につけても人ゆかしき御くせや  
 7 までいつしかと御心かけ給てけり大将もとかしきまであるわざかなきのふ  
 8 けふといふはかり春宮にやなどおほし我にもけしきはませ給きかしかくはか  
 9 なき世のおどろへを見るには水のそこに身をしつめてももとかしからぬわさ  
 10 にこそなと思つゝ人よりは心よせきこえ給へり此院におはしますをはうぢ

### 30ウ

1 よりもひろくおもしろくすみよき物にしてつねにしもさぶらはぬひと  
 2 ともゝみな打とけすみつゝはるゝとおほかるたいともらうわた殿に  
 3 みちたり右大将殿むかしの御氣はひにもをとらすすべにかきりもなく  
 4 いとなみつかうまつり給いかめかしうなりにたる御そうなれば中々いにし  
 5 へよりもいまめかしき事はまさりてさえなんありける此宮れいの御心  
 6 ならは月ころの程にいかなるすき事ともをしてたまはましこよなく  
 7 しつまり給て人めにはすこしおいなをり給かなと見ゆるを此ころそ又宮  
 8 の君に本上あらはれてかゝつらひありき給けるゝしくなりぬとて富うち  
 9 にまいらせ給なんとすれば秋のさかり紅葉のころを見ざらんこそなどわかき  
 10 人々はくちおしかりてみなまいりつとひたるころ也水になれ月をめてゝ

### 31才

1 御あそひたえすつねよりもいまめかしければ此宮そかゝるすちはいとこよな  
 2 くもてはやし給あさ夕めなれてもなをいまみむはつ花のさまし給へるを大将  
 3 の君はいとさしもいりたちなとしたまはぬ程にてはつかしう心ゆるひなき物にみな思  
 4 たりれいのふたところまいり給て御まへにおはする程にかの侍従は物よりのそき  
 5 たてまつるにいつかたにもゝよりてめてたき御すべ見えたるさまにて世にそ  
 6 おはせましかしあさましくはかなく心うかりける御心かななど人にはそのわたりのこと  
 7 かけてしりかほにもいはぬ事なれば心一にあかすむねいたく思宮は内の御物語  
 8 などこまやかにきこえさせ給へはいま一ところはたち給見つけられたてまつら  
 9 ししはし御はてをもすくさす心あさしと心あさしと見えたてまつらしとおもへは  
 10 かくれぬひんかしのわた殿もあきあひたる戸くちに人々あまたゐて物語など

### 31ウ

1 しのひやかにするところにおはしてなにかしをそ女房はむつましとおほすへきや  
 2 女たにかく心やすくはよもあらしかしさすかにさるへからむ事をはをしへぬへくも

3 ありやうへ見しり給へるめれいとなんうれしきとのたまへはいといらへにへのみ思ふ  
4 中に弁のおもとでなれたるおとなそもつましく思聞ゆへきゆへなき人の  
5 はちきこえ侍らぬにや物はさこそは中々侍めれかなうすそのゆへたつねて打

6 とけ御らんせらむにしも侍らぬとかはかりおもなくつくりそめてけるみにおはさらん  
7 もかたはらいたくてなんと聞ゆればはづくゆへあらしと思さため給てけるこそくち  
8 おしけれなどのたまひつゝ見ればからきぬはぬきすへしをしやり打とけて手ならひ  
9 しけるなるへしすゝりのふたにすへて心もとなき花のすゑへおりもてあそひけり  
10 と見ゆかたへはきちやうのあるにすへりかくれあるは打そむきをしあけたる戸のかたに

## 32才

1 まきらはしつゝゐたるかしらつきともゝおかしと見わたし給てすゝりひきよせて  
2 をみなへしめたるゝ野へにましるともつゆのあた名を  
3 我にかけめやこゝろやすくはおほさてとたゞこのさうしにうしろしたる  
4 人に見せ給へは打みしろきなどもせずのとやかにいととく  
5 花といへは名こそあたなれをみなへしなへての露に  
6 みたれやはするとかきたる手たゞかたそはなれとよしつきて大かた  
7 めやすければたれならんと見給いままうのほりけるみちにふたけ  
8 られてとゞこほりゐたるなるへしと見ゆ弁のおもとはいとけさや  
9 かなるおきなことにくゝ侍りとて  
10 旅ねしてなをこゝろみよをみなへしさかりの色に

## 32ウ

1 うつりうつらすさてのあさためきこえさせむといへは  
2 宿かさは一夜はねなんおほかたの花にうつろふ  
3 こゝろなりともとあればなにかはつかしめさせ給大かたの野辺の  
4 さかしらをこそきこえさせといふはかなき事をたゞすこしのたまる  
5 も人はのこりきかまほしくのみ思きこえたり心なしみちあけ侍なん  
6 よわきてもかの御物はちのゆへかならすありぬへきおりにそあめるとて  
7 たち出給へはをしなへてかくのこりなからむとおもひやり給こそ心うけれと  
8 おもへる人もありひんかしかうらんにをしかりて夕かけになるまゝに花の  
9 ひもとく御まへの草むらを見わたし給物のみあはれるるに中についてはら  
10 わたたゆるは秋の天といふ事をいとしのひやかにすんしつゝみ給へりありつる

## 33才

1 きぬの音なひしるきけはひしても屋の御さうしよりとをりてあなたに出る  
2 なり宮のあゆみおはして是よりあなたにまいりつるはたそとひ給へはかの  
3 御かたの中将の君と聞ゆなりなをあやしのわさや誰にかとかりそめにも打おもふ  
4 人にやかてかくゆかしけなく聞ゆる名さしよどいとおしく此宮にはみなめなれての  
5 みおぼえたてまつるへかめるもくちおしおりたちてあなかちなる御もてなしに  
6 女はさもこそまたてまつらめわかさもくちおしう此御ゆかりにはねたく心  
7 うくのみあるかないかて此わたりにもめづらしからん人のれいの心いれてさはきたま  
8 はんをかたらひとりてわか思しやうにやすからすとたにもおもはせたてまつらん  
9 まことに心はせあらん人はわかかたにそよるへきやとされとかたい物かな人  
10 の心はごおもぶにつけてたいの御かたのかの御ありさまをはふさはしからぬ物に

## 33ウ

1 おもひきこえていとひんなきむつひになりゆく大かたのおぼえをくるし

2 とおもひながらなをさしはなちかたき物におほしりたるそありかたくあは  
 3 れなりけるさやうなる心はせある人こゝらのうちにあらんやいりたちてふかく  
 4 見ねはしらぬそかしむさめかちにつれへなるをすこしはすきもならはゝや  
 5 などおもふにいまはなをつきなしれいのにしのわたとのをありしにならひて  
 6 わさとおはしたるもあやしひめ富よるはなたにわたらせたまひければ  
 7 人々月見るとてこのわたとのにうちとけて物かたりするほどなりけり  
 8 さうのこといとなつかしうひきすさむつま音おかしう聞ゆ思ひかけ  
 9 ぬによりおはしてなとかくねたましかほにかきならし給とのたまふに  
 10 みなおとろかるへかめれとすこしあけたるすたれ打おろしなどもせず

**34才**

1 おきあかりてにるへきこのかみやは侍るへきといらぶるこゑ中将の  
 2 おもとゝかいひつるなりけりまろこそ御はゝかたのをちなれとはかなき事を  
 3 のたまひてれいのあなたにおはしますへかめるにななにわさをかこの御  
 4 里すみのほとにせさせ給などあちきなくとひ給いつくにてもなに  
 5 ことをかはたゝかやうにてこそはすくさせ給めれといふにおかしの御身の  
 6 程やと思ふにすゝろなるなけきのうちわすれてしつるもあやしとおもひ  
 7 よる人もこそとまきらはしにさし出たるわこんをだゝさなからかきなら  
 8 し給りちのしらへはあやしくおりにあふときくこゑなれは聞くゝも  
 9 あらねとひきはてたまはぬを中々なりと心いれたる人はきえかへり  
 10 おもふわかはゝ富もをとり給ふへき人かはきさいはらと聞ゆはかりの

1 へたてこそあれみかとへのおほしかしつきたるさまことへなうさり  
 2 けるをなをこの御あたりはいとことなりけるこそあやしけれ  
 3 あかしの浦はこゝろにくかりけるところかななどおもひつゝくる  
 4 事ともにわかすべはいとやむことなしかしましてならへてもたて  
 5 まつらはとおもふそいとかたきや富の君はこのにしのたいにそ  
 6 御かたしたりけるわかき人々のけばひあまたして用めて  
 7 あへりいてあはれこれも又おなし人そかしとおもひ出きこえて  
 8 みこのむかしこゝろよせ給し物をといひなしてそなたへおはしぬ  
 9 わらはのおかしきすかたにて二三人出てありきなどし  
 10 けり見つけているさまともにかゝやかしこれそよのつねと

**35才**

1 おもふみなみおもてのすみのまによりてうちこはづへり給へはす  
 2 こしおとなひたる人いてきたり人しれぬ心よせなときこえ  
 3させ侍はは中々みな人きこえさせあるしつらん事をうぬ  
 4 しきさまにてまねふやうになり侍りまめやかになんことより  
 5 ほかをもとめられ侍とのたまへは君にもひつたへすさかしら  
 6 たちていとおもほしかけさりし御ありさまにつけてもご富の  
 7 おもひきこえさせ給ふへかりしことなと思給へられてなんかく  
 8 のみおりへきこえさせ給なる御しきうことをもよろこひき  
 9 こえ給めるといふみなみへの人めきてこゝちなのさまや物  
 10 うけれどもとよりおほしすつましきすぢようもいは

**35ウ**

1 あしてわるくわいとにつけとおおむほしたつねなんうれしかる  
 2 くわうとへしう人つてなとたてもてなさせたまはし元  
 3 にそとのたまひにけるにけにとおもひさはきてきみを

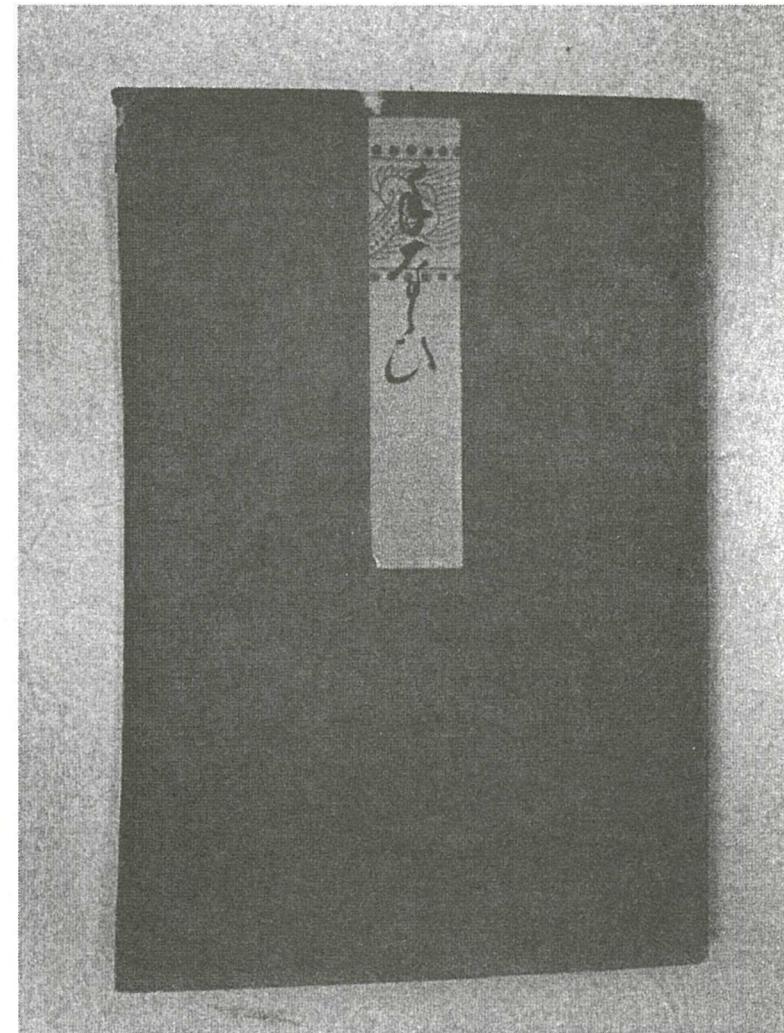
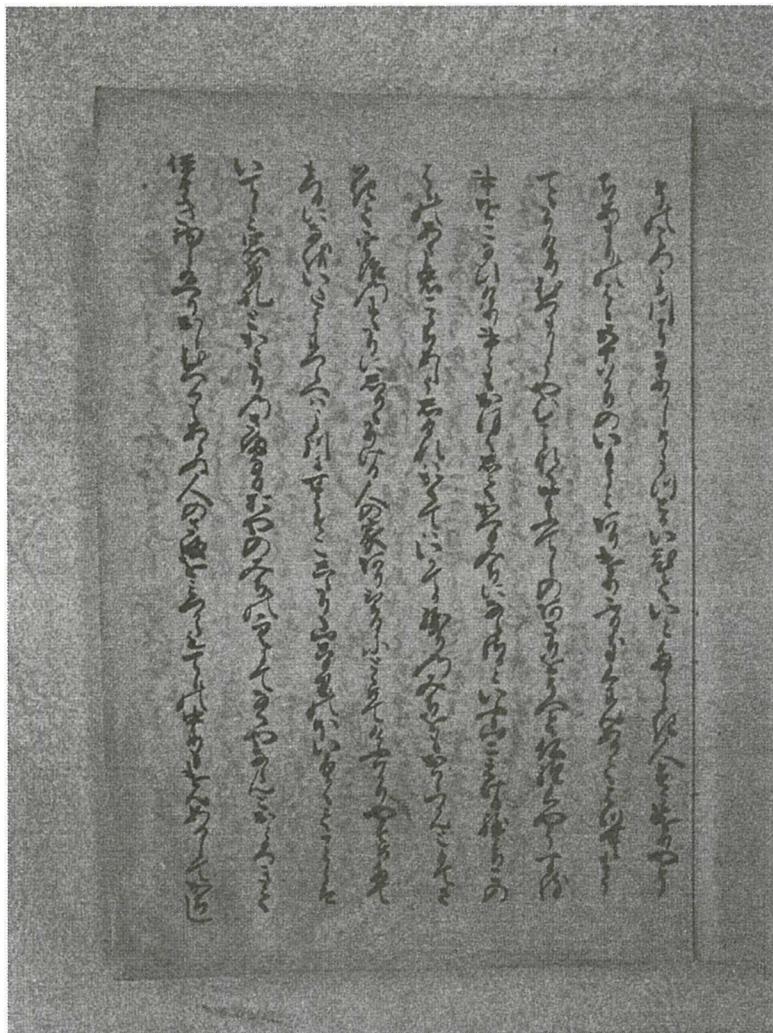
4 ひきゆるかすべければまつもむかしのとのみなかめらる  
 5 にももどよりなどのたまぶすちはまめやかにたのもしうこそ  
 6 はと人つてともなくじひなし給へるこゑいとわかやかにあいきやう  
 7 つきやさしきといろそひたりたゝなへてのかゝるすみかの人と  
 8 おもはゝじとおかしかるへきをたゝいまはいかでかばかりも人にこゑ  
 9 きかすべき物そとならひ給けんとなまうしろめたしかたちも  
 10 いとなまめかしからんかしと見まほしき氣はひのしたるをこの

**36才**

1 人そ又れいのかの御心みたるへきつまなめるとおかしうもありかたの  
 2 世やとおもひぬ給へりこれこそはかきりなき人のかしつきおぼし  
 3 たて給へるひめ君又かはかりそおぼくはあるへきあやしかりける事  
 4 はさるひしりの御あたりに山のやといふよりいてきたる  
 5 人々のかたほなるはなかりけるこそこのはかなしやからく  
 6 しやなどおもひなす人もかやうのうちみるけしきはいみしう  
 7 こそおかしかりしかとなにことにつけてもたゝかのひとつ  
 8 ゆかりをそもそもひいて給けるあやしうつらかりける  
 9 ちきりともをつへへとおもひつけなかめたまうゆふべれ  
 10 かけろふのものはかなけにとひちかふを

**36ウ**

1 ありと見て手にはとられす見ればまたゆく  
 2 愚もしさすきえしかけるふあるかなきかのと  
 3 れいのひとりこちたまぶとかや



## 1才

1 そのころよ川になにかしそうつとかいひていとたうとき人すみけりやそ  
 2 ちあまりのはゝ五十ばかりのいもうとありけりふるきへわんありてはつせにまう  
 3 てたりけりむつましうやむことなくおもふてしのあさりをそへて仏経くやうする  
 4 事をこなひけり事ともおほくしてかへるみちにならさかといふ山こえける程よりこの  
 5 はゝのあま君こゝちあしうしけれはかくてはいかてか残りのみちをもおはしつかんともてさ  
 6 はきて宇治のわたりにしりたりける人の家ありけるにとゝめてけふはかりやすめたて  
 7 まつるになをいたうわづらへはよ川にせうそこしたり山こもりのほいふかくてことしは  
 8 いてしと思けれとかきりのさまなるおやのみちの空にてなくやならんとおどろきて  
 9 いそき物し給へりおしむべくもあらぬ人のさまをみつからもてしの中にもけんあるしてかちし

## 1ウ

1 さはくを家あるしきゝてみたけさうししけるをいたう老給へる人の  
 2 をもくなやみ給ふはいかゝとうしろめたけに思ていひければさもいふへき  
 3 ことゝいとおしう思ていとせはくむつかしうもあればやうくゐてたてまつる  
 4 になかゝみふたかりてれいすみ給ふかたはいむへかりければこすざく院  
 5 の御りやうにて宇治の院といひしところ此わたりならんと思ひ出て院  
 6 もり僧都しり給へりければ二三日やとらんといひにやり給へりければ  
 7 はつせになんきのふみなまいにけるとていとあやしき宿もりのおきなをよ  
 8 ひていてきたりおはしまさははやいたつらなる院のしんてんにこそ待めれ物  
 9 まうての人はつねにそやとり給といへいとよかなりおぼやけとこるなれど

## 2才

1 人もなく心やすきをとてみせにやり給此おきなれいもかくやとる人を見ならひ  
 2 たりければおろそかなるしつらひなどしてきたりまつそうつわたり給いといたく  
 3 あれておそしけなるところかなと見給て大とこたち經よめなどのたまふ此  
 4 はつせにそひたりしあさりとおなしやうなる何事のあるにかつきゝしき程のけ  
 5 らうほうしに火ともさせて人もよらぬうしろのかたにいきたりもりかと見ゆる  
 6 木の下をうとましけのわたりやと見いれたるにしろき物のひろこりたるそ  
 7 見ゆるかれはなにそと立とまりて火をあかくなしてみれば物のゐたるすかた也  
 8 きつねのへんくゑしたるかにくし見あらはさんとてひとりはいますこし  
 9 あゆみよるいとひとりはあなようなよからぬ物ならんといひてさやうの物しり

## 2ウ

1 そくべきいんをつくりつゝさすかになをまめるかしらのかみあらはぶとくぬ  
 2 べきこゝちするに此火ともしたる大とこはゝかりもなくあふなきまにとちかく  
 3 よりてそのさまをみればかみはなかくつやゝとしておほきなる木のねのいと  
 4 あらへしきによりぬていみしうなくめつらしき事にも侍かな僧都の御はうに  
 5 御らんせさせたてまつらはやといへけにあやしき事なりとてひとりはまうてゝ  
 6 かゝる事なんと申すきつねの人へんくゑするとはむかしよりきけとまた見ぬ物なり  
 7 とてわさとおりておはすかのわたりたまはんとすることによりてけすともみなはかくしき  
 8 はみつしこるなどあるへかしき事ともをかゝるわたりにはいそく物なりければぬしつまりな  
 9 したるにたゞ四五人してこゝなる物を見るにかはる事もなしあやしうて時のうつるまで見ると

## 3才

て

1 夜も明はてなん人かなにそと見あらはさんと心にさるへきしんこんをよみいんを  
 2 つくりてこゝる見るにしるくや思ふらん是は人也さらにひさうのけしからぬ物にあらす  
 3 よりてとへなくなりたる人にはあらぬにこそあめれもしにたりける人をすてたり  
 4 けるかよみかへりたるかといふなにのさる人をか此院の内にすて侍らんたとひまことに  
 5 人なりともきつねこたまやうの物のあさむきてとりもてきたるにこそ侍へめれといひてありつる  
 6 いとふひんにも侍けるかなけからひあるへきところにこそ侍へめれといひてありつる  
 7 宿もりのをのこをよる山ひこのこたるもいとおそろしあやしのさまにひたひをしあけて  
 8 出来たりこゝにはわかき女などやすみ給かゝる事なんあるとて見すればきつねつかうまつる也  
 9 此木のもとになん時々あやしきわきなんし侍をとゝしの秋もこゝに侍人の子のふたつばかりに

## 3 ウ

1 侍しをとりてまうて來たりしかと見おどろかす侍きなどならかにいへはさてその  
 2 ちこはしにやしにしといへはりきて侍めりきつねはさこそは人ををひやかせと  
 3 ことにもあらぬやつといふさまいとなれたりかの夜ふかきまいり物のところに心を  
 4 よせたるなるへしそうつさらはさやうの物のしたるわさかなをよく見よとて此物  
 5 おちせぬほうしをよせたれば鬼か神かきつねかこたまかかはかりの天のしたのけんさのお  
 6 はしますにはえかくれたてまつらしなのり給へゝと衣をとりてひけばかほをひきいれ  
 7 ていよくなくいてあなさかなのこたまのおにやまさにかくれなんやといひつゝかほをみん  
 8 とするにむかしありけん日もはなもなかりけるめおにゝやあらんとむくつけきをたの  
 9 もしういかきさまを人に見せんと思てきぬをひきぬかせんとすればうつふして

## 4 オ

1 こゑたつばかりなくなにゝもまれあやしき事なへて世にあらしとて見てんと思ふに雨いたくふ  
 り  
 2 れ  
 3 ぬへしかきのもとにこそいたきめといふそつまことの人のかたち也そのいのちたえぬを見る  
 4 く  
 5 すてんこそいみしき事なれ池におよくいを山になく鹿をたに人にとらへられてしなん  
 6 とするを見てたすけさらんはいとかなしかるへし人のいのちひさしかるましき物なれど残りの  
 7 いのち一二日をもおしますはあるへからす鬼にも神にもりやうせられ人にをくれ人にはかり  
 8 こたれても是よこさまのしにをすへき物にこそあめれ仏のかならすすくひ給ふへきき  
 9 は也なをこゝろみにしはしゆをのませなどしてたすけこゝろみんつぬにしなはいふかきり  
 も  
 9 わづらひ給人の御あたりによからぬ物をとりいれてけからひかならすいてきなんとすともかく

## 4 ウ

1 あり又物のへんぐゑにもあれめに見すゝいける人をかゝる雨に打うしなはせんはいみしき事  
 2 なれはなど心々にいふけすなどはいとさはかしく物をうたでいひなす物なれは人さはかしから  
 ぬ  
 3 かくれのかたになんふせたりける御くるまよせており給程いたうくるしかり給とてのゝしる  
 4 すこしつまりて僧都ありつる人はいかゝなりぬるとひ給なよゝとして物もいはすいきも  
 し  
 5 侍らすなにか物に氣とられにける人にこそいふをいもうとのあま君きゝ給て何事そと  
 6 とふしかくの事をなん六十にあるとしめつらかなる物を見給へつるとのたまう打きくまゝ  
 にをの  
 7 つからにて見し夢ありきいかやうなる人そまつそのきまみんとなきてのたまふたゝ此ひんかし

8 のやり戸になん侍るはや御らんせよといへいそきゆきて見るに人もよりつかてそすて  
9 をきたりけるいとわがううつくしけなる女のしろきあやのきぬ一かさねくれなゐのはかまそ

## 5才

1 きたりけるかはいみしくかうはしくてあてなるけはひにたりなしたゝわが恋かなしふむ  
2 すめのかへりおはしたるなめりとてなくくこたちをいたしていただきいれさすいかなりつらむ  
3 ともありさま見ぬはおそろしからていたき入つけるやうにもあらてさすかにめをほのか  
4 に見あけたるに物のたまへやいかなる人かかくては物し給へるといへと物おほえぬさま也  
5 ゆとりて手つからすくい入などするにたゞよほりにたえ入やうなりければ中々いみしき  
6 わさかなとて此人なくなりぬへしかちし給へとけんさのあさりにいふされはこそあやしき  
7 御物あつかひなりとはいへとかみなとの御ために経よみつゝいのるそうつもさしのそきていか  
8 にそなにのしわさそとよくてうしてとへとへとのたまへといとよはけにきえもでいく  
9 やうなればえいき侍らしすそろなるけからひにこもりてわづらるべき事をすかに

## 5ウ

1 いとやむ事なき人にこそ侍めれしにはつともたゞにやはすてさせたまほん見くるしき  
2 わさかなといひあへりあなたま人にきかすなわづらはしき事もそあるなどくちかため  
3 つゝあま君はおやのわづらひ給よりも此人をいけはてゝ見まほしうおしみて打つけに  
4 そひゐたりしらぬ人なれどみめのこよなうおかしければいたづらになさしと見るかきりあつ  
5 かいさはきけりさすかときへ目見あけなどしつゝ涙のつきせずなかるゝをあな心うやいみ  
6 しくかなしとおもふ人のかはりに仏のみちひき給へると思きこゆるをかひなくなり  
7 たまはゝ中々なる事をやおもほんさるへき契りにてこそかく見たてまづらめなをいさゝか  
8 物のたまへといひつゝくれとからうしていき出たりともあやしきふようの人なり  
9 人に見せてよる此川におとし入給てよといきのしたにいふまれゝ物のたまうを

## 6才

1 うれしと思ふにあないみしやいかなれはかくはのたまひそいかにしてさるところにはお  
2 はしつるそととくとも物もいはずなりぬ身にもしきすなどやあらんとて見れといゝはと  
3 見ゆるところなくうつくしけれはあさましくかなしくまことに入人の心まとはさんとて出  
4 来たるかりの物にやとうたかふ二日はかりこもりぬてふたりの人をいのりかちするこゑ  
5 たえすあやしき事を思さはくそのわたりのけすなどのそうつにつかうまつりける  
6 かくおはしますなりとてとふらひ出くるも物語などしていふをきけばこ八の宮の女御  
7 右大将殿かよひ給しかことになやみ給事もなくてにはかにかくれ給へりとてさはき侍る  
8 その御さうそうのさうしともつかうまつり侍とて昨日はえまいり侍らさりしといふ  
9 さやうの人のたましゐを鬼のとりもて來たるにやと思ふにもかつ見るゝある物とも

## 6ウ

1 おほえすあやうくおそろしとおほす人々よへ見やられし火はしかことへしきけし  
2 きも見えざりしをといふことさらことそきていかめしうも侍らさりしといふけからひたる人  
3 とて立なからをひかへしつ大将殿は宮の女御もち給へりしはうせ給て年ころになりぬる  
4 物を誰をいふにかあらんひめ宮をきたてまつり給て世にこと心おはせしなといふあ  
5 ま君よろしくなりたまひぬかたもあきぬればかくうたてあることにひさしうおはせんも  
6 ひんなしとてかへる此人はなをいとよはけ也みちの程もいかゝ物したまはんと心くるしき事と  
7 いひあへりくるま一して老人のり給へるにはつかうまつるあまふたりつきのには此人をふせ  
8 てかたはらにいまひとりのりそひてみちすからゆきもやらすくるまとめてぬまいりなど  
9 し給ひえさかもとにをのといふところにそすみ給けるそこにおはしつく程いととをくも

## 7才

1 中やとりをまろくへかりけるなどいひて夜ふけておはしつきぬ僧都はおやをあ  
 2 つかひむすめのあま君は此しらぬ人をはくみてみないたきおろしつやすむ老  
 3 のやまひのいつともなきかくるしと思給へしとをみちのなこりこそはしわづら  
 4 い給けれやうくよろしうなり給にければ僧都はのほりたまひぬかる人なん  
 5 出來たるなどほうしのあまりにはよからぬ事なれば見ざりし人にはまね  
 6 はすあま君もみなくちかためさせつゝもしたつねくる人やあるとおもふもしつ心  
 7 なしいかでさるゐ中人のすむあたりにかゝる人おちあふれん物まうてなどし  
 8 たりける人のこゝちなどわづらひけんをまゝはゝなどやうの人のたはかりてをかせ  
 9 たるにやなとそ思よりける川になかしてよといひし一ことよりほかに物もさらん

## 7 ウ

1 のたまはねはいとおほつかなく思ていつしか人にもなして見むと思ふにつくくとして  
 2 おきあかる夜もなくいとあやしうのみ物し給へはつゐにいくましく人によと思なから打  
 3 すてんもいとおしういみし夢かたりもし出ではしめよりいのらせしあさりにもしのひ  
 4 やかにけしやくことせさせ給打はべてあつかふ程に四五月もすきぬいとわひしうかひ  
 5 なき事を思わひてそうつの御もとになをおり給へ此人たすけ給へさすかにけふ  
 6 までもあるはしぬましかりける人をつきしみりやうしたる物のさらぬにこそあめれ  
 7 ある仏京に出たまはゝこそあらめこゝまではあへなんなどいみしき事をかきつゝけ  
 8 てたてまつれ給へれはいとあやしき事かなかくまでありける人のいのちをやかて  
 9 打すてゝましかはさるへき契りありてこそは我しも見つけゝめ心みにたすけはてん

## 8 オ

1 かしそれにとゝまらすはこうつきにけりとおもはんおり給けりよろこひおかみて月こ  
 2 ろのありさまをかたるかくひさしうわづらふ人はむつかしき事をのつからあるへきをいさゝか  
 3 おどろへすゝときよきにねちけたるところなくのみ物し給てかきりと見えながら  
 4 もかくていきたるわざなりなどおふなくくのたまへは見つけしよりめつらかなる人の  
 5 みありさ

5 まかないとてさしのそきて見給てけにいときやうさくなりける人の御よそめいかなく  
 6 とくのむくひにこそかゝるかたちにもおい出給けめいかなるたかひめてそこなはれ給けん  
 7 もしさにやときゝあはせらるゝ事もなしやとひ給さらに聞ゆる事なしにかはつせの  
 8 くわんをんの給へる人なりとのたまへはなにかそれもえんにしたかひてこそみちひきたまはめ  
 9 たねなき事はいかてかなとのたまうかあやしかり給てすほうはしめたりおほやけのめしに

## 8 ウ

1 たにしたかはすふかくこもりたる山を出給てすそろにかゝる人のためになん  
 2 をこなひさはき給と物のきこえあらんいときゝにくかるへしとおほしてしともゝ  
 3 いひて人にきかせしとかくす僧都いてあなかま大とこたちわれむさんのほうし  
 4 にていむ事のなかにやふるかひはおほからめと女のくちにつけてまたそしりとゝめす  
 5 あやまつことなしむそちにあまりていまさらに人のもときおはんはさるへきにこそはあら  
 6 めとのたまへはよからぬ人の物をひんなくひなし侍時には仏法のきすとなり侍事也  
 7 心よからず思ていふこのすほうの程にしてし見えすはといみしき事ともをちかひ給て  
 8 夜一夜かちし給へる暁かたに人にかりうつしてなにやうの物かく人をまとはしたるそ  
 9 とありさまばかりいはせまほしうてゝしのあさりとりくにかちし給月ころいさゝかも

## 9 オ

1 あらはれさりつる物の氣でうせられてをのれはこゝまでまうてきてかくてうせられ  
 2 たてまつるへき身にもあらすむかしはをこなひせしほうしのいさゝかなる世にうらみを

とゝめてたゞよひありきし程によき女のあまたすみ給しところにすみつきてかたへはうり  
 なひてしに此人は心と世を恨給てわれいかでしなんといふ事をよるひるのたまひしに  
 たよりをえていとくらき夜ひとり物し給しをとりてし也されとくはんをんとさまかう  
 さまにはくゝみ給ければ此そつにまけたてまつりぬいまはまかりなんとのゝしるかく  
 いふはなにそとへはつきたる人物はかなきけにやはかゝしもいはすさうしみの  
 こゝちはさはやかにいさゝか物おほえて見まはしたれはひとりも見し人のかほはなくて  
 みな老ぼうしゆかみおどろへたる物のみおほかれはしらぬ国に来にけるこゝ地して  
 いとかなしありしよの事思ひ出れとすみけんところ誰といひし人とたにたしかに

## 9ウ

1 はかゝしもおほえすたゞ我はかきりとて身をなげし人そかしいづくにきたるにかと  
 2 せめて思ひ出れはいといみしと物を思なげきてみな人のねたりしにつま口をはなちて  
 3 出たりしに空はいとくらくてほしのひかりたに見えざりしに風はけしう川なみも  
 4 あしうきこえしをひとり物おそろしかはきしかたゆくさきもおほえてすのこのはしに  
 5 あしをさしむろしなからいくべきかたもまとはれてかへりいらんも中空にて心つよく  
 6 此世にうせなんと思立しををこかましうて人に見つけられんよりは鬼もなにも  
 7 くいうしなへといひつゝつゝとぬたりしをいときよけなるおとこのよりきていたまへ  
 8 をのかもとへといひていたくこゝあのせしを畠ときこえし人のおはしし給ふとおほえ  
 9 し程よりこゝちまとひにけるなめりしらぬところにすべをきて此おとこは  
 10 きえうせぬと見しをつゐにかくほいのこともせずなりぬると思つゝいみしうなくと思し

## 10オ

1 程にそのゝちの事はたえていかにもくおほえす人のいふをきけばおほくの口ころもへに  
 2 けりいかにうきさまをしらぬ人にあつかはれ見えづらんとはつかしうにかくていきかへり  
 3 ぬるかとおもふもくちおしければいみしうおほえて中々しつみ給へる口ころはうつしこゝも  
 5 3 1 6 9 1

4 なきさまにて物のいさゝかまいる事もありつるを露はかりのゆをたにまいらすいかなれ  
 5 はかくたのもしけなくのみはおはするそ打はへぬるみなしとし給へる事はさめ給てさはやか  
 6 に見え給へはうれしう思聞ゆるをとなくくたゆむおりなくそひぬてあつかひきこえ給ふ  
 7 ある人々もあたらしき御さまかたちを見れば心つくしてそおしみまもりける心にはなを  
 8 いかでしんどそ思わたり給へとさはかりにていきとまりたる人のいのちなれはいと  
 9 しゆうねくてやうくかしらもだけ給へは物まゝりなどし給にそ中々おもやせもてゆく  
 10 いつしかどうれしう思聞ゆるにあまになし給てよさてのみなんいくやうもあるへきと

10ウ

1 のたまへはいとおしけなる御さまをいかてかさはなしたてまつらんとてたゞいたゞ  
 2 はかりをそき五かいはかりをうけさせたてまつる心もとなけれどもとよりおれく  
 3 しき人の心にてえさかしくしゆてものたまはす僧都はいまはかはかりにていたはり  
 4 やめたてまつり給へといひをきてのほりたまひぬ夢のやうなる人を見たてま  
 5 つるかなとあま君はよろこひてせめておこしすへつゝ御くしてつかれけつり給ふ  
 6 さはかりあさましうひきゆひて打やりつれといたうもみたれすすきはてた  
 7 れはつやくしとけふら也一とせたらぬつくもかみおほかるところにてめもあやに  
 8 いみしき天人のあまくたれるを見たらんやうにおもふもあやうきこゝちすれど  
 9 などかいと心うくかはかりいみしく思聞ゆるも御心をへたては見え給いづくに誰と  
 10 きこえし人のさるところにはいかておはせしそとせめてとるをいとはつかしと

1 思てあやしかりし程にみなわされたるにやあらんありけんさまなどもさうに  
 2 おほえ侍らすたゞほのかに思ひ出る事とてはたゞいかて此世にあらしと思つゝ  
 3 夕暮ことにはしちかくてなかめし程にまへちかくおぼきなる木のありししたより  
 4 人の出きてゐていくこゝちなんせしそれよりほかの事は我ながら誰ともえ思  
 5 出られ侍らすといとらうたけにいひなして世中になをありけりといかて人  
 6 にしられし聞つくる人もあらはいといみしうこそとてない給あまりとふをはぐ  
 7 るしとおぼしたればえとはすかくやひめを見つけたりけん竹とりのおきなよりもめつ  
 8 らしきこゝちするにいかなる物のひまにきえうせんとすらむとしつ心なくそおぼしける  
 9 此あるしもあてなる人なりけりむすめのあま君はかんたちめの北のかたにてありけるかそ  
 10 の人なくなり給て後むすめたゞひとりをいみしくかしつきてよき君たちをむこに

**11ウ**

1 して思あつかひけるをそのむすめの君のなくなりにければ心うしいみしと思いつゝ  
 2 かたちをもかへかゝる山里にはすみはしめたる也夜とともに恋わたる人のかた見にも  
 3 思よそへつへからん人をたに見いてしかなつれくも心ほそきまゝに思なけきけるをかくおぼ  
 4 えぬ人のかたけはひもまさりさまなるをえたればうつゝの事ともおぼえすあやしきこゝち  
 5 しなからうれしと思ひねひにたれどいときよけによしありてありさまもあてはか也むかしの  
 6 山里よりは水の音もなこやか也つくりさまゆへあるところの木立おもじろへせんきひもおかし  
 く  
 7 ゆへをつくしたり秋になりゆけば空の氣しきもあはれ也かと田のいねかるとてところにつけた  
 る  
 8 物まねひしつゝわかき女ともはうたうたひけうしあへりひたひきならず音もおかしく見しあつ  
 ま  
 9 ちの事なども思ひ出られてかの夕霧のみやすむところのおはせし山さとよりはいますこし  
 10 いりて山にかたかけたる家なれば松かけしけく風の音もいと心ほそきにつれくにをこ

**12オ**

1 なひをのみしつゝいつとなくしめやか也あま君そ月などあかき夜はきんなどひき給  
 2 少将のあま君などいふ人はひわなどしつゝあそぶかゝるわきはし給ふやつれくなるになとい  
 ふ  
 3 むかしもあやしかりける身にて心のとかにさやうの事すへき程もなかりしかはいさゝか  
 4 おしきさまならすもおい出にけるかなとくさだすきにける人の心をやかめるおりく  
 5 についてはおもひいつなをあきましく物はかなかりけると我ながらくちおしければ手ならひに  
 6 身をなげしなみたの川のはやきせをしからみかけて  
 7 たれかどゝめし思のほかに心うければゆくすゑもうしろめたくうとましきまで  
 8 思やれる月のあかき夜なゝおい人ともはえんにうたよみいにしへ思ひ出づ  
 9 さまゝ物語などするにくらうべきかたもなけれはつくゝとうちながめて  
 10 われかくてうき世の中にめくるともたれかはしらむ

1 月のみやこにいまはかきりと思し程は恋しき人おばかりしかとみゝはさしも  
 2 思ひ出られすたゞおやいかにまとひ給けんめのとのとよろつにいかて人なみくに  
 3 なさんと思ひられしをいかにあへなきこゝ地しけんいつこにあらんわれ世にある物とは  
 4 いかでかしらむおなし心なる人もなかりしまゝによろつへたつる事なくかたらひ見  
 5 なれたりし右近などもおりくは思ひ出らるわかき人のかゝる山さとにいまはと  
 おもひたゞこもるはかたきわざなりければたゞいたく年へにけるあま七

**12ウ**

7 八人そつねの人にてはありけるそれらかむすめむまこやうの物とも  
 8 京に富つかへするもことさまにてあるもときくそきかよひけるかやうの  
 9 人につけて見しいきかよひをのつから世にありけりと誰もへきかれたて  
 10 まつらん事いみしくはつかしかるへしいかなるさまにてさすらへけんなど思やり

## 13才

1 よつかすあやしかるべきをおもへはかゝる人々にかけても見えすたゝしう  
 2 こもきとてあま君のわか人にしたりけるふたりをのみそ此御かたにいひわけ  
 3 たりけるみめも心さまもむかし見しみやこ鳥にたるはなし何事につけ  
 4 ても世中にあらぬところは是にやあらんとそかつは思なされるかくのみ  
 5 人にしられしとしのひ給へはまことにわづらはしかるへきゆへある人に物したまはらん  
 6 とてくはしき事ある人々にもしらせすあま君のむかしのむこの君いまは中将に  
 7 物し給けるおとうとの禅師の君そうつの御もとに物し給けるか山こ  
 8 もりしたるをとあらひにはらからのかんたちつねにのほりけりよ川にかよふみ  
 9 ちのたよりによせて中将こゝにおはしたりさきうちをひてあてやかなるおとこ  
 10 の入くるを見いたしてしのひやかにおはせし人の御さまけはひそさやかに思ひ

## 13才

1 出らるゝ是もいと心ほそきすまゐのつれ／＼なれとすみつきたる人々は物き  
 2 よけにおかしうしなしてかきほにうへたるなてしこもおもしろくをみなへしきぢ  
 3 かうなどさきはしめたるに色々のかりきぬすかたのをのことものわかきあまたして  
 4 君もおなしさうそくにてみなみおもてによひすへたれば打なかめてゐたりとし  
 5 二十七八の程にてねひとゝのひ心なからぬさまもてつけたりあま君さう  
 6 しくちにきちやうたてゝたいめんし給まつ打なきて年ころのつもりにはすき  
 7 にしかたいとゝ氣とをくのみなん侍を山里のひかりになをきこえさする事の打  
 8 わすれすやみ侍らぬをかつはあやしく思給ふるとのたまへは心のうちあはれにすき  
 9 にしかたの事とも思給へられぬおりなきをあなかちにすみはなれかほなる御あり  
 10 さまにをこたりつゝなん山こもりもうちやましうつねに出たち侍をおなしく

## 14才

1 はなとしたひまとはざるゝ人々にさまたけらるゝやうに侍てなんけふは  
 2 みなはふきすてゝ物し給へるとのたまふ山こもりの御うちやみは中々いま  
 3 やうたちたる御物まねひになんむかしをおぼしわすれぬ御心はへも世に  
 4 なひかせたまはさりけるとをろかならす思給へらるゝおりおほくなといふ人々に  
 5 水はんなとやうの物ぐはせ君にもはすのみなとやうの物いたしたれはなれ  
 6 にしあたりにてさやうの事もつゝみなきこゝ地して村雨のふり出るにとめられて  
 7 物語しめやかにし給いふかひなくなりにし人よりも此君の御心はへなどのいとお  
 8 もふやうなりしょよその物に思なしたるなんいとかなしぎなどわすれひを  
 9 たにとゝめたまはすなりにけんと恋しのふ心なりければ玉さかにかく物し給へる  
 10 につけてもめつらしくあはれにおほゆへかめるとはすかたりもし出づへし

## 14才

1 ひめ君は我は我と思ひ出るかたおほくてながめいたし給へるさまじどうつくし  
 2 しろきひとへのいとなさけなくあさやきたるにはかまもひわた色にならひたる  
 3 にやひかりも見えすぐろきをさせたてまつりたればかゝる事ともゝ見しには  
 4 かはりてあやしうもあるかなと思つゝこはへしういらゝきたる物ともき給へる  
 5 しもいとおかしきすかた也御まへなる人々こひめ君のおはしたるこゝちのみし給

6 に中将殿をさへ見たてまつれはいとあはれにこそおなしくはむかしのさまにてお  
 7 はしまさせはやいとよき御あはひならんかしといひあへるをあないみしや世に  
 8 ありていかにもく人に見えむこそそれにつけてそむかしの事思ひ出ら  
 9 るべきやうのすちは思たえすわすれなんとおもふあま君いり給へる  
 10 まにまうとあめの氣しきを見わづらひて少将といひし人のこゑを

## 15才

1 聞しりてよひよせ給へりむかし見し人々はみなこゝに物せらるらんやとお  
 2 もひながらもかうまいりくる事もかたくなりにたるを心あさきにや誰もく  
 3 見なし給ふらんなどのたまふつかうまつりなれにし人にてあはれなりしむかし  
 4 の事ともゝおもひ出たるついてにかのらうのつままいりつる程風のさはかし  
 5 かりつるまぎれにすたれのひまよりなべてのさまにはあるましかりつる人の  
 6 打たれかみの見えつるは世をそむき給へるあたりに誰そとなん見おどろ  
 7 かれつるとのたまふひめ君のたち出給へりつるうしろて見給へりけるなめりと  
 8 思てましてこまかに見せたらは心とまり給なんかしむかし人はいとこよ  
 9 なうをとり給へりしをたに名残までまたわすれかたくなさめかね給めりし程に  
 10 心一に思てすきにし御事をわすれかたくなさめかね給めりし程に

## 15ウ

1 おほえぬ人をえたてまつりたまはて明暮のみ物に思きこえ給ふめるをと  
 2 打とけ給へる御ありさまをいかて御らんしつらんといふかゝる事こそはありけれど  
 3 おかしくてなに人ならんけにいとおかしかりつとほのかなりつるを中々  
 4 おもひいつこまかにとへとそのまゝにもいはすをのつからきこしめし  
 5 いてんとのみいへは打つけにとひたつねんもさまあしきこゝ地して雨  
 6 もやみぬ日も暮ぬへしといふにそゝのかされて出給まへちかきをみ  
 7 なへしをおりてなににほふらんとくちすさひてひとりこちたてり  
 8 人物いひをさすかにおほしとゝむることなどこたいの人ともは物めてを  
 9 しあへりいときよけにあらまほしくもねひまさり給にけるかなおなしくはむ  
 10 かしのやうにても見たてまつらはやとてとう中納言の御あたりにはたえす

## 16才

1 かよひ給ふやうなれと心もとゝめたまはすおやの殿かちになん物し給ふといふ  
 2 なれとあま君ものたまひて心うく物をのみおほしへたてたるなんいとづらき  
 3 いまはなをきるへきなめりとおほしなしてはれくしくもてなし給へ此五とせ六  
 4 とせ時のまもわすれす恋しくかなしと思つる人のうへもかく見たてまつりて後より  
 5 はこよなく思わすれにて侍思きこえ給るへき人々世におはすともいまは世だ  
 6 なき物にこそやうくおほしなりぬらめよろつの事さしあたりたるやうにはえしも  
 7 あらぬわさになんといふにつけてもじとゝ涙ぐみてへたて聞ゆる心は侍らねどあ  
 8 しくていきかへりける程によろつの事夢のやうにとどられてあらぬ世にむま  
 9 れたらん人はかゝるこゝちやすらんとおほえ侍ればいまはしるへき人世にあらん  
 10 とも思いてすひたみちにこそむつましく思きこゆれとのたまふさまに

## 16ウ

1 けになに心なくうつくし打ゑみてそまもりみ給へる中将は山におはしつき  
 2 てそうつもめづらしかりて世中の物語し給ふその夜はとまりてこゑたうとき  
 3 人々に経などよまさせて夜一夜あそひ給せんしの君こまかなる物語など  
 4 するついてに小野に立よりて物あはれにもありしかな世をすてたれと

5 なをさはかりの心はせある人かたうこそなるついてに風の吹あけ  
 6 たりつるひまよりかみいとなかくおかしけなる人こそ見えつれあらはなり  
 7 とや思つらんたちてあなたに入つるうしろてなべての人とは見えさりつ  
 8 さやうのところによき女はをきたるましき物にこそあめれ明暮みる物

9 はほうし也をのつからめなれておほゆらんふひんなる事そかしとのたまひせん  
 10 しの君此春はつせにまうてゝあやしくて見いてたる人となん聞侍して

### 17才

1 見ぬ事なればこまかにはいはすあはれなりける事かないかなる人にかあらん世中  
 2 をうしとてそざるといりにはかくれぬけんかしむかし物語のこゝ地もするかなと  
 3 のたまう又の日かへり給にもすきかたくなんとておはしたりさるべき心つかひしたりけれ  
 4 はむかし思ひ出だる御まかなひの少将のあまなとも袖くちさまことなれともおか  
 5 しいといやめにあま君は物し給物語のつしてにしのひたるさまに物し給ふらん  
 6 は誰にかとどひ給わづらはしけれとほのかにも見つけ給てけるをかくしかほな  
 7 らむもあやしとてわすれわひ侍ていとゝつみふかうのみおほえ侍つるなくさめにこの  
 8 月ころ見給ふる人になんいかなるにかいと物おもひしけさまにて世にありと人にじら  
 9 れん事をくるしけに物せらるれはかゝる谷のそこにはたれかはたつねきこえむと  
 10 思つゝ侍をいかてかは聞あらはさせ給つらんといらう打つけこゝろありてまいり

### 17ウ

1 こんにたに山ふかきみちのかことはきこえつへしましておほしよそふらむ  
 2 かたにつけてはことにくへたて給ましき事にこそはいかなるす中に世を恨  
 3 給ふ人にかなくさめきこえはやなどゆかしけにのたまひ出給とてたゞうかみに  
 4 あたし野の風になびくなをみなへしわれしめやはん  
 5 みちとをくともとかきて少将のあましていれたりあま君も見給て此御返  
 6 かゝせ給へといと心にくきけつき給へる人なればうしろめたくもあらしとそゝのかせは  
 7 いとあやしき手をはいかてかとてさらにはたまはねはしたなき事なりとてあま  
 8 きみきこえさせつるやうによつかす人ににぬ人にてなん  
 9 うつしうべておもひみたれぬをみなへしうき世をそむく  
 10 草のいほりにとありこたみはさもありぬへしと思ゆるしてかへりぬ文などやらんは

### 18才

1 さすかにうゐくしうほのかに見しさまをわすれす物思ふらんすち何事とこら  
 2 ねとあはれなれば八月十余日の程に小たかりのついてにおはしたりれいのあま  
 3 よひ出で一め見しよりしつ心なくてなんとのたまへりいらへ給ふへくもあらねは  
 4 あま君まつちの山のとなん見給ふるといひいたし給たいめんし給へるにも心ぐる  
 5 しきさまにて物し給と聞侍し人の御うへなん残りゆかしく侍何事も心にかなはぬ  
 6 こゝちのみし侍は山すみもし侍らまほしき心ありながらゆるい給ましき人々に  
 7 思さはりてなんすくし侍世にこゝ地よけなる人のうへはかくしたる人の心からにや  
 8 ふさはしからすなん物おもひ給ふらん人に思ふ事をきこえはやなどいと心とゝめたるさまに  
 9 からひ給こゝちよけならぬ御ねかひはきこえかはしたまはんにつきなからぬさまになん  
 10 見侍れどれいの人にてはあらしといどうたゝあるまで世をうらみ給ふめれは残りすくなき

### 18ウ

1 よはひの人たにいまはとぞみき侍時はこめたるさかりにはつゐにいかゝとなん見  
 2 給へ侍とおやかりていふりてもなきこえ給へかゝる御  
 3 すまゐはすゝろなる事もあはれしこそよのつねの事なれなとこしらへても

4 いへと人に物聞ゆらんかたもしらす何事もいふかひなくのみこそどいとつれなくて  
 5 ふし給へりまらうとはいづらあな心う秋を契れるはすかし給にこそありけれなど恨つ、  
 6 松むしのこゑをたつねて来つれともまたはきはらの  
 7 露にまとひぬあととおし是をたなとせむれどさやうによついたらん事いひい  
 8 てんもいと心うく又いひそめではかやうのおりくにせめられんもむつかしうおほゆればい  
 9 らへをもしたまはねはあまりいふかひなく思あへりあま君はやうはいまめきたる人にそ  
 10 ありける名こりなるへし

## 19才

秋の野の露わけきたるかりころもむくらじける

1 宿にかこつなどなんわつらはしかりきこえ給ふめるといふをうちにもなをかく心より  
 2 ほかに世にありとしられはしむるをいとくるしとおほす心のうちをはすらておとこ  
 3 君をもあかす思ひ出つゝ恋わたる人々なれはかくはかなきついてにも打かたらい  
 4 きこえたまはんに心よりほかによにうしろめたくは見えたまはぬ物をよのつねなる  
 5 すちにはおほしけすともなさけながらぬ程に御いらへはかりはきこえ給へかしなど  
 6 ひきうこかしつへくいふさすかにかゝるこたいの心ともにはありつかすいまめき  
 7 つゝこしおれうたこのましけにわかやくけしきともはいとうしろめたうおほゆ  
 8 かきりなく憂身なりけりと見はてゝしいのちさへあさましうなかくていかなる  
 9 さまにさすらふへきならんひたぶるになき物と人に見聞すてられてもやみな  
 10 さまにさすらふへきならんひたぶるになき物と人に見聞すてられてもやみな

## 19ウ

1 はやと思ふし給へるに中将は大かた物おもはしき事のあるにやいといたう打なけきつゝ  
 2 しのひやかにふえを吹ならして鹿のなくねになとひとりこつけはひまことに  
 3 こゝ地なくはあるましきにしかたの思ひ出らるゝにも中々心つくしにいまはしめて  
 4 あはれとおほすへき人はたかたければ見えぬ山路にも思なすましうなんと  
 5 うらめしけにて出なんとするにあま君などあたらよを御らんしさしつるとてゐさり  
 6 出給へりなにかをちなる里もこゝろみ侍はなといひすさひていたうすき  
 7 かましからんもさすかにひんなしいとほのかに見えしさまのめとまりしはかりつれく  
 8 なる心なくさめに思ひ出づるをあまりもてはなれおくふかなるけはひもところのさま  
 9 にあはすすさましとおもへはかへりなんとするを笛のねさへあかすいとゝおほえて  
 10 ふかき夜の月をあはれと見ぬ人や山のはちかき

## 20才

1 宿にとまらぬとなまかたはなる事をかくなんきこえ給ふといふに心ときめきて  
 2 山のはにいるまで月をながめ見むねやのいたまを  
 3 しるもありやとなどいふに此おほあま君ふえのねをほのかに聞つけたりければ  
 4 さすかにめてゝ出来たりこゝかしこ打しはふきあさましきわなゝきこゑにて中々  
 5 むかしの事などもかけていはず誰とも思わかぬなるへしいてそのきんのことひき  
 6 給へよ笛は月にはいとおかしき物そかしいつらくそたちこととりてまいれといふ  
 7 それなめりとをしあかりにきけといかなるところにかゝる人いかでこもりぬたらむ  
 8 さためなき世そ是につけてあはれるはんしきてうをいとおかしくふきていつら  
 9 さらはとのたまふすめあま君はもよき程のすき物にてむかし聞侍しよりも  
 10 こよなうみゝからにやとていてや是はひかことになりて侍らんといひながらひく

## 20ウ

1 いまやうはおさへなへての人のいまはこのますなり行物なれば中々  
 2 めつらしくあはれに聞ゆ松風もいとよくもてはやす吹あはせたる笛のねに

3 月もかよひてすめるこゝぢすれはいよ／＼めてられてよひまとひもせすおき

4 みたり女はむかしはあつま琴をこそはこともなくひき侍しかといまの世にはかはり  
5 にたるにやあらん此僧都の聞にくし念佛よりほかのあたにわさなせそとはした

6 なめられしかはなにかはとてひき侍らぬ也さるはいとよくなることも侍りといひつゝけて  
7 いとひかまほしと思たれはいとしのひやかに打わらひていとあやしき事をもせいし

8 きこえ給けるそうつかな極樂といふなるところにはほさつなともみなかゝる事をして  
9 天人などもまひあそぶこそたうとかなれをこなひまきれつみうべき事かはこよひ聞侍ら

10 はやとすかせはいとよしと思ていて殿もりのくそあつまどりてといふにもしほふきはたえす

## 21才

1 人々は見くるしとおもへと僧都をさへうらめしけにうれへていひきかすればことおしくてまか  
せ

2 たりとりよせてたゞいまの笛のねをもたつねすたゞをのか心をやりてあつまのしらべを  
3 つまさはやかにしらふること物はこゑをやめつるを是をのみめてたると思てたけふぢ  
4 ちりへたりたんなとかきかへしはやりかにひきたることはともわりなくふるめき  
5 たりいとおかしういまの世にきこえぬことはこそはひき給けれとほむれはみゝほのへ  
6 しくかたはらなる人にとひ聞いていまやうのわかき人はかやうなる事をそゝこのま  
7 れさりけるこゝに月ころ物し給めるひめ君かたちいとけうらに物し給めれともばら  
8 かゝるあたわさなどしたまはすむもれてなん物し給めると我かしこに打あさわら  
9 ひてかたるをあま君などはかたはらいたしとおほす是にことみなさめてかへり給程も  
10 山おろし吹てきこえくる笛のねいとおかしうきにえでおきあかしたる

## 21ウ

1 ひとめてよへはかた／＼心みたれ侍しかはいそきまかて侍し  
2 わすられぬむかしのこともふえ竹のつらきふしにも  
3 ねそなかれけるなをこしおほししるはかりをしへなさせ給へしのはれ  
4 めへくはすち／＼しきまでもなにかはとあるをいと／＼わひたるはなみた  
5 とゝめかたけなる氣しきにてかきたまう

6 箫の音にむかしのこともしのはれてかへりしほとも

7 袖そぬれにあいやしう物思しらぬにやとまで見侍ありさまはおひ人のとは  
8 すかたりにきこしめしけむかしとありめつらしからぬも見どころなきこゝち  
9 して打をかれんかし荻の葉にをとらぬほと／＼にをとつれわたるいと  
10 むつかしうもあるかな人の心はあなかちなる物なりけりとみしりにしおり／＼もやう／＼

## 22才

1 思ひ出るまゝになをかゝるすちのこと人にも思はなすべきさまにとくなし  
2 給てよとて経ならひてよみ給こゝろの中にもねんし給へりかくよろつにつけて  
3 世中を思すつれはわかき人とておかしやかなる事もことなくむすぼゝれたん  
4 ほんしやうなめりと思ふかたちの見るかひありうづくしきによろつのとかめゆる  
して明暮のみ物にしたりすこし打わらひ給おりはめつらしくめてたき物に  
5 おもへり九月になりて此あま君はつせにまうづ年こりいと心ほそき身に  
6 恋しき人のうへも思やまれざりしをかくあらぬ人ともおほえたまはぬなくさめをえた  
8 れはくはんをんの御しるしうれしとてかへりまうしたちてまうて給なりけりいさ給へ人  
9 やほしらんとするおなしほとけなれとさやうのところにをこなひたるなんじるしありて  
10 よきためしおほかるといひてそゝのかしたつれとむかしはゝ君めのとなどのかやうに

## 22ウ

1 いひしかせつゝたひくまうてきせしをかひなきにこそあはれいのちさへ心にかな  
 2 はすたくひなくいみしきめを見るはどいと心うきうちにもしらぬ人にくしてさるみちの  
 3 ありきをしたらんよと空おそろしくおほゆ心こはきさまにはいひもなさてこゝちのいと  
 4 あしうのみ侍ればさやうならんみちの程にもいかゝなとつゝましうなんとのたまう物をちは  
 5 さもし給ふへき人そかしとおもひてしむてもいざなはす

6 はかなくて世にある川のあちせにはたつねもゆかし  
 7 一もとの杉と手ならひにましりたるをあま君見つけて二本は又もあひき  
 8 こえんと思給人あるへしとたはふれことをいひあてたるにむねつふれておも  
 9 てあかめ給へるものいとあいきやうつきうつくしけなり

10 ふる川の杉のもとたちしらねともすきにし人に

### 23才

1 よそべてそ見る事なる事なきいらへをくちとくいふしのひてといへはみな人  
 2 したひつゝこゝには人すくなておもはせんを心くるしかりて心はせある少将左  
 3 衛門とてあるおとなしき人わらはばかりそとゝめたりけるみな出たちけるをなか  
 4 め出であさましき事を思ながらもいまはいかゝはせんとたのもし人におもふ人  
 5 ひとり物したまはぬは心ほそくもあるかなといとつれゝなるに中将の御文あり御らん  
 6 せよといへと聞もいれたまはすいとゝ人も見えすつれゝときしかたゆくさきを  
 7 思くむし給ふくるしきまでもながめさせ給ふかな御暮うたせ給へといふいとあやしう  
 8 こそはありしかはとのたまへとうたむとおぼしたれはほんとりにやりて我はと思て  
 9 せんせさせたてまつりたるにいとこよなけれは又てなをしてうつあまうへにと  
 10 うかへらせたまはなん此御こ見せたてまつらんかの御こそいとつよかりしそうつの

### 23才

1 君はやうよりいみしうこのませ給てけしうはあらすとおぼしたりしをいときせい  
 2 大とこになりてさし出てこそうたさらめ御こにはまけしかしどきこえ給しに  
 3 つゐに僧都なん二まけ給しきせいか暮にはまさらせ給ふへきなめりあな  
 4 いみしとけうすればまたすきたるあまひたいのみつかぬに物このみするにむつ  
 5 かしき事もしそめてけるかなと思ってこゝちあしとてふしたまひぬ時々はれゝしう  
 6 もてなしておはしませあたら御身をいみしうしつみてとてなさせ給こそくちお  
 7 しく玉にきすあらんこゝちすれといふ夕暮の風の音もあはれなるにおもひ  
 8 いつる事おほくて

9 こゝろには秋のゆふへをわかねともなかむる袖に

10 露そみたるゝ月さし出ておかしき程にひる文ありつる中将おはしたりあな

### 24才

1 うたてこはなにそとおほえ給へはおくふかく入給をさもあまりにもおはします  
 2 物かな御心さしの程もあはれまするおりにこそ侍めればのかにもきこえたま  
 3 はん事もきかせ給ふへしみつかんことのやうにおぼしめしたることなどいふにいと  
 4 はしたなくおほゆおはせぬよしをいへとひるのつかひの一とこゑなどとひ聞  
 5 たるなるへしいと事おほくうらみて御こゑもきゝ侍らしたゝ氣ぢかぐ  
 6 てきこえむことをきゝにくしともおほしことはれとよろつにいひわひて  
 7 いと心うぐとこゑにつけてこそ物のあはれもまされあまりかゝるはなどあはめつゝ  
 8 やまさとの秋の夜ふかきあはれをものおもふ人は  
 9 おもひこそしれをのつから御心もかよひぬへきをなとあれはあま君おはせ  
 10 てまきらはし聞ゆへき人も侍らすいとよつかぬやうならんとせむれば

## 24ウ

うき物とおもひもしらですべくす身を物おもふ人と  
 2人はしりけりわさといふともなきをきゝてつたへ聞ゆれはいとあはれと  
 3思てなをたゞいさゝか出給へときこえうこかせと此人々をわりなきまで  
 4うらみ給あやしきまでつれなくそ見えさせ給やとてりて見ればかり  
 5そめにもさしのそきたまはぬおい人の御かたにいり給にけりあさましう思  
 6てかくなんと聞ゆればかるところになかめ給ふらん心のうちのあはれに大かた  
 7のありさまなどもなさけなかるましき人のいとあまり思しらぬ人よりもけに  
 8もてなし給めるこそそれも物こりし給へるかなをいかなるさまに世を恨でいつ  
 9までおはすへき人そなどありさまとひていとゆかしけにのみおほひたれどこ  
 10まかなる事はいかてかいひきかせむたゞりきこえ給ふへき人の年ころは  
 11うとくしきやうにてすくし給しをはつせにまうてあひ給てたづねきこえ

## 25オ

1 給へるとそいふひめ君はいとむつかしどのみきくおい人のあたりにうつふしきへといも  
 2 ねられすよひまとひはえもいはすおとろくしきいひきしつゝまへにも打すかひたる  
 3 あまともふたりあしておとくしといひきあはせたりいとおそろしうこよひ此人々にや  
 4 くはれなんとおしからぬ身なれとれいの心よはさはひとつはしあやうかりてかへりき  
 5 たりけん物のやうにわひしくおぼゆこもきともにゐておはしつれと色めきて此めつ  
 6 らしきおとこのえんたちゐたるかたにかへりいにけりいまやくるくと待ゐたてまつ  
 7 れといとはかなきたのもし人なりや中将いひわづらひてかへりにければいとな  
 8 さけなくもれてもおはしますなあたら御かたちをなどそしりてみな一ところに  
 9 ねぬ夜中はかりにやなりぬらんとおもふ程にあま君しはふきおぼゝれておきに  
 10 たりほかにかしらつきはいとしらきにぐるき物をかつきて此君のふし給へるあや

## 25ウ

1 しかりていてちとかいふなる物かさるわざするひたいに手をあてゝあやしは誰そと  
 2 しうねけることゑにて見をこせたるさらにたゞいまくひてんとするとそおぼゆる鬼の  
 3 とりもてきげん程は物のおぼえさりければ中々心やすしかさまにせんとおぼゆる  
 4 むつかしさにもいみしきさまにていきかへり人になりてまたありしにまさる色々のうき事  
 5 を思みたれむつかしともおそろしとも物をおもふよしなましかは是よりもおそろしけなる  
 6 物の中にこそはあらましかと思やるむかしよりの事をまとられぬまゝにつねよりも  
 7 思つゝくるに心うくおやときこえん人の御かたちも見たてまつらすはるかかる  
 8 あつまをかへるゝ年月をゆきて玉さかにたつねよりてうれしたのもしと思きこえし  
 9 はらからの御あたりもおもはすにてたえすぎさるかたに思ため給し人につけて  
 10 やうく身のうさをもなくさめつへきはめにあさましもとそこなひたる

## 26オ

1 身を思もてゆけは富をすこしもあはれと思きこえん心そいとけしからぬたゞ  
 2 此人の御ゆかりにさすらへぬるそとこ鷗の色をためしに契り給しをなとておかしと  
 3 思きこえんとこよなくあきにたるこゝちすはしめよりうすきなからものとやかに  
 4 物し給し人は此おりかのおりなと思ひ出るそこよなかりけるかくてこそありけれときゝ  
 5 つけられたてまつらんはつかしさは人よりまさりぬへしさすかに此世にはありし御さまを  
 6 よそながらたにいつかは見んすると打思なをわろの心やがくたにおもはしなと心一を  
 7 かへさまからうして鳥のなくを聞いていとうれしはゝの御こゑを聞たらんはまして  
 8 いかならんと思あかしてこゝ地もいとあし友にてわたるべき人もとみにこねはなをふし

9 給へるにいひきの人はいととくおきてかゆなどむつかしき事をもてはやして御まへに  
 10 とくきこしめせなどよりきていへとまかなひもいど心つきなくうたで見しらぬ心して  
**26ウ**

1 なやましくなんことならひ給をしゆていふもいとこちなしけすへしきほうはら  
 2 などあまたきて僧都けふおりさせ給ふへしなとにはかにはとどるなれば一品の宮  
 3 の御物のけになませ給けるを山のさすみすほうつかまつらせ給へとなを僧都まい  
 4 らせたまはてはしるしなしとて昨日一ところなんめし侍し右大臣殿の少将よへ  
 5 夜ふけてなんのほりおはしましてきさいの宮の御文など侍ければおりさせ給なりなと花  
 6 やかにいひなすはつかしくともあひてあまになし給てよといはんさかしら人すべくて  
 7 よきおりにこそとおもへはおきてこゝちのいとあしうのみ侍を僧都のおりさせ給へらんに  
 8 いむ事うけ侍らんとなん思侍をさやうにきこえ給へとかたらひ給へとほけくしう打うな  
 9 つくれいのかたにおはしてかみはあま君のみけつり給をこと人に手ふれさせんもうたて  
 10 おほゆるにてつかはたえせぬ事なれはたゞすこしどきくたしてかゝみなど見給てお

**27オ**

1 とろへにたりおやにいま一たひかうながらのさまを見えすなりなんこそ人やりならす  
 2 いとかなしけれいたうわづらひしけにやかみもすこしおちほそりたるこゝちすれど  
 3 なにはかりもおどろへすいとおぼくて六しやくはかりなるすゑなどそいとうつくしかりける  
 4 すぢなどいまこまかにうつくしけ也かゝれとてしもとひとりこちゐ給へり暮かたに  
 5 そうつ物し給へりみなみおもてはらひしつらひてまるなるかしらつきゆきちかひさはき  
 6 たるものいにかはりていとおそろしきこゝ地すはゝの御かたにまいり給ていかにそ月  
 7 ころはなどいふひんかしの御かたは物まゝてし給にきとかこのおはせし人はなを物し  
 8 給ふやなどとひ給しかこゝにとまりてなんこゝちあしとこそ物し給ていむ事うけた  
 9 てまづらんとのたまへるとかたるたちてこなたにいましてこゝにやおはしますとてき  
 10 ちやうのもとにつゐぬ給へはつゝましけれはぬさりよりていらへし給ふいかて見たてまづりそ  
 め

**27ウ**

1 てしもさるくきむかしの契りありけるにこそと思給へて御いのりなどもねんころにつかう  
 2 まつりしをほうしはそのことゝなくて御文きこえつけたまはらんもひんなければ  
 3 しねんになんをろかなるやうになり侍ぬるいとあやしきさまに世をそむき給へる  
 4 人の御あたりにいかておはしますらんとのたまふ世中に侍らしと思立侍し身の  
 5 いとあやしくていまゝて侍を心うしと思侍物からよろつに物せさせ給ける  
 6 御心はへをなんいふかひなきこゝちにもおもひ給へしらるゝをなを心よつかすのみつみに  
 7 えとまるましく思給へらるゝをあまになさせ給てよ世中に侍るともれいの人  
 8 にてなからふへくも侍らぬ身になんときこえ給またいとゆくさきとをけなる  
 9 御程にいかてかひたみちにしかはおほしたゞむかへりてつみある事也思立て心を  
 10 おこし給ほとはつよくおほせと年月ふれは女の御身といふ物いとたいへしき物になん

**28オ**

1 とのたまへはおさなく侍し程より物をのみおもふへきありさまにておやなどもあまに  
 2 なしてや見ましなどなん思のたまひしましてすこし物思しりて後はれいの人さま  
 3 ならて後の世をたにとおもふ心ふかかりしをなくなるへき程のやうくちかくなり侍にや  
 4 こゝちのいとよはくのみなり侍をなをいかてとて打なきつゝのたまふあやしくかゝる  
 5 かたちありさまをなとて身をいたはしく思はしめ給けん物の氣もさこそいふなりし  
 6 かはと思あはするにさるやうこそあらめいまゝてもいきたるへき人かはあしき物の見

7 つけそめたるにいとおぞろしくあやうき事なりとおぼしてとまれかくまれおぼし立  
 8 てのたまうを三ほうのいとかしこくほめ給事也ほうじにてきこえかへすべき事に  
 9 あらす御いむ事はいとやすくさつけたてまつるべきをきうなる事にまかてたれば  
 10 こよひかの宮にまいるべく侍りあすよりやみすぼうはしまるべく侍らん七日はて、

## 28ウ

1 まかてんにつかまつがんとのたまへはかのあま君おはしなはかなりすいひさまたけてむといと  
 2 くちおじくてみたりこゝ地のあしかりし程にしたるやうにていとくいしく侍者はをもへなうは  
 いむ  
 3 事かひなくや侍らんなをけふはうれしきおりとこそ思侍れとていみしくなき給へはひしり心に  
 いと  
 4 いとおじく思て夜やふけ侍ぬらん山よりおり侍事むかしさことゝもおぼえたまはさりしを年の  
 5 おぐるまゝにはたへかたく侍ければ打やすみて内にはまいらんと思侍をしかおぼしいそく事  
 6 なればけふつかうまつりてんとのたまうにじどうれしくなりぬはさみとりてべしのはこのふた  
 さし

7 出たれはいつら大とこたちこゝにとよふはしめ見つけたてまつりし兩人ながらともにあり  
 8 ければよひいれて御くしろじたてまつれといふけにいみしかりし人の御ありさまなれば  
 9 うつし人にては世におはせんもうたてこそあらめと此あさりもことよりにおもふにきぢりやうの  
 かた

10 ひらのほこひより御くしをかきいたし給へるいとあたらしくおかしけなるになんしはしあ  
 みを

## 29オ

1 もちやすらひけるかゝる程少将のあまはせうとのあさりの來たるにあひてしもにゐたりさゑ  
 2 もんはこのわたくしのしりたる人にあるしらふとてかゝるところにつけではみなどりへに心  
 よせの  
 3 人々めひらじくて出来たるにはかなき事しける見いれなどしける程こもきひとりして  
 4 かゝる事など少将のあまにつけたりければまとひきてみるにわかの御うへのきぬけさなどを  
 ときぢり  
 5 はかりとできせたてまつりでおやの御かたおかみたてまつり給へといふにいたどもしらぬ  
 程なん  
 6 えしのひあへたまはてなき給にけるあなあさましやなどかくあるなきわざはせさせ給うへか  
 7 りおはしてはいかなる事をのたまはせんといへはかはかりしそめつるをいひみたるも物じと思  
 て僧  
 8 都いさめ給へはよりもえさまたけするてん三かいちうなといふにもたちはてゝし物をと思  
 9 出るもさすかなりけり御くしもそきわづらひてのとやかにあま君たちしてなをさせ給へと  
 10 いふひたいは僧都そそき給かゝる御かたちやつし給てくぬ給ふなゝとたうとき事ども

## 29ウ

1 とききかせ給とみにさすべくもあらすみないひしらせ給へる事をうれしくもし  
 2 つるかなと是のみそいける仏はしるしありておほえ給けるみな人々いてしつ  
 3 まりぬよるの風の音にこの人々は心ほそき御すまゐもしはしの事そいまいと  
 4 めてたくなり給なんとのみきこえつる御身をかくしなさせ給て残りおぼかる  
 5 御世のすゑをいかにせさせたまはんとするそ老おどろへたる人たにいまはかきり  
 6 と思はてられていとかなしきわざに侍どいひしらすれとなをたゞいまは心やすく  
 7 うれし世にふへき物とは思かけずなりぬることはいとめてたき事なれどむねのあき

8 たるこゝ地そし給けるつとめではさすかに人のゆるさぬ事なればかはりたらんさせ  
 9 見えむもいとはつかしくかみのすそのにはかにおほとれたるやうにしどけなくせへそかれ  
 10 たるをむつかしき事ともいはてつくるはん人もかなと何事につけてもつゝましくてくらづ

### 30才

1 しなしておはす思ふ事を人にいひつゝけんことの葉はもとよりたにはかくくしからぬ身を  
 2 まいてなつかしくことはるへき人さへなけれはたゞすゝりにむかひて思あまるおりには  
 3 手ならひをのみたけき事とはかきつけ給  
 4 なき物に身をも人をもおもひつゝすてゝし世をそ  
 5 さりにすてつるいまはかくてかきりつるそかしとわきてもなをみつからじとあはれと見給  
 6 かきりそとおもひなりにし世の中をかへすべくも  
 7 そむきぬる哉おなしすちの事をとかくかきすさひふ給へるに中将の  
 8 御文あり物さはかしくあきれたるこゝちしあへる程にてかゝる事などいひて  
 9 けりいとあへなしと思てかゝる心のふかくありける人なりければはかなきいらへをも  
 10 しそめしと思はなるゝなりけりさてもあへなきわさかないとおかしく見えしかみの

### 30ウ

1 程をたしかに見せよと一夜もかたらひしかはさるへからんおりにかいひし物をと  
 2 いとくちおしくて立かへり  
 3 岸とをくこきはなるらんあま舟にのりをくれしと  
 4 いそかるゝ哉れいならすとりて見給物のあはれなるおりにいまはと思ふもあ  
 5 はれなる物からいかゝおほさるらんいとはかなき物のはしに  
 6 こゝろこそうき世のきしをはなるれどゆくゑもしらぬ  
 7 あまのうき木をとれいの手ならひにし給へるをつゝみてたてまつるかきうつ  
 8 してたにこそとのたまへと中々かきそこなひ侍なんとてやりつめつらしきにも  
 9 いふかたなくかなしくなんおほえける物まゝうての人かへり給て思さはき給事かきりなし  
 10 かゝる身にてはすゝめきこえむこそいと思なし侍れと残りおほかる御身をいかて

### 31オ

1 へたまほんとすらんをのれは世に侍らん事けふあすともしりかたきにいかてう  
 2 しろやすく見をきたてまつらんとよろつに思給へてこそ仏にもいのりきこえ  
 3 つれとふしまろひつゝいといみしけに思給へるにまことのおやのやかてからもなき物と  
 4 思まどひ給けん程をしはかるそまついとかなしかりけるれいのいらへもせてそむき  
 5 ぬ給へるさまいとわかくうつくしけなれはいと物はかなくそおはしける御心なれとなくく御  
 そ

6 の事なといそき給にひ色に手なれにしこなればこうちきけさなどしたりある

7 人々もかゝる色をぬひさせたてまつるにつけてもいとおほえすうれしき山里のひかり  
 8 に明暮見たてまつりつる物をくちおしきわざかなとあたらしかりつゝそうつを  
 9 恨そしりけり一品の富御なやみけにかのてしのいひしもじるくいちしるき事とも  
 10 ありてをこたらせ給にければいよくいとたうとき物にいひのゝしるなこりも

### 31ウ

1 おそろしとてみすほうのへさせ給へはとみにもえかへりぐらてさるりひ給に雨など  
 2 ふりてしめやかなる夜めしてよゐにさるはせ給日ごろいたくさるりひこうしたる  
 3 人はみなやすみなとて御まへに人すくなてちかくおきたる人すくなきおりに  
 4 おなしみちやうにおはしましてむかしよりたのませ給中にも此たひなんいよく後  
 5 世もかくこそいとのもしき事まさりぬるなどのたまはす世中にひさしく侍ましき

6 さまに仏などをしへ給へる事とも侍るうちしたことしらいねんすくしかたきやうに  
 7 なん侍ければ仏をまぎれなくねんしつとめ侍らんとてふかくこもり侍をかゝるおぼせ  
 8 事にてまかり出侍にしなどけいし給御物の氣のしうねき事をさまくになるか  
 9 おそろしき事などたまうついてにいとあやしく希有の事をなん見給へし  
 10 此三月にとし老て侍るはゝのくはんありてはつせにまうてゝ侍しかへさの

### 32才

1 中やとりに宇治の院といひ侍ところにまかりやとりしをかくのこと人すまで年へぬる  
 2 おほきなるところよからぬ物かならすかよひすみてをもきひやうさのためあしき事  
 3 ともやと思給へしもしくとてかの見つけたりし事ともをかたりきこえ給けにいとめ  
 4 つらかなる事かなとてちかくさぶらふ人々みなね入たるをおそろしくおぼされておと  
 5 ろかさせ給大将のかたらひ給さいしやうの君しも此事を聞けりおとるかさせ給人々は  
 6 なにともきかず僧都をちさせ給へる御気しきを心もなき事けいしてけりと思てくはしく  
 7 もその程の事をはいひさしつその女人此たひまかり出侍つるたよりに小野に侍つるあま  
 8 ともあひとひ侍らんとてまかりよりたりしにななく出家の心さしむかきよしねんころに  
 9 かたらひ侍しかはかしらおろし侍にきなにかしかいもうどこゑもんのかみのために侍しあまなん  
 10 うせにし女此かはりにと思よろこひ侍てすいぶんにいたはりかしつき侍けるをかくなり

### 32ウ

1 たれは恨侍也けにそかたちはじとうはしづけふらにてをこなひやつれんもいとおしけに  
 2 なん侍しな人にか侍けんと物よくいふそうつにてかたりつゝけ申給へはいかてさるところに  
 3 よき人をしもともていきげんさりともいまはしられぬらんなど此宰相の君そいふ  
 4 しらすさもやかたらひ給ふらんまことにやむ事なき人なはなにかかくれも侍らしをやる中  
 5 人のむすめもさるさましたることは侍らめりうの中より仏むまれたまはすはこそたゝ人  
 6 にてはいとみからきさまの人になん侍けるなときこえ給そのころかのわたりに  
 7 きえうせにけん人をおぼしつ此おまへなる人もあま君のつたへにあやしくて  
 8 うせたる人とはきゝをきたれは誰にやあらんとは思けれどさためなき事也僧都も  
 9 かゝる人世にある物ともしられしとよくもあらぬかたきたたる人もあるやうにおもむ  
 10 けてかくししのひ侍をことのさまのあやしければけいし侍なりとなまかくすけしき

### 33才

1 なれは人にもかたらす富それにもこそあれ大将にきかせはやと此人にそのたまはす  
 2 れといつかたにもかくすべき事をさためてさならんともしらすなからはつかしけなる人に打  
 3 出のたまはせんもつゝましくおぼしてやみにけりひめ君をこたりはてさせ給て僧都も  
 4 のほりぬかしこにより給へれはいみしく述べて中々かゝる御ありさまにてつみもえぬへき  
 5 事をのたまひもあはせずなりにける事をなんいとあやしきなどのたまへとかひもなし  
 6 いまはたゝ御をこなひをし給へ老たるわかきさためなき世也はかなき物におぼしと  
 7 たるものこどりなるも御身をやとのたまうにもいとはつかしくなんおぼえける御ほうふくあ  
 8 たらしくし給へとてあやうす物のきぬなどいふ物たてまつりをき給なにかしか侍らん  
 9 かきりはつかうまつりなんなかおぼしわづらふへきつねの世におい出てせけんのゑいくわ  
 10 にねかひまつはるゝかきりなんところせくすてかたく我も人もおぼすへかめる事なめり

### 33ウ

1 かゝるはやしの中にをこなひとめたまはん身は何事かはうらめしくもはつかしくもおぼ  
 2 すへきこのあらんのちは葉のうすきかことしといひしらせて松門に曉いたりて月  
 3 徘徊すとほうしなれはいとよしくしくはつかしけなるさまにてのたまう事ともを思ふ  
 4 やうにもいひきかせ給かなと聞ゐたりけふはひねもすに吹風の音もいと心ほそきに

5 おはしたる人もあはれ山ふしほかゝる口にそねはなかなるかしといふを聞いて我もいま  
 6 は山ふしそかしことはりにとまらぬ涙なりけりと思つゝはしのかたに立出てみれば  
 7 はるかなる軒はよりかりきぬすかた色々に立ましりて見ゆ山へのほる人なりとて  
 8 もこなたのみちにはかよふ人もいと玉さか也くろたにとかいるかたよりありくぼうし  
 9 の跡のみまれくはみゆるをれいのすかた見つけたるはあいなくめつらしきに恨わひし  
 10 中将なりけりかひなき事もいはんとて物したりけるを紅葉のいとおもしろくほか

**34才**

1 のくれなゐにそめましたる色々なれば入くるよりそ物あはれなりけるこゝ  
 2 にいとこゝちよけなる人を見つけたらはあやしくそおほゆへきなと思ていとま  
 3 ありてつれゝなるこゝ地し侍に紅葉もいかにと思給てなんを立かへり旅ね  
 4 もしつへき木のもとにこそとて見いたし給へりあま君れいの涙もろにて  
 5 こからしのふきにし山のふもとにはたちかへるへき  
 6 かけたにそなきとのたまへは

7 まつ人もあるとおもふ山さとのこすゑを見つゝ

8 なをそすきうきいふかひなき人の御事をなをつきせずのたまひてさまかはり給へ  
 9 らむさまをいざゝか見せよと少将のあまにのたまうそれをたに契りしるし  
 10 にせよとせめ給へは入て見るにことさら人にも見せまほしきさましておはする

**34ウ**

1 うすきにひ色のあやなかにはくはんさうなどすみたる色をきていとさゝやかに  
 2 やうたいおかしくいまめきたるかたちにがみはいつへの扇をひろげたるやうにこち  
 3 たきすゑつき也こまかにうつくしきおもやうのけさうをいみしくしたらんやうに  
 4 あかくにほひたりをこなひなどをし給ふもなをはちらひてすゝはちかききぢやうに  
 5 打かけて経に心を入れよみ給へるさまゑにもかゝまほしうみることに涙のとめかたき  
 6 こゝちするをまいて心かけたまはんおとこはいかに見たてまつりたまはんと思ひてさるへき  
 7 おりにやありけんさうしかけかねのもとにあきたるあなををしてしまるへき  
 8 ちやうなとをしやりたりいとかくはおもはすこそありしかいみしく思ふさまなりける人  
 9 をと我したらんあやまちのやうにおしくやしくかなしければつゝみもあへす物くる  
 10 はしきまでけはひもきこえぬへければのきぬかばかりのさましたる人をうしなひて

**35才**

1 たつねぬ人ありけんや又その人かの人のむすめなんゆくすゑもしらすかぐれにたる  
 2 もしは物えんしして世をそむきにけるなどをのつからかくれなかるへきをなとあやしく  
 3 返々おもふあまりともかゝるさましたらん人はうたてもおほえしなと中々見とこぬまさりて  
 4 心くるしかるべきをしのひたるさまになをかたらひとりてんとおもへはまめやかにかたらふよ  
 の

5 つねのさまにはおほしほかかる事もありけんをかゝるさまになり給わたるなん心やすくき  
 6 こえつへく侍さやうにをしへきこえ給へきしかたのわすれかたくてかやうにまいりくるに  
 7 又いまひとつ心さしをそてこそなどのたまふいとゆくすゑ心ほそくうしろめたき  
 8 ありさまに侍めるにまめやかなさまにおほしわすれすとはせたまはんいとうれしくこそ  
 9 思給へをかめ侍らざらん後なんあはれに思給へらるへきとてなき給に此あま君もはな  
 10 れぬ人なるへし誰ならむと心えかたしゆくすゑの御うしろみはいのちもしりかたくたの

**35ウ**

1 もしけなき身なれとさきこえそめ侍ははさらにかはり侍らしたつねきこえ給ふへき  
 2 人はまことに物したまはぬかさやうことのとおほつかなきになんはゝかるへき事には侍らねど

3 なをへたてあるこゝ地し侍へきとのたまへは人にしらるへきせまにて世にへたまはゝさ  
 4 もやたつね出る人も侍らんいまはかゝるかたに思きりつるありさまになん心のおもむけも  
 5 さのみ見え侍をなどかたらひ給こなたにもせうそこし給へり  
 6 おほかたの世をそむきける君なれといとるによせて  
 7 身こそつられねんころにふかくきこえ給事などいひつたふはらからとおぼし  
 8 なせはかなき世の物語などきこえてなくさめんなといひつゝく心ふかからん御  
 9 物語など聞わくべくもあらぬにそくちおしけれといらへて此いとふにつければ  
 10 したまはす思よらずあましき事もありし身なればいとましすへて朽木など

**36才**

1 のやうにて人に見すてられてやみなんともてなし給さるは月ころたゆみなく  
 2 むすほゝれ物をのみおぼしたりしも此ほいのことし給ての後よりはすこしはれへ  
 3 しくなりてあま君とはかなくたはふれもしかはし暮うちらとしてそ明し暮しをこ  
 4 なひもいとよくしてほけ経はさうなりこと法文などいとおぼくよみ給雪ふかくぶりつみ  
 5 人めたえたるころそけに思やるかたなかりける年もかへりぬ春のしるしも見えすこほり  
 6 わたれる水の音せぬさへ心ほそくて君にそまとふとのたまひし人は心うしとおもひはて  
 7 にたれはなをそのおりなとのことはわすれす  
 8 かきくらす野山の雪をながめてもふりにしことそ  
 9 けふもかなしきなれいのなくさめの手ならひををこなひのひまにはし給我世  
 10 になくて年へたりぬるを思ひ出る人もあらんかしなと思ひ出る時もおばかりわか

**36ウ**

1 菜をろかなるこにいれて人のもて來たりけるをあま君見て  
 2 山さとの雪まのわかなつみはやしなをおひさきの  
 3 たのまるゝ哉とてこなたにたてまつれ給へりければ  
 4 雪ふかき野辺のわかなもいまよりは君かためにそ  
 5 年もつむへきとあるをさそおほすらんとあはれるるにもみるかひあるへき御さまとおもは  
 6 ましかはとまめやかに打ない給ねやのつまちかきこうはいの色も香もかはらぬをはるや  
 7 むかしのとこと花よりも是に心よせのあるはあかさりしにほひのしみにけるにやこやに  
 8 あかたてまつらせ給けらうのあまのすこしわかきかるめし出て花をおらすれはかこと  
 9 かましくちるにほひくれば  
 10 袖ふれし人こそ見えね花の香のそれかとにほふ

**37才**

1 春の明ほのおぼあま君のまこのきのかみなりけるか此ころのほりてきたり三十ばかり  
 2 にてかたちきよけにほこりかなるさましたり何事かこそをとゝしなととふにほけへし  
 3 きさまなればこなたにきていとよなくこそひかみ給にけれあはれにも侍かな残り  
 4 なき御さまを見たてまつる事かたくてとをき程に年月をすくし侍るよおやたち物し  
 5 たまはて後は一ところをこそ御かはりに思きこえ侍れひたちの北のかたは音つれきこえ  
 6 給ふやといふはいもうとなるへし年月にそへてはつれくにあはれるる事のみまさりてなん  
 7 ひたちはひさしく音つれきこえたまはさめりえ待つけ給ましきさまになん見え給ふと  
 8 のたまうにわかおやのなとあいなくみゝとまれるに又いふやうかまかりのほりて日ころになり  
 9 侍ぬるをおぼやけ事のいとしけくむつかしくのみ侍にかゝつらひてなん昨日もさぶらはんと  
 10 思給へしを右大将殿の内におはせし御もとにつかうまつりでこ八の宮のすみ給しとこゑにおは  
 して

**37ウ**

1 曰くひし給しこ宮の御むすめにかよひ給しきつゝところは一とせうせ給にきその

2 御おとうと又しのひてすへたてまつり給へりけるをこそ春又うせ給にければその御はての  
3 わさせさせたまほん事かの寺のりしたなんさるへき事のたまはせてなにかしもかの女のさつ  
4 そくくたりてうし侍へきをせさせ給てんやをらすへき物はいそきせさせ侍なんと  
5 いふを聞にいかでかあはれなひきらん人やあやしとみんとひまじうでおぐにむかひてゐ給  
り

6 あま君かのひしりのみこの御むすめはふたりと聞しを兵部卿宮の北のかたはいつれそとの  
7 たまへは此大将殿の御後のはをとりはらなるへしことくしくももてなしたまはさりけるを  
8 いみしくかななしひ給也はじめのはたいみしかりきほとくすけもし給つへかりきかしなと  
9 かたるかのわたりのしたしき人なりけりと見るにもさすかおそろしあやしくやうの物と  
10 かしこにてしもうせ給ける事も昨日もふびんに侍しかな川ちかきとこうにて水をのそき

### 38才

1 給ていみしくなき給きうへにのぼり給てはしらにかきつけ給し

見し人はかけもとまらぬ水のうへにおちそふなみた

1 なんおほえ侍などをしへたらんやうにいひつゝあはれにもおかしくもきくに身のうへも  
2 此世の事ともおほえすといこほる事なくかたりをきて出ぬわすれたまはぬにこそいとあ  
3 はれとおもふにもいとはゝ君の御心のうちをしはからると中々いふかひなきさまを見え  
4 きこえたてまつらんはなをつゝましくそありけるかの人のいひつけし事ともをそめい  
5 そくを見るにつけてもいひ出られすたちぬひなとするを是御らんし入よ物をいと  
6 うつくしくひねらせ給へはとてこうちきのひとへたてまつるをうたておぼゆればこゝち  
7 あしとて手もふれすふし給へりあま君いそく事を打すてゝいかゝおぼさるゝなど思みたれ  
8 給ふくれなゐに桜のをり物のうちきかさねて御まへにはかゝるをこそたてまつらすへけれ  
9 あがましきすみそめなりやといふ人あり

10 あまころもかはれる身にやありし世のかたみに袖を

39才

1 かけてしのはんとかきていとおなしくなくもなりなん後に物のかくれなき世なりければ  
2 聞あはせなとしてうとましきまでかくしけるなどやおもはんとさまへ思つゝすきにしかた  
3 事はたえてわすれ侍にしをかやうなる事をおほしいそくにつけてこそほのかにあはれなれ  
4 とおほかにのたまふさりともおほし出る事はおほからんをつきせずへたて給こそ心うけれ  
5 みにはかゝるよのづねの色あひなとひさしくわすれにければなをくしく侍につけてもむかし  
6 人あらましかはなと思ひ出侍るしかあつかひきこえ給けん人世におはすらんやかでなくなりして  
7 見侍したになをくつこにあらんそことにたつねきかまほしくおほえ侍をゆくゑしらて思  
の

8 きこえ給人々侍らんかしとのたまへは見し程まではひとりは物し給き此月ころうせ  
 9 やし給ふらむとて涙のおつるをまきらはして中々思ひ出るにつけてうたて侍ればこそ  
 10 えきこえ出ねへたては何事にか残し侍らんことすくなののたまひなしつ大将は此はての

## 39ウ

1 わざなどせさせ給てはかなくともやみぬるかなとあはれにおほすかのひたちのこともは  
 2 かうぶりしたりしかばくら人になしわか御つかさのそうになしなといたはり給けりわらは  
 3 なるか中にきよけるをはちかくつかひならさんとそおほしたりける雨などふりて  
 4 しめやかなる日にて御物語なときこえ給つてにあやしき山里に年ごろまかりか  
 5 よび見給へしを人のそり侍しもさるへきにこそはあらめ誰も心のよるかたの事は  
 6 さなんあると思給へなしつゝなを時々見給へしをどころのさかにやんづへ思給へなりにし後は  
 7 みちもはるけきこゝちし侍てひさしく物し侍らぬをさうつころ物のたよりに  
 8 まかりてはかなき世のありさまともかさねて思ひ給へしにこそとさり道心をおこす  
 9 へくづへりをきたりけるひしりのすみかとなんおほえ侍しとけいし給にかの事お  
 10 ほし出でいとへおしけれはそこにおそしき物やすむらんいかやうにてかかの人は

## 40オ

1 なくなりにしととはせ給をなをつらきをおぼしよるかたと思ひてさも侍らんさやうの  
 2 人はなれたるところはよからぬ物なんかならすみつき侍をうせ侍にしさま  
 3 なんいとあやしく侍とてくはしきこえたまはすなをかくしのぶみをきゝあらはし  
 4 けりと思たまはんかいとおしくおぼされ宮の物をのみおぼしてそのころはやまひになり  
 5 給しをおぼしあはするにもさすかに心ぐるしくてかたゞにくち入にくき人のうへとおぼし  
 6 とめつこ宰相にしのひて大將かの人の事をいとあはれと思てのたまひしにいとおしう  
 7 打出へかりしかとそれにあらさらむ物ゆへとつゝましくてなん君そことへ聞あはせける  
 8 かたはならん事はどうかくしてさる事なんありけりと大かたの物語についてにそうちのいひ  
 9 し事かたれとのたまはす御まへたにつゝませたまはん事をましてこと人はいかてかときこえ  
 10 さすれときまへなる事にこそ又まろはいとおしきことあるやとのたまはするも心えて

## 40ウ

1 おかしと見たてまつむ立よりて物かたりなどし給つてにじひ出だりめつらかあやしといかで  
 2 かおどろかれたまはさりん宮のとはせ給しもかゝる事をほのおぼしよりてなりけりなどか  
 3 のたませはつかしきとつひけれど我も又はしめよりありしさまの事きこえそめさりしかは  
 4 きて後もなををこかましきこゝ地して人にすべてもらさぬを中々ほかには聞ゆる  
 5 こともあるかしうつゝの人々の中にしのぶる事たにかくれある世中かはなと思入て此人  
 6 にもさなんありしとあかしたまはん事はなをくちをもきこゝちしてなをあやしと思し  
 7 人のことにもありける人のありさまかなさてその人はなをあらんやとのたまへはかつ僧都  
 8 の山より出し日なんあまになしつるいみしうわづらひし程にもみな人おしみてせさせさりし  
 9 をさうしみのほいぶかきよしをいひてなりぬるとこそ侍なりしかといふところもかはらす  
 10 そのころのありさまと思あはするにたかうふしなければまことにそれとたつね出たらん

## 41オ

1 いとあさましきこゝ地もすへきかないかてかたしかにきくへきおりたちて  
 2 たつねありかんもかたくしなとや人いひなさん又かの宮も聞つけ給へらんには  
 3 かならずおぼし出て思ひりにけんみちもさまたけたまひてんかしきてさなのたまひそ  
 4 なときこえをき給ければや我にはさる事なん聞しとするめつらしき事をきこしめし  
 5 なからたまはせぬにやありけん宮もかゝづらひ給てはいみしうあはれと強  
 6 なからもさらだやかてうせにし物と思なしてをやみなんうつし人になりてすゑ

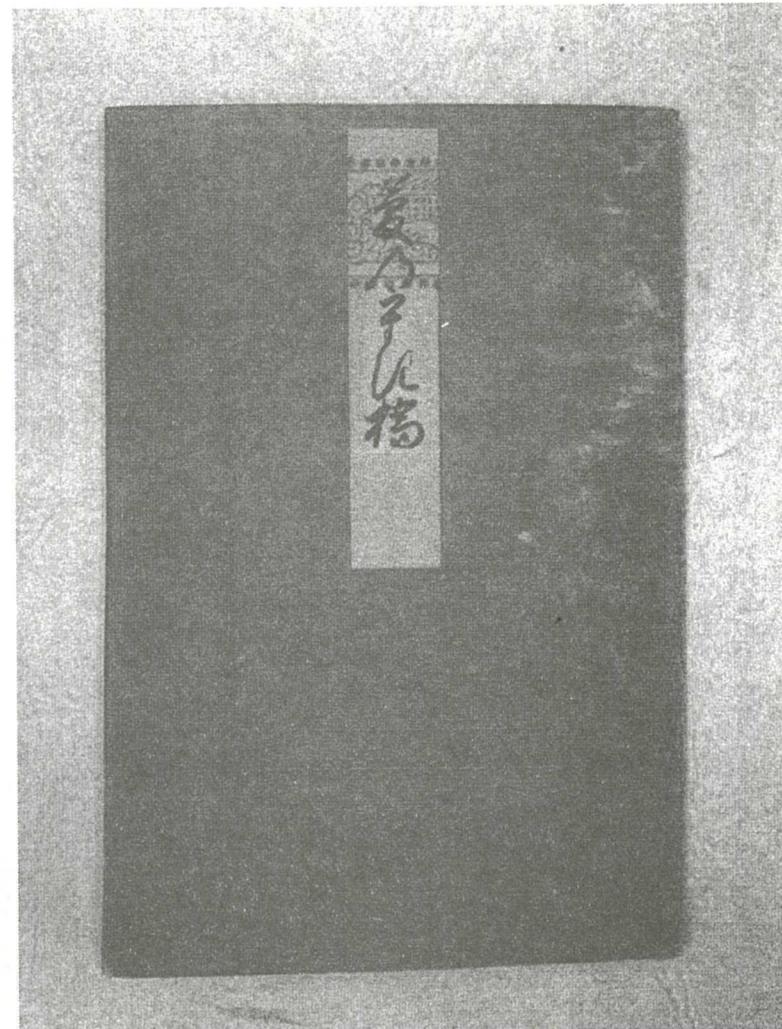
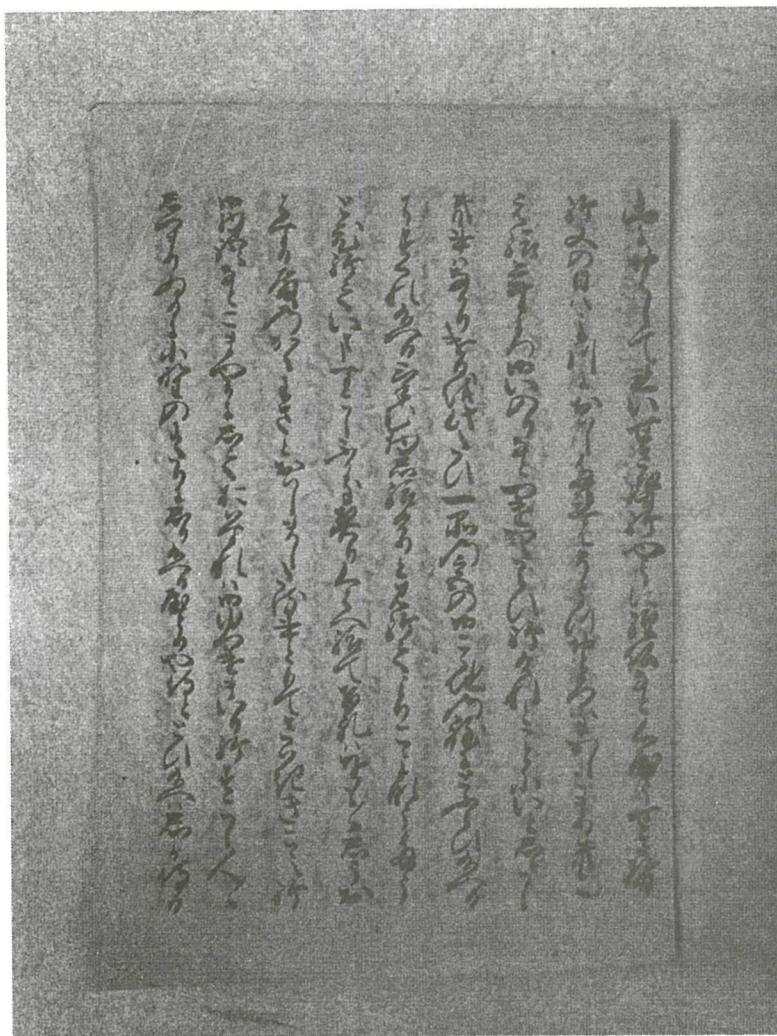
7 の世には黄なるいつみのほどりばかりをのつからかたらひよるかせのまきれもあり  
 8 なん我物にとり返し見んの心は又つかはしなと思みたれてなをのたまはすやあらん  
 9 とおぼゆれと御氣しきのゆかしければ大宮にさるへきついてつくりいたしてそ  
 10 けいし給あさましううしなひ侍りぬと思給へし人世におちあふれて

**41ウ**

1 あるやうに人のまねひ侍しかないかてかさる事はあらんと思給へれど心とおどる  
 2 おとろしうもてはなるゝ事は侍らすやと思わたり侍人のありさまに侍れば人の  
 3 かたり侍しやうにてはざるやうもや侍らんとわつらはしく思給へらるゝとています  
 4 こしきこえ出給宮の御事をいとはつかしけにさすかに恨たるにはいひなしたま  
 5 はてかの事又さんと聞つけ給へらはかたくなにすきへしくもおぼされぬへしさうに  
 6 さてありけりともしらすかほにてすべし侍なんとけいし給へは僧都のかたりしにいと  
 7 物おそろしかりし夜のことにてみゝもとゝめさりし事にこそ富はいかて聞たまはんき  
 8 こえむかたなかりける御心の程かなときけはまして聞つけたまはんこそいとくるし  
 9 かるへけれかゝるすちにつけていかろく憂物にのみ世にしられたまひぬそれは心  
 10 うくなんとのたまはすいとをもき御心なれはかならずしも打とけ世語にても人の

**42オ**

1 しのひてけいしけん事をもらさしたまはしなどおぼすすむらん山里はいつこにか  
 2 あらんいかにしてさまあしからすたつねよらんそうつにあひてこそはたしかなるあり  
 3 さまも聞あはせなどしてともかくもどふへかめれなどたゞ此事をおきふしおぼす  
 4 月ことの八日はかならずたうときわさをさせ給へはやくし仏に心をよせたてまつるにもて  
 5 なし給へるたよりにちうたうに時々まいり給けりそれよりやかてよ川におはせんとおぼしてか  
 の  
 6 せうとのわらはなるゆておはすその人々にはとみにしらせありさまにそしたかほんとお  
 7 ほせと打見ん夢のこゝちにもあはれをもくはへむとにやありけんさすかにその人とは見つけ  
 8 ながらあやしきさまにかたちとなる人のなかにてうき事を聞つけたらんこそいみしかる  
 9 へけれとよろつにみちなからおぼしみたれるにや



## 1才

- 1 山におはしてれいせさせ給やうに経仏などくやうせさせ  
 2 給又の日はよ川におはしたればそうつおどろきかしこまりきこ  
 3 え給年ころ御いのりなとつけかたらひ給けれとことにいとしたし  
 4 き事はなかりけるを此たひ一品の富の御こゝ地の程にとふらひ給へる  
 5 にすぐれ給へるけむ物し給けりと見給てよりこよなうたう  
 6 とひ給でいますこしるかき契りくはへ給てければをもへしうお  
 7 はする殿のかくわさとおはしましたる事ともてさはききこえ給  
 8 御物語などこまやかにしておはすれば御ゆつけまいり給すこし人々  
 9 しつまりぬるに小野のわたりにしり給へるやとりや侍ととひ給へはしか侍り  
**1ウ**
- 1 いとことやうなるところなんにかしかはゝなるくちあまの侍を京に  
 2 はかへしからぬすみかも侍らぬうちもかくてこもり侍あひたは夜  
 3 なか晩にもあひとふらはんと思給へをきて侍など申給そのわたりには  
 4 たゝちかきころをひまで人おぼうすみ侍けるをいまはいとかすかに  
 5 こそなりゆくめれなどのたまひでいますこしちかうぬよりてしのひ  
 6 やかにいとうきたるこゝちもし侍るまたつねきこえんにつけてはいかな  
 7 りけることにかと心えすおぼされぬへきにかたゝはゝかられ侍れとかの山  
 8 里にしるへき人のかくろへて侍やうに聞侍しをたしかにてこそはいかなる  
 9 さまにてなどももらしきこえめなど思給ふる程に御てしになりていむ  
 10 事などさつけ給てけりと聞侍れはまことかまた年もわかつおや
- 2オ**
- 1 などもありし人なれはこゝにうしなひたるやうにかこかゝる人  
 2 なん侍をなどのたまふそつされはよたゝ人と見えざりし人の  
 3 そかしかくまでのたまふはかるへしくはおぼされざりける人にこそあ  
 4 めれと思ふにほうしといひなから心もなくたちまちにかたちをやつして  
 5 ける事とむねつふれていらへきこえんやう思まはさるたしかに  
 6 聞給へるにこそあめられかはかり心え給てうかゝひたつねたまはむに  
 7 かくれあるへき事にもあらす中々あらかひかくさんにあいなかるへしなど  
 8 とはかり思えていかなる事にか侍けん此月ころうちへにあやしと思ふ給ふる  
 9 人の御事にやとてかしこに侍あまとものはつせにくわん侍てまふてゝか  
 10 へりけるみちに宇治の院といふところにとゝまりて侍けるにはゝのあまの
- 2ウ**
- 1 らうけにはかにおこりていたくなんわづらふとつけに人のまうてきたり  
 2 しかはまかりむかひたりしにまつあやしき事なんとぞゝめきておやのしに  
 3 かへるをはさしきをきててもあつかひなげきてなん侍し此人もなくなり給へる  
 4 さまならさすかにいきはかよひておはしければむかし物語にたま殿にをきたり  
 5 けん人のたとひを思ひ出てさやうなる事にやとめつらしかり侍ててしはらの中にけん  
 6 ある物ともをよひよせつゝかはりくにかちせさせなどなんし侍けるなにかしはおしむ  
 7 へきよはひならねとはゝの旅の空にてやまひをもきたすけてねんふつをも  
 8 心みたれすせさせむと仏をねんしたてまつり思ふ給へし程にその人のありさま  
 9 くはしくも見給へすなん侍しことの心をしはかり思ふ給ふるにてんくこたま  
 10 などやうの物のあさむき出たてまつりたりけるにやとなんうけたまはり

**3才**

1 したすけて京にゐてたてまつりて後も三月ばかりはなき人にてなん物  
 2 し給けるなにかしかあまになりて侍なんひとりもちて侍し女こをうしなひて  
 3 後月日はおぼくへたて侍しかとかなしひたえすなけき思給へ侍に  
 4 おなし年の程と見ゆる人のかくかたちいとうるはしくきよらなるを見出  
 5 たてまつりてくはんをんの給へるとよろこひ思ひて此人いたつらになしたて  
 6 まつらしとまとひいられてなくくいみしき事ともを申されしかは後になん  
 7 かのさかもとにみづからおり侍てこしむなどつかうまつり侍しにやうくいき出て人  
 8 となり給へりけれどなをこのらうしたりける物の身にはなれぬこちなんする  
 9 此あしき物のさまだけをのかれて後の世をおもはんなどかなしけにのたまふ事  
 10 どもの侍しかはほうしにてはすゝめも申つべき事にこそはとてまことにすけ

**3ウ**

1 せしめたてまつりてしに侍さらにしろしめすへき事とはいかてか空にさとり侍らん  
 2 めつらしきことのさまにもあるを世かたりにもし侍りぬへかりしかときこえありて  
 3 わつらはしかるべきことにもこそと此老人とのとかく申て此月ころ音なくて  
 4 侍つるになんと申給へはさてこそあれとほの聞てかくまでもとひ出給へる事  
 5 なれどむけになき人と思たえにし人をさはまことにあるにこそいとおぼす程  
 6 夢のこゝちしてあさましけれはつゝみもあへす涙くまれ給ぬるをそうつのはつ  
 7 かしけなるにかくまで見ゆへき事はと思かへしてつれなくもてなし給へとかくおぼし  
 8 ける事を此世にはなき人とおなじやうになしたる事とあやまちしたるこゝ地して  
 9 つみふかけはあしき物にらうせられ給けんもさるへきさきの世の契りなり  
 10 おもふにたかき家のこにこそ物し給けめいかなるあやまちにてかくまではふれ給

**4才**

1 けんにかとひ申給へはなまわかむとをりなといふへきす中にやありけんこゝに  
 2 も侍らす物はかなくて見つけそめては侍しかと又いとかくまでおちあぶるへき  
 3 とは思給へさりしをめつらかに跡もなく見えうせにしかは身をなげたるにやなど  
 4 さまへにうたかひおぼくてたしかなる事はえ聞侍らさりつるになんつみかうめて  
 5 物すなればいとよしと心やすくなん身つからは思給へなりぬるをはゝなる人なん  
 6 いみしく恋かなしふなるをかくなん聞出たるとつけしらせまほしく侍れと年  
 7 ころかくさせ給けるほいたかふやうに物さはかしくや侍らんおやこの中の思たえす  
 8 かなしみにたへてとふらひ物しなどし侍なんかしなどのたまひてさていとひんなき  
 9 しるへとはおぼすともかのさかもとおり給へかはかり聞てなのめに思すべくは思  
 10 侍らさりし人なるを夢のやうなる事ともいまたにかたりあはせんとなん思ひ

**4ウ**

1 紿ふるとのたまふけしきいとあはれと思給へればかたちをかへ世をそむきにきと  
 2 おほえたれとかみひけをそりたるほうしたにあやしき心はうせぬもあなりまして  
 3 女の身はいかゝあらんいとおしうつみえぬへきわさにもあるへきかなとあちきなく  
 4 心みたれぬまかりおかむことけふあすはかり侍用たちての程に御せうそこを申  
 5 させ侍らんと申給いと心もとなけれどなをく打つけにいられむもさまあしければ  
 6 さらはとてかへり給かのせうとのわらは御ともにゐておはしたりけりことはらから  
 7 ともよりはかたちもきよけなるをよひ出給て是なんその人のゆかりなるを是を  
 8 かつく物せん御文一くたり給へその人とはなくてたゞ聞ゆる人なんあるとはかりの心を  
 9 しらせ給へとのたまへはなしにかし此しるへにてかならずつみえ侍なんことのありさまは

10 くはしくとり申ついまは御みつか立よひせてあるへからん事は物せさせたまほんに

**5才**

- 1 なにのとか侍らんと申給へは打わらひてつみえぬへきしるへと思なし給ぶらん
- 2 こそはつかしけれこゝにはそくのかたちにていまゝてすぐすなんいとあやしき
- 3 いはけなかりしより思ふ心さしふかく侍を三條の宮の心ほそけにてたのもし
- 4 けなき身一をよすかにおぼしたるかさりかたきほたしにおぼえ侍てかゝ
- 5 つらひ侍つる程にをのつからくらゐなどいふこともたかくなり身のをきても心に
- 6 かなひかたくなとして思なからすき侍るには又えさらぬことも数のみそひ
- 7 つゝはすぐせとおほやけわたくしにのかれかたき事につけてこそさも侍らめ
- 8 さらては仏のせいし給ふかたのことをわつかにも聞をよはんいかてあやまたし
- 9 とつゝしみてをとり侍らぬ物をましていとはかなきことにつけてしもをも
- 10 きつみうへき事はなとてか思給へんさらにあるましき事に侍りうたかひ

**5ウ**

- 1 おほすましたゝいとおかしきおやの思などを聞あきらめ侍らんばかりなん
- 2 うれしう心やすかるへきなとむかしよりふかかりしかたの心をかたり給ふそ
- 3 うつもけにとうなつきていとゝたうとき事などきこえ給程に日も
- 4 くれぬれば中やどりもいとよかりぬへけれどうはの空にて物したらん
- 5 こそなをひんなかるへけれと思わづらひてかへり給に此せうとのわらは
- 6 をそうつめとめてほめ給是につけてまつほのめかし給へときこえ
- 7 給へは文かきてとらせ給時々は山におはしてあそひ給へよとすゝろなる
- 8 やうにおほすましきゆへもありけりと打かたらひ給このこは心もえねと
- 9 文とりておほんともにいつさかもとになれば御せんの人々すこしたち
- 10 あかれてしのひやかにをとのたまふ小野にはいとふかくしけりたるあを葉

**6才**

- 1 の山にむかひてまきるゝ事なくやり水のほたるはかりをむかし
- 2 おほゆるなくさめにてなかめぬ給へるにれいのはるかに見やらるゝ谷
- 3 の軒端よりさき心ごとにをいていとおぼうともしたる火のゝとかなら
- 4 ぬひかりを見るとてあま君たちもはしに出ぬたりたかおはするにか
- 5 あらん御せんなどいとおぼくこそ見ゆれひるあなたにひきほして
- 6 まつれたりつる返ことに大将殿おはしましておほんあるしのことにはかに
- 7 するをいとよきおりなとこそありつれ大将殿とは此女二の宮の御おとこ
- 8 にやおはじつらんなといふもいと此世とをくゐ中ひにたるやまことにさや
- 9 あらむ時々かかる山路わけおはせしときいどしるかりしすゞしんのこゑ
- 10 も打つけにましりて聞ゆ月日のすきゆくまゝにむかしのことのかく思

**6ウ**

- 1 わすれぬもいまはなによすへき事そと心うければあみた仏に思まき
- 2 らはしていとゝ物もいはてぬたりよ川にかよふ人のみなん此わたりには
- 3 ちかきたよりなりけるかの殿は此こをやかてやらむとおほしけれと人め
- 4 おぼくてひんなけれど殿にかへり給て又の日ことさらにそいたして給
- 5 むつましくおほす人のことくしからぬ二三人をくりにてむかしもつねにつかはし
- 6 ししいしんそへ給へり人きかぬまによひよせ給てあこかうせにしいもうとの
- 7 かほはおぼゆやいまは世になき人と思はてにしをいとたしかにこそ物し給
- 8 なれうとき人にはきかせしと思ふをいきてたつねよはゝにいたしきに

9 いぶな田々おおひひかはん程にしむほじき人もしりなんそのおやのみ  
10 思のいとおじめにそかくもたつぬれとまたきたじとくちかため給ふを

## 7 才

1 おおひなまきに地じだもはらかうほおほかれと此君のかたちをにる物なしと思  
2 しみたりしにうせ給にけりと聞てきとかなしと思わたむにのたまへは  
3 うれしきにも涙のおりるをはつかしと思ひていとあひいかだまきこゑるたり  
4 かしこにはまたつとめて僧都の御ごもとよりよへ大將殿の御つかひにてこ  
5 きみやまうて給へりしことの心こころうけたまはりしにあちきなくかへりておへ  
6 し侍でなとひめ君にきこえ給へみつかひきえさすくき事もおほかれと  
7 けふあすすべしべかがかへしとかき給へり是は何事こととあま君

8 おどろきてこなたへももてわたりて見せたてまづり給くはおもて打あかめて  
9 物のきこえあるにやどぶるしう物かくししけむとうひみられんをおもひ  
10 つへむかたなくてる給へるになをのたまほせせまへおほし

## 7 ウ

1 へたつる事ことみしく恨うらてこころをしらねはあははしきまで思ひたる  
2 程に山よりそつつの御せうそにてまいる人なんあるといひれたり  
3 あやしけれとはこそはさはだしかなる御せうそこななにとい  
4 はせたれはいときよけにしなやかなるわらはのえならずさきたるそ  
5 あゆみきたるわらうたし出たれはすたれのもととひいみてかやつ  
6 にてはさくらまじくこやはぎうつはのたまひしかといへはあま君そいら  
7 などし給文くわんとりとれ見れば入道のひめ君の御ごかたに山さんよりとて名かき  
8 給くへりあらしなとあらかふへきやうもなしとはしたなくおほえていよへ  
9 きいられて人にかほも見あはせずしねにほこりかならす物し給人  
10 からなれといとうたて心こころうしなといひてそうつの御文見ればけささう

## 8 才

1 大しやう殿の物し給て御ありさまたひねとび給ふにはしめよりあつ  
2 やうべはしきこえはへりぬ御ごひさこかかりける御中なかをそむき  
3 給くてあやしき山さんかつの中なかにすけし給くみみことかへりてはほとけの  
4 せめそくへきことなるをなんうけたまほりおとろき侍るしいかはせん  
5 もとの御ちきりあやまちたまほまほてああじくのつみはるかしきこ  
6 え給くて一日のすけのくとくはかりなき物なれはなをたのませ  
7 給くへとなんことくにはみつからさくぶらひて申侍らむかつへこのこきみ  
8 きこえたまひてんとかいたりまかふへくもあらすかきあきらめ  
9 たまへれとこと人は心こころもえすこの君はたれにかおはすらむなをいと  
10 こゝろうしといまさへかくあなたちにへたてさせ給くふとせめられて

## 8 ウ

1 すこしとさまにむきて見給くへはこのこはいまはとせせを強いさなりし  
2 夕くれにもいと恋こいしておもひし人ひとなりおなしこなして見しほとは  
3 いとさかなくあやにくこうてくかりしかとはとのいとかなしへ  
4 して宇治うじにもときへへおはせしかはすすこしおよすけしままに  
5 かたみにおもへりしわらははをおもひ出るにもゆめのやうなり  
6 まつははのありさめめどとまほしくこと人々のうへはをのつからやうへと  
7 きけとおやのおはすらむやうはゆゆのかにもえきかすかしと中々これを

8 見るにいとかなしくてほろ／＼となかれないとおかしけにてすこし打  
 9 おほえ給へるこゝ地もすればおほんはらからにこそおはすめられきこえ  
 10 まほしくおほすこともあるらんうちにいれたてまつらんといふをなにかいまは

## 9才

1 世にある物ともおもはざらんにあやしきさまにおもかはりしてふとみ  
 2 えんもはつかしとおもへはとばかりためらひてけにへたてありとお  
 3 ほしなすらむかくるしさに物もいはれてなんあさましかりけんありさまは  
 4 めつらかなる事と見給てけんをうつし心もうせたましゅなどいふらん物も  
 5 あらぬさまになりにけるにやあらむいかにも／＼すきにしかたのことをわすれ  
 6 ながらさらにえ思ひ出ぬにきのかみとかありし人の世の物語すめりしなかに  
 7 なん見しあたりの事にやほのかに思ひ出らるゝ事あるこゝちせしそのゝち  
 8 とさまかうさま思つゝくればさらにはかゝしくおほえぬるにたゞひとり物  
 9 し給し人いかてとをろかなならず思ためりしをまたや世におはすらんと  
 10 それはかりなん心にはなれすかなしきおり／＼に侍にけふ見れば此わらはの

## 9ウ

1 かほはちいさくて見しこゝちするにもいとしのひかたけれといまさらにかゝる  
 2 人にもありとはしられてやみなんと思侍るかの人もし世に物したまはゝそれ  
 3 ひとりになんたいめんせまほしく思侍る此そうつのたまへる人などには  
 4 さらにしられたてまつらしどこそ思侍つれかまへてひか事なりけりと  
 5 きこえなしてもかくし給へとのたまへはいとかひことかな僧都の御心は  
 6 ひしりといふ中にもあまりくまなく物し給へはまさにのこじてはきこえ給  
 7 てんや後にかくれあらしなのためにかろ／＼しき御程もおはしまさすさはきて  
 8 世にしらす心つよくおはしますことそみないひあはせてもやのきはもき  
 9 ちやうたてゝいれたり此こもさはききつれとおさなければふといひよらん  
 10 もつゝましけれと又はつる御文いかてたてまつらん僧都のおほんしるへは

## 10才

1 たしかなるをかくおほつかなく侍こそとふしめにていへはそゝやあなうつくし  
 2 などいひて御らんすべき人はこゝに物させさせ給めりけそゝの人なんいかなる  
 3 事にかと心えかたく侍をなをのたまはせよおさなき御程なれとかゝる御しるべに  
 4 たのみきこえ給やうもあらむなどいへとおほへたてゝおほ／＼しくもてな  
 5させ給にはなに事をか聞ゆへき事も侍らんうとくおほしなりにければ聞ゆ  
 6 べき事も侍らすたゞ此御文を入つてならてたてまつれとて侍つるいかて  
 7 たてまつらんといへはいとことはり也なをいとかくうたてなおはせそさすかにむぐり  
 8 けき御心にこそときこえうこかしてきちやうのもどにをしよせたてまつり  
 9 たれはあれにもあらてゐ給へるけはひと人にぬこゝちすればそこもどに  
 10 よりてたてまつりつ御返とく給てまいりなどかくうとくしきを心うしと思ひて

## 10ウ

1 いそくあま君御文ひきときて見せたてまつるありしながらの御手にてかみ  
 2 のかなどれいのよつかぬまでしみたるほのかに見てれいの物めてのさしき  
 3 人いとありかたくおかしと思ふへしさらにきこえんかたなくさま／＼につみ  
 4 をもき御心をはそうつに思ゆるしきこえていまはいかてあさましかりし  
 5 よの夢かたりをたにといそかるゝ心の我ながらもとかしきになんまして人  
 6 めはいかにとかきもやりたまはす

7

のりのしとたつぬるみちをしるへにておもはぬ山に

8 ふみまよふ哉此人は身やわすれ給ぬらんこゝにはゆくゑなき御かたみに  
9 見る物にてなんなどまやか也かくつぶへとかき給へるさまのまきらは  
10 さんかたなきにさりとてその人にもあらぬさまを思のほかに見つけられ

### 11才

1 きこえたらむ程のはしたなさなどなを思みたれていとはれくしからぬ  
2 心はいひやるへきかたもなしさすかに打なきてひれふし給へればいとよつか  
3 ぬ御ありさまかなと見わづらひぬいかゝきこえんなとせめられてこゝ地の  
4 かきみたるやうにし侍程ためらひていまきこえんむかしの事思ひ出れと  
5 さらにおほゆる事なくあやしういかなりける夢にかとのみ心もえすなん  
6 すこしつまりてや此御文なども見しらるゝ事もあらんけふはなをもてま  
7 いりたまひねところたかへにもあらんにいとかたはらいたかるへしててひり  
8 けながらあま君にさしやり給へれば見ぐるしき御ことかなあまりけしからぬは  
9 見たてまつる人もつみさりとこなるなかるへしなどいひさはくもうたてきゝ  
10 にくゝおほゆれはかほもひきいれてふし給へりあるしそ此君に物語すこし

### 11ウ

1 きこえて物の気にやおはすりんれいのさまに見え給ふおりなく  
2 なやみわたり給て御かたちもことになり給へるをたつねきこえ  
3 給人あらはいとわづらはしかるべき事と見たてまつりなげき侍しも  
4 しるくかくいとあはれに心くるしき御事ともの侍けるをいまなんいと  
5 かたしけなくおもひ侍る日ころも打はへなやませ給めるをいとゝ  
6 かゝる事ともにおほしみたるゝにやつねよりも物おほえさせた  
7 まはぬさまにてなんと聞ゆところにつけておかしきあるしなと  
8 したれとおさなき御こゝちはそこはかとなくあはてたるこゝちして  
9 わざとたてまつれさせ給へるしに事をかはきこえせん

### 12才

1 とすらむたゞ一ことをのたまはせよかしなといへはけになといひ  
2 てかくなとうつしかれたれとも物ものたまはねはかひなくて  
3 かくおほつかなき御ありさまをきこえさせ給ふへきなめり  
4 雲のはるかにへたゞらぬほどにも侍めるを山風ふくとも  
5 みもかならすたちよらせ給なんかしといへはすゝろにぬ  
6 くらさむもあやしかるへければかへりなんとす人しれすゆか  
7 しき御ありさまをもえみすなりぬるをおほつかなくくち  
8 おしくてこゝろゆかすなからまいりぬいつしかとまちおはす  
9 るにかくたとくしくてかへりきたれはすさましく

### 12ウ

1 中々なりとおほすことさまへにて人のかくしすべたる  
2 にやあらむとわか御こゝるのよもひよらぬくまなく  
3 おとじをきたまへりしならひにとそ本に侍る